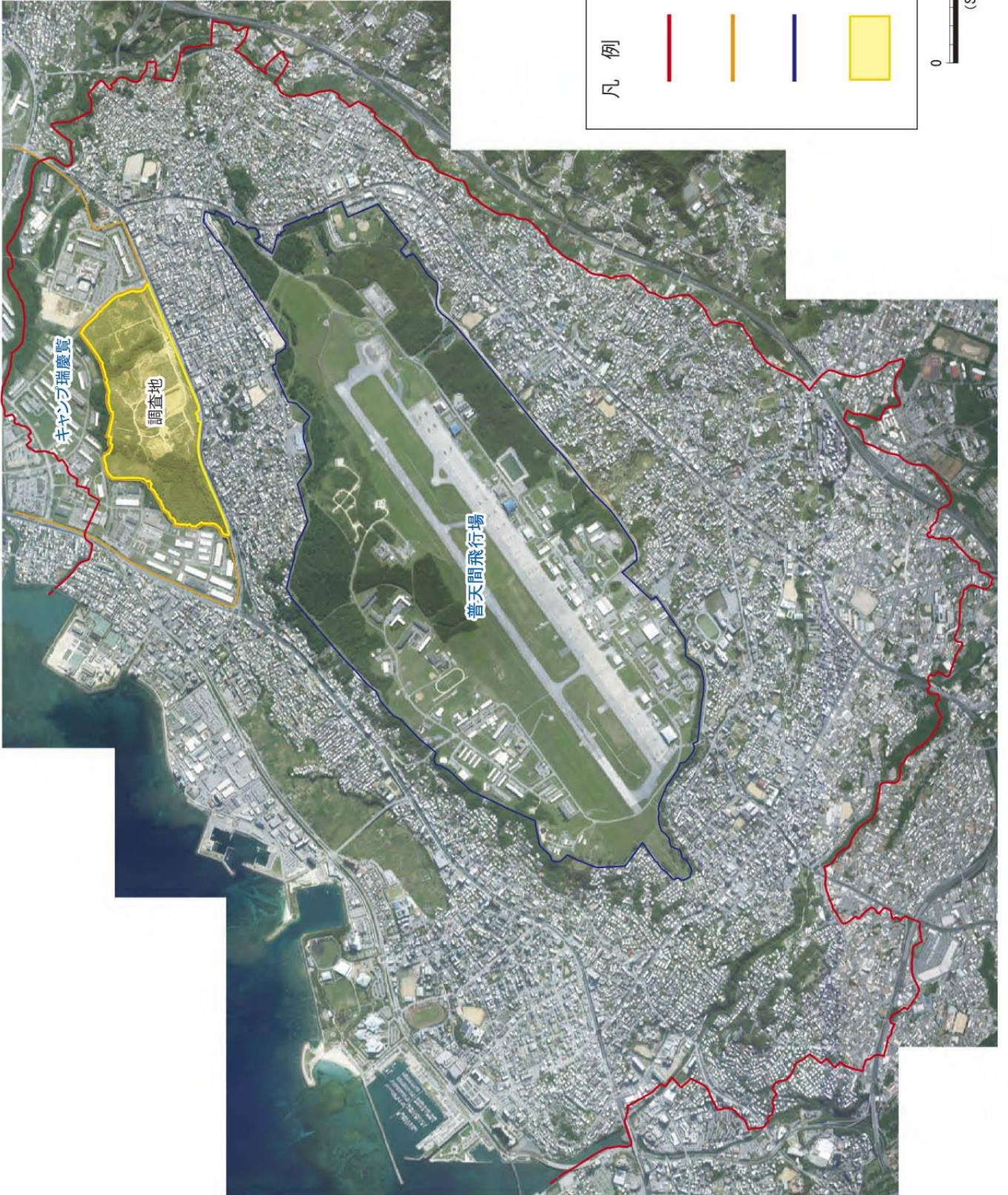


西普天間住宅地区埋蔵文化財発掘調査報告書 1

—新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡—

2023(令和5)年3月

沖縄県 宜野湾市教育委員会



凡 例

— 宜野湾市内

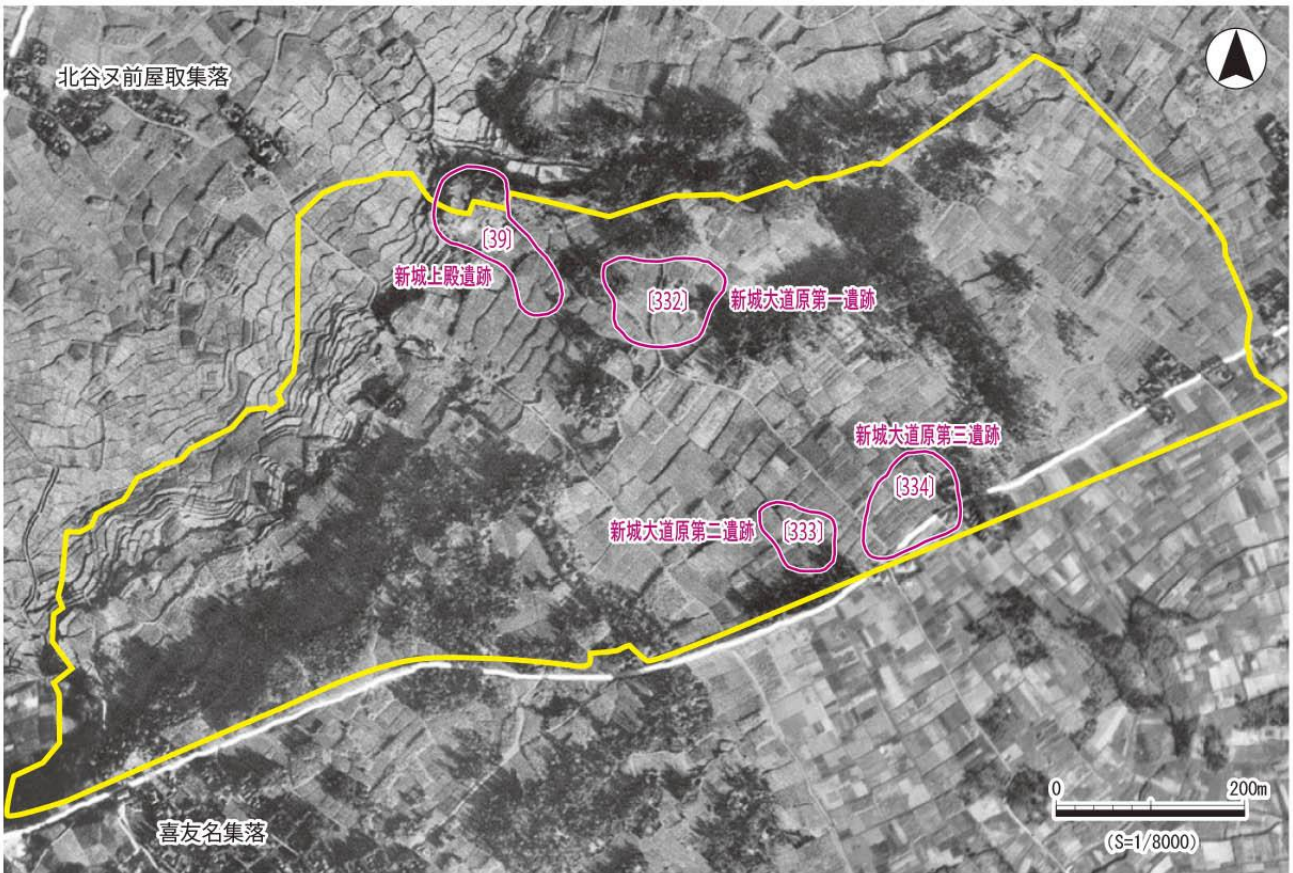
— キャンブ瑞慶覧

— 普天間飛行場

■ 西普天間住宅地区



巻頭図版 1 報告書所収調査地位置（令和 2 年撮影）



巻頭図版 2 昭和 20 年の西普天間住宅地区



巻頭図版 3 返還前の西普天間住宅地区（平成 24 年度撮影）



巻頭図版4 新城上殿遺跡と新城大道原第一遺跡（工区1）東から



巻頭図版5 新城大道原第一遺跡（工区2）南東から



巻頭図版 6 新城大道原第二遺跡 東から



巻頭図版 7 新城大道原第三遺跡 北西から

序

本報告書は平成 28 年度に宜野湾市教育委員会が実施した、西普天間住宅地区返還跡地における埋蔵文化財緊急発掘調査のうち、新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の成果をまとめたものであります。本緊急発掘調査は、当該地区が平成 27 年 4 月にキャンプ瑞慶覧より返還されたのち、跡地利用特措法に基づいて国が実施する不発弾探査等の支障除去措置に伴うもので、沖縄防衛局の受託を受けて実施している事業であります。

当該地区内に所在する新城区には、小字下原、小字大道原が所在しており、戦前は主に耕作地として使用されておりましたが、戦後はキャンプ瑞慶覧として基地建設に伴う造成工事が行われ、人々の生活基盤であった田畑や拝所など多くの文化財が消失しました。しかしながら、本緊急発掘調査によって基地造成の憂き目にあいながらも地下に残された貴重な文化財を確認することができ、宜野湾の偉人である佐喜真興英氏の著書『シマの話』でも紹介されている新城集落の発祥に関わる貴重な文化財も発見されております。今回の調査成果が広く市民の歴史的教材や学術資料としてご活用いただければ幸いです。

末尾になりましたが、調査を実施するにあたり、多大なご協力を賜りました宜野湾市軍用地等地主会をはじめ、沖縄防衛局並びに関係部署の皆様に対しまして厚く御礼申し上げます。また、多大なご指導を賜りました文化庁文化財部、沖縄県教育庁文化財課、沖縄県立埋蔵文化財センター並びに貴重なご指導・ご助言を賜りました市文化財保護審議会の先生方、その他関係各位に対しまして心から感謝申し上げます。

2023（令和 5）年 3 月

沖縄県 宜野湾市教育委員会
教育長 仲 村 宗 男

例 言

1. 本報告書は、宜野湾市西普天間住宅地区返還跡地（旧キャンプ瑞慶覧）で沖縄防衛局が実施する支障除去措置に先立ち、宜野湾市教育委員会が沖縄防衛局からの受託事業として平成 28 年度に実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の成果を所収したものである。なお、所収されている遺跡は新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の調査成果であり、その他の遺跡の調査成果については次年度以降に順次報告する。
2. 現地調査にあたっては、宜野湾市軍用地等地主会、沖縄防衛局返還対策課の協力を得た。
3. 本書に掲載した遺構図の座標軸は国土座標軸の第 XV 座標系を使用し、その座標値は日本測地系である。なお、報告書抄録の緯度経度については世界測地系である。
4. 本書に掲載した地図は、基本的に宜野湾市都市計画課発行の都市計画図（1:2500）を使用しており、令和 2 年度撮影の航空写真については宜野湾市税務課から使用許可を得て掲載した。
また、他の情報図については宜野湾市教育委員会が管理・運営している GIS データを主に使用している。
5. 本書で使用している土色は、農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
6. 本書の執筆は、仲村 毅、伊野波 快、儀保和士があたり、執筆分担は以下に記した。また、本書掲載の自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に業務委託した分析結果を一部編集して掲載している。なお、本書の編集は仲村 毅、杉村千重美が行い、DTP 編集制作は杉村の協力で行った。

仲村 毅・・・第 I 章～第七章
伊野波 快・・・第IV章 第 4 節、第 V 章 第 4 節、第VI章 第 4 節、第VII章 第 4 節
儀保 和士・・・第IV章 第 4 節、第 V 章 第 4 節、第VI章 第 4 節、第VII章 第 4 節
7. 本書に掲載した出土遺物の写真撮影は伊野波、杉村が行った。出土遺物のトレース及び遺構図編集については、奥間陽子、普久原千曜、佐喜眞千弥、崎濱比カ理が行った。また、出土遺物の実測については有限会社ティガネーに業務委託し、一部を伊野波、儀保が行った。
8. 現地調査で得られた実測図・写真・画像デジタルデータ・地形測量図等の各種調査記録類および出土遺物はすべて宜野湾市教育委員会文化課で保管している。

目次

巻頭図版
序
例言

第I章 事業概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	2
第II章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 宇新城の地理的環境	7
第3節 新城の歴史的環境	8
第III章 西普天間住宅地区の文化財	10
第1節 西普天間住宅地区内の文化財	10
第2節 新城の文化財	11
第3節 基本層序	13
第IV章 新城上殿遺跡	15
第1節 調査経過と調査方法	15
第2節 層序	17
第3節 遺構	25
第4節 遺物	79
第5節 自然科学分析	106
第6節 総括	117
第V章 新城大道原第一遺跡	119
第1節 調査経過と調査方法	119
第2節 層序	121
第3節 遺構	125
第4節 遺物	165
第5節 自然科学分析	177
第6節 総括	178
第VI章 新城大道原第二遺跡	179
第1節 調査経過と調査方法	179
第2節 層序	180
第3節 遺構	183
第4節 遺物	198
第5節 総括	213
第VII章 新城大道原第三遺跡	214
第1節 調査経過と調査方法	214
第2節 層序	216
第3節 遺構	223
第4節 遺物	238
第5節 総括	259
引用・参考文献	260
報告書抄録	

巻頭図版

巻頭図版 1	報告書所収調査地位置（令和 2 年撮影）	巻頭図版 5	新城大道原第一遺跡（工区 2）南東から
巻頭図版 2	昭和 20 年の西普天間住宅地区	巻頭図版 6	新城大道原第二遺跡 東から
巻頭図版 3	返還前の西普天間住宅地区(平成 24 年度撮影)	巻頭図版 7	新城大道原第三遺跡 北西から
巻頭図版 4	新城上殿遺跡と新城大道原第一遺跡(工区 1) 東から		

挿図目次

第II - 1 図	宜野湾市の位置…………… 5	第IV - 23 図	ピット断面図 8 …… 55
第II - 2 図	宜野湾市の地質図…………… 5	第IV - 24 図	ピット断面図 9 …… 56
第II - 3 図	宜野湾市地形分類図…………… 6	第IV - 25 図	ピット断面図 10 …… 57
第II - 4 図	字新城周辺（令和 2 年）…………… 7	第IV - 26 図	ピット断面図 11 …… 58
第II - 5 図	宜野湾市全景・字新城の位置…………… 7	第IV - 27 図	ピット断面図 12 …… 59
第II - 6 図	字新城の小字…………… 7	第IV - 28 図	ピット断面図 13 …… 60
第II - 7 図	字新城全景 1945（昭和 20）年 空撮…………… 9	第IV - 29 図	ピット断面図 14 …… 61
第III - 1 図	西普天間住宅地区文化財分布図・ 文化財一覧表…………… 10	第IV - 30 図	ピット断面図 15 …… 62
第III - 2 図	新城の遺跡位置図 （令和 3 年 9 月時点）…………… 11	第IV - 31 図	ピット断面図 16 …… 63
第III - 3 図	カンナシーのイメージスケッチ…………… 12	第IV - 32 図	ピット断面図 17 …… 64
第III - 4 図	シンバルガー周辺のイメージスケッチ… 12	第IV - 33 図	ピット断面図 18 …… 65
第III - 5 図	新城下原一帯の遠景 （令和 2 年 1 月撮影／南から）…………… 13	第IV - 34 図	ピット断面図 19 …… 66
第IV - 1 図	調査位置図…………… 15	第IV - 35 図	土坑（SK1）…………… 68
第IV - 2 図	工区 1（北）壁面土層図…………… 19	第IV - 36 図	土坑（SK 2、3）…………… 69
第IV - 3 図	工区 1（南）壁面土層図…………… 20	第IV - 37 図	土坑（SK 4～6）…………… 70
第IV - 4 図	工区 2 壁面土層図…………… 21	第IV - 38 図	土坑（SK 7～11）…………… 71
第IV - 5 図	工区 1 遺構分布図…………… 23	第IV - 39 図	溝状遺構（SD 1～4）…………… 73
第IV - 6 図	工区 2 遺構分布図…………… 24	第IV - 40 図	溝状遺構（SD 1～3）…………… 74
第IV - 7 図	工区 1 北側 遺構全体図…………… 37	第IV - 41 図	溝状遺構（SD 5～8）…………… 75
第IV - 8 図	工区 1 南側 遺構全体図…………… 38	第IV - 42 図	溝状遺構（SD 5～7）…………… 76
第IV - 9 図	工区 2 遺構全体図…………… 39	第IV - 43 図	溝状遺（SD 8・9）…………… 77
第IV - 10 図	1号建物跡…………… 42	第IV - 44 図	炉跡（SL）…………… 78
第IV - 11 図	2号建物跡…………… 43	第IV - 45 図	出土遺物 1 先史土器（1～3）、 グスク土器（4～11）…………… 86
第IV - 12 図	2号建物跡…………… 44	第IV - 46 図	出土遺物 2 カムィヤキ（12・13）、 中国産青磁（14～24）…………… 88
第IV - 13 図	3号建物跡…………… 45	第IV - 47 図	出土遺物 3 中国産染付…………… 90
第IV - 14 図	3号建物跡…………… 46	第IV - 48 図	出土遺物 4 中国産白磁（33～39）、 中国産褐釉陶器（40）、 本土産磁器（41～44）、 沖縄産施釉陶器（45・46）… 92
第IV - 15 図	工区 1 南側 建物プラン検討図…………… 47	第IV - 49 図	出土遺物 5 沖縄産無釉陶器…………… 94
第IV - 16 図	ピット断面図 1…………… 48	第IV - 50 図	出土遺物 6 石器…………… 96
第IV - 17 図	ピット断面図 2…………… 49	第IV - 51 図	出土遺物 7 石器（57・58）、銭貨（60～63）、 ふいごの羽口（64）、ビーズ（65）… 98
第IV - 18 図	ピット断面図 3…………… 50	第IV - 52 図	暦年較正結果…………… 110
第IV - 19 図	ピット断面図 4…………… 51	第IV - 53 図	植物珪酸体含量…………… 112
第IV - 20 図	ピット断面図 5…………… 52	第V - 1 図	調査位置図…………… 119
第IV - 21 図	ピット断面図 6…………… 53		
第IV - 22 図	ピット断面図 7…………… 54		

第V-2図	遺構分布図(工区1)	121	第VII-4図	工区2 遺構分布図	219
第V-3図	遺構分布図(工区2)	122	第VII-5図	工区2 壁面土層図	220
第V-4図	工区1 壁面土層図	123	第VII-6図	工区3 遺構分布図	221
第V-5図	工区2 壁面土層図	124	第VII-7図	工区3 壁面土層図	222
第V-6図	工区1 全体平面図	129	第VII-8図	掘立柱建物跡(SB01)	226
第V-7図	ピット(SP)1	131	第VII-9図	ピット集中遺構№1	227
第V-8図	ピット(SP)2	132	第VII-10図	ピット集中遺構№2	228
第V-9図	ピット(SP)3	133	第VII-11図	土坑(SK)断面図 工区1~3	230
第V-10図	ピット(SP)4	134	第VII-12図	工区1 溝状遺構(SD)断面図	233
第V-11図	土坑(SK)	136	第VII-13図	工区2・3 溝状遺構(SD)断面図	234
第V-12図	溝状遺構(SD)1	137	第VII-14図	不明遺構(SX)断面図	236
第V-13図	溝状遺構(SD)2	138	第VII-15図	出土遺物1 本土産磁器(1~7)、 沖縄産無釉陶器(8・9)	244
第V-14図	不明遺構(SX)	139	第VII-16図	出土遺物2 沖縄産無釉陶器	246
第V-15図	工区2 全体平面図	147	第VII-17図	出土遺物3 沖縄産無釉陶器	248
第V-16図	ピット(SP)1	149	第VII-18図	出土遺物4 アカムヌー(21~27)、 沖縄産施釉陶器(28~30)	250
第V-17図	ピット(SP)2	150	第VII-19図	出土遺物5 沖縄産施釉陶器	252
第V-18図	ピット(SP)3	151	第VII-20図	出土遺物6 沖縄産施釉陶器	254
第V-19図	ピット(SP)4	152	第VII-21図	出土遺物7 石器(47~49)、 円盤状製品(50・51)、 銭貨(53~56)	256
第V-20図	ピット(SP)5	153			
第V-21図	ピット(SP)6	154			
第V-22図	ピット(SP)7	155			
第V-23図	ピット(SP)8	156			
第V-24図	ピット(SP)9	157			
第V-25図	ピット(SP)10	158			
第V-26図	土坑(SK)	160			
第V-27図	溝状遺構(SD)	162			
第V-28図	不明遺構(SX)	164			
第V-29図	出土遺物1 先史土器(1~8)、グスク土器(9)	168			
第V-30図	出土遺物2 カムイヤキ(10)、中国産白磁(11)、 本土産磁器(12・13)、 アカムヌー(14・15)、 沖縄産無釉陶器(16~20)	170			
第V-31図	出土遺物3 沖縄産施釉陶器(21~24)、 石器(25~27)	172			
第V-32図	出土遺物4 石器	174			
第VI-1図	調査位置図	179			
第VI-2図	遺構分布図	181			
第VI-3図	壁面土層図	182			
第VI-4図	列状ピット分布図	186			
第VI-5図	ピット(SP)1	187			
第VI-6図	ピット(SP)2	188			
第VI-7図	ピット(SP)3	189			
第VI-8図	列状ピット平面図	190			
第VI-9図	列状ピット①	191			
第VI-10図	列状ピット②	191			
第VI-11図	土坑平面図 SK501~SK504	192			
第VI-12図	土坑断面図 SK501~SK504	192			
第VI-13図	土坑(SK501~SK504)平面図	193			
第VI-14図	溝状遺構断面図(SD501~SD505)	194			
第VI-15図	不明遺構平断面図	196			
第VI-16図	出土遺物1 先史土器(1~5)、中国産青磁(6)、 中国産染付(7~9)、本土産磁器(10)、 沖縄産無釉陶器(11~15)	202			
第VI-17図	出土遺物2 アカムヌー	204			
第VI-18図	出土遺物3 沖縄産施釉陶器	206			
第VI-19図	出土遺物4 沖縄産施釉陶器	208			
第VI-20図	出土遺物5 石器(43~45)、 銭貨(46・47)	210			
第VII-1図	調査位置図	214			
第VII-2図	工区1 遺構分布図	217			
第VII-3図	工区1 壁面土層図	218			

図版目次

図版II - 1	伊佐浜の水田地帯	6	図版VI - 4	土坑 (SK)	193
図版III - 1	ナカマグラーヌメーヌカー	12	図版VI - 5	溝状遺構 (SD)	195
図版III - 2	シンバルガー周辺の状況 (平成 26 年撮影)	12	図版VI - 6	不明遺構 (SX)	197
図版III - 3	ハンタモー (平成 26 年撮影)	12	図版VI - 7	出土遺物 1 先史土器 (1~5)、中国産青磁 (6)、 中国産染付 (7~9)、本土産磁器 (10)、 沖縄産無釉陶器 (11~15)	203
図版IV - 1	作業状況	16	図版VI - 8	出土遺物 2 アカムヌー	205
図版IV - 2	①工区 1 (北側) 北壁面	17	図版VI - 9	出土遺物 3 沖縄産施釉陶器	207
図版IV - 3	②工区 1 (北側) 東壁面	17	図版VI - 10	出土遺物 4 沖縄産施釉陶器	209
図版IV - 4	③工区 1 (北側) 東壁面	17	図版VI - 11	出土遺物 5 石器 (43~45)、銭貨 (46・47)	211
図版IV - 5	④工区 2 東壁	18	図版VII - 1	工区 1~3	215
図版IV - 6	⑤工区 2 北壁	18	図版VII - 2	各工区完掘状況	216
図版IV - 7	⑥工区 1 南壁 3	18	図版VII - 3	工区別壁面状況	216
図版IV - 8	⑦工区 1 (南側) 南壁 2-2	18	図版VII - 4	土坑 (SK) 工区 1~3	231
図版IV - 9	覆土分類別ピット (参考画像)	26	図版VII - 5	溝状遺構 (SD) 断面 1	234
図版IV - 10	出土遺物 1 先史土器 (1~3)、 グスク土器 (4~11)	87	図版VII - 6	溝状遺構 (SD) 断面 2	235
図版IV - 11	出土遺物 2 カムイヤキ (12・13)、 中国産青磁 (14~24)	89	図版VII - 7	工区 1~3 不明遺構 (SX)	237
図版IV - 12	出土遺物 3 中国産染付	91	図版VII - 8	出土遺物 1 本土産磁器 (1~7)、 沖縄産無釉陶器 (8・9)	245
図版IV - 13	出土遺物 4 中国産白磁 (33~39)、 中国産褐釉陶器 (40)、 本土産磁器 (41~44)、 沖縄産施釉陶器 (45・46)	93	図版VII - 9	出土遺物 2 沖縄産無釉陶器	247
図版IV - 14	出土遺物 5 沖縄産無釉陶器	95	図版VII - 10	出土遺物 3 沖縄産無釉陶器	249
図版IV - 15	出土遺物 6 石器	97	図版VII - 11	出土遺物 4 アカムヌー (21~27)、 沖縄産施釉陶器 (28~30)	251
図版IV - 16	出土遺物 7 石器 (57・58)、ナイフ (59)、 銭貨 (60~63)、ふいごの羽口 (64)、 ビーズ (65)、印鑑 (66)	99	図版VII - 12	出土遺物 5 沖縄産施釉陶器	253
図版IV - 17	花粉化石・微粒炭	115	図版VII - 13	出土遺物 6 沖縄産施釉陶器	255
図版IV - 18	植物珪酸体	115	図版VII - 14	出土遺物 7 石器 (47~49)、 円盤状製品 (50・51)、簪 (52)、 銭貨 (53~56)	257
図版IV - 19	炭化種実	116			
図版V - 1	作業状況	120			
図版V - 2	掘方断面の分類別のピット	125			
図版V - 3	ピット (SP)	135			
図版V - 4	掘方断面の分類別のピット	140			
図版V - 5	ピット (SP)	159			
図版V - 6	溝状遺構 (SD)	163			
図版V - 7	出土遺物 1 先史土器 (1~8)、グスク土器 (9)	169			
図版V - 8	出土遺物 2 カムイヤキ (10)、中国産白磁 (11)、 本土産磁器 (12・13)、 アカムヌー (14・15)、 沖縄産無釉陶器 (16~20)	171			
図版V - 9	出土遺物 3 沖縄産施釉陶器 (21~24)、 石器 (25~27)	173			
図版V - 10	出土遺物 4 石器	175			
図版VI - 1	作業状況	180			
図版VI - 2	ピット (SP)	183			
図版VI - 3	列状ピット完掘状況	190			

挿表目次

第II - 1 表	文献資料にみる宜野湾の村名一覧	8	第V - 13 表	遺構計測分類表 工区2 (SP) 4	144
第IV - 1 表	ピット掘方断面形状分類模式図	25	第V - 14 表	遺構計測分類表 工区2 (SP) 5	145
第IV - 2 表	底面レベルの分類	26	第V - 15 表	遺構計測分類表 工区2 (SP) 6	146
第IV - 3 表	遺構計測分類表 工区1北側(1号建物跡周辺)	27	第V - 16 表	工区2 土坑(SK)計測一覧表	159
第IV - 4 表	遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 1	28	第V - 17 表	工区2 溝状遺構(SD)計測一覧表	161
第IV - 5 表	遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 2	29	第V - 18 表	出土遺物観察一覧1	166
第IV - 6 表	遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 3	30	第V - 19 表	出土遺物観察一覧2	167
第IV - 7 表	遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 4	31	第V - 20 表	出土遺物集計表(工区1)	176
第IV - 8 表	遺構計測分類表 工区1南側1	32	第V - 21 表	出土遺物集計表(工区2)	176
第IV - 9 表	遺構計測分類表 工区1南側2	33	第VI - 1 表	遺構計測分類表(SP) 1	184
第IV - 10 表	遺構計測分類表 工区1南側3	34	第VI - 2 表	遺構計測分類表(SP) 2	185
第IV - 11 表	遺構計測分類表 工区1南側4	35	第VI - 3 表	出土遺物観察一覧1	199
第IV - 12 表	遺構計測分類表 工区2	36	第VI - 4 表	出土遺物観察一覧2	200
第IV - 13 表	土坑(SK)観察表	67	第VI - 5 表	出土遺物観察一覧3	201
第IV - 14 表	溝状遺構(SD)遺構観察表	72	第VI - 6 表	出土遺物集計表	212
第IV - 15 表	炉跡(SL)遺構観察表	78	第VII - 1 表	遺構計測分類表 工区1~3 (SP) 1	223
第IV - 16 表	出土遺物観察一覧1	82	第VII - 2 表	遺構計測分類表 工区1~3 (SP) 2	224
第IV - 17 表	出土遺物観察一覧2	83	第VII - 3 表	遺構計測分類表 工区1~3 (SP) 3	225
第IV - 18 表	出土遺物観察一覧3	84	第VII - 4 表	遺構観察一覧(SK)	229
第IV - 19 表	出土遺物観察一覧4	85	第VII - 5 表	遺構観察一覧(SD)	232
第IV - 20 表	出土遺物集計表1	100	第VII - 6 表	遺構観察一覧(SK)	236
第IV - 21 表	出土遺物集計表2	101	第VII - 7 表	出土遺物観察一覧1	239
第IV - 22 表	出土遺物集計表3	102	第VII - 8 表	出土遺物観察一覧2	240
第IV - 23 表	出土遺物集計表4	103	第VII - 9 表	出土遺物観察一覧3	241
第IV - 24 表	出土遺物集計表5	104	第VII - 10 表	出土遺物観察一覧4	242
第IV - 25 表	出土遺物集計表(2区)	105	第VII - 11 表	出土遺物観察一覧5	243
第IV - 26 表	分析試料および分析項目一覧	106	第VII - 12 表	出土遺物集計表	258
第IV - 27 表	放射性炭素年代測定結果	110			
第IV - 28 表	花粉分析・微粒炭分析結果	111			
第IV - 29 表	植物珪酸体分析	111			
第IV - 30 表	微細物分析結果	112			
第IV - 31 表	土壤理化学分析結果	113			
第V - 1 表	底面レベルの分類	125			
第V - 2 表	掘方断面形状分類模式図	125			
第V - 3 表	遺構計測分類表 工区1 (SP) 1	126			
第V - 4 表	遺構計測分類表 工区1 (SP) 2	127			
第V - 5 表	遺構計測分類表 工区1 (SP) 3	128			
第V - 6 表	工区1 土坑(SK)計測一覧表	136			
第V - 7 表	工区1 溝状遺構(SD)計測一覧表	137			
第V - 8 表	底面レベルの分類	140			
第V - 9 表	掘方断面形状分類模式図	140			
第V - 10 表	遺構計測分類表 工区2 (SP) 1	141			
第V - 11 表	遺構計測分類表 工区2 (SP) 2	142			
第V - 12 表	遺構計測分類表 工区2 (SP) 3	143			

第 I 章 事業概要

第 1 節 調査に至る経緯

西普天間住宅地区は、平成 25 年 4 月に日米両政府が共同発表を行った「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」の中で速やかに返還する区域として、平成 27 年 3 月 31 日に返還された地区（約 51ha）である。

宜野湾市では、当該地区の跡地利用に向けて「跡地利用基本計画」の検討や宜野湾市軍用地等地主会、沖縄県、沖縄総合事務局、沖縄防衛局とともに「キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）の跡地利用協議会」を平成 25 年度から継続的に開催するなど、返還後の跡地利用に関する様々な取り組みが協議された。平成 27 年 3 月には、学識経験者、地権者代表、国・県・市職員等からなるキャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用計画調査検討委員会にて「跡地利用基本計画（案）」を作成し、平成 27 年 7 月には宜野湾市軍用地跡地利用計画策定委員会において、付帯事項（※）とともに「跡地利用計画（案）」が承認された（註 1）。

・西普天間住宅地区の予備調査

宜野湾市教育委員会（以下、「市教委」とする。）では、返還後の跡地利用計画を見据えて返還前の平成 25 年度から当該地区の分布調査を行い、平成 26 年度にはハウジングエリアの試掘調査を開始した。返還後の西普天間住宅地区について、沖縄防衛局は「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法」（以下、「跡地利用特措法」とする。）に基づいて、地権者への土地の引渡し前に土壤汚染調査や不発弾探査などの支障除去措置を実施することとなり、これに先立ち、当該地区に所在する遺跡の保護調整を協議するために埋蔵文化財の分布状況や範囲等を把握することが急務となった。そのため、市教委では沖縄県教育委員会（以下、「県教委」とする。）に発掘調査の支援要請（「平成 26 年 11 月 11 日付、宜教文第 254 号、キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）返還に伴う試掘・確認調査への支援について」）を行い、平成 27 年度、平成 28 年度には県と市で当該地区の試掘・確認調査を行った。調査の結果、新規の遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）として 9 遺跡が発見されている（註 2）。

平成 28 年 2 月 18 日付、沖防管第 824 号において当該地区の埋蔵文化財の有無照会が沖縄防衛局から提出され、市教委では支障除去措置が予定されている区域について、文化財保護法に規定する「周知の埋蔵文化財包蔵地」が所在するため、支障除去措置に関連する各種工事等が埋蔵文化財に影響を及ぼす恐れがある場合は、事前に所定の手続きが必要である旨を回答した。

・埋蔵文化財の取り扱い協議

支障除去措置の方法及び埋蔵文化財の取り扱い等について沖縄防衛局、宜野湾市、市教委による協議を行った結果、ハウジングエリアについては、地権者へ土地の引渡しを行う前に支障除去措置を実施すること、当該地区に所在する遺跡については、事前に埋蔵文化財緊急発掘調査を行うことで合意した。しかし、地区西側の斜面緑地には国指定文化財の喜友名泉をはじめ、多数の湧泉が分布していることから、不用意に不発弾経層探査に伴う掘削を行うと水脈を切ってしまう湧泉が涸れる危険性があった。そのため、斜面緑地の不発弾経層探査は一時保留とし、まずは地下構造を把握するための地質調査を行い、その結果を踏まえて不発弾探査の方法を検討することとされた。市教委では平成 30 年度、令和元年度

に石灰岩厚を把握するためのボーリング調査を実施した。その結果、湧水保全に必要な石灰岩厚 2 m 以上の場所については、これまで通りの不発弾経層探査を実施しても湧水に影響がないという結論となった。令和元年度からは保留していた斜面緑地についても、跡地利用計画の中で住宅用地または道路等が建設される予定区域の遺跡については緊急発掘調査を行うこととなった。また、沖縄防衛局長と宜野湾市長とで土地の引き渡し後の取り扱いについて、斜面緑地を含む不発弾経層探査が未実施の場所については引き続き国の責任において不発弾経層探査及び埋蔵文化財発掘調査（緊急発掘調査）を行うことが合意された（「西普天間住宅地区の土地の引き渡し後の取り扱いに関する確認書」平成 30 年 3 月 28 日）。

・協定書の締結

平成 28 年 3 月 9 日、沖縄防衛局長と宜野湾市教育委員会教育長とで西普天間住宅地区における埋蔵文化財調査の取り扱いに関する協定書を締結し、文化財調査に係る費用については、原因者である沖縄防衛局の負担で調査を実施することが確認された。

・文化財保護法第 94 条の進達と契約について

平成 28 年度分の支障除去措置の範囲について、沖縄防衛局より文化財保護法第 94 条に基づき平成 28 年 5 月 20 日付、沖防第 3008 号「埋蔵文化財発掘の通知について」の進達依頼が提出され、沖縄県教育委員会教育長に進達、同年 5 月 27 日付、教文第 374 号「埋蔵文化財発掘の通知について（通知）」を沖縄防衛局へ進達した。平成 28 年 3 月 30 日付、沖縄防衛局長と宜野湾市長とで文化財発掘調査業務委託について契約を締結し、同年 6 月より新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、喜友名山川原第八遺跡の発掘調査に着手した。さらに、ハウジングエリア西側については、年度内に文化財調査を実施する必要があるとして、平成 28 年 12 月 7 日付で民間業者との文化財発掘調査業務委託を締結し、平成 29 年 1 月より新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の発掘調査に着手した。

平成 29 年度の支障除去措置範囲については、文化財保護法第 94 条に基づき、沖縄防衛局より進達依頼のあった平成 28 年 12 月 6 日付沖防第 5713 号「埋蔵文化財の通知について」を県教育委員会へ進達し、同年 12 月 15 日付、教文第 1461 号「埋蔵文化財発掘の通知について（通知）」を沖縄防衛局へ進達した。その後、平成 29 年 4 月 20 日付で沖縄防衛局長と宜野湾市長とで文化財発掘調査業務委託の契約を締結し、同年 6 月より発掘調査を開始した。

第 2 節 調査体制

本報告は、平成 28 年度に実施した西普天間住宅地区返還跡地内の緊急発掘調査の中で、新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の成果をまとめたものである。資料整理及び報告書作成は平成 30 年度～令和 4 年度にかけて実施した。調査体制は以下のとおりである。

事業主体	沖縄県宜野湾市教育委員会
事業責任者	
教育長	知念春美（平成 28 年度～令和 3 年度）、仲村宗男（令和 4 年度）
事業総括	
教育部長	島袋清松（平成 28・29 年度）、比嘉 透（平成 30 年度・令和元年度）、嘉手納貴子（令和 2 年度～令和 4 年度）

教育次長 伊佐英明（平成28年度）、桃原忍子（平成29・30年度）、真喜志若子（令和元年度～3年度）、宮城葉子（令和4年度）

事業事務

文化課長 比嘉 洋（平成28年度～令和2年度）、津波古良幸（令和3年度）、浜里吉彦（令和4年度）

文化財保護係長 吉村 純（平成28・29年度）、仲地真俊（平成30年度～令和2年度）、比嘉高志（令和3・4年度）

同係担当主査 長濱健起（令和元年度～令和3年度）、伊藤 圭（令和4年度）

同係主任主事 伊藤 圭（平成29年度）、長濱健起（平成28年度～平成30年度）、仲村 毅（平成28年度～令和4年度）、金城りお（令和2年度～令和4年度）

同係主事 来間千明（平成28・29年度）、金城りお（平成29年度～令和元年度）、末吉飛鳥（令和2年度～令和4年度）

文化財保護指導嘱託員

（平成28年度） 井上奈々、宮里知恵

（平成29年度） 天久瑞香、池原悠貴、井上奈々、伊野波快、儀保和士、宮里知恵

（平成30年度） 伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

（令和元年度） 伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

会計年度任用職員

（令和2年度） 伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

（令和3年度） 伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

（令和4年度） 伊野波快、奥間陽子、儀保和士、崎濱比カ理、佐喜真千弥、普久原千曜

調査指導及び調査協力

調査指導及び調査協力者として以下の方々に指導、協力を頂いた。（所属等は当時）

宜野湾市軍用地等地主会（平成28年度）

又吉真一（会長）、佐喜真祐輝（喜友名評議員）、呉屋 宏（新城評議員）、仲村 廣（安仁屋評議員）、宮城正秀（普天間評議員）、當山武弘（監事）

沖縄防衛局

辻 吉巳（管理部部長）、重政武輝（管理部返還対策課課長）、阿部正和（管理部返還対策課課長補佐）、仲間勝之（管理部返還対策課課長補佐）、大嶺正之（管理部返還対策課係長）、古謝 哲（管理部返還対策課係員）、幸松秀典（管理部返還対策課課長補佐）東江義哉（管理部返還対策課係長）、木村太音（管理部返還対策課事務官）

文化庁記念物課

川畑 純（平成28年度調査指導）

沖縄県教育庁文化財課及び沖縄県立埋蔵文化財センター

金城亀信、濱口寿夫、上地 博、中山 晋、瀬戸哲也、新垣 力、羽方 誠、知念隆博、大堀皓平、宮城淳一、具志堅清大

宜野湾市文化財保護審議会（平成28年度）

赤嶺政信（琉球大学教授）、新垣義夫（普天満宮宮司）、池田榮史（琉球大学教授）、大城逸朗（沖縄石の会会長）、恩河 尚（沖縄国際大学非常勤講師）、崎浜 靖（沖縄国際大学教授）、嵩元政秀（元沖縄考古学会会長）、波平エリ子（沖縄女子短期大学准教授）、比嘉悦子（沖縄県立芸術大学非常勤講師）、福島駿介（琉球大学名誉教授）

業務委託

平成28年度

西普天間住宅地区における発掘調査支援業務委託① 株式会社アーキジオパシフィック支店
西普天間住宅地区における発掘調査支援業務委託② 株式会社埋蔵文化財サポートシステム沖縄支店
西普天間住宅地区における磁気探査業務委託① 有限会社新エンジニアリング
西普天間住宅地区における磁気探査業務委託② 有限会社新開技研

平成29年度

西普天間住宅地区における緊急発掘調査業務委託（その3） 株式会社島田組沖縄支店
西普天間住宅地区における緊急発掘調査業務委託（その4） 株式会社パスコ宜野湾営業所
西普天間住宅地区における緊急発掘調査業務委託（その5） 株式会社アーキジオパシフィック支店
西普天間住宅地区の年代測定 パリノ・サーヴェイ株式会社沖縄支店

令和3年度

遺物実測業務委託 有限会社ティガネー

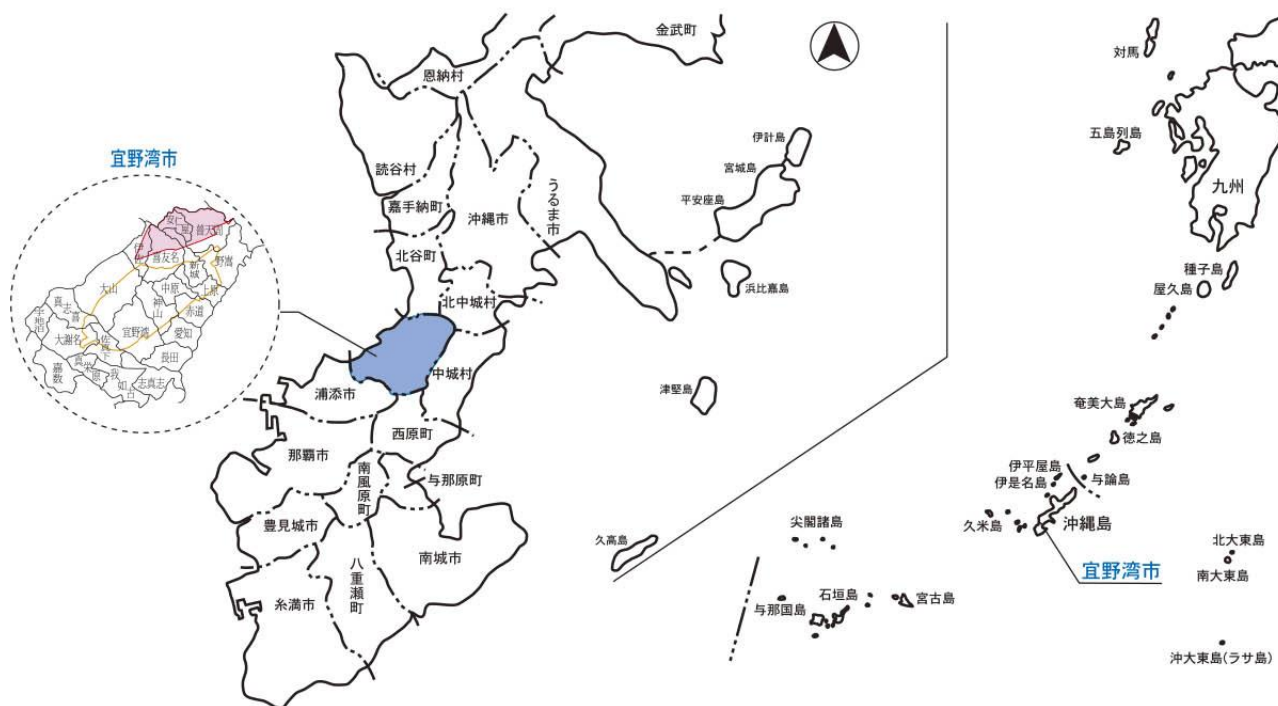
参考文献

- 註1. 宜野湾市教育委員会 2016『キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用実施計画策定業務委託報告書』
註2. 宜野湾市教育委員会 2022『基地内埋蔵文化財調査報告書8』

第II章 位置と環境

第1節 地理的環境

宜野湾市は沖縄本島中部の西海岸に位置する。北は北谷町、東は北中城村、中城村、南には西原町、浦添市と5市町村に接する。市域の面積は約19.8km²で東西方向に約6.1km、南北方向に約5.3kmの長方形状となっている。市の北側にはキャンプ瑞慶覧、中央には普天間飛行場が占有し、市民の居住地はその周縁部にドーナツ状に歪に展開する。市域には、国道58号、330号のほか、沖縄自動車道北中城IC・西原ICへのアクセス道路として、県道北中城線や県道34号等の主要幹線道路が縦横に展開し、中南部と北部地域を結ぶ交通の要衝となっている。



第II-1図 宜野湾市の位置

本市の地層は、泥岩や砂岩からなる新生代第三紀島尻層群を基盤とし、その上に琉球石灰岩が不整合に覆っている。西海岸沿いの低地には沖積層である砂層が堆積し、内陸部には琉球石灰岩で形成された海岸段丘が発達する。石灰岩台地上には島尻マーヅと呼ばれる赤色粘土質の土壌が広く分布し、市域の東側は島尻層群が風化してできたジャーガル土壌が分布する。

地形を見ると、海岸から内陸に向かって雛壇状の海岸段丘からなり、中位段丘と低位段丘がそれぞれ下位面、上位面に区分する4つの段丘面を有している。さらに河川や海岸沿いには周辺の土地よりも標高の低い低地があり、地下水面が浅く、湿地帯であるため、水田として利用されることが多い。市の北側、北谷町



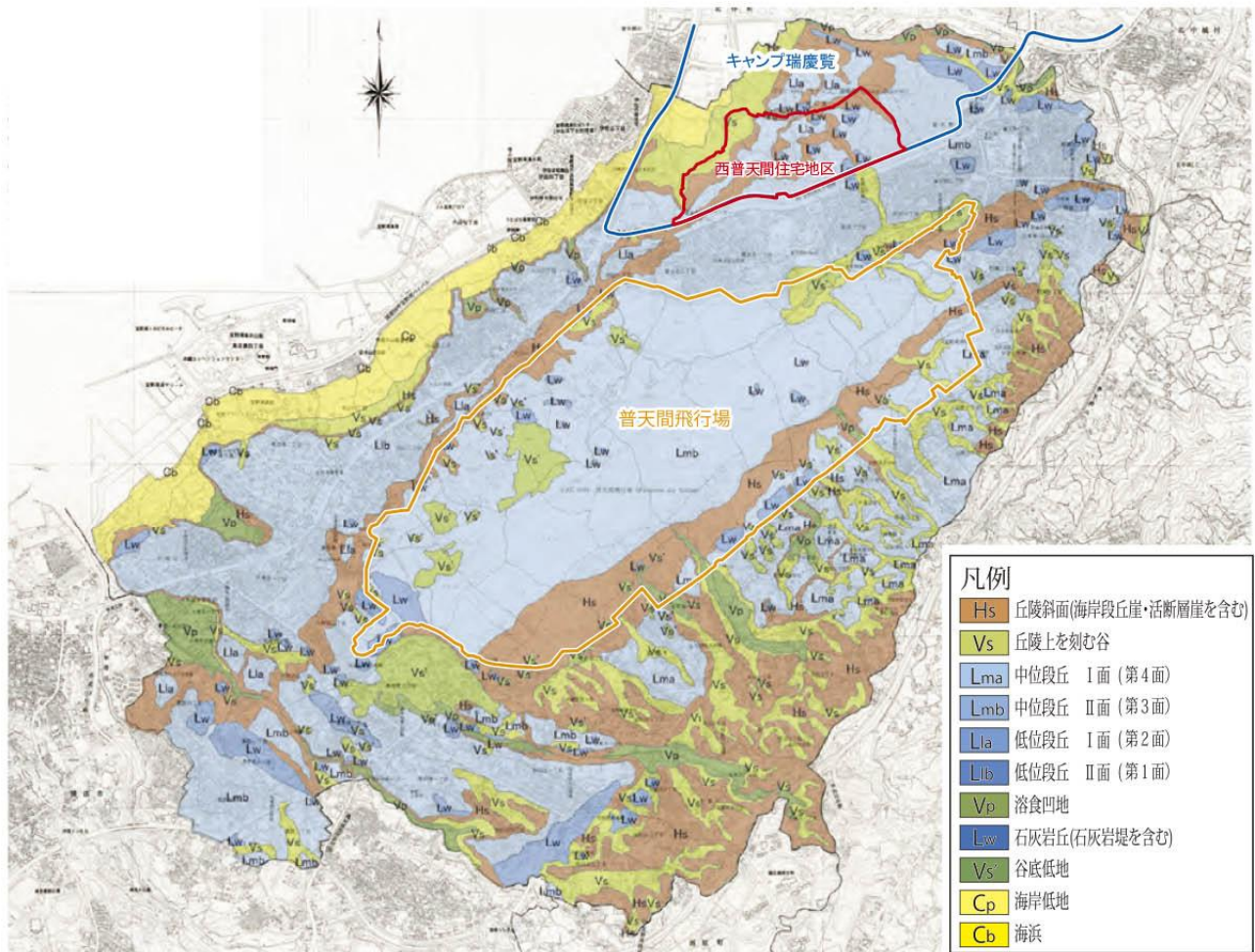
第II-2図 宜野湾市の地質図

との境には普天間川、浦添市との境には比屋良川が流れ、段丘面を横断するように発達している。また、段丘面の境には比高の異なる段丘崖があり、琉球石灰岩から浸透した雨水が不透水性の島尻層で地下水となって発達し、石灰岩を浸食して多くの洞穴（鍾乳洞など）を形成している。これらの地下水は下位の段丘崖で湧水となって湧きだし、古来より人々の生活の中心として利用されてきた。

西普天間住宅地区は本市の北側、キャンプ瑞慶覧に接する県道 81 号に面した中位段丘の縁辺部（標高 60 m前後）から海岸低地（標高 10 m前後）へ至る段丘状の平地、斜面地に位置する。地区の東側の大部分は戦後の基地建設に伴う大規模な造成工事が行われ、戦前までの地形はイシジャーの渓谷を除いてほぼ失われている。しかし、地区西側の喜友名、新城では、急峻な斜面地や湧水による湿地などのためか、あまり改変されずに戦前からの地形が良好に保存されている。特に斜面緑地の標高 14～16 mラインには、不透水性の島尻層と石灰岩の不整合面があり、そこから地下水が湧きだして国指定文化財である喜友名泉をはじめとした多数の湧泉が分布する。戦前まで湧泉群の北側に広がる沖積低地には豊富な水量を活かした県下でも有数の水田地帯が広がっていた。



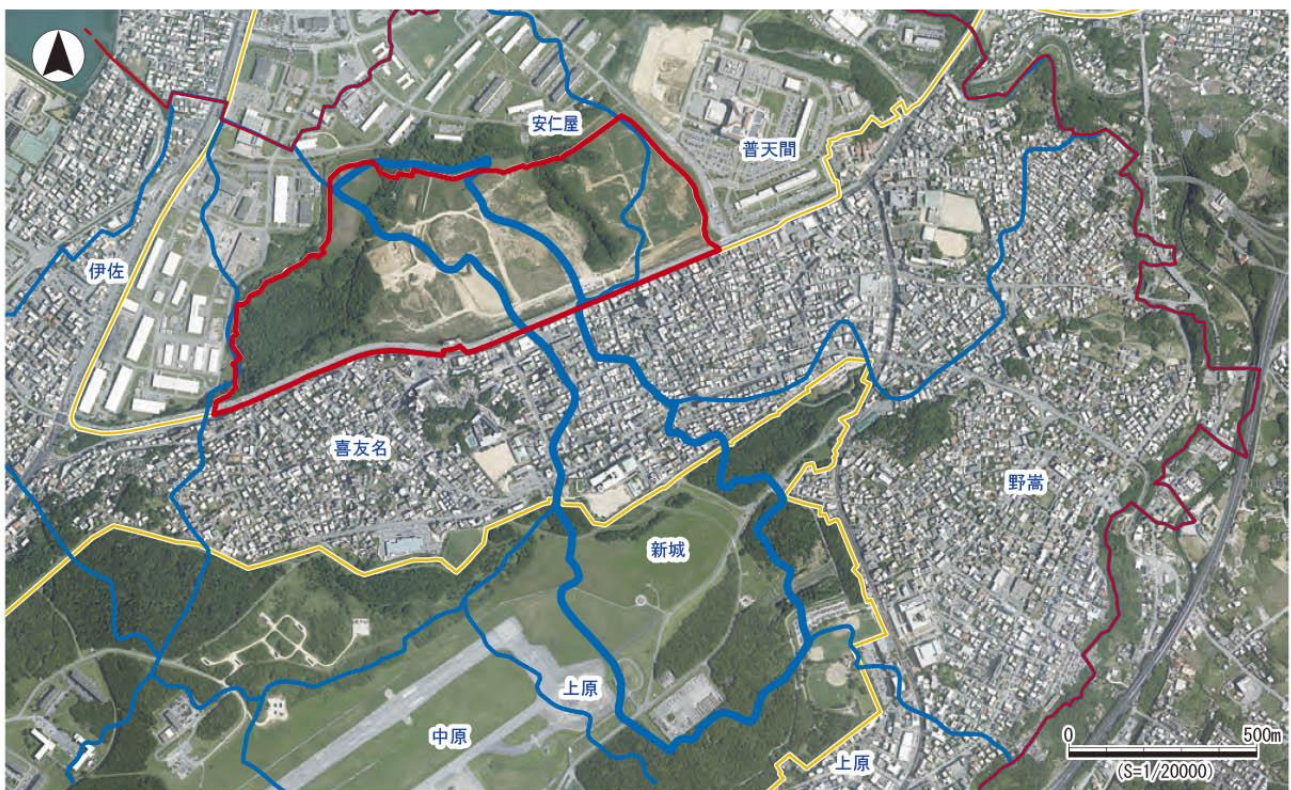
図版 II - 1 伊佐浜の水田地帯



第II - 3図 宜野湾市地形分類図

第2節 字新城の地理的環境

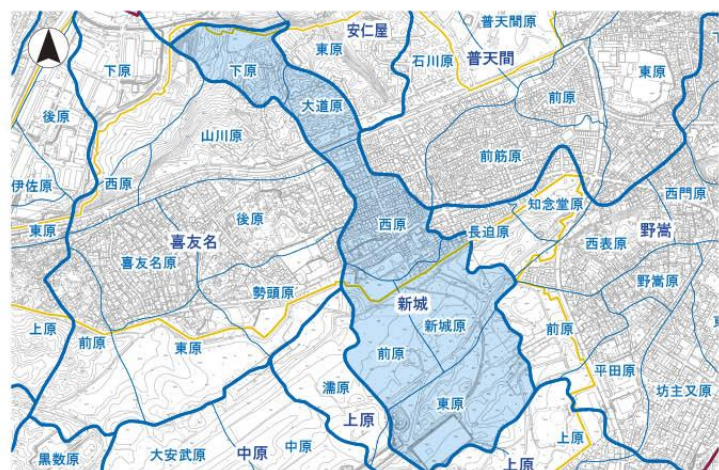
字新城は宜野湾市の北東側に位置しており、隣接して東側に安仁屋、普天間、野嵩、西側には喜友名、上原が所在する。字新城を構成する小字は下原、大道原、西原、新城原、前原、東原の6小字であったが、戦後は字新城の南側（新城原、前原、東原）を普天間飛行場、北側（下原、大道原）をキャンプ瑞慶覧に接收され、現在は両基地に挟まれた形で居住域が展開している。北東部で隣接する安仁屋との境界には谷状地形を有するイシジャーが分布し、下流側の一部が字新城に含まれる。イシジャーは流路のほとんどが琉球石灰岩台地に形成されており、降雨時を除くとほとんど流水が見られない涸れ谷となっている。今回報告する遺跡は中位段丘下位面にある琉球石灰岩の段丘面に形成された遺跡であり、南側から北側に向かって緩やかな斜面地に位置し、小字下原と大道原に所在する。一帯は戦後の基地造成によって米軍住宅地として整備され、大規模な土地改変によって旧地形の大部分は失われている。平成26年度から平成27年度にかけて行った試掘調査では米軍による住宅建設のための切土盛土が行われ、一部は岩盤まで削平されたことが判明している。



第II - 4図 字新城周辺（令和2年）



第II - 5図 宜野湾市全景・字新城の位置



第II - 6図 字新城の小字

第3節 新城の歴史的環境

新城集落の発祥は、現新城区の西北方約500メートル、新城下原の緩やかな斜面地に7戸の小さな集落があり、この集落が現普天間飛行場内の新城原に移動してきて新城部落を築いたという伝承がある。宜野湾市の偉人である佐喜眞興英氏（明治26～大正14）は、著書『シマの話』（1925）の中で、「新城の島は何百年か前、西北方十数町余の所から移転したものと信ぜられて居て、現に其処地には御岳、屋敷跡などが残って居る」と記述している（註2）。集落が移動した正確な時期や目的などは不明であるが、佐喜眞氏が報告しているように新城の下原には新城上殿遺跡として屋敷跡や石切場跡などが現在も残っており、近隣には戦前まで新城フルガーまたはシンバルガーと呼称される湧泉があったと言われている。

第II-1表 文献資料にみる宜野湾の村名一覧

時代	古琉球→1609年 ←	近世	→1879年 ←	近代	→1945年 ←	現代							
文献名	絵図郷村帳 1649年	琉球国高究帳 1635～1664年	琉球国由来記 1713年 (年中祭祀)	中山伝言録 1721年	琉球旧記 1731年 (郡邑)	琉球一件帳 1821年頃	琉球藩雜記 1873年 (職分・戸籍)	郡区画 1896年	各町村原 1903年	(仲村春勝) 1939年	町村区画 1940年	村誌編纂資料 1955年 (行政区)	市政要覧 1993年 (行政区)
村名	宜野湾 かミ山 かよく 加数 大志やな 志やな 内ミな 喜友名 いさ あら城 あきな 前ふて 寺ふて 北谷 中城	宜野湾 かよく 加数 浦添間切 喜友名 いさ あきな 前普天間 北谷 中城	1671年 宜野湾間切新設	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 内湊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間	宜野湾 神山 我如古 嘉数 大謝名 真志喜 謝名 具志川 宇地泊 喜友名 伊新 安仁屋 野嵩 普天間

本表は『宜野湾市史』第4巻所収「家譜史料にみる宜野湾」・「文献にみる宜野湾の村名」を基に加筆作成した。

新城の地名は、絵図郷村帳（1649年）の中で「あら城」の記載があり、1671年に宜野湾間切が新設されたのちは「新城」として文献資料に記載されるようになる。

新城原に移動してきた新城集落は、宜野湾並松街道に沿って築かれた小規模の部落である。部落の北外れには殿又山と言われる円錐形の小高い丘があり、丘頂には新城部落で最も神聖な場所とされる御嶽があった。御嶽の前に種子取毛があり、東隣に地頭火の神の拝所があったという（註3）。新城集落は、屋号松当（島袋姓）・石原（新城姓）の二家を根屋とし、そのほかに屋号比屋根（宮城姓）・蔵ン当（新城・宮城姓）、伊礼（宮城姓）・前吉門（宮城姓）・新垣（新垣姓）などの旧家がある。

戦前の新城集落は、普天間や喜友名と同様に典型的な碁盤型集落で、集落南北方向にナカミチが通り、東側をクシンダカリ、西側をメンダカリと称する。集落からやや南方の外れにムラガー（アラグスクガー）があり、標高約90m付近に開口する陥没ドリーネの中に流れる地下川を利用して整備されている。

新城集落は、第二次世界大戦（沖縄戦）以後、米軍によって集落全体が基地建設のために接収された。戦後、1947年末までにはほとんどの集落が旧居住地やその隣接地に居住が許されたが、新城集落の人々は依然として帰るところがなく、野嵩・普天間区に散在していた。1959年（昭和34年）に旧集落の北

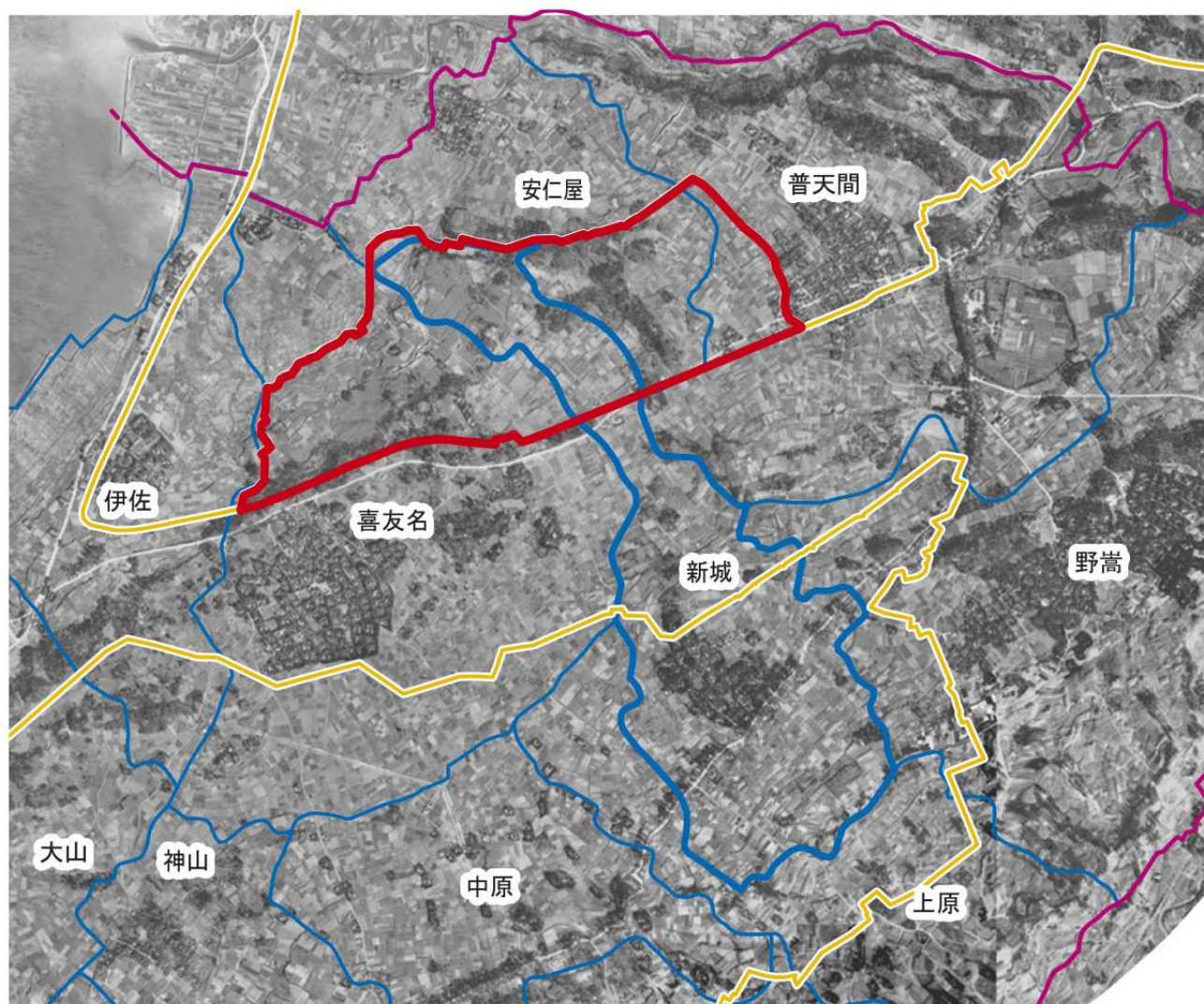
方に位置する西原一帯が開放されたことにより、土地区画整理組合を結成して区画整理を行い、ここに新城集落を再建することとなった。現在の新城は、市街地化が進み密集した住宅地区で構成されており、北側を県道 81 号線（普天間でいご通り）、南側をいすの木通りが東西方向に通り、整然とした町並みとなっている（註3）。

参考・引用文献

註1. 宜野湾市教育委員会 1989『土に埋もれた宜野湾』

註2. 佐喜真興英 1982『女人政治考・霊の島々〈佐喜真興英全集〉』※収録「シマの話」より

註3. 宜野湾市史編集委員会 1985『宜野湾市史第五巻資料編四 民俗』

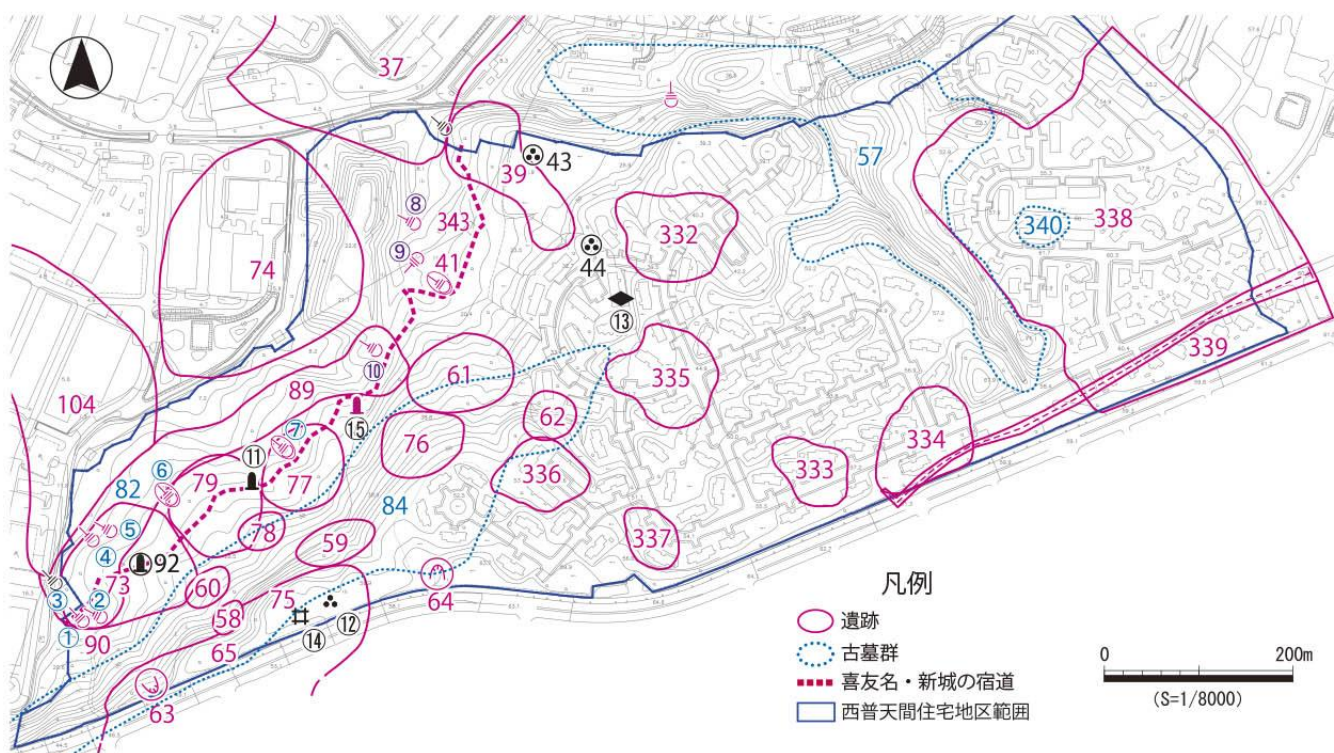


第Ⅱ - 7 図 字新城全景 1945(昭和20)年空撮

第Ⅲ章 西普天間住宅地区の文化財

第1節 西普天間住宅地区の文化財

市教育委員会では、当該地区の返還後の跡地利用を見据えて返還前から地区内の文化財の状況を把握するための予備調査を行ってきた。これまでに実施された予備調査の結果、令和3年12月現在において、埋蔵文化財が29箇所、古墓群が3箇所、拝所が3箇所、湧泉・井戸が12箇所、その他文化財が4箇所の計51箇所の文化財が確認されている（※口伝・伝承によるものや消失または移設した文化財も含む）。これらの遺跡のほとんどが地区西側の斜面緑地に分布しており、市で唯一の防衛施設を持つ喜友名グスクや国指定文化財の「喜友名泉」などが所在する。特に喜友名から新城にかけて湧泉の発達が顕著で、標高14～16mラインに点在し、これら湧泉から北側に広がる低地一帯は、戦後始め頃まで水田として利用された。



大字	遺跡名	大字	遺跡名	大字	遺跡名	大字	遺跡名	大字	遺跡名
普天間	338 普天間石川原第二遺跡	新城	⑨ ユタカノイズミ(豊之泉)	喜友名	65 喜友名貝塚	喜友名	76 喜友名山川原第六遺跡	喜友名	⑩ ノグニグワヌメヌカー
	339 普天間旧道跡		⑬ カンナシー		82 ① カーグワ(喜友名泉)		77 喜友名山川原第七遺跡		⑪ 『ききとも奈原』銘の印部石
新城	37 新城下原第二遺跡	安仁屋	57 安仁屋・新城イシジャー流域古墓群	ナナヌスカー古湧泉群	② ウフガー(喜友名泉)		78 喜友名西原遺跡	喜友名	⑫ グスクヌガントーグワ
	39 新城上殿遺跡		340 安仁屋東原古墓群		③ アカンナー		79 喜友名下原第二遺跡		⑬ グスクヌカー(井戸)
	41 新城シンバルガー古湧泉	喜友名	58 喜友名山川原第一遺跡		④ ヒージャーガー		84 喜友名山川原丘陵古墓群	喜友名・新城	⑮ 『あ山川原』銘の印部石
	43 新城ウィヌトゥン祭祀遺跡		59 喜友名山川原第二遺跡		⑤ ミーガー		89 喜友名古水田跡		343 喜友名・新城の宿道
	44 新城シチャヌトゥン祭祀遺跡		60 喜友名山川原第三遺跡		⑥ パシガー		90 喜友名西原石切場跡	伊佐	104 伊佐後原第二遺跡
	332 新城大道原第一遺跡		61 喜友名山川原第四遺跡		⑦ ヤマガ		92 喜友名下原の印部土手(※『あ山川原』銘の印部石)		
	333 新城大道原第二遺跡		62 喜友名山川原第五遺跡		73 喜友名下原第一遺跡		335 喜友名山川原第八遺跡		
	334 新城大道原第三遺跡		63 マヤーアブ洞穴遺跡		74 喜友名下原第三遺跡		336 喜友名山川原第九遺跡		
	⑧ ナカマガワヌメヌカー		64 フトクキヤアブ洞穴遺跡		75 喜友名グスク遺跡	337 喜友名山川原第十遺跡			

第Ⅲ - 1 図 西普天間住宅地区文化財分布図・文化財一覧表

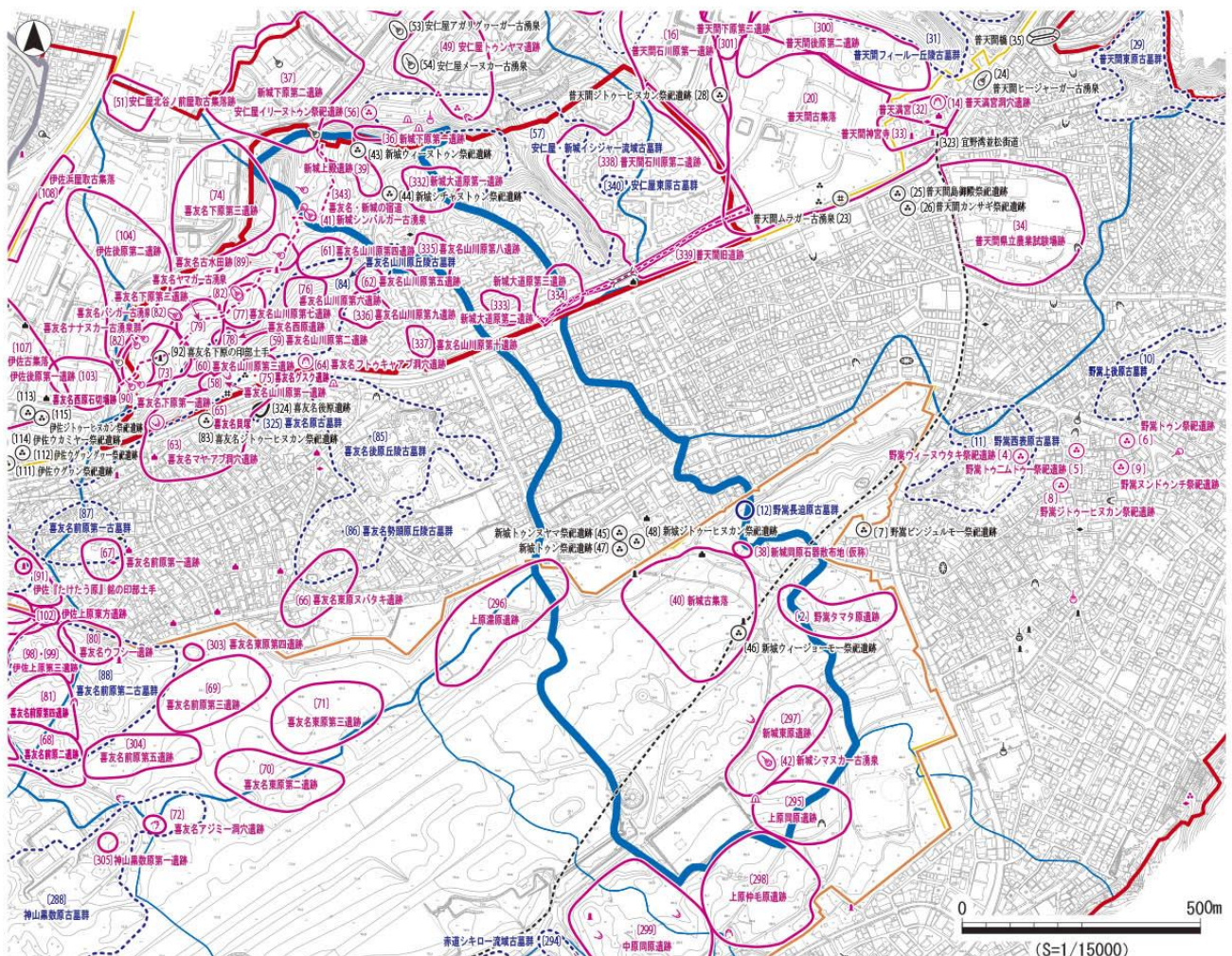
第2節 新城の文化財

西普天間住宅地区内の新城に所在する文化財は、これまでに市教委が実施してきた文化財調査の結果、前節で示した13箇所（字が重複する遺跡を含む）が確認されている。

新城下原第二遺跡：当該地区の北側には貝塚時代早期・後期（縄文時代早期・弥生～平安並行期）からグスク時代、近世～近代の複合遺跡である新城下原第二遺跡が所在する。平成11年～17年にかけて沖縄県立埋蔵文化財センターが行った発掘調査でⅢ地区Ⅴ層直上からグスク時代相当の疑似畦畔や木杭等が確認され、一帯の水田利用がグスク時代まで遡ることが想定されている（註1）。

新城上殿遺跡：新城下原第二遺跡の南東側に隣接して新城集落発祥の地とされる新城上殿遺跡（旧称：新城下殿遺跡）が所在する。平成26年度に市教委が実施した表面踏査において、屋敷地や石切場跡などが現存していることが確認された。また、平成27年3月に当該遺跡南東側の丘陵縁辺で試掘調査を行ったところ、深度1.5mほどで岩盤ないし地山（島尻マーヅ）が確認され、地山上面からグスク時代相当の陶磁器が共伴する多数のピットが確認された。これにより、文化財保護法第99条に基づいて沖縄県に範囲変更の届出を行い、遺跡の範囲は南東側に大きく広がることとなった。

新城下原の祭祀遺跡：新城上殿遺跡南東側には戦前まで新城の拝所である新城ウィーストゥン祭祀遺跡、新城シチャヌトゥン祭祀遺跡があったと言われているが、調査時点ではすでに米軍によるコート建設等の造成工事によって消失していることが確認された。



第Ⅲ-2図 新城の遺跡位置図（令和3年9月時点）

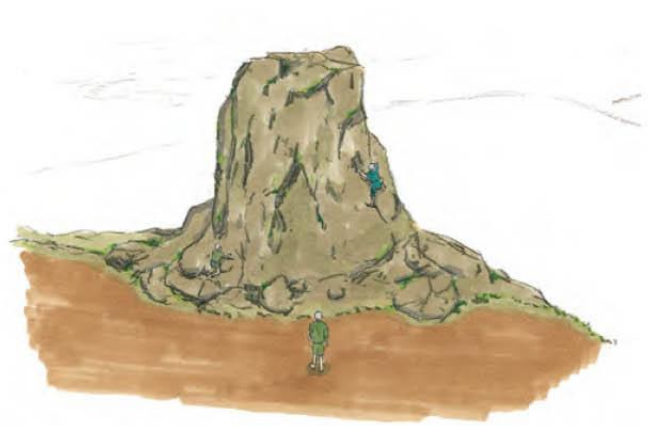
カンナシー（雷岩）：新城上殿遺跡から南東側約140mの丘陵地にはカンナシーと言われる岩山（円錐カルスト）があったとされ、この岩山に関して集落移動の逸話が以下のように語り継がれている。

「新城の草分けの人々は、かの石灰岩台地の縁に七軒の居宅を構え、カンナシーと呼ばれる岩塊を挟んで安仁屋部落と相對していた。しかし、ある日この大岩が“アンナクンケーラシ、アラグスクンタバリー”と吠えたので、両部落の住民は恐れをなして移動していった」（註2）。残念ながら、カンナシーについても前述した祭祀遺跡同様に基地建設によって削平され、現地には残っていない。

そのほか、新城は喜友名と同様に湧泉が発達しており、集落移動前のムラガーされる新城シンバルガー古湧泉やナカマグワーヌメーヌカー、豊之泉（1959年竣工）が所在する。また、新城上殿遺跡の北西側には「ハンタモー」と言われる崖があり、王府時代の宿道である「中頭方西海道（喜友名・新城の宿道）」の山手側の道筋が想定されている。



図版Ⅲ - 1 ナカマグワーヌメーヌカー



第Ⅲ - 3 図 カンナシーのイメージスケッチ



第Ⅲ - 4 図 シンバルガー周辺のイメージスケッチ



図版Ⅲ - 2 シンバルガー周辺の状況（平成26年撮影）



図版Ⅲ - 3 ハンタモー（平成26年撮影）



第Ⅲ - 5 図 新城下原一帯の遠景（令和2年1月撮影／南から）

第3節 基本層序

西普天間住宅地区は、地区中央から東側の大部分が琉球石灰岩の丘陵台地となっており、普天間飛行場の地形地質に類似した堆積状況をなしている。琉球石灰岩の上に赤土（島尻マージ層）が堆積し、人々の生活の痕跡はこの上面で確認されることが多い。当該地区の基本層序については、平成30年度報告の『基地内埋蔵文化財調査報告書7』（註3）で設定していたが、令和3年度に県と市で普天間飛行場内の基本層序の検討がなされ、統一基本層序（暫定）が作成された（註4）。

本市としては上記の検討結果を踏まえ、これまでの「文化層＝Ⅱ層＋ユニット番号」という記載を改め、Ⅱ層～Ⅴ層を各時期区分に当てはめて設定することとした。なお、Ⅵ層については迫地あるいは窪地を充填する局所的な堆積土ではあるものの、普天間飛行場だけでなく中南部石灰岩地帯に見られることから暫定的に基本層序に組み込まれている。本報告でも上記の統一基本層序を参考に以下のとおり基本層序を再設定した。また、各層において調査の際に細分されたものは算用数字を付して表記した（例：Ⅳ1層、Ⅳ2層・・・）。

Ⅰ層：現表土及び米軍造成土で、ハウジングエリアでは2m以上の造成土が堆積する箇所も見られる。色調は主に褐色～黄褐色を呈し、細かい砂や礫を斑に含む。場所によっては1m以上の転石が確認された場所もあった。

Ⅱ層：戦前～基地接收後の旧表土や旧耕作土。褐色～黄褐色の砂質シルトを呈し、比較的土粒が均質で焼土粒や炭化物などが混じる。遺物は本土産磁器や沖縄産陶器が出土。

Ⅲ層：近世に相当する。当該地区では、比較的締まりの弱い砂質シルトを呈し、褐色や黄褐色の色

調が見られる。Ⅱ層と同じく焼土粒や炭化物を含む。Ⅲ層は主にこの周辺一帯で行われた耕作に関連する堆積と思われる。

Ⅳ層：グスク時代相当の遺物包含層。灰褐色～黒褐色の粘質シルト層で、グスク土器や陶磁器などを含む。上層に比べて土色は暗く、焼土粒や炭化物が多く混じる。

Ⅴ層：貝塚時代の遺物包含層や自然堆積層。暗褐色の粘質シルト。ほとんど礫を含まず、焼土粒や炭化物が多く混じるのが特徴。上層（Ⅳ層）に比べて粘性がやや強い。

Ⅵ層：基本的に締まりが弱く、黄褐色～オリーブ褐色の粘質シルト。局所的にみられ、迫地やドリーネ等の窪地に堆積した層と思われる。縄文土器の小片が多く見られるものの、立地や堆積状況などから周辺からの流れ込みの可能性がある。ちなみに本報告掲載遺跡では確認されていない。

Ⅶ層：島尻マージ層。いわゆる赤土と呼称される層で、琉球石灰岩の風化土とされている。普天間飛行場では普遍的に確認される層であり、これまでの試掘調査等において砂質と粘質の互層になっていることが確認されている。統一基本層序では、Ⅶa～eの5枚に細分されるが本報告では共通してⅦ層（島尻マージ層）とした。なお、検出された遺構の多くはⅦ層の上面を掘り込んで形成されている。

Ⅷ層：にぶい黄色～淡黄色を呈する琉球石灰岩の岩盤。低地部では消失している箇所もある。

Ⅸ層：灰オリーブ色を呈する島尻層群を構成する泥岩の風化層。泥岩風化部は、基盤岩に比べて締まりが著しく悪い。また、不規則な塊状や小角片に割れる泥岩特有の風化構造が顕著にみられる。

Ⅹ層：島尻層泥岩。いわゆるクチャ層。不透水性で石灰岩の不整合面では湧水が見られる。

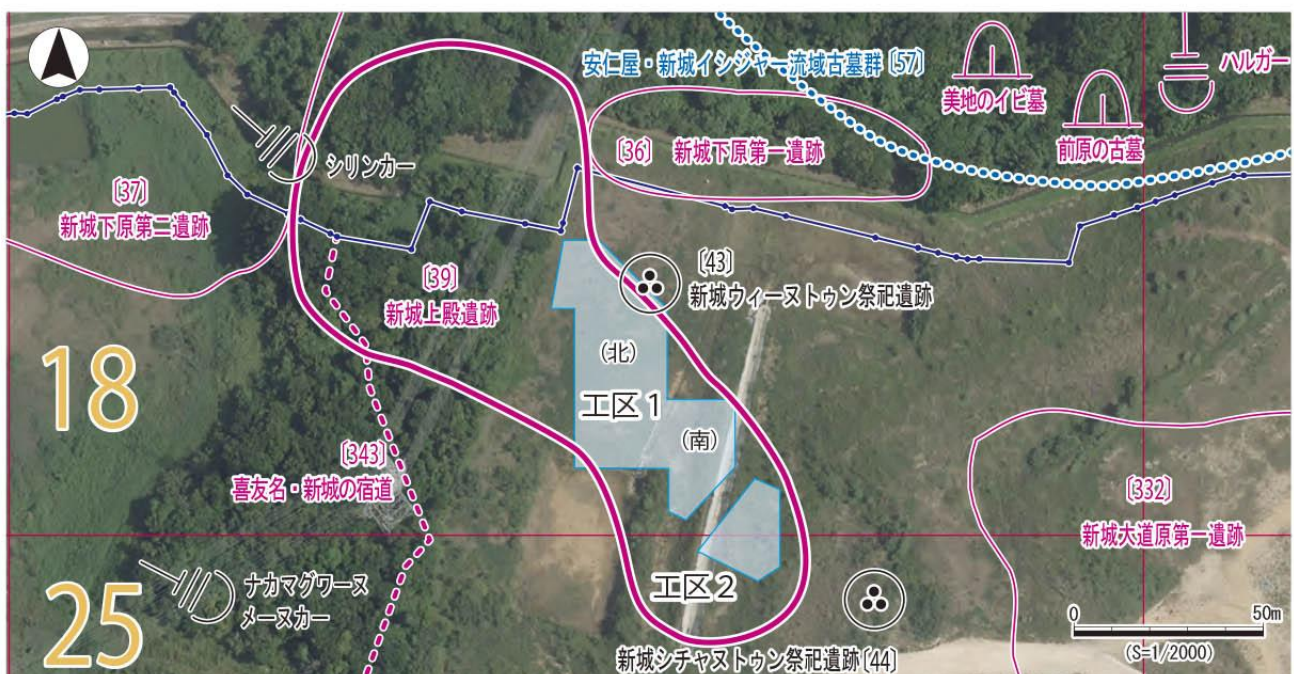
参考文献（第Ⅲ章）

- 註1. 沖縄県立埋蔵文化財センター 2006『新城下原第二遺跡』
- 註2. 宜野湾市教育委員会 2011『文化財保存整備基本構想作成業務委託（喜友名・新城・野嵩・伊佐地区）報告書』
- 註3. 宜野湾市教育委員会 2019『基地内埋蔵文化財調査報告書7』
- 註4. 沖縄県立埋蔵文化財センター 2022『基地内文化財9 普天間飛行場内試掘調査総括報告書』

第IV章 新城上殿遺跡

第1節 調査の経過と調査方法

新城上殿遺跡は1981年に市教委が実施した基地内分布調査によって初確認された遺跡である。西普天間住宅地区の北端に位置し、遺跡の一部は返還区域外であるキャンプ瑞慶覧まで広がる。標高8m～27mの石灰岩丘陵縁辺に立地しており、平成26年度の表面踏査（分布調査）では、屋敷跡や道跡、畑の区画、石切場跡など多くの遺構が残存していることが確認された。遺跡の南東側は米軍のコート建設に伴う造成工事により旧地形は消失していたが、平成27年3月に実施した試掘調査において、造成土直下で検出された地山（島尻マージ層）上面に多数のピットを検出した。これらのピットからは青磁や染付など、グスク時代の遺物が共伴して出土したことから同時代の集落跡であることが想定され、新城上殿遺跡の範囲が南東側へ大きく広がることが判明した。平成27年8月10日付、遺跡範囲変更の届出（宜教文第1号-27）を県に提出し、平成27年8月18日付、教文第766号にて県より了承の通知を受けた。これにより、これまで約4,800㎡であった遺跡面積は約9,900㎡と大幅に増となった。南東側に拡張した部分については市の跡地利用計画の中で住宅地として整備される予定となったため、沖縄防衛局による不発弾探査が実施されることとなった。市教委では平成28年3月に沖縄防衛局と締結した協定書に基づき、住宅地（住宅ゾーン）として不発弾探査が必要となる区域については緊急発掘調査を実施することとなった。調査区は過年度の試掘調査の結果を踏まえて設定し、南北方向に細長い調査区となった。設定面積は約2,215㎡を測り、表土（米造成土含む）は重機（バックホウ）を使用して掘り下げた。重機掘削に際しては市教委の専門職員又は専門嘱託員立会いの下で行い、掘削深度50cm毎に不発弾探査（経層探査）を実施した。包含層または遺構が確認できた時点で掘削を中断し、ブルーシートで養生等を行った。掘り下げは調査区の北端から行ったが、北端部では表土下50cmほどで岩盤を検出し、上面が削平されている状況が確認された。調査区南側にかけて徐々に島尻マージ層が確認され、部分的に褐色土（耕作土）や遺構も確認された。



第IV - 1図 調査位置図

【日誌抄】

5月19日：調査区設定（測量）及び伐開作業

6月2日：重機による表土掘削開始。地表下50cm掘削毎に不発弾経層探査を実施。

7月7日：台風1号の影響により、現場休止。

7月11日：委託業者による作業員投入。壁面・床面の清掃及び包含層の掘削を実施。

7月13日：遺構検出（SK1）作業。

7月22日：遺構検出状況について、無人航空機（ドローン）を使用して撮影。

7月28日：SD5より沖縄産陶器及び青磁が出土。

8月2日：SK1を四分割して掘り下げ開始。

8月15日：SL1より焼土面確認。サブトレンチを設定して掘削。

9月1日：日誌記載所見

調査区1（新城上殿遺跡）と調査区3（新城大道原第一遺跡）では堆積している土が異なっている。調査区1は粘性が強く乾燥した際にひび割れが著しい。一方調査区3は砂質を呈しており、検出されたピットの覆土は暗褐色を呈し、焼土粒や炭化物の混入は少ない。なお、調査区1の北西部に分布するピット群の含土はにぶい黄褐色～暗オリーブ褐色を呈する。

9月12日：ピット群について、記録作業を実施。

10月3日：台風18号の影響により作業中止。

10月18日：北側ピット群の完掘状況を撮影。

11月14日：SP267下層より白磁出土。柱抜き取り後に混入した可能性あり。

11月17日：南側ピット群について、パリノ・サーヴェイ(株)によりサンプル土を採取。

11月29日：SP380より青色のビーズ（5mm）が出土。

12月7日：SD3（堀切状遺構）の掘削。SD3とSD4は堆積土が類似するため、同時代の可能性あり。

12月16日：工区2の遺構完掘作業。

12月20日：高所作業車にて完掘状況を撮影。調査完了。



表土掘削



遺構検出状況



記録作業状況



完掘状況撮影

図版IV - 1 作業状況

第2節 層序

新城上殿遺跡の調査区域は、返還された平成27年当時米軍によるコート建設で平坦に整地され、旧地形は残存していない状況であった。平成26年度に実施した試掘調査でも1m～2mほどの造成土が堆積し、直下は地山の赤土（島尻マージ層）が検出された。調査区域の北側では、地表面から0.5mほどで琉球石灰岩の岩盤が確認されたが、この上面も平坦に削られている状況であった。しかし、包含層は南側及び東側の一部で残存していることが判明した。



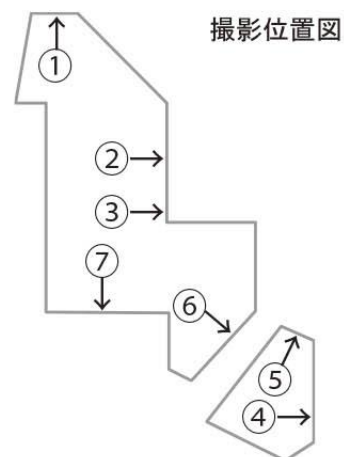
図版IV - 2 ①工区1（北側）北壁面



図版IV - 3 ②工区1（北側）東壁面



図版IV - 4 ③工区1（北側）東壁面





図版IV - 5 ④工区2 東壁



図版IV - 6 ⑤工区2 北壁



図版IV - 7 ⑥工区1 南壁3

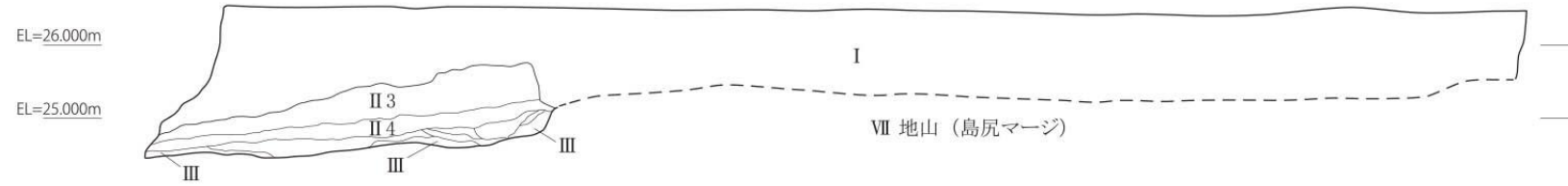


図版IV - 8 ⑦工区1 (南側) 南壁2-2



第IV-2図 工区 1 (北) 壁面土層図

①北壁 3



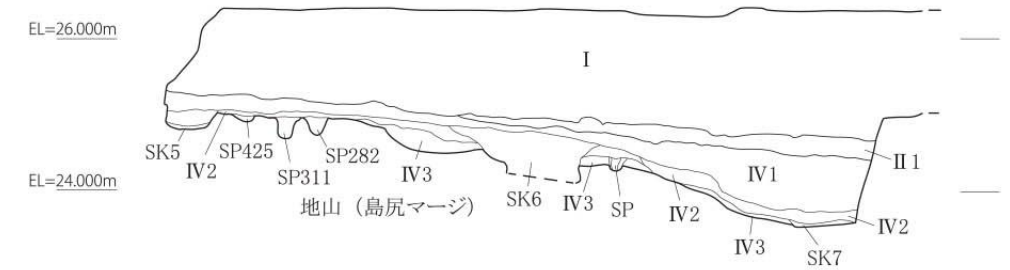
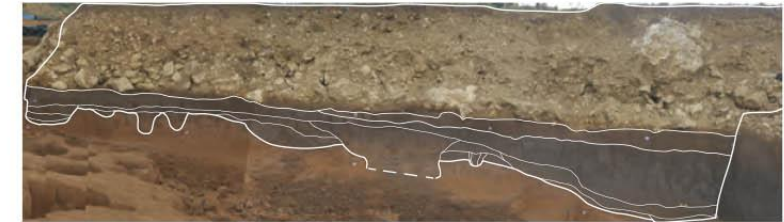
②東壁 2



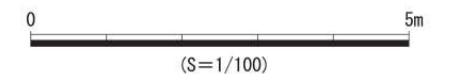
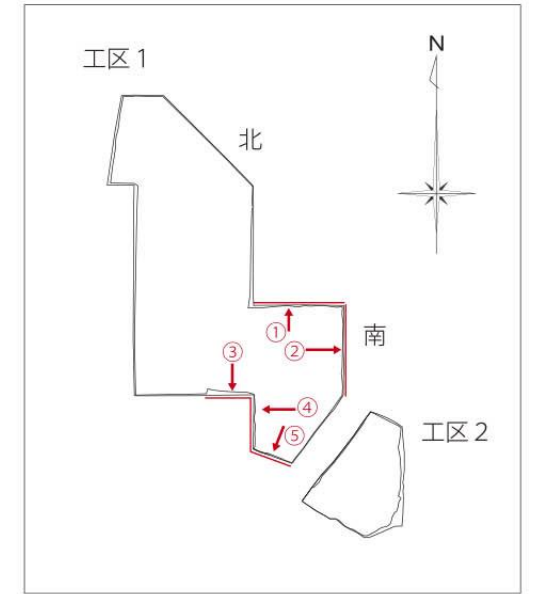
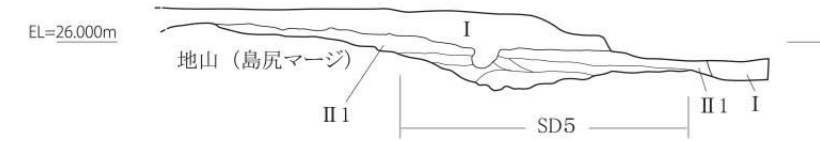
④西壁 3



③南壁 2-2

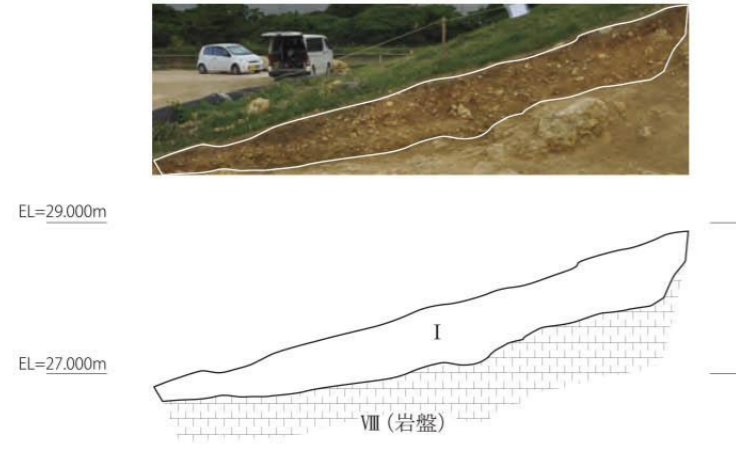


⑤南壁 3

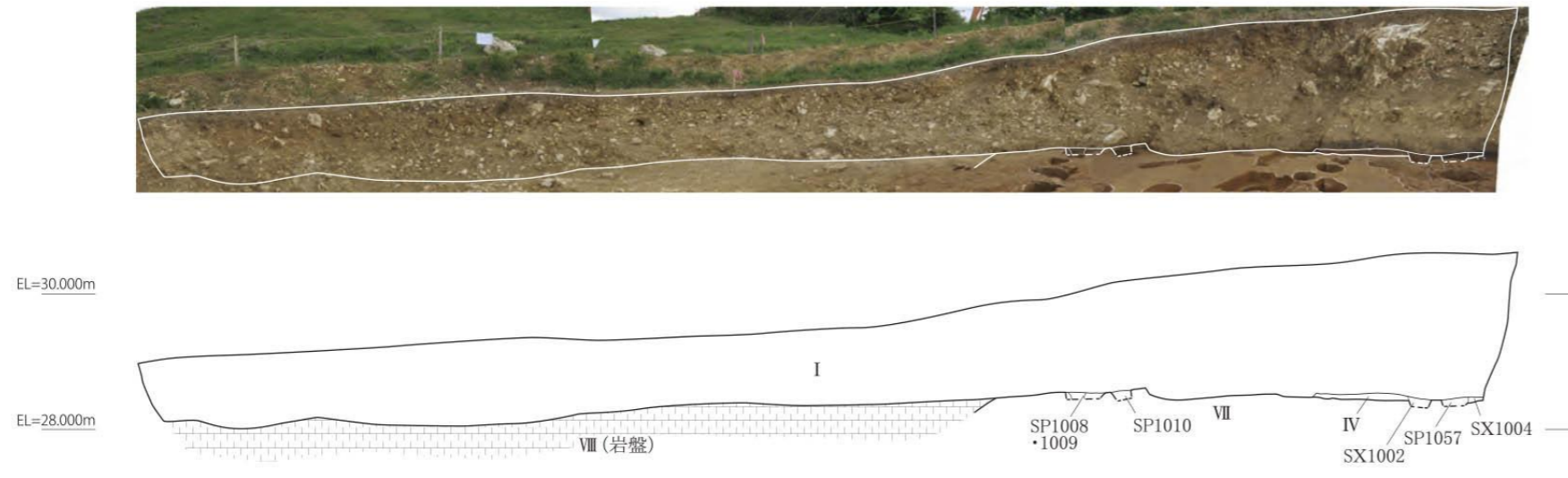


第IV-3図 工区1 (南) 壁面土層図

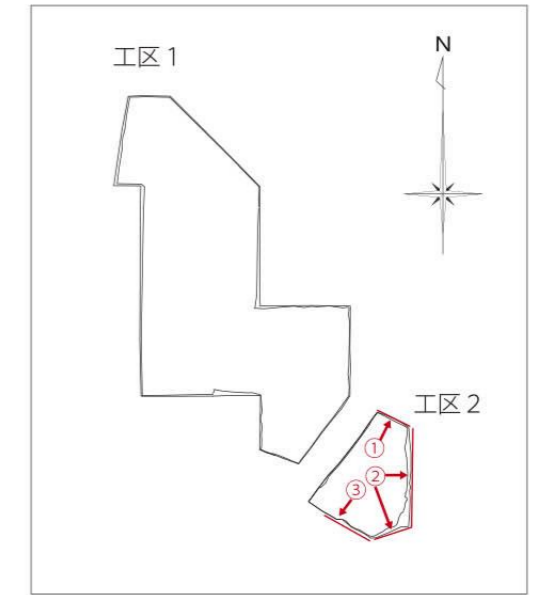
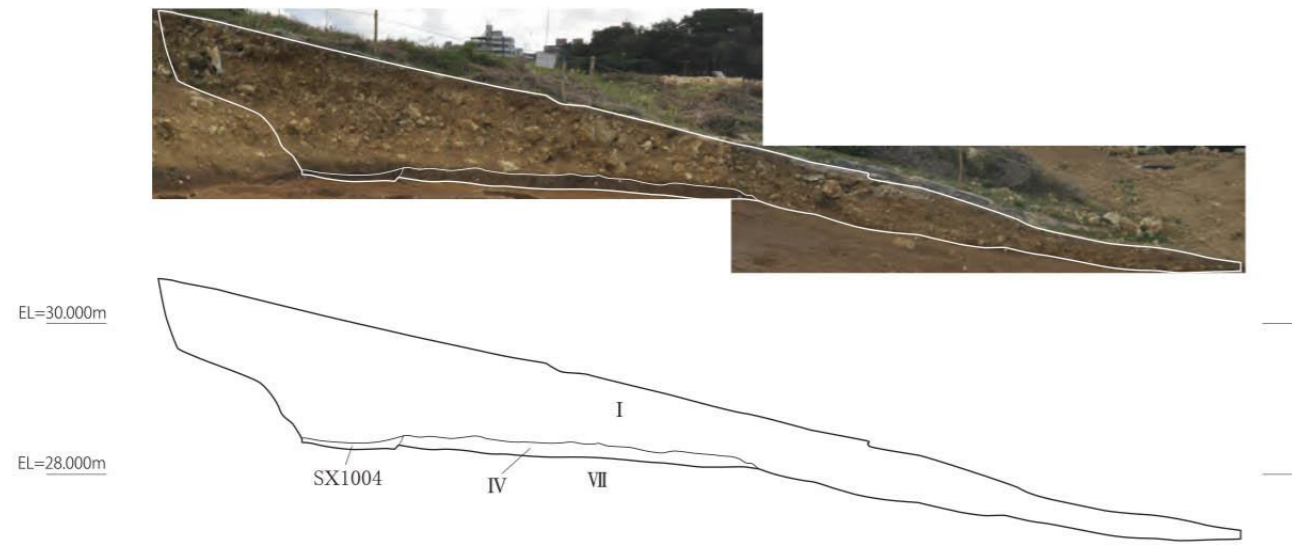
①北壁



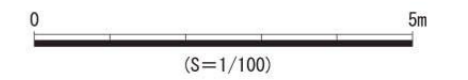
②東壁

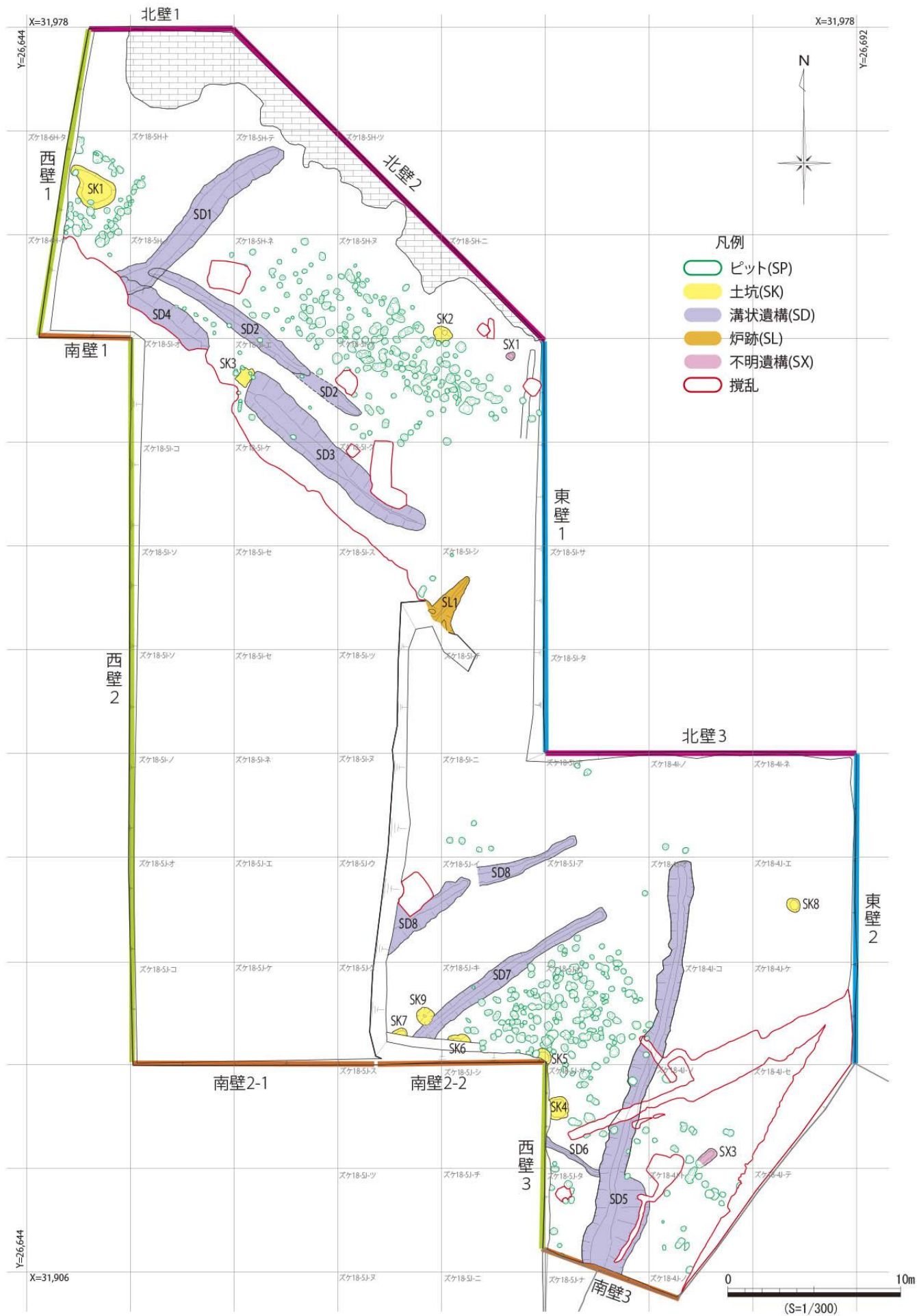


③南壁

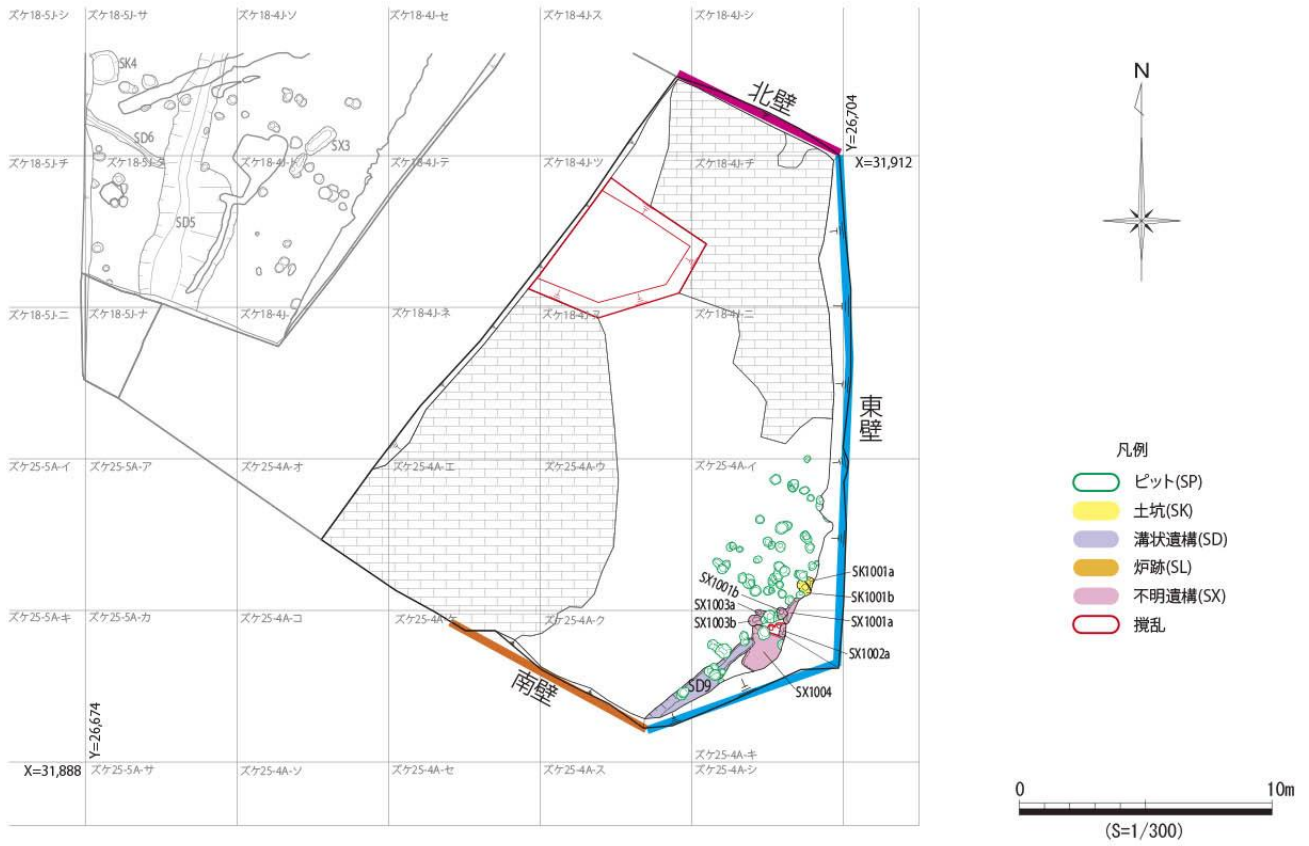


第IV-4図 工区2 壁面土層図





第IV - 5図 工区1遺構分布図



第IV - 6図 工区2遺構分布図

第3節 遺構

本遺跡で確認された遺構は、ピット（柱穴含む）、土坑、炉跡、溝状遺構の4種類が検出された。ピットについては調査区域の北側と南側、東側でそれぞれまとまりが見られ、柱痕の有無などから一部で掘立柱建物跡が想定されている。また、周辺で検出された土坑や炉跡もこれらの建物跡に付属するものと思われる。溝状遺構は調査区を縦横に展開し、建物跡と関連する施設として排水や区画が想定される。また、特筆すべき遺構として工区1北側の溝状遺構（SD 3）があり、断面形状より堀切のような機能が想定される。また、同じく工区1北側で検出された炉跡（SL 1）は当初、細長い形状から溝かと思われたが、細長く掘り込まれた中央に、被熱によって方形状に赤色硬化する部分を確認した。戦後の改変工事によって上面が削平されているため、確定できないが、南側がやや下がるような形状をしており、小規模な窯であった可能性もある。以下、各遺構の詳細について種類別に報告する。

1. ピット（SP）

約643基が検出された。調査区の中では、工区1の北側、南側と工区2（東側）で一定のまとまりが見られる。ピットの規模としては直径20cm～40cmを計り、深さも30cmを超えるものも多く確認され、柱痕が確認できるピットも多く、ほとんどが掘立柱建物の柱穴と思われる。しかし、検出されたピットの多くは、密集して複雑に切り合った状況で確認されたため、明確なプランを把握することが困難であった。そこで建物のプランを検討するために、ピットが集中して確認された上記3区域に分けて各ピットの配置状況や掘方形状、基底面の標高（底面レベル）、覆土などから以下のとおり分類を試みた。なお、分類の方法については、註1『市内埋蔵文化財調査報告書』（市教育委員会2010）、註2『大山前門原第一遺跡』（市教育委員会2012）を参考にした。

※註1 宜野湾市教育委員会 2010『市内埋蔵文化財調査報告書』宜野湾市文化財調査報告書 第46集

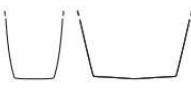



※註2 宜野湾市教育委員会 2012『大山前門原第一遺跡』宜野湾市文化財調査報告書 第49集

【分類方法】

（1）掘方での分類

掘方の断面形状から分類を試みたもので、A～Dの4種類に分類した（第IV-1表 ピット掘方断面形状分類模式図）。A類は基底部に平坦面があるもので、B類は基底部に丸みや微弱な凹凸があるものとした。C類は基底部に段を持つものあるいは途中から角度をあげて掘削されるものとした。D類は基底部が斜めになっているまたは凹凸が著しく、柱を据えるには難があるものとした。本報告ではD類は柱穴の可能性が低いとして建物プランの検討から除外した。

第IV-1表 ピット掘方断面形状分類模式図

	A	B	C	D	+	S
分類	基底部に平坦面があるもの。	基底部に平坦面がないもの。（基底部が丸みを帯びるものや多少凹凸するもの）	基底部に段を持つもの。	基底部が斜めのものや大きく凹凸するもの。	柱痕あり	直径15cm未満
模式図					柱穴	柱穴の可能性低い

(2) 法量での分類

検出時の平面規模(直径×短径)で分類した。本市が2010年に報告した『市内埋蔵文化財調査報告書』(註1)によると、想定プランの柱本数によって柱(柱穴)の直径に差異が認められ、大きく母屋と高倉に分けることができる。つまり、直径が30cm以下の柱穴は母屋の可能性が高く、50cm以上の柱穴は高倉(4本柱～6本柱)の可能性が高いと推測している。なお、今回の分類では直径が15cm以下または検出面からの深さが5cm以下のものは柱穴の可能性が低いと考え、プランの検討から除外した(第IV-3～12表 遺構計測分類表)。

(3) 底面レベルの分類

建物の基礎となる柱を据えるための穴を掘削する際、上屋を造る上でも同じような深さまで掘り下げる可能性は高く、「同等の底面レベルを有する遺構」は同じ建物の柱穴である可能性は高いと思われる。そのため、確認されたピットの最も低いレベルと最も高いレベルを基に、その間を任意に20cm単位で区切り細分化した(第IV-2表、第IV-7図～第IV-9図)。

第IV-2表 底面レベルの分類

工区1

底面レベル(20cm区切り)					
I	23.80~23.99m	VI	24.80~24.99m	X I	25.80~25.99m
II	24.00~24.19m	VII	25.00~25.19m	X II	26.00~26.19m
III	24.20~24.39m	VIII	25.20~25.39m	X III	26.20~26.39m
IV	24.40~24.59m	IX	25.40~25.59m		
V	24.60~24.79m	X	25.60~25.79m		

工区2

底面レベル(20cm区切り)	
I	27.80~27.99m
II	28.00~28.19m
III	28.20~28.39m
IV	28.40~28.59m

(4) 覆土による分類

本遺跡で検出されたピットの覆土については、暗褐色の粘質シルトは共通するが含まれる赤色土粒の割合に応じてa、b、cの3種類に細分した。a類はマージ起源の赤色土粒が全体の10%未満混じるもので、比較的掘方ラインは明瞭である。b類はマージ起源の赤色土粒が10%以上～50%未満でa類に比べて色調はやや明るい。c類は赤色土粒が50%以上含むもので、粘性が高く、しまりが弱い傾向にある。ピット覆土に複数の堆積が見られる場合は、柱痕またはピット中心に近い部分を基準とした。



a類



b類



c類

図版IV-9 覆土分類別ピット(参考画像)

第IV-3表 遺構計測分類表 工区1北側(1号建物跡周辺)

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	分類			覆土	柱穴の可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP531	不定形	76	—	17	24.30	Ⅲ	B		a	△	1号建物跡	ズケ18-6H-タ
SP532	円形	17	—	4	24.42	Ⅳ	D	s	a	×		ズケ18-6H-タ
SP533	—	(23)	—	18	24.44	Ⅳ	D		a		SP555、SP565、SP566を切る	ズケ18-6H-タ
SP534	円形	22	21	11	24.52	Ⅳ	B		a			ズケ18-6H-タ
SP535	楕円形	48	35	19	24.45	Ⅳ	D	+	a	○		ズケ18-6H-タ
SP536	楕円形	35	28	28	25.17	Ⅶ	B	+	b	○		ズケ18-6H-タ
SP537	楕円形	19	15	8	25.38	Ⅷ	B	s	b	×	SP577を切る	ズケ18-5H-ト
SP538	楕円形	27	22	18	24.48	Ⅳ	A	+	a	○		ズケ18-6H-タ
SP539	楕円形	34	23	27	24.36	Ⅲ	D	+	a	○	SP576を切る	ズケ18-6H-タ
SP540	円形	35	33	29	24.32	Ⅲ	A	+	a	○		ズケ18-6H-タ
SP541	円形	21	18	3	24.51	Ⅳ	A		b	×	SP542を切る	ズケ18-6H-タ
SP542	楕円形	54	45	17	24.38	Ⅲ	C	+	a		SP541に切られる	ズケ18-6H-タ
SP543	円形	34	30	26	24.24	Ⅲ	B	+	a	○		ズケ18-6H-タ
SP544	楕円形	(40)	31	24	24.24	Ⅲ	A		a		SP545を切る	ズケ18-6H-タ
SP545	楕円形	—	35	47	24.00	Ⅱ	A	+	a		SP544に切られる	ズケ18-6H-タ
SP546	円形	33	31	17	24.33	Ⅲ	B	+	a			ズケ18-6H-タ
SP547	円形	27	27	14	24.32	Ⅲ	D		a		SP548に切られる	ズケ18-6H-タ
SP548	楕円形	35	29	39	24.07	Ⅱ	B		a		SP547、SP549を切る	ズケ18-6H-タ
SP549	楕円形	(50)	40	45	23.91	Ⅰ	B	+	b		SP578、SP595に切られる。1号建物跡	ズケ18-6H-タ
SP550	円形	28	26	12	24.34	Ⅲ	A		b		SP549に切られる	ズケ18-6H-タ
SP551	楕円形	38	29	12	24.29	Ⅲ	C	+	a			ズケ18-6H-タ
SP552	円形	(19)	—	14	24.32	Ⅲ	B		a		SP553に切られる	ズケ18-6H-タ
SP553	—	(13)	—	9	24.35	Ⅲ	B	s	a	×	SP552を切る	ズケ18-6H-タ
SP554	楕円形	46	31	20	24.41	Ⅳ	B	+	a			ズケ18-6H-タ
SP555	楕円形	(33)	—	19	24.33	Ⅲ	B		a		SP556に切られる。1号建物跡	ズケ18-6H-タ
SP556	円形	17	17	6	24.46	Ⅳ	D		a		SP555、SP557を切る	ズケ18-6H-タ
SP557	楕円形	—	18	6	24.45	Ⅳ	B		a		SP556に切られる	ズケ18-6H-タ
SP558	楕円形	21	18	13	24.55	Ⅳ	B		a			ズケ18-5H-ト
SP559	円形	45	42	57	24.07	Ⅱ	C	+	a	○	SP560、SP588、SP590を切る。1号建物跡	ズケ18-6H-タ
SP560	楕円形	34	—	36	24.26	Ⅲ	D		a		SP561を切る。SP559に切られる	ズケ18-6H-タ
SP561	—	—	—	31	24.30	Ⅲ	B		b		SP560に切られる	ズケ18-6H-タ
SP562	—	48	—	33	24.23	Ⅲ	A	+	b		SP563を切る。SP581に切られる	ズケ18-6H-タ
SP563	楕円形	45	37	29	24.23	Ⅲ	D		b		SP562に切られる	ズケ18-6H-タ
SP564	楕円形	26	19	14	24.34	Ⅲ	D		a			ズケ18-6H-ナ
SP565	—	—	(14)	8	24.53	Ⅳ	B		b	×	SP533に切られる	ズケ18-6H-タ
SP566	—	—	(12)	14	24.51	Ⅳ	—		b	×	SP533に切られる	ズケ18-6H-タ
SP567	—	15	—	12	24.52	Ⅳ	B	s	a	×		ズケ18-6H-タ
SP568	—	(28)	—	15	24.49	Ⅳ	D		a		SP574に切られる	ズケ18-6H-タ
SP569	円形	50	49	55	24.13	Ⅱ	C	l	a		SP570、SP571を切る。1号建物跡	ズケ18-5H-ト
SP570	—	—	—	50	24.18	Ⅱ	D		a		SP569、SP571に切られる	ズケ18-5H-ト
SP571	楕円形	—	30	29	24.40	Ⅳ	A		b		SP569、SP572に切られる	ズケ18-5H-ト
SP572	楕円形	38	27	28	24.42	Ⅳ	B	+	b		SP571を切る	ズケ18-5H-ト
SP573	円形	(30)	29	20	24.43	Ⅳ	D		a		SP574に切られる	ズケ18-6H-タ
SP574	—	(15)	—	3	24.59	Ⅳ	B	s	a	×	SP568、SP573を切る	ズケ18-6H-タ
SP575	—	32	—	40	23.99	Ⅰ	B		b		SP545に切られる	ズケ18-6H-タ
SP576	楕円形	25	21	13	25.17	Ⅶ	D	+	a		SP577を切る。	ズケ18-6H-タ
SP577	—	—	—	24	25.22	Ⅷ	B	+	b		SP537、SP576に切られる	ズケ18-6H-タ
SP578	不定形	—	47	49	23.82	Ⅰ	C	+	a	○	SP549を切る。SP594、SP595に切られる	ズケ18-6H-タ
SP579	楕円形	69	48	56	23.75	Ⅰ	D		a			ズケ18-6H-ナ
SP580	円形	37	36	9	24.44	Ⅳ	B		a		SP586を切る	ズケ18-6H-ナ
SP581	楕円形	39	33	43	24.13	Ⅱ	A	+	a			ズケ18-6H-タ
SP582	円形	19	—	6	24.50	Ⅳ	B	s	b	×		ズケ18-6H-タ
SP583	円形	26	25	14	24.37	Ⅲ	B	+	a	○		ズケ18-6H-タ
SP584	不定形	48	33	48	23.99	Ⅰ	B	+	a	○	SP585に切られる。1号建物跡	ズケ18-6H-ナ
SP585	円形	54	54	38	24.06	Ⅱ	B	+	a	○	SP584、SP586、SP587を切る	ズケ18-6H-ナ
SP586	—	(70)	—	30	24.98	Ⅵ	—		b		SP580、SP584、SP585に切られる	ズケ18-6H-ナ
SP587	—	—	—	53	23.89	Ⅰ	B	+	b		SP584、SP585に切られる	ズケ18-6H-ナ
SP588	—	(45)	—	44	24.18	Ⅱ	—		b		SP559、SP589に切られる	ズケ18-6H-タ
SP589	円形	(15)	—	4	24.56	Ⅳ	B	s	b	×	SP588を切る	ズケ18-6H-タ
SP590	楕円形	—	36	30	24.28	Ⅲ	B		b		SP559に切られる	ズケ18-6H-タ
SP591	不定形	27	21	26	24.21	Ⅲ	B		b		SP561の下から検出	ズケ18-6H-タ
SP592	円形	24	21	20	23.98	Ⅰ	D					ズケ18-6H-タ
SP593	—	23	—	16	24.10	Ⅱ	B		b		SP594を切る	ズケ18-6H-タ
SP594	楕円形	25	—	14	24.10	Ⅱ	A		b		SP593に切られる	ズケ18-6H-タ
SP595	—	23	—	15	24.20	Ⅲ	B		a		SP549、SP578を切る	ズケ18-6H-タ

底面レベル(20cm区切り)	
Ⅰ	23.80~23.99m
Ⅱ	24.00~24.19m
Ⅲ	24.20~24.39m
Ⅳ	24.40~24.59m
Ⅴ	24.60~24.79m
Ⅵ	24.80~24.99m
Ⅶ	25.00~25.19m
Ⅷ	25.20~25.39m

第IV-4表 遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 1

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP004	楕円形	29	22	10	24.76	V	B	+	b	○		ズケ18-5H-ノ
SP005	—	25	—	10	24.76	V	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP007	—	39	—	27	24.65	V	B		b	△		ズケ18-5H-ネ
SP008	—	10	—	3	24.91	VI	B	s	a	×		ズケ18-5H-ネ
SP009	—	14	33	15	24.75	V	B	s	a	×	SP010に切られる	ズケ18-5H-ネ
SP010	—	40	29	18	24.74	V	B		a	△	SP009を切る	ズケ18-5H-ネ
SP011	不定形	30	30	19	24.79	V	A		a	△		ズケ18-5H-ネ
SP012	不定形	44	36	10	24.85	VI	B	+	b	○	SP014に切られる	ズケ18-5H-ネ
SP014	不定形	—	20	5	24.95	VI	A		b	×	SP012を切る	ズケ18-5H-ネ
SP016	円形	27	27	12	24.87	VI	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP017	円形	27	23	12	25.11	VII	B		c	△		ズケ18-5H-ネ
SP018	円形	41	40	19	24.90	VI	A		b	△		ズケ18-5H-ネ
SP020	楕円形	38	33	17	24.60	V	B	+	a	○		ズケ18-5H-ネ
SP021	円形	34	33	18	24.85	VI	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP022	楕円形	35	30	15	24.83	VI	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP024	円形	27	25	18	24.85	VI	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP025	楕円形	32	25	15	24.83	VI	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP026	円形	24	23	6	25.03	VII	B		b	△		ズケ18-5H-ネ
SP027-a	—	—	—	22	24.92	VI	C	+	b	○	2号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP027-b	—	—	—	27	24.82	VI	C	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP028	楕円形	32	25	13	24.95	VI	C		b	△	2号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP029	不定形	11	—	30	24.75	V	—	s	b	×	SP030に切られる	ズケ18-5H-ネ
SP030	—	29	—	30	24.75	V	A		a	△	SP029を切る	ズケ18-5H-ネ
SP031	円形	30	28	15	24.85	VI	B	+	b	○	2号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP033	円形	31	30	6	24.94	VI	B		b	△	2号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP034	楕円形	43	33	39	24.75	V	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP035	楕円形	35	27	13	25.01	VII	A	+	b	○	2号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP037	円形	30	28	17	25.03	VII	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP038	楕円形	23	20	9	25.07	VII	A		a	△		ズケ18-5H-ネ
SP040	楕円形	32	26	18	24.95	VI	C	+	a	○	2号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP041	円形	18	17	12	25.02	VII	C	s	a	△		ズケ18-5H-ネ
SP042	楕円形	40	32	30	24.82	VI	A	+	b	○	SP043に僅かに切られる	ズケ18-5H-ネ
SP043	楕円形	49	41	25	24.87	VI	B		b	△	SP042をわずかに切る	ズケ18-5H-ネ
SP044	円形	28	27	12	25.03	VII	B	+	b	○		ズケ18-5H-ネ
SP045	楕円形	—	25	18	24.97	VI	A	+	b	○	SP046を切る。2号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP046	—	—	27	7	25.07	VII	B		c	△	SP045に切られる	ズケ18-5H-ネ
SP047	楕円形	41	30	20	25.00	VII	A		b	△		ズケ18-5H-ネ
SP048	楕円形	37	30	10	25.12	VII	D		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP049	不定形	—	48	22	25.03	VII	C	+	b	○	SP050を切る	ズケ18-5H-ヌ
SP050	楕円形	—	30	40	24.85	VI	B	+	b	○	SP049に切られる。2号建物跡、3号建物跡	ズケ18-5H-ヌ
SP052	楕円形	21	16	14	25.13	VII	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP053	楕円形	29	25	23	25.05	VII	D		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP054	楕円形	40	25	32	24.88	VI	B	+	a	○	SP0475に切られる。3号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP055	楕円形	57	45	42	24.32	III	B	l	b	△		ズケ18-5H-ネ
SP056	楕円形	39	30	25	24.98	VI	B	+	b	○	3号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP057	楕円形	38	32	7	25.18	VII	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP058	円形	27	27	14	25.12	VII	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP059	円形	42	—	30	24.88	VI	B		b	○	SP060に切られる。2号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP060	楕円形	—	26	12	25.01	VII	B		a	△	SP059を切る	ズケ18-5H-ネ
SP061	楕円形	33	26	11	25.06	VII	B		b	△	2号建物跡、3号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP062	円形	18	16	7	25.20	VII	A	s	b	×		ズケ18-5H-ヌ
SP063	円形	38	36	24	25.03	VII	B	+	b	○	3号建物跡	ズケ18-5H-ヌ
SP064	円形	23	22	13	25.14	VII	B	+	b	○		ズケ18-5H-ヌ
SP066	円形	30	28	5	25.15	VII	B		a	×	3号建物跡	ズケ18-5I-E
SP067	楕円形	44	40	33	24.87	VI	D	+	a	○		ズケ18-5I-E
SP068	楕円形	44	32	56	24.62	V	B		b	○		ズケ18-5H-ネ
SP069	円形	20	19	13	25.11	VII	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP070	楕円形	41	36	4	25.21	VII	B		b	×	SP071を切る	ズケ18-5H-ヌ
SP071	楕円形	33	29	40	24.84	VI	D		b	△	SP070に切られる	ズケ18-5H-ヌ
SP073	円形	33	29	25	25.00	VII	B	+	a	○		ズケ18-5H-ヌ
SP074	楕円形	—	47	47	24.82	VI	B	+	b	○	SP075に切られる	ズケ18-5H-ヌ
SP075	—	—	30	35	24.94	VI	B	+	b	○	SP074を切る	ズケ18-5H-ヌ
SP076	円形	26	25	10	25.16	VII	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP078	楕円形	36	31	18	25.06	VII	B		b	△		ズケ18-5I-U
SP079	—	—	—	12	25.15	VII	A	+	b	○	SP080を切る	ズケ18-5H-ヌ
SP080	—	—	—	7	25.20	VII	A		b	×	SP079に切られる	ズケ18-5I-U
SP081	楕円形	24	19	6	25.20	VII	D		c	△		ズケ18-5H-ヌ
SP082	不定形	38	34	19	25.12	VII	B	+	b	○	3号建物跡	ズケ18-5H-ヌ

第IV-5表 遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 2

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP083	楕円形	28	22	15	25.15	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP084	不定形	36	35	5	25.04	Ⅶ	D		b	×		ズケ18-5I-エ
SP086	楕円形	61	56	35	24.90	Ⅵ	A	I+	a	△		ズケ18-5I-エ
SP087	楕円形	27	25	5	25.25	Ⅷ	D		a	×		ズケ18-5I-ウ
SP088	楕円形	42	36	23	25.05	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP089	楕円形	37	30	48	24.84	Ⅵ	B	+	b	○		ズケ18-5H-ヌ
SP090	円形	25	19	22	25.08	Ⅶ	B		b	△	SP090を切る	ズケ18-5H-ヌ
SP091-a	楕円形	40	29	25	25.10	Ⅶ	B		b	△	SP089に切られる	ズケ18-5H-ヌ
SP091-b	楕円形	—	59	31	25.00	Ⅶ	B	I	a	×		ズケ18-5H-ヌ
SP092	円形	25	21	10	25.28	Ⅷ	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP093	—	34	—	18	24.94	Ⅵ	C		a	△	2号建物跡	ズケ18-5I-ウ
SP094	楕円形	44	—	30	25.03	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP095	—	—	34	27	25.07	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP096	楕円形	26	—	10	25.17	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP098	楕円形	44	38	43	24.88	Ⅵ	B		b	○	2号建物跡、3号建物跡	ズケ18-5I-ウ
SP099	楕円形	41	—	14	25.16	Ⅶ	A		b	○		ズケ18-5I-ウ
SP100	楕円形	33	—	19	25.10	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP101	—	34	—	35	25.96	Ⅸ	B		b	×	※底面レベルが明らかに異なるため、除外	ズケ18-5H-ヌ
SP102	—	30	—	27	25.05	Ⅶ	D		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP103	楕円形	33	25	22	25.17	Ⅶ	B		b	○		ズケ18-5H-ヌ
SP104	楕円形	33	26	10	25.03	Ⅶ	B	+	b	○		ズケ18-5I-ウ
SP105	—	—	—	10	25.26	Ⅷ	D		a	×	SP109を切る	ズケ18-5I-ウ
SP109	不定形	61	36	37	24.97	Ⅵ	A	I	b	△	SP105に切られる	ズケ18-5I-ウ
SP110	楕円形	44	40	30	25.04	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP111											欠番	
SP112	楕円形	45	—	34	25.02	Ⅶ	B		a	○		ズケ18-5I-ウ
SP113	—	40	—	34	25.00	Ⅶ	A		b	○		ズケ18-5I-ウ
SP114	楕円形	—	31	25	25.11	Ⅶ	B		b	○	SP115に切られる	ズケ18-5I-ウ
SP115	—	—	—	9	25.28	Ⅷ	B		b	×	SP114を切る	ズケ18-5I-ウ
SP116	楕円形	—	41	44	24.92	Ⅵ	B	+	b	△	3号建物跡	ズケ18-5I-ウ
SP117	楕円形	55	43	21	25.17	Ⅶ	A	I	b	△	3号建物跡	ズケ18-5I-ウ
SP118	円形	25	22	12	25.28	Ⅷ	A		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP119	—	—	—	35	25.03	Ⅶ	B	+	b	○	SP120に切られる	ズケ18-5I-ウ
SP120	—	—	—	6	25.33	Ⅷ	A		b	×	SP119を切る	ズケ18-5I-ウ
SP121	—	—	33	17	25.21	Ⅷ	C		a	△		ズケ18-5I-ウ
SP122	楕円形	—	43	23	25.16	Ⅶ	A		a	△		ズケ18-5I-ウ
SP123	楕円形	—	41	24	25.16	Ⅶ	B	+	b	○		ズケ18-5H-ヌ
SP124	—	—	—	29	25.12	Ⅶ	B	+	b	○		ズケ18-5H-ヌ
SP125	—	—	41	27	25.15	Ⅶ	D		b	×		ズケ18-5H-ヌ
SP126	楕円形	33	31	18	25.15	Ⅶ	D		b	×		ズケ18-5I-ウ
SP128	円形	33	32	15	25.25	Ⅷ	B		a	△		ズケ18-5I-ウ
SP129	円形	28	25	20	25.22	Ⅷ	B	+	a	○		ズケ18-5I-ウ
SP130	楕円形	53	46	32	25.10	Ⅶ	A	I+	b	○		ズケ18-5I-ウ
SP131	楕円形	39	33	13	25.03	Ⅶ	B	+	b	△	3号建物跡	ズケ18-5I-ウ
SP132	楕円形	68	32	30	24.90	Ⅵ	D	I+	b	△		ズケ18-5I-ウ
SP134	楕円形	36	28	5	24.27	Ⅲ	D			×	SD3上面に検出。非常に浅く凹みの堆積土か	ズケ18-5I-エ
SP136	楕円形	36	34	16	25.18	Ⅶ	A		a	△		ズケ18-5I-ウ
SP137	円形	38	35	35	25.05	Ⅶ	A		a	△		ズケ18-5I-ウ
SP138	円形	25	24	15	25.27	Ⅷ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP139	楕円形	38	22	18	25.25	Ⅷ	A		c	△		ズケ18-5I-ウ
SP140	円形	41	—	37	25.10	Ⅶ	A	+	a	○	SP141を切る	ズケ18-5I-ウ
SP141	—	46	—	31	25.15	Ⅶ	C	+	b	○	SP140、142に切られる	ズケ18-5I-ウ
SP142	—	30	—	25	25.20	Ⅷ	B	+	b	○	SP141を切る	ズケ18-5I-ウ
SP143	円形	—	26	9	25.05	Ⅶ	D		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP144	楕円形	31	26	12	25.03	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP146	円形	18	17	5	25.48	Ⅸ	D		b	×		ズケ18-5I-ウ
SP147	楕円形	—	31	23	24.20	Ⅲ	D		b	×	SP148を切る	ズケ18-5I-ウ
SP148	—	—	39	42	25.05	Ⅶ	B		b	△	SP147、150aに切られる	ズケ18-5I-ウ
SP149	楕円形	39	33						a	△	断面図なし	ズケ18-5I-ウ
SP150-a	—	—	—	22	25.27	Ⅷ	D		b	×	SP148を切る	ズケ18-5I-ウ
SP150-b	—	—	—	25	25.20	Ⅷ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP151-a	—	—	—	20	25.24	Ⅷ	—		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP151-b	—	—	—	15	25.24	Ⅷ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP152	楕円形	30	26	22	25.25	Ⅷ	B	+	b	○		ズケ18-5I-ウ
SP154	円形	39	37	55	24.95	Ⅵ	B	+	b	○		ズケ18-5I-イ
SP156	楕円形	30	—	5	25.09	Ⅶ	A		b	×		ズケ18-5I-ウ
SP157	—	—	43	51	24.90	Ⅵ	B	+	a	○		ズケ18-5I-ウ
SP158	楕円形	39	30	29	25.15	Ⅶ	A		b	△	3号建物跡	ズケ18-5I-ウ

第IV - 6表 遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 3

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP159	楕円形	35	31	32	25.15	Ⅶ	B	+	a	○		ズケ18-5I-U
SP161	円形	36	32	15	24.93	Ⅵ	B		a	△		ズケ18-5I-U
SP162	楕円形	25	25	5	24.94	Ⅵ	A		a	×		ズケ18-5I-U
SP163	円形	36	33	37	24.85	Ⅵ	B	+	b	○	SP164を切る	ズケ18-5I-U
SP164	—	37	—	8	25.13	Ⅶ	B		b	△	SP163に切られる	ズケ18-5I-U
SP165	—	—	35	45	25.05	Ⅶ	B	+	b	○	SP166を切る	ズケ18-5I-U
SP166	—	54	—	37	25.11	Ⅶ	B	I+	b	△	SP165に切られる、SP167aを切る	ズケ18-5I-U
SP167-a	—	25	—	25	25.23	Ⅷ	D	+	b	×		ズケ18-5I-U
SP167-b	—	—	—	20	25.28	Ⅷ	A	+	a	○		ズケ18-5I-U
SP168	不定形	42	30	20	25.27	Ⅷ	A		a	△		ズケ18-5I-U
SP170	楕円形	42	32	35	25.10	Ⅶ	A		a	△	3号建物跡	ズケ18-5I-U
SP171	楕円形	50	46	33	25.17	Ⅶ	B	I+	a	△		ズケ18-5I-I
SP173	楕円形	36	33	24	25.21	Ⅷ	A	+	c	○		ズケ18-5I-I
SP174	楕円形	26	23	25	25.27	Ⅷ	B	+	a	○		ズケ18-5I-I
SP175	楕円形	29	25	23	25.27	Ⅷ	A	+	b	○		ズケ18-5I-U
SP176	楕円形	40	38	32	25.12	Ⅶ	B	+	a	○	3号建物跡	ズケ18-5I-U
SP177	円形	46	43	36	25.16	Ⅶ	A	+	b	△		ズケ18-5I-U
SP178	円形	—	26	19	25.36	Ⅷ	A	+	b	○	SP179に切られる	ズケ18-5I-U
SP179	楕円形	31	28	17	25.36	Ⅷ	B		b	△	SP178を切る	ズケ18-5I-I
SP181	円形	56	55	23	25.34	Ⅷ	A	I	b	△		ズケ18-5I-I
SP182	不定形	59	51	41	25.15	Ⅶ	B	I+	a	△		ズケ18-5I-I
SP183	円形	33	—	27	25.33	Ⅷ	A		b	△		ズケ18-5I-I
SP185	円形	39	36	25	24.89	Ⅵ	B	+	b	○		ズケ18-5I-U
SP186	円形	31	30	12	25.03	Ⅶ	B	+	b	○	3号建物跡	ズケ18-5I-U
SP187	円形	32	30	13	25.03	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5I-U
SP188	円形	24	23	5	25.11	Ⅶ	D		b	×		ズケ18-5I-U
SP190	円形	35	34	15	25.00	Ⅶ	B		b	△	3号建物跡	ズケ18-5I-U
SP194	円形	51	45	50	25.03	Ⅶ	B	I+	b	△	3号建物跡	ズケ18-5I-I
SP195	不定形	31	30	20	25.31	Ⅷ	B	+	—	○	SP230cを切る	ズケ18-5I-U
SP196	円形	39	34	15	25.47	Ⅸ	C		b	△		ズケ18-5I-I
SP197	楕円形	34	31	10	25.08	Ⅶ	A		b	△		ズケ18-5I-I
SP198a	—	—	24	22	25.33	Ⅷ	D		b	×		ズケ18-5I-I
SP198b	—	50	—	24	25.32	Ⅷ	D		b	×		ズケ18-5I-I
SP199a	—	35	—	42	25.17	Ⅶ	A	+	b	○	3号建物跡	ズケ18-5I-I
SP199b	—	—	—	40	25.17	Ⅶ	B	+	b	○		ズケ18-5I-I
SP201	—	27	—	6	25.55	Ⅸ	B		a	△	SP202を切る	ズケ18-5I-I
SP202	—	—	34	19	25.43	Ⅸ	A	+	a	○	SP201に切られる	ズケ18-5I-I
SP204	円形	47	44	25	24.81	Ⅵ	A	+	b	○		ズケ18-5I-I
SP205-a	—	29	—	31	25.28	Ⅷ	B	+	a	○		ズケ18-5I-I
SP205-b	—	36	—	37	25.22	Ⅷ	B		a	△		ズケ18-5I-I
SP205-c	不定形	74	—	28	25.25	Ⅷ	D	I	a	×		ズケ18-5I-I
SP207	楕円形	31	—	7	25.54	Ⅸ	B		b	△	SP208を切る	ズケ18-5I-I
SP208	楕円形	—	41	56	25.05	Ⅶ	A	+	b	○	SP207に切られる	ズケ18-5I-I
SP209	楕円形	40	38	20	25.43	Ⅸ	A	+	b	○		ズケ18-5I-I
SP211	円形	47	47	29	25.35	Ⅷ	C		b	△	SP212に切られる	ズケ18-5I-I
SP212	—	—	48	20	25.38	Ⅷ	B		b	△	SP211、213を切る	ズケ18-5I-I
SP213	楕円形	43	—	37	25.26	Ⅷ	B		c	△	SP212に切られる	ズケ18-5I-I
SP214	円形	32	31	18	25.41	Ⅸ	B	+	b	○		ズケ18-5I-I
SP215	円形	35	35	25	25.38	Ⅷ	B		b	△		ズケ18-5I-I
SP216	円形	33	30	24	25.27	Ⅷ	B		b	○		ズケ18-5I-I
SP217	楕円形	37	27	(23)	(25.38)	Ⅷ	B		a	△	図面No4のSP212がSP217では？	ズケ18-5I-I
SP218	円形	37	36	15	25.50	Ⅸ	A		b	△		ズケ18-5I-I
SP219	楕円形	47	41	34	25.28	Ⅷ	B	+	b	○		ズケ18-5I-I
SP220	楕円形	36	29	28	25.35	Ⅷ	B	+	b	○		ズケ18-5I-I
SP221	楕円形	65	34	10	24.60	Ⅴ	B	I	b	△		ズケ18-5I-S
SP222	楕円形	35	31	15	24.61	Ⅴ	D		b	△		ズケ18-5I-S
SP223	楕円形	22	19	5	24.75	Ⅴ	B		b	△		ズケ18-5I-S
SP224	楕円形	63	42	28	25.07	Ⅶ	A	I	b	△	3号建物跡	ズケ18-5I-U
SP226-a	楕円形	—	41	36	25.00	Ⅶ	A	+	b	○	3号建物跡	ズケ18-5H-ヌ
SP226-b	楕円形	—	43	45	24.90	Ⅵ	A	+	b	○	2号建物跡	ズケ18-5H-ヌ
SP227a	—	48	—	22	25.28	Ⅷ	D	+	b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP227b	—	47	—	26	25.20	Ⅷ	B	+	b	○	図面No4にあり、SP227はab含むと思われる	ズケ18-5H-ヌ
SP228	円形	56	56	16	25.38	Ⅷ	B	I	b	△		ズケ18-5I-I
SP229	楕円形	34	30	10	25.00	Ⅶ	B	+	b	△	3号建物跡	ズケ18-5H-ネ
SP230-a	楕円形	38	—	10	25.44	Ⅸ	—		b	△		ズケ18-5I-I
SP230-b	—	24	—	30	25.24	Ⅷ	B		b	△		ズケ18-5I-I
SP230-c	—	—	—	28	25.25	Ⅷ	B		b	△	SP195に切られる	ズケ18-5I-I
SP454	円形	36	33	18	24.54	Ⅳ	D		—	△		ズケ18-5I-E

第IV-7表 遺構計測分類表 工区1北側(2~3号建物跡周辺) 4

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP470	楕円形	41	26	9	25.02	Ⅶ	B		—	△		ズケ18-5H-ネ
SP471	楕円形	70	60	37	24.70	Ⅴ	C	I+	b	△	完掘図面のみ	ズケ18-5H-ネ
SP472	楕円形	35	—	40	24.75	Ⅴ	A	+	b	○	SP229、473に僅かに切られる	ズケ18-5H-ネ
SP473	—	36	—	20	24.93	Ⅵ	B	+	b	○	SP472をわずかに切る	ズケ18-5H-ネ
SP474	楕円形	26	20	10	25.18	Ⅶ	A		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP475	楕円形	—	23	11	25.04	Ⅶ	A		a	△	SP054を切る	ズケ18-5H-ネ
SP476	楕円形	40	21	15	25.07	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP477	楕円形	42	36	20	25.05	Ⅶ	B		—	△	2号建物跡、3号建物跡	ズケ18-5H-ヌ
SP478	楕円形	41	35	9	25.15	Ⅶ	D		b	×		ズケ18-5H-ヌ
SP479	楕円形	33	17	12	25.12	Ⅶ	B	+	b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP480	楕円形	24	17	6	25.19	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP481a	不定形	57	—	20	25.07	Ⅶ	B	+	b	○		ズケ18-5I-ウ
SP481b	楕円形	36	—	22	25.03	Ⅶ	B	+	b	○		ズケ18-5I-ウ
SP483	円形	40	37	30	25.00	Ⅶ	B	+	b	○	2号建物跡、3号建物跡	ズケ18-5I-ウ
SP484	楕円形	41	36	34	25.00	Ⅶ	B	+	b	○		ズケ18-5H-ヌ
SP485	円形	43	40	7	25.08	Ⅶ	B		b	△		ズケ18-5I-ウ
SP486	—	—	—	5	25.30	Ⅷ	B	+	b	×		ズケ18-5I-ウ
SP487	—	31	—	44	24.67	Ⅴ	A	+	b	○		ズケ18-5I-ウ
SP488	楕円形	44	25	12	25.21	Ⅷ	B		b	△		ズケ18-5H-ヌ
SP489	円形	46	43	18	25.03	Ⅶ	A	+	b	○		ズケ18-5I-ウ
SP507	円形	34	30	15	24.68	Ⅴ	B		a	△		ズケ18-5I-エ
SP508	楕円形	25	20	12	24.84	Ⅵ	A	+	a	○		ズケ18-5I-エ
SP509	楕円形	20	16	16	24.67	Ⅴ	B	+	a	○		ズケ18-5I-エ
SP510	円形	25	22	7	24.68	Ⅴ	B		a	△		ズケ18-5I-エ
SP511	楕円形	23	19	5	24.38	Ⅲ	B		a	×		ズケ18-5I-エ
SP512	楕円形	22	18	17	24.57	Ⅳ	A		b	△		ズケ18-5I-エ
SP513	楕円形	27	23	12	24.66	Ⅴ	A		b	△		ズケ18-5I-エ
SP514	円形	36	35	27	24.20	Ⅲ	A	+	a	○		ズケ18-5I-エ
SP515	—	23	—	15	24.37	Ⅲ	B		a	△		ズケ18-5I-エ
SP516	円形	27	25	7	24.73	Ⅴ	B		a	△		ズケ18-5H-ノ
SP517	円形	29	28	24	24.41	Ⅳ	B	+	a	○		ズケ18-5H-ノ
SP518	不定形	23	20	12	24.50	Ⅳ	B		a	△		ズケ18-5H-ノ
SP519	円形	30	22	42	24.16	Ⅱ	B	+	b	○		ズケ18-5H-ノ
SP520	—	9	—	7	24.65	Ⅴ	A		a	△	SP521に切られる	ズケ18-5I-エ
SP521	—	18	—	11	24.60	Ⅴ	B		a	△	SP520を切る	ズケ18-5I-エ
SP522	円形	20	—	3	24.45	Ⅳ	D		a	×	浅い	ズケ18-5I-エ
SP523	楕円形	10	—	7	24.40	Ⅳ	B	s	a	×	SP522、524を切る	ズケ18-5I-エ
SP524	—	10	—	6	24.41	Ⅳ	B	s	a	×	SP525に切られる	ズケ18-5I-エ
SP525	楕円形	19	—	11	24.37	Ⅲ	B		a	×	SP524、526を切る	ズケ18-5I-エ
SP526	—	9	—	5	24.35	Ⅲ	B	s	a	×	SP525に切られる	ズケ18-5I-エ
SP527	楕円形	29	17	24	24.40	Ⅳ	B		a	△		ズケ18-5H-ノ
SP528	不定形	28	20	17	24.45	Ⅳ	B	+	a	○		ズケ18-5H-ノ
SP529	楕円形	21	15	11	24.57	Ⅳ	B		b	△		ズケ18-5H-ノ
SP530	楕円形	41	30	32	24.98	Ⅵ	B	+	b	○	図面No.6にあり	ズケ18-5I-ウ

底面レベル(20cm区切り)	
I	23.80~23.99m
II	24.00~24.19m
III	24.20~24.39m
IV	24.40~24.59m
V	24.60~24.79m
VI	24.80~24.99m
Ⅶ	25.00~25.19m
Ⅷ	25.20~25.39m
Ⅸ	25.40~25.59m
X	25.60~25.79m
XI	25.80~25.99m

第IV-8表 遺構計測分類表 工区1南側1

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP232	円形	26	25	15	25.40	IX	A		a		砂質	ズケ18-5J-タ
SP233	円形	40	38	20	25.45	IX	C	+	b	○		ズケ18-5J-サ
SP234	—	11	27	21	25.20	VIII	B		b		砂質	ズケ18-5J-タ
SP235	円形	46	43	19	25.30	VIII	B	+	b	○		ズケ18-5J-タ
SP236	円形	45	44	20.5	25.28	VIII	B		a			ズケ18-5J-タ
SP237-a	—	22	—	17	25.35	VIII	B		b			ズケ18-5J-サ
SP237-b	—	19	—	15	25.36	VIII	B	s	b			ズケ18-5J-サ
SP237-c	—	30	—	16	25.30	VIII	D		b			ズケ18-5J-サ
SP237-d	—	26	—	14	25.28	VIII	D		b			ズケ18-5J-サ
SP238	円形	33	33	17	25.33	VIII	B		b			ズケ18-5J-タ
SP239	楕円形	42	30	5	25.66	X	D		b	×	浅い	ズケ18-5J-タ
SP240	—	18	—	4	25.47	IX	D		b	×		ズケ18-5J-タ
SP241	円形	27	27	3	25.66	X	A		b	×		ズケ18-4J-ソ
SP242	—	26	—	11	25.48	IX	B		b		南壁に検出	ズケ18-5J-タ
SP243	楕円形	46	40	7	25.38	VIII	A		b	×	砂質	ズケ18-5J-サ
SP244-a	—	17	—	9	25.34	VIII	B		b	×		ズケ18-5J-タ
SP244-b	—	32	—	9	25.33	VIII	B		a	×		ズケ18-5J-タ
SP245	円形	25	25	13	25.26	VIII	A	+	b	○		ズケ18-5J-サ
SP246-a	—	17	—	6	25.25	VIII	B		b	×	SP246bを切る	ズケ18-5J-タ
SP246-b	—	17	—	5	25.26	VIII	B		b	×	SP246aに切られる、SP246cを切る	ズケ18-5J-タ
SP247-a	—	26	—	10	25.56	IX	B		b		SP247bに切られる、SP247 dを切る	ズケ18-5J-サ
SP247-b	—	8	—	9	25.55	IX	D	s	b	×		ズケ18-5J-サ
SP248	楕円形	39	37	6	25.46	IX	B		b	×	砂質	ズケ18-5J-サ
SP249	楕円形	39	23	3	25.43	IX	D		b	×		ズケ18-5J-サ
SP250	楕円形	60	58	26	25.24	VIII	C	I+	b			ズケ18-5J-サ
SP251	楕円形	27	20	18	25.45	IX	B		b			ズケ18-5J-サ
SP252-a	円形	43	—	17	25.16	VII	B		b		S P 252bを切る	ズケ18-5J-サ
SP252-b	—	34	—	19	25.18	VII	B	+	b		S P 252aに切られる	ズケ18-5J-サ
SP253	楕円形	25	22	15	25.27	VIII	B		b			ズケ18-5J-サ
SP254-a	楕円形	37	35	32	25.07	VII	B	+	b		SP254bを切る	ズケ18-5J-サ
SP254-b	—	33	—	10	25.21	VIII	B		b		SP254aに切られる	ズケ18-5J-サ
SP255	円形	50	50	25	25.25	VIII	B	I+	a			ズケ18-5J-サ
SP256	円形	34	33	15	25.34	VIII	C		a			ズケ18-5J-カ
SP257	楕円形	46	42	15	25.34	VIII	B		a			ズケ18-5J-サ
SP258	不定形	50	47	52	25.00	VII	B	I	a		砂質	ズケ18-5J-カ
SP259	楕円形	34	30	14	25.40	IX	B	+	a			ズケ18-5J-カ
SP260	円形	39	36	22	25.35	VIII	B					ズケ18-5J-カ
SP261	円形	30	27	6	25.60	X	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP262	円形	17	17	4	25.52	IX	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP263	—	52	—	15	25.44	IX	B	I	a			ズケ18-4J-ソ
SP264	楕円形	28	25	20	24.91	VI	B	+	b	○		ズケ18-5J-サ
SP265	不定形	31	—	27	24.72	V	C	+	b			ズケ18-5J-サ
SP266-a	円形	30	—	19	24.92	VI	B	+	b			ズケ18-5J-サ
SP266-b	不定形	26	—	8	25.07	VII	B	+	b	×		ズケ18-5J-サ
SP267	楕円形	46	45	44	25.87	XI	B	+	b		SP277を切る	ズケ18-5J-カ
SP268	—	—	—	40	24.88	VI	A	I	b		SP285を切る、SP286に切られる	ズケ18-5J-カ
SP269-a	—	26	—	8	25.19	VII	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP269-b	—	36	—	45	24.80	VI	A		b			ズケ18-5J-カ
SP270	楕円形	52	48	41	25.01	VII	B	I+	b	○		ズケ18-5J-カ
SP271	楕円形	47	37	50	24.84	VI	B	+	b	○		ズケ18-5J-カ
SP272	—	—	—	10	25.40	IX	B	+	b	△		ズケ18-5J-タ
SP273	—	—	—	12	25.38	VIII	B	+	—	△		ズケ18-5J-タ
SP274	円形	28	24	33	25.47	IX	C	+	b			ズケ18-5J-カ
SP275	楕円形	58	48	48	24.90	VI	B	I+	b	○	SP276に切られる	ズケ18-5J-サ
SP276	楕円形	—	16	6	25.35	VIII	B		b	×	SP275を切る	ズケ18-5J-サ
SP277	楕円形	27	25	29	25.05	VII	B		b		SP267に切られる	ズケ18-5J-カ
SP278	—	7	—	27	25.05	VII	—	s	b	×		ズケ18-5J-カ
SP279	—	24	—	31	25.01	VII	B		b			ズケ18-5J-カ
SP280	楕円形	24	22	10	25.33	VIII	B		b			ズケ18-5J-カ
SP281	円形	39	36	12	25.14	VII	D	+	b			ズケ18-5J-カ
SP282	—	28	—	29	25.59	IX	A		b			ズケ18-5J-キ
SP283	—	40	—	23	25.22	VIII	B		b		SP329を切る	ズケ18-5J-カ
SP284	—	20	—	38	24.55	IV	A		b			ズケ18-5J-キ
SP285	楕円形	77	40	41	24.84	VI	C		b		SP268に切られる	ズケ18-5J-カ
SP286	—	24	—	16	25.12	VII	B		b		SP268、287を切る	ズケ18-5J-カ
SP287	楕円形	27	—	43	24.84	VI	B		b		SP286、288に切られる	ズケ18-5J-カ
SP288	楕円形	26	—	21	25.08	VII	B		b		SP287を切る	ズケ18-5J-カ
SP289	楕円形	53	—	53	24.59	IV	A		b	△		ズケ18-5J-カ
SP290-a	楕円形	37	—	24	25.05	VII	B		b		SP290bを切る	ズケ18-5J-カ
SP290-b	—	13	—	23	25.02	VII	B	s	b		SP290aに切られる	ズケ18-5J-カ
SP291	—	34	—	35	24.65	V	A		b		SP347に切られる	ズケ18-5J-キ

第IV-9表 遺構計測分類表 工区1南側2

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP292	—	43	—	20	24.70	V	B		b			ズケ18-5J-カ
SP293	—	47	—	32	24.92	VI	C		a			ズケ18-5J-カ
SP294	—	36	—	40	24.57	IV	C		b			ズケ18-5J-キ
SP295	楕円形	52	48	65	24.50	IV	A	I	a			ズケ18-5J-カ
SP296-a	楕円形	18	—	5	25.04	VII	A	S	b	×		ズケ18-5J-カ
SP296-b	楕円形	41	—	7	25.02	VII	A		b	×		ズケ18-5J-カ
SP297	円形	43	43	20	24.58	IV	B	+	b	○		ズケ18-5J-キ
SP298	円形	25	25	7	25.46	IX	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP299	円形	27	25	6	25.42	IX	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP300	楕円形	32	—	10	25.38	VIII	A		b			ズケ18-5J-カ
SP301-a	—	21	20	6	25.43	IX	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP301-b	—	41	—	22	25.22	VIII	A		b			ズケ18-5J-カ
SP302	円形	30	28	15	24.69	V	B		a			ズケ18-5J-キ
SP303	楕円形	40	—	10	24.73	V	B		b	△	SP391に切られる	ズケ18-5J-キ
SP304	楕円形	35	—	10	24.73	V	B		a	△	SP305、391を切る	ズケ18-5J-キ
SP305	—	23	—	31	24.49	IV	C		b		SP304に切られる	ズケ18-5J-キ
SP306	—	20	—	12	25.14	VII	B		a		SP308を切る	ズケ18-5J-カ
SP307	楕円形	20	—	15	25.10	VII	B		b			ズケ18-5J-カ
SP308	楕円形	22	—	23	25.05	VII	B		b		SP306に切られる、SP310を切る	ズケ18-5J-カ
SP309	楕円形	31	—	11	25.15	VII	B		b		SP307をわずかに切る	ズケ18-5J-カ
SP310	楕円形	30	23	60	25.68	X	B		b			ズケ18-5J-カ
SP311-a	楕円形	19	—	29	24.60	V	B		b			ズケ18-5J-キ
SP311-b	円形	27	—	40	24.50	IV	A	+	b			ズケ18-5J-キ
SP312	楕円形	56	50	20	24.94	VI	B	I	a			ズケ18-5J-カ
SP313	—	27	—	10	25.04	VII	B		a		SP312、314を切る	ズケ18-5J-カ
SP314	—	37	—	27	24.87	VI	B		b		SP315を切る、SP313に切られる	ズケ18-5J-カ
SP315	—	25	—	10	24.91	VI	B		b		SP314に切られる	ズケ18-5J-カ
SP316	楕円形	37	34	47	24.90	VI	B		a		SP332に切られる	ズケ18-5J-カ
SP317	楕円形	30	19	10	24.72	V	A		b		SP318を切る	ズケ18-5J-キ
SP318	楕円形	27	—	11	24.70	V	B		b		SP317に切られる	ズケ18-5J-キ
SP319	楕円形	22	—	22	25.06	VII	B		b		SP320を切る	ズケ18-5J-カ
SP320	楕円形	43	40	60	24.80	VI	B		b		SP319に切られる	ズケ18-5J-カ
SP321	楕円形	36	30	5	25.23	VIII	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP322	—	26	—	6	25.22	VIII	D		a	×		ズケ18-5J-カ
SP323	—	25	—	17	25.09	VII	C		b			ズケ18-5J-カ
SP324	—	32	—	20	25.05	VII	A		b			ズケ18-5J-カ
SP325	楕円形	40	—	23	24.84	VI	D	+	b	○		ズケ18-5J-カ
SP326	楕円形	—	35	13	24.90	VI	B	+	b	○		ズケ18-5J-キ
SP327	—	24	—	6	25.18	VII	D		b	×		ズケ18-5J-カ
SP328	—	31	—	29	25.00	VII	B		a			ズケ18-5J-カ
SP329	楕円形	34	—	35	24.91	VI	A		a		SP283に切られる	ズケ18-5J-カ
SP330	楕円形	51	35	51	24.77	V	B	I+	b		SP331を切る	ズケ18-5J-カ
SP331	楕円形	48	38	36	24.95	VI	B		b		SP330に切られる	ズケ18-5J-カ
SP332	楕円形	26	—	30	24.82	VI	B		b			ズケ18-5J-カ
SP333	—	34	—	65	24.57	IV	B		b			ズケ18-5J-カ
SP334	楕円形	36	29	3	24.85	VI	D		b	×	非常に浅い堆積であるため、判別不可	ズケ18-5J-キ
SP335	—	35	—	10	25.14	VII	B		a			ズケ18-5J-カ
SP336	—	42	—	35	24.82	VI	B		b			ズケ18-5J-カ
SP337	—	45	—	64	24.52	IV	B		a			ズケ18-5J-カ
SP338	—	—	—	11	25.00	VII	B		a	×		ズケ18-5J-カ
SP339	楕円形	26	22	8	25.11	VII	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP340	円形	50	46	26	24.72	V	D	I	b			ズケ18-5J-キ
SP341	楕円形	26	25	3	25.13	VII	D		b	×		ズケ18-5J-カ
SP342	楕円形	61	41	53	24.63	V	A	I	b			ズケ18-5J-カ
SP343	—	—	—	11	24.99	VI	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP344	楕円形	31	—	19	24.90	VI	A		b			ズケ18-5J-カ
SP345	円形	25	23	6	24.83	VI	B		b	×		ズケ18-5J-キ
SP346	楕円形	29	—	18	24.68	V	B		b			ズケ18-5J-キ
SP347	楕円形	37	—	36	24.62	V	B		b		SP291を切る	ズケ18-5J-キ
SP348	楕円形	23	—	5	24.94	VI	—		b	×		ズケ18-5J-キ
SP349	楕円形	46	—	21	24.76	V	B		a			ズケ18-5J-キ
SP350	楕円形	42	—	18	24.85	VI	C		b			ズケ18-5J-カ
SP351	—	37	—	46	24.54	IV	B		a			ズケ18-5J-キ
SP352	楕円形	100	—	8	24.90	VI	—	I	a	×	広く浅い堆積、柱穴の可能性は低い	ズケ18-5J-キ
SP353	—	27	—	25	24.75	V	B		b			ズケ18-5J-カ
SP354	楕円形	31	28	7	24.85	VI	A		b	×		ズケ18-5J-カ
SP355-a	—	21	—	19	24.73	V	B		b			ズケ18-5J-キ
SP355-b	—	24	—	40	24.53	IV	B		b			ズケ18-5J-キ
SP356	楕円形	30	—	32	24.57	IV	B		b			ズケ18-5J-キ
SP357	楕円形	37	30	30	24.98	VI	B		b			ズケ18-5J-カ
SP358	楕円形	25	18	8	25.16	VII	D		b	×		ズケ18-5J-カ

第IV-10表 遺構計測分類表 工区1南側3

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP359	楕円形	44	40	67	24.50	IV	B	+	b	○		ズケ18-5J-カ
SP360	円形	46	46	22	25.25	VIII	B	+	b	○		ズケ18-5J-カ
SP361	円形	24	23	8	25.31	VIII	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP362	楕円形	36	30	10	25.21	VIII	B		b			ズケ18-5J-カ
SP363	—	41	—	24	24.76	V	C	+	a			ズケ18-5J-カ
SP364	楕円形	27	—	15	24.90	VI	A	+	b			ズケ18-5J-カ
SP365	楕円形	66	54	9	25.40	IX	D	I	b	×	砂質	ズケ18-5J-カ
SP366	楕円形	25	—	10	25.36	VIII	D		b			ズケ18-5J-カ
SP367	円形	33	30	8	25.38	VIII	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP368	—	30	—	8	25.34	VIII	B		b	×	全体的に砂質だが粘性が強い	ズケ18-5J-ア
SP369	楕円形	47	34	7	25.15	VII	B		a	×		ズケ18-5J-カ
SP370	楕円形	32	27	11	25.08	VII	A		b			ズケ18-5J-カ
SP371	楕円形	20	17	6	24.83	VI	B		b	×		ズケ18-5J-キ
SP372	—	19	—	5	24.88	VI	B		a	×		ズケ18-5J-キ
SP373	円形	32	30	9	25.19	VII	D		b	×		ズケ18-5J-ア
SP374	—	34	—	17	25.02	VII	B		b			ズケ18-5J-カ
SP375	—	16	—	14	25.03	VII	B	s	b	×		ズケ18-5J-カ
SP376	—	45	35	31	24.84	VI	B		b			ズケ18-5J-カ
SP377	楕円形	44	—	25	24.90	VI	B		b			ズケ18-5J-カ
SP378	—	25	—	14	25.02	VII	D		a			ズケ18-5J-カ
SP379	円形	32	29	11	25.30	VIII	B		b			ズケ18-5J-カ
SP380	円形	49	48	64	25.40	IX	B		b			ズケ18-5J-カ
SP381	円形	26	25	15	25.06	VII	A		b			ズケ18-5J-ア
SP382	楕円形	43	37	68	24.52	IV	C		a			ズケ18-5J-カ
SP383	円形	42	39	25	25.10	VII	A		a			ズケ18-5J-ア
SP384	楕円形	29	23	11	25.29	VII	B	+	a	○		ズケ18-5J-カ
SP385	楕円形	—	53	11	24.87	VI	C	+	a	○		ズケ18-5J-カ
SP386	—	—	38	14	25.30	VIII	B	+	a	○		ズケ18-5J-カ
SP387	—	34	—	34	25.02	VII	B	+	a	○		ズケ18-5J-カ
SP388a	楕円形	35	30	24	24.86	VI	D	+	a	○		ズケ18-5J-カ
SP388b	—	21	—	—	—	—	—	—	a			ズケ18-5J-カ
SP389-a	楕円形	44	40	46	24.71	V	B	+	b	○		ズケ18-5J-カ
SP389-b	楕円形	—	—	6	25.11	VII	B		a	×		ズケ18-5J-カ
SP390	楕円形	31	28	8	24.84	VI	D		b	×		ズケ18-5J-キ
SP391	楕円形	40	—	33	24.51	IV	C		b		SP303を切る、SP304に切られる	ズケ18-5J-キ
SP392	—	33	—	29	24.78	V	B		b			ズケ18-5J-カ
SP393	楕円形	42	40	14	25.48	IX	B		b		SD5に切られる	ズケ18-5J-カ
SP394	—	20	—	55	24.50	IV	A		b			ズケ18-5J-キ
SP395	—	16	—	13	24.90	VI	D	s	b	×		ズケ18-5J-キ
SP396	楕円形	36	30	9	25.02	VII	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP397	—	24	—	25	24.83	VI	B		a			ズケ18-5J-カ
SP398	円形	33	37	29	24.82	VI	C		a			ズケ18-5J-ア
SP399	円形	42	—	23	25.08	VII	B		a			ズケ18-5J-カ
SP400	円形	16	—	4	25.25	VIII	D	s	b	×		ズケ18-5J-カ
SP401	楕円形	14	—	4	25.26	VIII	D	s	b	×		ズケ18-5J-カ
SP402	—	21	—	3	25.28	VIII	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP403	—	21	14	2	25.28	VIII	B		b	×		ズケ18-5J-カ
SP404	円形	24	20	8	24.80	VI	B		b	×		ズケ18-5J-キ
SP405	楕円形	25	22	5	24.80	VI	B		b	×		ズケ18-5J-キ
SP406	楕円形	40	35	29	24.67	V	B		b			ズケ18-5J-ア
SP407	楕円形	32	24	15	24.80	VI	B		b			ズケ18-5J-ア
SP408	—	45	28	40	24.62	V	B		b			ズケ18-5J-ア
SP409	楕円形	38	42	35	24.65	V	B		b			ズケ18-5J-カ
SP410	—	—	33	38	24.22	III	C		a			ズケ18-5J-キ
SP411	—	28	—	20	24.34	III	B		b			ズケ18-5J-キ
SP412	楕円形	34	22	15	24.38	III	B		b			ズケ18-5J-キ
SP413	円形	42	38	7	24.65	V	B		b	×		ズケ18-5J-キ
SP414	—	33	34	17	24.47	IV	C		b			ズケ18-5J-キ
SP415	円形	32	30	31	24.32	III	B		b			ズケ18-5J-キ
SP416	楕円形	41	33	33	24.30	III	B		b			ズケ18-5J-キ
SP417	楕円形	46	40	21	24.18	II	B		a			ズケ18-5J-キ
SP418	円形	37	36	25	24.06	II	B		a			ズケ18-5J-キ
SP419	楕円形	42	37	43	24.65	V	B		a	○		ズケ18-5J-ア
SP420	円形	34	33	59	24.60	V	C	+	b	○		ズケ18-5J-カ
SP421	楕円形	27	18	7	25.10	VII	B		a	×	浅い。SP420に隣接するが深さが異なる	ズケ18-5J-カ
SP422	—	33	25	2	24.57	IV	D		a	×	浅い	ズケ18-5J-ナ
SP423	—	23	15	2	24.57	IV	D		b	×	浅い	ズケ18-5J-ナ
SP424	楕円形	37	15	7	24.32	III	D		a	×		ズケ18-5J-キ
SP425	楕円形	48	40	34	24.58	IV	B	+	a	○	SK5を切る	ズケ18-5J-キ
SP426	円形	24	22	40	24.42	IV	B	+	a	○	SP427に切られる	ズケ18-5J-キ
SP427	円形	33	30	54	24.25	III	B	+	a	○	SP426、428に切られる	ズケ18-5J-キ

第IV-11表 遺構計測分類表 工区1南側4

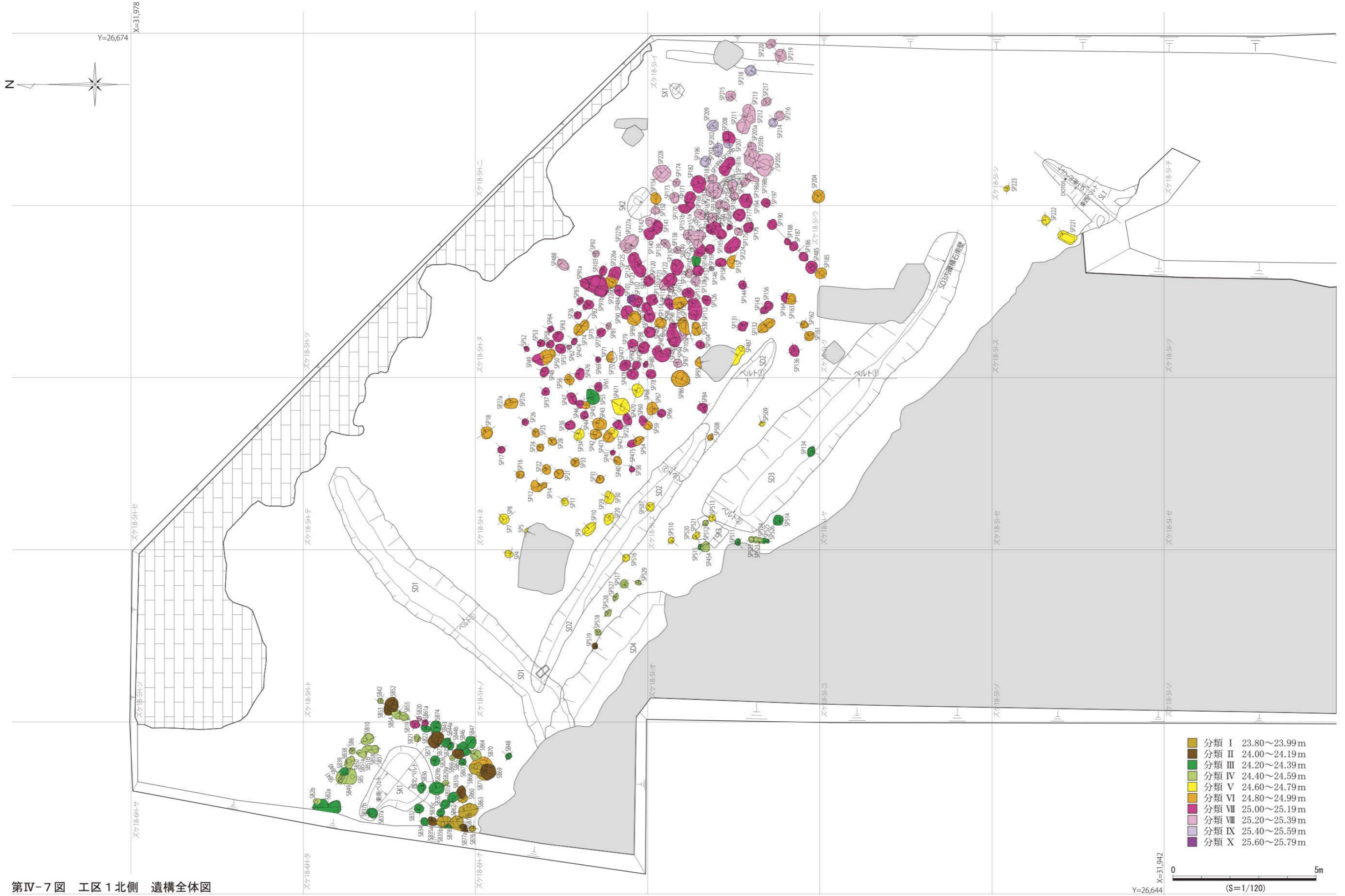
遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP428	—	31	—	11	24.65	V	B		a	△	SP427に切られる、SP429を切る	ズケ18-5J-キ
SP429	楕円形	41	30	22	24.49	IV	B		b	△	SP428に切られる	ズケ18-5J-キ
SP430	—	41	—	38	24.37	III	B		a	○		ズケ18-5J-キ
SP431	円形	40	40	31	24.10	II	B	+	a	○		ズケ18-5J-キ
SP432	—	—	—	50	24.25	III	B	+	a	○		ズケ18-5J-キ
SP433	楕円形	40	35	38	24.41	IV	B	+	b	○		ズケ18-5J-キ
SP434	—	—	31	33	24.28	III	B	+	b	○	SP435を切る	ズケ18-5J-キ
SP435	楕円形	—	24	38	24.20	III	B	+	a	○	SP434に切られる	ズケ18-5J-キ
SP436	楕円形	43	42	45	24.43	IV	B	+	a	○		ズケ18-5J-キ
SP437	楕円形	46	38	25	24.53	IV	A		a			ズケ18-5J-キ
SP438	円形	30	30	11	25.29	VIII	B		b			ズケ18-5J-ア
SP439-a	—	30	—	27	25.07	VII	A		a		a・bは別遺構	ズケ18-4I-ノ
SP439-b	—	19	—	9	25.25	VIII	A		a	×		ズケ18-4I-ノ
SP440	楕円形	40	33	10	25.50	IX	B		a			ズケ18-4I-ノ
SP441	楕円形	33	30	8	24.49	IV	B		a	×		ズケ18-5I-ナ
SP442	—	32	—	14	24.68	V	B		a			ズケ18-5J-キ
SP443	楕円形	52	39	30	24.54	IV	B	I	b			ズケ18-5J-キ
SP445	円形	29	29	20	23.80	I	B		b			ズケ18-5I-ニ
SP446	楕円形	32	29	37	23.57	I	A		a	○		ズケ18-5I-ニ
SP447	円形	27	25	23	23.70	I	B	+	a	○		ズケ18-5I-ニ
SP448	楕円形	41	37	24	23.58	I	C	+	b	△		ズケ18-5I-ニ
SP449	円形	33	30	27	23.43	I	B		a			ズケ18-5I-ニ
SP451	楕円形	27	30	13	24.90	VI	B		a			ズケ18-5J-カ
SP452	円形	19	18	11	23.92	I	A	s	a			ズケ18-5J-キ
SP453	楕円形	36	28	22	24.68	V	B		b			ズケ18-5J-カ
SP455	楕円形	33	30	5	26.04	XI	D		b	×		ズケ18-4J-ト
SP456	円形	15	13	3	25.94	XI	D	s	b	×		ズケ18-4J-ト
SP457	—	—	43	12	26.02	XI	B		b			ズケ18-4J-ト
SP458	不定形	32	15	7	25.97	XI	D		b	×		ズケ18-4J-ト
SP459	楕円形	33	28	5	26.23	XIII	B		b	×		ズケ18-4J-ト
SP460	円形	37	36	25	25.63	X	B		a			ズケ18-4J-ト
SP461	不定形	51	47	7	26.00	XI	B	I	b	×		ズケ18-4J-ソ
SP462	楕円形	39	—	7	26.08	XI	D		b	×	SP463に切られる	ズケ18-4J-ト
SP463	—	32	—	20	25.90	XI			a	○	SP462を切る、SP464に切られる	ズケ18-4J-ト
SP464	—	17	—	8	26.03	XI	B	s	a	×	SP463を切る、SP465に切られる	ズケ18-4J-ト
SP465	—	28	—	9	26.03	XI	A		b	×	SP464を切る、SP466に切られる	ズケ18-4J-ト
SP466	—	10	—	8	26.05	XI	—	s	a	×	SP465を切る	ズケ18-4J-ト
SP467	円形	52	49	34	25.70	X	A	I	a			ズケ18-4J-ト
SP468	楕円形	53	—	35	25.68	X	A	I	a			ズケ18-4J-ト
SP469	楕円形	41	—	10	25.94	XI	B		a			ズケ18-4J-ト
SP490	円形	41	—	20	26.00	XI	B		a	△	SP491を切る	ズケ18-4J-ト
SP491	円形	26	—	12	26.03	XI	B		a	△	SP490に切られる	ズケ18-4J-ト
SP492	不定形	45	33	10	26.08	XI	B		b	△		ズケ18-4J-ト
SP493	楕円形	33	—	7.5	26.17	XI	A		a	△		ズケ18-4J-ト
SP494	—	34	—	18	25.93	XI	B		a	△		ズケ18-4J-ソ
SP495	—	30	—	8	26.04	XI	B		b	×	浅い	ズケ18-4J-ソ
SP496	円形	36	—	10	25.84	XI	B		b		SP497を切る	ズケ18-4J-ソ
SP497	—	28	—	6	25.91	XI	B		b	×	浅い	ズケ18-4J-ソ
SP498	円形	40	38	14	25.99	XI	B		b			ズケ18-4J-ト
SP499	—	30	—	16	25.97	XI	D		a			ズケ18-4J-ソ
SP500	—	36	—	5	26.20	XIII	D		a	×		ズケ18-4J-ト
SP501	楕円形	45	36	11	26.07	XI	B		a			ズケ18-4J-ト
SP502	楕円形	29	—	16	25.77	X	D		b		SP503に切られる	ズケ18-4J-ソ
SP503	楕円形	24	—	20	25.73	X	B		b		SP502を切る	ズケ18-4J-ソ
SP504	—	25	—	11	25.75	X	B		a			ズケ18-4J-ソ
SP505	—	37	—	15	25.79	X	D		a			ズケ18-4J-ソ
SP506	—	17	—	22	25.70	X	D		b			ズケ18-4J-ソ

底面レベル(20cm区切り)	
I	23.80~23.99m
II	24.00~24.19m
III	24.20~24.39m
IV	24.40~24.59m
V	24.60~24.79m
VI	24.80~24.99m
VII	25.00~25.19m
VIII	25.20~25.39m
IX	25.40~25.59m
X	25.60~25.79m
X I	25.80~25.99m
X II	26.00~26.19m
X III	26.20~26.39m

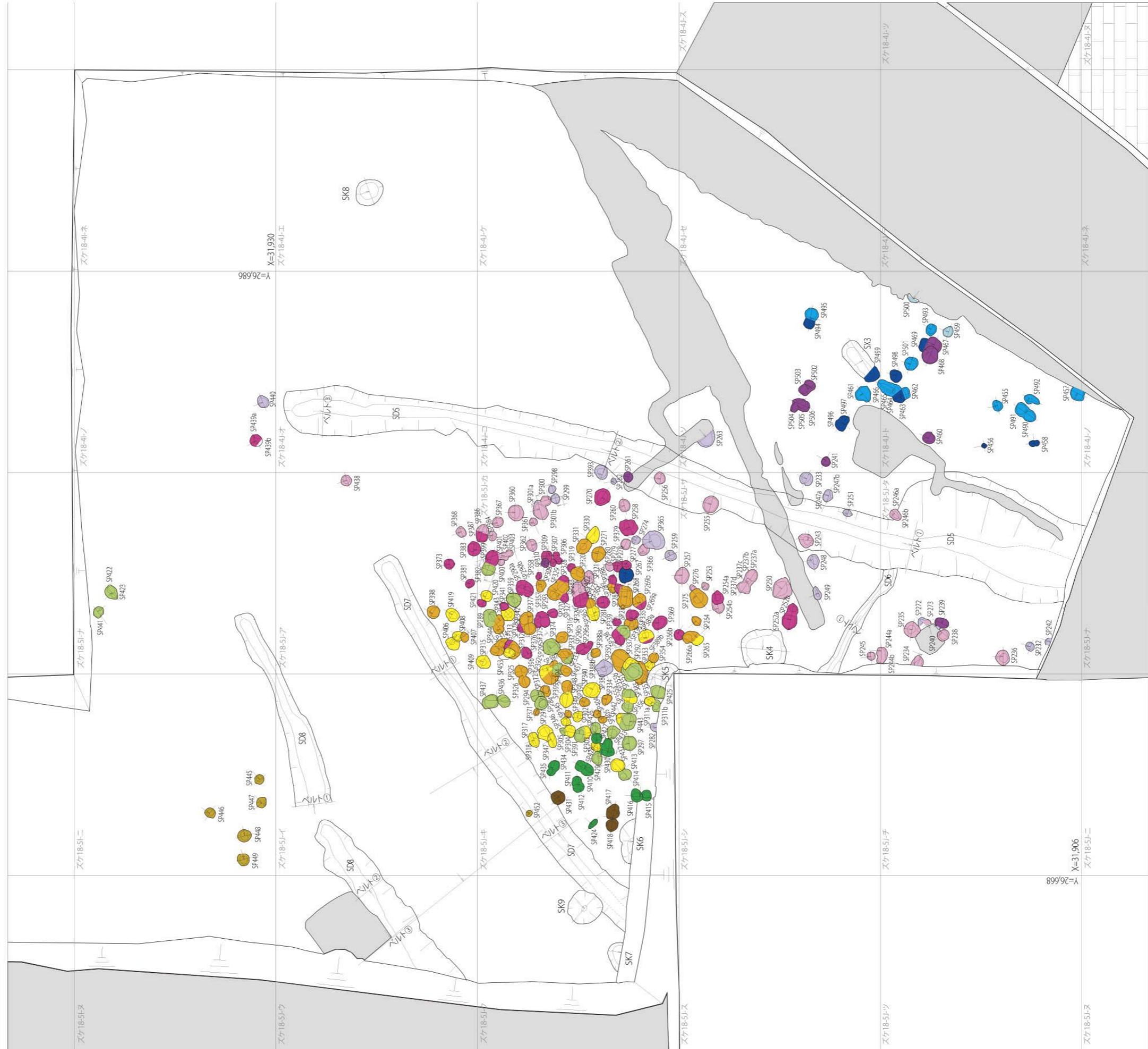
第IV-12表 遺構計測分類表 工区2

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP1001	楕円形	28	23	18	28.13	II	B					ズケ25-4A-イ
SP1002	楕円形	41	36	20	27.98	I	B	+				ズケ25-4A-イ
SP1003	—	—	—	27	27.99	I	B				SP1004bに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1004a	円形	—	14	30	27.95	I	B				SP1004bに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1004b	—	—	—	29	28.00	II	B				SP1004a、1003を切る	ズケ25-4A-イ
SP1006	楕円形	38	27	6	28.28	III	B					ズケ25-4A-イ
SP1007	円形	29	28	7	28.36	III	D					ズケ25-4A-イ
SP1008	—	—	34	18	28.28	III	B				SP1009に切られる	ズケ25-4A-イ
SP1009	—	—	—	28	28.20	III	D				SP1008を切る	ズケ25-4A-イ
SP1010	—	—	—	40	28.13	II	B	+				ズケ25-4A-イ
SP1011	円形	34	33	12	28.06	II	B					ズケ25-4A-イ
SP1012	円形	53	47	13	28.33	III	B	I+				ズケ25-4A-イ
SP1013	—	38	—	5	28.21	III	B			×		ズケ25-4A-イ
SP1014a	楕円形	—	30	15	27.90	I	D				SP1014bを切る	ズケ25-4A-イ
SP1014b	—	—	28	7	27.94	I	D				SP1014aに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1015	楕円形	26	21	6	28.03	II	B					ズケ25-4A-イ
SP1016	円形	40	37	20	28.00	II	B				SP1017に切られる	ズケ25-4A-イ
SP1017	楕円形	31	—	18	28.04	II	B				SP1016を切る	ズケ25-4A-イ
SP1018	円形	40	38	15	28.11	II	D	+				ズケ25-4A-イ
SP1019a	—	33	—	7	28.28	III	B				SP1019bを切る	ズケ25-4A-イ
SP1019b	—	40	—	10	28.28	III	B				SP1019a、1020に切られる	ズケ25-4A-イ
SP1020	楕円形	38	35	29	28.13	II	B	+			SP1019aを切る	ズケ25-4A-イ
SP1022a	楕円形	—	33	4	27.98	I	D			×	SP1022bに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1022b	円形	38	38	15	27.91	I	B				SP1022aを切る	ズケ25-4A-イ
SP1023	—	35	—	7	28.01	II	B					ズケ25-4A-イ
SP1024	楕円形	32	26	8	28.02	II	D					ズケ25-4A-イ
SP1025	楕円形	33	31	11	28.46	IV	B				SP1026を切る	ズケ25-4A-イ
SP1026	—	—	20	7	28.40	IV	B				SP1025に切られる	ズケ25-4A-イ
SP1027	不定形	40	35	15	28.04	II	B				SP1028bを切る	ズケ25-4A-イ
SP1028a	—	—	—	15	28.07	II	B				SP1028bを切る、SP1029に切られる	ズケ25-4A-イ
SP1028b	—	—	—	15	28.05	II	—				SP1027、1028aに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1029	円形	44	44	17	28.08	II	B				SP1028aを切る	ズケ25-4A-イ
SP1030a	—	—	37	32	28.02	II	B	+			SP1030bに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1030b	円形	39	38	32	27.98	I	B	+			SP1030aを切る	ズケ25-4A-イ
SP1031a	楕円形	42	—	12	28.18	II	B				SP1031bを切る	ズケ25-4A-イ
SP1031b	楕円形	38	—	7	28.23	III	B				SP1031aに切られる、SP1032を切る	ズケ25-4A-イ
SP1032	楕円形	32	—	6	28.24	III	B				SP1031bに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1033	円形	30	30	17	28.16	II	A					ズケ25-4A-イ
SP1034a	不定形	47	41	25	28.20	III	B				SP1034bを切る	ズケ25-4A-イ
SP1034b	—	—	—	24	28.19	II	B				SP1034aに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1036a	楕円形	25	22	9	28.23	III	B				SP1036bを切る	ズケ25-4A-イ
SP1036b	楕円形	—	32	22	28.02	II	D				SP1036aに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1037	円形	34	31	20	28.17	II	B					ズケ25-4A-イ
SP1038	楕円形	33	30	10	28.48	IV	B				SK1001bを切る	ズケ25-4A-イ
SP1039	楕円形	36	—	17	28.27	III	B				SX1001aに切られる	ズケ25-4A-イ
SP1040	楕円形	50	—	14	28.17	II	D	I			SP1041、SX1003aを切る。SP1048に切られる	ズケ25-4A-キ
SP1041	—	—	—	5	28.27	III	D				SX1003aを切る。SP1040に切られる	ズケ25-4A-キ
SP1043a	楕円形	36	34	26	28.00	II	B	+			SP1043bを切る	ズケ25-4A-キ
SP1043b	楕円形	34	—	20	28.06	II	B	+			SP1043aに切られる	ズケ25-4A-キ
SP1044	不定形	—	38	4	28.06	II	D			×	SP1045に切られる	ズケ25-4A-キ
SP1045	—	64	56	8	28.12	II	D	I			SP1044、SD1001を切る	ズケ25-4A-キ
SP1047	—	—	27	5	28.25	III	D			×	SD1001を切る	ズケ25-4A-キ
SP1048	—	—	—	7	28.31	III	—	+			SP1040を切る。SX1001-Bに切られる	ズケ25-4A-キ
SP1049	—	—	—	25	27.92	I	B				SP1050、1051に切られる	ズケ25-4A-キ
SP1050	—	45	—	17	28.02	II	A				SP1049を切る。SP1051に切られる	ズケ25-4A-キ
SP1051	—	35	—	32	27.86	I	C				SP1049、SP1050を切る	ズケ25-4A-キ
SP1052	円形	—	24	7	28.14	II	B					ズケ25-4A-キ
SP1053	楕円形	44	42	32	27.87	I	A				SP1054を切る	ズケ25-4A-ク
SP1054	—	—	—	7	27.95	I	B				SP1053に切られる	ズケ25-4A-ク
SP1056	楕円形	55	47	32	28.04	II	B	I+			SX1004に切られる	ズケ25-4A-キ
SP1057	—	—	40	26	28.12	II	B				SX1004に切られる	ズケ25-4A-キ

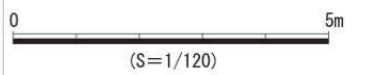
底面レベル(20cm区切り)	
I	27.80~27.99m
II	28.00~28.19m
III	28.20~28.39m
IV	28.40~28.59m



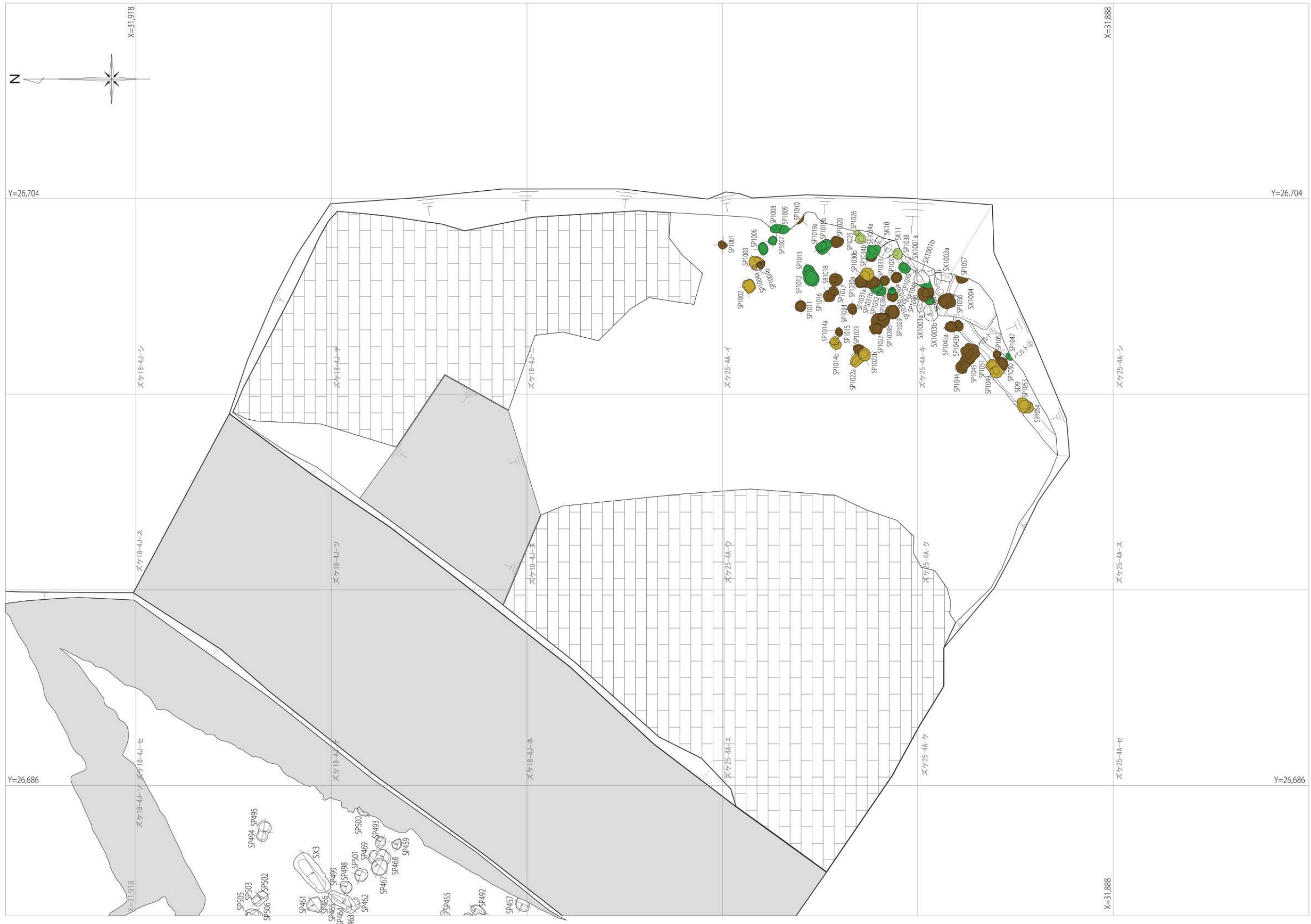
第IV-7図 工区1北側 遺構全体図



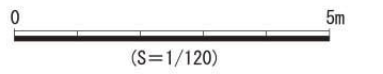
- 分類 I 23.80~23.99 m
- 分類 II 24.00~24.19 m
- 分類 III 24.20~24.39 m
- 分類 IV 24.40~24.59 m
- 分類 V 24.60~24.79 m
- 分類 VI 24.80~24.99 m
- 分類 VII 25.00~25.19 m
- 分類 VIII 25.20~25.39 m
- 分類 IX 25.40~25.59 m
- 分類 X 25.60~25.79 m
- 分類 XI 25.80~25.99 m
- 分類 XII 26.00~26.19 m
- 分類 XIII 26.20~26.39 m



第IV-8図 工区1南 遺構全体図



第IV-9図 工区2 遺構全体図



2. 掘立柱建物跡

上記の分類を参考に掘立柱建物のプランを検討した結果、工区1の北側で3棟の建物プランが想定された。しかし、工区1南側や工区2では明確にプランを組むことができなかった。以下、各工区について記述する。

1) 工区1（北側）の想定プラン

1号建物跡：調査開始当初からプランを組むことができたため、一帯のピットにはSB+№を振って調査を行った。建物の軸は南東―北西方向となるが、北西側は調査区外となっているため、全体の規模は不明である。北東側に同レベルで岩盤が確認されており、米軍造成によって上部の大部分が削平されたものと思われる。プランの中央に浅い土坑（SK 1）が確認されているが関係性は不明。

2号建物跡：1号建物跡の東側に位置する。ピットが200基程度集中して検出されており、複雑に切り合っているため、現地ではプランの検討は困難であった。今回の分類を基に概ね5.5 m × 4.0 m、南東―北西方向に軸を持つプランが想定された。

3号建物跡：2号建物跡とほぼ同一に設定。底面レベルの分類を参考に2号掘立柱とは別の建物プランを設定した。ピットの切り合い関係から3号建物が古手と考えられる。2号と3号の建物プランについては、南西側に溝状遺構（SD 3）が所在しており、その位置関係や出土遺物、覆土などから同時期に形成されたものと思われる。

2) 工区1（南側）のプラン検討について

工区1（南側）についても北側と同様に多数のピットが集中して検出された。検出されたピットについて様々な分類を行い、プランの推定を試みたが、結果的に明確な建物プランを設定することはできなかった。しかし、類似の底面レベルを有するピットについては概ね3つの範囲に集中していることが判明した（第IV-15図 工区1（南側）建物プラン検討図）。また、ピットが集中する範囲の北西側には北東―南西方向に溝状遺構（SD 7）が検出されており、ピット群と類似の覆土や出土遺物などから同時期に形成・廃棄されたと推測される。なお、溝状遺構（SD 7）はピット群よりもやや低い位置にあり、石列が検出されるなど土留めとしての機能が想定される。ピットが溝の北西側にほとんど広がらないことなども何らかの境界的な意味合いも考えられる。

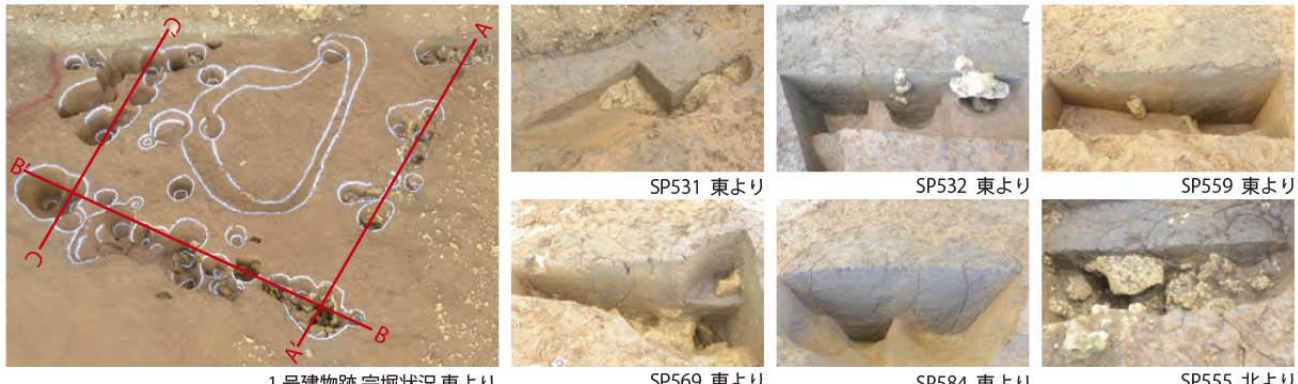
3) 工区2のピットについて

工区2は調査区の南東側に位置し、ピットは61基が南東端部にまとまって検出された。底面レベルは概ね28 m前後だが、深度は数センチから30 cmを超えるものも確認された。上面に厚く造成土が堆積しており、北東側は岩盤まで削平され、本来の包含層は消失している。なお、ピットの番号は調査の都合上1000番台を使用している。

1号建物跡

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕	
SP531	不定形	76	—	17	24.30	Ⅲ	B		
SP549	楕円形	(50)	40	45	23.91	I	B	+	
SP555	楕円形	(33)	—	19	24.33	Ⅲ	B		
SP559	円形	45	42	57	24.07	Ⅱ	C	+	
SP569	円形	50	49	55	24.13	Ⅱ	C	I	
SP584	不定形	48	33	48	23.99	I	B	+	

遺構名	側柱		中柱		大きさ	軸方向	備考
	遺構名	長さ	遺構名	長さ			
Aライン	SP531 (555) 569	4.2			— × 3.5	NW - SE	
Bライン	SP569 559 584	3.7					
Cライン	SP584 549	—					



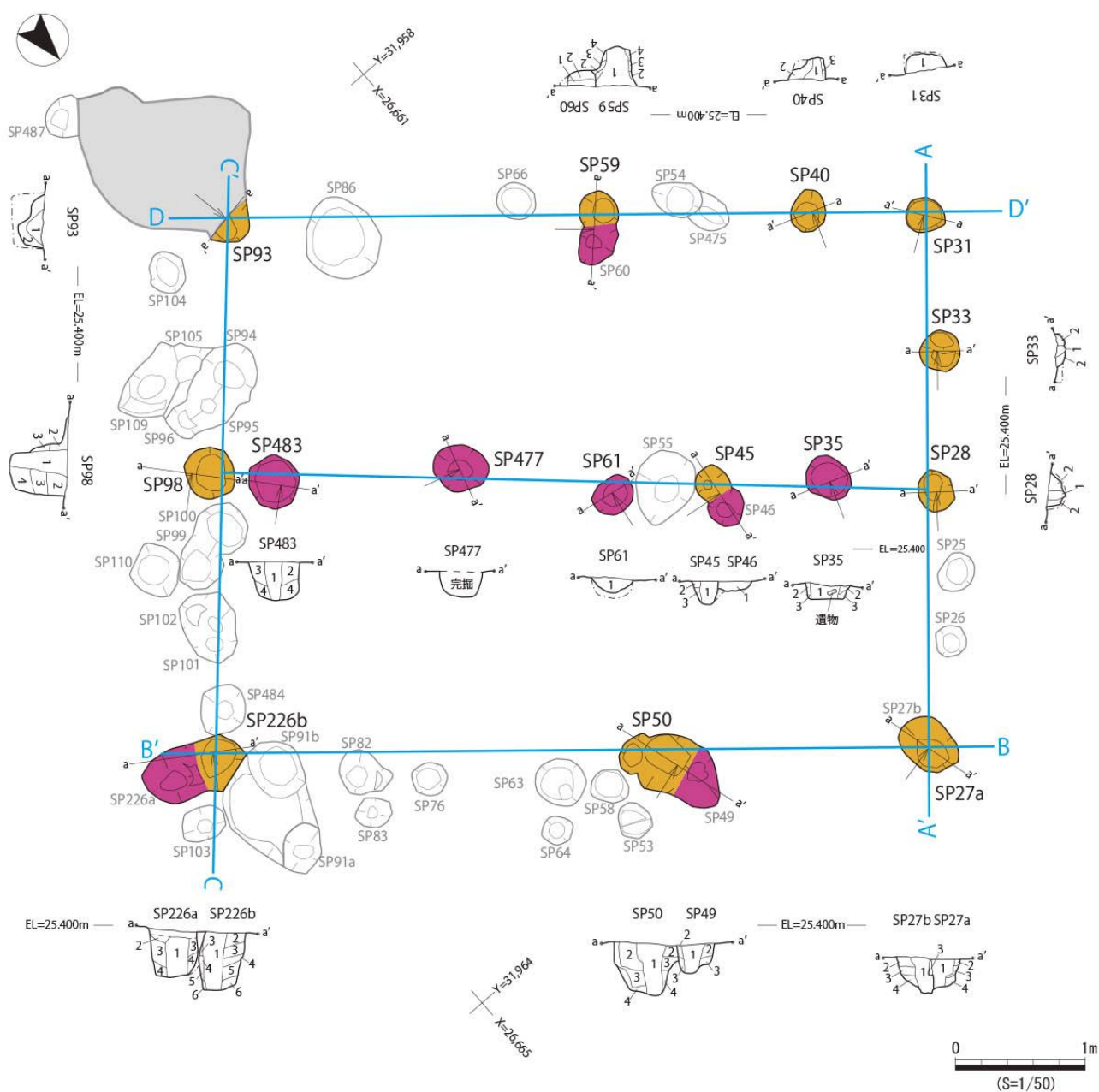
第IV-10図 1号建物跡

2号建物跡

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕	
SP27a	—	—	—	22	24.92	VI	C	+	
SP28	楕円形	32	25	13	24.95	VI	C		
SP31	円形	30	28	15	24.85	VI	B	+	
SP33	円形	31	30	6	24.94	VI	B		
SP35	楕円形	35	27	13	25.01	VII	A	+	
SP40	楕円形	32	26	18	24.95	VI	C	+	
SP45	楕円形	—	25	18	24.97	VI	A		
SP50	楕円形	—	30	40	24.85	VI	B	+	
SP59	円形	42	—	30	24.88	VI	B		
SP61	楕円形	33	26	11	25.06	VII	B		
SP93	—	34	—	18	24.94	VI	C		
SP98	楕円形	44	38	43	24.88	VI	B	+	
SP226b	楕円形	—	43	45	24.90	VI	A	+	
SP477	楕円形	42	36	20	25.05	VII	B		
SP483	円形	40	37	30	25.00	VII	B	+	

単位:m

遺構名	側柱		中柱		大きさ	軸方向	備考
	遺構名	長さ	遺構名	長さ			
Aライン	SP31 33 28 27a	4.1	SP28 35 45 61	5.5	5.5 × 4.0	NW - SE	
Bライン	SP27a 50 226b	5.5	SP477 483 98				
Cライン	SP226b 98 93	4.1					
Dライン	SP93 59 40 31	5.5					



第IV-11図 2号建物跡



2号建物跡完掘状況 北東より



SP27a・b 東より



SP28 北より



SP31 北より



SP33 北より



SP35 北より



SP40 北より



SP45・SP46 東より



SP50・SP49 東より



SP59 東より



SP61 北より



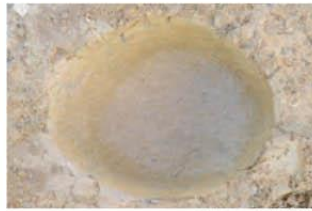
SP93 南より



SP98 北より



SP226a・b 北より



SP477 完掘状況



SP483 北より

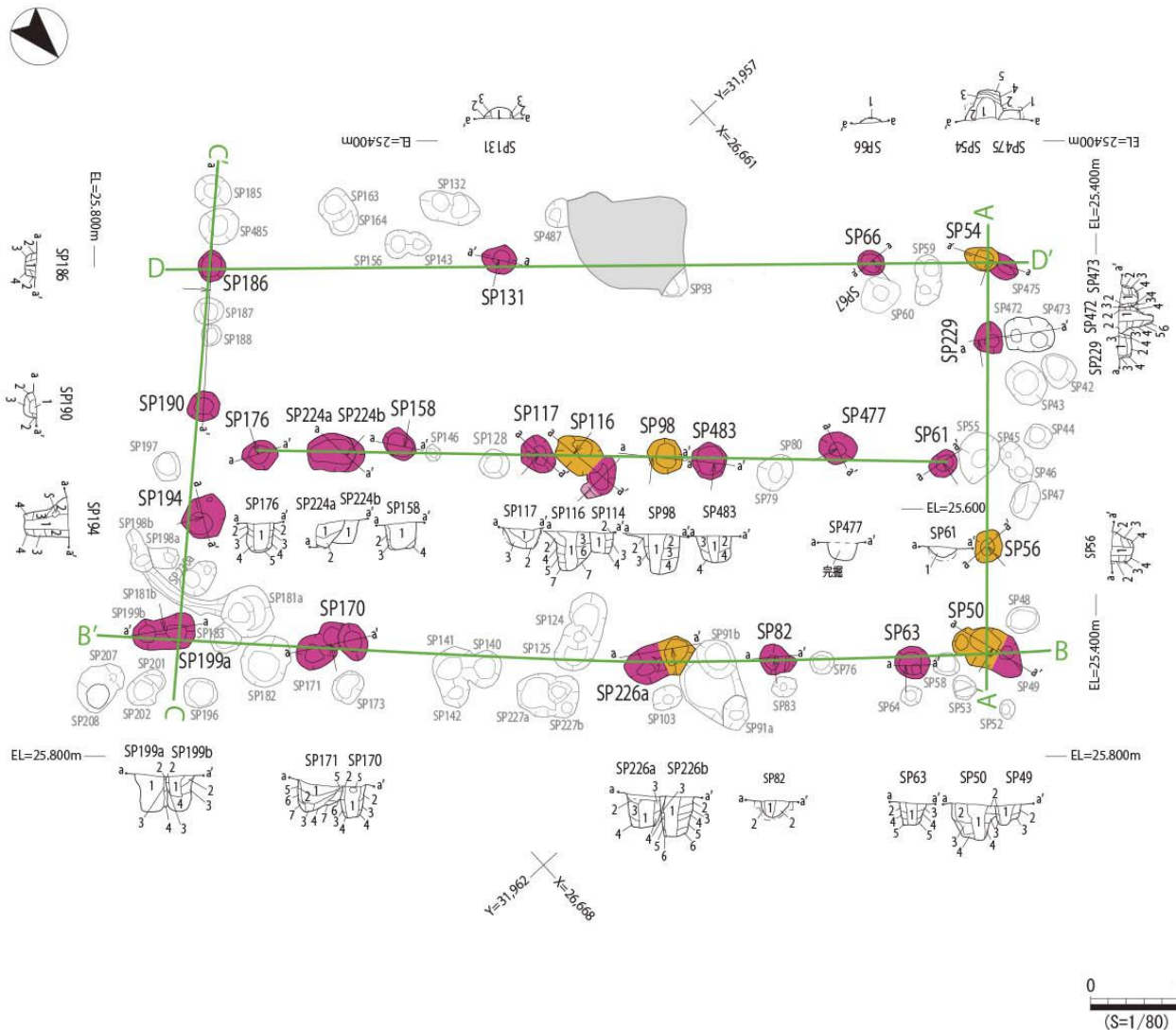
第IV-12図 2号建物跡

3号建物跡

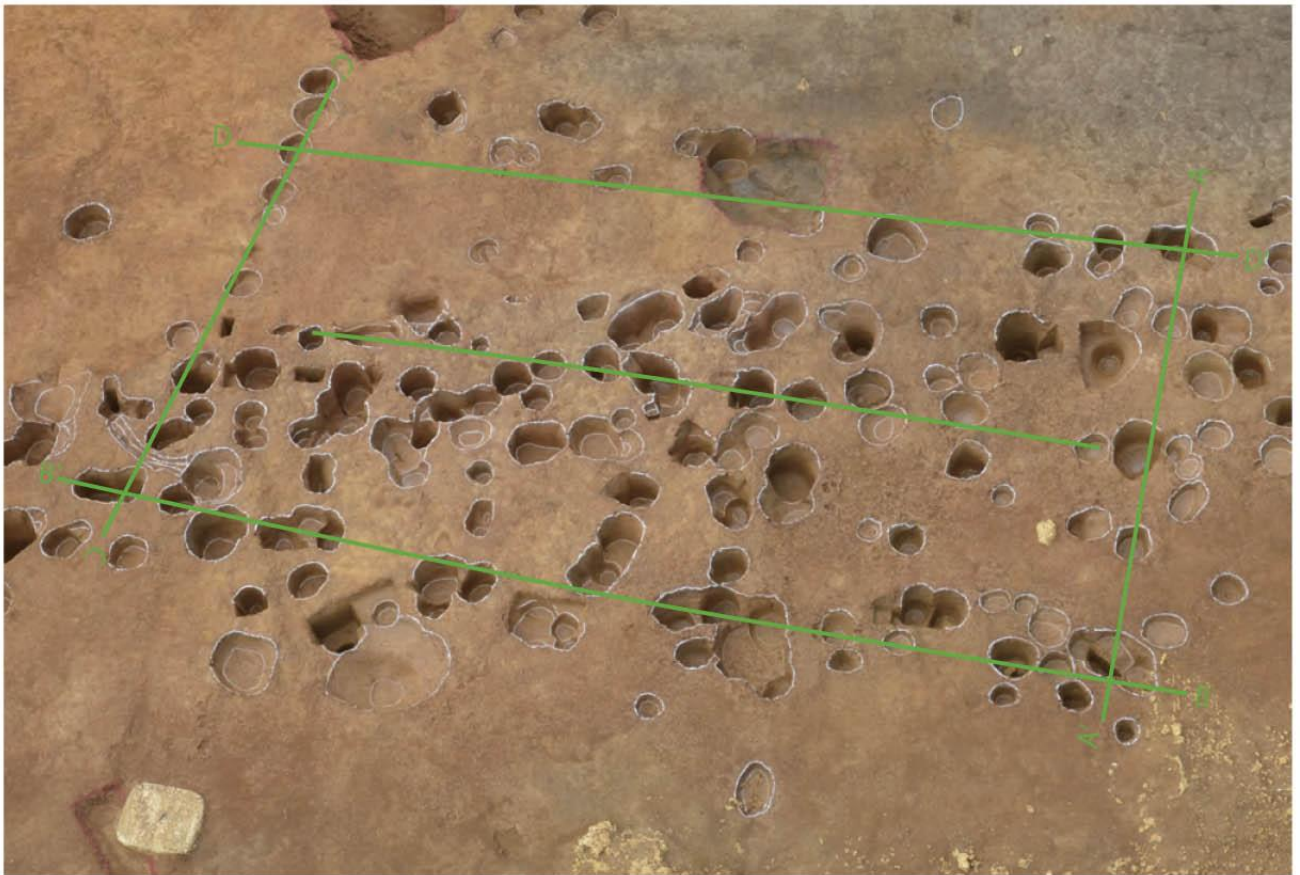
遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕	
SP50	楕円形	—	30	40	24.85	VI	B	+	
SP54	楕円形	40	25	32	24.88	VI	B	+	
SP56	楕円形	39	30	25	24.98	VI	B	+	
SP61	楕円形	33	26	11	25.06	VII	B		
SP63	円形	38	36	24	25.03	VII	B	+	
SP66	円形	30	28	5	25.15	VII	B		
SP82	不定形	38	34	19	25.12	VII	B	+	
SP98	楕円形	44	38	43	24.88	VI	B	+	
SP116	楕円形	—	41	44	24.92	VI	B	+	
SP117	楕円形	55	43	21	25.17	VII	A	I	
SP131	楕円形	39	33	13	25.03	VII	B		
SP158	楕円形	39	30	29	25.15	VII	A		
SP170	楕円形	42	32	35	25.10	VII	A		
SP176	楕円形	40	38	32	25.12	VII	B	+	
SP186	円形	31	30	12	25.03	VII	B	+	
SP190	円形	35	34	15	25.00	VII	B		
SP194	円形	51	45	50	25.03	VII	B	I+	
SP199 b	—	35	—	42	25.17	VII	A	+	
SP224	楕円形	63	42	28	25.07	VII	C	I	
SP226a	楕円形	—	41	36	25.00	VII	A	+	
SP229	楕円形	34	30	10	25.00	VII	B		
SP477	楕円形	42	36	20	25.05	VII	B		
SP483	円形	40	37	30	25.00	VII	B	+	

単位:m

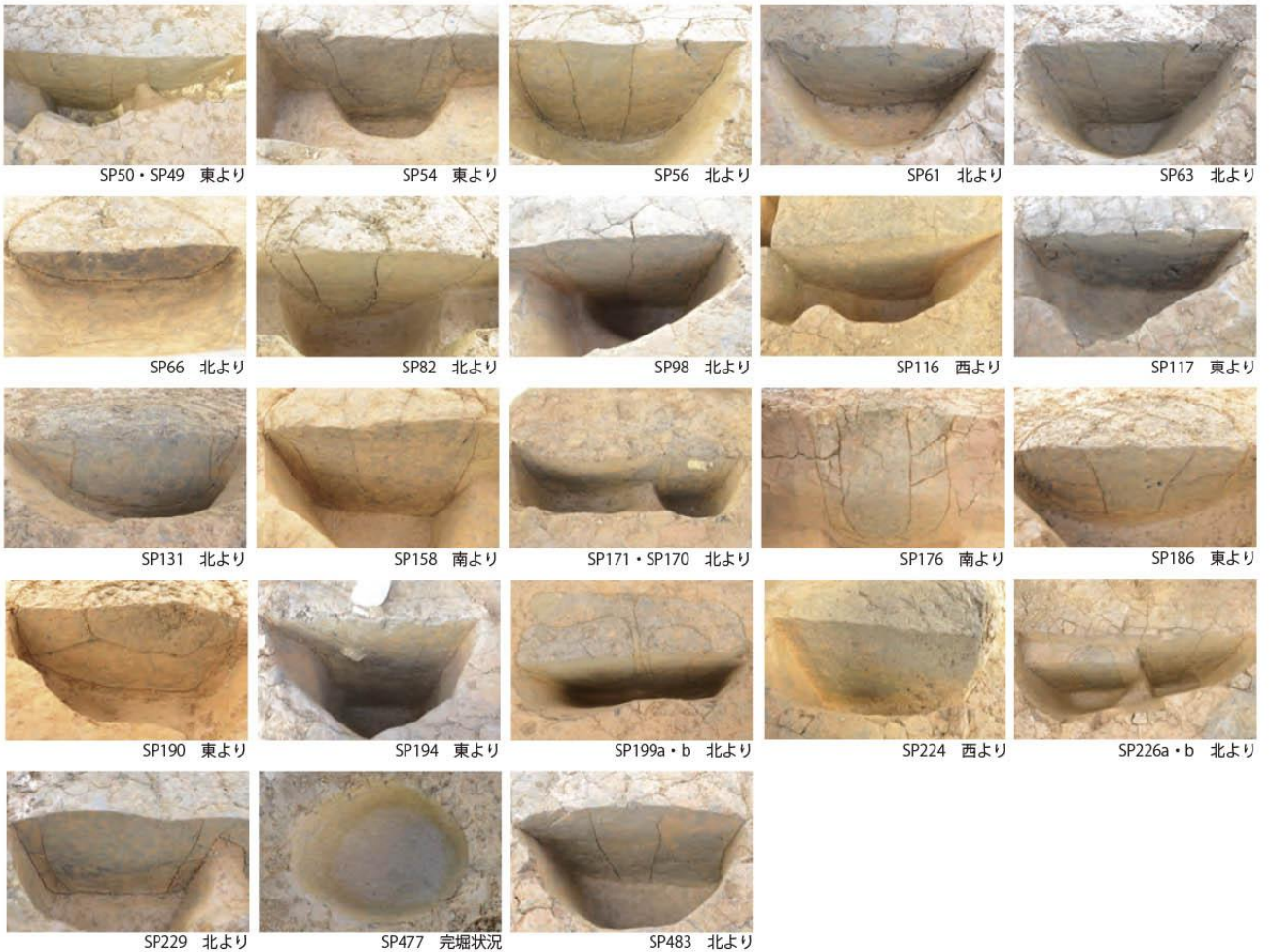
遺構名	側柱		中柱		大きさ	軸方向	備考
	遺構名	長さ	遺構名	長さ			
Aライン	SP54 229 56 50	4.5	SP61 477 483 98 116	7.6	9.0 × 4.5	NW - SE	
Bライン	SP50 63 82 226a 170 199a	8.9	117 128 158 224 176				
Cライン	SP199 b 194 190 186	4.3					
Dライン	SP186 131 66 54	8.7					



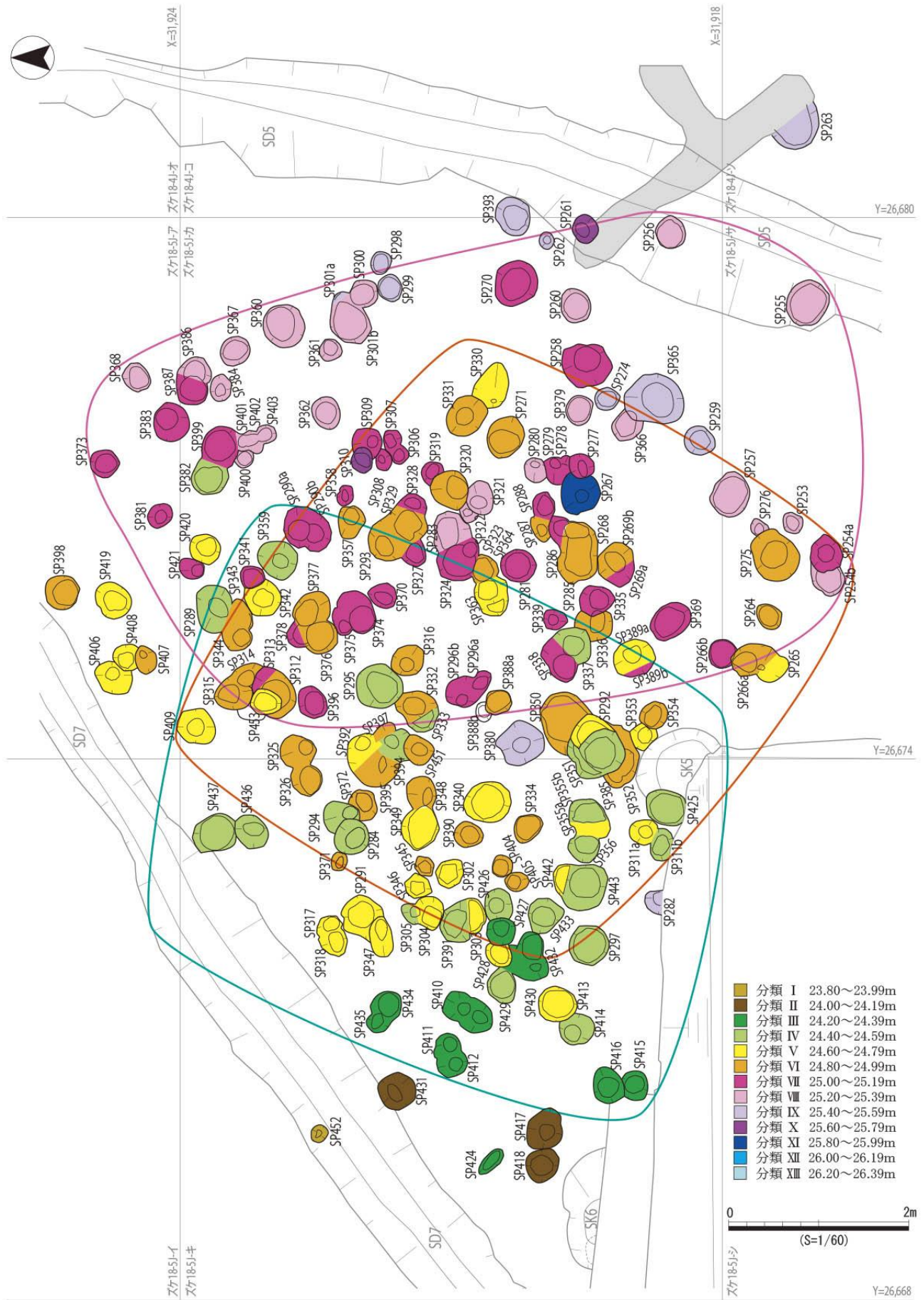
第IV-13図 3号建物跡



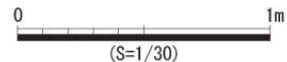
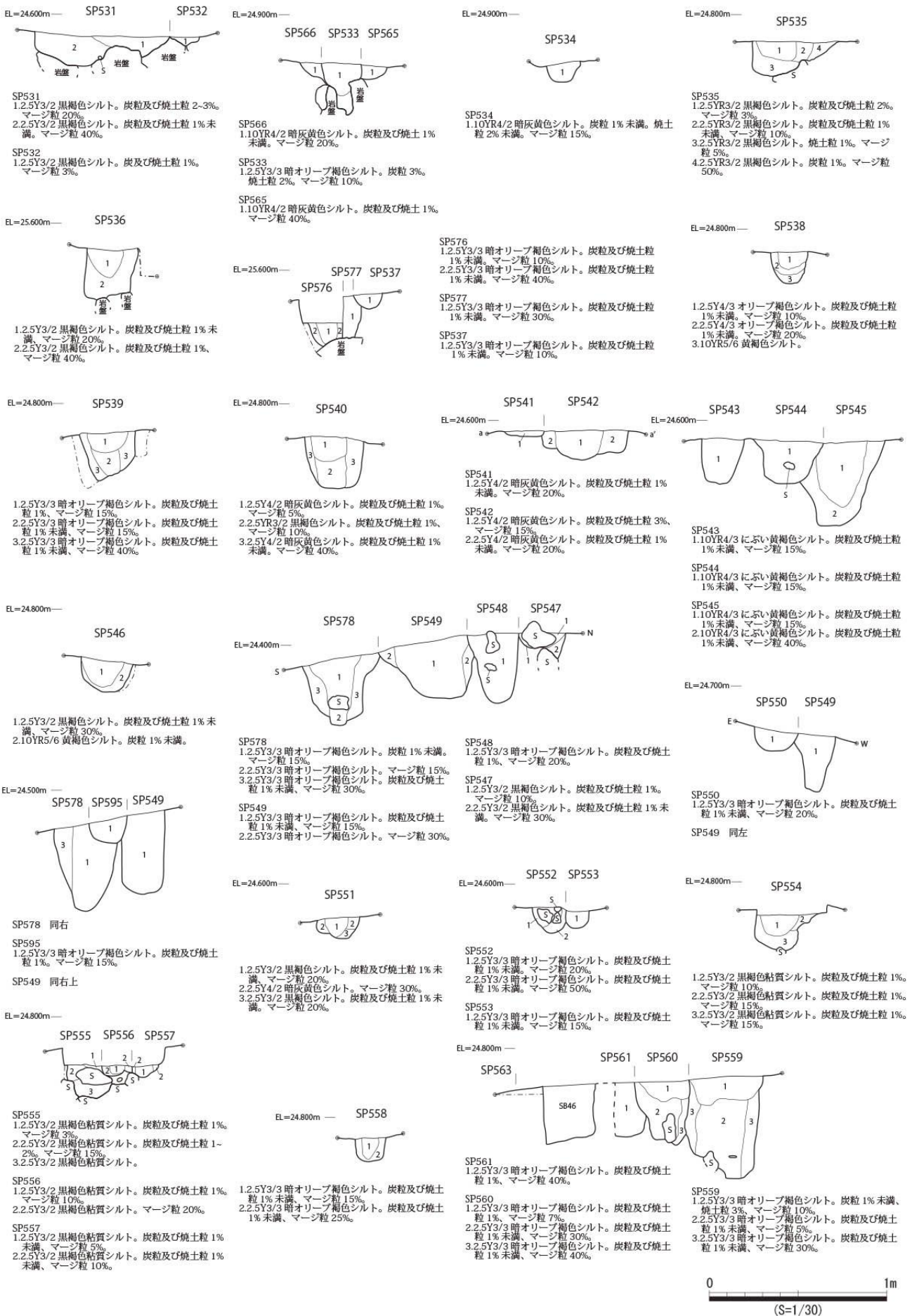
3号建物跡 完掘状況 北東より



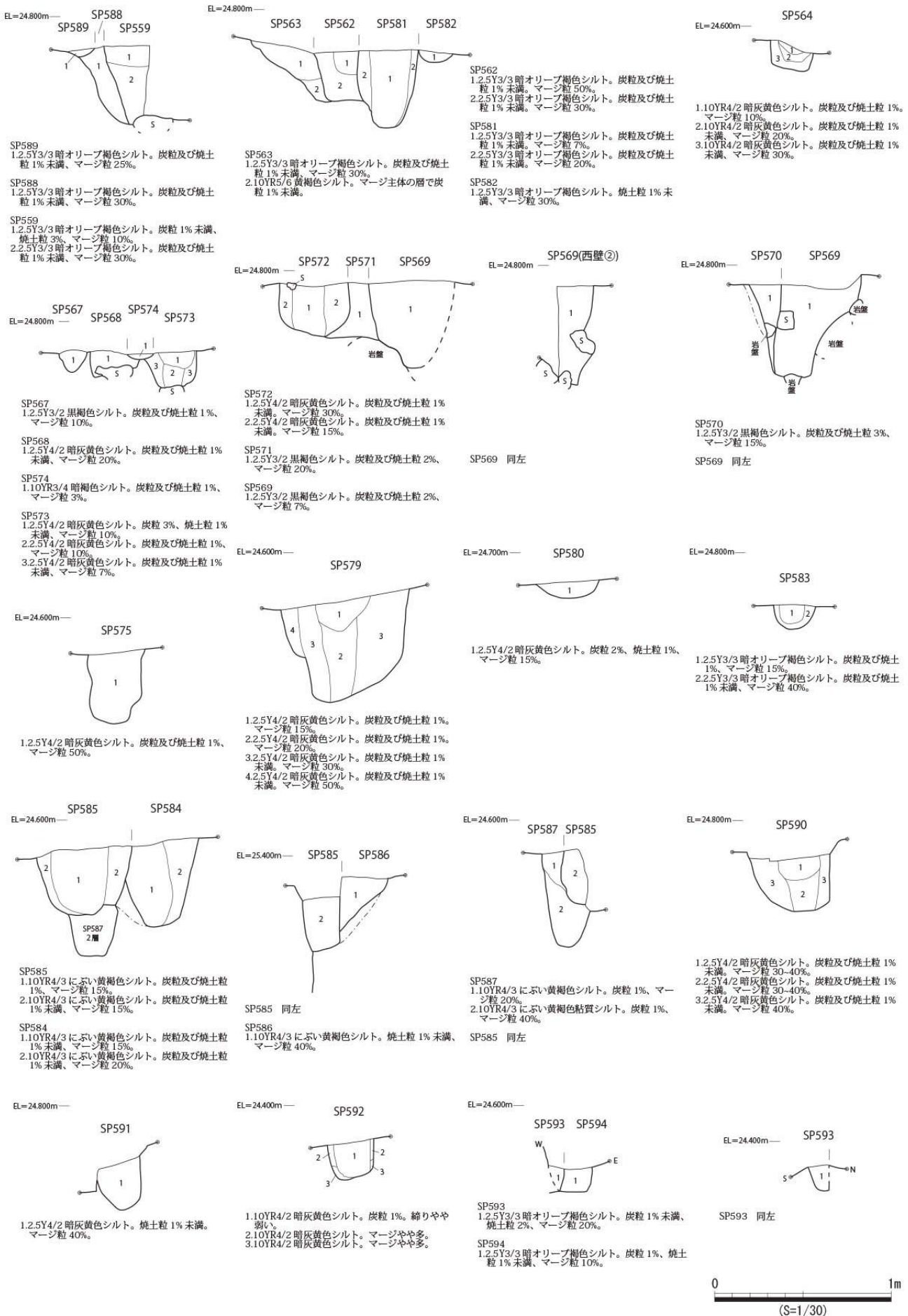
第IV -14 図 3号建物跡



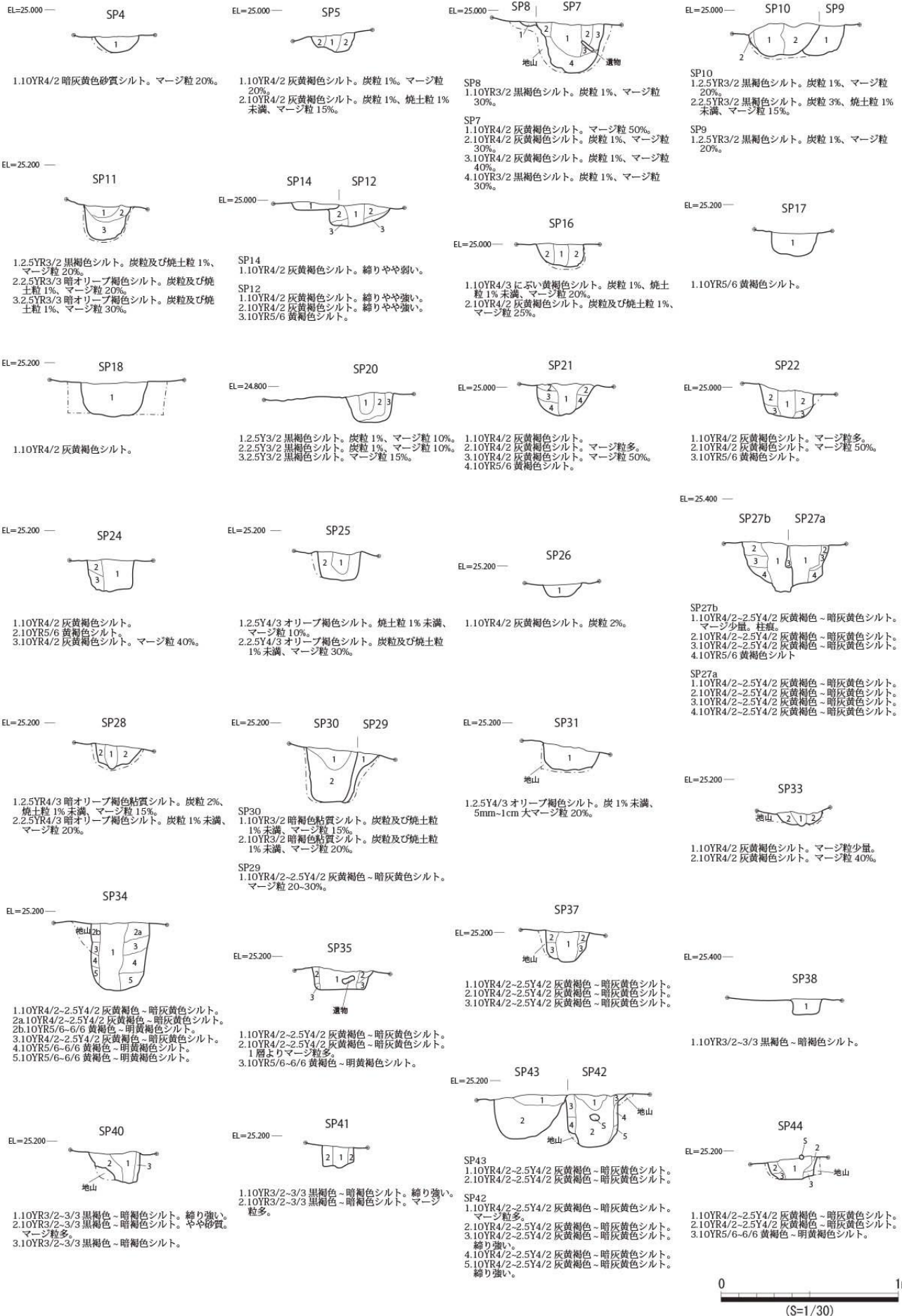
第IV-15図 エ区1南側 建物プラン検討図



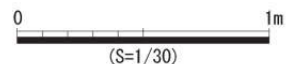
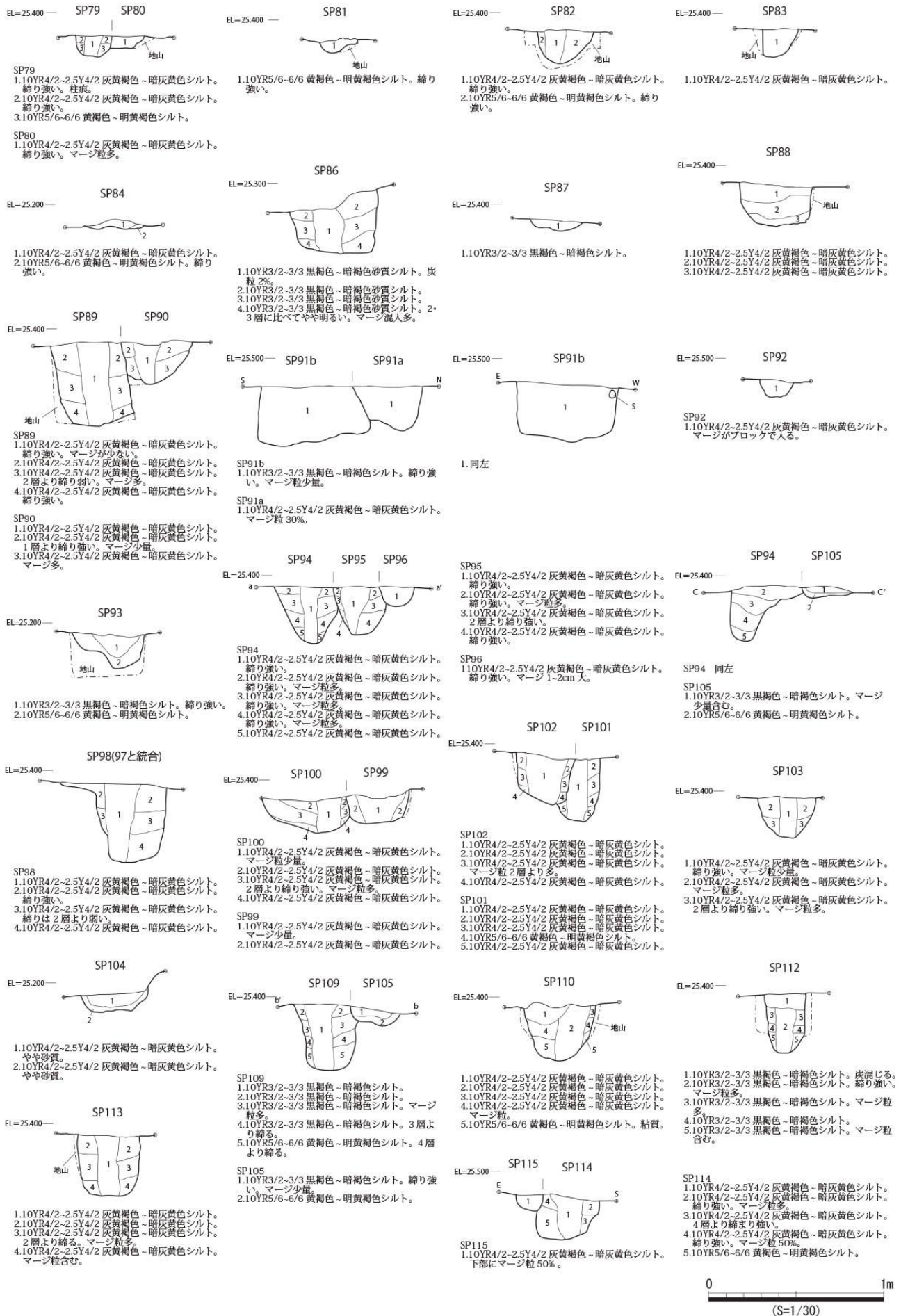
第IV -16 図 ピット断面図 1



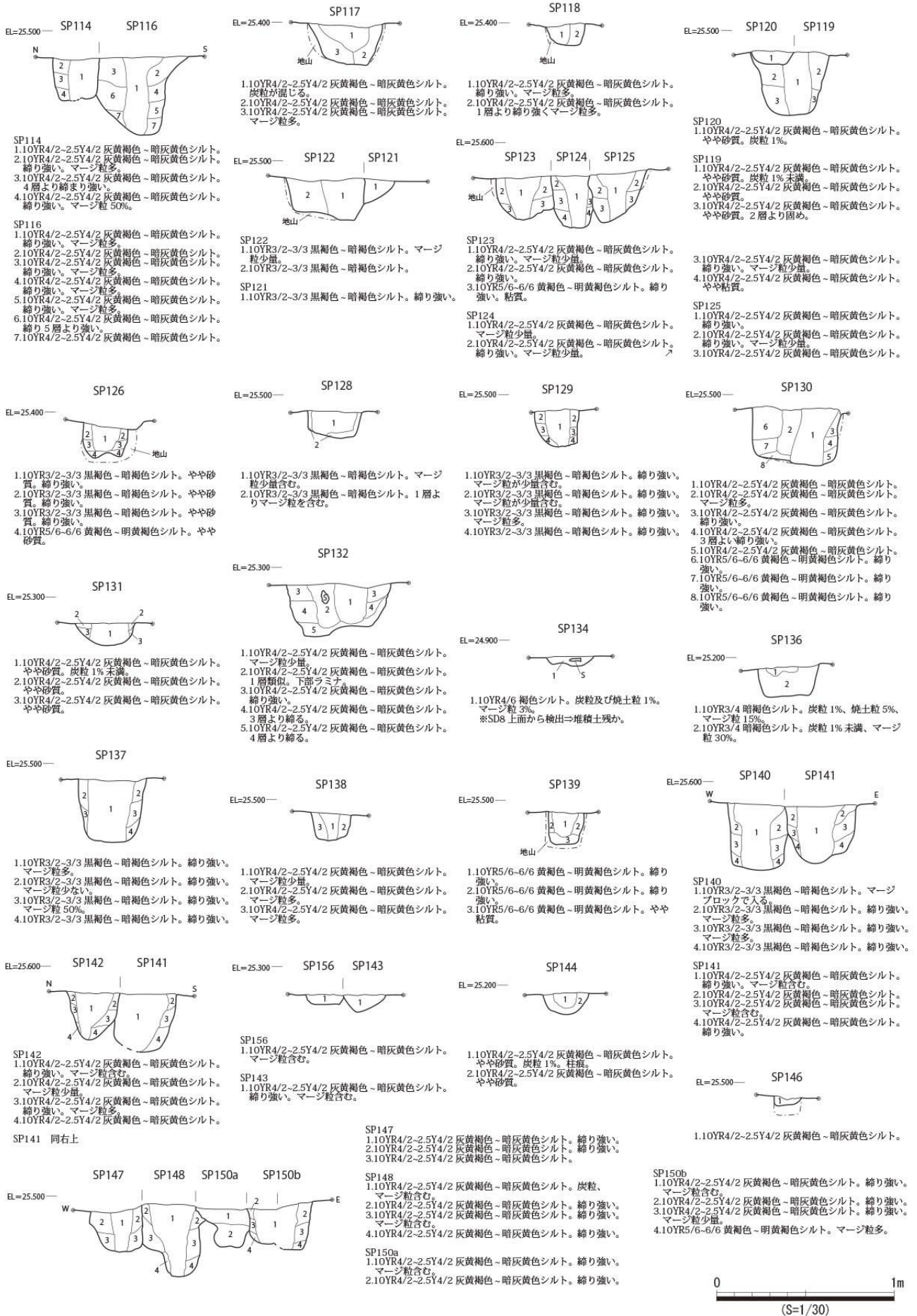
第四 -17 図 ピット断面図 2



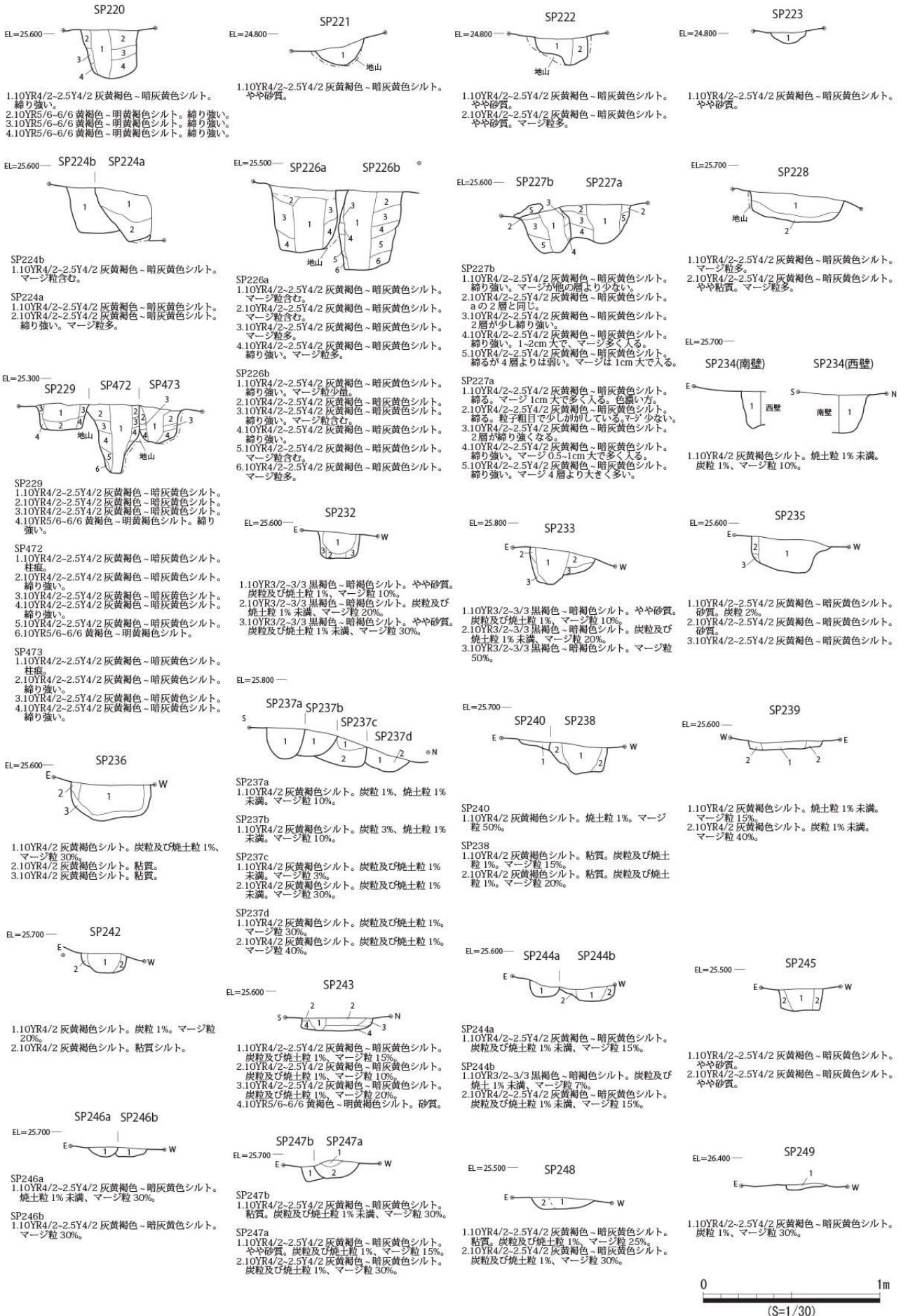
第IV-18図 ピット断面図3



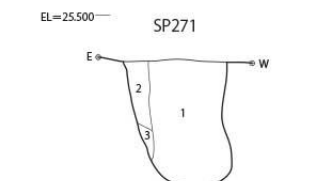
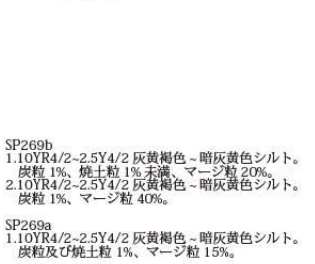
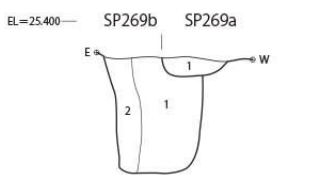
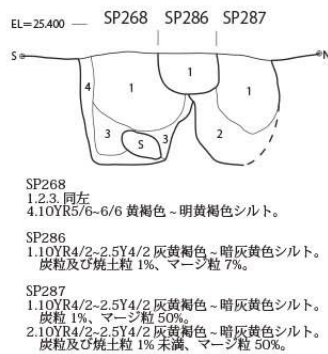
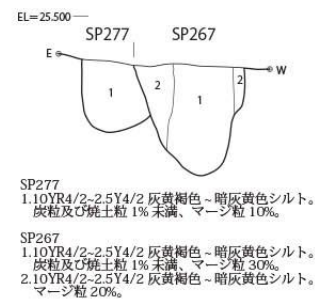
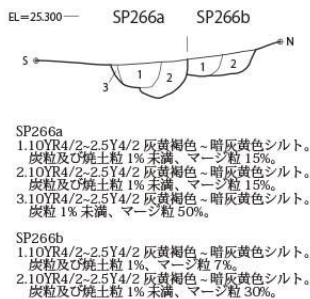
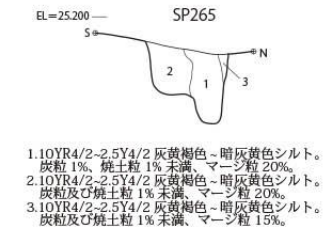
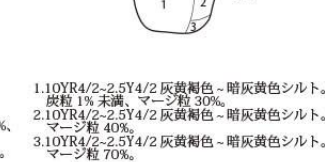
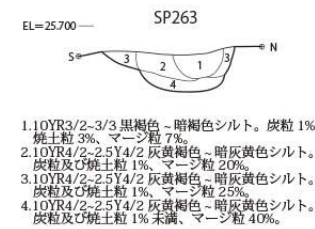
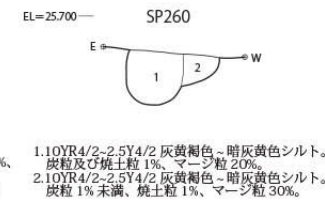
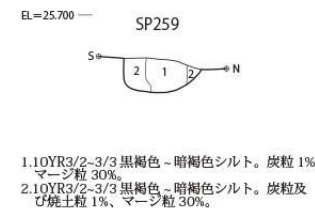
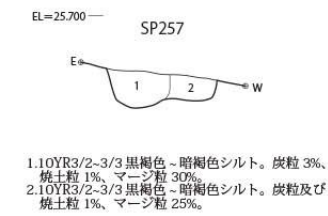
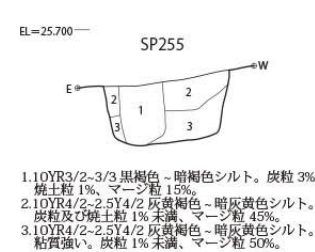
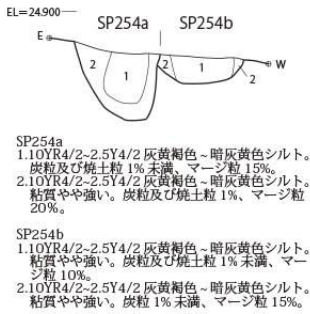
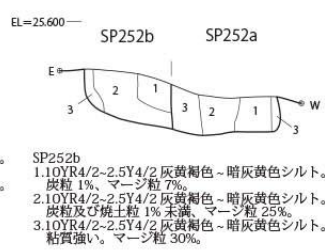
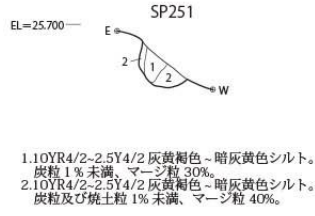
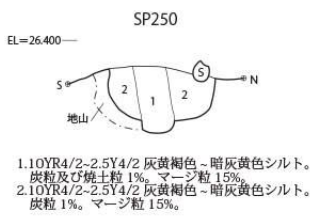
第IV-20図 ピット断面図5



第IV-21図 ピット断面図6

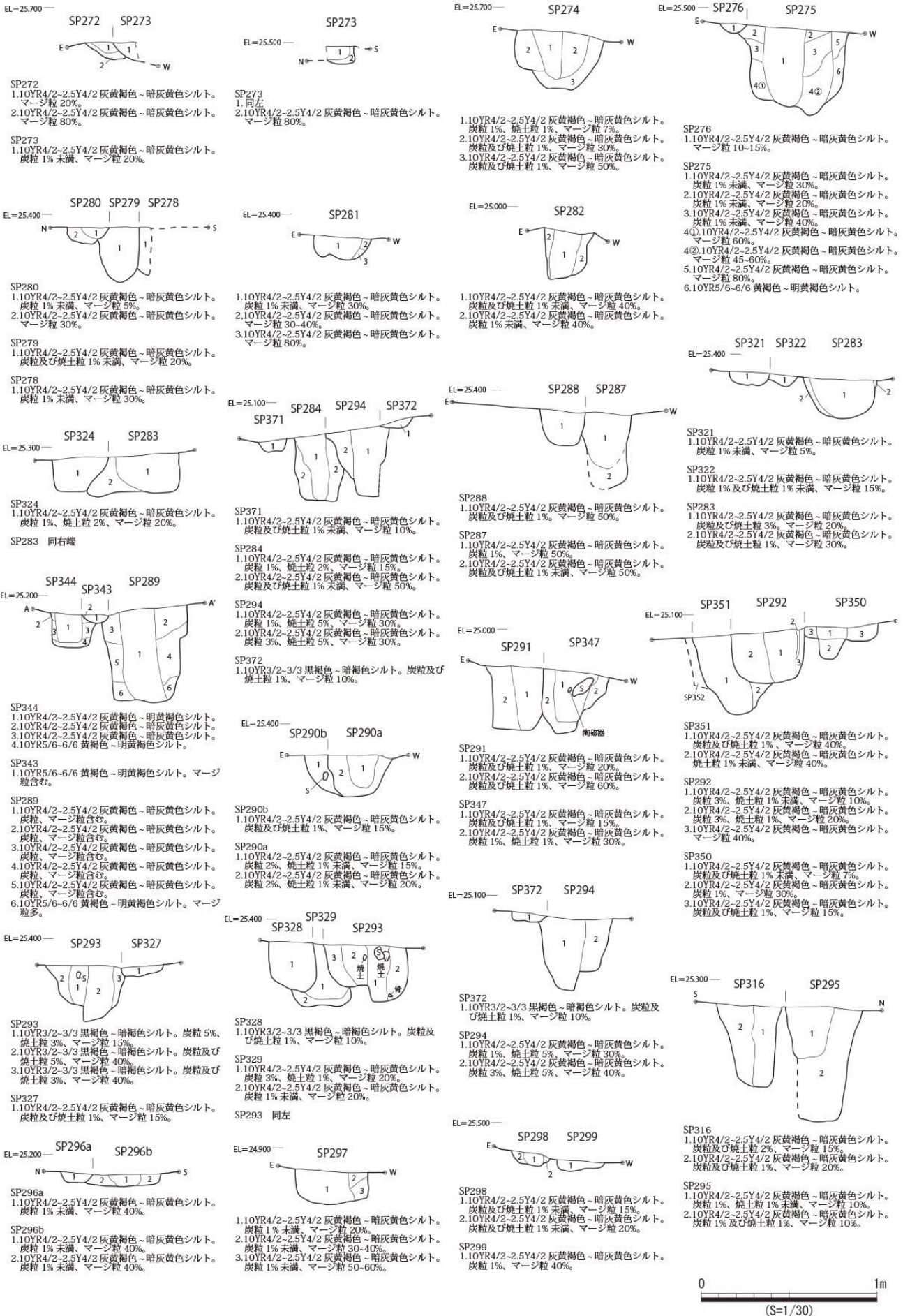


第IV-24図 ピット断面図9

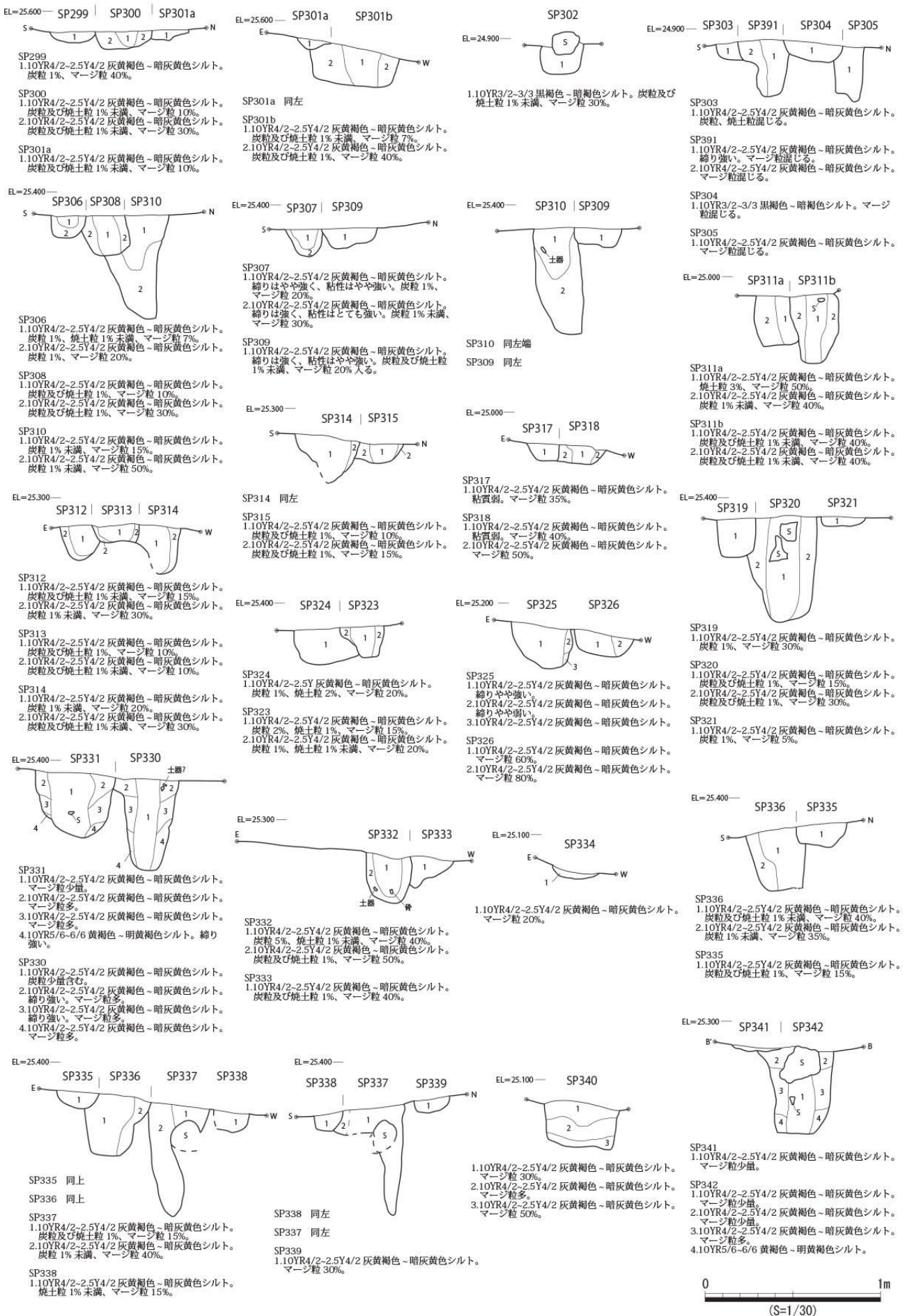


第IV-25図 ピット断面図10

第IV章 新城上殿遺跡

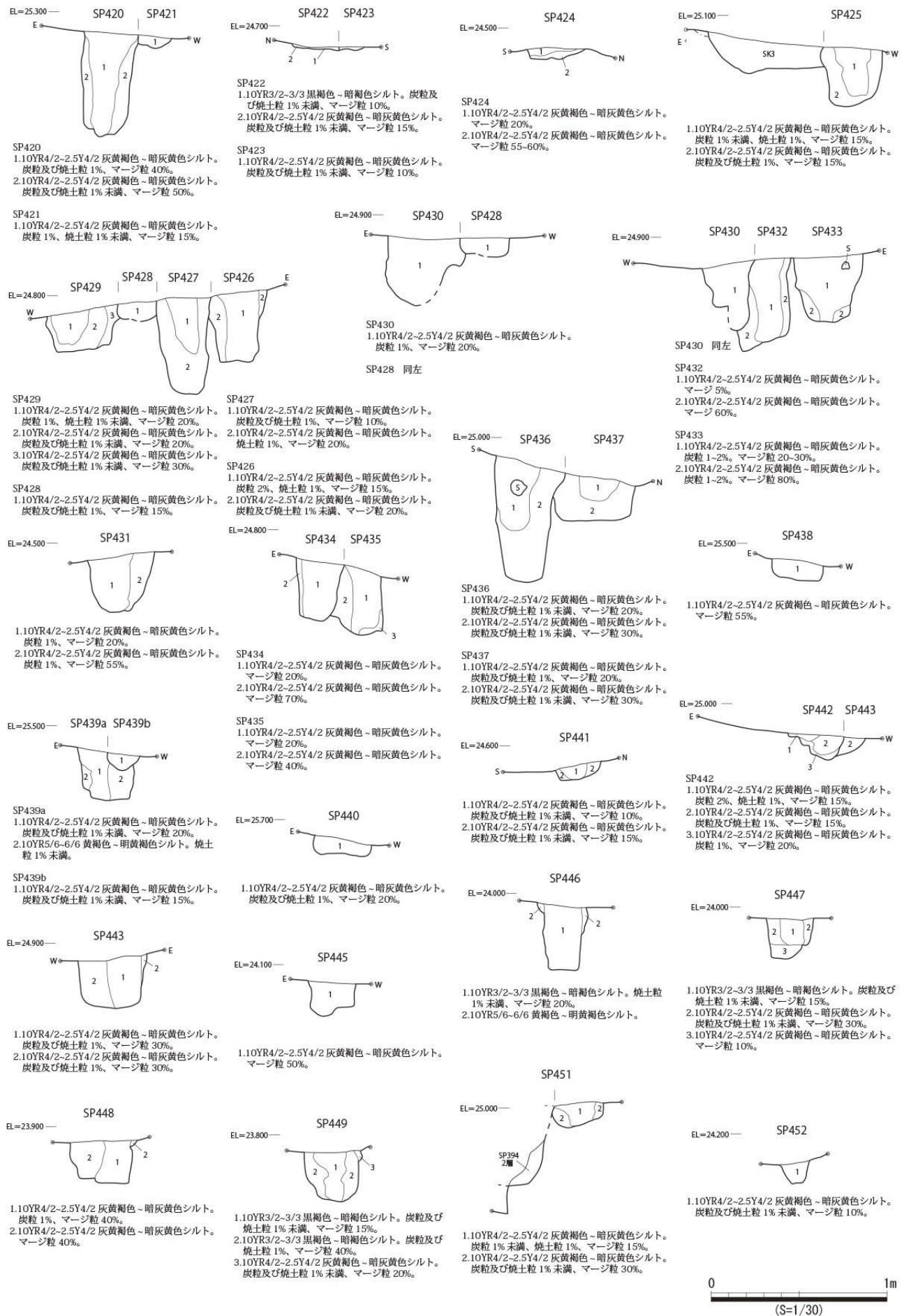


第IV-26図 ピット断面図11

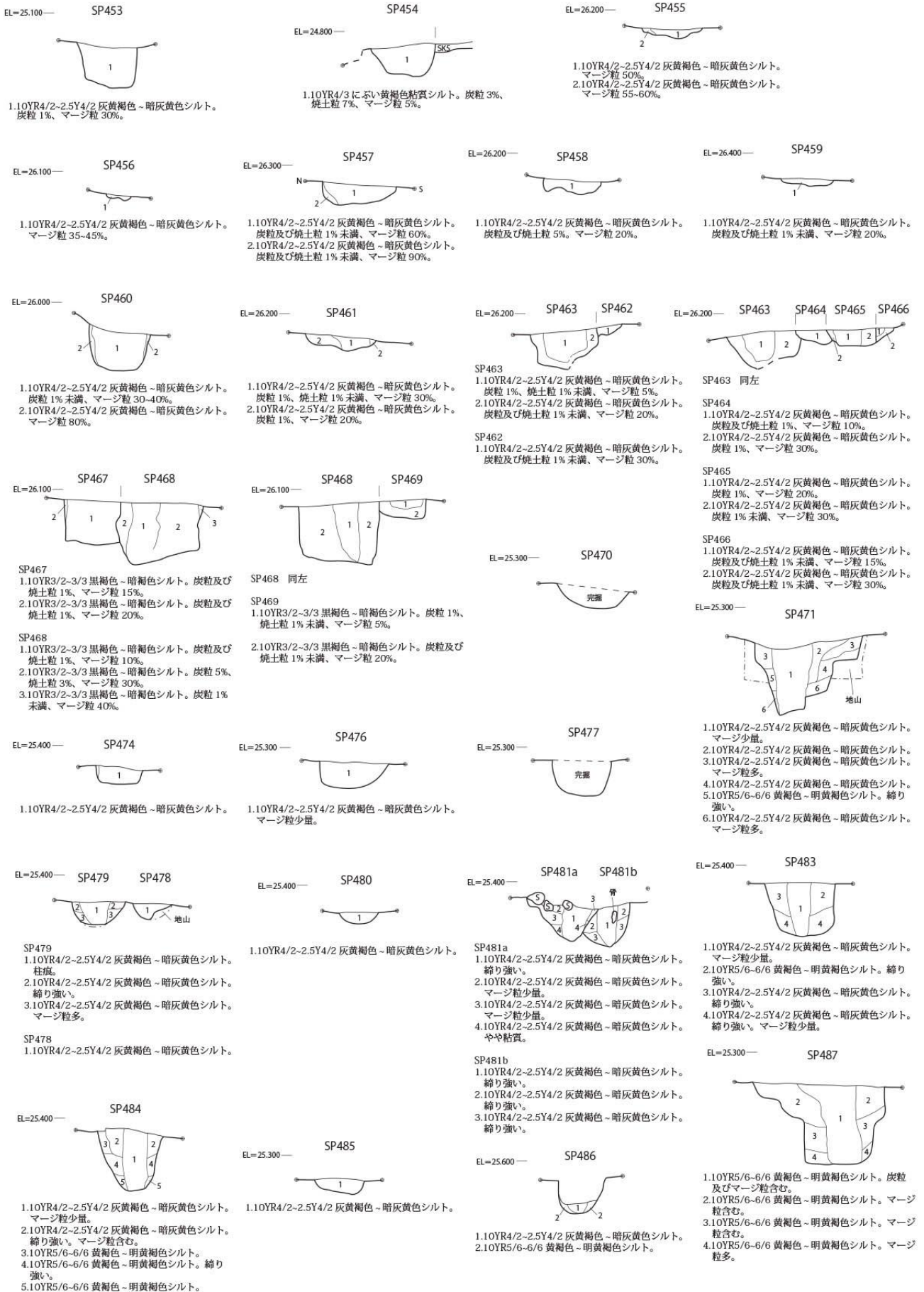


第IV-27図 ピット断面図12

第IV章 新城上殿遺跡

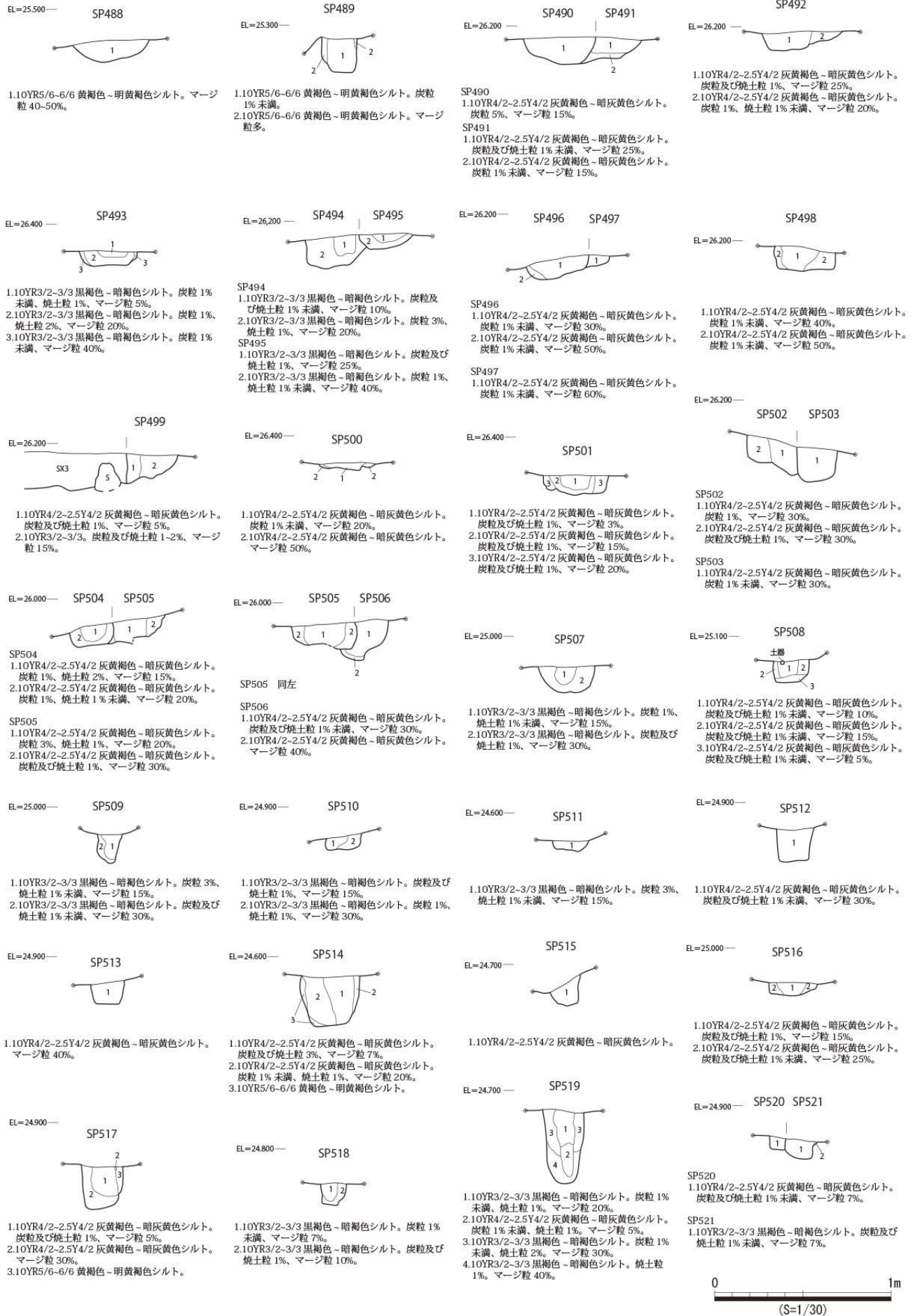


第IV -30 図 ピット断面図 15

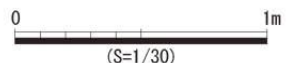
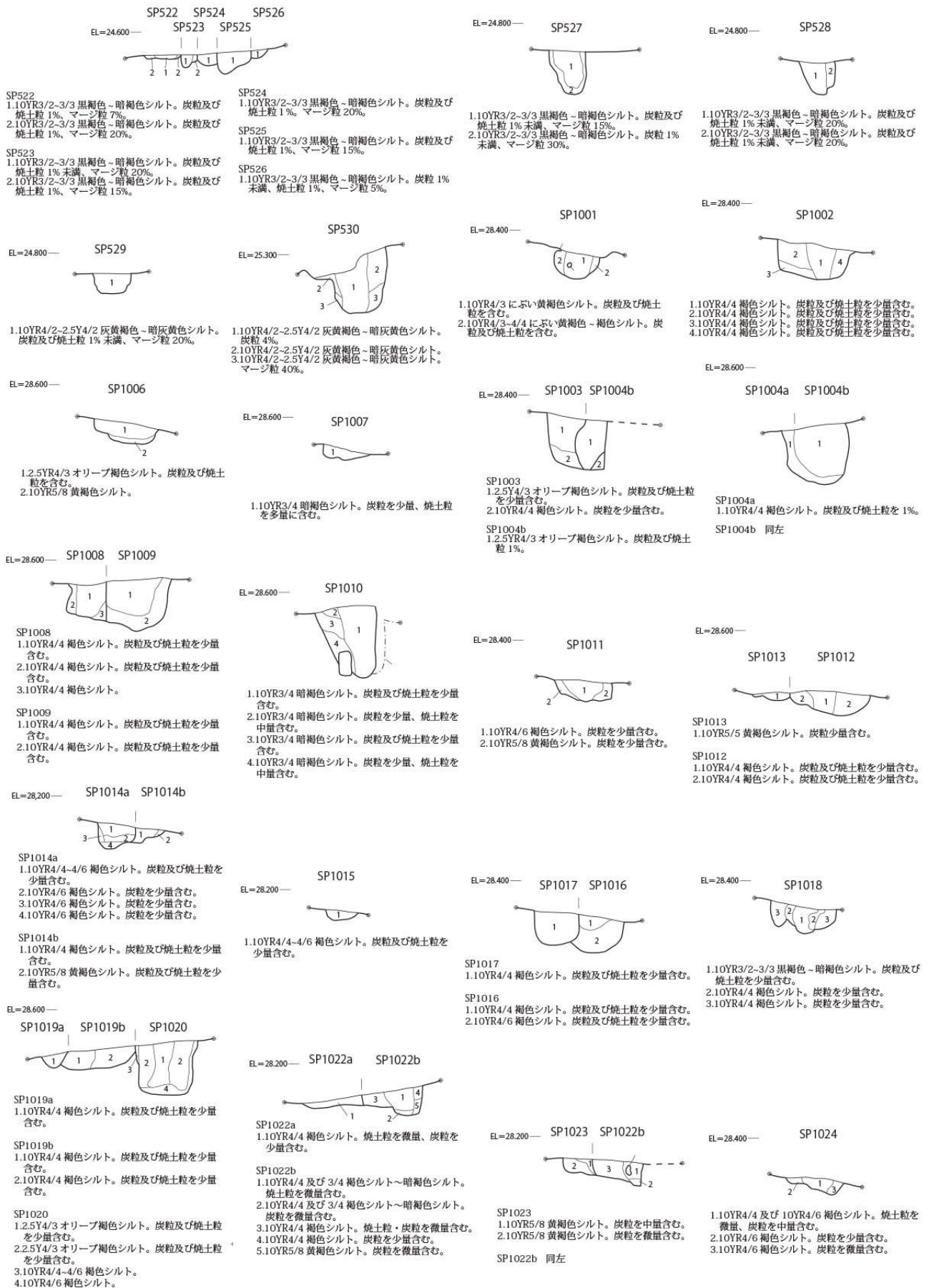


第IV -31 図 ピット断面図 16

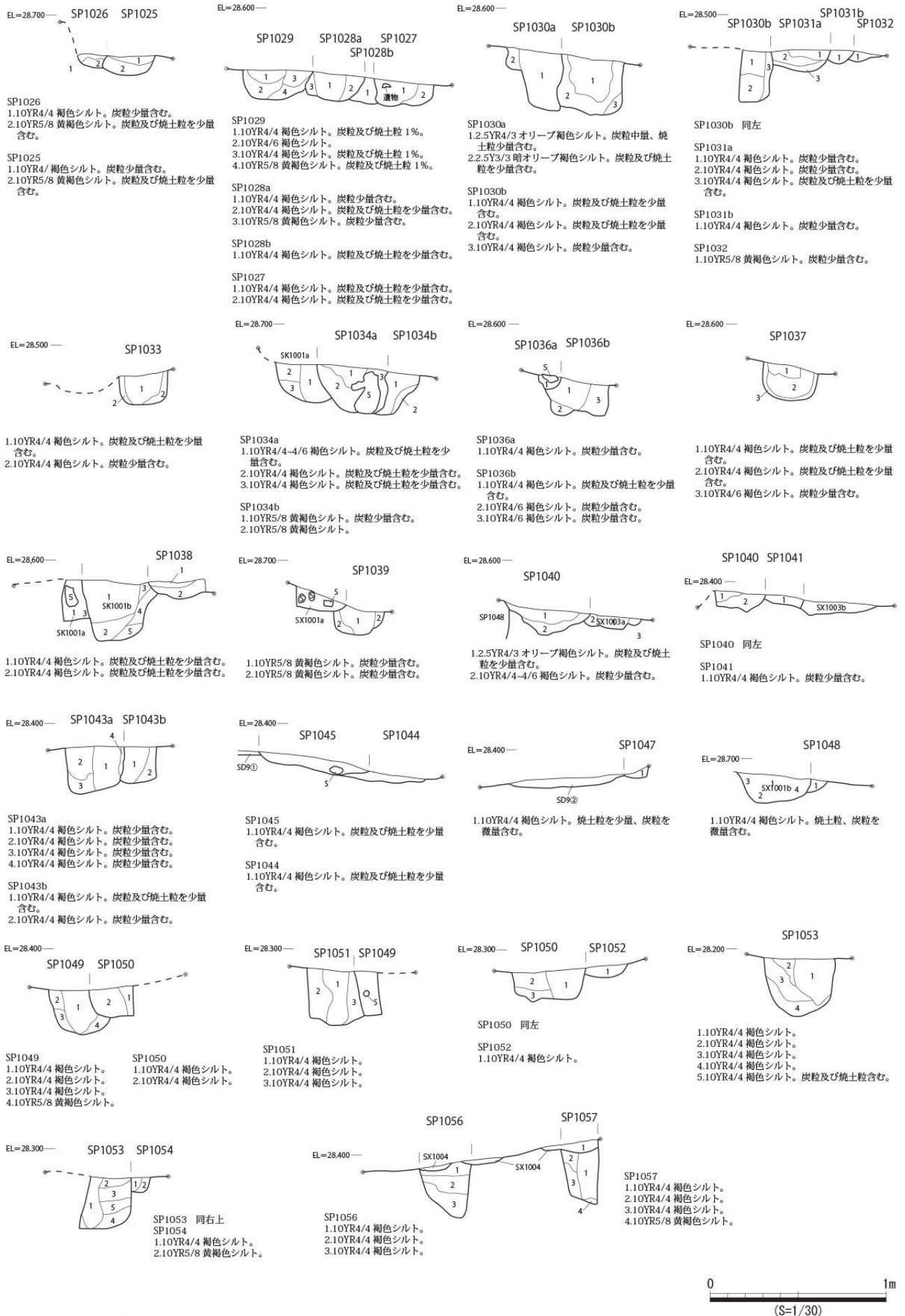
第IV章 新城上殿遺跡



第IV -32 図 ピット断面図 17



第四-33図 ピット断面図 18



第四 -34 図 ピット断面図 19

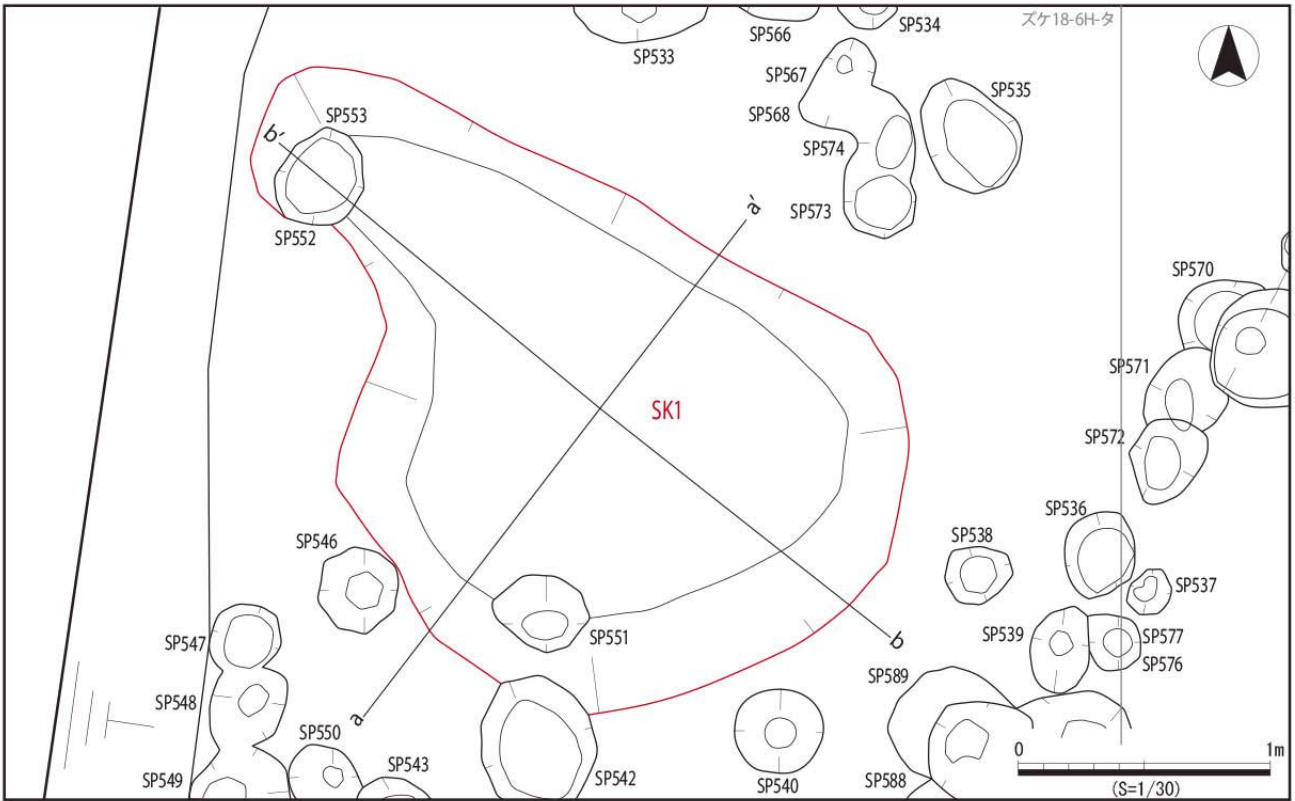
3. 土坑 (SK)

土坑は工区1（北側）に3基、工区1（南側）で5基、工区2で2基の計9基検出された（第IV-13表参照）。SK1は1号建物跡の中央に位置しており、覆土などから関連があるものと推測される。上部が削平されたためか、遺構深度は検出面から約20cmと浅く、被熱などの痕跡も見られない。SK2は2号・3号建物プランの北端に位置する。SP154やSP152に切られるので先後関係からすると上記建物プランより古いものと思われる。SK3は溝状遺構（SD3）の北西側に位置する。10cm大の礫が混入する。SK4は工区1（南側）で検出。覆土は3枚に細分され、石灰岩礫が混じる。また、遺物は白磁や青磁などが出土している。SK5はSP425に切られているが、覆土は類似しているため、同時期と思われる。SK6は断面が逆三角形に掘り込まれており、焼土や炭化物などが混じる。SK6の下部にある島尻マージは水の影響によって土質の変化がみられる。SK7は直径約80cmの楕円形になると想定される。覆土はSK4と類似するが、下部はマージ粒が多く含まれる。SK8は工区1（南側）の東側に位置し、ピット群とは離れた地点に位置する。他の遺構が周囲になく性格不明。マージ層を（検出面から）70cmほど掘り込んで造られており、床面は平坦に成形される。SK9はSD9を切って形成される。中心が検出面から50cmほど深く掘り込まれ、断面形が逆凸状となる。柱を据えた可能性もあるが、掘方が1mを超えるため土坑とした。SK10、SK11は工区2で検出、SK11がSK10を切るようになっているが、覆土は類似するためほぼ同時期と思われる。

第IV-13表 土坑 (SK) 観察表

工区	遺構 No.	平面形状	遺構計測(cm)			備考	グリッド
			長軸	短軸	深さ		
工区1北側	SK1	不定形	270	194	21	平面形状が不定形で、立ち上がりも穏やか。人為的に掘り込まれたものか、自然の窪地か判断が難しい。ピットの覆土と類似するため、同時期に形成されたものと思われる。	ズケ18-6H-タ
工区1北側	SK2	楕円形	113	92	26	性格不明。SP152、SP154に切られる。	ズケ18-5H-ニ〜ス
工区1北側	SK3	方形	110	72	18	性格不明。SP152、SP154に切られる。地山(島尻マージ)面を掘り込んで形成。SP513などに切られる。	ズケ18-5I-エ
工区1南側	SK4	隅丸方形	135	—	24		ズケ18-5J-サ
工区1南側	SK5	—	66	44	14	SP425に切られる	ズケ18-5J-カ〜キ
工区1南側	SK6	—	137	—	118		ズケ18-5J-キ
工区1南側	SK7	—	85	—	46		ズケ18-5J-ク
工区1南側	SK8	楕円形	89	69	73		ズケ18-4J-エ
工区1南側	SK9	円形	100	96	47	半載時に青磁・褐釉陶器片出土	ズケ18-5J-ク
工区2	SK10	不定形	—	(23)	21	SP1034A、SK1001Bに切られる	ズケ25-4A-イ
工区2	SK11	不定形	67	38	34	SP1034A、SP1038に切られる。SK1001Aを切る。	ズケ25-4A-イ

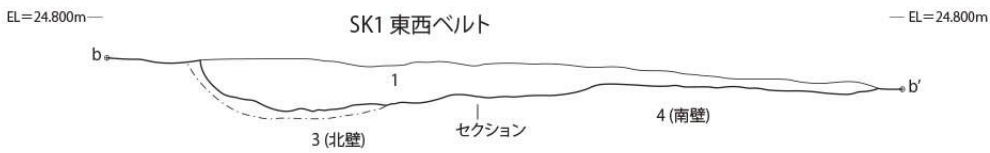
※()は残存値



SK1 平面



SK1
 1.10YR4/3 にぶい黄褐色土。締りはやや強く、粘性はとても強い。
 混入物は、1-4mm 大焼土粒 (2%)、1-5mm 大炭粒 (3%)、1-3mm 大
 マージ粒 (35%) 入る。マージ粒は、上層は比較的小さく、下層は
 やや大きくなる。



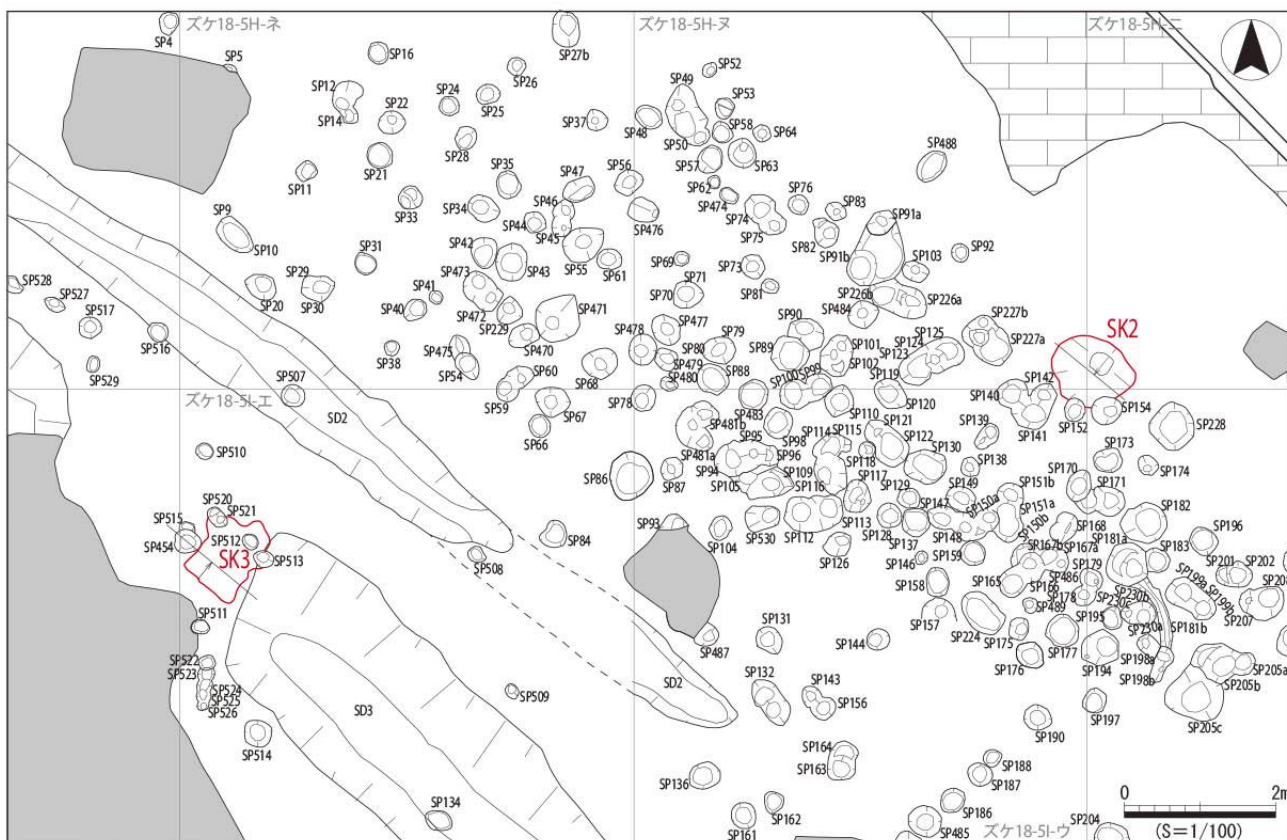
SK1 a-a' ライン断面



SK1 b-b' ライン断面



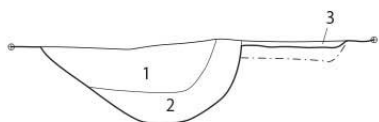
第IV-35 図 土坑 (SK 1)



SK2、3 位置図

EL=25.800m

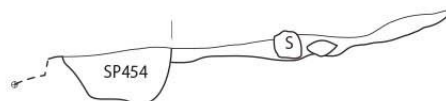
SK2



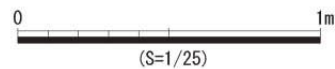
- 1.10YR5/6-6/6。縮る。ⅢCにⅢBの土が20%。炭混じる。
- 2.10YR5/6-6/6。縮り強い。
- 3.10YR5/6-6/6。縮る。2層よりⅢBの土少ない。

EL=25.000m

SK3



- 1.10YR3/2。黒褐色粘質シルト。10cm- 大の礫が混入。縮りやや強い。焼土粒や炭化物が混じる。

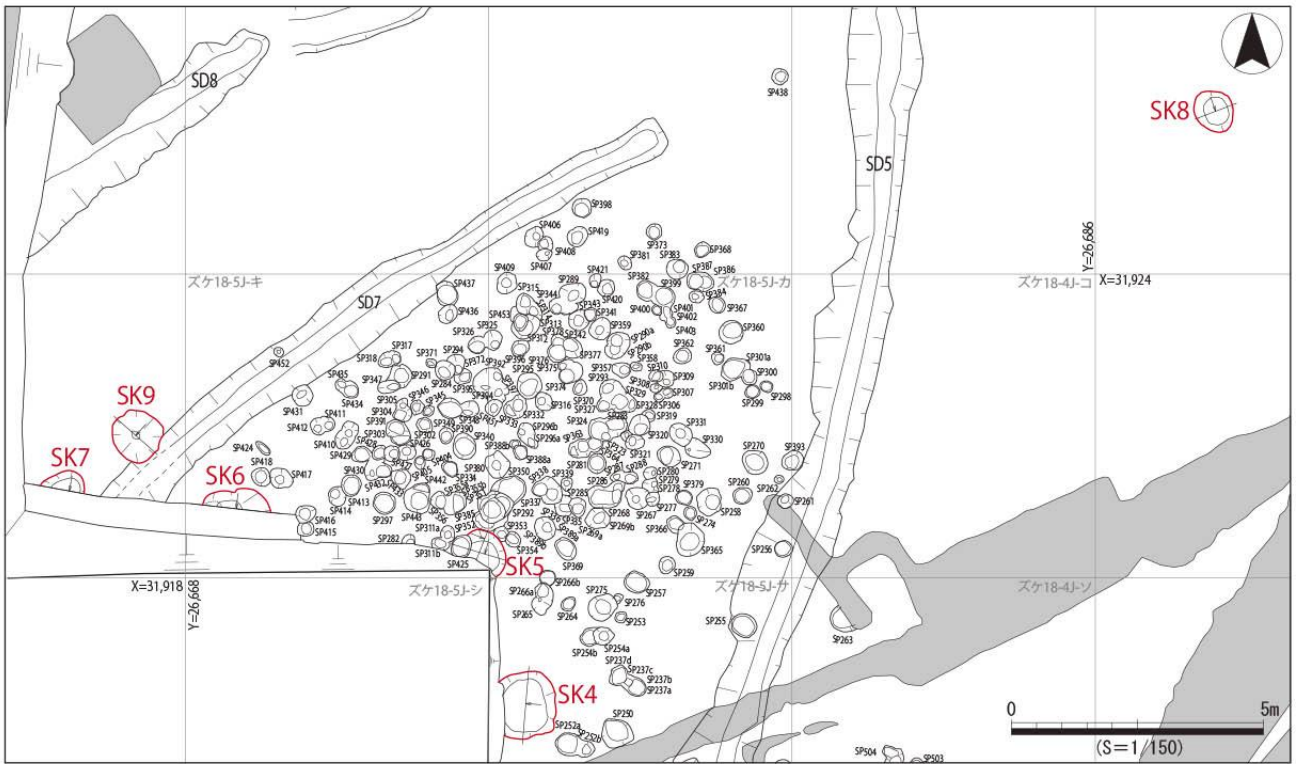


SK2



SK3

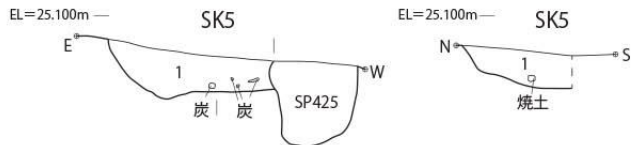
第IV-36 図 土坑 (SK 2、3)



SK4～9位置図



1. 10YR4/2-2.5Y4/2, 締りはやや強く、砂質。土色は普通より明るめ。マージは1層全体の55-60%程で、石は5-6cm大のものが混ざる。
2. 10YR4/2-2.5Y4/2, 締りはやや強く、砂質。土色は暗めで、層の中で1番暗い。炭も1mm以下のものが1層全体の1%程で、石は5-6cm大、18cm大が混ざる。
3. 10YR4/2-2.5Y4/2, 締りはやや弱く、砂質。土色は1層よりは暗めで、2層よりは明るい。マージは3層全体の40%程。



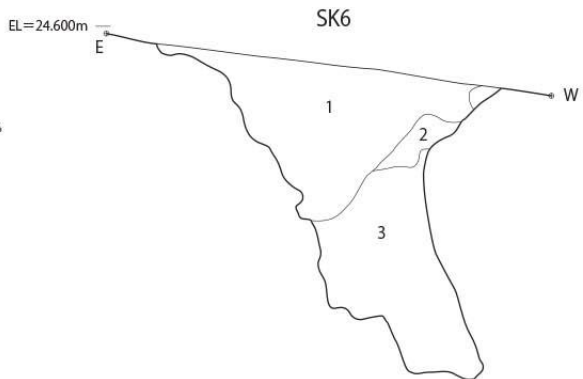
1. 全体的に締りも良く、粘性はやや強め。一部に締りが弱い箇所があるが、ブロック状に入った可能性がある。混入物は3mm大炭粒及び2mm大焼土粒1%、5mm-1cm大マーシ粒10%入る。また、南壁の西側に2cm大炭粒が集中する箇所あり。加え1-2cm大と大きめの焼土も2点確認できた。



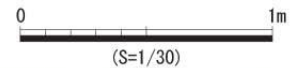
SK4



SK5

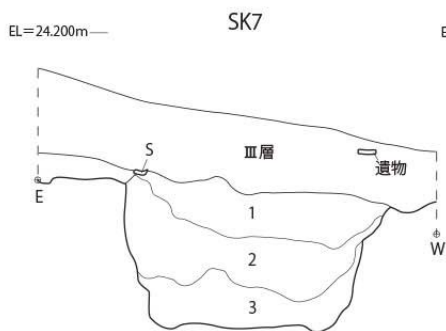


1. 締りは強く、粘性はなし。混入物は1mm大赤褐色土粒及び2-5mm大焼土粒1%、3mm-1cm大炭粒3%、5mm-1cm大マーシ粒10%入る。また、赤褐色土粒は1cm大のものが1点確認できた。
2. 締りはよく、粘性はとて弱い。混入物は2mm大炭粒及び焼土粒1%、1-2cm大マーシ粒20%入る。
3. 締りはとても弱く、粘性はとても強い。混入物は2mm大焼土粒1%未満、もともと遺構の堆積土ではなく、遺構の影響をうけた可能性がある。

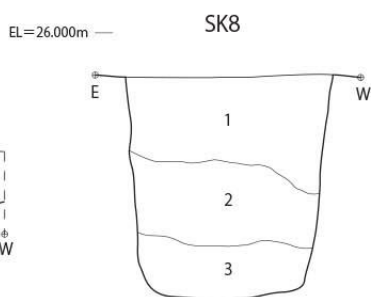


SK6

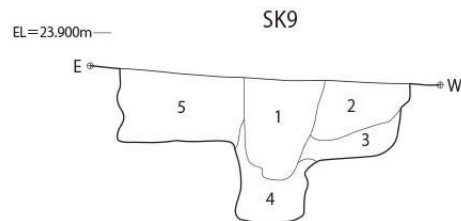
第IV-37図 土坑 (SK 4～6)



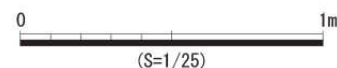
1. 締りは強く、粘性はとも強い。混入物は1-5mm大焼土粒及び3-5mm大炭粒3%、3mm-1cm大マージ粒10%入る。焼土粒は1mm大の大きさのものが多く。
2. 締りはやや弱く、粘性はとも強い。混入物2mm大焼土粒1%未満、1-5mm大炭粒1%、5mm-4cm大マージ粒30%入る。
3. 締りはとも弱く、粘性は2層と同じ。混入物は1mm大炭粒及び焼土粒1%未満、2-5cm大マージ粒50%入る。マージ粒は東側に大きめのものが多く入る。



1. 10YR4/4-4/6. 褐色土。締る。カリカリしている。オリーブ粒・炭・マンガンを混じる。
2. 10YR4/4-4/6. 締る。1層の土が粘質化している。マンガンを炭入らない。
3. 10YR4/4-4/6. 締る。2層が脱色して、色薄くなり、粘質強い。マンガンを混じる。



1. 締りはやや強く、粘性は弱い。混入物は2mm大焼土粒及び赤褐色土粒、3mm大炭粒3%、2mm-1cm大マージ粒10%入る。
2. 締りはよく、粘性はやや弱い。混入物は1mm大赤褐色土粒及び3mm大焼土粒1%、2mm大炭粒5%、5mm-1cm大マージ粒10%入る。
3. 締りはやや弱く、粘性はとも強い。混入物は2mm大焼土粒1%未満、2mm大炭粒1%、2cm大マージ粒20%。
4. 締りは弱く、粘性は強い。混入物は1mm大焼土粒及び5mm大炭粒1%、1-2mm大マージ粒15%入る。
5. 締りはやや弱く、粘性は強い。マージ主体の堆積層。その他、2mm大焼土粒及び5mm大炭粒3%入る。



SK7



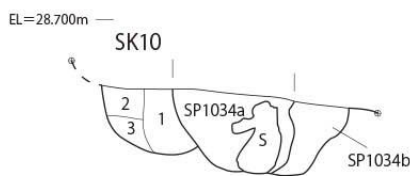
SK8



SK9



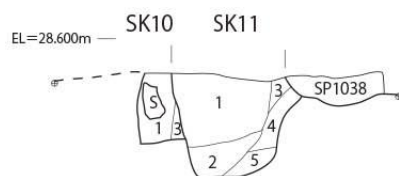
SK10, 11 位置図



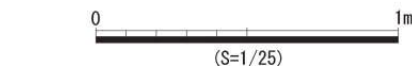
- SK10
1. 10YR4/4. 締りは強い、粘質は強い、20mm単位の石灰岩の石を微量、1-4mm単位の焼土粒を微量、1mm単位の炭粒を少量含む。
 2. 10YR4/4. 締りは強い、粘質は強い、10mm単位の石灰岩の石を微量、2-4mm単位の焼土粒を少量、1-3mm単位の炭粒を少量含む。
 3. 10YR4/4. 締りはやや強い、粘質は強い、2mm単位の焼土粒を微量、1mm単位の炭粒を微量含む。



SK10



- SK10 同左
- SK11
1. 10YR4/4. 締りは強い、粘質はやや強い、1-4mm単位の焼土粒を少量、1-4mm単位の炭粒を少量含む。
 2. 10YR4/4. 締りは中位、粘質は強い、1-2mm単位の焼土粒を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
 3. 10YR4/4. 締りは強い、粘質は強い、1-2mm単位の焼土粒を中量含む。
 4. 10YR5/8. 締りは中位、粘質は強い、1-4mm単位の焼土粒を微量、1mm以下の炭粒を微量含む。



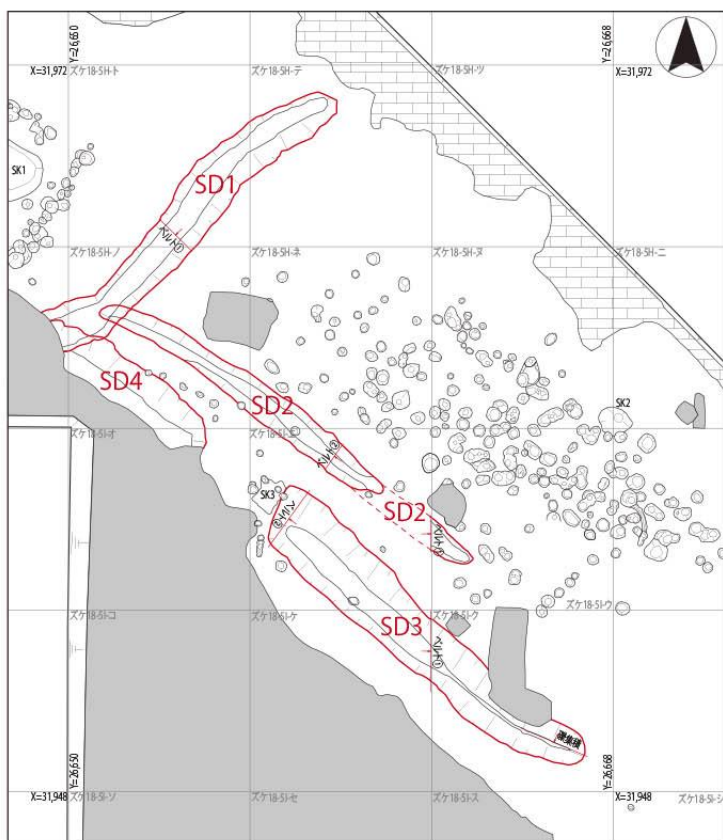
SK11

4. 溝状遺構 (SD)

溝状遺構は工区1の北側で4条、南側で4条、工区2で1条の計9条検出された(第IV-14表参照)。SD1は、建物プラン1と同プラン2・3の間にあり、ほぼ軸を同じくする。北東側に岩盤があることでやや地形が高くている。SD2とはほぼ垂直に交わり、ピットが集中する範囲を囲むように形成されている。SD2は建物プラン2・3と同じ軸に延びるため、SD1と同じくピットが集中する範囲から外れた箇所であり、計画的な配置が窺える。SD3は掘方断面形状が逆三角形形状となり、検出面から深度1mを超える深さとなる。幅も2mを超え、下部に岩盤が見えるなど水路としての用途は考えにくい。周辺一帯の地形を見ると、ピットが集中する箇所を挟んで北東側には石灰岩岩盤があり、その先はイシジャー丘陵の崖地となっている。溝の規模や周辺地形及びSD3の配置状況などから、ピット集中箇所にある建物等を防衛するために形成された堀切の可能性が考えられる。SD4もSD3と同じく堀切の可能性はあるが、攪乱により西側が消失している。なお、SD3、SD4からは青磁や白磁などのグスク時代相当の遺物が出土している。SD5は工区1(南側)に位置し概ね南北方向に延びる。遺物は沖縄産陶器などが出土しているため、近世～近代相当の溝と判断される。戦前の航空写真(1945年米軍撮影)を見ると調査区一帯は畑地であり、住居などの建物は見られない。また、畑の区画方向とほぼ同一であることから、畑の区画あるいは排水路であると思われる。SD6の途中から西側に分岐する細い溝で覆土も類似することからSD5と同じく畑に関連する溝と思われる。SD7は工区1(南側)のピット集中箇所に隣接して形成された遺構である。30～50cmほど低い位置にあり、20cm～40cm大の石灰岩礫が並んで検出された。ピット集中箇所がある地形的に高い方に設置されていることから土留めであった可能性もある。SD8はSD7から5m程北側、さらに一段低い場所にあり、SD7と同じく石灰岩礫を土留め状に配置している。SD9は工区2から検出されたが、残存深度5cm程度と浅く凹地に堆積した残土の可能性はある。

第IV-14表 溝状遺構 (SD) 遺構観察表

工区	遺構No.	ベルトNo.	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	備考	グリッド
			長軸	短軸	深さ			
工区1北側	SD1	ベルト①南壁	—	130	25	24.60	北東—南西方向に延びる、SD2、SD4とはほぼ直角に交わる。北東側が高く、穏やかな勾配をもつ、ピットの集中しない場所に造られており、計画的な配置が窺える。	ズケ18-5H-ト～ノ
工区1北側	SD2	ベルト①東壁	—	102	7	25.06	北西—南東方向に延び、SD1とはほぼ直角に交わる。ピットが集中する範囲に比較的近い。幅は1m程あるが、深さが10cm程度と浅い。北西側に勾配を持つ。推定される建物の軸と同じなので雨端の可能性はある。	ズケ18-5I-エ
		ベルト②西壁	—	80	15	24.87		ズケ18-5I-エ
工区1北側	SD3	ベルト①東壁	—	238	107	23.76	SD2と同様に北西—南東方向に延びる。幅が2m～2.5m、深さも1m程度あり、断面形状は逆三角形を呈する。推定される建物の軸と同じ方向であるが、北側のピット群とは50cmほど低い位置で検出されている。排水等の溝ではなく、堀切の可能性が想定される。	ズケ18-5I-ケ
		ベルト②西壁	—	204	119	23.66		ズケ18-5I-エ
		礫集積	—	—	—	23.95		ズケ18-5I-ク
工区1北側	SD4					SD3と類似の溝。南西側が攪乱により欠失。	図なし メモ写真のみ	
工区1南側	SD5	ベルト①南壁	—	140	19	25.38	南北に延びる。周辺地形を見ると東側が高く西側へ傾斜しており、この地形に横断するように形成されている。戦前までは耕作地として利用されていたため、排水路等の機能が想定される。	ズケ18-5J-タ
		ベルト②南壁	—	112	22	25.54		ズケ18-4J-コ
		ベルト③南壁	—	130	24	25.45		ズケ18-4J-オ
工区1南側	SD6	ベルト①西壁	—	40	7	25.30	SD5からほぼ直角方向(西側)に延びる。溝幅約40cmあるが深さが7cmと浅い。	ズケ18-5J-サ
工区1南側	SD7	ベルト①北壁	—	—	—	—	傾斜する地形を横断するように形成されている。ピットが集中する箇所に隣接しており、配置などからみても関連性が窺える。深さが20～40cmと比較的しっかりとした造りになっている。	ズケ18-5J-ア
		ベルト②北壁	—	147	41	24.21		ズケ18-5J-キ
		ベルト③北壁	—	121	21	23.95		ズケ18-5J-キ
工区1南側	SD8	ベルト①北壁	—	109	27	23.71	SD7のさらに一段低い位置に配置。SD7と遺構の延びる方向や幅、深さなどの造りが類似することから、同時期に同じ目的で形成されたと思われる。	ズケ18-5J-イ
		ベルト②北壁	—	69	36	23.23		ズケ18-5J-ウ
		ベルト③南壁	—	172	39	23.02		ズケ18-5J-ウ
工区2	SD9	ベルト①	—	22	3	28.22	北東—南西方向に延びる。多数のピットに切られている。	ズケ25-4A-キ
		ベルト②	—	65	5	28.18		ズケ25-4A-キ



溝状遺構配置図 (SD1~4)

0 5m
(S=1/250)



SD1 完堀 (南西から)

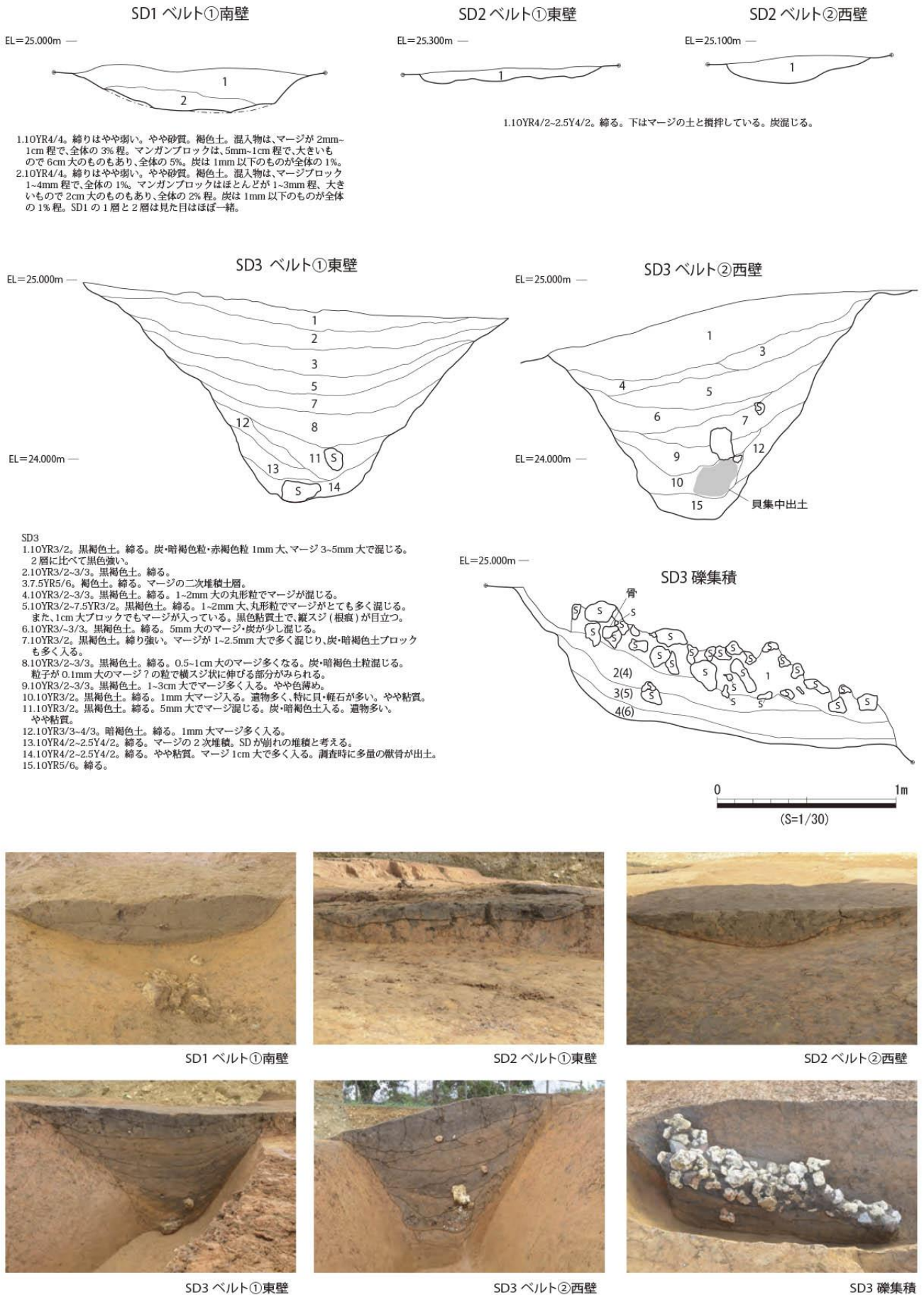


SD2, 3, 4 検出状況 (北西から)

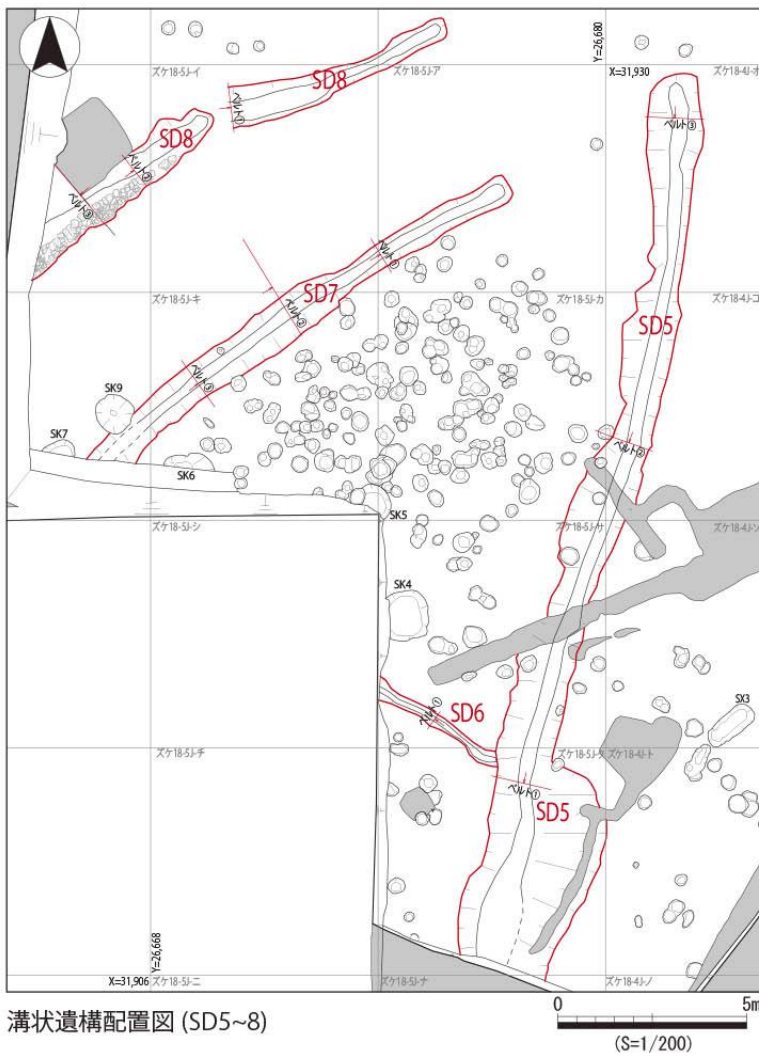


SD2, 3, 4 完堀状況 (南東から)

第IV-39図 溝状遺構 (SD 1 ~ 4)



第IV-40図 溝状遺構 (SD 1~3)



SD5 検出状況



SD5 完掘状況

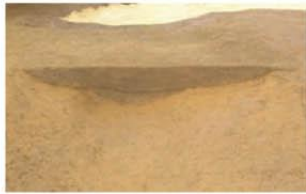


工区1 (南側) 遺構検出状況 (北から)

第IV-41図 溝状遺構 (SD 5~8)



SD7 礫検出状況



SD5 ベルト①



SD5 ベルト②



SD5 ベルト③



SD6 ベルト①



SD7 ベルト①



SD7 ベルト②



SD7 ベルト③



SD5

1. 土はぼろぼろしていて、締りは弱い。土色は、2層にマーヅがもっと多く混ざった色。混入物は、マーヅブロックが混ざり1-2cm程。SD5の1層は、SD5-②の真中にしか出ていないため、SD5の①②③のベルトには出ていない。
2. 10YR4/6。締りはやや弱い。やや砂質。褐色土。混入物は、マーヅブロック4mm-3cm程で、全体の3%。炭は1mm以下のものが混ざり、全体の2%。
3. 10YR4/6。締りはやや弱い。やや砂質。褐色土。混入物は、炭が1mm以下のものが混ざる。
4. 10YR5/8。締りはやや弱い。やや砂質。黄褐色土。混入物は、炭が1mm以下のものが全体の1%。

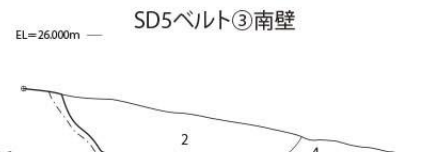


SD6ベルト①西壁

EL=25.400m



1. 10YR4/6。締りはやや弱い。やや砂質。褐色土。混入物は、マーヅが2.3-7cm程で全体の30%程。炭は1mm以下のものが全体の1%。

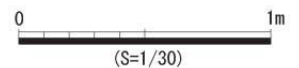


SD7

1. 10YR4/2-2.5Y4/2。締りはやや強く、やや砂質。土色は暗め。炭は1-3mm大が少し混ざる。マーヅは1層全体の3%程。焼土・小石も少し混ざる。
2. 10YR4/2-2.5Y4/2。締りはやや強く、やや砂質。土色は暗め。炭は1-5mm大が少し混ざる、マーヅは2層全体の10%程。
3. 10YR4/2-2.5Y4/2。締りはやや強く、やや砂質。土色は暗め。マーヅは3層全体の10-15%程。下が地山でそれが混ざっている感じ。石積み1の裏込めと入れた土と考える。



4. 10YR4/2-2.5Y4/2。締りはやや強く、やや砂質で、2層よりもほんの少し粘質っぽい。土色は暗め。炭は2層よりも少ない。マーヅは4層全体の20%程で、マーヅの粒は2層よりは小さくなり、5mm大程になる。



第IV-42 図 溝状遺構 (SD 5~7)



SD8 検出状況



SD8 ベルト①



SD8 ベルト②



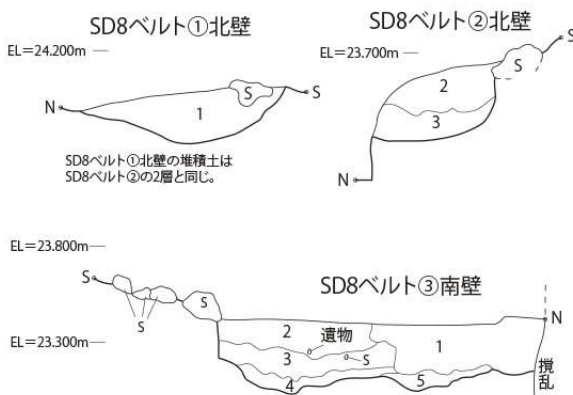
SD8 ベルト③



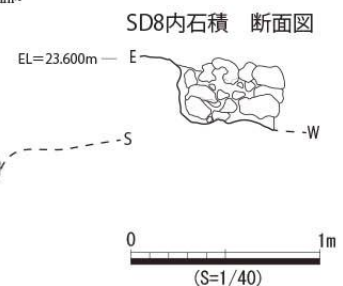
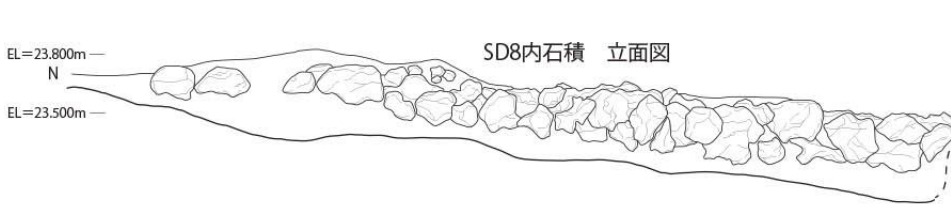
SD8 礎検出状況



SD8 内石積断面



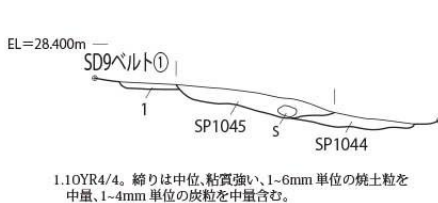
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色よりやや暗い。締りはよく、粘性はやや強い。混入物は 5mm 大赤褐色土粒 1% 未満、2mm 大炭粒 1%、2-5mm 大焼土粒及びマージ粒 5% 入る。焼土粒は不定形で筋状を呈する。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色。締りは弱く、粘性はとても強い。混入物は 1mm 大炭粒 1%、5mm 大マージ粒 10%、1mm-1cm 大焼土粒 15% 入る。マージ粒は下層に多く堆積する。染付出土。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色。締りはよく粘性はとても強い。混入物は 1mm 大炭粒 1%、2-5mm 大焼土粒 3%、2-5mm 大マージ粒 15% 入る。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色よりやや暗い。締りは強く粘性は2層と同じ。混入物は 1mm 大炭粒 1% 未満、2mm 大焼土粒 5%、2-5mm 大マージ粒 10% 入る。焼土粒は筋状を呈する。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色より明るい。締りは強く、粘性強い。混入物は 1mm 大炭粒 1%、1mm-1cm 大焼土粒 10%、5mm-1cm 大マージ粒 30% 入る。焼土粒は筋状を呈する。



SD9 ベルト①



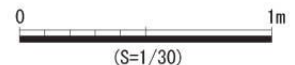
SD9 ベルト②



1. 10YR4/4。締りは中位、粘質強い、1-6mm 単位の焼土粒を中量、1-4mm 単位の炭粒を中量含む。



1. 10YR4/4 及び 10YR4/6。締りはやや強い、粘質は強い、2-6mm 単位の焼土粒を少量、2-4mm 単位の炭粒を少量含む。



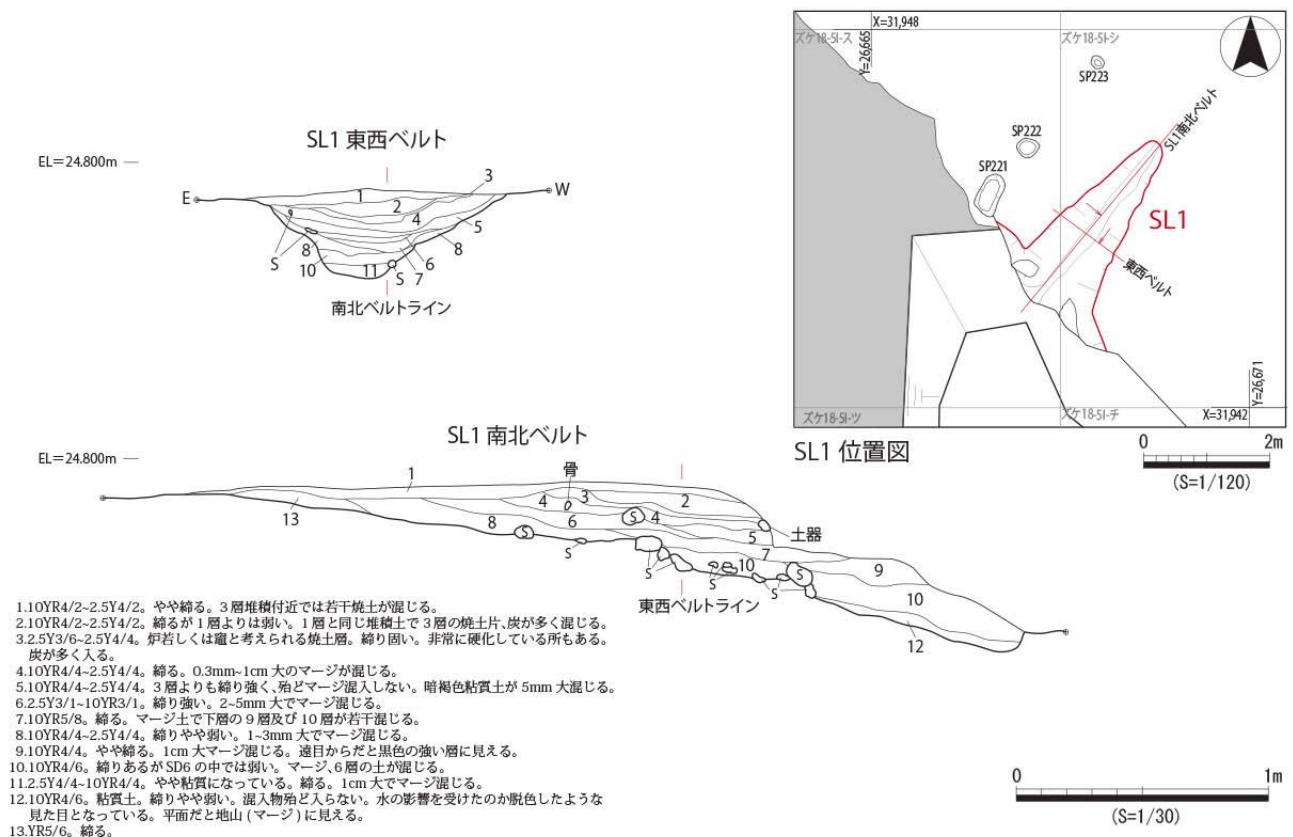
第IV-43 図 溝状遺 (SD 8・9)

5. 炉跡 (SL)

本遺跡で確認された炉跡は工区1 (北側) で検出されたSL 1の1基のみである。ピット集中箇所から南側5~8mほど離れた位置で検出された。当初検出時は北東側に窄まる三角形を呈していたが、中央に方形に焼土(被熱部)を確認した。断面を確認するために十字に小トレンチを設定したところ、被熱部は中央部が窪んでいることが判明した。

第IV-15表 炉跡 (SL) 遺構観察表

工区	遺構No.	ベルトNo.	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	備考	グリッド
			残長	幅	深さ			
工区1北側	SL1	南北ベルト	—	333	33	24.03	被熱により土の赤色、硬化及び炭化物が集中することなどから炉跡と思われる。北東方向に窄まるような平面形状となっているが、被熱による硬化部分は遺構の中央、長方形(50cm×60cm)の範囲である。南西側は攪乱で消失しているため、全形は不明。	スケ18-5エ-シ
		東西ベルト	—	106	36	24.34		スケ18-5エ-シ



第IV-44図 炉跡 (SL)

第4節 遺物

新城上殿遺跡出土の遺物は総数 4426 点が出土しており、先史土器・グスク土器・沖縄産陶磁器・カムイヤキ・輸入陶磁器・石器・銭貨・その他金属製品などが得られた。

1. 先史土器

先史土器は総数 137 点出土しており、そのほとんどが 5 cm 以下の細片で全形が窺える資料は得られなかった。特徴的な資料としてくびれ平底土器資料が出土している。比較的状态の良いもの 3 点を第IV -16 表、第IV -45 図、図版IV -10 にて報告する。

2. グスク土器

グスク土器は総数 967 点出土しており、鍋・壺などの資料が得られている。2 cm 以下の細片がほとんどであった。比較的状态の良いもの 8 点を第IV -16 表、第IV -45 図、図版IV -10 にて報告する。

3. 沖縄産陶器

(1) 沖縄産無釉陶器・・・総数 190 点出土しており、鉢・火炉・播鉢などが得られている。比較的状态の良いもの 5 点を第IV -18 表、第IV -49 図、図版IV -14 にて報告する。分類については『宜野湾市文化財調査報告書 第 45 集 嘉数トゥンヤマ遺跡Ⅱ』第 6 表参照。

(2) 沖縄産施釉陶器・・・総数 95 点出土しており、碗などが得られている。2 点を第IV -18 表、第IV -48 図、図版IV 13 にて報告する。

また、沖縄産施釉陶器の分類について『宜野湾市文化財調査報告書 第 45 集 嘉数トゥンヤマ遺跡Ⅱ』を参考に施釉技法、釉葉の種類、口縁形態、腰の張り具合によって以下の通り分類を行った。

【施釉技法】

I 類 釉葉を単掛けするもの

器面に一種類の釉葉をそのまま施釉するもので、施釉範囲は内外器面あるいは外面のみ及ぶ。

II 類 内外面の釉葉を掛け分けるもの

外器面に鉄釉や黒釉などを施釉したあと、内器面に灰釉を掛けるもので、①内器面に白化粧を施さないもの、②内器面に白化粧を施したあとで灰釉を施すもの。

III 類 内外器面に白化粧し、透明釉を施すもの

器面の内外に白化粧を施し、さらにその上から透明釉を施すもの

- (1) フィガキーするもの
- (2) 錆釉葉による同心円を施すもの
- (3) 蛇の目釉剥ぎを行うもの

【釉葉の種類】

- (イ) 灰釉 透明～半透明で灰色、褐色、オリーブ褐色などを呈する。
- (ロ) 鉄釉 褐色～暗褐色を呈する。
- (ハ) 黒釉 黒色を呈する。

【口縁形態・腰の張り】

- A 直口するもの
- B 外反するもの
- C 玉縁のもの

- (a) 腰が張らないもの
- (b) 腰が張るもの

4. カムィヤキ

カムィヤキは総数7点出土している。比較的状態の良いものを2点、第IV-17表、第IV-46図、図版IV-11にて報告する。

5. 中国産陶磁器

中国産陶磁器は総数431点出土しており、白磁・青磁・青花・褐釉陶器が得られている。それぞれ状態の良いものを第IV-17・18表、第IV-46～48図、図版IV-11～13にて報告する。また、中国産陶磁器の分類について『宜野湾市文化財調査報告書 第43集 嘉数トゥンヤマ遺跡I』を参考に口縁形態と文様によって分類を行った。

- (1) 青磁・・・265点得られた資料の内、碗・碁笥平底・盤を11点報告する。以下参考した分類を抜粋して表記する。

盤Ⅰ類…鏝縁盤 鏝縁をつまみ上げて成形しており、内面には篋描きの連弁文を施す

碗Ⅲ類…鎬連弁文碗 直口タイプで外面に鎬を削りだした後、片切彫りにより連弁文を描いている。

碗ⅩⅣ類…薄手直口碗 薄手直口タイプで、口縁が逆ハの字状に大きく開く。高台は広く、浅い。

皿Ⅴ類…直口皿 直口タイプの皿。無文のものと外面に片切彫りの連弁文を描くものがある。

- (2) 青花・・・68点得られた資料の内、碗・皿・高杯・小杯を8点報告する。以下参考した分類を抜粋して表記する。

皿Ⅰ類…外反皿

碗Ⅱ類…直口碗 薄手で丁寧な成形。外面に唐草文を描く。

- (3) 白磁・・・47点得られた資料の内、碗・皿を7点報告する。以下参考にした分類を抜粋して表記する。

皿Ⅰ類…口禿皿 薄手成形で口唇部を露胎とするいわゆる口禿皿である。

碗Ⅲ類…内彎口縁タイプ ビロースクタイプと称される内彎型の碗。

ビロースクタイプ碗Ⅰ類に相当。

碗Ⅶ類…薄手直口碗 薄手直口碗で、逆ハの字状に開く器形。今帰仁タイプⅣ類に相当。

- (4) 褐釉陶器・・・52点得られた資料の内、1点報告する。

6. 本土産磁器

本土産磁器は総数54点が出土しており、小杯・皿などが得られている。4点を第IV-18表、第IV-48図、図版IV-13にて報告する。

7. 石器

石器は総数 147 点が出土している（石材含む）。そのうち 7 点を第IV -19 表、第IV -50、51 図、図版 IV -15・16 にて報告する。

8. 銭貨

銭貨は総数 4 点が出土している。第IV -19 表、第IV -51 図、図版IV -16 にて報告する。

9. その他

金属製品・ガラス製品などが総数 422 点出土している。そのうち 4 点を第IV -19 表、第IV -51 図、図版IV -16 にて報告する。

第IV-16表 出土遺物観察一覧1

挿図番号 図版番号	器種・分類	部位	法量(cm)			胎土、混和材	色調	観察事項	出土地	
			口径	底径	器高					
第IV-45図 図版IV-10	1	先史土器	底	—	5.3	—	黒色砂粒、赤色砂粒	外内面にぶい橙	くびれ平底。内底面に指圧痕あり。焼成良好。	H28 西フテ1区 <327> (SD3 1層)
	2	先史土器	底	—	5.4	—	白色砂粒、黒色砂粒、	外内面にぶい橙	くびれ平底。焼成不良。	H28 西フテ1区 <363> (SD3 3層)
	3	先史土器	底	—	4.2	—	白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒	外面 橙 内面にぶい黄褐色	くびれ平底。7より小型で焼成良好。	H28 西フテ1区 <395> (SD3 6層)
	4	グスク土器	口	13.9	—	—	黒色砂粒、赤色砂粒、雲母	外面 橙 内面にぶい黄褐色	壺の口縁部。口縁外反。口縁から下方にくびれて広がり、頸部は作らない。	H28 西フテ1区 <462> (SD4 3層)
	5	グスク土器	口	13.8	—	—	黒色砂粒、赤色砂粒、雲母	外面 橙 内面にぶい黄褐色	壺の口縁部。口縁外反。口縁から下方にくびれて広がり、頸部は作らない。	H28 西フテ1区 <469> (SD4)
	6	グスク土器	口	—	—	—	白色砂粒、赤色砂粒	外面にぶい黄褐色 内面 明黄褐色	鍋の口縁部。口縁外反し舌状を呈する。口唇にはススが付着する。	H28 西フテ1区 <330> (SD3)
	7	グスク土器	口	—	—	—	白色砂粒、赤色砂粒	外面 褐色 内面 明褐色	器種不明の口縁部。口縁内湾する。内面に工具による調整痕がみられる。	H28 西フテ1区 <401> (SD3 レキ内)
	8	グスク土器	底	—	12.4	—	黒色砂粒、赤色砂粒、雲母	外面にぶい黄橙 内面 橙	内面に指圧による調整痕明瞭。器厚は6と比べて薄い。	H28 西フテ1区 <685> (SD3 2層)
	9	グスク土器	底	—	12.4	—	白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母	外面 橙 内面にぶい黄橙	内外面に指圧による調整痕明瞭。外面に広くススが付着する。器壁は厚く焼成はやや悪い。	H28 西フテ1区 <395> (SD3 6層)
	10	グスク土器	底	—	14.6	—	白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒	外面にぶい黄橙 内面 橙	焼成良好で内外面はあばた状を呈する。立ち上がりは急で外底面は平らに成形される。	H28 西フテ1区 <404> (SD3)
	11	グスク土器	底	—	13	—	白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒	外面 橙 内面にぶい黄褐色	焼成良好で内外面はあばた状を呈する。内底面に指圧による調整痕明瞭。立ち上がりは緩やか。	H28 西フテ1区 <695> (SD3 6層)

第IV-17表 出土遺物観察一覧2

挿図番号 図版番号	器種・分類		部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地		
第IV-46図 図版IV-11	12	カムイヤキ	壺	口縁	18 — —	カムイヤキの口縁部。口縁外反し、先端がわずかに下方に肥厚する。色調は内外 灰色。焼成良好。	H28 西フテ1区 <372> (SD3 4層)	
	13		—	胴	— — —	カムイヤキの胴部。小片のため器種不明。内外面に叩き痕あり。色調は内外 暗オリーブ灰。焼成良好。	H28 西フテ1区 <694> (SD3 6層)	
	14	中国産	青磁 碗 XIV類	口	14 — —	口縁直口。薄手で口唇はまるみを帯びる。素地は灰色、焼成は緻密。両面に釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ1区 <407> (SD3)	
	15		青磁 碗 III類	底	— — 5.4	高台内面が露胎する。畳付けは釉剥ぎされる。素地は白色、焼成は緻密。見込みに線彫りで花文を描き、その上から内外両面に釉を施す。	H28 西フテ1区 <682> (SD3 1層)	
	16		青磁 碗	底	— — 5.6	大型碗の底部。高台内面に削り痕あり。高台内面は露胎する。素地は灰白色、焼成は緻密。内外両面に釉を施す。畳付けは釉剥ぎされる。貫入あり。	H28 西フテ1区 <609> (SP2,SP3)	
	17		青磁 碗 III類	口	13.4 — —	口縁直口。沈線文による連弁文が胴部を一巡する。素地は灰色で焼成はやや粗い。貫入あり。	H28 西フテ1区 <607> (SK3)	
	18		青磁 碗	口	— — —	口縁外反し、胴部に叉状工具による無鎚連弁文を施す。素地は灰白色で焼成は緻密。両面に釉を施す。貫入あり。	H28 西フテ1区 <333> (SD3 1層)	
	19		青磁 碗	底	— — 5.4	高台を作らず緩やかに立ち上がる。素地は灰色で焼成は緻密。両面に釉を施す。外面底部中央部は露胎する。貫入あり。	H28 西フテ1区 <691>	
	20		青磁 碁笥 平底	V類	口~底	12.6 3.7 8.2	口縁直口。外面には線彫りの圏線が数条廻る。底部は高台を作らず緩やかに立ち上がる。素地は灰色で焼成は緻密。両面に釉を施す。外面底部中央部は露胎する。貫入なし。	H28 西フテ1区 <336> (SD3 1層)
	21		青磁 碗 III類	口	— — —	口縁外反し、胴部に片切彫りによる鎚連弁文を施す。鎚は明瞭。素地は灰色で焼成は緻密。両面に釉を施す。貫入あり。	H28 西フテ1区 <329> (SD3 1層)	
	22		青磁 碗 III類	底	— — 5.2	連弁文が施される碗。高台は小さく作りは丁寧。素地は淡黄白色で緻密。両面に釉を施す。細かい貫入あり。高台内面は無釉。	H28 西フテ1区 <687> (SD3 2層)	
	23		青磁 盤	底	— — 13.2	大型盤の底部。高台は低く、厚い。素地は灰白色で焼成は緻密。両面に釉を施す。外底面は露胎する。細かい貫入あり。	H28 西フテ1区 <525> (III層)	
	24	青磁 盤 I類	口	— — —	口縁外反し、口唇三角状に肥厚する。内面口縁直下に陵を作り、縦に数条の沈線を描く。素地は黄灰色で焼成は緻密。両面に釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ1区 <612> (SP21)		
	第IV-47図 図版IV-12	25	中国産	染付 平皿 I類	口~底	19.9 3.5 10.5	口縁外反。口縁と見込みに青釉の圏線が廻り、見込みと胴部に草花文を描く。素地は白色で焼成は緻密。内外面に青釉で圏線と草花文を描き、その上から青白色の透明釉を施す。	H28 西フテ1区 <626> (SP165)
26		染付 平皿		底	— — 5.4	平皿の底部片。見込みと胴部に文様を施す。中央部が欠損するため文様の詳細は不明。素地は白色で焼成は緻密。青釉で見込みと高台周辺に圏線と文様を施した後前面に青白色の釉を施す。	H28 西フテ1区 <512> (III層)	
27		染付 —		胴	— — —	外面に圏線と草花文を施す。内面は見込みに圏線が廻る。素地は白色で焼成は緻密。外面に青釉で草花文を描いた後前面に青白色の釉を施す。貫入あり。	H28 西フテ1区 <14> (SK3)	
28		染付 高坏		底	— — 3.5	高坏の底部。内底面には文様が施される。高台下部に一条圏線が廻る。畳付けは釉剥ぎされる。素地は白色で焼成は緻密。施文した後、青白色の釉を施す。	H28 西フテ1区 <20> (SX3)	
29		染付 水差し		注ぎ口	— — —	水差しの注ぎ口部分だと考えられる。文様が施される。孔径約0.6cm。素地は白色で焼成は緻密。外面に青釉で施文し、その上から青白色の透明釉を施す。内面は釉が掛かっている。	H28 西フテ1区 <215> (SK1)	
30		染付 碗 II類		口	— — —	口縁直口。口縁内面に一条圏線が廻り、胴部外面には文様が施される。素地は灰白色で焼成は緻密。胴部に圏線と文様を描き、その上から青灰色釉を施す。	H28 西フテ1区 <432> (SD7 1層)	
31		染付 小杯		底	— — 2.0	見込みと胴部に構成不明の文様を施す。素地は白色で焼成は緻密。胴部と内底面に文様を描き、その上から青灰色釉を施す。	H28 西フテ1区 <535> (III層)	

第IV-18表 出土遺物観察一覧3

挿図番号 図版番号		器種・分類				部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地	
第IV-47図 図版IV-12	32	中国産	染付	碗		底	— — 6.4	立ち上がりには圈線が一条めぐり、胴部には蔓草文が施される。素地は灰白色で焼成は緻密。胴部に文様を描き、高台と見込み以外に青灰色釉を施す。	H28 西フテ1区 <535>他 (Ⅲ層)	
第IV-48図 図版IV-13	33	中国産	白磁	碗	Ⅶ類	口～底	14 5.2 5.2	口縁直口し、腰は張らない。高台が低い。轆轤引き。全体的に成形が雑で成形と調整の痕が明瞭に残る。素地は黄灰色の粒子。焼成はよい。内外面の胴部までに釉を施す。外面胴部に釉掛けが雑な部分あり。細かい貫入あり。	H28 西フテ1区 <640> (SP267 1層)	
	34		白磁	碗	Ⅰ類	口	15.8 — —	玉縁口縁部。逆ハの字状に外反する。玉縁の下部は工具によって縁どられる。素地は黄灰色の粒子。焼成はよい。黄灰白色の釉を両面に施す。貫入はなく、外面に気泡痕あり。	H28 西フテ1区 <595><405> (SD3)	
	35		白磁	碗	Ⅲ類	口	16.2 — —	口縁わずかに内湾する。外面は調整痕明瞭。素地は黄灰色の粒子。焼成はよい。灰白色の釉を両面に施す。貫入はなく、内外面に気泡痕あり。	H28 西フテ1区 <390> (SD3 6層)	
	36		白磁	皿		底	— — 5.8	皿の底部。小型で非常に薄い。底面は調整痕明瞭。素地は黄灰色の細粒子。焼成はよい。灰白色の釉を両面に施す。外面の施釉がやや雑で一部露胎する。貫入はなし。	H28 西フテ1区 <407> (SD3)	
	37		白磁	皿		底	— — 4.0	碁笥平底。内面に構成不明の印花文。素地は灰色の粒子。焼成はよい。灰白色の釉を両面に施す。外面の施釉がやや雑で一部露胎する。貫入はなし。	H28 西フテ1区 <461> (SD12 2層)	
	38		白磁	碗		胴～底	— — 5.4	白磁碗の底部。高台から立ち上がりまでは無釉で成形痕が明瞭。高台は低く作りが雑。素地は灰色の粒子。焼成不良？。黄灰白色の釉を外面底部以外に施す。内外面に貫入あり。	H28 西フテ1区 <360> (SD3 2層)	
	39		白磁	皿	Ⅰ類	口	13.2 — —	口縁外反し、内面の口縁直下には沈線が施される。器厚が薄いタイプの皿か。素地は灰白色の細粒子。焼成はよい。灰白色の釉を両面に施す、口唇は露胎。貫入あり。	H28 西フテ1区 <365> (SD3 3層)	
	40		褐釉 陶器	—			胴	— — —	内外面に轆轤痕明瞭。素地は灰色で焼成は緻密。全面に褐釉を施す。貫入あり。	H28 西フテ1区 <19> (SD3 6層)
	41		—	—			胴	— — —	釉は透明釉。素地は灰白色 緻密。	H28 西フテ1区 <554> (造成土)
	42		本土産 磁器	小杯	印判染付		口～胴	— — —	口縁直口してわずかに腰が張る。胴部には幾何学模様と花文が施される。釉は透明釉。素地は灰白色 緻密。	H28 西フテ1区 <567> (造成土)
43		平皿	印判染付		口	13.2 — —	口縁直口。内面に文様を施す。釉は透明釉。素地は灰白色 緻密。	H28 西フテ1区 <488> (Ⅱ層)		
44		平皿	印判染付		口～胴	— — —	口縁直口。内面に文様を施す。釉は透明釉。素地は灰白色 緻密。	H28 西フテ1区 <561> (造成土)		
45	沖縄産 施釉陶器	碗	Ⅰ	(イ)a(1)	底	— — 7.1	腰は張らずに立ち上がる。見込みに砂目あり。素地は黄灰色。内外面の胴部までに灰釉を施す。	H28 西フテ1区 <489> (Ⅱ層)		
46		碗	Ⅲ	(イ)b(3)	底	— — 5.95	底部から腰を張って立ち上がる。腰から上は欠損。胴部に点花文を施す。素地は黄白色。全面に白化粧した後青と茶色の釉で文様を施し、透明釉を施す。見込みは蛇の目釉剥ぎされる。畳付けは釉剥ぎされる。	H28 西フテ1区 <490> (Ⅱ層)		
第IV-49図 図版IV-14	47	沖縄産 無釉陶器	鉢	Ⅱ類a		口	25.3 — —	口縁内湾して口唇は平らで外面に向けて折れる。口唇端部と下部に工具によって波状文が施される。器色は明褐色。焼成良好。	H28 西フテ1区 <564> (造成土)	
	48		鉢	Ⅱ類a		口	19 — —	口縁内湾して口唇は平らで外面に向けて折れる。口唇下部に工具によって4条一組の波状文が二組施される。器色は明褐色。焼成良好。	H28 西フテ1区 <515> (Ⅲ層)	
	49		火炉			底	— — —	足付火炉の底部片。脚周辺にはナデ調整痕明瞭。外面は回転ヘラ調整。器色は褐色。焼成良好。	H28 西フテ1区 <535> (Ⅲ層)	
	50		播鉢			底	— — 10.1	播り目は細かく明瞭で、均一に施される。器色は赤褐色。焼成良好。	H28 西フテ1区 <511> (Ⅲ層)	
	51		播鉢			底	— — —	播り目は粗く、不均一に施される。質感は瓦質に近い。器色は灰褐色。焼成良好。	H28 西フテ1区 <601> (SK4)	

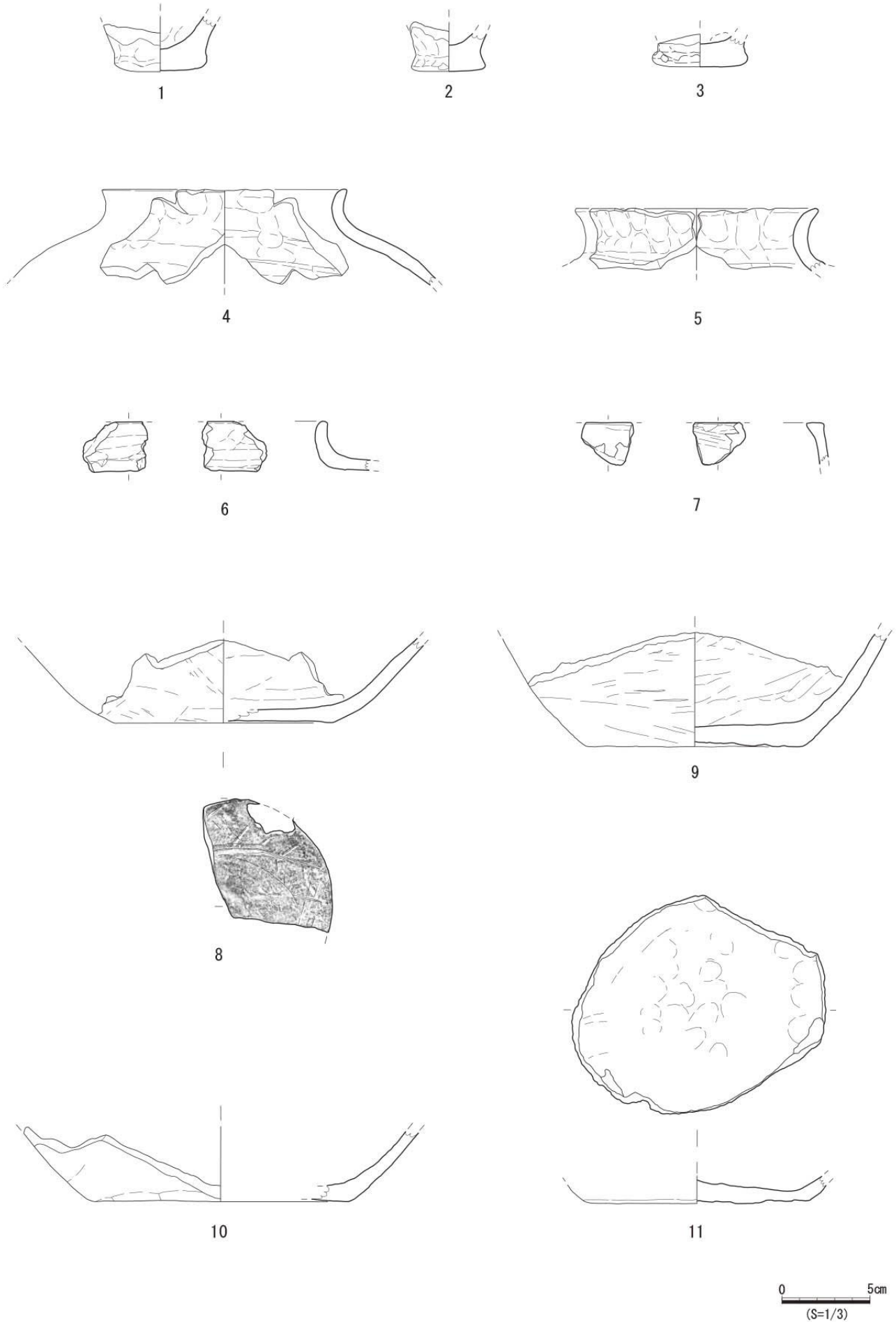
第IV-19表 出土遺物観察一覧4

挿図番号 図版番号	器種	石質	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
			長さ	幅	厚さ	重量			
第IV-50図 図版IV-15	52	敲打	9.5	5.6	5.1	410	研磨によって整えられた敲打石器。縁辺に敲打痕が集中する。	H28 西フテ1区 <535> (Ⅲ層)	
	53	石斧	10.6	7.7	2.4	375	表面が研磨によって整えられた石斧。基部は欠損。刃部に使用痕が残る。	H28 西フテ1区 <408> (SK5)	
	54	磨り石?	砂岩	10.7	7.9	4.4	375	縁辺が研磨によって整えられ、表面に使用痕が残る。大部分が欠損する。	H28 西フテ1区 <488> (SD3 2層)
	55	砥石		4.9	4.2	1.8	53.7	裏面は平らに断ち割られ、縁辺は研磨によって整えられる。表面は中央に向かってわずかに窪む。	H28 西フテ1区 <345> (SD3 2層)
	56	砥石		6	3.3	1.3	55	全面が丁寧に研磨された扁平な長方形を呈する砥石。長辺端部は使用により石斧の刃部の様相を呈するが敲打痕は確認できない。	H28 西フテ1区 <634> (SP208)
第IV-51図 図版IV-16	57	石斧	8.9	4.4	1.9	120	全面が丁寧に研磨された小型の石斧。扁平な楔形を呈する。基部の近くには凹みがみられ、柄に挟み込んで(はめ込んで)使用したと考えられる。	H28 西フテ1区 <635> (SP208)	
	58	磨製石器	10.5	5.0	3.6	370	全面が丁寧に研磨された、残存部がやや円錐状を呈する石器。端部は丸まり敲打痕が残る。	H28 西フテ1区 <631> (SP205b)	

挿図番号 図版番号	種類	分類	部位	法量				観察事項	出土地	
				長さ	幅	厚さ	重量			
図版IV-16	59	食食用ナイフ	鉄	刃部・持ち手	22	2.05	0.5	73.1	近代の食食用ナイフ。刃部は根本近くで折れている。持ち手には「ROCOS・S KOREA」の刻印。	H28 西フテ1区 <554>

挿図番号 図版番号	種類	分類	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
			銭径	孔径	銭厚	重量			
第IV-51図 図版IV-16	60	銭貨	—	2	0.7	0.2	1.1	錆びと摩耗により銭文判別不能。	H28 西フテ1区 <555> (造成土)
	61	銭貨	—	2	0.7	0.1	0.5	錆びと摩耗により銭文判別不能。一部欠損。	H28 西フテ1区 <616> (SP109)
	62	銭貨	開元通宝	2.4	0.65	0.3	2.5	開元通宝。裏は「興」の銭文	H28 西フテ1区 <679> (SD3)
	63	銭貨	—	—	—	0.2	0.9	錆びと摩耗により銭文判別不能。一部欠損。	H28 西フテ1区 <615> (SP94)

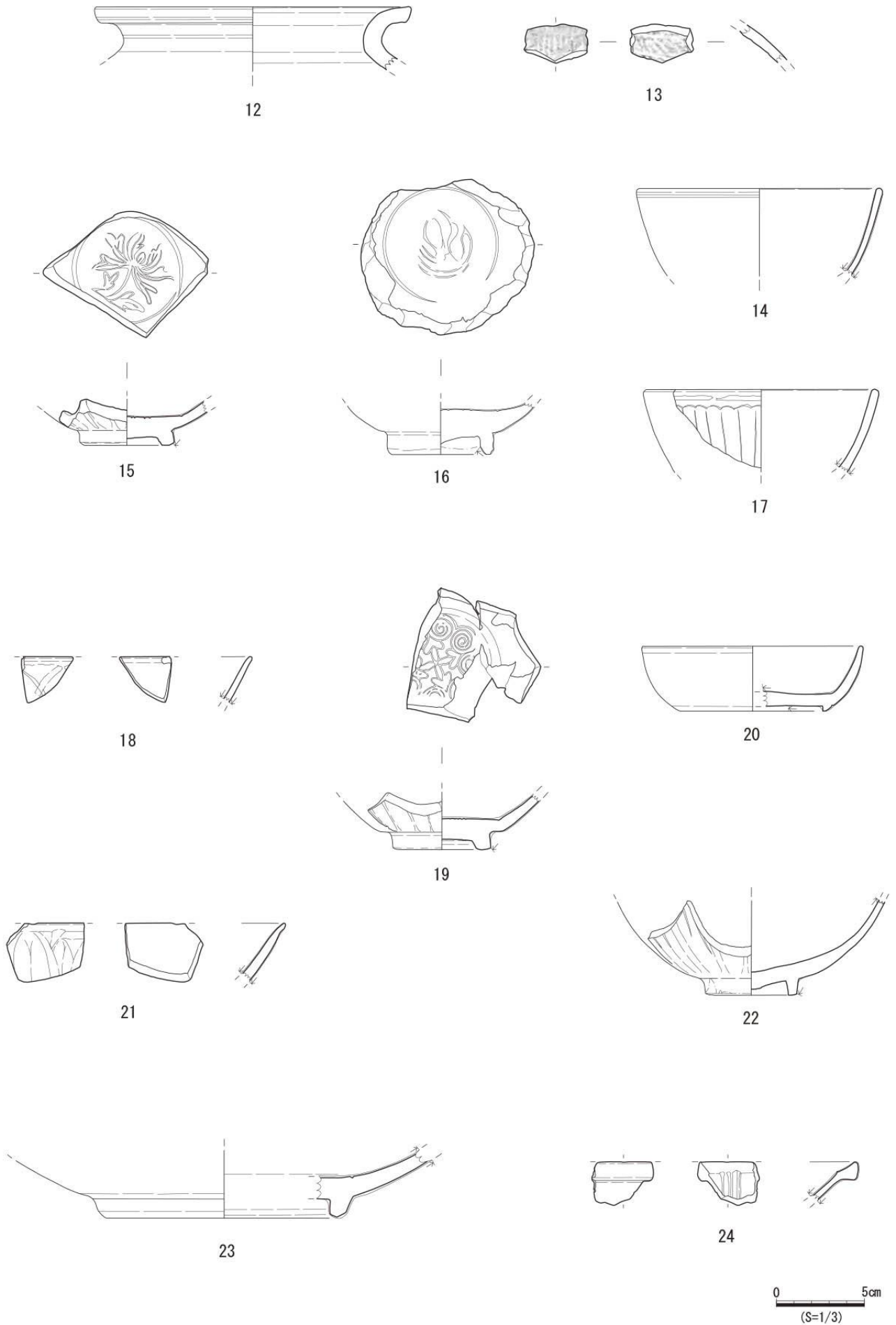
挿図番号 図版番号	分類		部位	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
	種類	材質		縦(径)	横(高)	厚(孔)	重量			
第IV-51図 図版IV-16	64	ふいご	陶質	羽口	5.1	5.3	2.7	47.5	ふいごの羽口。元は円筒形だったと考えられる。被熱が強い部分の内面には二筋裂けたような痕があるが、意図したものか不明。	H28 西フテ1区 <372> (SD3 4層)
	65	ビーズ	ガラス		0.75	0.7	0.25	0.5	青色で外径0.7cm、孔径0.2cm。やや楕円形を呈し、気泡が確認できる。	H28 西フテ1区 <656> (SP380)
図版IV-16	66	印鑑			4.4	2.6	2.25	64.3	柱状の印鑑。印影には英語と漢字(篆書体)の当て字で「DELOS FLINT/出朗寿 富林當」、持ち手には「銀杏堂」と刻印される。	H28 西フテ1区 <554> (造成土)



第IV-45 図 出土遺物 1 先史土器 (1~3)、グスク土器 (4~11)



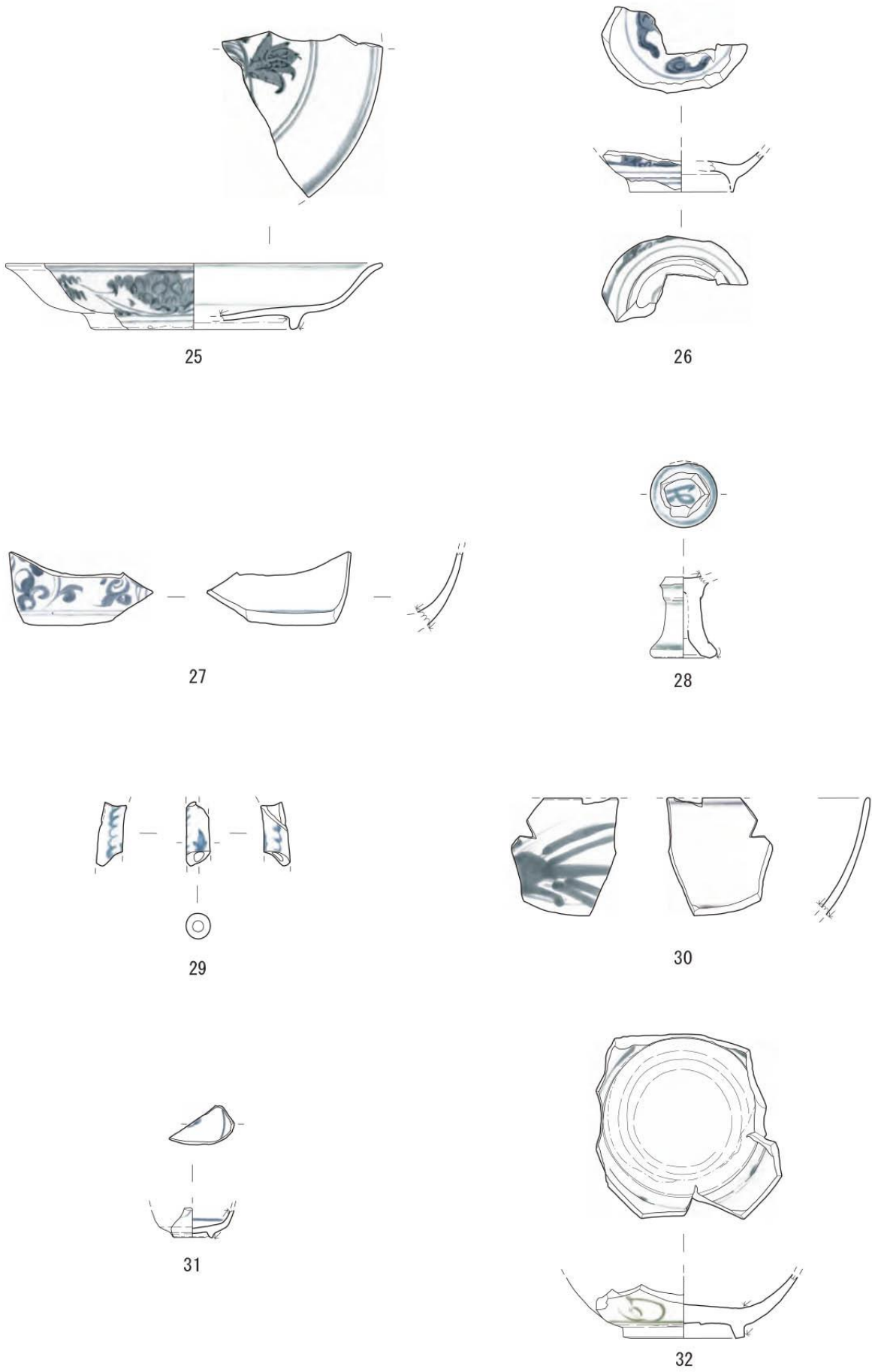
図版IV-10 出土遺物 1 先史土器 (1～3)、グスク土器 (4～11)



第IV-46 図 出土遺物2 カムイヤキ (12・13)、中国産青磁 (14～24)



図版IV-11 出土遺物2 カムイヤキ (12・13)、中国産青磁 (14～24)

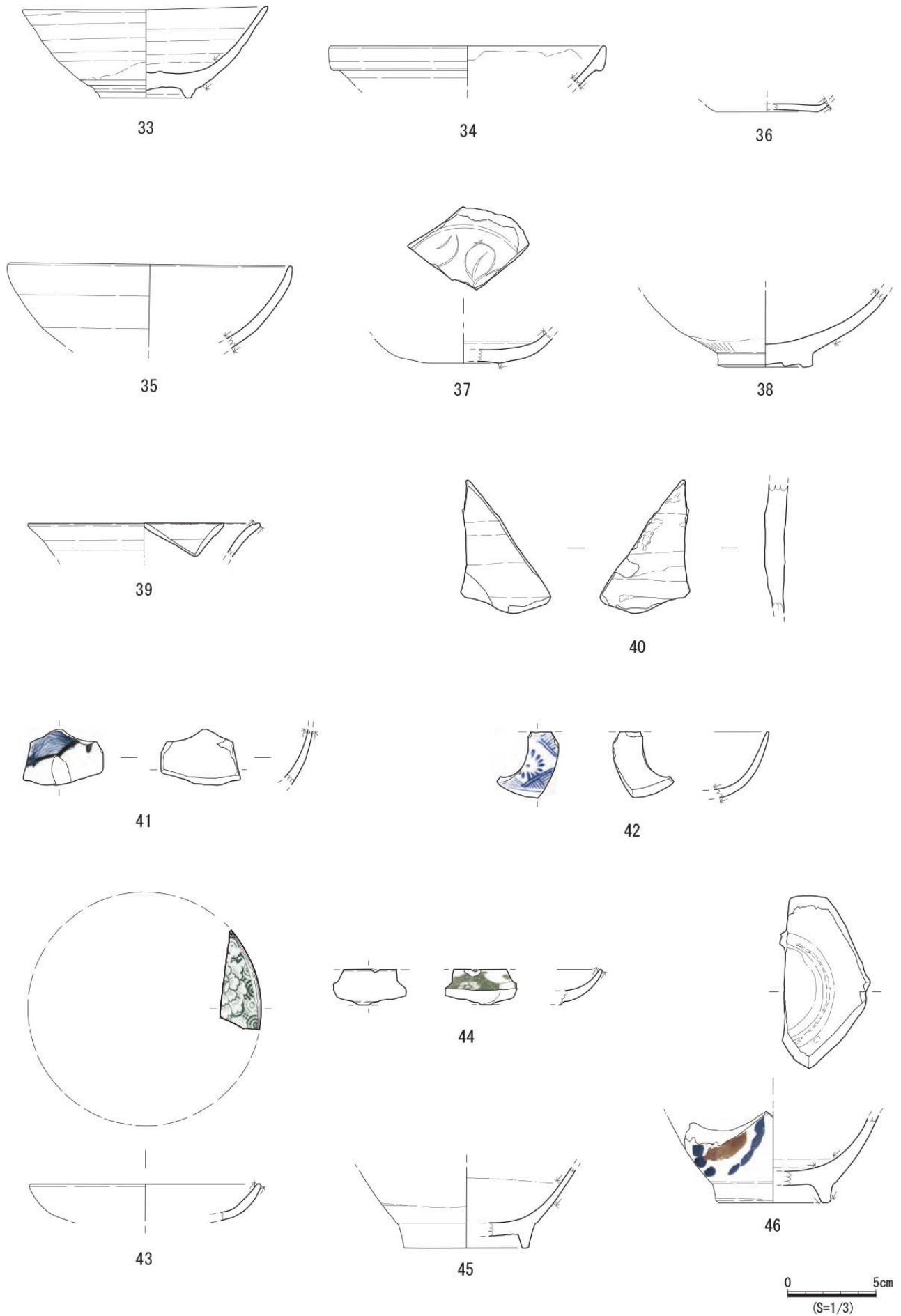


0 5cm
(S=1/3)

第IV-47图 出土遺物3 中国産染付



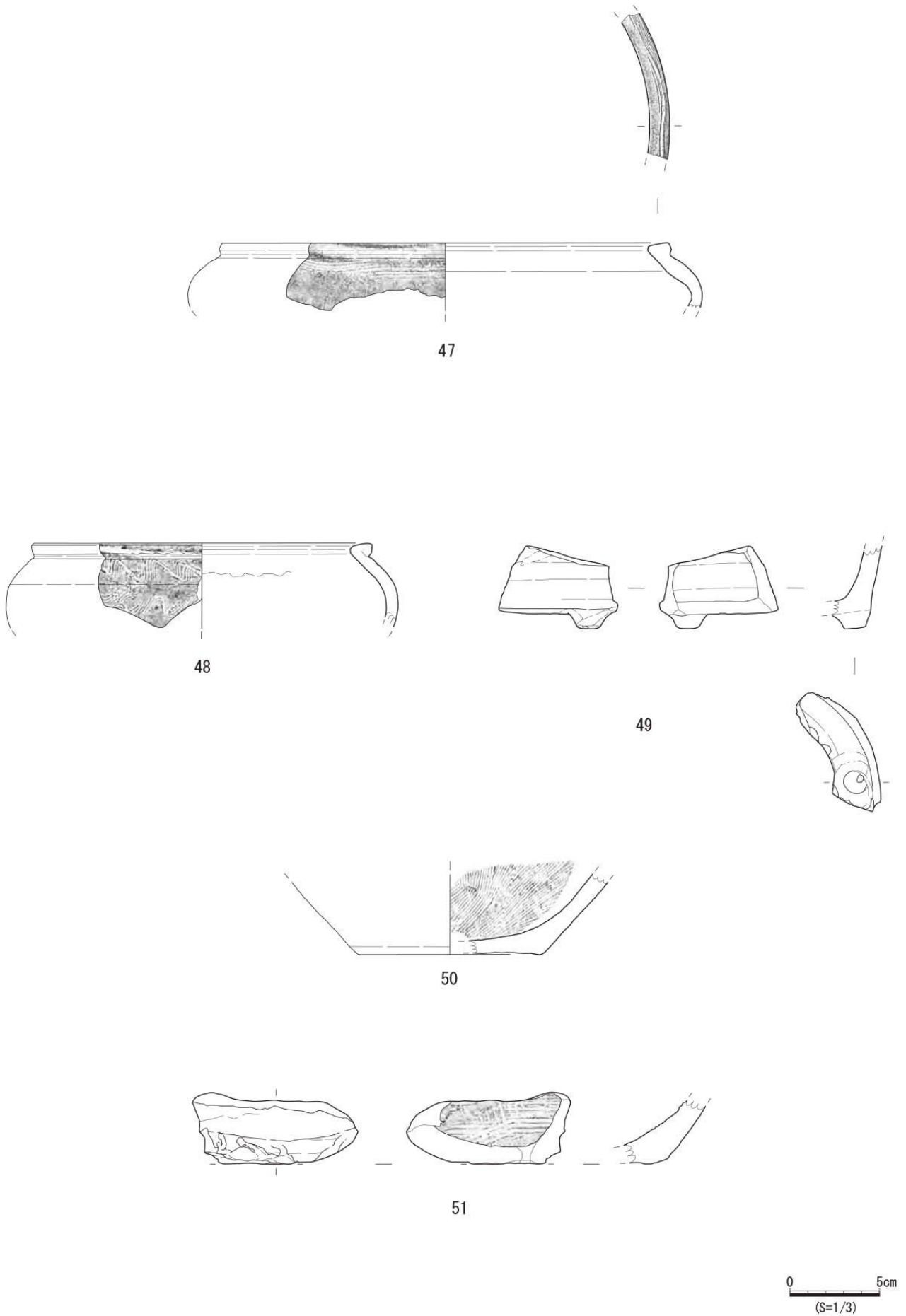
図版IV-12 出土遺物3 中国産染付



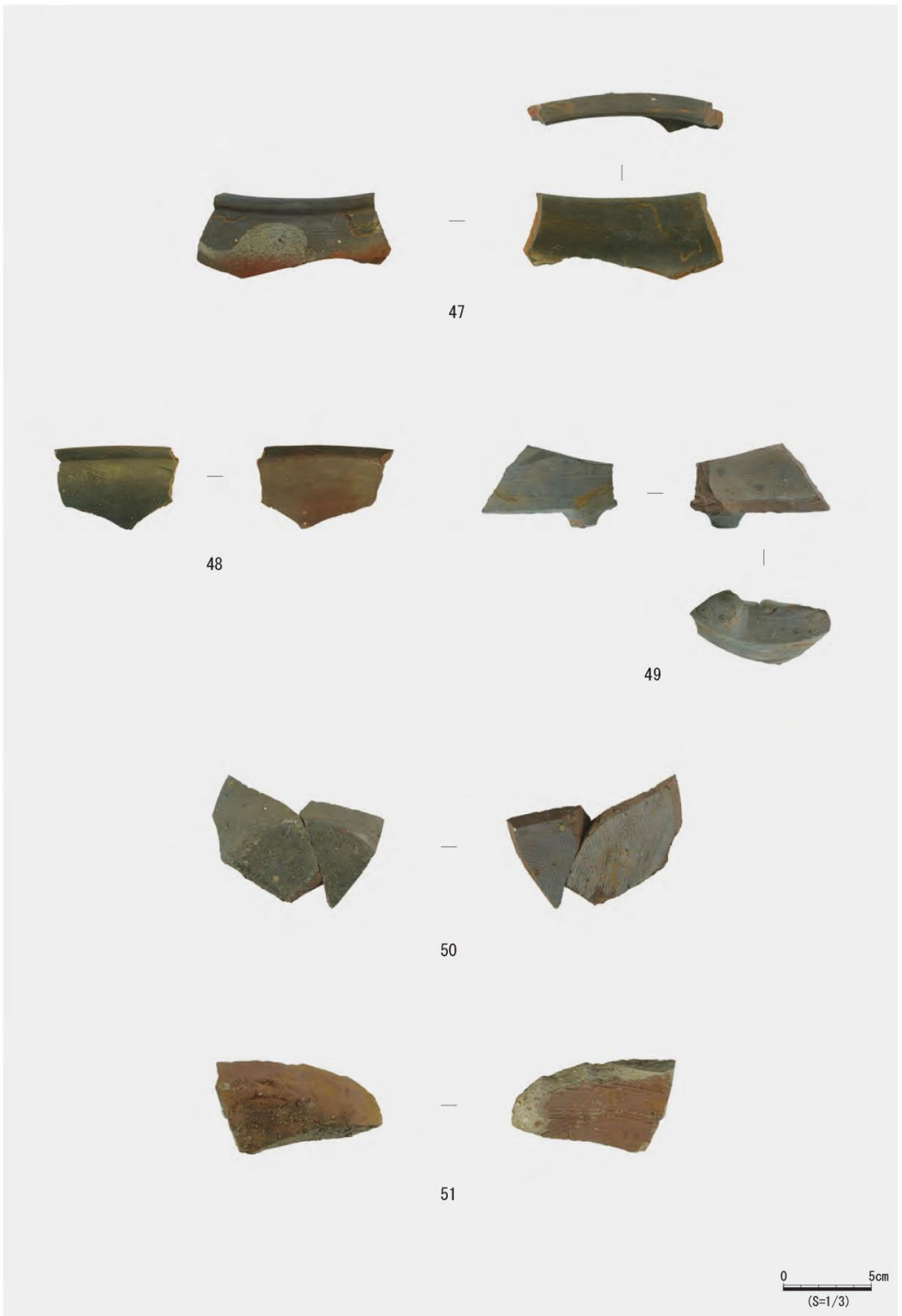
第IV-48 図 出土遺物 4 中国産白磁 (33 ~ 39)、中国産褐釉陶器 (40)、本土産磁器 (41 ~ 44)、沖縄産施釉陶器 (45・46)



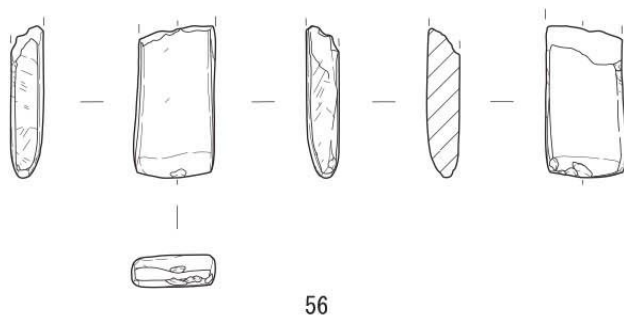
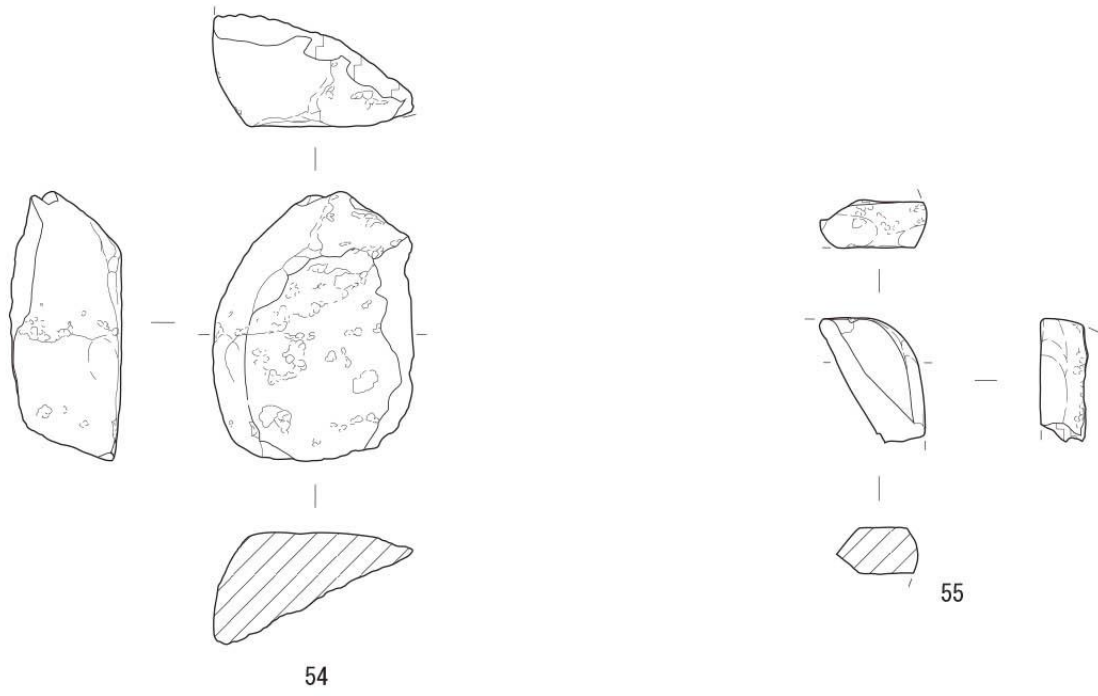
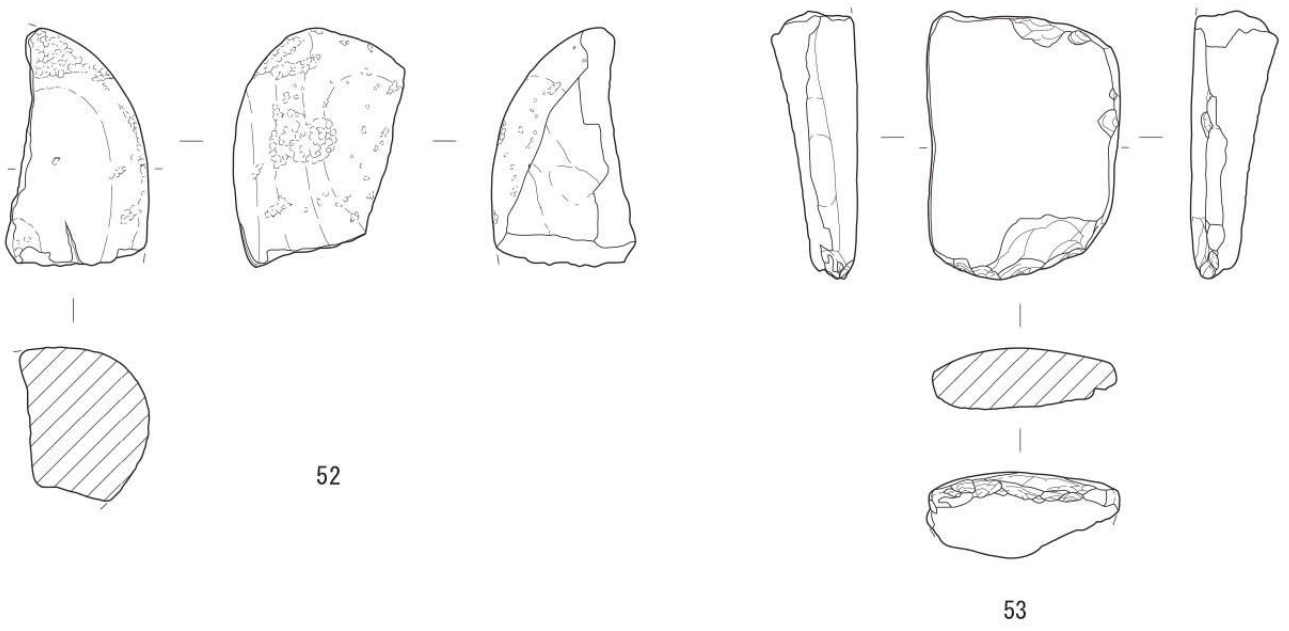
図版IV-13 出土遺物 4 中国産白磁 (33 ~ 39)、中国産褐釉陶器 (40)、本土産磁器 (41 ~ 44)、沖縄産施釉陶器 (45・46)



第IV-49 図 出土遺物 5 沖繩産無釉陶器

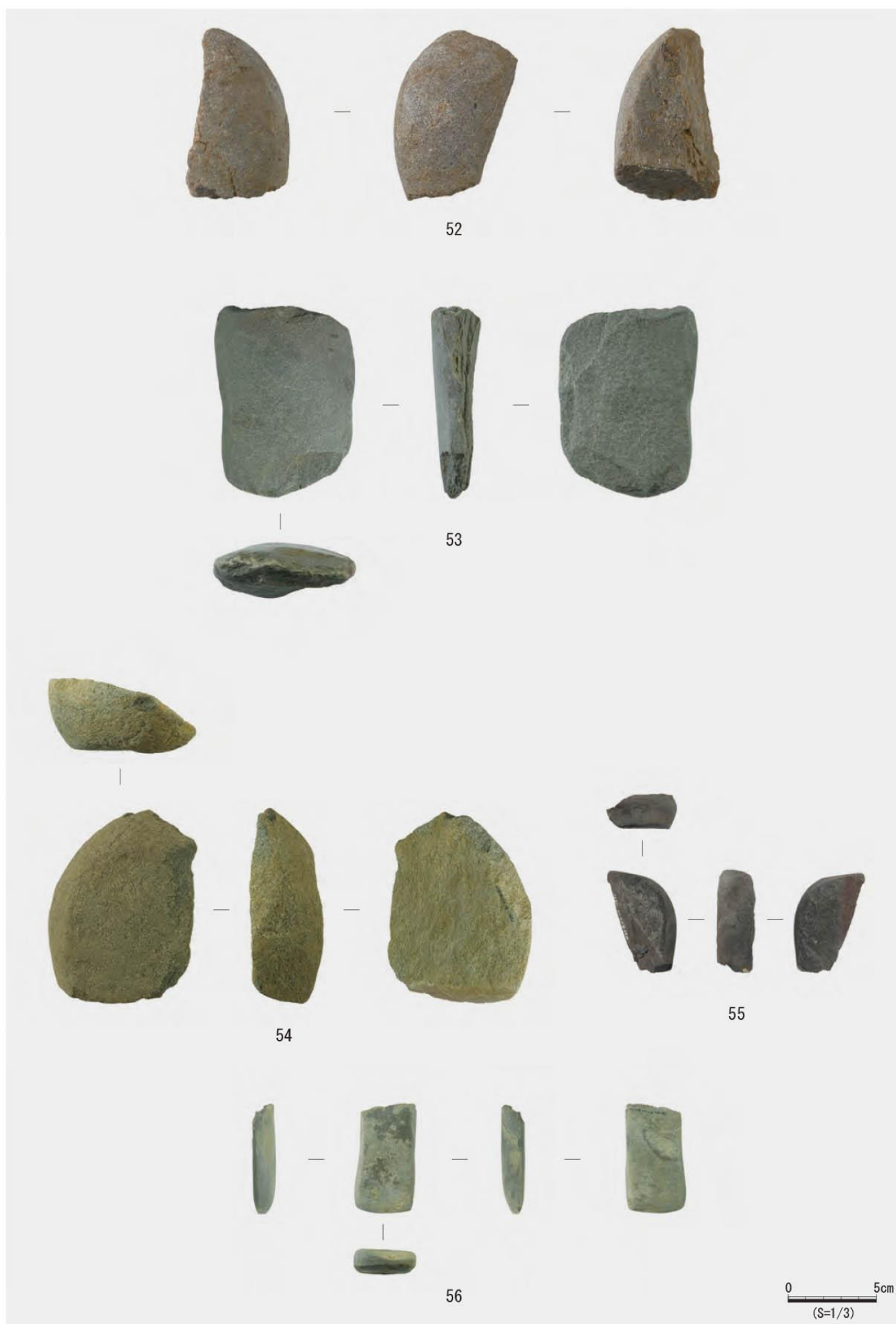


図版IV-14 出土遺物5 沖縄産無釉陶器

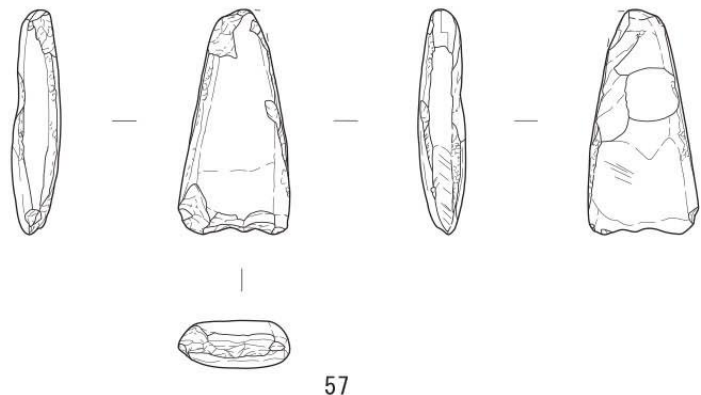


0 5cm
(S=1/3)

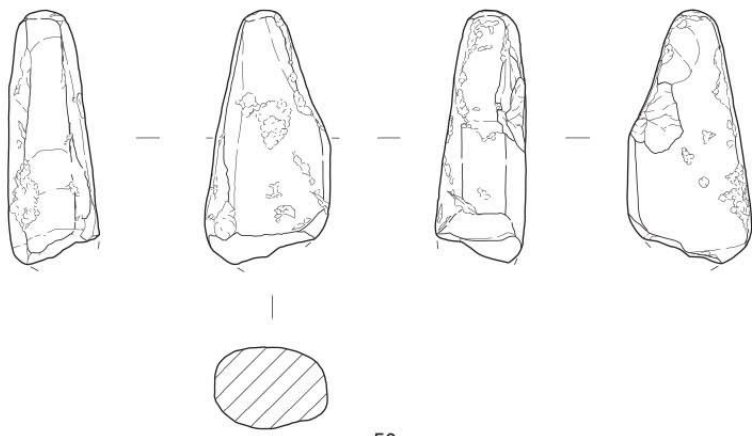
第IV-50 図 出土遺物6 石器



图版IV-15 出土遺物6 石器

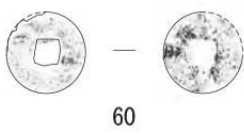


57

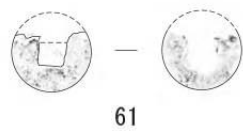


58

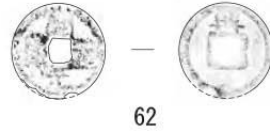
(57・58・64)
0 5cm
(S=1/3)



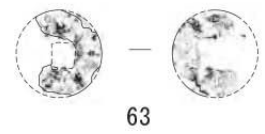
60



61

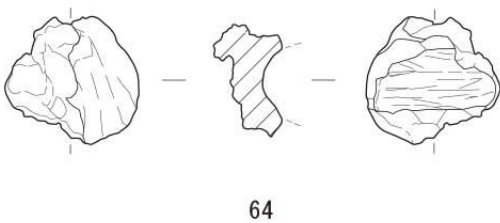


62

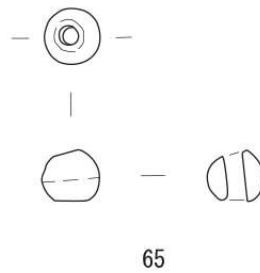


63

(60~63)
0 5cm
(S=1/2)



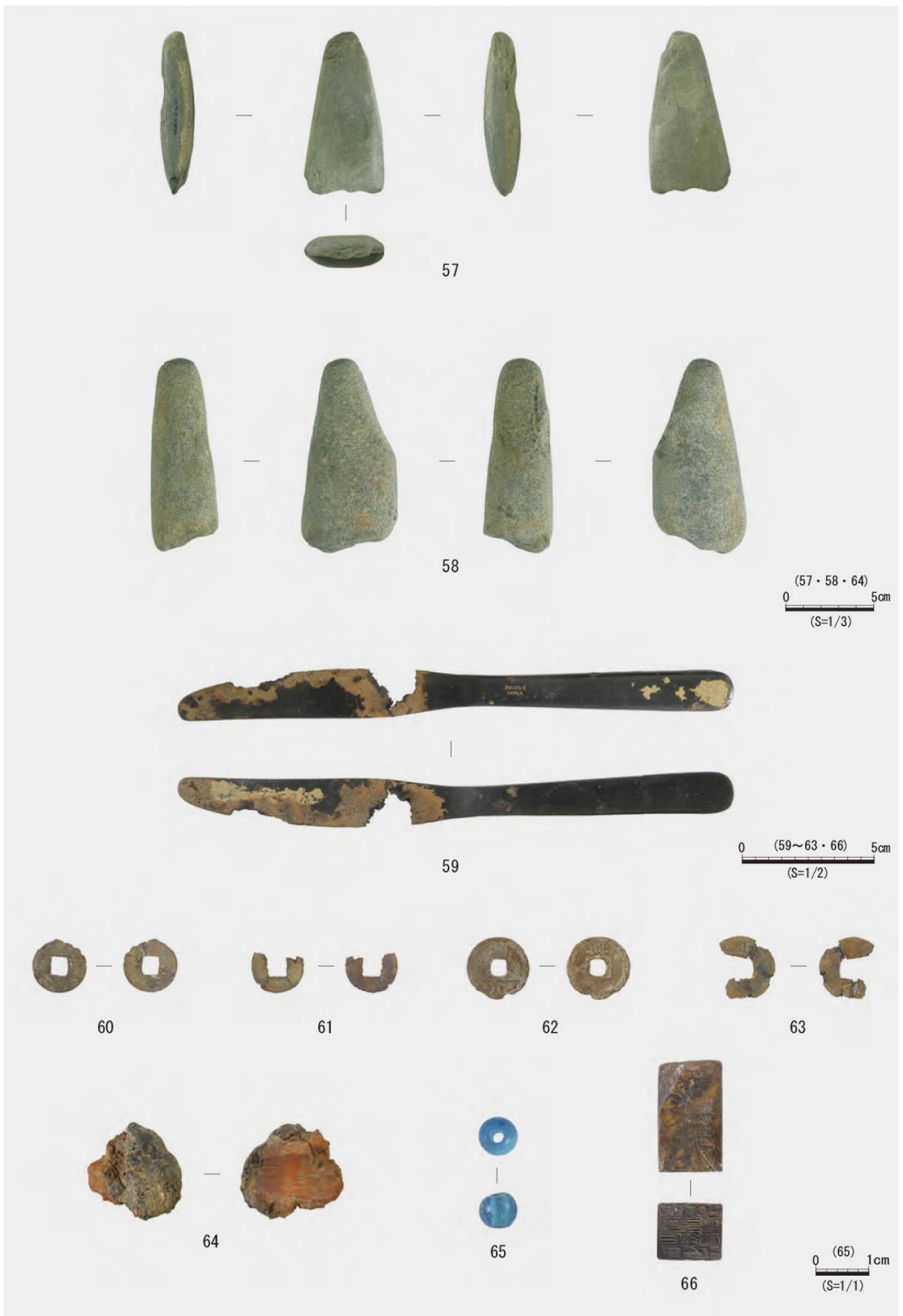
64



65

(65)
0 1cm
(S=1/1)

第IV-51 図 出土遺物 7 石器 (57・58)、銭貨 (60~63)、ふいごの羽口 (64)、ビーズ (65)



図版IV-16 出土遺物 7 石器 (57・58)、ナイフ (59)、銭貨 (60～63)、ふいごの羽口 (64)、ビーズ (65)、印鑑 (66)

第IV-25表 出土遺物集計表(2区)

層位等	種別・器種		先史土器	ガラス土器	不明土器	青花			褐釉陶器		沖縄産施釉陶器		沖縄産無釉陶器		本土産磁器	金属製品	石器・石材	貝類	骨類	その他	不明	合計	
	碗	皿				不明	碗	皿	不明	碗	皿	不明	箸鉢	不明									
I層	1001												1									1	
	1002																						6
	1004B																						1
	1006			1											1								4
	1008																						1
	1009																						6
	1010																						5
	1012																						5
	1014																						2
	1017																						2
	1018																						2
	1020																						1
	1022B					2																	5
	1029					1																	6
	1030A																						3
1040																						5	
1045					1																	5	
1049																						2	
1051																						5	
1053																						2	
1056																						1	
1057																						8	
10					1																	6	
11																						6	
9					6																	8	
1004					1																	6	
攪乱不明																						1	
																						1	
合計			1	1	22	2	1	3	1	1	1	1	1	4	5	1	11	5	13	32	7	99	

第5節 自然科学分析

1. はじめに

本遺跡の自然科学分析は、平成30年度にパリノ・サーヴェイ株式会社沖縄支店に業務委託して実施した。分析に使用した試料は、各遺構から採取した土壌試料10点で、分析項目は、花粉分析・微粒炭分析、植物珪酸体分析、微細物分析、土壌理化学分析で、土壌試料より抽出した炭化材や炭化物を対象に放射性炭素年代測定を実施した。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

分析はAMS法で実施する。試料表面の汚れや付着物をピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアル

カリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理:AAA)。濃度はHCl、NaOH共に最大1mol/Lである。一方、試料が脆弱で1mol/Lでは試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された場合は、薄い濃度のNaOHの状態での処理を終える。その場合はAaAと記す。

精製された試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。

δ13Cは試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver and Polach,1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウェアはOxcal4.3(Bronk,2009)、較正曲線はIntcal13(Reimer et al.,2013)を用いる。

(2) 花粉分析・微粒炭分析

試料10ccを正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9、濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して、出現する全ての種類を対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料ではこの

第IV-26表 分析試料および分析項目一覧

袋番号	遺構No.	分析項目				
		AMS	花粉	珪酸体	微細	土理
67	SP140	○	○	○	○	○
68	SP141				○	
73	SP183	○	○	○	○	○
74	SP185				○	
75	SP194				○	
141	SP1057				○	
142	SP569	○	○	○	○	○
143	SP585	○	○	○	○	○
	SL1	○	○	○	○	○
167	SD3	○	○	○	○	○
合計		6	6	6	10	6

1)AMS:放射性炭素年代測定、花粉:花粉分析・微粒炭分析

珪酸体:植物珪酸体分析、微細:微細物分析、土理:土壌理化学分析

限りではない)。同定は、当社保有の現生標本や島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)等を参考にする。

また、花粉プレパラート中に含まれる微粒炭(微細な炭化植物片)の含量が、自然植生に対する人類干渉の指標として有効であるとされていることから(安田,1987など)、試料中に含まれる微粒炭の含量も求める。微粒炭は花粉プレパラート内に残存するものを対象とし、同定基準は山野井(1996)、井上ほか(2002)等を参考にする。計数は、山野井(1996)などを参考にし、長径が約20 μ m以上の微粒炭を対象とし、それ以下のものは除外する。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。微粒炭量は、山野井(1996)などを参考とし、分析土壌量(cc)、分析残渣量(ml)、プレパラート作成量(μ l)を測定し、堆積物1ccあたりに含まれる個数を一覧表・図に併せて示す。この際、有効数字を考慮し、10の位を四捨五入して100単位に丸める。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2010)の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を乾土1gあたりの個数に換算)を求める。結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。

(4) 微細物分析

土壌試料から炭化物を可能な限り壊さずに回収するために、以下の方法を実施する。

1) 水洗前抽出

試料を常温乾燥後、肉眼観察で確認された炭化種実や炭化材等の遺物を抽出する。

2) 水洗

水を満たした容器に乾燥後の試料を投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(20回程度)。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩に回収された炭化物主体の試料と、0.5mm篩水洗後の残土(砂礫主体)を、それぞれ粒径4mm、2mm、1mmの篩を通し、粒径別に常温乾燥させる。

3) 抽出分類

水洗乾燥後、粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実や炭化材(主に2mm以上)、保存状態が良好な骨貝類等の遺物を抽出する。

抽出物は、個数または重量と一部の最大径を計測し、結果を一覧表で示す。分析残渣は、炭化材主体と砂礫主体、植物片主体に大まかに分け、粒径別の重量を計測し、結果を一覧表に併記する。分析後は、炭化種実を同定対象とする。他の抽出物と分析残渣は、容器に入れて保管する。

4) 炭化種実同定

炭化種実の同定は、現生標本および中山ほか(2010)、谷城(2007)、鈴木ほか(2012)等を参考に実施する。同定した分類群は、写真を添付して同定根拠とする。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。また、保存状態が良好な炭化種実を対象として、デジタルノギスで大きさを計測し、結果を一覧表に併記する。分析後は、炭化種実を分類群別に容器に入れて保管する。

(5) 土壌理化学分析

pH(H₂O)はガラス電極法、有機炭素はチューリン法、全窒素は硫酸分解-水蒸気蒸留法、MIは腐植簡易分析法(本名・山本,1992)、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、全カルシウムは硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法、可給態リン酸はトルオーグ法、全鉄はフッ化水素酸分解-原子吸光法(土壌標準分析・測定法委員会,1986)に従う。また、酸性シュウ酸塩可溶鉄、ジチオナイト可溶鉄についてAcid-oxalate法、Holmgren法(Reeuwijk,1986)に従い抽出し、原子吸光法により定量した後、永塚(1973)の方法により遊離酸化鉄の活性度・結晶化指数を算出する。以下に各項目の操作工程を示す。

1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105°Cで4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

2)pH(H₂O)

風乾細土10.0gを秤りとり、25mlの純水を加えてガラス棒で攪拌する。30分間放置後、再びガラス棒で懸濁状態とし、pHメーター(ガラス電極法)でpH(H₂O)を測定する。

3) 有機炭素

粉碎土試料0.100~2.000gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200°Cの砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

4) 全窒素

粉碎土試料1.00~2.00gをケルダール分解フラスコに秤り、分解剤約3.0gと硫酸10mlを加え加熱分解した。分解後、蒸留水約30mlを加え放冷した後、分解液全量を供試し水蒸気蒸留法によって窒素を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの全窒素量(T-N%)を求める。また、有機炭素量を全窒素量で除し、C/N(炭素率)を算出する。

5)MI(Melanic Index)

MI(Melanic Index)による腐植簡易分析は、炭素50mgに相当する微粉碎試料(但し、5.0gを上限とする)を50ml容遠心管に入れ、分注器で0.5%NaOH溶液約25mlを加える。遠心管に蓋をしてテープで密封し、室温で1時間振とうした後、0.1%高分子凝集剤溶液1~2滴を加え、よく振り混ぜた後、4,000rpm、15minの遠心分離で抽出腐植溶液を得る。吸光度の測定は、得られた抽出腐植溶液約1mlを試験管にとり、0.1%NaOH溶液20mlを分注器で加え(NaOHの濃度は約0.1%となる)、分光光度計により450、520nmの吸光度を測定する(450nmの吸光度が1を越えた試料は、さらに0.1%NaOH溶液で希釈して測定)。測定は抽出後、3時間以内に行い、結果の表示をMI(=K450/K520)で示す。

6) 全リン酸、全カルシウム

粉碎土試料 1.00g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸 (HNO₃) 約 10ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸 (HClO₄) 約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸 (P₂O₅) 濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム (CaO) 濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量 (P₂O₅mg/g) とカルシウム含量 (CaOmg/g) を求める。

7) 可給態リン酸

風乾細土試料 1.00g を 300ml 三角フラスコに秤りとり、0.002 N 硫酸溶液 (pH3) 200ml を加え、室温で 1 時間振とうし、ろ過する。ろ液一定量を試験管に採り、混合発色試薬を加えて分光光度計によりリン酸濃度を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの可給態リン酸量 (P₂O₅mg/ 乾土 100 g) を求める。

8) 全鉄

微粉碎試料約 0.50g をテフロンビーカーに精秤し、硝酸 5ml および過塩素酸 5ml を加え、時計皿で覆い、サンドバス上で有機物を分解する。過塩素酸の白煙が激しく出てきた後、過塩素酸 5ml とフッ化水素酸 10ml を加え、内容物を蒸発乾固させる。放冷後、6N-HCl5ml、硝酸 1ml を加え加熱し、内容物を軽く溶解させた後、蒸留水 30ml を加え、内容物を完全に溶解させる。放冷後、100ml に定容する。この定容液を適宜希釈し、原子吸光光度計により鉄 (Fe) の濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄 (Fe%) 含量を求める。

9) ジチオナイト可溶鉄 (Holmgren 法)

微粉碎試料 500mg に DCB 抽出液 30ml を添加して 16 時間振とうする。振とう後、0.4% 高分子凝集剤を 2 滴加えて軽く振とうした後、遠心分離する。上澄み液の一定量を蒸留水で希釈し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光光度計により鉄 (Fe) の濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄 (Fe%) の含量を求める。

10) 酸性シュウ酸塩可溶鉄 (Acid-oxalate 法)

微粉碎試料 300mg に 0.2M 酸性シュウ酸塩溶液 (pH3) を 30ml 加え、暗所で 4 時間振とうする。振とう後、0.4% 高分子凝集剤を 2 滴加えて軽く振とうした後、3000rpm で 15 分間遠心分離する。上澄み液の一定量を蒸留水で希釈し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光光度計により鉄 (Fe) の濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの鉄 (Fe%) の含量を求める。

3. 分析結果

(1) 放射性炭素年代測定

SP140 と SP183 は同じくらいの年代値を示し、測定年代 (補正年代) は 385 ~ 340yrBP、暦年較正年代 (測定誤差 2σ) は calAD 1,445 ~ 1,635 である。SP569 は、測定年代が 820±20yrBP、暦年較正年代が calAD 1,182 ~ 1,263 であるのに対し、SP585 は測定年代が 475±20yrBP、暦年較正年代が calAD 1,417 ~ 1,449 の値を示す。SL1 と SD3 も年代値は類似しており、測定年代が 750 ~ 645yrBP、暦年較正年代が calAD 1,225 ~ 1,392 の値を示す。

(2) 花粉分析・微粒炭分析

いずれの試料も花粉化石の産出状況が悪く、堆積物 1cc あたりの花粉・孢子数は 100 個未満である。

また、SP140 については無化石であった。わずかに認められる種類は、木本花粉ではマツ属、草本花粉ではガマ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、アブラナ科、ヨモギ属、タンポポ科などである。微粒炭数は、SP585で3,100個/ccと最も多く、次いでSP569が2,600個/cc、SD3が1,300個/ccであった。その他はいずれも300個/cc以下である。

(3) 植物珪酸体分析

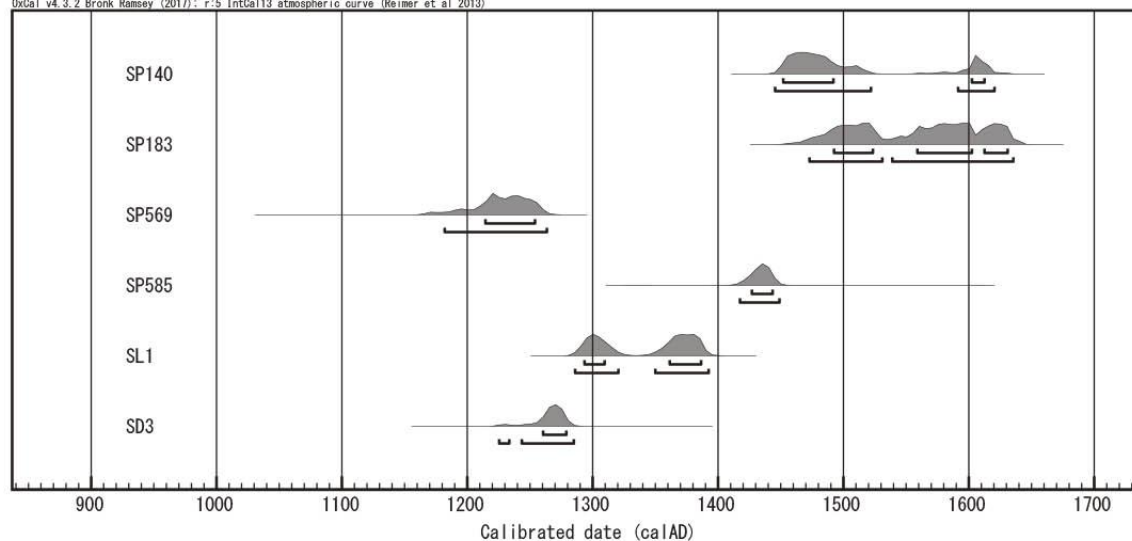
新城上殿遺跡については、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、概して保存状態が悪い。

第IV - 27 表 放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	分析	測定年代	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用	暦年較正年代				確率			
						年代値							
67 SP140	炭化物 微細片	AaA	385±20	-18.74±0.42	384±20	σ	cal AD 1452	-	cal AD 1492	498	-	458	calBP 0.571
							cal AD 1602	-	cal AD 1612	348	-	338	calBP 0.111
						2σ	cal AD 1445	-	cal AD 1522	505	-	428	calBP 0.760
							cal AD 1591	-	cal AD 1620	359	-	330	calBP 0.194
73 SP183	炭化物 微細片	AaA	340±20	-25.61±0.54	341±20	σ	cal AD 1492	-	cal AD 1523	458	-	427	calBP 0.238
							cal AD 1559	-	cal AD 1602	391	-	348	calBP 0.302
							cal AD 1612	-	cal AD 1631	338	-	319	calBP 0.142
						2σ	cal AD 1473	-	cal AD 1531	477	-	419	calBP 0.345
	cal AD 1539	-	cal AD 1635	411	-	315	calBP 0.609						
142 SP 569	炭化材 (広葉樹)	AAA	820±20	-24.56±0.56	819±20	σ	cal AD 1214	-	cal AD 1254	736	-	696	calBP 0.682
						2σ	cal AD 1182	-	cal AD 1263	768	-	687	calBP 0.954
143 SP 585	炭化物 微細片	AaA	475±20	-21.67±0.54	473±20	σ	cal AD 1427	-	cal AD 1443	523	-	507	calBP 0.682
						2σ	cal AD 1417	-	cal AD 1449	533	-	501	calBP 0.954
SL1	炭化物 微細片	AaA	645±20	-25.03±0.46	644±20	σ	cal AD 1293	-	cal AD 1309	657	-	641	calBP 0.256
							cal AD 1361	-	cal AD 1386	589	-	564	calBP 0.426
						2σ	cal AD 1286	-	cal AD 1320	664	-	630	calBP 0.398
							cal AD 1350	-	cal AD 1392	600	-	558	calBP 0.556
167 SD3	炭化物 微細片	AaA	750±20	-11.95±0.37	751±20	σ	cal AD 1260	-	cal AD 1279	690	-	671	calBP 0.682
						2σ	cal AD 1225	-	cal AD 1233	725	-	717	calBP 0.030
							cal AD 1243	-	cal AD 1285	707	-	665	calBP 0.924

- 1)年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2)yrBP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3)付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4)AAAは酸-アルカリ-酸処理、AaAはアルカリの濃度を薄くした処理を示す。
- 5)暦年の計算には、Oxcal4.3を使用。
- 6)暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 7)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 8)統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。

OxCal v4.3.2 Bronk Ramsey (2017): r:5 IntCal13 atmospheric curve (Reimer et al 2013)



第IV -52 図 暦年較正結果

植物珪酸体含量は、SP569が10,800個/gと最も多く、次いでSD3の2,900個/g、他の試料は1,000個/g未満と少ない。SP569は、他の試料と比較して検出される分類群も多く、タケ亜科、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが見られる。また栽培植物であるイネ属が産出し、短細胞珪酸体が500個/g、機動細胞珪酸体が1,300個/gである。珪化組織片も検出され、穎珪酸体や短細胞列が見られる。SD8ではイネ属、タケ亜科、ススキ属などが見られる。イネ属は、短細胞珪酸体が200個/g、機動細胞珪酸体が300個/gである。珪化組織片として、穎珪酸体や短細胞列が見られる。またキビ連の穎珪酸体も見られる。SP140、SP183、SP585ではイネ属など、SL1では分類群の特定できない不明がわずかに認められる。

(4) 微細物分析

SP140、SP141、SP183、SP185、SP194、SP1057、SP569、SP585、SL1、SD3の、10試料12.8kgを通じて、草本8分類群(ツククサ、イネ、オオムギ、コムギ、キビ、アワ、シンジュガヤ属、マメ科)105個の炭化種実が確認された。分析残渣は、炭化材と土粒の他、SP1057とSD3から骨片、SD3から歯、二枚貝類、巻貝類、貝類、動物遺存体、スコリアが確認され、SP194とSP1057で炭化材が多い。炭化種実の出土個数は、SP140が5個、SP183が26個、SP185が9個、SP194が8個、SP1057が14個、SB52が4個、SP585が8個、SL1が1個、SD3が30個である。SP141からは1個も確認されなかった。SD3が最も多く、次いでSP183が多い。栽培種は、イネの穎が13個(SP183、SP1057、SP569、SP585、SD3)、胚乳が7個(SP183、SP194、SP1057、SD3)、オオムギの胚乳が5個(SP585、SD3)(疑問符含む)、オオムギ-コムギの胚乳が2個(SP183、SD3)、コムギの胚乳が51個(SP140、SP183、SP185、SP194、SP1057、SP569、SP585、SL1、SD3)(疑問符含む)、キビの穎・胚乳が1個(SD3)、胚乳が10個(SD3)(疑問符含む)、アワの穎・胚乳が7個(SP183、SP185、SD3)、胚乳が3個(SP183、SP185)、草本のツククサの種子が1個(SD3)、シンジュガヤ属の果実が2個(SD3)、マメ科の種子1個(SP185)が確認された。

第IV - 28表 花粉分析・微粒炭分析結果

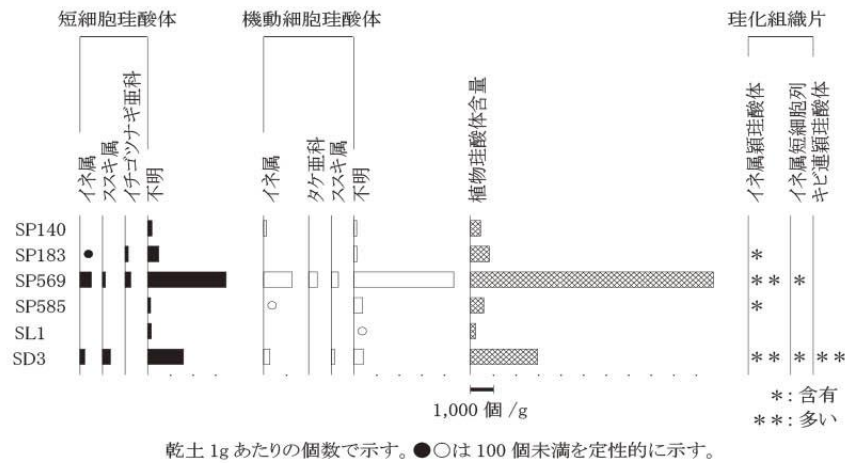
種 類	67	73	142	143	167	
	SP140	SP183	SP569	SP585	SL1	SD3
木本花粉						
モミ属	-	-	-	-	-	-
マツ属	-	5	5	5	2	1
コナラ属アカガシ亜属	-	-	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	-	-	-	-	-	-
草本花粉						
ガマ属	-	-	-	-	-	3
イネ科	-	4	1	4	-	7
カヤツリグサ科	-	-	1	-	-	-
アカザ科	-	-	2	-	-	-
ナデシコ科	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	-	-	-	5	-	-
セリ科	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	-	-	-	1	1	1
キク亜科	-	-	-	-	-	-
タンポポ亜科	-	1	-	1	-	-
不明花粉						
不明花粉	-	1	1	5	-	-
シダ類孢子						
シダ類孢子	-	24	27	18	14	13
合 計						
木本花粉	0	5	5	5	2	1
草本花粉	0	5	4	11	1	11
不明花粉	0	1	1	5	0	0
シダ類孢子	0	24	27	18	14	13
合計(不明を除く)	0	34	36	34	17	25
微粒炭数(個/cc)	<100	300	2600	3100	200	1300
花粉・孢子数(個/cc)	0	<100	<100	<100	<100	<100

1)微粒炭数、花粉・孢子数については、10の位を四捨五入して100単位に丸めている。
 2)<100:100個未満。
 3)木:木本由来の微粒炭あり。

第IV - 29表 植物珪酸体分析

分 類 群	(個/g)					
	67 SP140	73 SP183	142 SP569	143 SP585	167 SL1	167 SD3
イネ科葉部短細胞珪酸体						
イネ属	-	<100	500	-	-	200
ススキ属	-	-	100	-	-	300
イチゴツナギ亜科	-	100	300	-	-	-
不明	200	500	3,500	100	200	1,600
イネ科葉身機動細胞珪酸体						
イネ属	100	-	1,300	<100	-	300
タケ亜科	-	-	400	-	-	-
ススキ属	-	-	300	-	-	100
不明	100	100	4,400	400	<100	400
合 計						
イネ科葉部短細胞珪酸体	200	700	4,400	100	200	2,100
イネ科葉身機動細胞珪酸体	300	100	6,400	500	<100	800
植物珪酸体含量	500	800	10,800	600	200	2,900
珪化組織片						
イネ属穎珪酸体	-	*	**	*	-	**
イネ属短細胞列	-	-	*	-	-	*
キビ連穎珪酸体	-	-	-	-	-	**

1)含量は、10の位で丸めている(100単位にする)。
 2)合計は各分類群の丸めない数字を合計した後丸めている。
 3)<100:100個/g未満。
 4)-:未検出、*:含有、**:多い。



第IV - 53 図 植物珪酸体含量

第IV - 30 表 微細物分析結果

分類群・部位・状態/粒径	単位	67	68	73	74	75	141	142	143	SL1	SD3	備考
		SP140	SP141	SP183	SP185	SP194	SP1057	SP569	SP585			
木本												
イヌザンショウ亜属種子	破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
草本												
ツユクサ	種子 完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
イネ	穎(基部 破片(個)	-	-	4	-	-	5	1	3	-	-	1
	胚乳 完形(個)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	長さ2.91,幅1.63,厚さ0.
	破片(個)	-	-	3	-	1	1	-	-	-	-	1
オオムギ	胚乳 完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	長さ4.56,幅3.09,厚さ1.
	破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
オオムギ?	胚乳 破片(個)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
オオムギ-コムギ	胚乳 破片(個)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
コムギ	胚乳 完形(個)	2	-	2	3	2	3	-	-	1	3	長さ3.19,幅2.82,厚さ2.
	破片(個)	2	-	10	1	4	4	1	4	-	-	2
コムギ?	胚乳 破片(個)	1	-	3	-	-	1	2	-	-	-	-
キビ	穎・胚乳完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	長さ1.58,幅1.58,厚さ1.
	胚乳 完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
キビ?	胚乳 破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
アワ	穎・胚乳完形(個)	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	3
	胚乳 完形(個)	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
シンジュガヤ属	果実 破片(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
マメ科	種子 完形(個)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	野生種, 鱗は端部
不明												
双子葉類	種実 完形(個)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	種実 破片(個)	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	断面槽状
穀粒片主体	破片(個)	-	-	4	2	1	-	-	4	-	-	48
不明炭化物	破片(個)	-	-	-	8	11	5	14	10	-	-	-
合計(不明を除く)		5	-	26	9	8	14	4	8	1	30	
分析残渣												
炭化材	(mm)	5.07	8.11	4.08	4.62	8.35	13.35	-	3.72	5.16	9.85	
>4mm	(g)	-	0.06	-	-	0.23	0.61	-	-	-	0.02	0.04
4-2mm	(g)	0.02	0.03	0.02	0.02	0.23	0.05	-	0.02	0.02	0.05	
炭化材主体	2-1mm	(g)	0.03	0.01	0.07	0.03	0.12	0.11	0.03	0.04	0.04	0.10
	1-0.5mm	(g)	0.02	0.00	0.14	0.01	0.24	0.04	0.06	0.06	0.05	0.08
骨片	破片(mm)	-	-	-	-	-	23.85	-	-	-	-	####
	(g)	-	-	-	-	-	0.85	-	-	-	-	0.12
菌	破片(mm)	-	-	-	-	-	7.00	-	-	-	-	-
	(g)	-	-	-	-	-	0.03	-	-	-	-	-
二枚貝類	>8mm 破片(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	####
巻貝類	完形(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.08
	>8mm 破片(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.77
貝類	>4mm 破片(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.58
動物遺存体主体	4-2mm	(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.38
	2-1mm	(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.91
	1-0.5mm	(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.57
土粒主体	>8mm	(g)	-	-	-	-	39.90	-	-	16.47	####	SD3:スコリア含む
	8-4mm	(g)	-	-	4.85	-	1.63	2.36	0.58	11.42	5.06	
	4-2mm	(g)	0.17	10.75	10.20	1.21	1.03	3.43	1.73	3.33	7.79	2.13
	2-1mm	(g)	0.76	9.62	7.32	0.36	3.29	2.56	1.16	4.06	0.68	1.17
	1-0.5mm	(g)	0.41	3.66	8.58	0.83	2.29	1.67	1.75	2.71	0.50	-
植物片	>4mm	(g)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	非炭化,混入の可能性
イネ科	果実 完形(個)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	非炭化,混入の可能性
エノキグサ	種子 完形(個)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	非炭化,混入の可能性
分析量	(g)	1215	1187	1093	1408	1303	1387	1286	1130	1545	1226	乾重(g)

第IV - 31表 土壤理化学分析結果

試料名	土性	土色	pH(H ₂ O)	有機炭素 (%)	腐植 (%)	全窒素 (%)	C/N	腐植形態(簡易法)		全リン酸 P ₂ O ₅ (mg/g)	全カルシウム CaO (mg/g)	可給態リン酸 P ₂ O ₅ (mg/100g)	鉄の形態						
								Melanic Index [MI]	腐植酸 の型 型				Fe _t (%)	Fe _d (%)	Fe _o (%)	活性度 Fe _o /Fe _d	結晶化指数 (Fed-Feo) /Fed		
67	SP140	LiC	2.5Y4/3	オリーブ褐色	7.7	0.59	1.02	0.09	7	-	-	4.79	5.28	47.1	6.46	4.83	0.35	0.07	0.69
73	SP183	LiC	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	7.7	0.80	1.38	0.10	8	-	-	5.47	6.33	78.7	6.27	4.94	0.40	0.08	0.72
142	SP569	LiC	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	7.5	1.15	1.98	0.15	8	-	-	6.85	8.53	94.1	8.48	5.88	0.60	0.10	0.62
143	SP585	LiC	10YR4/3	にぶい黄褐色	7.5	0.72	1.24	0.11	7	-	-	6.37	6.71	74.3	7.33	5.36	0.60	0.11	0.65
	SL1	LiC	10YR3/3	暗オリーブ褐色	7.6	0.58	1.00	0.09	6	1.88	B/Po型	6.62	6.03	74.2	6.69	5.10	0.40	0.08	0.70
167	SD3	LiC	10YR4/3	にぶい黄褐色	8.0	0.65	1.12	0.09	7	-	-	8.94	13.7	291	7.69	5.79	0.29	0.05	0.72

1)土色:マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修,1967)による。

2)土性:土壤調査ハンドブック改訂版(ペドロジー学会編,1997)の野外土性による。

LiC・・・軽塩土(粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%)

HC・・・重塩土(粘土45～100%、シルト0～55%、砂0～55%)

3)腐植:有機炭素×1.724。

4)C/N:有機炭素/全窒素。

5)Fet:全鉄(フッ化水素酸分解による)。

6)Fed:ジチオナイトクエン酸可溶鉄。

7)Feo:酸性シュウ酸塩可溶鉄。

8)活性度:Feo/Fed。

9)結晶化指数:(Fed-Feo)/Fed。

(5) 土壤理化学分析

pH (H₂O) は7.5-8.0で微アルカリ性から強アルカリ性である。腐植含量は1.00%-1.98%であり、SB52でやや多く含まれる。全窒素量は0.09%-0.15%あり、腐植含量同様SP569でやや多く含まれる。C/N比は6-8である。MIはSL1でのみ検出され、B/Po型腐植酸と判定される。他の試料は抽出された腐植酸が少なく、判別に至らなかった。全リン酸は、SD3で8.94mg/gと最も多く、SP140で4.79mg/gと少ない。他の試料では5.47-6.85mg/gである。全カルシウムはリン酸含量が多いSD3で13.7mg/gと最も多く、SP569で8.53mg/gと次いで多い。他の試料は5.28-6.71mg/gである。可給態リン酸はSD3で291mg/100gと多く、SP140で47.1mg/100gと相対的に少ない。他の試料は74.2-94.1mg/100gであり全体的に多い特徴を示す。鉄の形態分析からは、全試料で活性度が低く、結晶化指数が高いことが示された。全鉄量はSP569で8.48%と多く、他の試料は6.27-7.69%である。

4. 考察

放射性炭素年代測定の結果をみると、概ね2つの時期に分けられる。まず、SP569、SL1、SD3は、補正年代で820～645yrBP、暦年代で12世紀後半～14世紀末(calAD 1,182～1,392)の値を示す。一方、SP140、SP183、SP585は、補正年代で475～340yrBP、暦年代で15世紀前半～17世紀前半(calAD 1,417～1,635)の値を示す。なお、年代測定結果は2つの時期に分けられたが、それぞれの時期に大きなギャップはみられないことから、連続して利用されていた可能性も考えられる。

植物化石についてみると、いずれの試料においても花粉化石の産出状況が悪く、古植生推定のための定量解析が行えるだけの個体数を得られなかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。植物珪酸体も、SP569、SD3を除く4試料では概して産出が悪かった。亜熱帯湿潤気候の下では、堆積物中で珪酸分を含む無機成分の溶脱作用が起こるほか(松井,1988)、湿潤な土壌や土壌温度が高い堆積物の方が植物珪酸体の風化の度合いが高いとされている(近藤,1988)。これらのことから、花粉や植物珪酸体などは、堆積後の経年変化により、分解の影響を受けている可能性が高い。

検出された植物化石から、古植生について検討すると、草本類ではタケ亜科やススキ属、イチゴツナギ亜科などを含むイネ科、カヤツリグサ科、ツユクサ、アカザ科、アブラナ科、マメ科、ヨモギ属、タンポポ科などの花粉化石、植物珪酸体、炭化種実が確認される。これらは、調査区周辺の明るく開けた草地などに生育していたと考えられる。また、SD3からは湿生植物のガマ属、シンジュガヤ属が検

出されたことから、溝内やその集水域の湿地に生育していた可能性がある。木本類ではマツ属が確認されたことから、周囲にマツ属の生育が窺える。

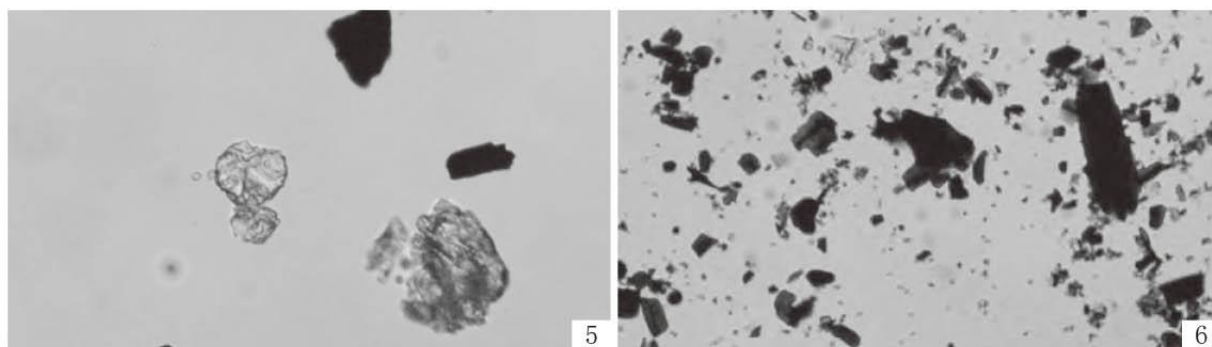
次に栽培植物についてみると、植物珪酸体ではイネ属と、栽培の可能性のあるキビ連が確認された。イネ属は、コメの収穫後に植物体が燃料材や住居構築材などの生活資材として利用される場合がある。住居址とされる SP569 で多く認められる点を考慮すれば、何らかの資材として SP569 でイネ属の植物体が利用されていたことが考えられる。炭化種実とは、栽培種のイネ、オオムギ、コムギ、キビ、アワが確認された。これらの穀類は、当時利用された植物質食糧と示唆される。また、SD3 より比較的多く確認されたキビやアワには穎が付着した胚乳も確認されることから、脱皮(だっぴ; 穀殻を取り去る)前の段階で火を受けたと推測される。SD3 で検出されたキビ連の穎珪酸体も、炭化種実の産状を踏まえると、栽培種に由来するものと想定される。

微粒炭についてみると、住居址とされる SP585 や SP569、溝とされる SD3 で他よりも多く認められる。土壌中に含まれる微粒炭は、人間活動と密接に関係していることが知られており、その変化は人為活動の変化を反映している場合が多く認められる(例えば安田,1987; 山野井,1996; 井上ほか,2002)。なお、各遺構の微細物洗い出しの結果、炭化種実以外にも、炭化材、骨片、歯、二枚貝類、巻貝類、貝類、動物遺存体、スコリアが確認された。SP1057 から骨片、SD3 から骨片や歯、二枚貝類、巻貝類、貝類、動物遺存体、スコリアが確認され、特筆される。

一方、土壌の理化学性についてみると、遊離鉄の存在形態は、自然環境条件の違いにより種々さまざまな化合物を形成する。土壌中で二次的に生成した非ケイ酸塩態の鉄化合物を遊離鉄という。遊離鉄化合物は、非晶質・結晶質の2つの異なった形態で存在し、酸性シュウ酸塩可溶鉄は主に非晶質を、ジチオナイト可溶鉄は非晶質の鉄に加えて、ゲータイト・ヘマタイトを溶解するため、差し引きにより結晶質鉄の尺度とみなすことができる。また、鉄の活性度は、酸性シュウ酸塩可溶鉄とジチオナイト可溶鉄の比から表し、主要な土壌生成過程の一つである遊離酸化鉄の結晶化の尺度として用いる。結晶化指数とは、ジチオナイト可溶鉄から酸性シュウ酸塩可溶鉄を差し引き、全鉄との比により表す。遊離鉄の結晶化を伴った風化あるいは土壌生成の発達程度を表す尺度として用いる。遊離鉄の活性度と結晶化指数を用いて、褐色森林土と黄褐色森林土、赤色土を判別することができる。

今回の分析試料は、鉄の形態分析により全試料が赤色土に分類され、遊離酸化鉄のうちの結晶質鉄の占める部分が、非晶質鉄に比べ多いことが示された。全鉄から占める遊離鉄の割合が多く、さらに、結晶化指数が高いことから風化や土壌生成が進んでいると捉えられる。

SD3 試料では貝殻片やサンゴ片のような石灰質成分が混入したため、強アルカリ性を示した。ただし、その割合は多くなく、カルシウム含量で 13.7mg/g 程度であり、付随してリン酸含量も増加したと考えられる。この試料では可給態リン酸が特徴的に多いが、これはカルシウム型リン酸が多い特徴を示すものである。また、他の試料においても可給態リン酸が充分量保持されているが、一般的に土壌に難溶性のリン酸塩として蓄積しやすいため、作物の吸収利用がしやすい土壌であるかは、今回の分析結果のみでは分からない。SL1 では、遺跡内で最も腐植含量が少ないが、腐植化度の高い腐植酸が抽出された。この結果から、SL1 生成環境は有機物が分解しやすい環境であったと考えられ、他の試料生成期と比較し、耕作や火入れ等の人為による影響の可能性も挙げられるが、他の分析値に大きな変化が無いことから、具体的な言及はできない。また、SP140、SP183、SP569、SP585 生成環境では、鉄含量による変化から風化程度は異なるものの、生成環境に大きな変化はないと考えられる。

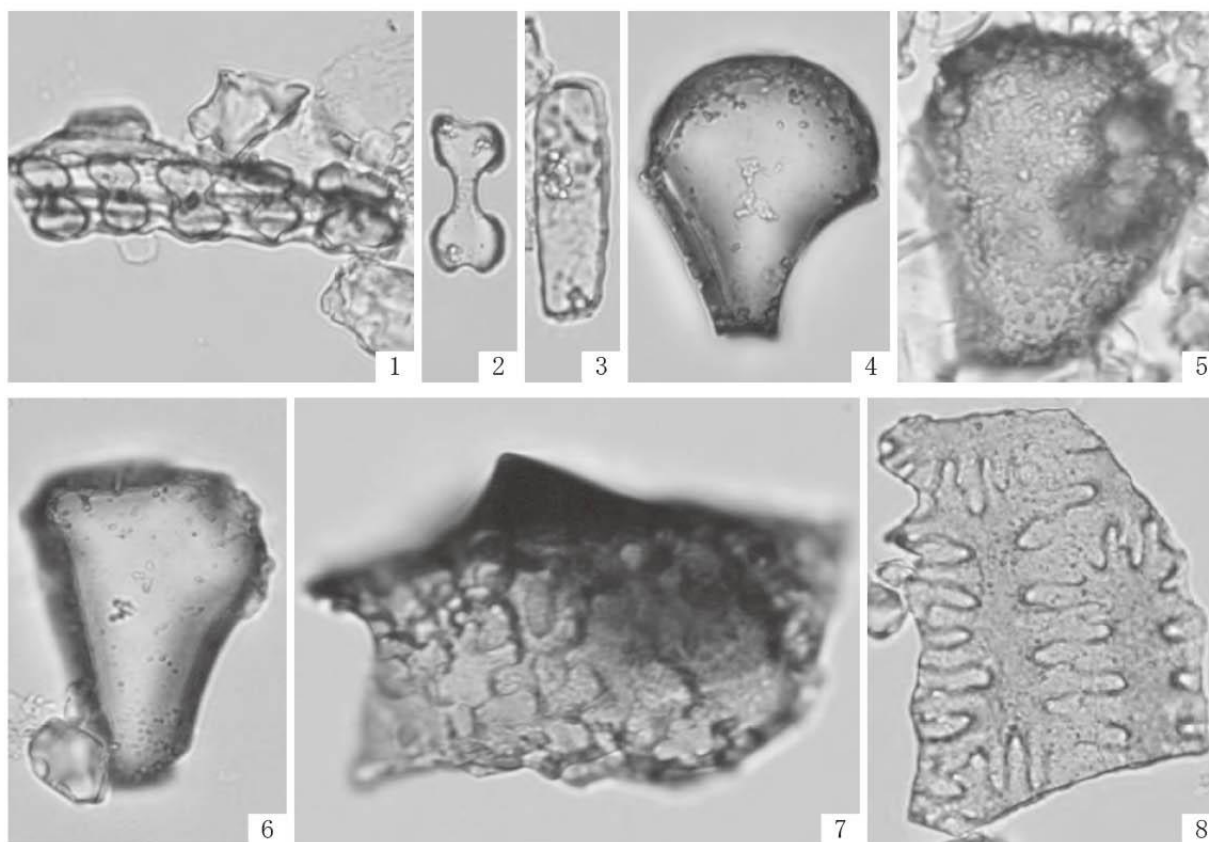


5. プレパラート内の状況(新城上殿遺跡;67 SP140)

6. プレパラート内の状況(新城上殿遺跡;142 SP569)

50 μm

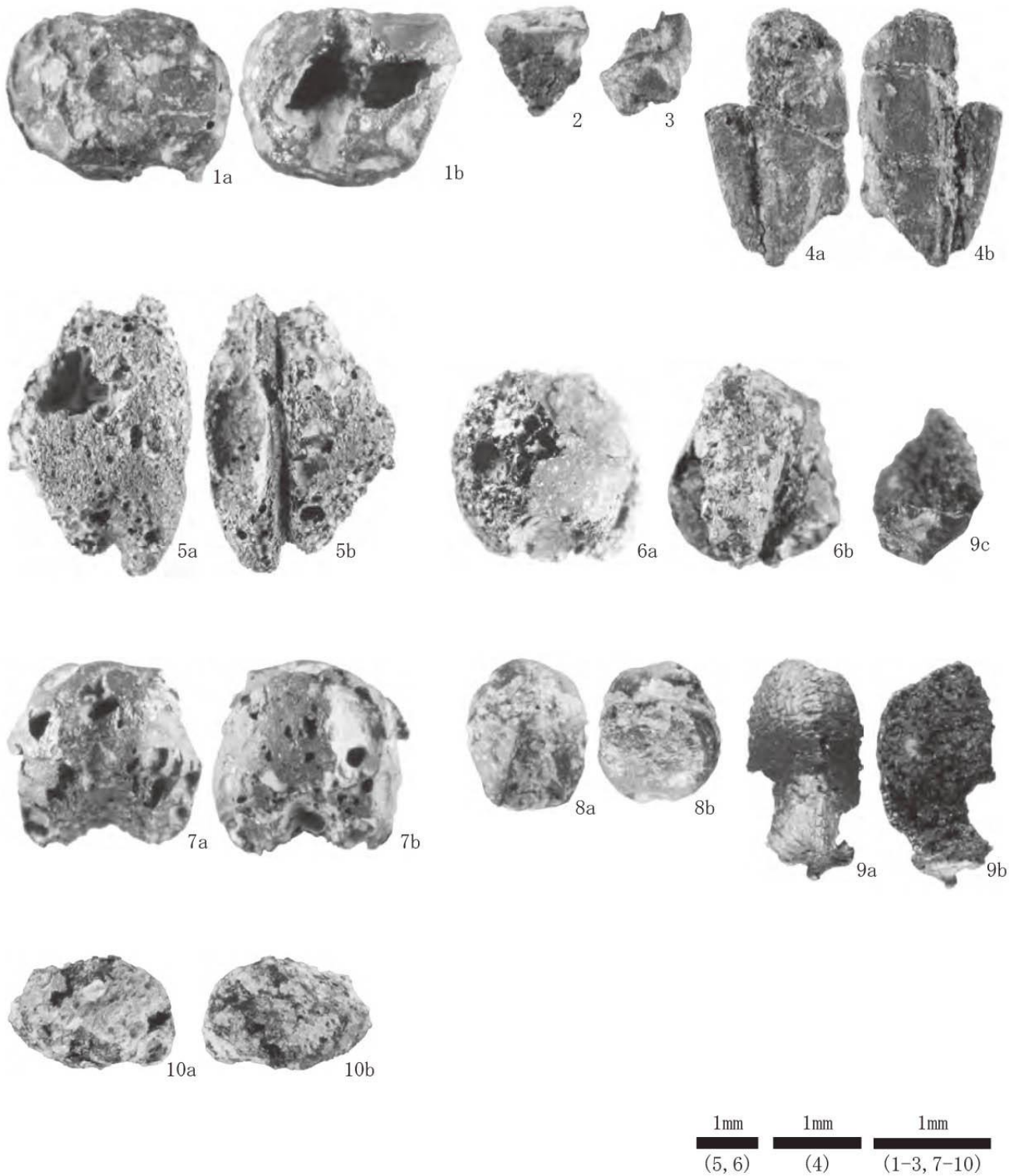
図版IV-17 花粉化石・微粒炭



50 μm

1. イネ属短細胞列(新城上殿遺跡;142 SP569)
2. ススキ属短細胞珪酸体(新城上殿遺跡;167 SD3)
3. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(新城上殿遺跡;142 SP569)
4. イネ属機動細胞珪酸体(新城上殿遺跡;67 SP140)
5. タケ亜科機動細胞珪酸体(新城上殿遺跡;142 SP569)
6. ススキ属機動細胞珪酸体(新城上殿遺跡;142 SP569)
7. イネ属穎珪酸体(新城上殿遺跡;167 SD3)
8. キビ連穎珪酸体(新城上殿遺跡;167 SD3)

図版IV-18 植物珪酸体



1. ツユクサ 種子(新城上殿遺跡;167 SD3)
3. イネ 穎(基部)(新城上殿遺跡;141 SP1057)
5. オオムギ 胚乳(新城上殿遺跡;167 SD3)
7. キビ 穎・胚乳(新城上殿遺跡;167 SD3)
9. シンジユガヤ属 果実(新城上殿遺跡;167 SD3)

2. イネ 穎(基部)(新城上殿遺跡;141 SP1057)
4. イネ 胚乳(新城上殿遺跡;75 SP194)
6. コムギ 胚乳(新城上殿遺跡;75 SP194)
8. アワ 穎・胚乳(新城上殿遺跡;74 SP185)
10. マメ科 種子(新城上殿遺跡;74 SP185)

第6節 総括

新城上殿遺跡は1981年の分布調査で初確認された遺跡で、当時からグスク時代の遺物が地表面で確認されていた。さらに新城出身で著名な民俗学者でもある佐喜真興英の著書『シマの話』の中で、新城集落の発祥地としても知られている。西普天間住宅地区の返還に先立ち、平成25年度（2015年）に市教育委員会によって一帯の分布調査が行われ、屋敷跡や石切場跡、石積みなどが残存していることが確認された。平成26年度には本遺跡の南東側で試掘調査を行ったところ、地山面で多数の柱穴が発見され、遺跡範囲が南東側に大きく広がることが判明した。

今回実施した緊急発掘調査の範囲は、市の跡地利用計画の中で住宅地として計画されている場所であり、地権者への引き渡し前に跡地利用特措法に基づく沖縄防衛局による支障除去措置（不発弾探査）が予定された。そのため、事前に記録保存のための緊急発掘調査が行われることとなった。

検出された遺構はグスク時代に相当する柱穴等のピット群が主体を占め、そのほかに溝状遺構や炉跡などが出土している。近世～近代の遺構も確認されているが、すでに一帯は耕作地として利用されたのか、柱穴等建物に関連する遺構は確認されていない。柱穴を含むピットの数には400基余り確認されているが、主に工区1の北側と南側にまとまりが見られた。明確なプランが想定されるものは工区1の北端に位置する1号建物跡（SB01）のみで、その他は建て替えが多かったのか、多数のピットが乱立し、さらにそれらが複雑に切り合っていることからプランの把握は困難であった。そのため、本章第3節遺構の中で詳述しているピットの分類を行い、複数の建物プランを想定した。結果として掘立柱建物が少なくとも3棟あったことが想定されたが、柱本数や柱穴の規模からみて、これらは母屋であったことが推測される。通常、母屋とセット関係にあるはずの倉庫等の付属施設が確認されていないことが懸念されるが、調査区の北西側、遺跡の約半分程度は未調査であり、残存している可能性は高いと思われる。

特徴的な遺構として、堀切状の溝（SD03）が検出されている。幅約2m、深さ約1cmで、断面が逆三角形形状を呈している。年代測定では1号建物跡（SP569）と同じく12世紀後半～14世紀末の値が出ている。ちなみに、今回得られた遺物の半数がこの堀切状の溝の覆土から出土している。堀切状の溝（SD03）は、南西側から2号建物跡（北側のピット群）へ至る緩斜面に対して、それを横断するように配置されている。北側ピット群の北東側はイシジャー溪谷の崖地となっており、これらの状況から、北側ピット群は周囲から孤立した場所に立地し、本遺跡は防御機能を有した集落であったことが窺える。

本遺跡における遺構の年代測定結果を見ると、12世紀後半～14世紀末と15世紀前半～17世紀前半の値が出ており、分析の考察として「それぞれの時期に大きなギャップは見られないことから、連続して利用されていた可能性が考えられる」とする見解が示されている。また、炭化種実として、イネ、オオムギ、コムギ、キビ、アワなどの穀類が確認されており、植物質食料として推測される。本遺跡北東側の低地に隣接する新城下原第二遺跡では、グスク時代に遡る水田遺構（疑似畦畔）が確認されており、集落遺跡とそれを支える生産遺跡のセット関係が検証できる貴重な資料を得ることができた。

遺物について、少量ではあるが貝塚後期のくびれ平底土器が出土している。関連する遺構は確認できていないので、本来周辺にあった同時代の包含層が流れ込んできた可能性がある。主体とするグスク時代の遺物としては、青磁、白磁、染付、褐釉陶器などの輸入陶磁器のほか、グスク土器やカムイヤキなどが出土した。出土した各遺物の割合を見るとグスク土器が997点と全体の約23%ともっと多く、細片のため種別不明な土器581点を除くと次に青磁が265点で全体の約17%となっている。その他、白磁（47点）、青花（68点）、褐釉陶器（52点）が出土しており、中国産輸入陶磁器が一定量出土している。

さらに、自然科学分析結果と整合するように、沖縄産施釉陶器や沖縄産無釉陶器、アカムヌー等の近世初期の遺物も陶磁器と同程度出土（計 360 点）しており、本遺跡が近世頃（17 世紀前半）までは使用されていた可能性が高いと思われる。

まとめ

今回の調査により、新城上殿遺跡がグスク時代の集落跡であり、かつ堀切と推測される防衛施設を有していたことが判明した。また、場所は限定されるものの多数の柱穴が切り合って分布していることから何度も建て替えが行われていたことが明らかとなった。自然科学分析でも長期の使用を裏付ける分析結果となっている。遺跡の立地を見ると北側と東側は崖地または急斜面地となっており、西側の緩斜面には前述した堀切状遺構が造られている。遺跡の標高は 26 m 前後だが、丘陵縁辺にある本遺跡からは北側に広がる低地一帯（北谷ターブクラー）が見渡せていたと思われる。北東側崖下の低地には新城下原第二遺跡が隣接し、同時代の水田跡が発見されている。本遺跡一帯は豊富な湧水に恵まれた場所で海岸も近く、珊瑚礁では多くの海産物が採取できたと思われる。しかし、このような住みやすい場所であったにもかかわらず、近世以降には集落が廃棄されたと推測される。調査では近世以降の建物等に関連する遺構が検出されておらず、遺物も極端に少ない。また、18 世紀中頃の絵図（琉球国惣絵図）には宜野湾並松街道沿いに「新城村」と表記されており絵図が描かれた頃にはすでに新城の集落が小字新城原（普天間飛行場内）に集落が移動していたことがわかる。新城村（新城古集落遺跡）は碁盤型の集落であり、明治期にはすでに伝統的な集落として存在していた。これらの資料や今回の調査結果は、新城に伝わる集落移動の伝承を裏付けるものと言える。

今回の調査によって新城上殿遺跡の全容が把握できたわけではなく、遺跡の主体は未調査エリアの北東側緑地帯の地下に残存している可能性が高い。この一帯は市の跡地利用計画の中で都市公園として整備される予定となっている。また、キャンプ瑞慶覧との境界フェンスを越えて北側にも遺跡の範囲は広がっており、今後の調査で新たな発見が得られるかもしれない。さらに、現在普天間飛行場の中にある新城古集落遺跡についても、いまだ考古学的な調査は行われておらず、集落移動の時期を解明する証拠が残っていると期待される。

第V章 新城大道原第一遺跡

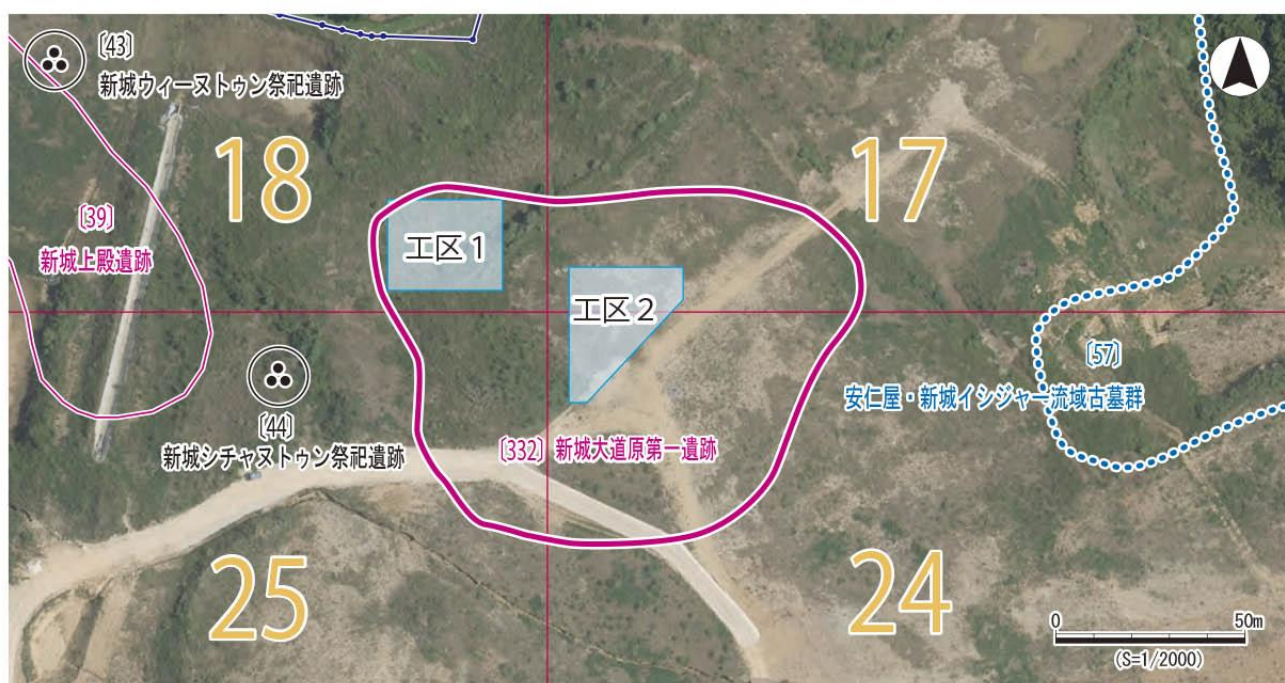
第1節 調査の経過と調査方法

新城大道原第一遺跡は、平成26年度から27年度にかけて文化庁の補助を受けて実施した試掘調査によって新規に発見された遺跡である。遺跡は新城小字大道原の北側に位置しており、標高約35m～40mの石灰岩丘陵縁辺に立地している。

遺跡の周辺一帯は、基地として接收後に住宅建設のため大規模な造成工事が行われており、戦前までの旧地形は失われていた。そのため、遺跡の残存状況を把握するために30mメッシュ毎に4m四方の試掘坑を設定して調査を行った。試掘調査の結果、複数のピットや土坑が確認され、遺構は遺跡の北側と南側の2箇所に集中（残存）していることが判明した。この調査結果を基に北側に工区1、南側に工区2を設定した。工区2は造成によって平坦地となっているが、工区1は遺跡北側の緩斜面に位置する。

工区1の設定面積は約720㎡で、現地表面から1.0mは米軍造成土が堆積しており、重機を使用して除去した。重機掘削に際しては、市教委の専門職員立ち合いの下慎重に掘削し、包含層または遺構が確認された段階で掘削を中断した。表土層厚は0.5～1.0mで、直下は地山（島尻マージ層）となっている。また、調査区域を縦断するように米軍が設置した三面張りの排水路が設けられており、調査最終段階でこれを撤去して下層確認を行った。

工区2の設定面積は約660㎡で、工区1の南東側約40mの地点に設定。標高は40m前後で工区1より一段高い場所に位置している。基地使用時には住宅が建設されており、試掘調査時にも埋設管が確認されていたため、遺構の残存状況は悪いと思われた。表土層厚は南側が0.5mと薄く、北側は2.0mと層厚に差が見られた。包含層はほとんど削平されており、直下の地山（島尻マージ層）上面にピットや溝状遺構が検出された。調査工程については、沖縄防衛局による支障除去作業との関連から工区1の表土掘削を終了後、工区2から調査を開始した。



第V-1図 調査位置図

【日誌抄】

5月24日：工区1の設定（測量）及び伐開作業

6月29日：工区1雨水流入対策の小堤を築造し、表土掘削を開始。

6月30日：工区1の表土掘削。地表面から-50cmで暗褐色砂質シルトの包含層を検出。

7月5日：調査区東側から包含層検出。

7月7日：台風1号の影響により、現場休止。週明けより工区2の表土掘削を開始。

7月15日：工区2の東側で地山（島尻マージ）が確認され、ピットや溝状遺構を検出。

7月25日：工区2の遺構検出状況撮影（高所作業車）。

7月29日：SD3006（工区2）を掘り下げ、ピットが検出され、沖縄産陶器等がまとまって出土した。

8月3日：SD3001、SD3002、SD3008、SD3009の完掘。

8月12日：SD004（工区2）の完掘。各ピット半截。

8月23日：工区2のピット半截。北側と南側でまとまりが確認され、北側は浅く、南側はやや深い傾向が見られる。

9月1日：日誌記載所見

「新城上殿遺跡と新城大道原第一遺跡（工区2）では堆積している土が異なっている。新城上殿遺跡は粘性が強く乾燥した際にひび割れが著しい。一方新城大道原第一遺跡（工区2）は砂質を呈しており、検出されたピットの覆土は暗褐色を呈し、焼土粒や炭化物の混入は少ない。新城上殿遺跡の北西部に分布するピット群はにぶい黄褐色～暗オリーブ褐色を呈する。」

9月15日：工区2の北東部に分布するピット群を半截及び記録作業。

10月11日：工区2の完掘状況を撮影（高所作業車）。

10月19日：工区1の岩盤清掃中に有文土器（刺突文）が出土。流れ込みの可能性あり。

10月28日：工区2の遺構検出状況を撮影（高所作業車）。溝状遺構3本、ピット約90基検出。

11月9日：SP及びSDの掘削及び記録作業（工区1）。

11月14日：工区1のSP掘削作業実施。比較的浅いものが多くいずれも10～15cm未満となっている。



工区1 表土掘削



工区1 遺構掘削作業



工区2 作業状況



工区2 完掘作業状況

図版V - 1 作業状況

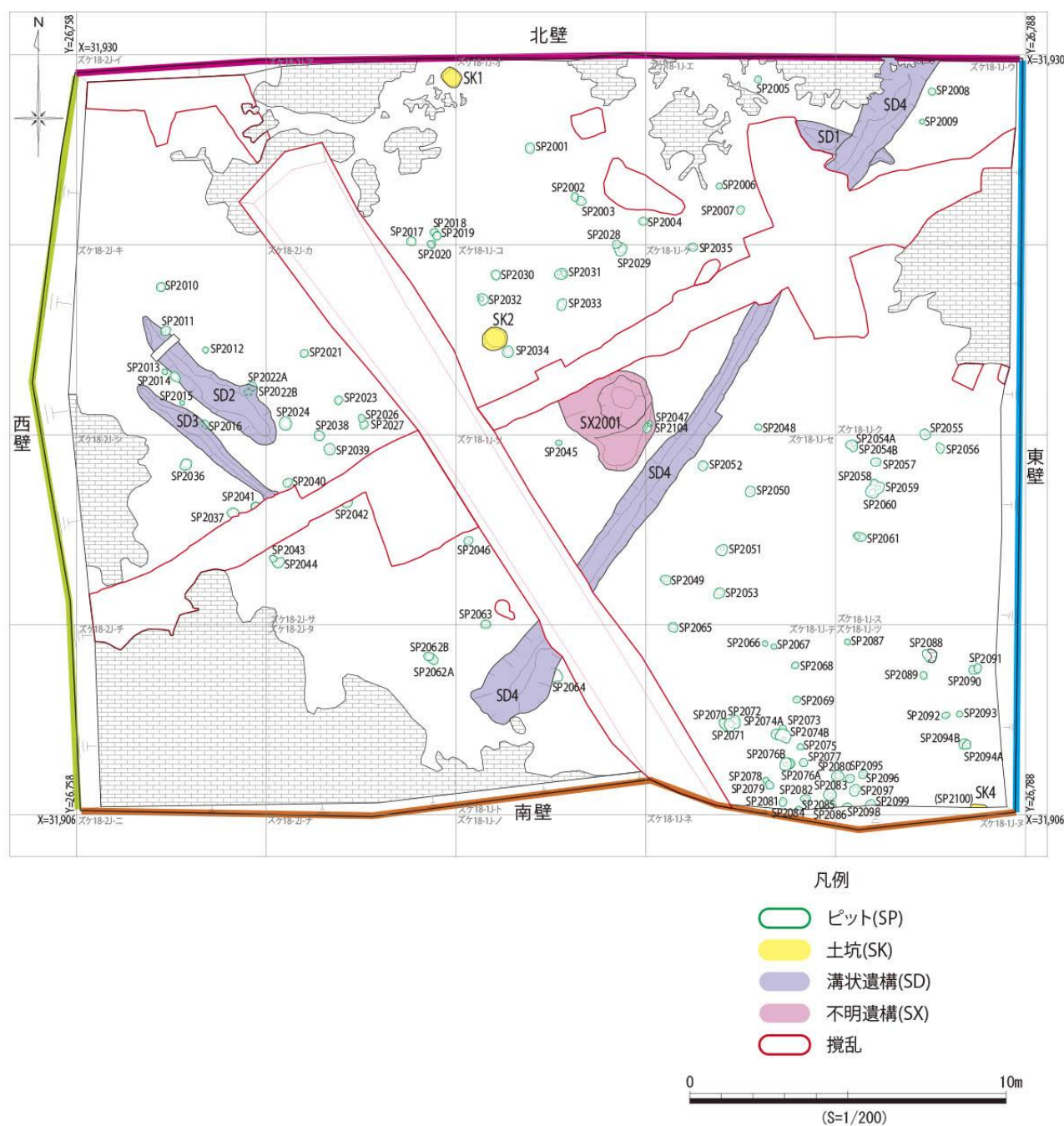
11月16日：SX2001（工区1）を四分割で対角を掘り下げた結果、東側で礫集積を確認した。そこで礫集積の断面を確認するため、半截して確認する方法に変更した。

11月25日：工区1の完掘状況を撮影。一部未完掘の遺構があり、引き続き掘削作業。

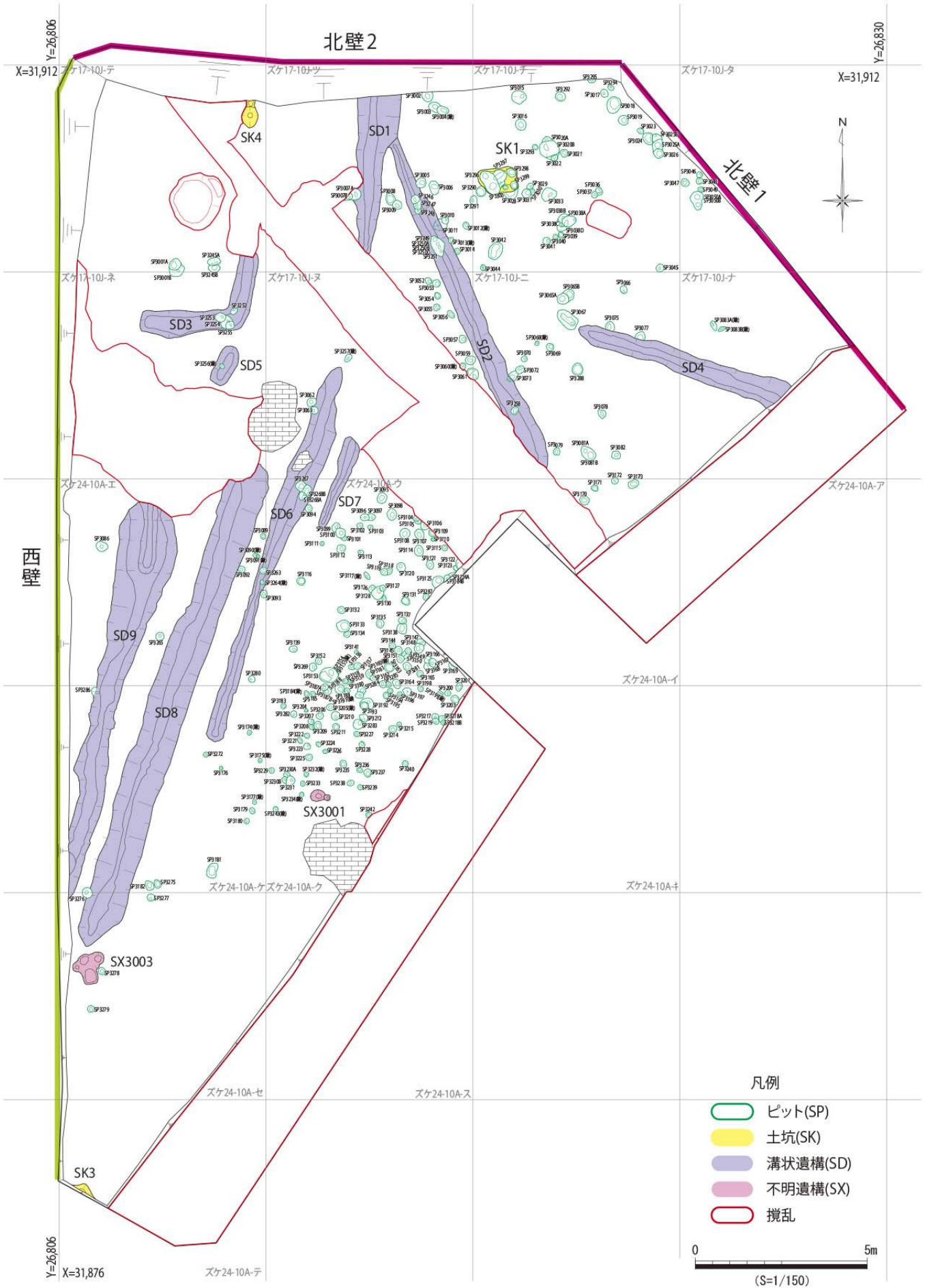
12月7日：SX2001（工区1）の完掘。大道原第一遺跡調査完了。

第2節 層序

新城大道原第一遺跡は工区1と工区2の2箇所の調査区を設定しているが、包含層はほとんど削平されており、地山直上に遺構が残存している状況となっている。層序については原則として第三章第3節で記した基本層序を使用し、個々の遺構については各項目で記した。

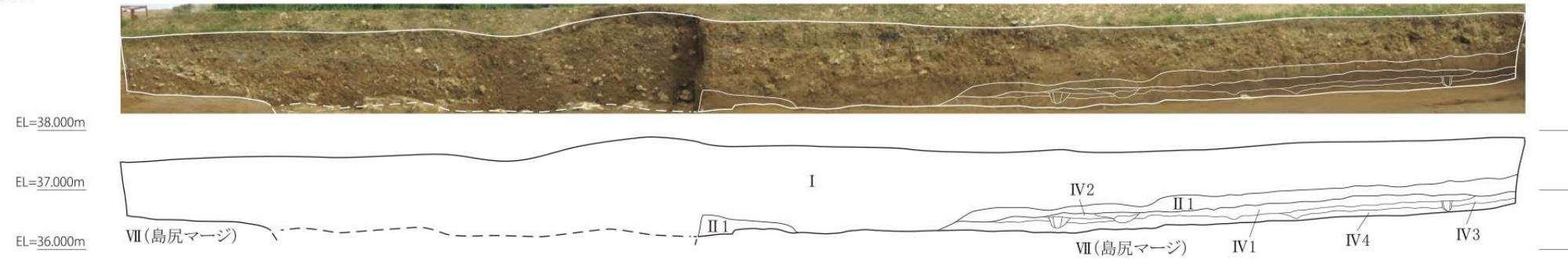


第V - 2図 遺構分布図（工区1）

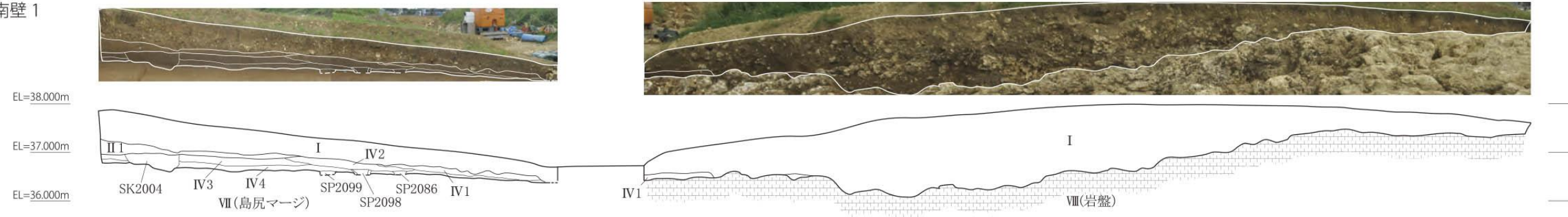


第V - 3図 遺構分布図 (工区2)

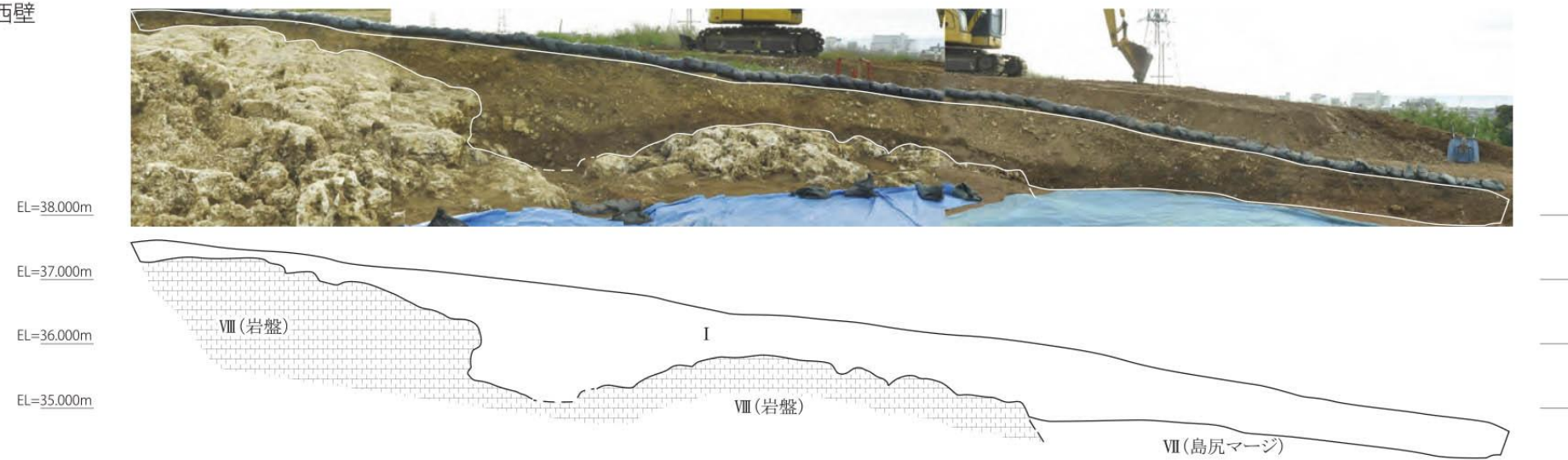
①東壁



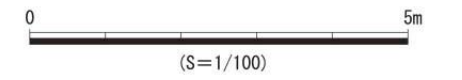
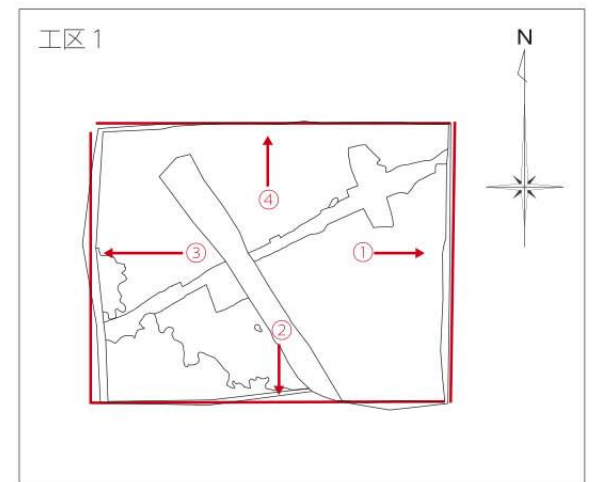
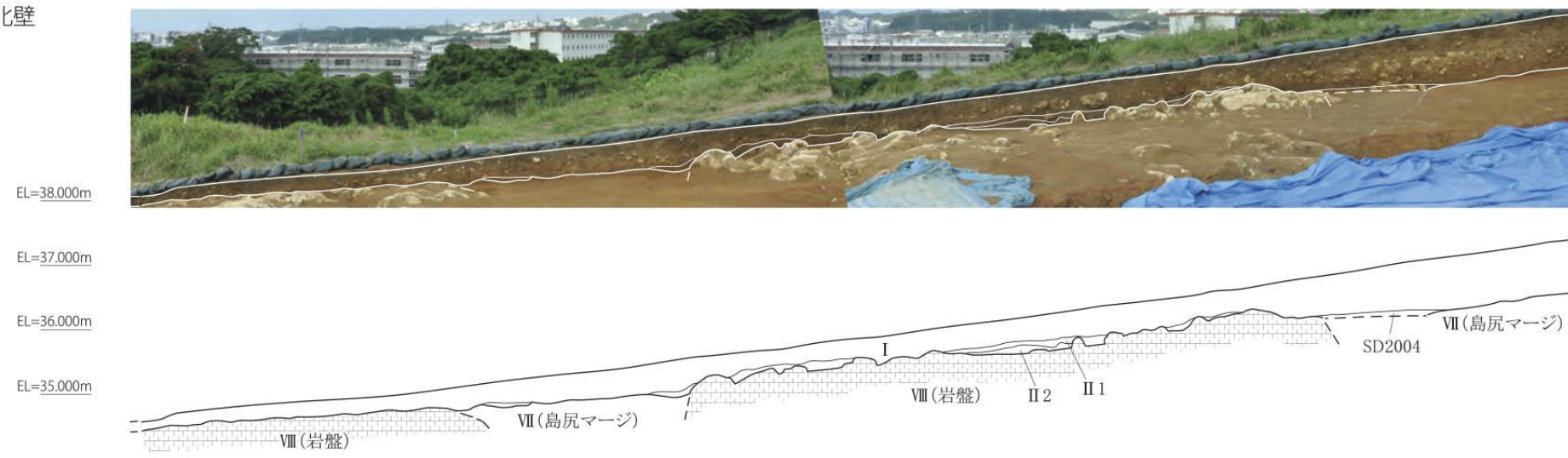
②南壁 1



③西壁

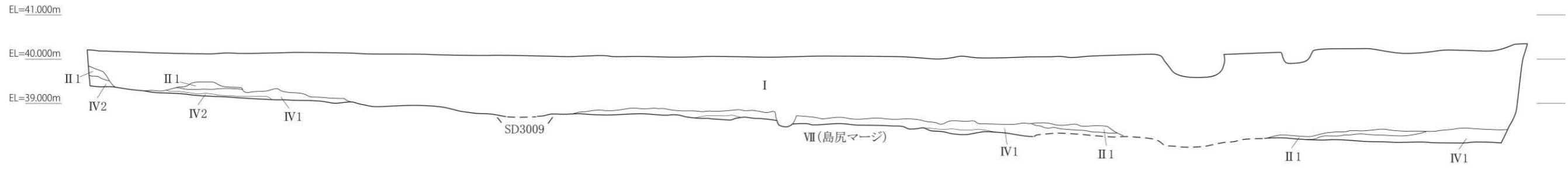


④北壁

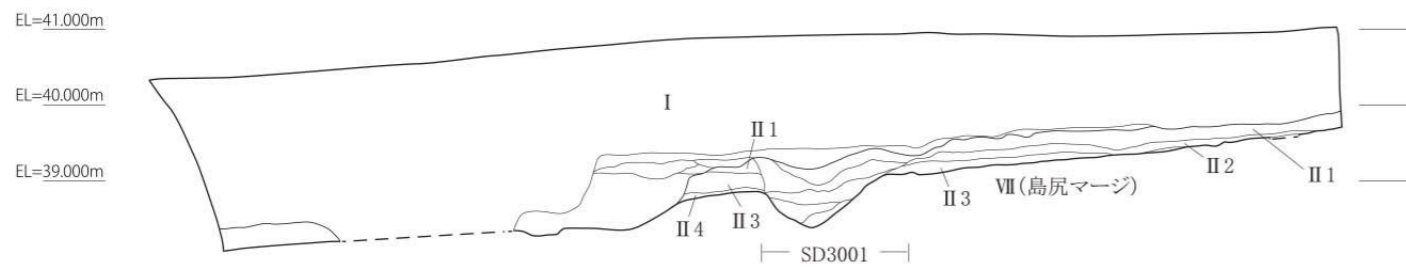
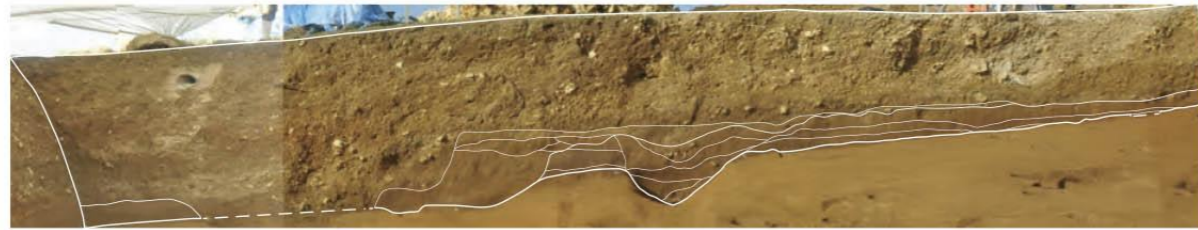


第V-4図 工区1 壁面土層図

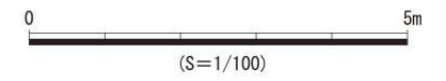
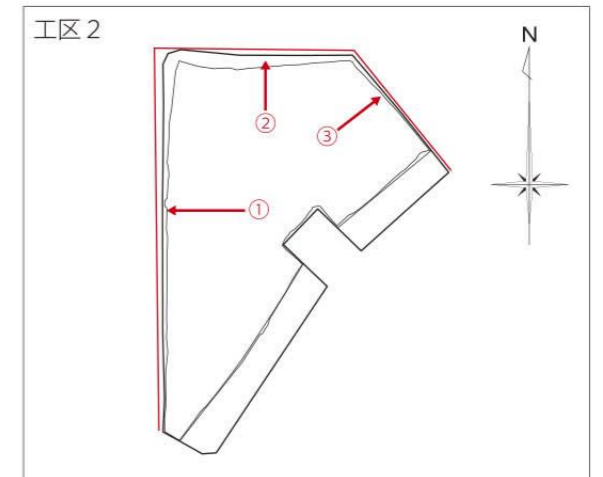
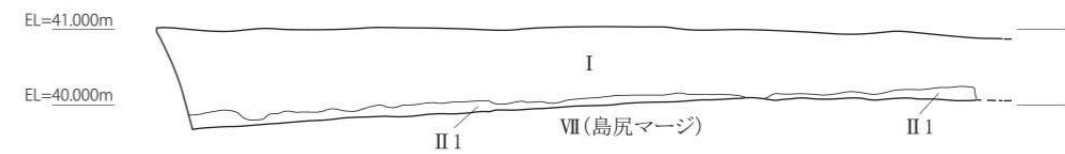
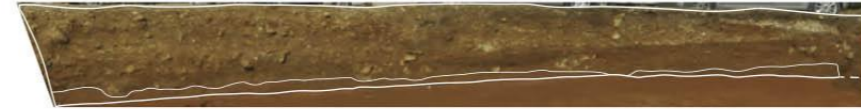
①西壁



②北壁 2



③北壁 1



第V-5図 工区2 壁面土層図

第3節 遺構

検出された遺構は工区1と工区2でピット（柱穴含む）、土坑（SK）、溝状遺構（SD）、不明遺構（SX）が共通して確認されている。本遺跡は調査区が2箇所（工区1と工区2）に分かれており、検出された遺構の様相もそれぞれの工区で異なっていることから工区別で詳述する。

【工区1】

1. ピット（SP）

ピットは100基余り検出されたが調査区内に散在している状況であり、明確なプランは確認できなかった。南西側に琉球石灰岩の岩盤が張り出しており、遺構は東側に多く見られる。また、検出されたピットは北西側に浅く、南東側に深いものが多い傾向がみられた。前章と同様に各ピットの基底部のレベル、掘方断面などから分類を試みた。各ピットの計測および分類については一覧表に記載している（第V-3～5表 遺構計測分類表）。

（1）底面レベルの分類

検出されたピットの基底部のレベルで分類を試みた、工区1では34.58mが最も低く、36.64mが最も高い値であったため、その間を20cm単位で任意に区切り、I類～XI類に分類した。





第V-1表 底面レベルの分類

底面レベル(20cm区切り)	
I	34.40~34.59m
II	34.60~34.79m
III	34.80~34.99m
IV	35.00~35.19m
V	35.20~35.39m
VI	35.40~35.59m
VII	35.60~35.79m
VIII	35.80~35.99m
IX	36.00~36.19m
X	36.20~36.39m
XI	36.40~36.59m

（2）掘方での分類

各ピットの掘方断面形状によって分類したもので、下記A～Dの4種類に分類した。

第V-2表 掘方断面形状分類模式図

	A	B	C	D	+	S
分類	基底部に平坦面があるもの。	基底部に平坦面がないもの。（基底部が丸みを帯びるものや多少凹凸するもの）	基底部に段を持つもの。	基底部が斜めのものや大きく凹凸するもの。	柱痕あり	直径15cm未満
模式図					柱穴	柱穴の可能性低い



A



B



C



D

図版V-2 掘方断面の分類別のピット

第V-3表 遺構計測分類表 工区1 (SP) 1

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP2001	円形	33	30	22	34.80	Ⅲ	B		a	○		ズケ18-1J-オ
SP2002	楕円形	26	22	13	35.00	Ⅳ	B		a	△	SP2003に切られる	ズケ18-1J-オ
SP2003	円形	29	29	25	34.89	Ⅲ	B		a	○	SP2002を切る	ズケ18-1J-オ
SP2004	円形	26	26	12	35.18	Ⅳ	B		a	×	図面24にも、深7cm・底レ35.25	ズケ18-1J-オ
SP2005	円形	22	21	16	35.54	Ⅵ	B	+	c	○		ズケ18-1J-エ
SP2006	楕円形	21	18	12	35.42	Ⅵ	B		b	△		ズケ18-1J-エ
SP2007	円形	26	25	11	35.49	Ⅵ	B	+	b	○		ズケ18-1J-エ
SP2008	円形	25	22	4	35.86	Ⅷ	B	+	a	○		ズケ18-1J-ウ
SP2009	円形	15	15	4	35.86	Ⅷ	D	s	a	×		ズケ18-1J-ウ
SP2010	円形	29	28	20	34.58	Ⅰ	B			△		ズケ18-2J-キ
SP2011	楕円形	32	26	12	34.76	Ⅱ	B				SD2002-①を切る	ズケ18-2J-キ
SP2012	不定形	20	20	9	34.86	Ⅲ	D		b	△		ズケ18-2J-キ
SP2013	楕円形	21	18	10	34.86	Ⅲ	B	+	c	○		ズケ18-2J-キ
SP2014	楕円形	37	26	8	34.95	Ⅲ	B				SD2002-②を切る	ズケ18-2J-キ
SP2015	円形	13	14	10	35.03	Ⅳ	B	s		×	SD2003-①に切られる	ズケ18-2J-キ
SP2016	楕円形	31	23	21	34.95	Ⅲ	A				SD2003-②に切られる	ズケ18-2J-キ
SP2017	円形	29	27	12	34.65	Ⅱ	C			×	攪乱?	ズケ18-2J-ア
SP2018	—	26	—	6	34.75	Ⅱ	B			×	SP2019に切られる	ズケ18-2J-ア
SP2019	楕円形	26	22	8	34.75	Ⅱ	B			×	SP2018を切る	ズケ18-2J-ア
SP2020	不定形	25	23	22	34.61	Ⅱ	B	+	a	○		ズケ18-2J-ア
SP2021	円形	24	22	17	34.82	Ⅲ	B	+	b	○		ズケ18-2J-カ
SP2022a	楕円形	35	21	15	34.94	Ⅲ	B				SD2002-③に切られる	ズケ18-2J-キ
SP2023	円形	28	26	20	34.95	Ⅲ	B	+	a	○		ズケ18-2J-カ
SP2024	円形	41	38	25	34.90	Ⅲ	B	+	b	○		ズケ18-2J-カ
SP2026	楕円形	25	21	10	35.03	Ⅳ	A		b	△	SP2027を切る	ズケ18-2J-カ
SP2027	円形	26	—	11	35.01	Ⅳ	B		b	△	SP2026に切られる	ズケ18-2J-カ
SP2028	円形	26	26	19	35.10	Ⅳ	B	+	b	○	SP2029を切る	ズケ18-2J-カ
SP2029	不定形	40	—	25	35.00	Ⅳ	B	+	a	○	SP2028に切られる	ズケ18-1J-コ
SP2030	円形	31	29	8	34.96	Ⅲ	A		a	△		ズケ18-1J-コ
SP2031	楕円形	41	32	13	34.93	Ⅲ	B		a	△		ズケ18-1J-コ
SP2032	楕円形	36	31	50	34.58	Ⅰ	D		c	△	石器(磨石)出土	ズケ18-1J-コ
SP2033	楕円形	36	28	20	34.89	Ⅲ	A	+	a	○		ズケ18-1J-コ
SP2034	円形	35	24	31	34.76	Ⅱ	A	+	a	○		ズケ18-1J-コ
SP2035	円形	29	27	10	35.36	Ⅴ	B			×		ズケ18-1J-ケ
SP2036	円形	35	35	35	34.89	Ⅲ	A	+	b	○		ズケ18-2J-シ
SP2037	円形	33	—	34	35.00	Ⅳ	A	+	a	○		ズケ18-2J-シ
SP2038	円形	35	31	24	35.00	Ⅳ	A	+	b	○		ズケ18-2J-サ
SP2039	円形	36	35	23	35.07	Ⅳ	B		c	△		ズケ18-2J-サ
SP2040	楕円形	28	27	45	34.86	Ⅲ	B		a	○		ズケ18-2J-サ
SP2041	—	29	—	30	34.98	Ⅲ	D	+	a	○		ズケ18-2J-シ
SP2042	—	35	—	17	35.06	Ⅳ	B	+	a	○		ズケ18-2J-サ
SP2043	不定形	25	20	20	35.25	Ⅴ	A			△	SP2044を切る	ズケ18-2J-サ
SP2044	不定形	30	—	36	35.05	Ⅳ	B	+	b	○	SP2043に切られる	ズケ18-2J-サ
SP2045	楕円形	20	16	15	35.63	Ⅶ	B		c	×		ズケ18-1J-ソ

第V-4表 遺構計測分類表 工区1 (SP) 2

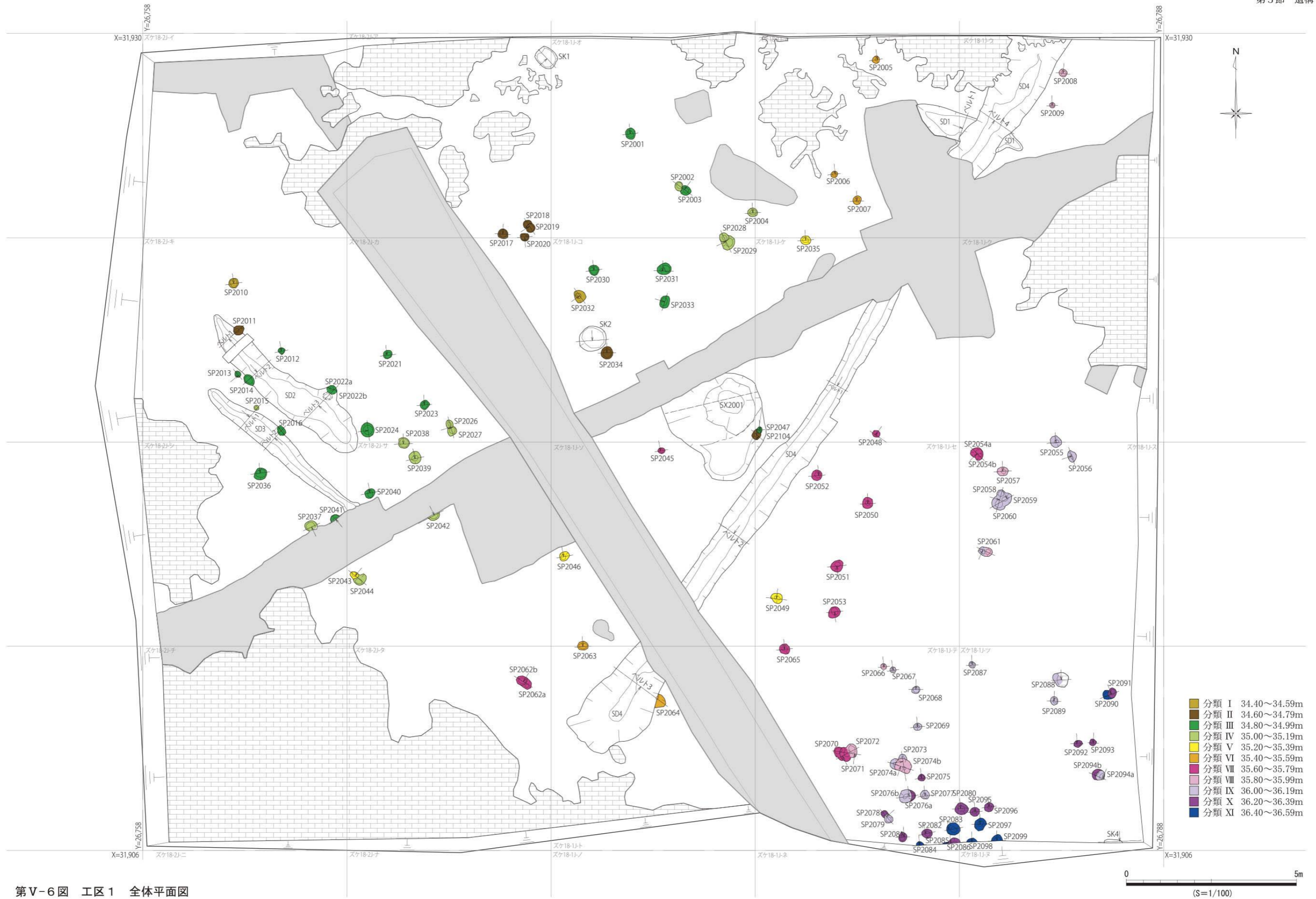
遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP2046	楕円形	30	25	32	35.20	V	A	+	a	○		ズケ18-1J-ソ
SP2047	楕円形	—	16	10	34.96	III	A	+	a	△		ズケ18-1J-ケ
SP2048	円形	20	20	13	35.73	VII	B	+	a	△		ズケ18-1J-ケ
SP2049	不定形	34	30	51	35.24	V	B		b	△		ズケ18-1J-セ
SP2050	円形	33	31	20	35.70	VII	B		c	△		ズケ18-1J-セ
SP2051	楕円形	33	29	18	35.72	VII	B		a	△		ズケ18-1J-セ
SP2052	円形	31	30	7	35.71	VII	B			×		ズケ18-1J-セ
SP2053	楕円形	31	28	30	35.60	VII	B		b	○		ズケ18-1J-セ
SP2054a	楕円形	36	—	27	35.65	VII	B	+	a	○	SP2054bに切られる	ズケ18-1J-ス
SP2054b	楕円形	26	—	9	35.79	VII	B		a	△	SP2054aを切る	ズケ18-1J-ス
SP2055	円形	33	30	7	36.10	IX	B		a	×		ズケ18-1J-ス
SP2056	楕円形	33	25	8	36.13	IX	B		a	△		ズケ18-1J-ス
SP2057	楕円形	33	25	17	35.94	VIII	B		b	△		ズケ18-1J-ス
SP2058	円形	—	25	6	36.05	IX	B		c	×	SP2060に切られる	ズケ18-1J-ス
SP2059	楕円形	—	—	8	36.02	IX	B		c	×	SP2060に切られる	ズケ18-1J-ス
SP2060	円形	42	—	7	36.03	IX	B		c	×	SP2058、2059を切る	ズケ18-1J-ス
SP2061a	楕円形	25	—	10	36.03	IX	B		a	×	SP2061bを切る	ズケ18-1J-ス
SP2061b	楕円形	25	—	21	35.92	VIII	B		a	△	SP2061aに切られる	ズケ18-1J-ス
SP2062a	—	—	25	15	35.63	VII	B		c	△	SP2062bに切られる	ズケ18-1J-タ
SP2062b	楕円形	30	27	8	35.70	VII	B		c	△	SP2062aを切る	ズケ18-1J-タ
SP2063	楕円形	31	26	16	35.59	VI	B		c	△		ズケ18-1J-ソ
SP2064	—	42	—	22	35.58	VI	D				SD2004③に切られる	ズケ18-1J-ト
SP2065	楕円形	32	28	11	35.61	VII	B		c	△		ズケ18-1J-テ
SP2066	円形	17	17	10	35.93	VIII	B	s	b	×	径が小さい	ズケ18-1J-テ
SP2067	円形	17	17	10	36.00	IX	A	s	b	×	径が小さい	ズケ18-1J-テ
SP2068	円形	22	21	4	36.11	IX	B		a	△		ズケ18-1J-テ
SP2069	円形	24	20	10	36.12	IX	B		a	△		ズケ18-1J-テ
SP2070	—	29	—	34	35.76	VII	—		a	△	SP2071に切られる	ズケ18-1J-テ
SP2071	楕円形	41	—	51	35.69	VII	A		a	△	SP2070を切る、SP2072に切られる	ズケ18-1J-テ
SP2072	楕円形	40	—	17	35.95	VIII	D		a	△	SP2071を切る	ズケ18-1J-テ
SP2073	—	—	20	10	36.16	IX	C		b	△		ズケ18-1J-テ
SP2074a	—	—	30	12	36.13	IX	B	+	a	△	SP2074bに切られる	ズケ18-1J-テ
SP2074b	楕円形	47	37	46	35.82	VIII	B	+	a	○	SP2074aを切る	ズケ18-1J-テ
SP2075	円形	20	20	5	36.30	X	B		a	△		ズケ18-1J-テ
SP2076a	—	—	33	5	36.31	X	A		a	×	SP2076bに切られる	ズケ18-1J-テ
SP2076b	楕円形	42	36	32	36.04	IX	B	+	a	○	SP2076aを切る	ズケ18-1J-テ
SP2077	円形	26	25	20	36.17	IX	B		c	△		ズケ18-1J-テ
SP2078	円形	—	19	6	36.28	X	B		a	×	SP2079に切られる	ズケ18-1J-テ
SP2079	円形	24	—	22	36.13	IX	B		a	△	SP2078を切る	ズケ18-1J-テ
SP2080	円形	36	34	9	36.36	X	B		a	△		ズケ18-1J-ツ
SP2081	楕円形	27	20	10	36.30	X	B		b	△		ズケ18-1J-テ
SP2082	円形	31	27	13	36.35	X	B	+	b	○		ズケ18-1J-テ
SP2083	円形	39	36	8	36.40	XI	B		c	×		ズケ18-1J-テ
SP2084	—	—	22	14	36.43	XI	B		a	△		ズケ18-1J-テ

第V-5表 遺構計測分類表 工区1 (SP) 3

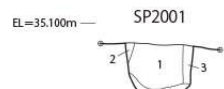
遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	高さ		底面	断面	柱痕等				
SP2085	—	—	—	11	36.48	XI	B		a	×	SP2086に切られる	ズケ18-1J-テ
SP2086	—	—	35	22	36.38	X	B		a	△	SP2085を切る	ズケ18-1J-テ
SP2087	円形	20	18	7	36.10	IX	A	s	a	×		ズケ18-1J-ツ
SP2088	不定形	46	42	15	36.08	IX	A		a	○		ズケ18-1J-ツ
SP2089	楕円形	24	20	26	36.04	IX	B	+	a	○		ズケ18-1J-ツ
SP2090	楕円形	—	27	9	36.42	XI	B		b	△	SP2091を切る	ズケ18-1J-ツ
SP2091	楕円形	27	25	16	36.25	X	D		c	△	SP2090に切られる	ズケ18-1J-ツ
SP2092	楕円形	24	18	20	36.24	X	B		b	△		ズケ18-1J-ツ
SP2093	円形	20	20	20	36.26	X	B		a	△		ズケ18-1J-ツ
SP2094a	—	24	—	31	36.19	IX	B	+	a	○	SP2094bを切る	ズケ18-1J-ツ
SP2094b	—	32	—	15	36.35	X	—		a	×	SP2094aに切られる	ズケ18-1J-ツ
SP2095	円形	28	25	11	36.36	X	B		b	△		ズケ18-1J-ツ
SP2096	円形	28	30	20	36.26	X	B	+	a	○		ズケ18-1J-ツ
SP2097	楕円形	36	30	9	36.41	XI	B		a	×		ズケ18-1J-ツ
SP2098	—	—	29	22	36.43	XI	B		a	△		ズケ18-1J-ツ
SP2099	—	—	34	16	36.44	XI	B		b	×		ズケ18-1J-ツ
SP2101	—	—	—	20	36.36	X	B	+		○		ズケ18-1J-ス
SP2102	—	—	—	18	36.46	XI	D			×		ズケ18-1J-ス
SP2103	—	—	—	18	36.64	XI	B	+		○		ズケ18-1J-ツ
SP2104	楕円形	—	24	12	34.68	II	D		a	△		ズケ18-1J-ケ

※柱穴の可能性 ○…可能性高い △…要検討 ×…可能性低い

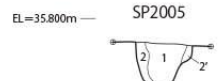
底面レベル(20cm区切り)	
I	34.40~34.59m
II	34.60~34.79m
III	34.80~34.99m
IV	35.00~35.19m
V	35.20~35.39m
VI	35.40~35.59m
VII	35.60~35.79m
VIII	35.80~35.99m
IX	36.00~36.19m
X	36.20~36.39m
XI	36.40~36.59m



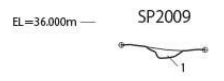
第V-6図 工区1 全体平面図



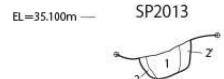
SP2001
 1. 10YR2/1. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-40mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、2mm 単位の石灰岩の粒を微量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1-10mm 単位の炭粒を中量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
 3. 10YR3/2. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を多量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 4. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。



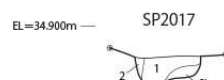
SP2005
 1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を多量、1mm 単位の炭粒を中量含む。
 2. 2' 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



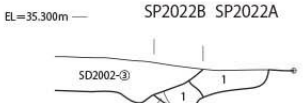
SP2009
 1. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



SP2013
 1. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、2-5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
 2. 2' 10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はとても強い、2-5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。

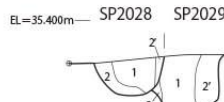


SP2017
 1. 10YR4/6. 砂質シルト、締りはやや弱い、粘質は中位、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、10mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1-10mm 単位の石灰岩の石を中量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 2' 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量含む。

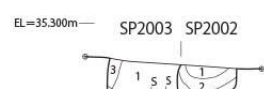


SP2022B SP2022A
 1. 10YR4/2. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-4mm 単位の 7.5YR5/6 土の斑点を少量、2-4mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を中量含む。
 2. 10YR4/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、2mm 単位の 7.5YR5/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。

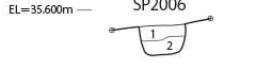
SP2022A
 1. 10YR5/2. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、2-8mm 単位の 7.5YR5/6 土の斑点を中量、2mm 単位の焼土粒を微量、1-2mm 単位の炭粒を中量含む。



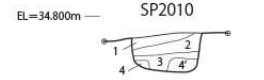
SP2028
 1. 10YR3/2. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、1-2mm 単位の石灰岩の粒を微量、1-3mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
 2. 2' 10YR2/2. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、1層より強い、10-30mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、1mm 単位の石灰岩の粒を微量、1-3mm 単位の焼土粒を微量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。



SP2003
 1. 10YR3/2. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、2-15mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を多量、5mm 単位の 10YR6/4 土の斑点を少量、2mm 単位の焼土粒を微量、2-8mm 単位の炭粒を中量含む。
 2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、2-8mm 単位の炭粒を少量含む。
 3. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、2mm 単位の炭粒を微量含む。



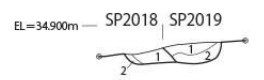
SP2006
 1. 10YR4/3. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5-8mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。



SP2010
 1. 10YR4/2. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-7mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を多量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
 2. 10YR4/2. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-10mm 単位の炭粒を中量含む。
 3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR4/2 土の斑点を微量、2mm 単位の石灰岩の粒を微量、2mm 単位の炭粒を微量含む。
 4. 4' 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、10mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を微量含む。



SP2014
 1. 7.5YR4/2. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



SP2018 SP2019
 1. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-4mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を微量含む。

SP2019
 1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を中量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。

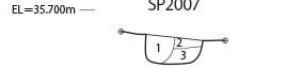


SP2023
 1. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を中量、2-4mm 単位の焼土粒を少量、1-6mm 単位の炭粒を少量含む。土器の破片出土。
 2. 2' 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
 3. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、4-6mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。

SP2029
 1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、3-6mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1-8mm 単位の炭粒を少量または中量含む。
 2. 2' 10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5-20mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



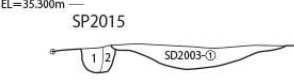
SP2002
 1. 10YR4/3. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5-15mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1-8mm 単位の炭粒を中量含む。
 2. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



SP2007
 1. 10YR2/2. 砂質シルト、締りは中位、粘質はやや弱い、5-10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、1-3mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
 2. 10YR3/3. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 3. 10YR4/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、2層より強い、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。



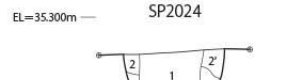
SP2011
 1. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、2-4mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2-4mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、2mm 単位の焼土粒を少量含む。



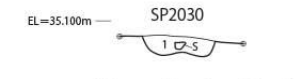
SP2015
 1. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、2-3mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を多量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



SP2020
 1. 10YR5/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、4-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量含む。
 2. 2' 10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
 3. 3' 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、1mm 以下の炭粒を微量含む。



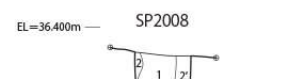
SP2024
 1. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を多量、5-15mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を多量、1-4mm 単位の焼土粒を微量、1-3mm 単位の炭粒を少量含む。
 2. 10YR5/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を多量、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-4mm 単位の焼土粒を少量含む。
 3. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、1-5mm 単位の炭粒を少量含む。
 4. 10YR5/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を少量、5-10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を多量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
 5. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、4層より強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を微量、1-2mm 単位のマンガン粒を微量含む。



SP2030
 1. 10YR3/2. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-15mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-3mm 単位の焼土粒を少量、1-20mm 単位の炭粒を中量含む。土器の破片出土。



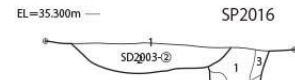
SP2004
 1. 10YR4/4 及び 10YR4/6. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-3mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、2-4mm 単位の焼土粒を少量含む。



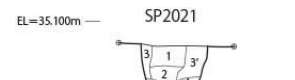
SP2008
 1. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を多量含む。
 2. 2' 10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、1-2mm 単位の焼土粒を微量含む。



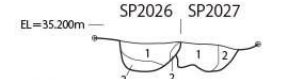
SP2012
 1. 10YR4/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、4-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-6mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 7.5YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、2-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



SP2016
 1. 10YR4/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、4-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-6mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、1mm 単位のマンガン粒を微量含む。
 3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、2-5mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量含む。
 4. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-12mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、1mm 単位の石灰岩の粒を微量含む。
 5. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量含む。

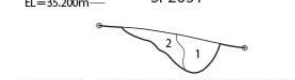


SP2021
 1. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、2-4mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を多量、5-8mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を多量、2-4mm 単位の焼土粒を少量、1-4mm 単位の炭粒を中量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、5-10mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、2-4mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
 3. 3' 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、2-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-3mm 単位の炭粒を少量含む。
 4. 10YR4/6 及び 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-3mm 単位の炭粒を微量含む。



SP2026 SP2027
 1. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR6/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、2-3mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。

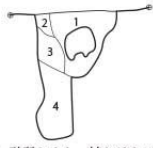
SP2027
 1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1mm 単位の焼土粒を微量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、4-6mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。



SP2031
 1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-12mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、1-2mm 単位の石灰岩の粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を中量、1-4mm 単位の焼土粒を微量、1-4mm 単位のマンガン粒を少量含む。



EL=35.200m SP2032



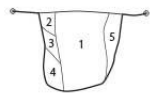
1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、8-12mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。ほぼ完全なすり石・石面出土。
2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、1層より強い、5-15mm単位の10YR4/6土の炭点を中量、1mm単位の炭粒を微量含む。
3. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、2層より強い、5-10mm単位の10YR4/6土の炭点を少量、10mm単位の10YR5/8土の炭点を微量、1mm単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR5/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-12mm単位の10YR4/6土の炭点を中量、1-4mm単位の炭粒を少量含む。根っここの通りの可能性。

EL=35.200m SP2033



1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、3-6mm単位の10YR5/6土の炭点を中量、1mm単位の焼土粒を微量、1-4mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR3/3. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1層より強い、1-3mm単位の10YR5/4土の炭点を少量、1mm単位の炭粒を微量含む。

EL=35.200m SP2034



1. 10YR3/3. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm単位の10YR5/4土の炭点を少量、4mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1-2mm単位の焼土粒を微量、1-4mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR3/4. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、2-3mm単位の10YR5/4土の炭点を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
3. 10YR3/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、3mm単位の10YR5/6土の炭点を微量、1mm単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
5. 10YR3/4及び10YR4/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5mm単位の10YR5/4土の炭点を少量、2mm単位の炭粒を微量含む。

EL=35.600m SP2035



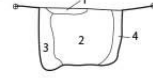
1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、4mm単位の10YR4/6土の炭点を少量、1mm単位の炭粒を微量、1mm単位のマンガン粉を微量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1層より強い、2-4mm単位の10YR4/4土の炭点を中量、2mm単位のマンガン粉の粒を微量含む。
3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-4mm単位の10YR4/4土の炭点を微量、1-2mm単位の焼土粒を微量、1mm単位の炭粒を微量含む。

EL=35.400m SP2037



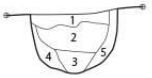
1. 10YR4/4及び10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5mm(上部)-25mm(下部)単位の10YR5/6土の炭点を中量含む。5mm単位の焼土粒を少量、2-25mm単位の炭粒を少量またはやや中量含む。土器の破片出土。
2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、2-3mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。
3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2-5mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。

EL=35.300m SP2038



1. 10YR5/6. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5mm単位の10YR4/6土の炭点を少量、5-10mm単位の10YR3/3土の炭点を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
2. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-15mm単位の10YR4/4土の炭点を少量、2-4mm単位の10YR4/6土の炭点を少量、2-4mm単位の炭粒を少量含む。
3. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-15mm単位の10YR4/4土の炭点を少量、4mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1mm単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-15mm単位の10YR4/4土の炭点を少量、4mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1mm単位の炭粒を微量含む。

EL=35.400m SP2039



1. 10YR4/6. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5-10mm単位の10YR3/4土の炭点を中量、2-5mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、2-4mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm単位の7.5YR5/6土の炭点を多量、5-10mm単位の10YR5/6土の炭点を中量、5-10mm単位の10YR3/3土の炭点を少量、1mm単位の焼土粒を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
3. 10YR4/6. 砂質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-10mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5mm単位の10YR5/3土の炭点を微量、1-4mm単位の焼土粒を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
5. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、5mm単位の10YR5/3土の炭点を微量、1-4mm単位の焼土粒を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。

EL=35.400m SP2036



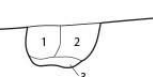
1. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、4-8mm単位の10YR5/4土の炭点を中量、2mm単位の10YR5/6土の炭点を微量、1-4mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは中位、1層より強い、粘質はやや強い、5-10mm単位の10YR5/4土の炭点を中量、1.5mm単位の10YR5/8土の炭点を少量、2mm単位の石灰岩の粒を微量、1-5mm単位の炭粒を少量含む。
3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、2層より弱い、粘質はとても強い、5-8mm単位の10YR4/4土の炭点を少量、1-2mm単位の焼土粒を微量、1mm単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm単位の10YR4/6土の炭点を少量、1mm単位の炭粒を微量含む。
5. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、2-4mm単位の10YR5/8土の炭点を少量、2-4mm単位の10YR2/2土の炭点を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
6. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは中位、5層より弱い、粘質はやや強い、5mm単位の10YR5/8土の炭点を微量、1mm単位の炭粒を微量含む。
7. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、6層より強い、粘質はとても強い、1-2mm単位の炭粒を微量含む。

EL=35.400m SP2041



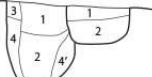
1. 10YR4/4及び10YR3/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-6mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、4-6mm単位の10YR5/4土の炭点を少量、1-2mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、2-4mm単位の10YR5/4土の炭点を微量、5mm単位の10YR5/6土の炭粒を微量、1-2mm単位の石灰岩の粒を微量、1-2mm単位の炭粒を微量、1-2mm単位のマンガン粉の粒を微量含む。
3. 10YR4/4及び10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-10mm単位の10YR5/4土の炭点を中量、1-2mm単位の炭粒を少量含む。
4. 10YR4/6. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、2-4mm単位の炭粒を微量含む。
5. 10YR4/4及び10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-10mm単位の10YR5/4土の炭点を中量、1-2mm単位の炭粒を少量含む。
6. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-10mm単位の10YR5/6土の炭点を多量、1-2mm単位の炭粒を少量含む。

EL=35.400m SP2042



1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、2-5mm単位の10YR4/6土の炭点を中量、1-2mm単位の焼土粒を少量、1mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-10mm単位の10YR4/6土の炭点を少量、1-2mm単位の炭粒を少量含む。
3. 10YR5/6. 砂質シルト、締りはやや強い、粘性は中位、1mm単位の炭粒を少量含む。

EL=35.500m SP2044 SP2043



1. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-10mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1-3mm単位の焼土粒を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。
2. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-15mm単位の10YR5/6土の炭点を中量、1-2mm単位の炭粒を少量含む。
3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5-10mm単位の10YR3/3土の炭点を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。
4. 10YR4/4及び10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、2mm単位の10YR3/3土の炭点を少量、5mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。

EL=35.400m SP2040



1. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm単位の10YR5/6土の炭点を微量、10-120mm単位の石灰岩の石を中量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2mm単位の10YR5/6土の炭粒を微量含む。
3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5-15mm単位の10YR4/4土の炭点を中量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-8mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。
5. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、2-4mm単位の10YR4/4土の炭点を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。

EL=35.600m SP2046



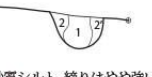
1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-15mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1-3mm単位の炭粒を微量含む。
2. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5mm単位の10YR5/6土の炭点を多量含む。
3. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2-10mm単位の10YR5/6土の炭点を多量、1mm単位の石灰岩の粒を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。
4. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5mm単位の10YR3/4土の炭粒を微量、5mm単位の10YR5/6土の炭粒を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。
5. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、5-8mm単位の10YR5/6土の炭点を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。
6. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い。

EL=35.200m SP2047



1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-8mm単位の10YR5/4土の炭点を少量、1-6mm単位の焼土粒を少量含む。

EL=36.000m SP2048



1. 10YR4/3. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm単位の10YR5/4土の炭点を少量、1mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、2-3mm単位の10YR4/6土の炭点を少量、2-5mm単位の10YR5/4土の炭粒を少量、1-2mm単位の炭粒を少量含む。

EL=35.800m SP2045



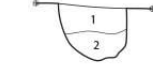
1. 10YR4/4及び10YR3/4. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、2-8mm単位の10YR4/6土の炭点を少量、1mm以下の炭粒を微量含む。
2. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、2mm単位の10YR4/6土の炭粒を微量含む。

EL=35.800m SP2049



1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-15mm単位の10YR5/4土の炭点を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
2. 10YR3/4. 1層より強い粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、10-20mm単位の10YR5/4土の炭粒を少量またはやや中量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、10-15mm単位の10YR5/4土の炭粒を少量またはやや中量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5mm単位の10YR5/4土の炭粒を中量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
5. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、10-20mm単位の10YR5/4土の炭粒を多量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。

EL=36.000m SP2050



1. 10YR4/4及び10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm単位の10YR5/4土の炭点を多量、1-2mm単位の焼土粒を微量、1-5mm単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-8mm単位の10YR5/4土の炭粒を中量、1mm単位の炭粒を微量含む。

EL=36.000m SP2051

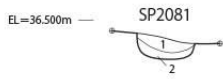


1. 10YR2/3. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm単位の10YR2/2土の炭粒を少量、5mm単位の10YR5/8土の炭粒を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
2. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-10mm単位の10YR2/3土の炭粒を中量、2-3mm単位の10YR5/8土の炭粒を少量、1mm単位の炭粒を微量含む。
3. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、2層より弱い、2-3mm単位の10YR5/8土の炭粒を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、3層より強い、2mm単位の10YR5/8土の炭粒を少量、1-2mm単位の焼土粒を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
5. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはつよい、粘質は中位、4層より弱い、2-5mm単位の10YR5/8土の炭粒を中量、1-2mm単位の焼土粒を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
6. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-4mm単位の10YR3/3土の炭粒を少量、2-4mm単位の10YR5/8土の炭粒を少量、1-2mm単位の焼土粒を微量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。
7. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、6層より強い、5-10mm単位の10YR5/8土の炭粒を少量、1-2mm単位の炭粒を微量含む。

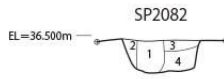
EL=35.900m SP2052



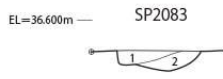
1. 10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm単位の10YR4/6土の炭粒を少量、1-2mm単位の焼土粒を微量、1-2mm単位の炭粒を少量含む。



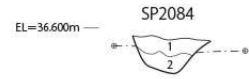
1. 10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、5-8mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-12mm 単位の 10YR5/4 及び 10YR5/6 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、2-4mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
3. 10YR3/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、10-15mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



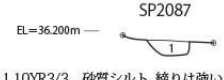
1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、5-10mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、5-8mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。



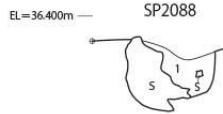
1. 10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量含む。



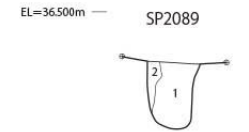
- SP2086
1. 10YR3/3. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量またはやや中量、1-4mm 単位の焼土粒を微量含む。
 2. 10YR4/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、1-5mm 単位の炭粒を少量含む。
 3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、4mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1-4mm 単位の焼土粒を微量含む。



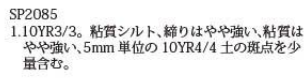
1. 10YR3/3. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、10mm 単位の 10YR5/3 土の斑点を中量、4mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を微量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。



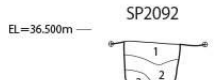
1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは中位、粘質は中位、3-6mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、20-40mm 単位の石灰岩の石を少量含む。



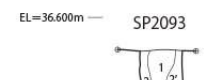
1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、5-10mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、1-3mm 単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1-3mm 単位の炭粒を微量含む。



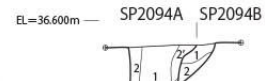
- SP2085
1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量含む。



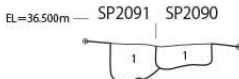
1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、4mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を微量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
2. 10YR3/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、4-8mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
3. 10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。



1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を多量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
3. 10YR4/6. 砂質シルト、締りは中位、粘質は中位、1mm 単位の炭粒を微量含む。



- SP2094A
1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、2mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を微量、1-6mm 単位の焼土粒を少量、1-4mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR3/4 及び 10YR4/6. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、1層より強い、1mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 3. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



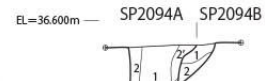
- SP2091
1. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を少量、1-4mm 単位の炭粒を微量含む。



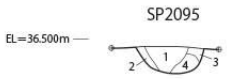
1. 10YR3/4. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5-6mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1層より強い、2-3mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
3. 10YR4/4 及び 10YR4/6. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位。
4. 10YR4/4 及び 10YR4/6. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。



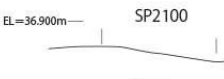
1. 10YR3/3. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-3mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、2-3mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



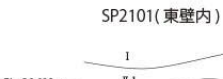
- SP2094B
1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1-6mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を微量、1-4mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/6. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、1層より強い、4-6mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を微量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。



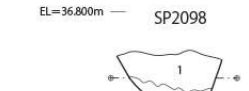
- SP2090
1. 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、10-40mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を中量、10mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を微量含む。



- SP2095
1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR3/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、2mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
 3. 10YR3/4. 砂質シルト、締りはとても強く、粘質はやや強い、1-2mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を微量含む。
 4. 10YR3/4. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、2mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。



- SP2100
1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、10-12 単位の 10YR4/4 土の斑点を多量含む。



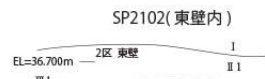
- SP2101(東壁内)
1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1層より強い、5-15mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を多量、2mm 単位の焼土粒を微量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。



- SP2098
1. 10YR3/2. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を少量含む。
 2. 10YR3/3. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を多量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。



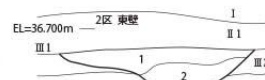
- SP2102(東壁内)
1. 10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
 2. 10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、10-12 単位の 10YR4/4 土の斑点を多量含む。



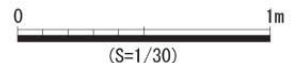
- SP2101(東壁内)
1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1層より強い、5-15mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を多量、2mm 単位の焼土粒を微量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。



- SP2103(東壁内)
1. 10YR3/3. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、2mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。
 2. 10YR3/4. 砂質シルト、締りは中位、粘質は中位、4mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を多量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



- SP2102(東壁内)
1. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-4mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りは中位、粘質は中位、5-15mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を多量、2-6mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。





遺構検出スカイマスター撮影



SP2024 半截 (西より)



SP2037 遺物出土状況



SP2037 半截 (南東より)



SP2046 半截 (北より)



SP2001 半截 (北より)



SP2020 半截 (北より)



SP2032 遺物出土



SP2038 半截 (北より)



SP2005 半截 (北より)



SP2033 半截 (北西より)



SP2003-2002 半截 (北東より)



SP2076 半截 (北より)



SP2034 半截 (北より)



SP2089 半截 (北より)

図版V - 3 ピット (SP)

2. 土坑 (SK)

土坑は3基検出されている。SK 1は調査区1の北側で検出された楕円形を呈する土坑で、2層に細分される。中央に琉球石灰岩を確認。覆土より近世～近代相当と思われる。SK 2は調査区の中央で検出。直径約80cmの円形を呈し、堆積は4枚に細分。粘質シルトを主体として基本的に締まりはやや強い。グスク土器が出土。SK 3は攪乱孔であったため欠番とした。SK 4は調査区1南壁面で検出。暗褐色を呈する砂質シルト。平面形は不明だが、深さは43cmと深い。

第V-6表 工区1 土坑 (SK) 計測一覧表

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	所見	グリッド
		長軸	短軸	深さ			
SK1 (SK2001)	隅丸方形	62	53	12	34.63	中央に石灰岩岩盤を検出。周囲を略方形に掘り込んで形成。覆土は褐色の砂質シルトで、遺物の出土はないが覆土は近世～近代相当の堆積土と思われる。	ズケ18-2J-ア
SK2 (SK2002)	楕円形	83	73	87	34.21	石灰岩礫が多数混入。覆土は暗褐色シルトで遺物の出土がないため、時期は不明。周囲のピットと比べて極端に大きく、類似の遺構はない。	ズケ18-1J-コ
(SK2003)						攪乱のため欠番	
SK4 (SK2004)	—	(112)	—	43	36.32	覆土は暗褐色シルトを呈しており、下層にピットが検出されている。	ズケ18-1J-ツ



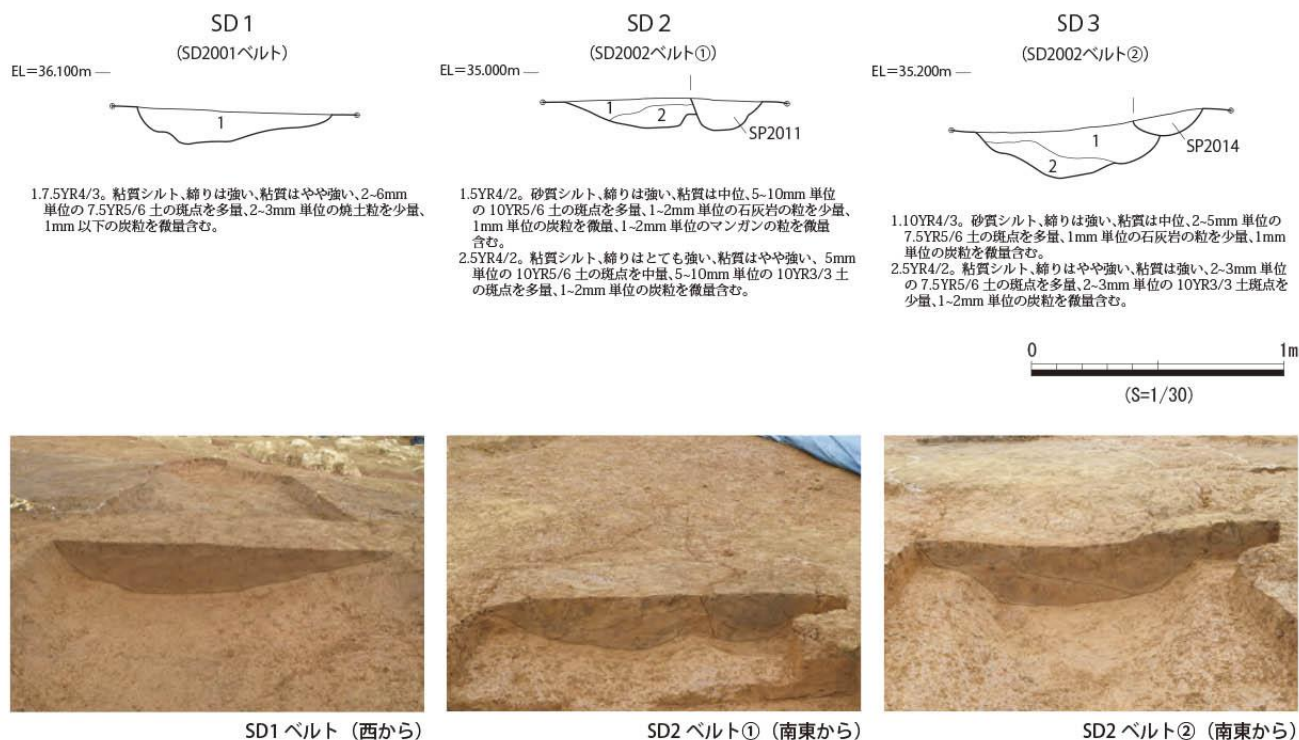
第V-11図 土坑 (SK)

3. 溝状遺構 (SD)

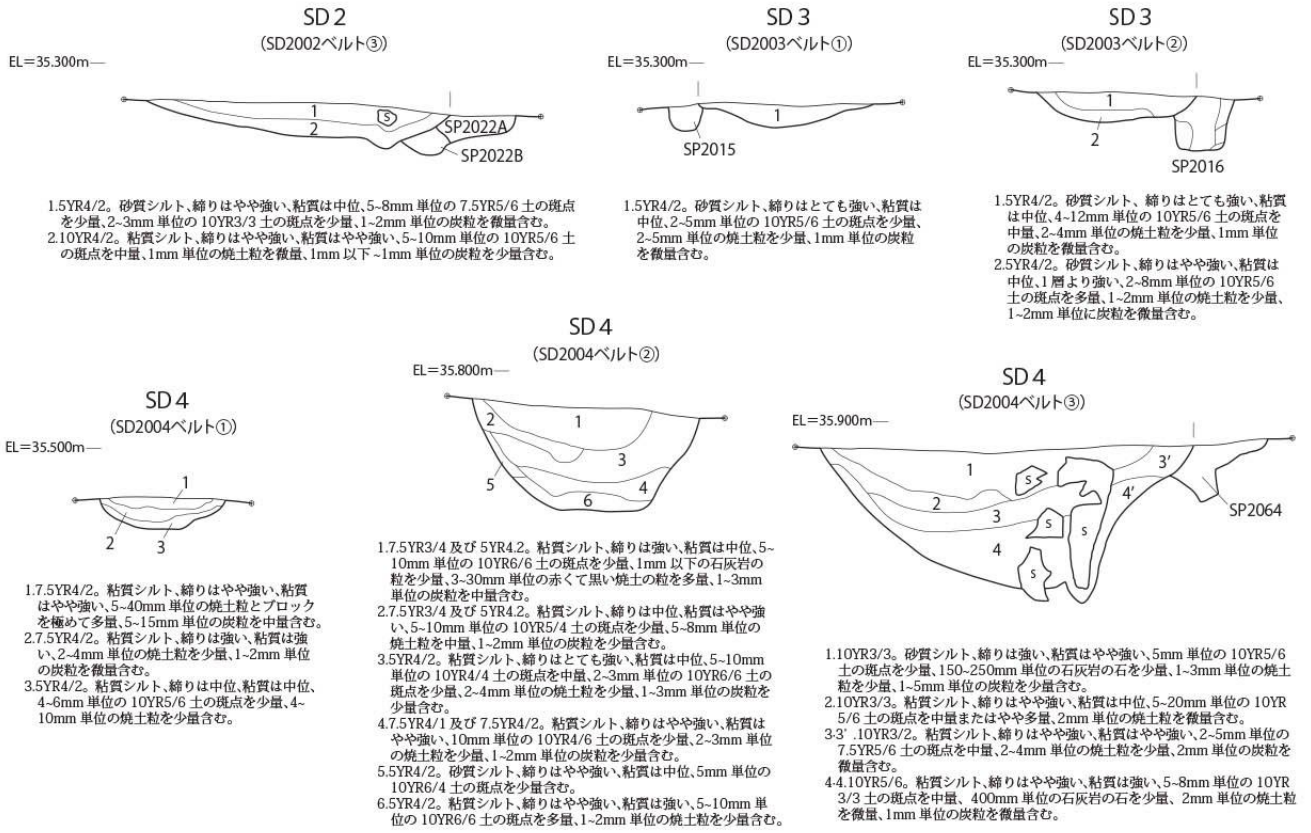
溝状遺構は4条検出された。SD 1は調査区北東端に位置し、SD 4に対して直角に切られるように所在する。東側は攪乱により切られている。SD 2、SD 3は調査区東側に位置する。両溝は北東—南西方向に軸を持って並列する。覆土は近世～近代相当と思われる褐色の砂質シルトで焼土粒や炭粒などが混じる。上部は米軍造成が堆積していたことなどから削平されたと思われる。SD 4は調査区の北東—南西方向に延びる溝で、断面を見ると床面が平坦に整形（または平坦に近い丸みを持つ）されている。北東側は岩盤に擦り付けるように途切れる。状況から岩盤の間を繋ぐように配置されていることから何らかの区画または排水（南東側の岩盤方向へ下がる）としての機能が想定される。

第V-7表 工区1 溝状遺構 (SD) 計測一覧表

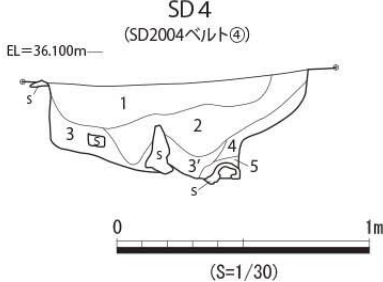
遺構No.	断面ライン	計測(cm)		底面レベル(m)	所見	グリッド
		幅	深さ			
SD1	SD2001	77	14	35.82	覆土は褐色粘質シルトで、遺物は先史土器が1点出土している。	ズケ18-1J-ウ
SD2	SD2002 ①	50	11	34.78	北西—南東方向に軸を持つ。覆土は灰褐色の砂質シルトで青磁小破片が出土している。SD3と同軸方向に延びることと類似する覆土が堆積していることから関連があるものと思われる。	ズケ18-2J-キ
	SD2002 ②	62	19	34.78		ズケ18-2J-キ
	SD2002 ③	120	17	34.96		ズケ18-2J-キ
SD3	SD2003 ①	69	9	35.04	SD2の南西側に位置する。覆土は褐色の砂質シルトで締りはやや強い。残存深度が10cm程しかなく、南側は埋設管(攪乱)により消失している。	ズケ18-2J-キ
	SD2003 ②	63	12	35.07		ズケ18-2J-キ〜シ
SD4	SD2004 ①	50	12	35.18	北東—南西方向に延びる。検出された長さは25mを測る。部分的に埋設管によって切られているが、南側の残存深度は60cm程もあり、当時の状況に近い高さを残していると思われる。ベルト②の断面を見ると地山面(マージ層)を逆台形状に掘り込んで形成されており、床面はフラットになっている。土器や沖縄産陶器が出土している。	ズケ18-1J-ケ
	SD2004 ②	90	41	35.24		ズケ18-1J-ソ
	SD2004 ③	148	61	35.18		ズケ18-1J-ト
	SD2004 ④	103	39	35.60		ズケ18-1J-ウ



第V-12図 溝状遺構 (SD) 1



- 1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR5/4 土の縦縞を中量、1-3mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-15mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、2-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-4mm 単位の焼土粒を少量、2-3mm 単位の炭粒を微量含む。
- 3.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を微量、5-8mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
- 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
- 5.10YR4/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



SD2 ベルト③ (南東から)



SD3 ベルト① (北西から)



SD3 ベルト② (南東から)



SD4 ベルト① (北東から)



SD4 ベルト② (北東から)



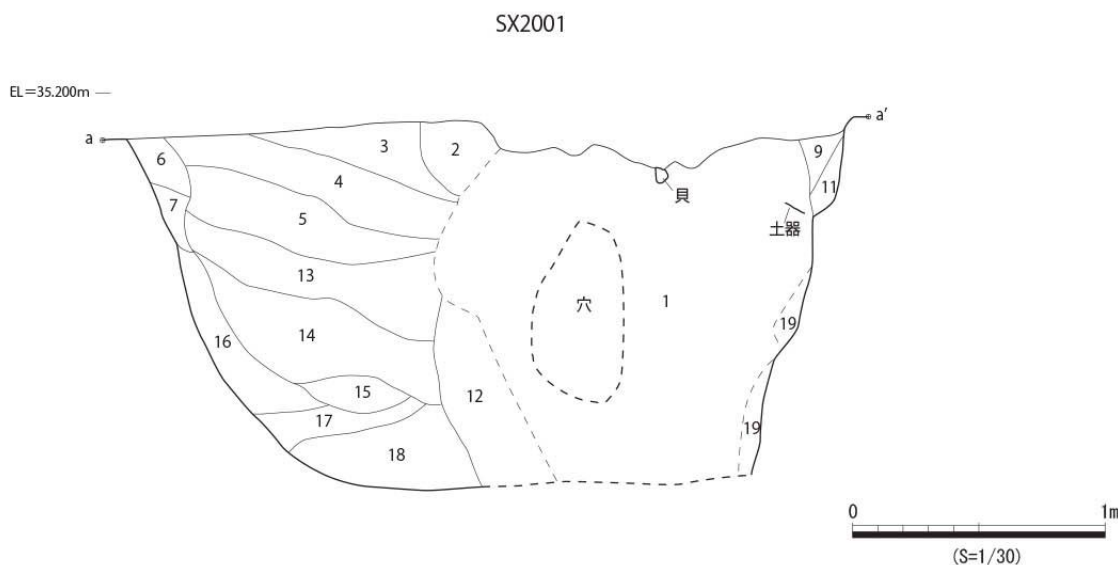
SD4 ベルト③ (南西から)



SD4 ベルト④ (南西から)

4. 不明遺構 (SX)

不明遺構は調査区中央で SX2001 の 1 基が確認された。平面観は楕円形状を呈し、中央北寄りに石灰岩礫が集中している。断面を見ると 10～20 cm 大の石灰岩礫が深さ 1 m 程、暗褐色の粘質土と一緒に充填され、下部は空洞になっている箇所も見られた。また、礫中より 20 cm 大のニービ（砂岩）や土器片（先史土器やグスク土器など）が出土している。



1. 10YR3/3 及び 10YR3/4。砂質シルト、締りは弱い、粘質は中位、10-300mm 単位の石灰岩の石を極めて多量、1-8mm 単位の焼土粒を中量、1-20mm 単位の炭粒を中量含む。土器の破片出土。
2. 10YR3/4。砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-4mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を微量、30-40mm 単位の石灰岩の石を微量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
3. 10YR3/3。砂質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、4mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を微量、15-20mm 単位の 10YR5/4 丸い斑点 (植物一帯の跡?) を微量、15-30m 単位の石灰岩の石を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
4. 10YR3/4。砂質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、2-6mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、10-30mm 単位の 10YR5/4 丸い斑点 (植物一帯の跡?) を少量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。土器の破片出土。
5. 10YR3/4。砂質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を微量、10-15mm 単位の 10YR5/4 丸い斑点 (植物一帯の跡?) を微量、40-120mm 単位の石灰岩の石を微量 1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
6. 10YR4/4 及び 10YR3/4。砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-8mm×50-70mm 単位の 10YR4/6 土の線を多量、1-4mm 単位の炭粒を微量含む。
7. 10YR4/6。砂質シルト、締りは中位、粘質はやや弱い、10mm 単位の 7.5YR5/8 土の斑点を微量、4-8mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
8. 10YR3/4。粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、10-20mm 単位の 7.5YR5/8 土の斑点を少量、10-15mm 単位の 10YR5/4 丸い斑点 (植物一帯の跡?) を中量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
9. 10YR3/3 及び 10YR3/4。粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、5mm 単位の焼土粒を微量、1-3mm 単位の炭粒を微量含む。
10. 10YR3/4。粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、10-20mm 単位の 10YR5/4 丸い斑点 (植物一帯の跡?) を中量、5-6mm 単位の焼土粒を微量含む。
11. 10YR3/4。粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
12. 10YR3/4。粘質シルト、締りはやや弱い、粘質は強い、10mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、100mm 単位の石灰岩の石を中量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。
13. 10YR3/4。粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、10-20mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、40mm 単位の石灰岩の石を微量、2-3mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
14. 10YR3/4 及び 10YR4/4。砂質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 7.5YR5/8 土の斑点を少量、10-20mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を中量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。
15. 10YR4/4。粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-20mm 単位の 7.5YR5/8 土の斑点を多量、5mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
16. 7.5YR5/8。粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を少量、10-15mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を少量含む。
17. 10YR3/4。粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5-8mm 単位の 7.5YR5/8 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
18. 10YR4/4。粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 7.5YR5/8 土の斑点を少量、2-4mm 単位の焼土粒を少量含む。
19. 10YR3/4。粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5-15mm 単位の 10YR5/4 土の斑点を少量、1-5mm 単位の炭粒を少量含む。



SX2001 石出土状況 (東から)



SX2001 半截 (南から)



SX2001 完掘 (南から)

【工区2】

1. ピット (SP)

工区2では、ピットが280基(欠番除く)程検出された。中には鋤跡と思われるピットも確認された。現地調査の際にも建物プランの検討がなされたが、多数のピットが複雑に切り合っており、明確なプランとして位置づけることは困難であった。工区2では、ピットの規模や深度などから堀棒等で形成されたと思われるものが多く確認されており、一帯が耕作地として利用された可能性が想定される。

以下に建物プランを推定するための分類とそれとは別に耕具痕や植栽痕と思われるものについても配置状況や堀方などからも検討を行った。各ピットの計測および分類については一覧表に記載している(第V-10～15表 遺構計測分類表)。

(1) 底面レベルの分類

工区2では36.18mが最も低く、39.78mが最も高い値であったため、その間を20cm単位で任意に区切り、I類～XI類に分類した。

第V-8表 底面レベルの分類

底面レベル(20cm区切り)	
I	36.18～36.39m
II	36.40～36.59m
III	38.00～38.19m
IV	38.20～38.39m
V	38.40～38.59m
VI	38.60～38.79m
VII	38.80～38.99m
VIII	39.00～39.19m
IX	39.20～39.39m
X	39.40～39.59m
XI	39.60～39.79m

(2) 掘方での分類

各ピットの掘方断面形状によって分類したもので、下記A～Dの4種類に分類した。

第V-9表 掘方断面形状分類模式図

	A	B	C	D	+	S
分類	基底部に平坦面があるもの。	基底部に平坦面がないもの。(基底部が丸みを帯びるものや多少凹凸するもの)	基底部に段を持つもの。	基底部が斜めのものや大きく凹凸するもの。	柱痕あり	直径15cm未満
模式図					柱穴	柱穴の可能性低い



A



B



C



D

図版V-4 掘方断面の分類別のピット

第V-10表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 1

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備 考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP3001a	楕円形	34	30	19	38.12	Ⅲ	A		b	○	SP3001bを切る	ズケ17-10J-テ
SP3001b	—	43	—	33	38.00	Ⅲ	B		a	△	SP3001aに切られる	ズケ17-10J-テ
SP3002	楕円形	—	30	11	38.96	Ⅶ	B		c	×		ズケ17-10J-ツ
SP3003	楕円形	—	26	17	38.92	Ⅶ	B	+	b	△	SP3004に切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3004	楕円形	34	23	8	39.09	Ⅶ	B		c	×	鉄跡 SP3003を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3005	円形	30	26	14	38.95	Ⅶ	B				SD3002に切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3006	楕円形	39	35	19	38.94	Ⅶ	B	+	a	△		ズケ17-10J-ツ
SP3007a	楕円形	—	33	20	38.62	Ⅵ	B				SP3007b、SD3001に切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3007b	—	—	—	18	38.65	Ⅵ	A				SP3007aを切る	ズケ17-10J-ツ
SP3008	楕円形	—	27	9	38.86	Ⅶ	B		c	×	SP3009に切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3009	円形	28	25	20	38.78	Ⅵ	B		b	△	SP3008を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3010	円形	23	21	6	39.13	Ⅶ	B				SP3011を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3011	楕円形	—	34	21	38.96	Ⅶ	B	+			SP3010、SD3002に切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3012a	楕円形	39	20	5	39.20	Ⅸ	B			×	鉄跡 SP3012bを切る	ズケ17-10J-ツ
SP3012b				5	39.21	Ⅸ	B			×	鉄跡 SP3012aに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3013	円形	17	16	4	39.16	Ⅶ	B			×	鉄跡	ズケ17-10J-ツ
SP3014	楕円形	18	16	7	39.13	Ⅶ	B		c	×		ズケ17-10J-ツ
SP3015	円形	41	40	25	39.10	Ⅶ	B	+	b	△		ズケ17-10J-チ
SP3016	円形	33	30	21	39.15	Ⅶ	A		a	○		ズケ17-10J-チ
SP3017	円形	24	21	22	39.40	Ⅹ	B		c	△		ズケ17-10J-チ
SP3018	楕円形	49	41	32	39.13	Ⅶ	B		b	△		ズケ17-10J-チ
SP3019	円形	29	28	16	39.30	Ⅸ	B	+	c	△		ズケ17-10J-チ
SP3020a	—	32	—	10	39.36	Ⅸ	B		b	△		ズケ17-10J-チ
SP3020b	円形	57	45	25	39.16	Ⅶ	A	l+	b	△		ズケ17-10J-チ
SP3021	円形	21	20	10	39.34	Ⅸ	B		c	△		ズケ17-10J-チ
SP3022	円形	18	18	6	39.37	Ⅸ	B	s		×		ズケ17-10J-チ
SP3023	楕円形	19	16	10	39.60	Ⅺ	B	s		×		ズケ17-10J-チ
SP3024	不定形	34	27	12	39.60	Ⅺ	A		c	△		ズケ17-10J-チ
SP3025a	楕円形	—	28	19	39.58	Ⅹ	B	+		△	SP3025bを切る、SP3026に切られる	ズケ17-10J-チ
SP3025b	楕円形	—	20	21	39.52	Ⅹ	B		b	△	SP3025aに切られる	ズケ17-10J-チ
SP3026	円形	29	28	8	39.65	Ⅺ	B		b	△	SP3025aを切る	ズケ17-10J-チ
SP3028	—	—	42	5	39.28	Ⅸ	D		b	×	SK3001に切られる	ズケ17-10J-チ
SP3029	不定形	42	37	4	39.16	Ⅶ	B		c	×	SP3030を切る	ズケ17-10J-チ
SP3030	楕円形	19	—	9	39.31	Ⅸ	B	s	c	×	SP3031に切られる	ズケ17-10J-チ
SP3031	円形	28	25	7	39.32	Ⅸ	B		c	×	SP3030を切る	ズケ17-10J-チ
SP3033	不定形	43	37	32	39.12	Ⅶ	C	+	b	○		ズケ17-10J-チ
SP3036	楕円形	25	—	10	39.47	Ⅹ	B		b	△	SP3037に切られる	ズケ17-10J-チ
SP3037	円形	20	20	8	39.47	Ⅹ	D		b	△	SP3036を切る	ズケ17-10J-チ
SP3038a	楕円形	39	30	18	39.32	Ⅸ	B	+	a	○	a,b,c,dに分かれる。A柱根あり	ズケ17-10J-チ
SP3038b	—	29	—	7	39.39	Ⅸ	—					ズケ17-10J-チ
SP3038c	—	15	—	6	39.40	Ⅹ	—					
SP3038d	—	39	—	4	39.39	Ⅹ	—					
SP3039	楕円形	19	15	8	39.38	Ⅸ	A	s	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3040	円形	16	14	7	39.39	Ⅸ	B	s	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3041	円形	21	19	11	39.36	Ⅸ	B	+	b	△		ズケ17-10J-チ
SP3042	楕円形	51	39	10	39.20	Ⅸ	D	l				ズケ17-10J-チ
SP3044	楕円形	18	15	8	39.22	Ⅸ	B	s	c	×		ズケ17-10J-チ
SP3045	円形	22	22	15	39.61	Ⅺ	B	+	a	○		ズケ17-10J-チ
SP3046	円形	19	17	12	39.53	Ⅹ	B	s	b	△		ズケ17-10J-タ
SP3047	円形	23	22	13	39.67	Ⅺ	D		c	×		ズケ17-10J-タ
SP3048	楕円形	21	18	11	39.73	Ⅺ	B		c	△		ズケ17-10J-タ

第V-11表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 2

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備 考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP3049	円形	16	15	6	39.78	XI	B	s	c	×		ズケ17-10J-タ
SP3050a	楕円形	40	—	4	39.82	X	B		c	△		ズケ17-10J-タ
SP3050b	楕円形	—	21	32	39.52	X	C	+	c	△		ズケ17-10J-タ
SP3052	楕円形	20	16	11	39.06	VIII	B	+	a	△		ズケ17-10J-ヌ
SP3053	円形	23	21	16	39.03	VII	B		a	△		ズケ17-10J-ヌ
SP3054	楕円形	20	17	4	39.15	VIII	B	s	b	△		ズケ17-10J-ヌ
SP3055	円形	19	18	10	39.10	VII	B	s	a	△		ズケ17-10J-ヌ
SP3056	楕円形	25	16	10	39.15	VII	B	+	a	△		ズケ17-10J-ヌ
SP3057	円形	24	22	14	39.17	VII	B	+	a	○		ズケ17-10J-ヌ
SP3059	楕円形	28	25	13	39.21	IX	D		b	△		ズケ17-10J-ヌ
SP3060	不定形	19	16	6	39.23	IX	B	s	c	×	鍍跡	ズケ17-10J-ヌ
SP3061	楕円形	38	31	18	39.15	VII	B	+	b	○		ズケ17-10J-ニ
SP3062	楕円形	26	23	13	38.80	VII	A	+	c	○		ズケ17-10J-ヌ
SP3063	円形	22	21	13	38.78	VI	B	+	b	○		ズケ17-10J-ヌ
SP3065a	楕円形	40	31	16	39.35	IX	B		a	△		ズケ17-10J-ニ
SP3065b	楕円形	33	—	15	39.38	IX	B		a	△		ズケ17-10J-ニ
SP3066	楕円形	23	19	16	39.49	X	D	+	b	△		ズケ17-10J-ニ
SP3067	楕円形	65	40	19	39.35	IX	D	l	b	×		ズケ17-10J-ニ
SP3068	不定形	13	11	5	39.43	X	B	s	c	×	鍍跡	ズケ17-10J-ニ
SP3069	円形	22	20	10	39.38	IX	B		b	△		ズケ17-10J-ニ
SP3070	円形	17	17	9	39.39	IX	B	s	b	△		ズケ17-10J-ニ
SP3072	楕円形	25	21	8	39.40	X	B				SP3073を切る	ズケ17-10J-ニ
SP3073	楕円形	—	25	11	39.35	IX	B				SP3072、SD3002に切られる	ズケ17-10J-ニ
SP3075	楕円形	—	26	6	39.52	X	B		c	×	SP3004に切られる	ズケ17-10J-ニ
SP3077	楕円形	—	27	8	39.56	X	D		c	×		ズケ17-10J-ニ
SP3078	不定形	27	21	10	39.56	X	B	+	b	○		ズケ17-10J-ニ
SP3079	円形	20	20	13	39.20	IX	B	+	b	○		ズケ17-10J-ニ
SP3081a	楕円形	—	30	7	39.55	X	B		b	×	SP81bに切られる	ズケ17-10J-ニ
SP3081b	楕円形	—	31	16	39.50	X	B	+	b	○	SP81aを切る	ズケ17-10J-ニ
SP3082	不定形	25	24	13	39.61	XI	D		b	△		ズケ17-10J-ニ
SP3083a	楕円形	28	14	11	39.69	XI	D		c	×	鍍跡	ズケ17-10J-ナ
SP3083b	楕円形	25	11	5	39.73	XI	D		c	×	鍍跡	ズケ17-10J-ナ
SP3086	円形	31	31	15	38.29	IV	B	+	b	△		ズケ17-10A-エ
SP3089	円形	16	15	12	38.86	VII	A	s	a	△		ズケ17-10A-エ
SP3090	楕円形	18	13	5	38.88	VII	B	s	c	×	鍍跡 SP3091に切られる	ズケ17-10A-エ
SP3091	円形	10	10	2	38.92	VII	B	s	c	×	鍍跡 SP3090を切る	ズケ17-10A-エ
SP3092	円形	21	19	12	38.78	VI	B	+	b	○		ズケ17-10A-エ
SP3093	楕円形	23	20	17	38.79	VI	B		a	△		ズケ17-10A-エ
SP3094	円形	22	20	14	36.22	I	B	+	b	○		ズケ17-10A-ウ
SP3095	楕円形	31	27	4	39.25	IX	B		b	×	堀棒による耕作痕	ズケ17-10A-ウ
SP3096	楕円形	25	20	8	39.16	VIII	C		b	△	SP3097を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3097	楕円形	—	20	12	39.14	VIII	B		b	△	SP3096に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3098	楕円形	35	28	7	39.20	IX	B		a	×	堀棒による耕作痕	ズケ17-10A-ウ
SP3099	楕円形	27	—	9	36.38	I	B		a	△	SP3100に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3100	円形	28	27	15	36.32	I	B	+	a	△	SP3099、SP3101を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3101	楕円形	—	15	3	36.45	II	B	s	a	×	浅い。SP3100に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3102	円形	17	15	3	36.54	II	A	s	b	×	浅い	ズケ17-10A-ウ
SP3103	楕円形	15	11	6	39.20	IX	B	s	c	×		ズケ17-10A-ウ
SP3104	—	—	19	7	39.34	IX	A		b	△	SP3105を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3105	—	—	18	13	39.31	IX	B		b	△	SP3104に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3106	—	—	26	15	39.25	IX	B	+	b	○		ズケ17-10A-ウ

第V-12表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 3

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備 考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP3107	楕円形	35	25	12	39.26	IX	A		b	△		ズケ17-10A-U
SP3108	円形	31	30	6	39.23	IX	B		a	×	堀棒による耕作痕	ズケ17-10A-U
SP3109	—	23	—	5	39.35	IX	D		b	△		ズケ17-10A-U
SP3110	円形	11	10	8	39.29	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3111	円形	13	12	2	39.07	VII	B	s	c	×	鍬跡?	ズケ17-10A-U
SP3112	円形	25	22	20	36.27	I	B	+	a	○		ズケ17-10A-U
SP3113	楕円形	16	12	9	39.23	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3114	楕円形	32	25	4	39.33	IX	B		b	×	堀棒による耕作痕	ズケ17-10A-U
SP3115	円形	17	15	7	39.34	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3116	円形	24	22	18	36.18	I	B	+	a	○		ズケ17-10A-U
SP3117	楕円形	25	13	8	36.37	I	B	s	b	△	鍬・スコップ跡	ズケ17-10A-U
SP3118	円形	20	20	8	39.22	IX	D		a	△	SP3119を切る	ズケ17-10A-U
SP3119	楕円形	—	18	15	39.13	VII	B		a	△	SP3118に切られる	ズケ17-10A-U
SP3120	楕円形	26	20	19	39.12	VII	C		b	△		ズケ17-10A-U
SP3121	楕円形	26	21	9	39.30	IX	B		c	×	堀棒による耕作痕	ズケ17-10A-U
SP3122	—	—	—	23	39.24	IX	D		c	△	SP3123を切る	ズケ17-10A-U
SP3123	—	—	—	10	39.34	IX	B		c	×	SP3122に切られる	ズケ17-10A-U
SP3124a	—	—	—	9	39.40	X	B		a	△	SP3124bに切られる	ズケ17-10A-U
SP3124b	楕円形	—	19	10	39.40	X	B		a	△	SP3124aを切る	ズケ17-10A-U
SP3125	楕円形	35	—	13	39.35	IX	A		a	△		ズケ17-10A-U
SP3126	円形	21	—	12	39.15	VII	A		b	△	SP3128に切られる	ズケ17-10A-U
SP3127	円形	18	16	11	39.15	VII	B		a	△	SP3128を切る	ズケ17-10A-U
SP3128	楕円形	—	31	47	38.79	VI	B	+	a	○	SP3126を切る、SP3127に切られる	ズケ17-10A-U
SP3130	楕円形	18	12	5	39.24	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3131	円形	23	23	8	39.27	IX	A		c	△		ズケ17-10A-U
SP3132	円形	21	20	5	38.48	V	B		b	△		ズケ17-10A-U
SP3133	楕円形	38	35	27	38.49	V	A		a	○	建物プランの可能性	ズケ17-10A-U
SP3134	楕円形	20	17	4	38.54	V	D		a	×		ズケ17-10A-U
SP3135	楕円形	25	22	7	38.55	V	B		a	△		ズケ17-10A-U
SP3137	楕円形	22	18	20	38.56	V	B		b	△	SP3138を切る	ズケ17-10A-U
SP3138	楕円形	30	18	14	38.52	V	D		b	×	SP3137に切られる	ズケ17-10A-U
SP3139	楕円形	21	17	12	38.97	VII	B		b	△		ズケ17-10A-U
SP3141	楕円形	13	10	7	38.55	V	B	s	b	×		ズケ17-10A-U
SP3144	円形	19	18	8	39.54	X	B		a	×		ズケ17-10A-U
SP3145	円形	22	22	11	39.53	X	B		a	○		ズケ17-10A-U
SP3147	—	25	—	5	39.43	X	B		a	△	SP3148に切られる	ズケ17-10A-U
SP3148	楕円形	28	26	7	39.40	X	A		a	○	SP3147を切る	ズケ17-10A-U
SP3149	円形	18	16	7	39.38	IX	A		a	△	SP3150を切る	ズケ17-10A-U
SP3150	楕円形	—	18	8	39.36	IX	B		b	△	SP3149、3051に切られる	ズケ17-10A-U
SP3151	円形	23	20	10	39.33	IX	B		b	×	SP3150を切る	ズケ17-10A-U
SP3152	円形	19	18	15	39.08	VII	C		b	△		ズケ17-10A-U
SP3153	楕円形	53	46	43	38.82	VII	A	l+	c	○		ズケ17-10A-U
SP3154	—	—	—	9	39.17	VII	B		c	△	SP3155に切られる	ズケ17-10A-U
SP3155	—	—	—	4	39.26	IX	B		b	×	鍬跡。SP3154を切る。浅い	ズケ17-10A-U
SP3156	円形	—	16	3	38.58	V	D		b	×	浅い	ズケ17-10A-U
SP3157	円形	20	20	4	38.60	VI	A		b	×	浅い	ズケ17-10A-U
SP3158	円形	16	15	7	39.25	IX	A	s	c	×	SP3159を切る	ズケ17-10A-U
SP3159	—	—	13	3	39.30	IX	D		b	×	SP3158に切られる	ズケ17-10A-U
SP3160	—	—	—	5	39.30	IX	B		a	×	鍬跡。SP3161を切る	ズケ17-10A-U
SP3161	楕円形	—	17	9	38.55	V	B		a	×	SP3160、SP3162に切られる	ズケ17-10A-U
SP3162	楕円形	22	15	6	38.60	VI	B	s	a	×	SP3161を切る	ズケ17-10A-U

第V-13表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 4

遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備 考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP3163	円形	28	27	7	38.62	VI	A		b	△		ズケ17-10A-ウ
SP3164	楕円形	29	21	6	39.41	X	B		a	△		ズケ17-10A-ウ
SP3165	円形	19	18	15	39.32	IX	B		b	△		ズケ17-10A-ウ
SP3166	—	20	—	10	39.33	IX	B		b	△	SP3167に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3167	楕円形	30	—	7	39.41	X	B		b	×	SP3166、3168を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3168	—	—	—	13	39.35	IX	D		b	△	SP3167に切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3169	—	—	25	13	39.44	X	A	+	a	△		ズケ17-10A-ウ
SP3170	円形	27	22	6	39.64	XI	B	+	c	○		ズケ17-10A-イ
SP3171	円形	21	18	5	39.66	XI	A	+	c	△		ズケ17-10A-イ
SP3172	円形	19	18	8	39.69	XI	D		c	△		ズケ17-10A-イ
SP3173	楕円形	31	22	10	39.69	XI	A		c	△		ズケ17-10A-イ
SP3174	円形	13	12	4	39.04	VIII	B	s	b	×	鍍跡	ズケ17-10A-ケ
SP3175	円形	11	11	5	39.08	VIII	D	s	a	×	鍍跡	ズケ17-10A-ケ
SP3176	円形	11	10	8	38.95	VII	D	s	b	×		ズケ17-10A-ケ
SP3177	楕円形	15	12	3	39.16	VIII	B	s	a	×	鍍跡	ズケ17-10A-ケ
SP3179	楕円形	18	15	7	39.12	VIII	B	s	a	×		ズケ17-10A-ケ
SP3180	円形	16	15	10	39.10	VIII	B	s	b	×		ズケ17-10A-ケ
SP3181	楕円形	42	28	5	39.10	VIII	B		b	×		ズケ17-10A-ケ
SP3182	楕円形	31	25	19	38.79	VI	B		b	△		ズケ17-10A-ケ
SP3183	円形	15	15	6	39.04	VIII	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3184	楕円形	18	14	7	39.17	VIII	D	s	a	×	鍍跡	ズケ17-10A-ク
SP3185	楕円形	17	12	3	39.22	IX	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3187a	円形	20	20	10	39.18	VIII	B		a	○	SP3187bに切られる	ズケ17-10A-ク
SP3187b	—	—	23	8	39.20	IX	B		a	△	SP3187aを切る	ズケ17-10A-ク
SP3188	円形	30	26	29	39.03	VIII	B	+	a	○		ズケ17-10A-ク
SP3189	楕円形	18	14	6	39.27	IX	D	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3190	円形	24	—	7	39.30	IX	B		b	×		ズケ17-10A-ク
SP3191	楕円形	24	18	8	39.30	IX	B		a	×	鍍跡	ズケ17-10A-ク
SP3192	不定形	—	33	20	39.18	VIII	B	+	b	△	SP3193に切られる	ズケ17-10A-ク
SP3193	円形	24	21	16	39.22	IX	B	+	b	△	SP3192を切る	ズケ17-10A-ク
SP3194	円形	15	15	4	39.35	IX	B	s	a	×	SP3195に僅かに切られる	ズケ17-10A-ク
SP3195	楕円形	20	16	8	39.31	IX	B	s	a	×	SP3194をわずかに切る	ズケ17-10A-ク
SP3196	円形	13	12	5	39.41	X	D	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3197	円形	23	23	18	39.28	IX	B		b	○		ズケ17-10A-ク
SP3198	円形	18	15	6	39.41	X	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3199	楕円形	17	11	4	39.40	X	B	s	a	×	鍍跡	ズケ17-10A-ク
SP3200	円形	18	17	7	39.45	X	B		a	△		ズケ17-10A-ク
SP3201	楕円形	25	15	7	39.48	X	A		b	×		ズケ17-10A-ク
SP3203	楕円形	—	22	7	39.43	X	B		b	△		ズケ17-10A-ク
SP3204	円形	10	9	5	39.35	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3205	楕円形	24	20	7	39.25	IX	C		a	×		ズケ17-10A-ク
SP3206	円形	22	21	13	39.19	VIII	B	+	b	○		ズケ17-10A-ク
SP3207	円形	17	16	8	39.21	IX	B		b	×		ズケ17-10A-ク
SP3208	楕円形	15	12	12	39.18	VIII	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3209	楕円形	26	22	11	39.13	VIII	A	+	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3210	円形	25	24	18	39.16	VIII	C		c	△		ズケ17-10A-ク
SP3211	円形	20	20	3	39.33	IX	B		b	△		ズケ17-10A-ク
SP3212	不定形	24	23	52	38.93	VII	B	+	c	○		ズケ17-10A-ク
SP3214	円形	22	21	28	39.18	VIII	B		a	○		ズケ17-10A-ク
SP3215	円形	15	13	7	39.35	IX	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3217	—	—	20	7	39.48	X	B		a	△	SP3219に切られる	ズケ17-10A-ク

第V-14表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 5

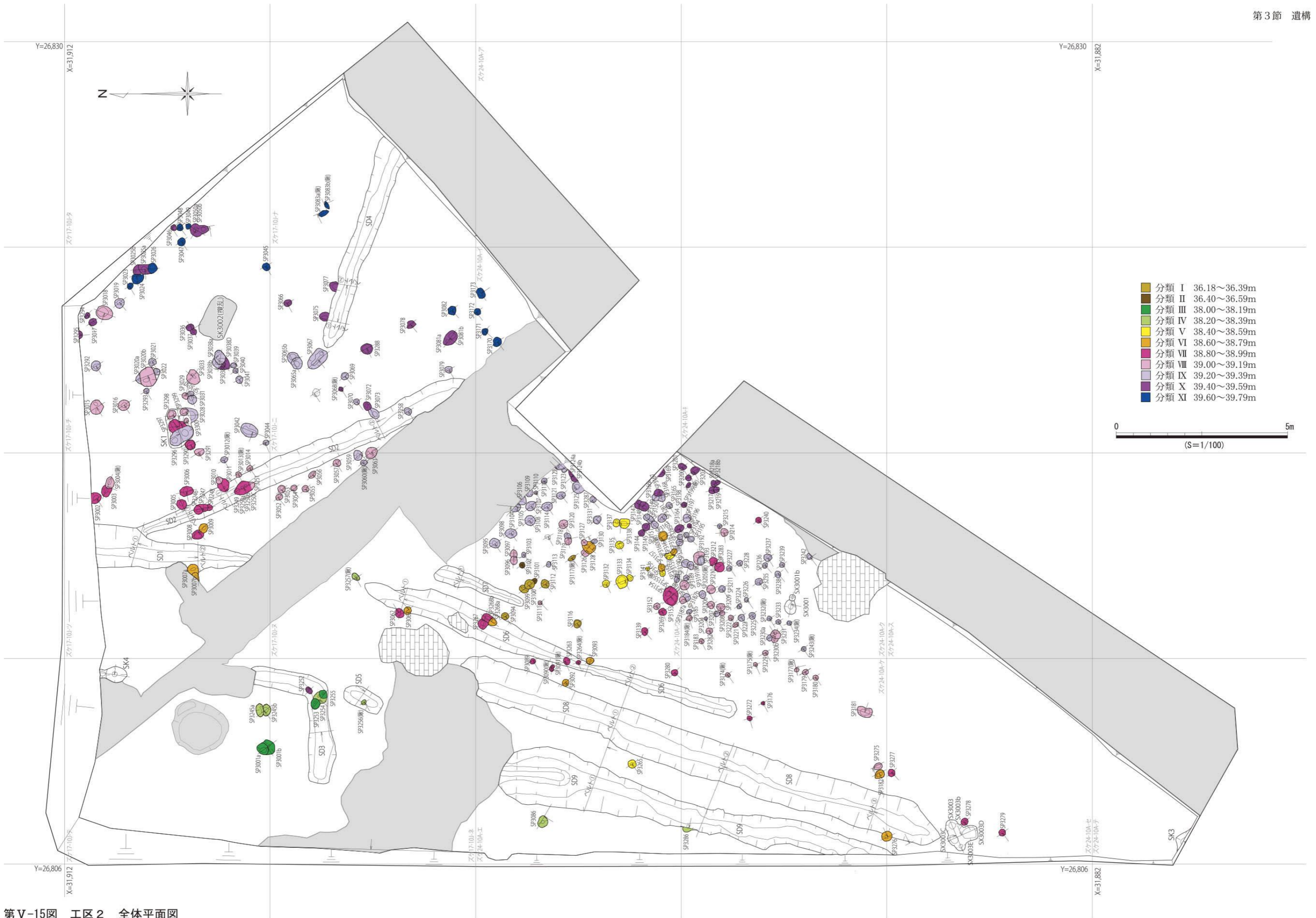
遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備 考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP3218a	—	19	—	6	39.43	X	A	s		×		ズケ17-10A-ク
SP3218b	楕円形	14	12	6	39.43	X	B	s		×		ズケ17-10A-ク
SP3219	円形	17	16	8	39.46	X	D		c	×	SP3217を切る	ズケ17-10A-ク
SP3221	楕円形	20	13	7	39.16	VIII	A	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3222	円形	16	14	7	39.17	VIII	A	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3223	円形	20	20	9	39.20	IX	B		a	×		ズケ17-10A-ク
SP3224	不定形	15	14	7	39.20	IX	A	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3225	円形	20	18	7	39.23	IX	B		b	×		ズケ17-10A-ク
SP3226	楕円形	15	12	9	39.25	IX	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3227	円形	15	15	9	39.29	IX	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3228	円形	18	15	6	39.34	IX	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3229	円形	16	15	9	39.12	VIII	A	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3230a	楕円形	19	15	6	39.23	IX	B	s	a	△		ズケ17-10A-ク
SP3230b	—	19	—	8	39.17	VIII	B	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3231	楕円形	27	24	21	39.11	VIII	A	+	a	○		ズケ17-10A-ク
SP3232	円形	14	12	4	39.28	IX	D	s	a	×	鍍跡?	ズケ17-10A-ク
SP3233	円形	14	12	8	39.25	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3234	円形	15	12	5	39.30	IX	B	s	b	×	鍍跡?	ズケ17-10A-ク
SP3235	円形	21	19	8	39.29	IX	B		b	×		ズケ17-10A-ク
SP3236	楕円形	15	14	7	39.32	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3237	楕円形	25	22	15	39.21	IX	B	+	a	○		ズケ17-10A-ク
SP3238	円形	20	16	14	39.23	IX	B	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3239	円形	15	14	7	39.30	IX	B	s	b	×		ズケ17-10A-ク
SP3240	円形	17	16	10	38.90	VII	B	s	c	×		ズケ17-10A-ク
SP3242	円形	18	15	11	39.26	IX	A	s	a	×		ズケ17-10A-ク
SP3243	円形	14	14	8	39.21	IX	B	s	b	×	鍍跡	ズケ17-10A-ク
SP3245a	楕円形	37	25	16	38.20	IV	B	+	b	△	SP3245bを切る	ズケ17-10J-テ
SP3245b	楕円形	35	—	14	38.22	IV	B	+	b	△	SP3245aに切られる	ズケ17-10J-テ
SP3246	円形	25	24	11	38.89	VII	B		c	△	SP3247を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3247	楕円形	—	22	4	38.96	VII	A		b	×	SP3246に切られる、SP3248を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3248	—	—	19	6	38.94	VII	B		b	△	SP3247に切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3249	—	—	23	9	38.95	VII	—		c	△	SP3250a,bに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3250a	—	—	35	2	39.02	VIII	A		c	×	SP3249、3250cを切る	ズケ17-10J-ツ
SP3250b	—	—	36	7	38.95	VII	A		c	×	SP3249を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3250c	—	—	33	7	38.99	VII	B		c	×	SP3251を切る	ズケ17-10J-ツ
SP3251	—	—	26	6	39.02	VIII	B		c	×	SP3250cに切られる	ズケ17-10J-ツ
SP3252	楕円形	23	15	21	39.43	X	B		b	○		ズケ17-10J-ネ
SP3253	円形	29	27	9	38.19	III	B		a	○	SP3254を切る	ズケ17-10J-ネ
SP3254	—	—	38	11	38.23	IV	—		a	×	SP3253、3255に切られる	ズケ17-10J-ネ
SP3255	—	—	27	19	38.15	III	B		a	○	SP3254を切る	ズケ17-10J-ネ
SP3256	楕円形	16	11	2	38.32	IV	B	s	c	×	鍍跡	ズケ17-10J-ネ
SP3257	楕円形	25	17	6	38.36	IV	B		a	×	鍍跡	ズケ17-10J-ヌ
SP3258	楕円形	23	19	15	39.26	IX	B	+	c	○		ズケ17-10J-ニ
SP3263	楕円形	24	20	10	38.83	VII	B		b	△		ズケ17-10A-エ
SP3264	楕円形	14	11	4	38.89	VII	B	s	c	×	鍍跡?	ズケ17-10A-エ
SP3265	円形	25	23	10	38.57	V	B	+	b	△		ズケ17-10A-エ
SP3267	—	—	28	6	38.83	VII	B		b	△	SP3268bに切られる	ズケ17-10A-ウ
SP3268a	楕円形	23	20	20	38.76	VI	B	+	b	○		ズケ17-10A-ウ
SP3268b	楕円形	—	21	15	38.80	VII	B		a	△	SP3267を切る	ズケ17-10A-ウ
SP3269	円形	23	20	24	38.97	VII	B	+	b	○		ズケ17-10A-ウ
SP3272	円形	14	14	14	38.86	VII	B	s	b	×		ズケ17-10A-ケ

第V-15表 遺構計測分類表 工区2 (SP) 6

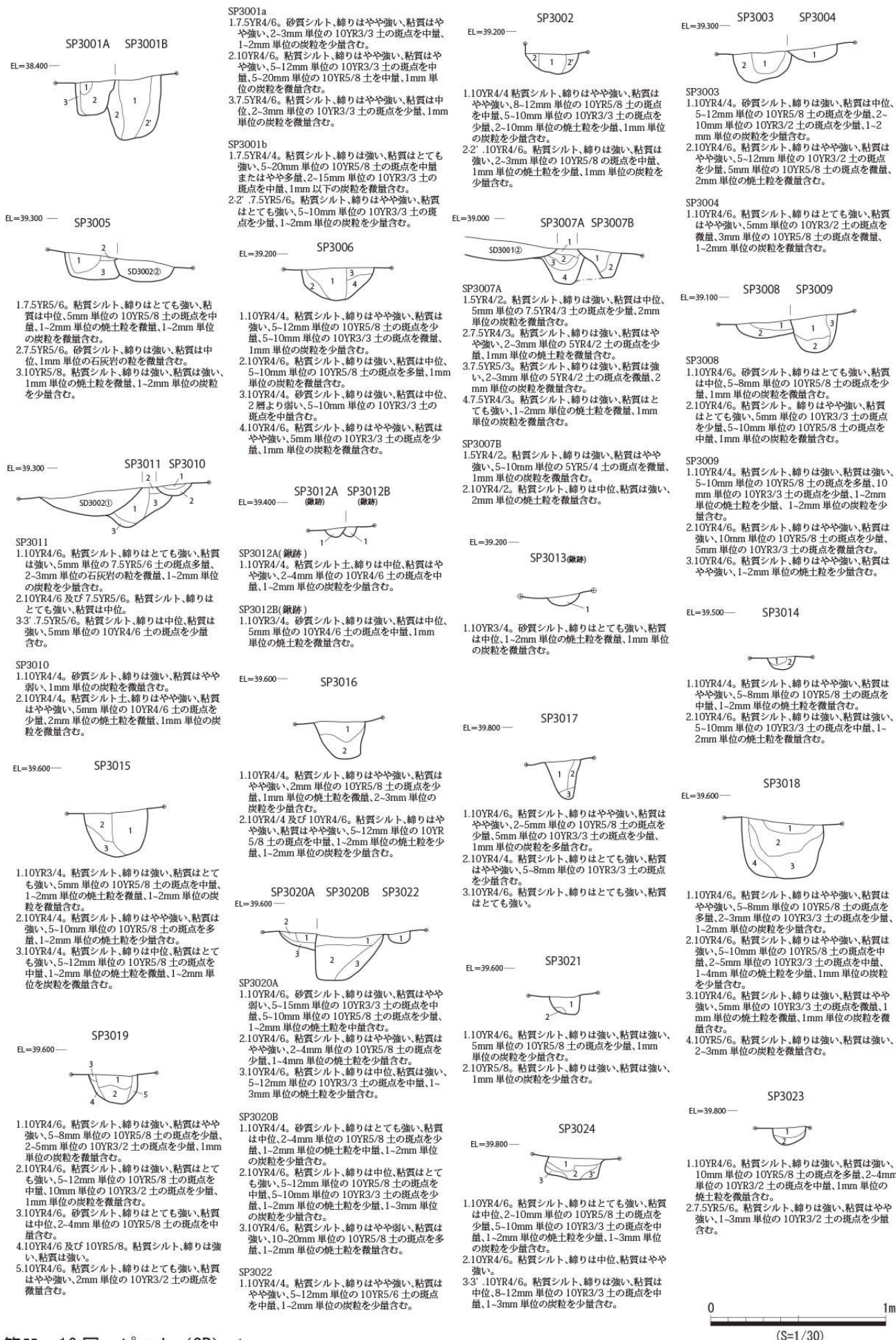
遺構No	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			覆土	柱穴の 可能性	備考	グリッド
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕等				
SP3275	楕円形	25	20	6	39.00	VIII	A		b	△		ズケ17-10A-ケ
SP3276	円形	22	21	15	38.74	VI	C	+	a	○		ズケ17-10A-ケ
SP3277	楕円形	30	22	21	38.82	VII	B	+	c	○		ズケ17-10A-セ
SP3278	円形	21	20	10	38.93	VII	A	+	a	△		ズケ17-10A-セ
SP3279	円形	21	19	16	38.96	VII	C	+	a	△		ズケ17-10A-セ
SP3280	円形	19	19	19	38.81	VII	C	s	b	△		ズケ17-10A-エ
SP3281	楕円形	45	26	6	39.30	IX	A		a	×		ズケ17-10A-ウ
SP3282	円形	18	16	12	39.05	VIII	C		a	×		ズケ17-10A-ク
SP3283	円形	28	27	51	38.91	VII	C		a	×		ズケ17-10A-ク
SP3284	円形	21	20	5	39.30	IX	B		b	×	鍬跡	ズケ17-10A-ウ
SP3285	円形	16	15	4	39.30	IX	B	s	b	×	鍬跡	ズケ17-10A-ウ
SP3286	—	—	26	27	38.33	IV	B		a	×		ズケ17-10A-ケ
SP3287	円形	20	18	7	39.31	IX	B	s	a	×		ズケ17-10A-ウ
SP3288	円形	33	32	6	39.57	X	D		c	×		ズケ17-10J-ニ
SP3290	楕円形	30	25	22	38.86	VII	B	+	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3291	楕円形	28	21	17	39.08	VIII	B	+	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3292	円形	30	27	19	39.29	IX	B	+	c	×		ズケ17-10J-チ
SP3293	円形	17	16	10	39.30	IX	B	s	c	×		ズケ17-10J-チ
SP3294	—	19	13	10	39.53	X	D	s	c	×		ズケ17-10J-チ
SP3295	—	—	24	13	39.47	X	B		c	×		ズケ17-10J-チ
SP3296	楕円形	78	38	19	39.29	IX	B		b	×	SP3297を切る	ズケ17-10J-チ
SP3297	—	—	37	33	38.87	VII	B		b	×	SP3296に切られる	ズケ17-10J-チ
SP3298	楕円形	34	22	7	39.14	VIII	B		b	×		ズケ17-10J-チ
SP3299	楕円形	27	20	10	39.13	VIII	B	+	b	×		ズケ17-10J-チ
SP3300	—	—	39	5	39.15	VIII	B		c	△		ズケ17-10J-チ

※柱穴の可能性 ○…可能性高い △…要検討 ×…可能性低い

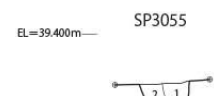
底面レベル(20cm区切り)	
I	36.18~36.39m
II	36.40~36.59m
III	38.00~38.19m
IV	38.20~38.39m
V	38.40~38.59m
VI	38.60~38.79m
VII	38.80~38.99m
VIII	39.00~39.19m
IX	39.20~39.39m
X	39.40~39.59m
XI	39.60~39.79m



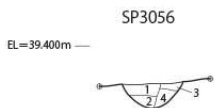
第V-15図 工区2 全体平面図



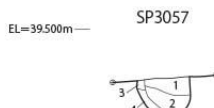
第V - 16 図 ピット (SP) 1



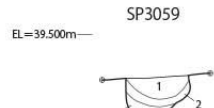
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を微量、5-8mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1-5mm 単位の焼土粒を微量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を微量、5mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を微量含む。



- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5-8mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量、2mm 単位の焼土粒を微量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
- 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、2-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、2mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を微量含む。
- 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、10YR3/3 土の斑点を微量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。



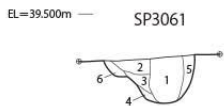
- 1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を微量含む。
- 2.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、5mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を少量、2mm 単位の焼土粒を少量含む。
- 3.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量含む。
- 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、5mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を少量含む。



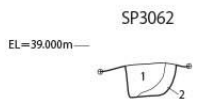
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5-8mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、5mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を少量含む。
- 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、2mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を微量含む。



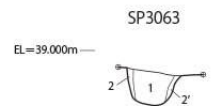
- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、5-12mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



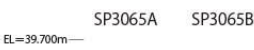
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、2mm 単位の炭粒を少量含む。
- 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、10-12mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1mm 単位の焼土粒を微量含む。
- 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、2-3mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
- 5.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2-3mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
- 6.10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



- 1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量、5-12mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、2-4mm 単位の焼土粒を微量含む。
- 2.7.5YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はとても強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。

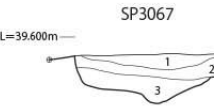


- 1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、5mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を少量、5-10mm 単位の焼土粒を微量含む。
- 2.2' 10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。

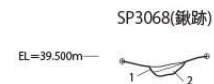


- SP3065A
- 1.10YR4/6. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、2-4mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1-2mm、10mm、80-150mm 単位の石灰岩の粒を石を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。

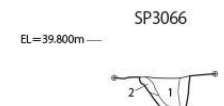
- SP3065B
- 1.10YR3/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや弱い、2mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-2mm、10-50mm 単位の石灰岩の粒を石を少量、1-8mm 単位の炭粒を少量含む。



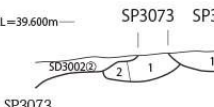
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-15mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1-8mm 単位の炭粒を少量含む。
- 2.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5-12mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1-3mm 単位の炭粒を少量含む。
- 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、10-12mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。



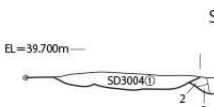
- 1.10YR3/4. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。



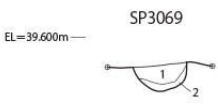
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、2-4mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、3mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は強い、1mm 単位の焼土粒を微量含む。
- 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、2-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量含む。



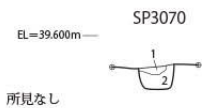
- SP3073
- 1.7.5YR4/3. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、10-15mm 単位の 7.5YR4/2 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 - 2.7.5YR4/3. 1層より明るい、砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、2mm 単位の焼土粒を少量含む。



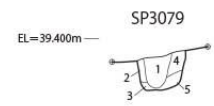
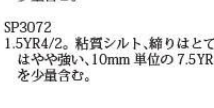
- 1.7.5YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 5YR4/4 土の斑点を中量含む。
- 2.7.5YR4/3(50%) と 5YR4/4(50%)。粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、1mm 以下の炭粒を微量含む。
- 3.5YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は強い、5mm 単位の 7.5YR4/3 土の斑点を少量含む。



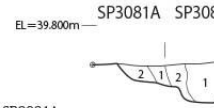
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5-10mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。



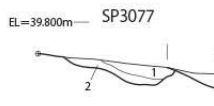
所見なし



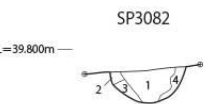
- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-15mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
- 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位。
- 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
- 5.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位。



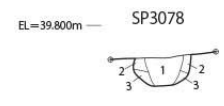
- SP3081A
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、1-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量含む。
 - 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、2-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。



- 1.5YR4/3. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 5YR4/4 土の斑点を微量、1-2mm 単位の石灰岩の粒を微量含む。
- 2.5YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、1mm 単位の炭粒を少量含む。



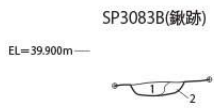
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5-10mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/8 土の斑点を中量含む。
- 3.10YR4/6. 粘土質シルト、締りは中位、粘質はとても強い。
- 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/8 土の斑点を中量含む。



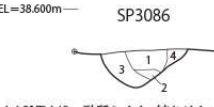
- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-15mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5-10mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を微量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を微量含む。
- 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は強い。



- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、4mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を微量含む。

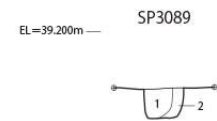


- 1.10YR4/6. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
- 2.7.5YR5/8. 粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。

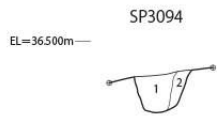


- 1.10YR4/6. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-12mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量含む。
- 3.10YR5/8. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、2-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を微量含む。
- 4.10YR5/8. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、2-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を微量含む。

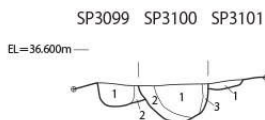




- 1.10YR3/3. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-8mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
2.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。



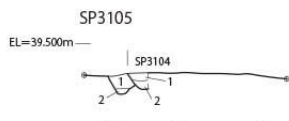
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR5/6(地山?)の斑点を少量、2-4mm 単位の焼土粒を微量、1-3mm 単位の炭粒を微量含む。
2.10YR3/4 と 10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位。



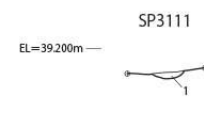
- SP3099
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を微量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
2.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、1mm 単位の炭粒を微量含む。

- SP3100
1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を微量、1-8mm 単位の炭粒を微量含む。
2.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を中量含む。
3.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を中量含む。

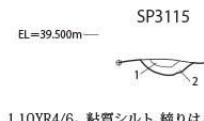
- SP3101
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を少量含む。



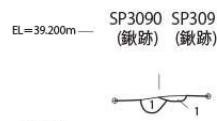
- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を中量、2mm 単位の石灰岩の粒を微量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い。



- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を少量含む。

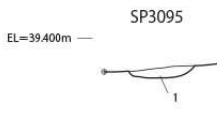


- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、3mm 単位の 10YR5/8 地山の土の斑点を少量含む。
2.10YR3/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1層より弱い、2mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を少量、1mm 以下の石灰岩の粒を微量含む。



- SP3090
1.10YR3/4. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、3-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、5-8mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を中量含む。

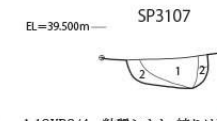
- SP3091
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、3-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、5mm 単位の焼土粒を微量含む。



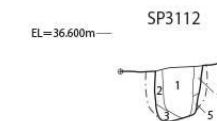
- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/6(地山?)の斑点を微量、1mm 以下の炭粒を微量含む。



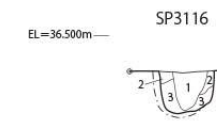
- 1.10YR3/4. 砂質シルト、締りは中位、粘質はやや弱い、2mm 単位の 10YR5/8 地山の土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、2-3mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。



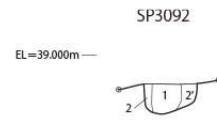
- 1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、8-12mm 単位の地山の土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
2.7.5YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2-3mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。



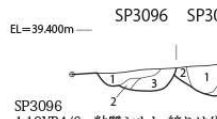
- 1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を少量、1-3mm 単位の炭粒を少量含む。
2.10YR3/4(50%) と 10YR4/6(50%)。粘質シルト、締りは中位、1層より強い、粘質はやや強い、1mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、1-2mm 単位の焼土粒を微量含む。
4.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
5.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、1-2mm 単位の焼土粒を微量含む。



- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を少量、1-3mm 単位の炭粒を少量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、2-5mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を少量含む。
3.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、1mm 単位の炭粒を少量含む。



- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、5-10mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量含む。
2.2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、2mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、2mm 単位の焼土粒を少量含む。

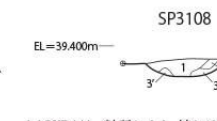


- SP3096
1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、10mm 単位の 10YR5/8 地山の土の斑点を中量、2mm 単位の炭粒を微量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量含む。
3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を微量、1mm 単位の焼土粒を微量含む。

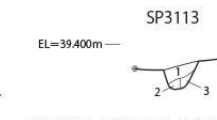
- SP3097
1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、10-40mm 単位の 10YR5/8 地山の土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
2.2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を微量、1mm 単位の焼土粒を微量含む。



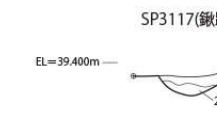
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、2-5mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を微量、1mm 単位の炭粒を少量含む。



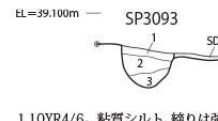
- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を微量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
2.10YR4/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を中量含む。
3.3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-4mm 単位の 10YR4/4 土の斑点を少量、2-5mm 単位の炭粒を少量含む。



- 1.10YR5/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/6 土(地山?)の斑点を少量、5mm 単位の 10YR2/3 土の斑点を微量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
2.10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1層より強い、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
3.10YR4/3. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、2mm 単位の焼土粒を少量含む。



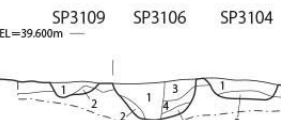
- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/6 土(地山?)の斑点を少量、2-3mm 単位の 10YR2/3 土の斑点を少量含む。
2.10YR4/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。



- 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
2.10YR3/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、10-12mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を中量、2-3mm 単位の焼土粒を微量含む。
3.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を少量含む。



- 1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、2mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を少量、1mm 単位の焼土粒を微量含む。
2.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、2-5mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を多量、1mm 以下の炭粒を微量含む。



- SP3109
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、5mm 単位の地山の土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2-4mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を少量含む。

- SP3106
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の地山の土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
3.10YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、4-6mm 単位の地山の土の斑点を少量含む。
4.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、4mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を微量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
5.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、3-4mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を微量含む。

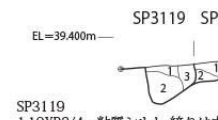
- SP3104
1.10YR4/3. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5-10mm 単位の地山の土の斑点を微量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、2-4mm 単位の 10YR4/3 土の斑点を含む。



- 1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、2mm 単位の 10YR2/3 土の斑点を少量含む。
3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、1mm 単位の炭粒を微量含む。



- 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/6 地山の土の斑点を多量、1-4mm 単位の炭粒を少量含む。



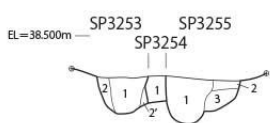
- SP3119
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い。
2.10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、10-12mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
3.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、1mm 以下の炭粒を微量含む。

- SP3118
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、10mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を微量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
2.10YR5/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR3/4 土の斑点を中量含む。





第V - 21 図 ピット (SP) 6



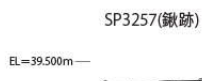
SP3253
 1.10YR4/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、5-8mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を微量、1-10mm 単位の炭粒を微量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-8mm 単位の土の斑点を微量含む。

SP3254
 1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-5mm 単位の石灰岩の粒と石を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。

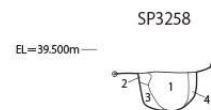
SP3255
 1.10YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-12mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-2mm 単位の石灰岩の粒を微量、1-3mm 単位の炭粒を微量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、2-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-6mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。



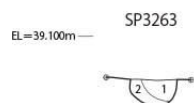
1.10YR4/4. 砂質シルト、締りは中位、粘質は中位、5-8mm 単位の 7.5YR4/6 土の斑点を中量含む。



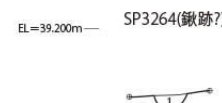
1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-12mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量含む。



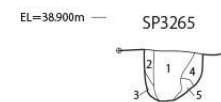
1.7.5YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
 2.7.5YR5/8. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、10YR3/3 土のしみを少量含む。
 3.7.5YR5/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い。
 4.7.5YR5/8. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、10YR3/3 土のしみを少量含む。



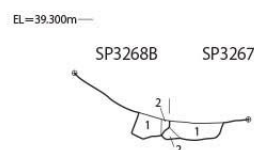
1.10YR3/4. 砂質シルト、締りは中位、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1mm 単位の焼土粒を少量含む。



1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1mm 単位のマンガンの粒を微量含む。

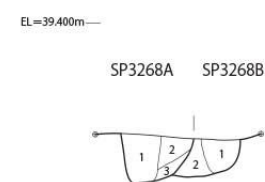


1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、8-10mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を微量含む。
 3.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を微量、1mm 単位の炭粒を少量含む。
 5.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。



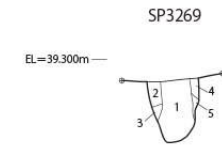
SP3268B
 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、8-12mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、5-20mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
 2.10YR4/6. 砂質シルト、締りは中位、1層より強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR3/2 土の斑点を中量含む。

SP3267
 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、10-12mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を微量含む。

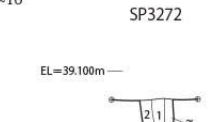


SP3268A
 1.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、10-20mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
 3.10YR5/8. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、2mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。

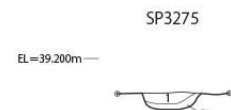
SP3268B 同左



1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、5-10mm 単位の 10YR5/8 地山の土の斑点を少量、1mm 単位の石灰岩の粒を微量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-3mm 単位の炭粒を少量含む。
 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、2mm 単位の焼土粒を含む。
 5.10YR4/6. 粘質シルト、他の層より明るい、締りはやや強い、粘質は強い。



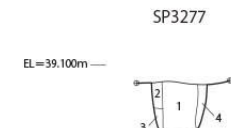
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質はとても強い、5-10mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、1mm 単位の炭粒を少量、マンガンのしみを含む。



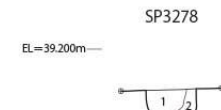
1.10YR3/4. 砂質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5-12mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量、2-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、3-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。



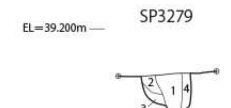
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-12mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2. 10YR4/4. 砂質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量含む。
 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。



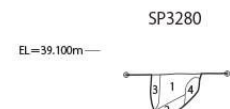
1.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5-12mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、3-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1-5mm 単位の炭粒を少量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。
 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を中量含む。
 4.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はとても強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。



1.7.5YR3/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、2-5mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を微量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質はとても強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量含む。



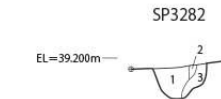
1.10YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-20mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を中量、1-2mm 単位の炭粒を中量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-3mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、3-5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-8mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を中量含む。
 4.10YR4/6. 砂質シルト、締りは強い、粘質は中位、2-3mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を微量含む。



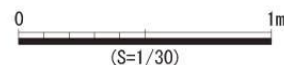
1.10YR3/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、5×10-40mm 単位の 10YR4/6 土のすじを中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
 2.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量含む。
 3.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、2-3mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を中量含む。
 4.10YR4/4. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、3mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。

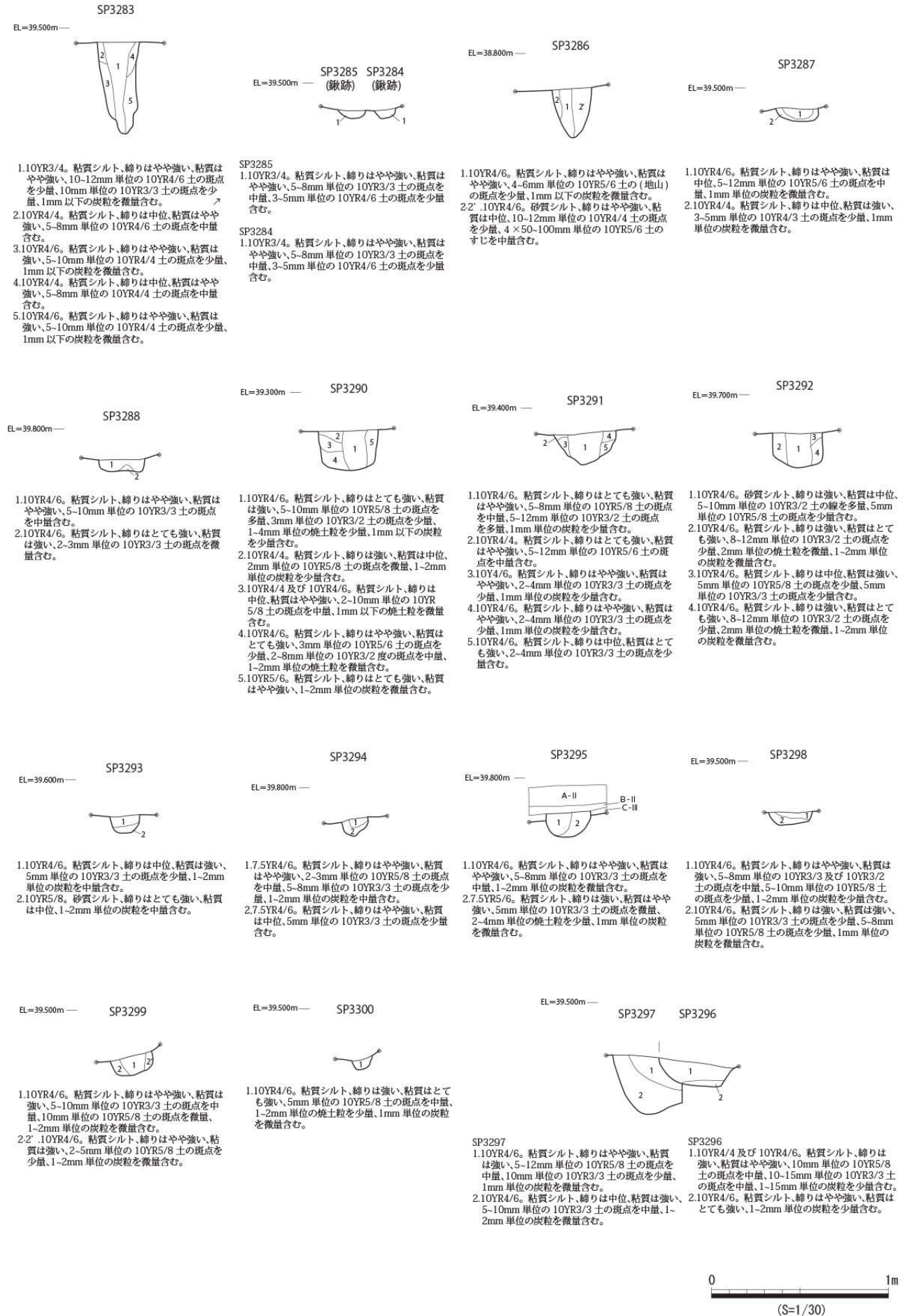


1.10YR3/4. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-8mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、5-8mm 単位の焼土粒を微量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
 2.10YR4/6. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-8mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量、1mm 以下の炭粒を微量含む。

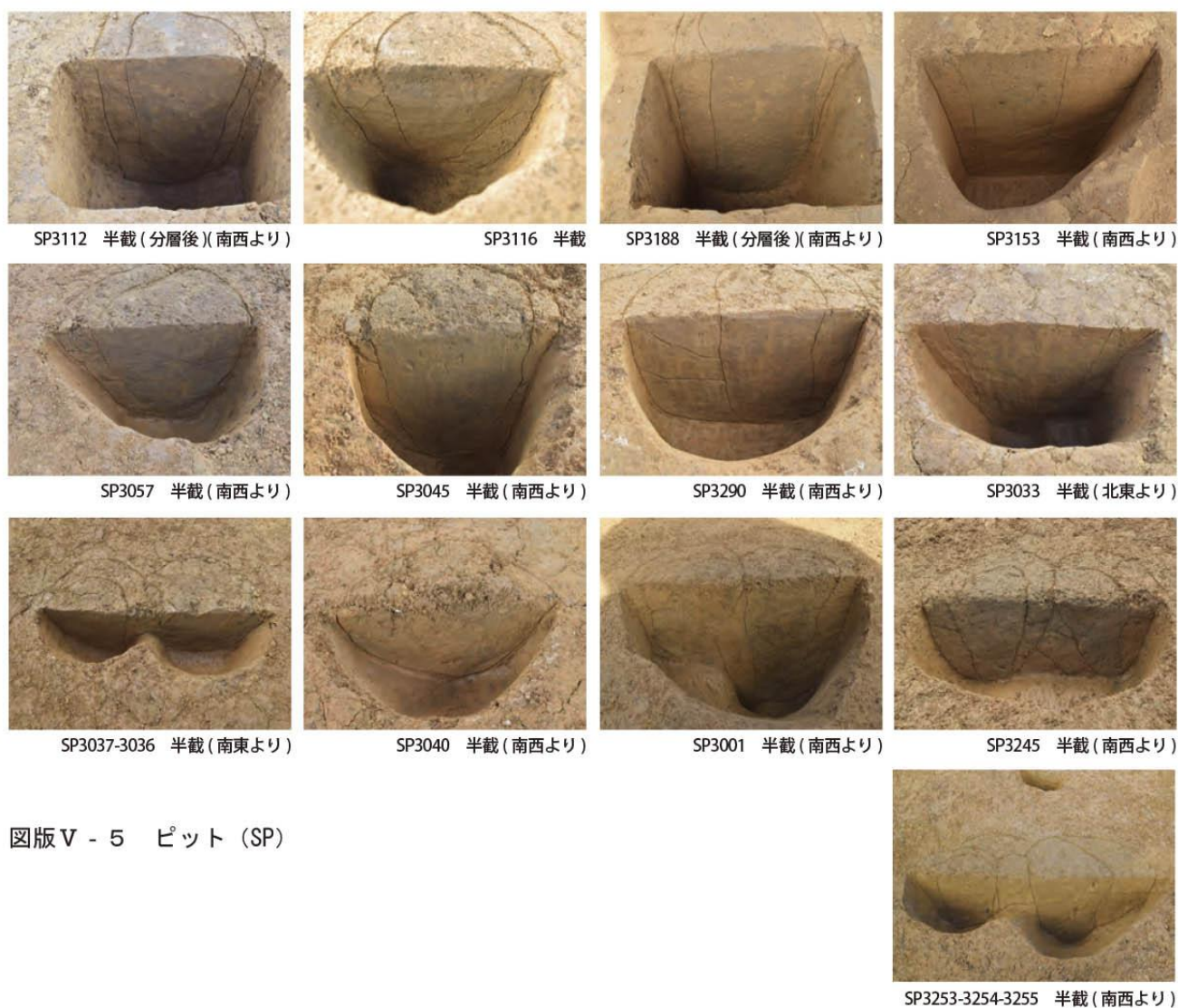


1.10YR4/6. 粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、2mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量含む。
 2.7.5YR3/2. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、2mm 単位の 10YR5/6 土の斑点を少量含む。
 3.10YR4/6. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い。





第V - 25 図 ピット (SP) 10



図版V - 5 ピット (SP)

2. 土坑 (SK)

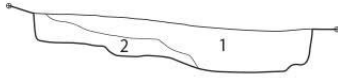
工区2で検出された土坑は、SK 1、SK 3、SK 4の3基検出された。SK 2については断ち割りの結果、攪乱と判明したため欠番とした。SK 1はSP295やSP297等複数のピットに切られているものの、深度20cm程度の堆積を有し、床面は平坦に整形されている。SK 3は調査区南端で検出されている。覆土には近世～近代相当の耕作土が堆積し、5cm大の礫が混入する。SK 4は調査区北端に位置する。覆土は暗褐色の粘質シルトを呈する。

第V - 16表 工区2 土坑 (SK) 計測一覧表

遺構No.	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	所見	グリッド
		長軸	短軸	深さ			
SK1 SK3001	不定形	110	94	17	38.94	複数のピットに切られているため、平面形が不明。断面掘方は床面をフラットに整形している。覆土は褐色の砂質シルトで沖縄産陶器等が出土している。	ズケ17-10J-チ
SK2 SK3002						攪乱のため欠番	
SK3 SK3003	—	(129)	—	26	39.28	調査区の南壁で確認。石灰岩礫が混入する。覆土は褐色の砂質シルトを呈し、近世～近代相当の堆積と思われる。	ズケ24-10A-テ
SK4 SK3004	楕円形	96	46	38	38.00	調査区北端に位置する。かなり締まりの弱い褐色の粘質シルトが堆積。	ズケ17-10J-テ

SK 1 東西ベルト

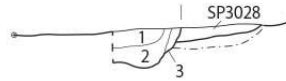
EL=39.400m—



- 1.10YR4/4。粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-12mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を少量、1-5mm 単位の焼土粒を微量、1-3mm または 8mm 単位の炭粒を少量含む。
- 2.10YR4/6。粘質シルト、締りは強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 10YR5/8 土の斑点を少量、1-5mm 単位の焼土粒を微量含む。

SK 1 南北ベルト

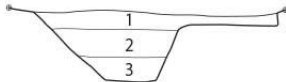
EL=39.500m—



- 3.10YR5/6。粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を中量含む。

EL=38.600m—

SK 4



- 1.10YR3/3。砂質シルト、締りはやや弱い、粘質はやや強い、10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を微量、1mm 単位の石灰岩の粒を少量、1mm 単位の焼土粒を微量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
- 2.10YR3/3。砂質シルト、締りはやや弱い、粘質は中位、10mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。
- 3.10YR4/6。粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、10mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。

SK 3



- 1.10YR4/4。粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、2-4mm 単位の 10YR3/3 土の斑点を中量、100-150mm 単位の石灰岩の石を微量、1-8mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.10YR4/4。粘質シルト、締りは中位、1層より強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 10YR4/6 土の斑点を少量、50-150mm 単位の石灰岩の石を多量、2-8mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を少量含む。

0 1m
(S=1/30)



SK1 断面 (北から)



SK1 完掘 (北から)



SK3 (北から)



SK4 (東から)

3. 溝状遺構 (SD)

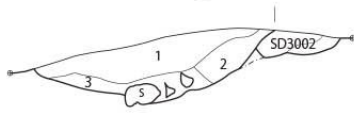
工区2では9条の溝状遺構が検出された。SD1は調査区北側に位置し、南北方向に軸を持つ。SD2はSD1から南東側に分岐する。SD3は調査区北西側に位置し、平面形が「L」字状となる。SD4は調査区の東側で検出され、東西方向に延びる。残存深度が6cmと非常に浅い。SD5はSD3の南側で検出。長軸方向は南北となるが、残存距離が1m弱と短い。深度も6cm程であり、本来は南側に延びていた可能性があるが、攪乱により消失したものと思われるSD6、SD7、SD8、SD9は北東—南西方向に共通の軸を持つ溝で、覆土は近世～近代の耕作土が堆積し、遺物も沖縄産施釉陶器、無釉陶器のほか、アカムヌーなどが出土している。

第V-17表 工区2 溝状遺構 (SD) 計測一覧表

遺構No.	断面ライン	計測(cm)		底面レベル (m)	所見	グリッド
		幅	深さ			
SD1	SD3001 ①	95	25	38.62	南北方向に軸を持ち、残存長は約4.5mを測る。南側に浅く攪乱で途切れる。延長上にSD6が延びるので本来は連続していた可能性がある。	ズケ17-10J-ツ
	SD3001 ②	72	12	38.76		ズケ17-10J-ツ
SD2	SD3002 ①	62	21	38.96	SD1から南東方向に分岐するように伸びる。南側は攪乱によって切られる。	ズケ17-10J-ツ
	SD3002 ②	67	11	39.32		ズケ17-10J-ニ
	SD3002 ③?	32	12	38.93		ズケ17-10J-ツ
SD3	SD3003	55	7	38.33	平面形がL字状となる溝で、床面はフラットに整形される。残存深度が10cm以下と浅い。遺物の出土はないが、覆土より近世～近代相当と推測される。	ズケ17-10J-ネ
SD4	SD3004 ①	58	6	39.54	北西—南東方向に延びる。残存する堆積土が薄く範囲が不明瞭。軸としてはSD1やSD6とほぼ垂直方向になる。畑の区画として形成されたものか。	ズケ17-10J-ニ
	SD3004 ②	40	6	39.54		ズケ17-10J-ニ
SD5	SD3005	50	6	37.72	概ね南北方向に軸を持つ。残存長が120cm程を測る。	ズケ17-10J-ネ
SD6	SD3006 ①	54	10	38.89	概ね北東—南西方向に軸を持。残存長は約11.5mを測る。覆土は褐色の砂質シルトを呈し、カムイヤキや沖縄産陶器などが出土している。	ズケ17-10J-ヌ
	SD3006 ②	30	2	38.90		ズケ24-10A-エ
SD7	SD3007 ①	43	3	39.09	SD6の北東側に同軸に位置する。	ズケ17-10J-ヌ
SD8	SD3008 ①	139	8	38.72	SD6の南西側に同軸に位置する。残存長は約15mを呈し、覆土は褐色の砂質シルトが堆積する。沖縄産陶器が出土している。	ズケ24-10A-エ
	SD3008 ②	116	11	38.76		ズケ24-10A-ケ
	SD3008 ③	90	22	38.75		ズケ24-10A-ケ
SD9①	SD3009 ①	124	34	38.40	SD7の南西側に同軸に位置する。残存長は約11mを測り、東壁へ続く。北側の断面①では溝の東側が深く西側へ浅くなる掘方となっている。	ズケ24-10A-エ

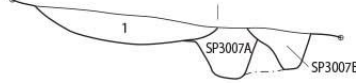
第V章 新城大道原第一遺跡

EL=39.100m— SD1ベルト①



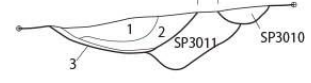
- 1.5YR4/3. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の地山の土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、2mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.7.5YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、1-5mm 単位の地山の土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
- 3.5YR4/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5-10mm 単位の地山の土の斑点を中量、50-120mm 単位の石灰岩の石を少量、1-3mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。

EL=39.000m— SD1ベルト②



- 1.7.5YR4/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、1-4mm 単位の焼土粒を微量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。

EL=39.300m— SD2ベルト①



- 1.5YR4/2. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は強い、2-10mm 単位の地山の土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.7.5YR4/2. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 7.5YR5/6 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
- 3.7.5YR5/6. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は強い、2-4mm 単位の 7.5YR4/2 土の斑点を少量、2mm 単位の石灰岩の粒を微量含む。

EL=39.600m— SD2ベルト②

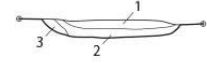


- 1.5YR4/2. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、10-15mm 単位の 7.5YR4/3 土の斑点を多量、1-5mm 単位の焼土粒を中量、1-3mm 単位の炭粒を中量含む。
- 2.7.5YR4/2. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は強い、5-10mm 単位の 5YR4/2 土の斑点を少量、1mm 単位の焼土粒を微量含む。

EL=39.300m— SD2ベルト③



EL=38.600m— SD3



- 1.7.5YR5/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の 5YR4/2 土の斑点を中量、1mm 単位の石灰岩の粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.5YR4/2. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5mm 単位の 7.5YR5/3 土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。
- 3.5YR4/2. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 7.5YR5/3 土の斑点を中量、1mm 単位の炭粒を微量含む。

EL=39.800m— SD4ベルト①



- 1.7.5YR4/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5mm 単位の 5YR4/4 土の斑点を微量、2-4mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。
- 2.5YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5-10mm 単位の 7.5YR4/3 土の斑点を中量、1mm 以下の炭粒を微量含む。

EL=39.800m— SD4ベルト②



- 1.7.5YR4/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質はやや強い、5mm 単位の 5YR4/4 土の斑点を微量、2-4mm 単位の焼土粒を少量、1mm 単位の炭粒を微量含む。

EL=38.000m— SD5



- 1.7.5YR5/4. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の 5YR4/4 土の斑点を少量、1mm 単位の焼土粒を微量、1mm 以下の炭粒を微量含む。
- 2.5YR4/4. 粘質シルト、締りは中位、粘質は強い、5mm 単位の 7.5YR5/4 土の斑点を少量含む。

EL=39.100m— SD6ベルト①



- 1.5YR4/3. 粘質シルト、締りはとても強い、粘質は中位、2-4mm 単位の地山の土の斑点を微量、1-3mm 単位の炭粒を少量またはやや中量含む。

EL=39.300m— SD7ベルト①



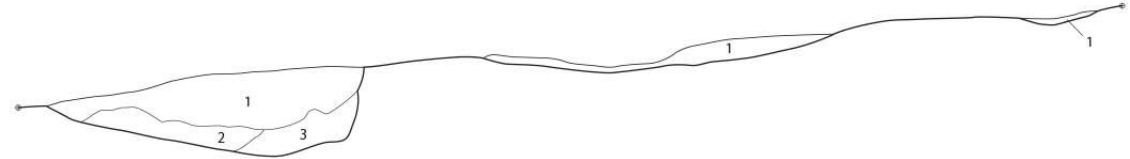
- 1.5YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや弱い、5-15mm 単位の地山の土の斑点を中量、1mm 以下の炭粒を微量含む。

EL=39.200m—

SD9ベルト①

SD8ベルト①

SD6ベルト②



- SD3009①
- 1.5YR4/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、4-6mm 単位の地山の土の斑点を微量、50mm 単位の石灰岩の石を微量、3-4mm 単位の焼土粒を微量、3-8mm 単位の炭粒を微量含む。
 - 2.5YR4/3. 粘質シルト、締りは中位、粘質は中位、1層より弱い、10-20mm 単位の地山の土の斑点を多量、15mm 単位の石灰岩の石を微量、2-4mm 単位の焼土粒を微量、2-3mm 単位の炭粒を微量含む。
 - 3.5YR4/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の地山の土の斑点を多量、20mm 単位の石灰岩の石を微量、2-3mm 単位の焼土粒を微量含む。

- SD8①
- 1.5YR4/3. 粘質シルト、締りはやや強い、粘質は中位、2-8mm 単位の地山の土の斑点を少量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1mm 単位の炭粒を微量含む。

- SD6②
- 1.5YR4/2. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-12mm 単位の黒いみを少量、1-3mm 単位の焼土粒を微量、1-3mm 単位の炭粒を微量含む。

EL=39.200m— SD8ベルト②

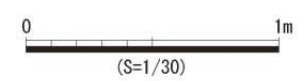


- 1.7.5YR4/2 及び 7.5YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5-10mm 単位の地山の土の斑点を中量、2-4mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。

EL=39.200m— SD8ベルト③



- 1.7.5YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5-10mm 単位の地山の土の斑点を中量、1-2mm 単位の焼土粒を微量、1mm 以下のマンガン粒を微量含む。
- 2.7.5YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質は中位、5mm 単位の地山の土の斑点を多量、1-3mm 単位の焼土粒を少量、1-2mm 単位のマンガン粒を微量含む。
- 3.7.5YR4/3. 粘質シルト、締りは強い、粘質はやや強い、5mm 単位の地山の土の斑点を少量、1-2mm 単位の炭粒を微量含む。



第V - 27 図 溝状遺構 (SD)



SD1 ベルト① (南から)



SD1 ベルト② (北から)



SD2 ベルト① (南東から)



SD2 ベルト② (南東から)



SD2 ベルト③ (北から)



SD3 (西から)



SD4 ベルト① (東から)



SD4 ベルト② (西から)



SD5 (北から)



SD6 ベルト① (南から)



SD7 ベルト① (南から)



SD9 ベルト① (南から)



SD8 ベルト① (南から)



SD6 ベルト② (南から)



SD8 ベルト② (南から)

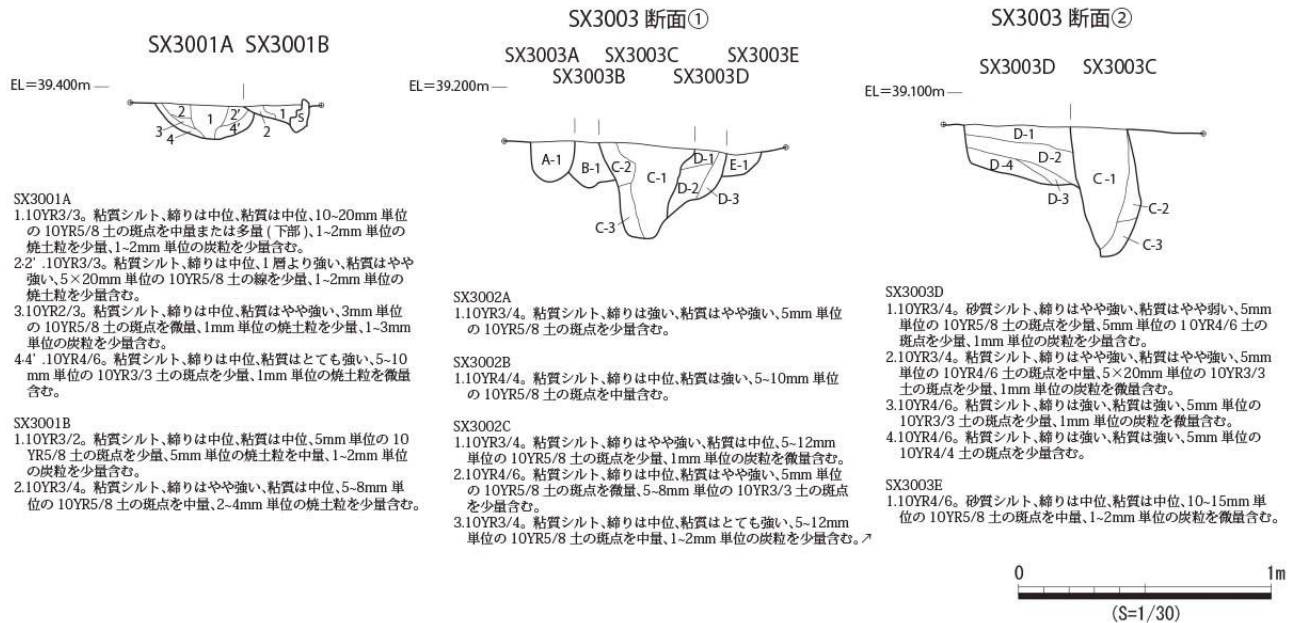


SD8 ベルト③ (南から)

図版V - 6 溝状遺構 (SD)

4. 不明遺構 (SX)

工区2では性格不明な遺構としてSX3001 AとB, SX3003 A~Eの計7基の遺構を不明遺構とした。特にSX3003は5つの遺構が切り合っており、また覆土類似しているため、平面検出時では切り合い関係を把握することができなかった。だ断面観察の結果、SX3003 Cを中心としたピットと想定されるが、その他のピット群とは位置的に離れており、現段階ではSXとして報告する。



SX3001 (南より)



SX3001 半截 (分層後) (南より)



SX3003 断面① (北西から)



SX3003 断面② (東より)

第4節 遺物

新城大道原第一遺跡出土の遺物は総数 173 点が出土しており、先史土器・グスク土器・カムイヤキ・中国産陶磁器（青磁、白磁、青花）・本土産磁器・沖縄産陶器・石器・その他金属製品などが得られた。工区別に見ると、工区 1 では計 123 点出土しており、先史土器・グスク土器を主体として岩盤直上や SX2001 からの出土が顕著である。工区 2 では計 51 点出土しており、工区 1 とは対照的に土器が少なく、青磁・白磁は出土していない。ただし、カムイヤキが 1 点出土している（第 V -18 表、第 V -30 図、図版 V - 8）。工区 2 では沖縄産施釉陶器・沖縄産無釉陶器・アカムヌーの出土が多い。以下、比較的状态が良好な遺物について報告する。

1. 先史土器

先史土器は総数 32 点出土しており、すべて工区 1 からの出土である。くびれ平底が出土している。比較的状态の良いもの 8 点を、第 V -18 表、第 V -29 図、図版 V - 7 にて報告する。

2. グスク土器

グスク土器は総数 25 点得られており、こちらもすべて工区 1 からの出土である。鍋・壺などの資料が得られている。比較的状态の良いもの 1 点を第 V -18 表、第 V -29 図、図版 V - 7 にて報告する。

3. カムイヤキ

カムイヤキは 1 点のみ出土しており、第 V -18 表、第 V -30 図、図版 V - 8 にて報告する。

4. 中国産陶磁器

中国産陶磁器は青磁、白磁、青花などが 4 点のみ出土している。青磁・染付は細片のため白磁 1 点のみを、第 V -18 表、第 V -30 図、図版 V - 8 で報告する。

5. 本土産磁器

本土産磁器は工区 1 から 3 点のみ出土しており、小杯・皿などが得られている。そのうち 2 点を、第 V -18 表、第 V -30 図、図版 V - 8 にて報告する。

6. 沖縄産陶器

- (1) アカムヌー・・・総数 14 点出土している。比較的状态の良いもの 2 点を、第 V -18 表、第 V -30 図、図版 V - 8 にて報告する。
- (2) 沖縄産無釉陶器・・・総数 22 点出土しており、鉢・火炉・すり鉢などが得られている。比較的状态の良いもの 5 点を、第 V -18 表、第 V -30 図、図版 V - 8 にて報告する。
- (3) 沖縄産施釉陶器・・・総数 15 点出土しており碗などが得られている。4 点を、第 V -19 表、第 V -31 図、図版 V - 9 にて報告する。

7. 石器

石器は総数 8 点が出土している。そのうち 5 点を、第 V -19 表、第 V -31・32 図、図版 V - 9・10 にて報告する。

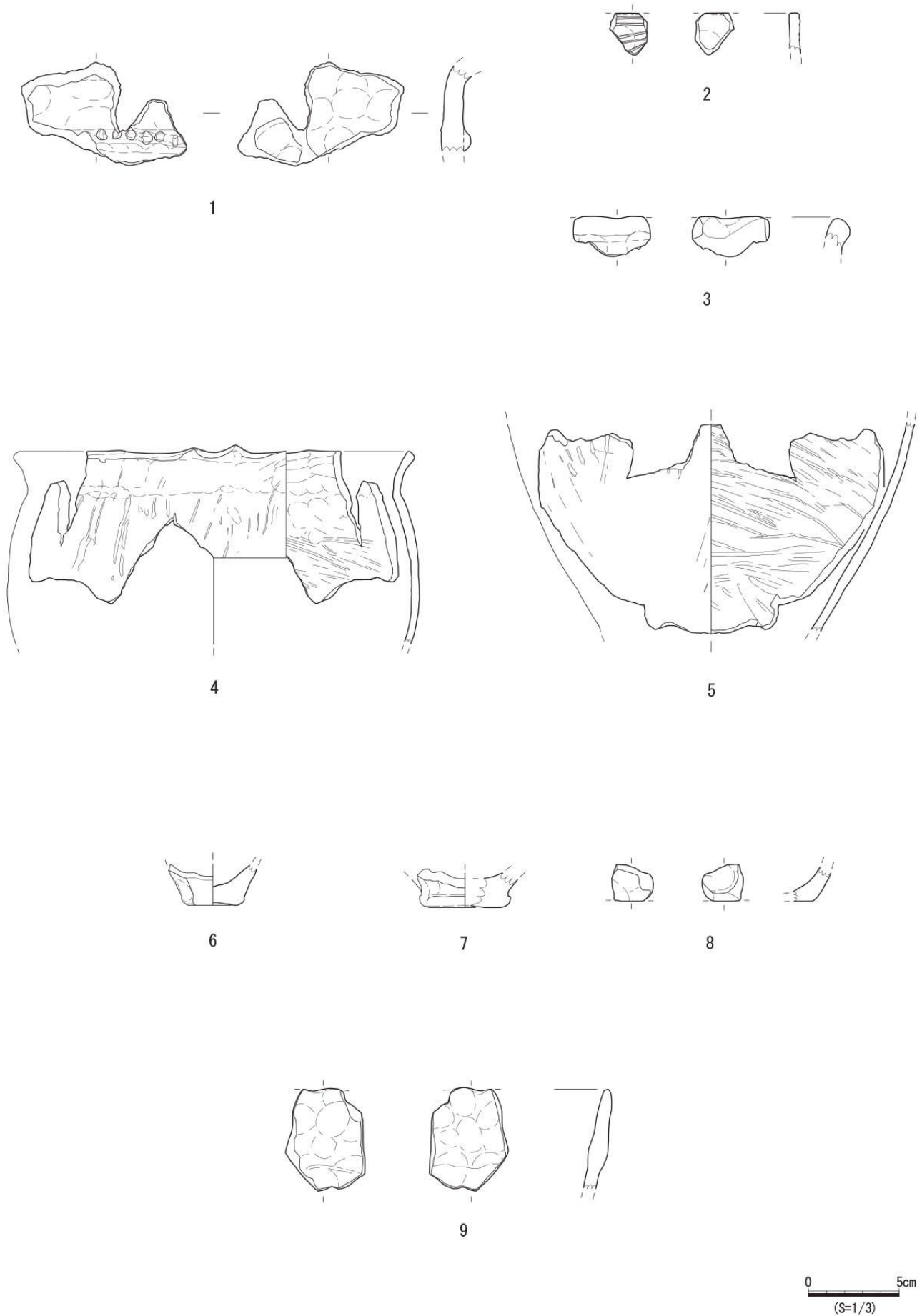
第V-18表 出土遺物観察一覧1

挿図番号 図版番号	器種・分類	部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地		
第VII-29図 図版VII-7	先史土器	1	胴	— — —	深鉢型土器の胴部。貼付突帯で、突帯には工具による押捺刻文が施される。胎土は黒色、混和材は白色礫粒、石英、黒色砂粒。色調は外面 黄褐色。内面 暗赤褐色。	H28西フテ 2-1区 <131> (岩盤直上)	
		2	口	— — —	口縁とその直下に沈線文が5条施される。整然として見えるが全容は不明。胎土は黒褐色。混和材は白色砂粒、黒色砂粒。色調は内外面 暗赤褐色。	H28西フテ 2-1区 <40> (SX2001)	
		3	口	— — —	口縁三角状に肥厚する。混入物が大きく成形が雑。胎土は黄褐色。混和材は白色砂粒、赤色砂粒、石英。色調は内外面 黄褐色。	H28西フテ 2-1区 <172> (SX2001 1層)	
		4	口～胴	22.2 — —	口縁外反し、波状を呈する。内外面に工具による調整痕が残る。薄型で焼成が良い。胎土は黄褐色。混和材は白色砂粒、赤色砂粒、雲母。色調は内外面 赤褐色。	H28西フテ 2-1区 <178><168> (SX2001 1層)	
		5	胴	— — —	無紋で内外面に工具による調整痕が明瞭に残る。薄型で焼成が良い。胎土は黄褐色。混和材は白色砂粒、赤色砂粒、雲母。色調は内外面 暗赤褐色。	H28西フテ 2-1区 <167> (SX2001)	
		6	底	— — 2.3	くびれ平底。底部から薄くくびれを作り、開くように立ち上がる。胎土は淡橙色。混和材は白色砂粒、黒色砂粒。色調は内外面 淡橙色。	H28西フテ 2-1区 <106> (岩盤直上)	
		7	底	— — 5	くびれ平底。底部から明瞭にくびれを作り、開くように立ち上がる。4と比較して表面が滑らか。胎土は赤褐色。混和材は白色砂粒。色調は内外面 赤褐色。	H28西フテ 2-1区 <129> (岩盤直上III層)	
		8	底	— — —	平坦に成形された底部片。胎土は黄褐色。混和材は白色砂粒、黒色砂粒。色調は内外面 黄褐色。	H28西フテ 2-1区 <172> (SX2001 1層)	
		9	グスク土器	口	— — —	グスク土器の口縁部。内外面に指圧痕が明瞭に残る。焼成良好で硬質。胎土は暗褐色。混和材は白色砂粒、赤色砂粒、雲母。色調は外面 暗赤褐色 内面 暗褐色。	H28西フテ 2-1区 <37> (SX2001)
第VII-30図 図版VII-8	10	カムイヤキ	胴	— — —	器種不明のカムイヤキ胴部。内外面に叩き痕が残る。内外面 灰褐色。素地は暗褐色。	H28西フテ 2-2区 <9> (SD3006)	
	11	中国産 白磁	碗	底	— — 6.4	白磁碗の底部片。高台は内面を作らず、底面は厚い。器厚は薄い。素地は白色。焼成は細粒子。外底面以外に施釉する。貫入あり。内外面に気泡痕あり。	H28西フテ 2-1区 <107> (岩盤直上)
	12	本土産 磁器	香炉	口	18.5 — —	口縁内面から胴部にかけて施釉する。施釉後、頸部に花文を描く。	H28西フテ 2-1区 <150> (攪乱)
	13		小杯	底	— — 3.4	近代本磁の小杯。外面に釉で文様を描く。畳付けに砂が付着する。	H28西フテ 2-2区 <31> (攪乱)
	14	アカムヌー	鍋	口	20.7 — —	口縁内湾し、口唇はL字状に外面に向けて折れて受け部を作る。外面調整痕明瞭で、受け部までススが付着する。器色は外面 橙色 内面 淡橙色。素地は黄褐色。	H28西フテ 2-2区 <17> (SD3006)
	15		鍋	蓋	— — —	鍋の蓋。受け部は欠損。つまみ部は削り出し。つまみ部径5.9cm。器色は内外面 明橙色。素地は明橙色。	H28西フテ 2-2区 <23> (SD3001)
	16	沖縄産 無釉陶器	壺	底	— — 14.3	底部は平坦で、腰は張らずに立ち上がる。内面に轆轤痕が見られる。器色は内外面 灰褐色。素地は褐色。	H28西フテ 2-1区 <95><195><87> (SD2001 II層)
	17		壺	頸～胴	— — —	短頸で中型であると考えられる。内外面にナデ調整痕明瞭で肩部に一条沈線が廻る。器色は内外面 暗褐色。素地は暗赤褐色。	H28西フテ 2-2区 <1> (SK3001)
	18		鉢	把手	— — —	口縁わずかに内湾し、直下に把手を張り付ける。器色は外面 暗黄褐色 内面 褐色。素地は赤褐色。	H28西フテ 2-2区 <11> (SD3006)
	19		播鉢	口	— — —	口唇L字状に折れ、端部はわずかに肥厚する。口唇端部に一条沈線が廻る。器色は外面 橙褐色 内面 暗褐色。素地は暗赤褐色。	H28西フテ 2-1区 <150> (攪乱)
	20		播鉢	底	— — —	播鉢の底部片。外面轆轤痕明瞭。内面は浅く細かい溝が等間隔に施される。器色は内外面 褐色。素地は褐色。	H28西フテ 2-2区 <19> (SD3009)

第V-19表 出土遺物観察一覧2

挿図番号 図版番号		器種・分類				部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地		
第VII-31図 図版VII-9	21	沖縄産 施釉陶器	瓶		頸	— — —	内面轆轤痕明瞭。外面胴部に釉薬による構成不明の文様が施される。素地は黄灰褐色。焼成良い。外面に白化粧した後、胴部に施文し透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28西フテ 2-2区 <31> (攪乱)			
	22		急須	I			(ハ)	口～胴	6 — —	轆轤引きの黒釉陶器。素地は黄褐色。焼成良い。口縁内面から胴部にかけて黒釉を直接施釉する。細かい貫入あり。	H28西フテ 2-2区 <1> (SK3001 I層)
	23		小杯	III			(イ)B	口～底	8.3 4.4 3.8	口縁外反。畳付けは釉剥ぎされる。見込みは蛇の目釉剥ぎされる。素地は灰白色。焼成良い。全面に白化粧した後、透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28西フテ 2-2区 <28> (表採)
	24		碗	I			(イ)(1)	底	— 6.4	灰釉碗の底部片。高台削り明瞭で、内面は見込みからフィガキーされる。素地は黄白色。焼成良い。外面立ち上がりから内面にかけて施釉し、内面は見込みからフィガキーする。	H28西フテ 2-2区 <20> (SD3006)

挿図番号 図版番号	器種	石質	法量 (cm/g)				観察事項	出土地	
			長さ	幅	厚さ	重量			
第VII-31図 図版VII-9	25	磨製石器					表面の一部が磨られて平面になる。裏面は打ち欠いて成形される。	H28西フテ 2-1区 <134> (岩盤直上)	
	26	敲打石器	砂岩	7.9	5.9	4.4	300	片手で持って打ちつけるタイプの敲打石器。表面以外を打ち欠いて成形し、表面は自然面を利用する。表面の広い範囲に使用痕が残る。	H28西フテ 2-1区 <123> (地山直上)
	27	石斧片	砂岩	6.1	4.1	2.6	97.3	端部は研磨によって整えられる。表面と裏面は打ち欠いて平坦に成形される。刃部は欠損。	H28西フテ 2-1区 <43> (SX2001)
第VII-32図 図版VII-10	28	磨製石器		17	16.9	12.2	4,650	球状の磨石。一部欠損部を除き、全体的に研磨される。	H28西フテ 2-1区 <82> (SP2032)
	29	石皿	ニービ	23.2	17.6	10.5	5,900	表面中央から端にかけて使用痕が残る石皿。大型で設置して使用するものと考えられる。	H28西フテ 2-2区 <169> (SX2001)

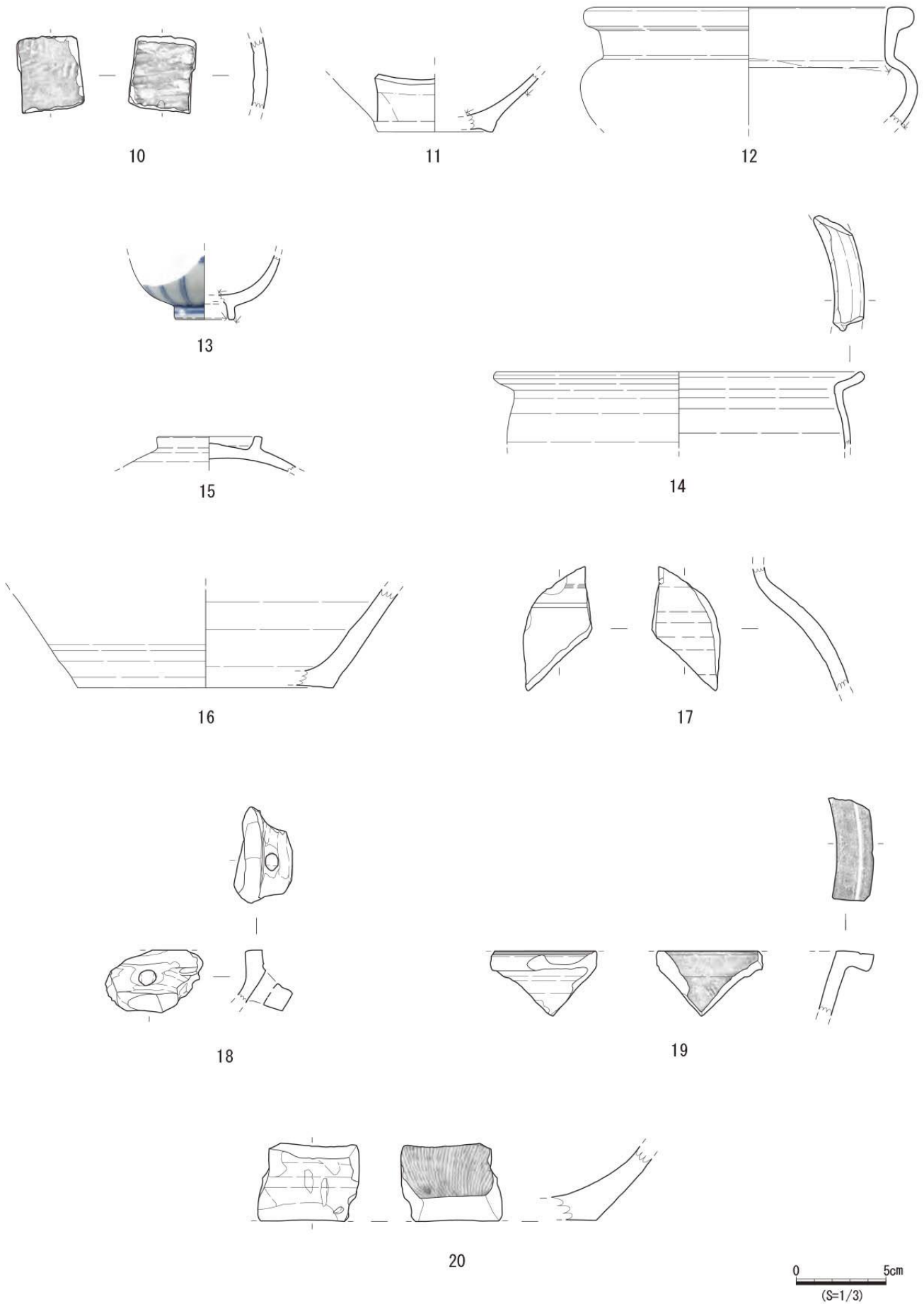


0 5cm
(S=1/3)

第V-29図 出土遺物1 先史土器(1~8)、グスク土器(9)



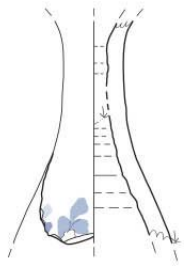
図版V-7 出土遺物 1 先史土器 (1～8)、グスク土器 (9)



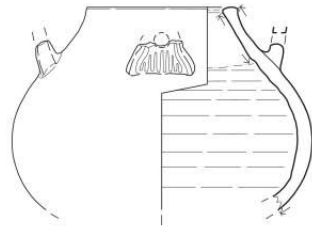
第V-30図 出土遺物2 カムイヤキ (10)、中国産白磁 (11)、本土産磁器 (12・13)、アカムヌー (14・15)、
 沖縄産無釉陶器 (16～20)



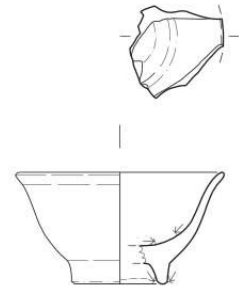
図版V-8 出土遺物2 カムイヤキ (10)、中国産白磁 (11)、本土産磁器 (12・13)、アカムヌー (14・15)、沖縄産無釉陶器 (16～20)



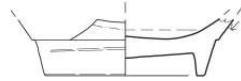
21



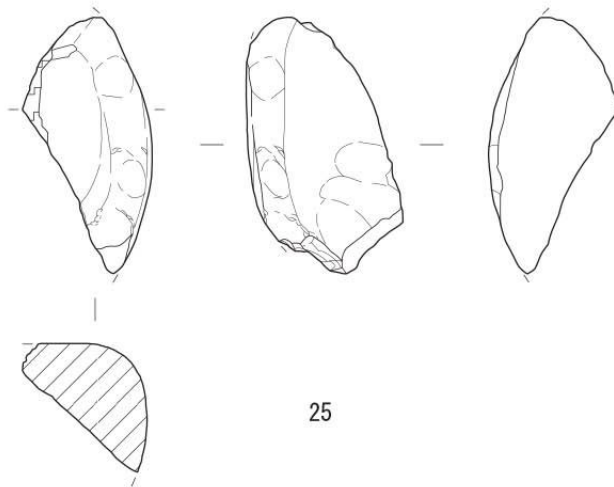
22



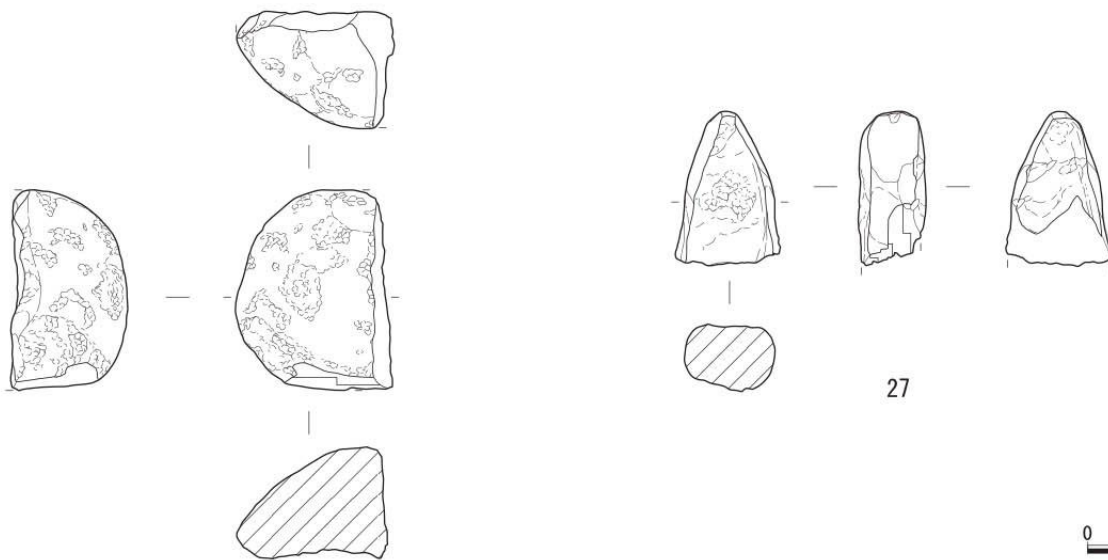
23



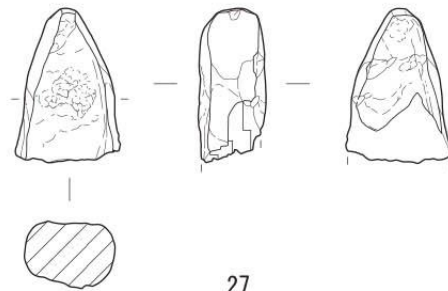
24



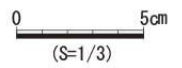
25



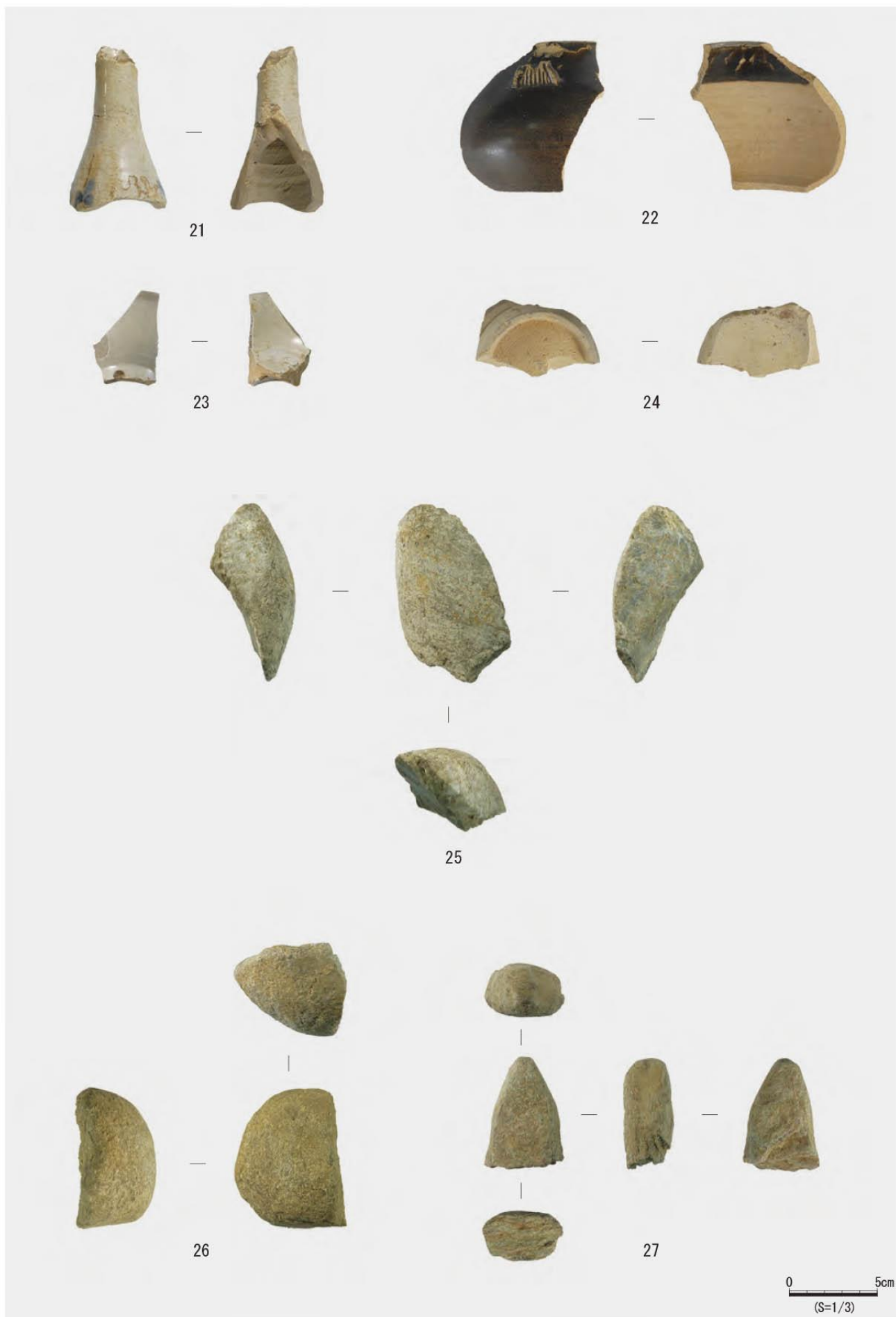
26



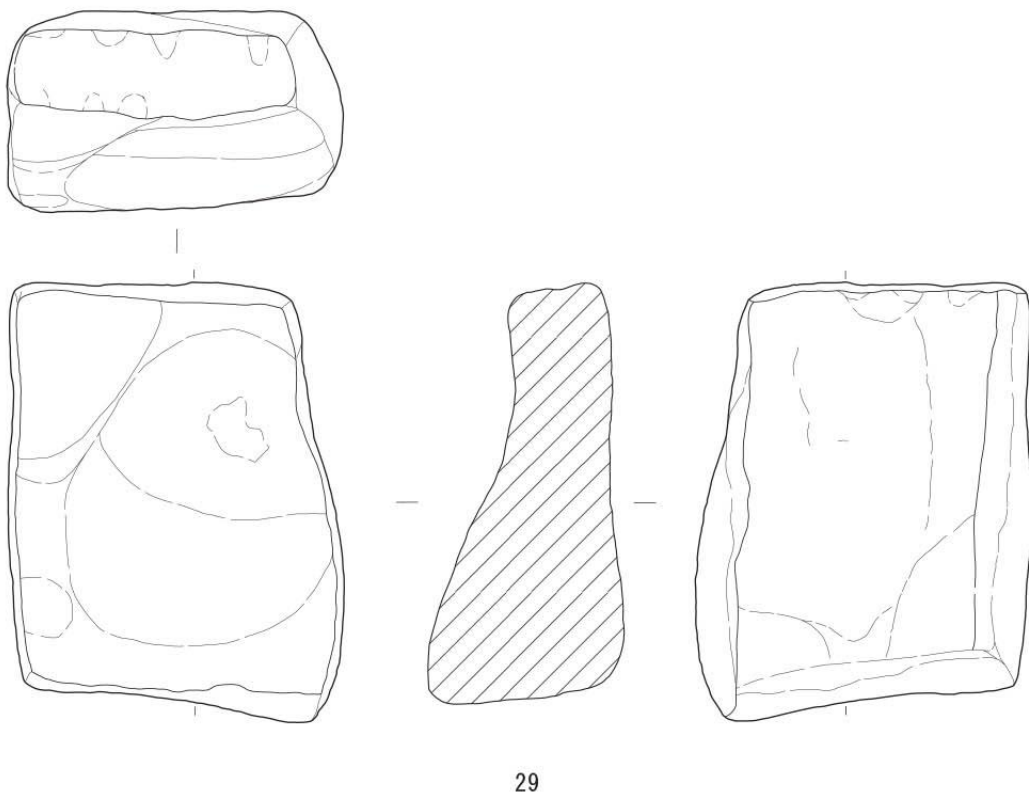
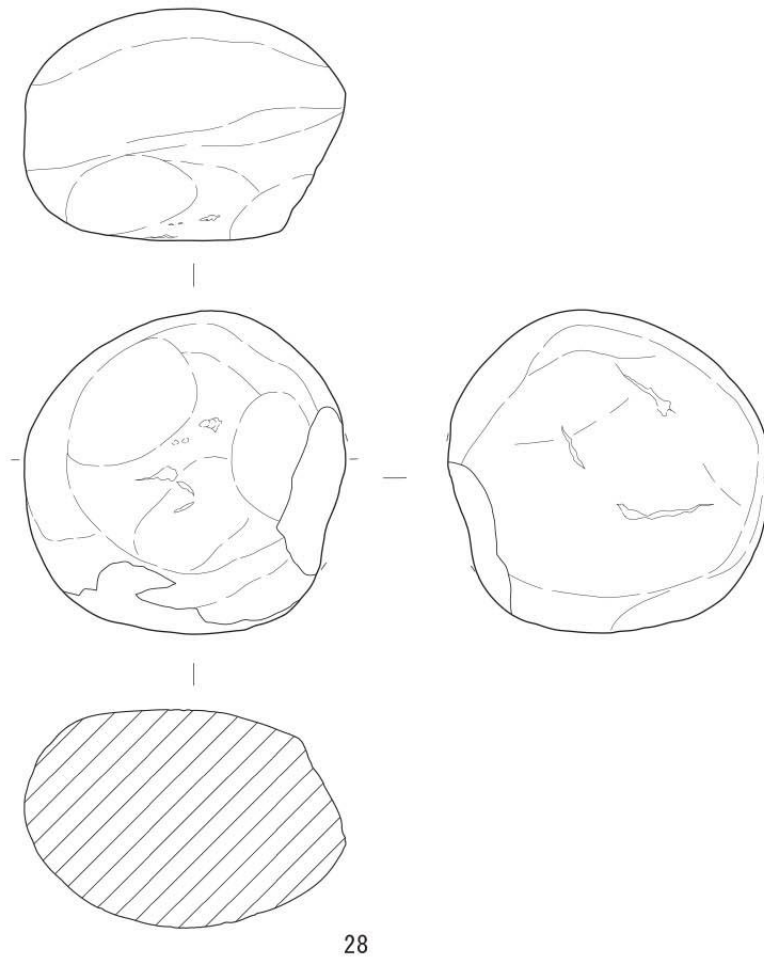
27



第V-31図 出土遺物3 沖縄産施釉陶器(21~24)、石器(25~27)



図版V-9 出土遺物3 沖縄産施釉陶器 (21～24)、石器 (25～27)



0 5cm
(S=1/4)

第V-32図 出土遺物4 石器



图版V-10 出土遺物4 石器

第V-20表 出土遺物集計表（工区1）

出土地点	種別 器種	先史 土器	グス ク 土器	不明 土器	白磁	青磁	青花	沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器				本土 産 磁器	瓦等	金属 製品	石器 ・ 石材	貝類	骨類	不明	合計
					不明	不明	不明	碗	皿	不明	壺	甕	挿鉢	不明								
層序	I層																					
	II層			1																	1	
	III層		1	4																	5	
	岩盤直上	9	16	7	1					1		1			1	1					37	
SP	2001	5		1										1							7	
	2024	1																			1	
	2030			1																	1	
	2032																1				1	
	2034	1															1			1	3	
	2036		1																		1	
	2038		1																		1	
	2072		1																	1	2	
SD	2001	1																			1	
	2002	1				1															2	
	2004		1	3								2									6	
SX	2001	13	2	14													1	1		3	34	
	2001-3		1																		1	
	2001-A					1															1	
攪乱	1				1				1			2	5	3					1	3	17	
不明		1																			1	
合計		32	25	31	1	2	1	0	0	1	1	0	2	9	3	1	1	3	1	1	9	123
					1	2	1		1			12										

第V-21表 出土遺物集計表（工区2）

層位等	種別 器種	先史 土器	グス ク 土器	不明 土器	カムイ ヤキ	沖縄産施釉陶器					沖縄産無釉陶器					アカ ム ヌー	石器 ・ 石材	不明	合計		
						碗	皿	鉢	瓶	急須	不明	壺	甕	挿鉢	蓋					不明	
層序	I層																				0
	II層			1							1										2
	III層			5																	6
	遺構直上										1		1			1			2		5
SP	3133																	1			1
	3156																		1		1
	3228																		1		1
	3274																		1		1
SK	3001								1			2				1	5			9	
SD	3001									1							1			2	
	3008									1							1			2	
	3002															1			1		
	3006				1	2					1		1		1	4			10		
	3007									1					1				2		
	3009									1									1		
攪乱						1							1			2			4		
不明						1			1	1									3		
合計		0	0	6	1	4	0	0	1	1	8	2	1	2	0	5	14	5	1	51	
											14		10								

第5節 自然科学分析

はじめに

新城大道原第一遺跡より採取した試料から、年代観や古植生、植物資源利用、土壌の理化学性などに関する情報を得ることを目的として、パリノ・サーヴェイ(株)に放射性炭素年代測定、花粉分析・微粒炭分析、植物珪酸体分析、微細物分析、土壌理化学分析を委託した。本節では紙幅の都合により分析結果に基づく考察のみ以下に記す。

1. 考察

放射性炭素年代測定の結果をみると、SP2001、SP2021、SP2028、SP2036、SP2037は、いずれも類似しており、補正年代で1,150～1,120yrBP、暦年代で8世紀後半～10世紀後半(calAD 777～981)の値が得られている。これは、遺構の埋積年代を反映していると推測される。

植物化石についてみると、花粉化石、植物珪酸体、炭化種実のいずれも、産状が悪い。花粉化石や植物珪酸体は、前述の新城上殿遺跡と同様の理由により、堆積後に分解・消失した可能性が高い。

検出された植物化石から、古植生について検討すると、木本類ではマツ属、ニレ属一ケヤキ属の花粉化石が確認された。マツ属は周囲の山野や二次林に、ニレ属一ケヤキ属は河畔などに生育していたと考えられる。また、炭化種実では確認されたイヌザンショウ亜属は、河原や崩壊地、伐採跡などの日当たりの良い場所に生育する落葉高木のカラスザンショウ、または常緑藤本のツルザンショウの可能性があり、周辺の低地の二次林に生育していたと考えられる。草本類ではイネ科、アカザ科、ナデシコ科、セリ科、ヨモギ属、タンポポ科など、いずれも開けた明るい場所に生育する種群が確認されたことから、調査地周辺の草地などに由来すると思われる。

微粒炭についてみると、SP2001で多く、SP2036でやや多いが、その他はいずれも少ない。各遺構間に見られた微粒炭数の差については、現時点で判断しきれない。

一方、土壌の理化学性についてみると、今回の分析試料は、鉄の形態分析により全試料が赤色土に分類され、遊離酸化鉄のうちの結晶質鉄の占める部分が、非晶質鉄に比べ多いことが示された。全鉄から占める遊離鉄の割合が多く、さらに、結晶化指数が高いことから風化や土壌生成が進んでいると捉えられる。

SP2001では他の試料に比べ腐植含量が多いうえ、腐植の発達度合いが良い。試料確認時に黒色物質が確認され、炭化物の可能性はあるが、マンガン含量を分析していないため、詳細な言及はできないが、腐植についてはこの黒色物質の影響の可能性が挙げられる。このことから、SP2001生成環境では耕作や火入れ、生活跡等の人為による影響の可能性が挙げられる。また、カルシウム含量が多く、付随してリン酸含量、可給態リン酸が多いことから、試料確認時には見られなかったが、石灰質成分が混入している可能性も挙げられる。他の試料においては各分析値とも一定であり、特徴的な結果が得られないこと。このことから、土壌生成環境についての具体的な言及はできない。したがって、SP2001においては他の試料生成環境と異なることが示される。

第6節 総括

本節では当該遺跡の調査内容について前節までの報告を整理しつつ、これまでの調査成果から遺跡の性格等について検討する。新城大道原第一遺跡は西普天間住宅地区の北側に位置する遺跡で、グスク時代から近世～近代の複合遺跡である。平成26年度に実施した試掘調査及び平成27年度の確認調査によって新規に発見された。遺跡の周辺一帯は標高35～40mの石灰岩丘陵に位置し、現況地形として遺跡の北側に向かって緩やかに傾斜する緩斜面地となっている。調査区は試掘調査によって遺構がまとめて検出された箇所を中心に工区1（約720㎡）と工区2（約660㎡）を設定し、計約1380㎡を調査した。

工区1の堆積を見ると岩盤直上まで米軍の造成土が堆積し、辛うじて南東側に褐色シルトの包含層が残存しているものの、プライマリーな包含層はほとんど残っていなかった。工区1で検出された遺構は柱穴を含むピット（SP）、土坑（SK）、溝状遺構（SD）、不明遺構（SX）が確認されている。ピットは柱痕が確認できるものも見られたが、明確な建物プランとしては確認できなかった。また、特筆する遺構として調査区の北東側と南東側に露出する石灰岩岩盤を結ぶようにSD4が確認されている。掘方断面が逆台形状を呈しており、南東側からの雨水等を受け止めるような排水路としての機能が想定される。ただし、堆積する覆土断面に流水の痕跡は確認できていない。また、SD4に隣接して性格不明な遺構（SX2001）が検出された。覆土に石灰岩礫が充填されており、部分的に隙間が見られる。土器片などが出土するが流れ込みの可能性が考えられる。

工区2の周辺一帯は、基地建設によって道路や宅地として造成された箇所で、地山面まで造成土が堆積していた。遺構は地山の島尻マージ層を掘り込んで造られたものが検出されている。工区2の東～南東側にピットが多数まとめて検出された。基底面のレベルが39.2m～39.6mがほとんどを占めるが深度が10cm未満と浅いものが多く、柱穴と判断できるものは少ない。堀棒等による植栽痕の可能性も想定される。工区2の西側には南北方向に軸を持つ複数の溝状遺構が並んでおり、斜面に対して横断するように配置されることから雨水などの流れをコントロールするために設置されたと思われる。本遺跡は戦前まで耕作地として使用されており、これに関連する遺構と思われる。

全体的に遺物の出土は少なく、工区1で123点、工区2で50点となっている。青磁や白磁などの中国産陶磁器はほとんどなく、工区1で土器（先史土器32点、グスク土器が25点、不明31点）が多数出土している（ほとんどがSX2001内からの出土）。逆に工区2からは土器片6点のみが出土している。グスク時代の遺構としては工区1のSD4（溝状遺構）やSX2001（不明遺構）、工区2のピット群などがある。近世～近代の遺構は両区ともに溝状遺構が見られる。特に工区2ではSD1、SD6、SD8、SD9の溝状遺構が斜面地形を横断するように検出されている。

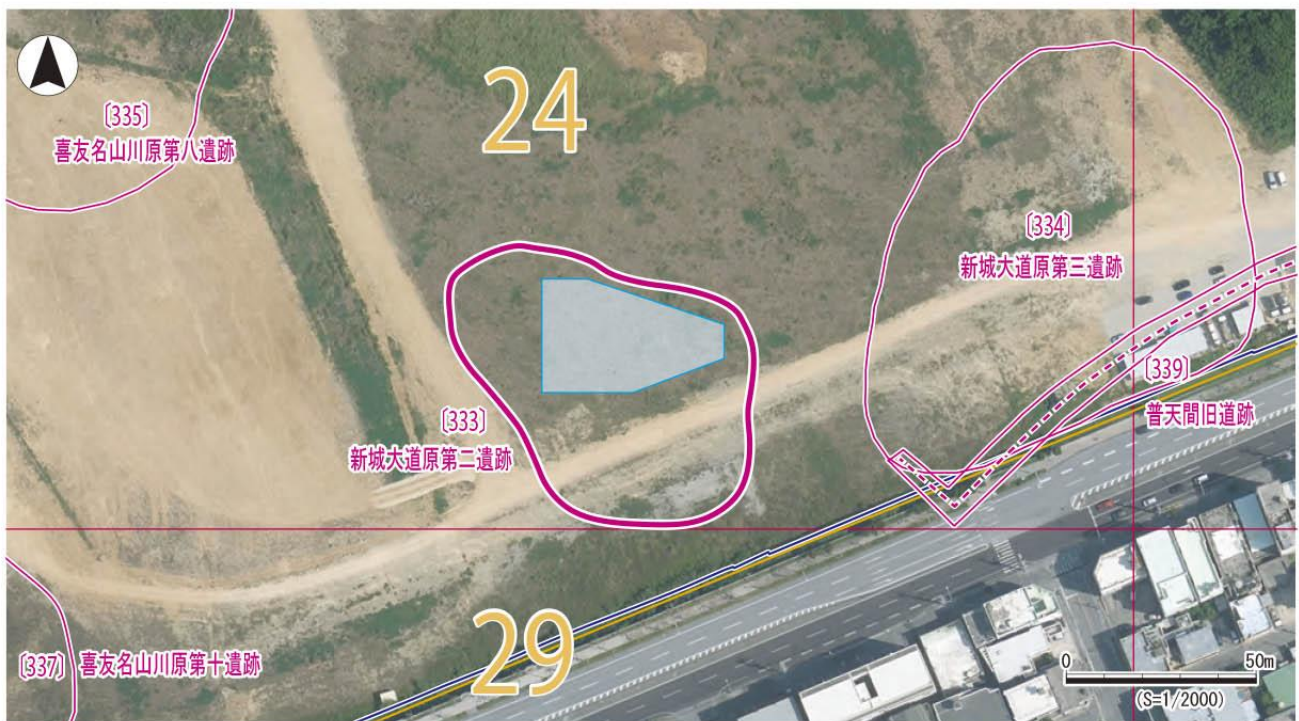
工区1、工区2ともに遺跡の性格として集落よりも生産遺跡（耕作などに関連する）に近い様相を呈していると思われる。しかし、工区1と工区2では明らかに出土している遺物の構成が異なるため、別の遺跡の可能性も留意する必要がある。近世～近代にかけては両遺跡とも耕作地として使用されていたと思われるため、今後はグスク時代以前の様相に焦点を当てて再度資料の検討が必要と思われる。

第VI章 新城大道原第二遺跡

第1節 調査の経過と調査方法

新城大道原第二遺跡は平成27年度に文化庁の補助を受けて実施した試掘調査により新規に発見された。遺跡は新城大道原南側に位置しており、県道81号線から北側約30m程に位置する。返還前までは米軍住宅が建ち並び、芝生がひかれた広い庭や区画整理された道路など整然とした雰囲気であった。本遺跡の調査に入る前にはこれらの建物や道路及び埋設管等の撤去が優先的に行われる必要があったため、調査は平成28年1月からの開始となった。

調査区の設定は、過年度試掘調査の成果を基に約1,116㎡を設定した。一帯は基地建設に伴う造成工事によって旧地形は失われており、試掘調査の結果でも包含層はほとんど確認できず、造成土直下に地山（島尻マージ層）が確認されている。検出された遺構はこの地山面を掘り込んで形成されたもので、米造成工事による消失から辛うじて免れたものであった。表土及び造成土は基本的に重機によって除去し、包含層または遺構が確認できた段階で人力による掘削または清掃作業を行った。



第VI - 1図 調査位置図

【日誌抄】

- 1月6日：重機による表土掘削及び不発弾探査を実施。
- 1月23日：民間業者導入。
- 1月26日：調査区の安全対策等環境整備。
- 2月13日：壁面清掃。南壁で近世～近代相当の耕作土を確認。

2月15日：遺構検出作業。埋土が耕作土系となる溝やピットを多数検出。

2月22日：地山または包含層上面で遺構検出。南西―北東方向の杭列を確認。

2月28日：遺構検出状況撮影（高所作業車）。

3月3日：ピット・土坑の半截。調査区北側に堆積する暗褐色シルト層を掘り下げ。同層は壁面ではほぼ見られず、土器などの遺物が少量出土している。

3月8日：焼土集中箇所確認。検出された状況等から原位置ではないと判断した。別の場所で焼かれたものがこの場所に廃棄されたと考えられる。

3月15日：土坑（SK501）半截。岩盤直上まで掘り込まれている。

4月3日：完掘状況を撮影し調査完了。



調査区遠景（東から）



遺構掘削作業状況



SX2001 実測状況



SK サンプル土採取

図版VI - 1 作業状況

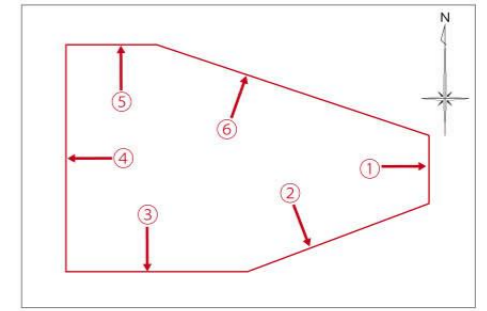
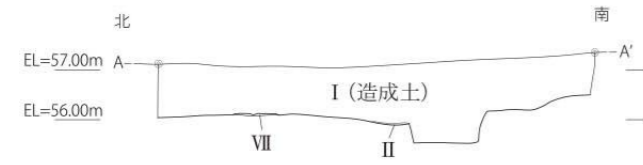
第2節 層序

今回調査した区域は、返還前まで米軍住宅が建ち並んでいた場所であり、過年度の試掘調査でも大規模な造成工事が行われていたことが判明している。ほぼ調査区全域で1m以上の造成土（盛土）が堆積し、大部分が地山（島尻マージ）面まで削平されている。一部北側でⅢ層が厚く残存しているが、地形的に北側に向かってやや傾斜しているため、削平（造成工事）から免れたものと思われる。

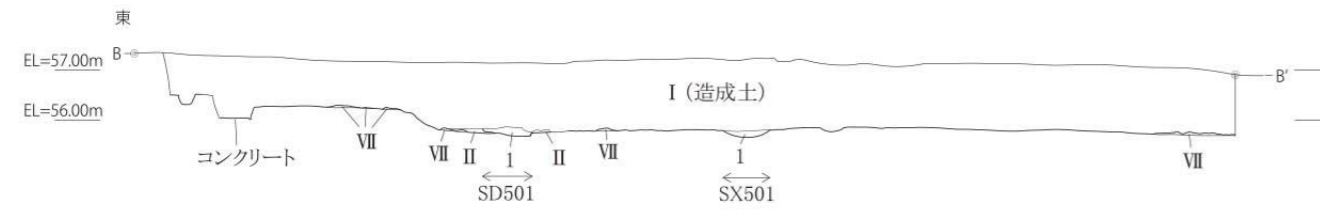


第VI-2図 遺構分布図

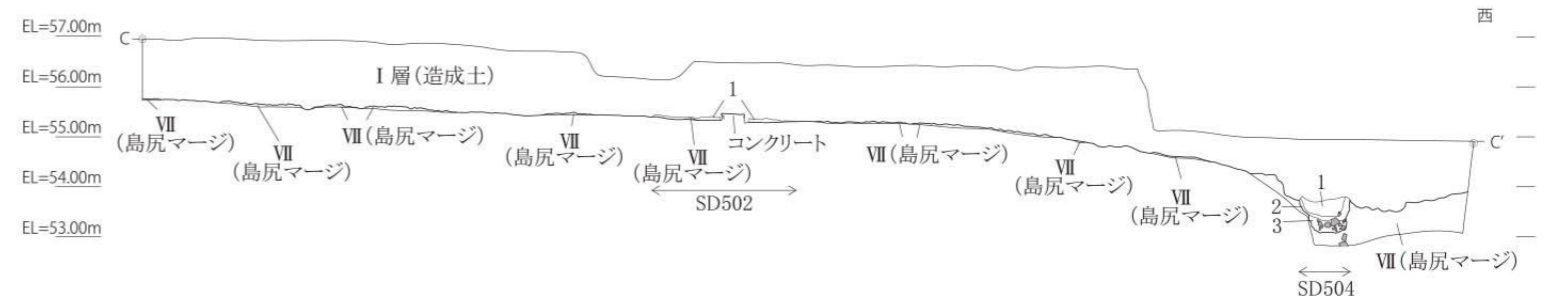
①東壁



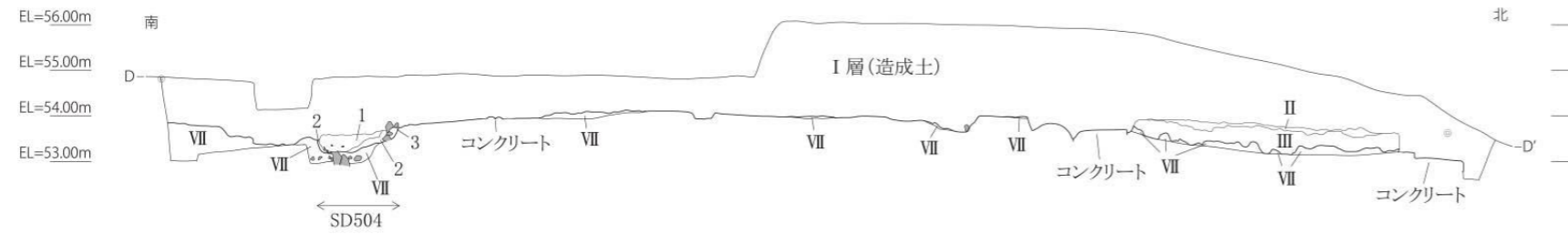
②南壁1



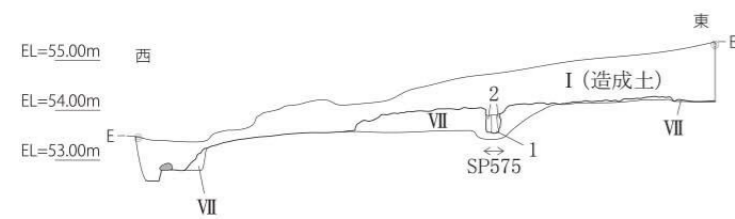
③南壁2



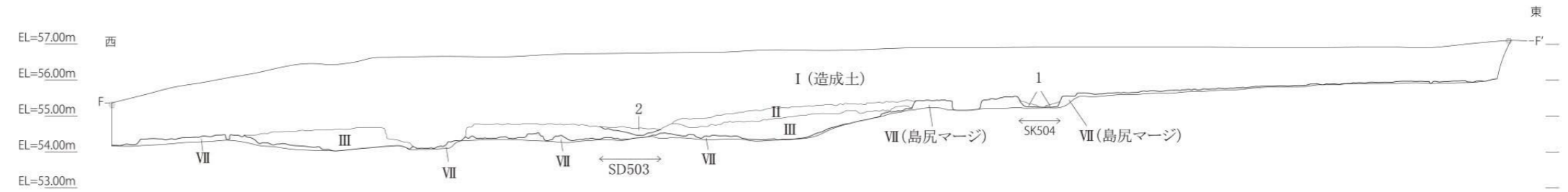
④西壁



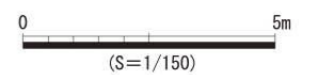
⑤北壁1



⑥北壁2



第VI-3図 壁面土層図



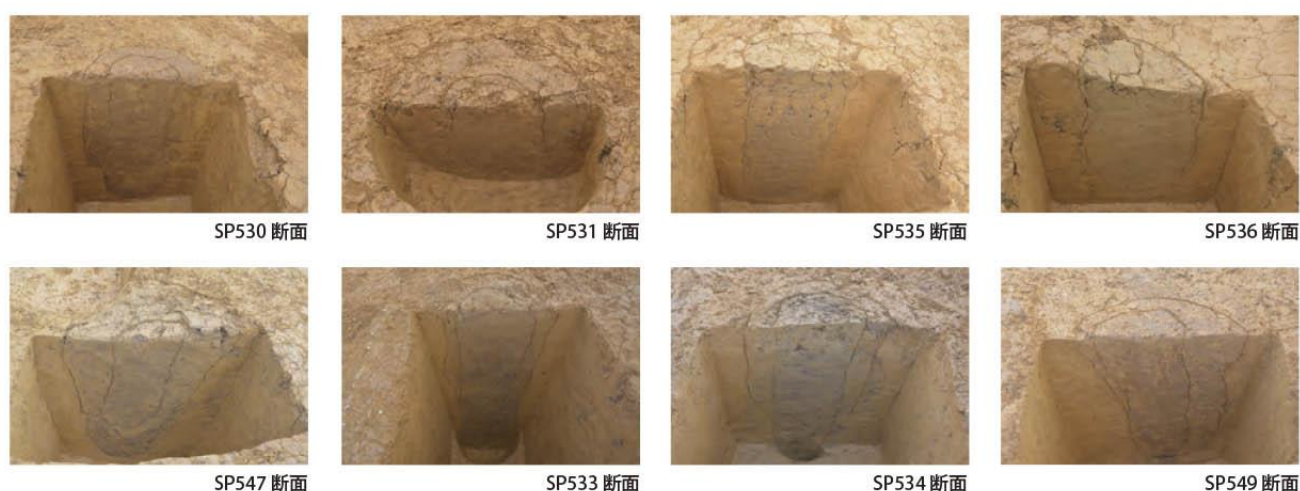
第3節 遺構

本遺跡で確認された遺構は、ピット（柱穴含む）が91基、土坑4基、溝状遺構5条、不明遺構7基が確認されている。ピットは調査区全体にまばらに点在していたが、掘立柱建物跡（SB）のプランが想定できるものは確認されなかった。しかし、南西―北東方向に直線に並ぶピットが確認され、これを列状ピット（仮称）した。また、列状ピットと同方向に延びる溝状遺構（SD503）やこれと垂直方向に延びる溝状遺構（SD501）も検出されており、関連があるものと想定される。

本調査区で確認された遺構は概ね近世～近代に相当するもので、畑の区画や柵等のような施設が想定される。また、調査区東端には石灰岩礫が混入する落ち込み（SX501）が検出されている。

1. ピット（SP）

91基が検出されている。ピットの規模としては、直径の平均値は約30cmであり、深度の平均は22cmとなっている。調査区北西側にまとまりが見られるが個々のピットの規模がまばらで建物プランを想定できるような並びは確認できなかった。調査区中央では、南西―北東方向に直線的に並ぶピット群が確認されており、これを列状ピットと仮称した。この列状ピットは2本（①と②）確認されており、方向は同じ南西―北東で並列している。各ピットの詳細については第VI-1・2表に記載した。なお、ピットの種類については第IV章 第3節と同じく、掘方断面、基底面のレベル、覆土などから分類した。



図版VI-2 ピット（SP）

（1）列状ピット①②

列状ピット①は、SP501～SP508の8基のピットで構成され、端部のピットの距離は約14m（約7.8間）となっている。各ピットの距離は概ね一定しており、平均して1.6mを測る。SP506とSP507の距離が3.8mほどあるが、その間に攪乱抗があり、本来あった遺構（ピット）が攪乱により消失した可能性がある。各ピットの掘方断面を見ると底面の形状は丸みがあるものや平坦なものなど様々であった。

列状ピット②は、SP510～SP520の11基のピットが直線に並ぶ。端部のピットの距離は約17.7m（約9.8間）でSP510とSP511の間（約4.5m）を除いてピット間の距離は約1.5m幅とほぼ一定している。また、ピットの掘方断面を見るとSP510を除いて底面の造りは概ね平坦に成形されており、柱を据えるのに適しているように見える。これらの列状ピットは柵のような施設が想定され、何らかの境界があったものと思われる。

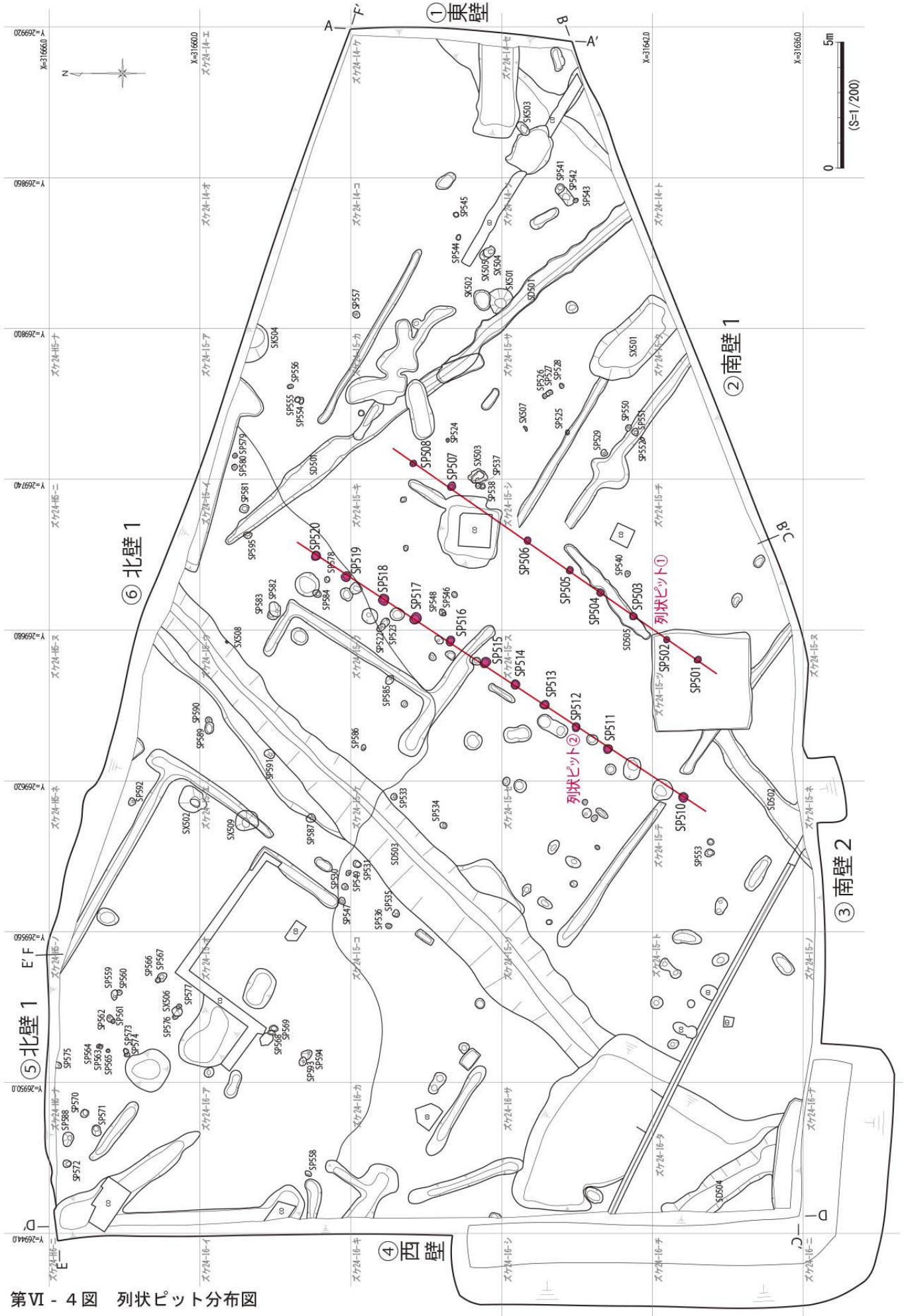
第VI - 1表 遺構計測分類表 (SP) 1

遺構No.	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類			備考
				長軸	短軸	深さ		底面	断面	覆土	
SP501	ズケ24-15-ツ	列状	円形	30	24	9	55.20	X	B		列状ビット①
SP502	ズケ24-15-ツ	列状	円形	25	22	6	55.27	XI	B		列状ビット①
SP503	ズケ24-15-シ	列状	円形	30	28	17	55.27	XI	A		列状ビット①
SP504	ズケ24-15-シ	列状	円形	28	25	8	55.30	XI	B		列状ビット①
SP505	ズケ24-15-シ	列状	円形	28	25	9	55.32	XI	B		列状ビット①
SP506	ズケ24-15-シ	列状	円形	29	26	10	55.27	XI	B		列状ビット①
SP507	ズケ24-15-キ	列状	円形	35	30	24	55.20	X	A		列状ビット①
SP508	ズケ24-15-カ	列状	円形	28	24	12	55.26	XI	B		列状ビット①
SP510	ズケ24-15-テ	列状	円形	38	35	25	54.90	IX	B		列状ビット②
SP511	ズケ24-15-ス	列状	円形	36	34	20	54.97	IX	A		列状ビット②
SP512	ズケ24-15-ス	列状	円形	34	30	16	55.00	IX	A		列状ビット②
SP513	ズケ24-15-ス	列状	円形	36	34	15	55.04	X	A		列状ビット②
SP514	ズケ24-15-ス	列状	円形	36	34	11	55.08	X	A		列状ビット②
SP515	ズケ24-15-ク	列状	楕円形	43	34	15	54.99	IX	A		列状ビット②
SP516	ズケ24-15-ク	列状	楕円形	40	30	24	54.98	IX	A		列状ビット②
SP517	ズケ24-15-キ	列状	円形	46	40	27	54.93	IX	A		列状ビット②
SP518	ズケ24-15-キ	列状	円形	41	38	26	54.93	IX	A		列状ビット②
SP519	ズケ24-15-イ	列状	円形	39	34	23	54.92	IX	A		列状ビット②
SP520	ズケ24-15-イ	列状	円形	38	34	20	54.94	IX	A		列状ビット②
SP522	ズケ24-15-キ	ビット	楕円形	38	23	13	55.02	X	B		SP523を切る
SP523	ズケ24-15-キ	ビット	楕円形	-	29	15	55.01	X	C		SP522に切られる
SP524	ズケ24-15-カ	ビット	楕円形	16	13	10	55.41	XII	Bs		
SP525	ズケ24-15-サ	ビット	楕円形	19	16	20	55.36	XI	Bs		攪乱の溝に切られる
SP526	ズケ24-15-サ	ビット	不定形	-	16	13	55.46	XII	B		SP527に切られる
SP527	ズケ24-15-サ	ビット	楕円形	27	17	12	55.48	XII	B		SP526を切る
SP528	ズケ24-15-サ	ビット	楕円形	20	17	15	55.49	XII	As		
SP529	ズケ24-15-サ	柱穴?	円形	27	23	17	55.46	XII	A		
SP530	ズケ24-15-エ	柱穴	円形	27	24	43	54.07	V	C+		
SP531	ズケ24-15-ケ	柱穴	楕円形	32	26	16	54.38	VI	A+		
SP533	ズケ24-15-ケ	柱穴	円形	26	25	56	54.11	V	B+		
SP534	ズケ24-15-ケ	柱穴	楕円形	28	22	51	54.23	VI	B+		
SP535	ズケ24-15-ケ	柱穴	円形	30	26	52	54.05	V	A		
SP536	ズケ24-15-ケ	柱穴	円形	24	20	27	54.24	VI	B		
SP537	ズケ24-15-キ	柱穴?	円形	21	21	12	55.35	XI	B		SP538を切る 南北ライン(断面図あり)、東西ライン(断面図なし)
SP538	ズケ24-15-キ	ビット	円形	23	-	5	55.41	XII	B		SP537に切られる
SP540	ズケ24-15-シ	柱穴?	楕円形	25	20	20	55.34	XI	B		
SP541	ズケ24-14-ソ	柱穴	楕円形	40	31	15	55.72	X III	A+		SP542を切る
SP542	ズケ24-14-ソ	SK?	楕円形?	74	40	46	55.39	XI	A		SP541・SP543に切られる
SP543	ズケ24-14-ソ	ビット	楕円形	21	16	5	55.78	X III	B		SP542を切る
SP544	ズケ24-14-コ	ビット	楕円形	23	17	3	55.67	X III	B		
SP545	ズケ24-14-コ	ビット	円形	22	20	5	55.73	X III	B		
SP546	ズケ24-15-キ	ビット	円形	16	15	7	54.36	VI	Bs		SP548を切る
SP547	ズケ24-15-エ	柱穴	円形	28	24	29	54.16	V	B+		
SP548	ズケ24-15-キ	柱穴?	円形	26	25	27	54.14	V	C+		SP548に切られる
SP549	ズケ24-15-エ	柱穴	楕円形	23	18	24	54.24	VI	B+		
SP550	ズケ24-15-サ	ビット	楕円形	26	20	13	55.55	XII	B		
SP551	ズケ24-15-サ	柱穴	楕円形	30	25	34	55.21	XI	A		
SP552	ズケ24-15-サ	柱穴?	楕円形	20	11	8	55.63	X III	As		
SP553	ズケ24-15-テ	柱穴?	楕円形	38	30	9	54.91	IX	B		
SP554	ズケ24-15-ア	柱穴	楕円形	28	-	29	55.02	X	C+		SP555に切られる
SP555	ズケ24-15-ア	ビット	円形	25	21	7	55.24	XI	B		SP554を切る
SP556	ズケ24-15-ア	柱穴?	楕円形	24	16	7	55.44	XII	A		
SP557	ズケ24-14-コ	柱穴?	円形	29	26	13	55.52	XII	B		
SP558	ズケ24-16-ア	柱穴?	楕円形	28	19	36	53.54	II	A		
SP559	ズケ24-H5-ノ	柱穴	楕円形	40	24	12	53.94	IV	D		SP560を切る 南北ライン
						36	53.70	III	A		SP560を切る 東西ライン

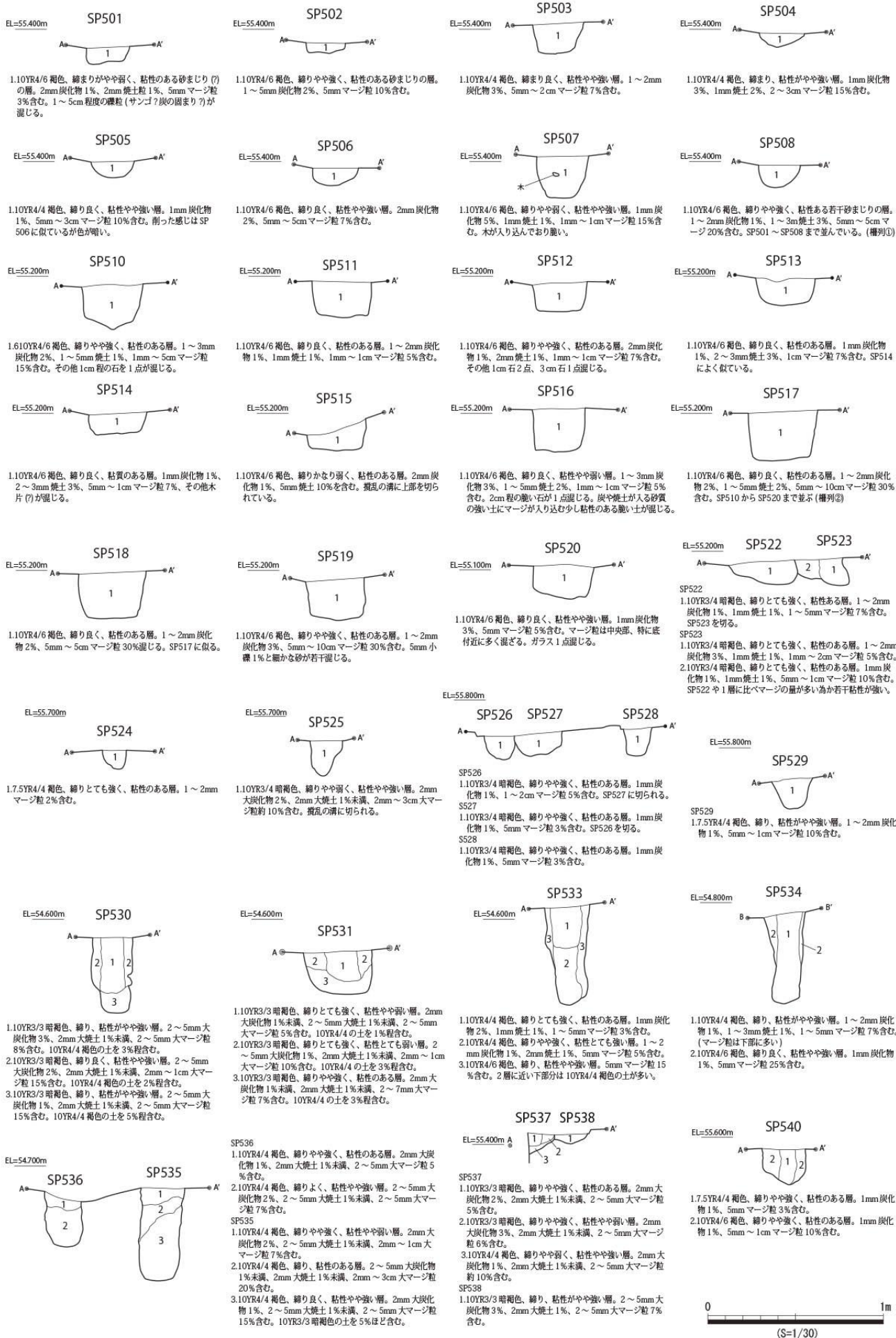
第VI - 2表 遺構計測分類表 (SP) 2

遺構No.	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	分類			備考
				長軸	短軸	深さ		底面	断面	覆土	
SP560	スケ24-H5-ノ	柱穴	円形	-	20	19	53.86	IV	B+		SP559に切られる
SP561	スケ24-H5-ノ	ピット	円形	16	16	9	53.94	IV	Bs		SP562を切る
SP562	スケ24-H5-ノ	柱穴?	楕円形?	29	24	11	53.93	IV	B		SP561に切られる
SP563	スケ24-H5-ノ	ピット	円形	18	14	16	53.86	IV	Bs		SP564を切る 杭痕?
SP564	スケ24-H5-ノ	ピット	楕円形	19	-	5	53.97	IV	As		SP563に切られる
SP565	スケ24-H5-ノ	ピット	円形	15	14	5	53.94	IV	Bs		
SP566	スケ24-H5-ノ	ピット	円形	20	19	7	53.93	IV	Bs		SP567を切る
SP567	スケ24-H5-ノ	ピット	楕円形	-	30	10	53.90	IV	B		SP566に切られる
SP568	スケ24-I5-オ	柱穴?	楕円形	28	18	4	54.05	V	A		SP569を切る、土溜りに切られる
SP569	スケ24-I5-オ	柱穴	楕円形	34	-	8	54.02	V	B+		SP568に切られる
SP570	スケ24-H6-ナ	柱穴	円形	34	29	39	53.46	II	B+		
SP571	スケ24-H6-ナ	柱穴	楕円形	44	33	42	53.40	I	B+		
SP572	スケ24-H6-ナ	柱穴	円形	32	28	44	53.11	I	B+		
SP573	スケ24-H5-ノ	ピット	楕円形	23	18	10	53.87	IV	D		SP574を切る
SP574	スケ24-H5-ノ	柱穴?	楕円形?	22	-	24	53.66	III	B		SP573に切られる
SP575	スケ24-H5-ノ	柱穴	楕円形?	-	27	36	53.53	II	C+		北壁内
SP576	スケ24-H5-ノ	柱穴?	楕円形?	-	18	14	53.80	III	B		SX506に切られる
SP577	スケ24-H5-ノ	柱穴?	楕円形	21	15	14	53.83	IV	B		SX506を切る
SP578	スケ24-I5-イ	柱穴	円形	23	20	48	54.53	VII	A+		
SP579	スケ24-I5-ア	柱穴?	円形	20	17	22	55.04	X	Bs		
SP580	スケ24-I5-ア	柱穴?	円形	25	22	20	54.96	IX	A		
SP581	スケ24-I5-イ	柱穴?	隅丸方形	34	33	16	54.66	VIII	A		
SP582	スケ24-I5-イ	柱穴	楕円形	58	44	36	54.25	VI	B		SP583を切る
SP583	スケ24-I5-イ	ピット	楕円形?	-	40	12	54.43	VII	B		SP582に切られる
SP584	スケ24-I5-イ	柱穴	楕円形	35	27	26	54.58	VII	B		
SP585	スケ24-I5-ク	柱穴	楕円形	40	30	15	54.82	IX	C+		
SP586	スケ24-I5-ク	柱穴	楕円形	24	16	29	54.32	VI	B+		
SP587	スケ24-I5-エ	柱穴	楕円形	37	32	38	53.95	IV	B+		
SP588	スケ24-H6-ナ	柱穴	楕円形	58	43	32	53.17	I	C+		
SP589	スケ24-I5-ウ	柱穴?	楕円形	46	34	14	53.76	III	B		SP590を切る
SP590	スケ24-I5-ウ	柱穴	円形	-	25	23	53.67	III	B+		SP589に切られる
SP591	スケ24-I5-ウ	柱穴	楕円形	42	33	35	53.78	III	C+		
SP592	スケ24-H5-ネ	柱穴	楕円形	30	26	55	53.43	II	B		
SP593	スケ24-I5-オ	柱穴	楕円形	36	29	11	53.88	IV	C+		SP594を切る B-B' 切り直し後
SP594	スケ24-I5-オ	柱穴	楕円形	44	35	34	53.67	III	C+		SP593に切られる B-B' 切り直し後
SP595	スケ24-I5-イ	柱穴	楕円形	34	26	10	54.36	VI	A+		

底面レベル (m) 20cm区切り	
I	53.40以下
II	53.41~53.60
III	53.61~53.80
IV	53.81~54.00
V	54.01~54.20
VI	54.21~54.40
VII	54.41~54.60
VIII	54.61~54.80
IX	54.81~55.00
X	55.01~55.20
X I	55.21~55.40
X II	55.41~55.60
X III	55.61~55.80

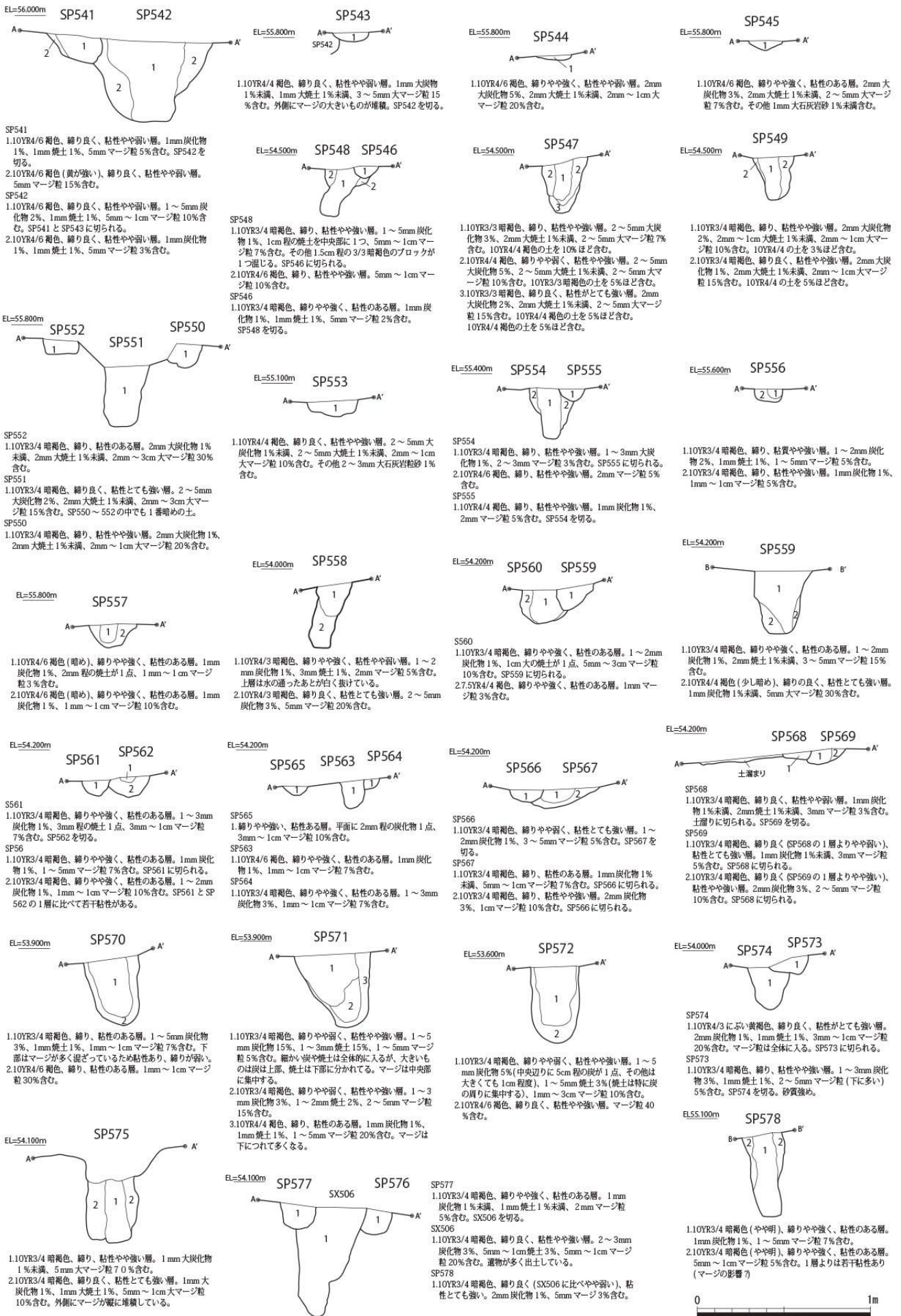


第VI - 4図 列状ピット分布図

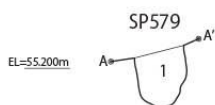


第VI - 5図 ピット (SP) 1

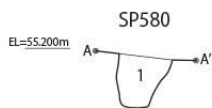
第VI章 新城大道原第二遺跡



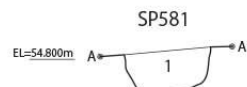
第VI - 6図 ピット (SP) 2



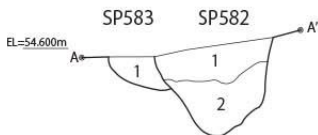
1.10YR4/3 にぶい黄褐色、締りやや強く、粘性とても強い層。1mm 炭化物 1%未満、1mm～3cm 大マージ粒 15%含む。マージ粒は下層にブロック状の大きいものが入る。1～5mm 大のものは全体に入る。



1.10YR4/6 暗褐色、締り良く、粘性とても強い層。2mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%未満、3mm マージ粒 20%含む。所々水の影響が白く色が抜けるところあり。

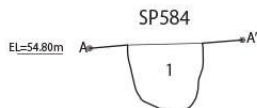


1.10YR3/4 暗褐色、締り、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%未満、2mm 大焼土 1%未満、2mm～2cm 大マージ粒 7%含む。下部は少し粘性高め。

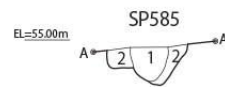


SP583
1.10YR3/4 暗褐色、締り、粘性やや強い層。1mm 炭化物 1%未満、1mm 焼土 1%未満、5mm～1cm マージ粒 10%含む。

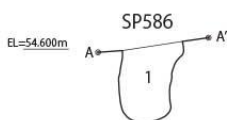
SP582
1.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性とても強い層。1mm 炭化物 1%未満、5mm～1cm マージ粒 15%含む。
2.10YR4/4 褐色、締り良く、粘性とても強い層。1mm 炭化物 1%未満、5mm～1cm マージ粒 30%含む。



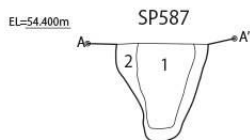
1.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性のある層。2～5mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2mm～2cm 大マージ粒 7%含む。



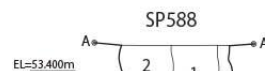
1.10YR4/4 褐色、締りやや強い、粘性のある層。2～5mm 大炭化物 1%未満、2～5mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マージ粒約 5%含む。
2.10YR4/4 褐色、締り良く、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%未満、2mm 大焼土 1%未満、2mm～3cm 大マージ粒 7%含む。



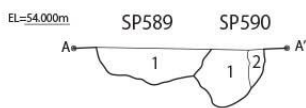
1.10YR4/6 褐色、締り、粘性やや強い層。1mm～1cm マージ粒 7%含む。



1.10YR3/4 暗褐色、締り、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2mm～3cm 大マージ粒 15%含む。
2.10YR4/6 褐色、締りやや強く、粘性のある層。2mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2mm～2cm 大マージ粒 10%含む。

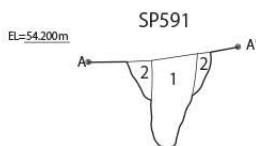


1.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性やや強い層。1mm 大炭化物 1%未満、3mm 大マージ粒 7%含む。
2.10YR3/4 暗褐色、締りやや弱く、粘性とても強い層。1～2mm 大炭化物 1%、5mm 大マージ粒 10%含む。

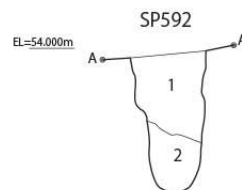


SP589
1.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%未満、2mm～3cm 大マージ粒 7%含む。SP590 を切る。

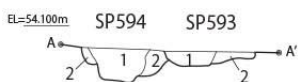
SP590
1.10YR3/4 暗褐色、締り、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%未満、2mm～1cm 大マージ粒 3%含む。SP589 に切られる。
2.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性とても強い層。2mm 大炭化物 1%未満、2mm～1cm 大マージ粒 5%含む。



1.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性とても強い層。2～5mm 大炭化物 1%未満、2mm 大焼土 1%未満、2mm～3cm 大マージ粒 10%含む。
2.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性やや強い層。2～5mm 大炭化物 1%未満、2mm 大焼土 1%未満、2mm～2cm 大マージ粒 7%含む。

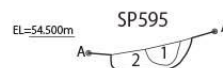
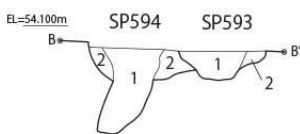


1.10YR4/4 褐色、締り良く、粘性やや強い層。2～5mm 大炭化物 2%、2mm 大焼土 1%未満、2mm～3cm 大マージ粒 7%含む。
2.10YR4/4 褐色、締りやや弱く、粘性とても強い層。2～5mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マージ粒 5%含む。

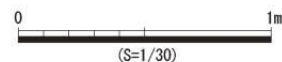


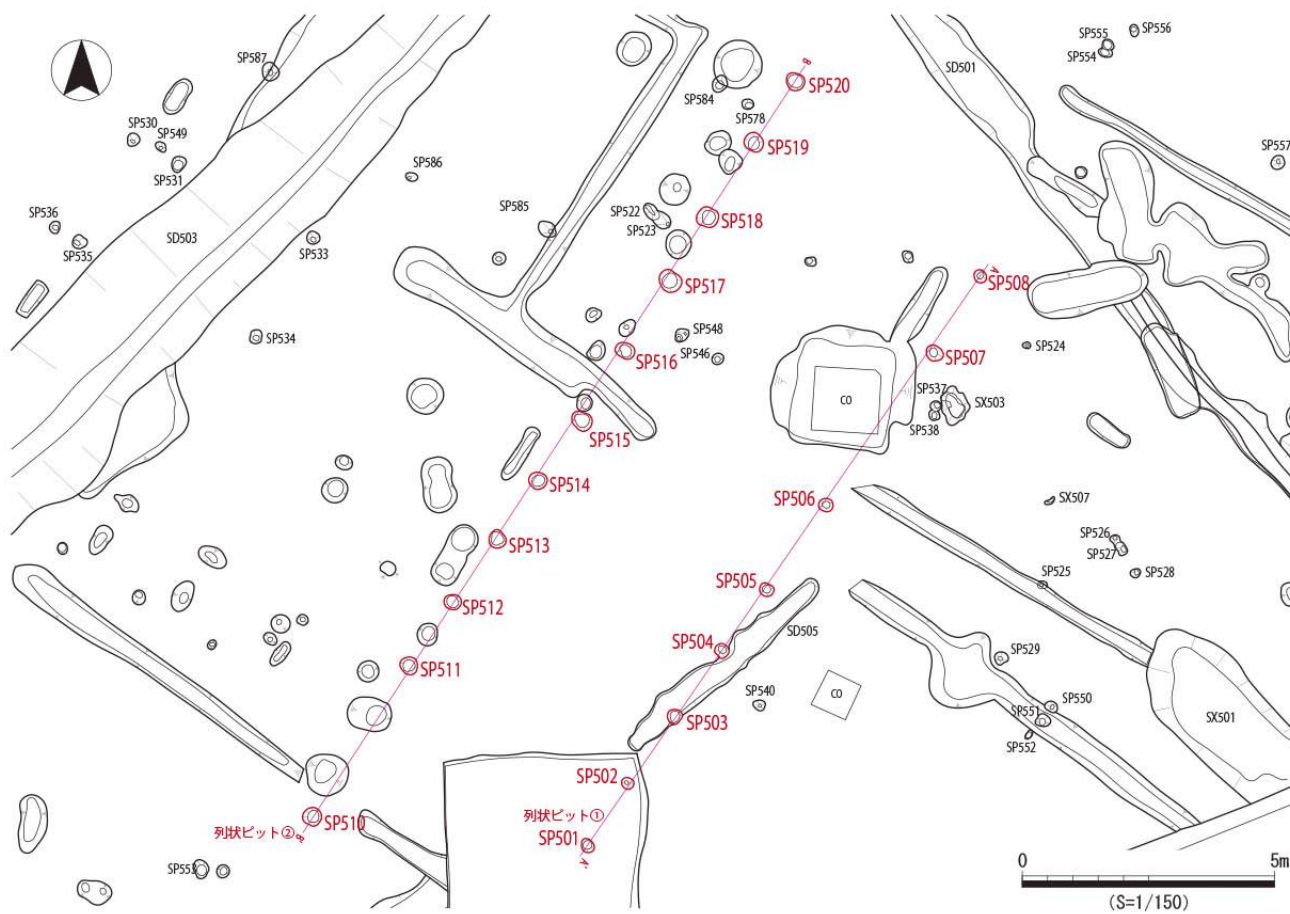
SP594
1.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性とても強い層。1mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%未満、3～5mm マージ粒 7%含む。
2.10YR3/4 暗褐色(明るめ)、締り良く、粘性とても強い層。1mm 炭化物 1%未満、5mm マージ粒 10%含む。

SP593
1.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性とても強い層。1mm 炭化物 1%未満、5mm～1cm マージ粒 15%含む。
2.10YR3/4 暗褐色、締りやや弱く、粘性とても強い層。1～5mm 炭化物 1%、5mm～1cm マージ粒 20%含む。

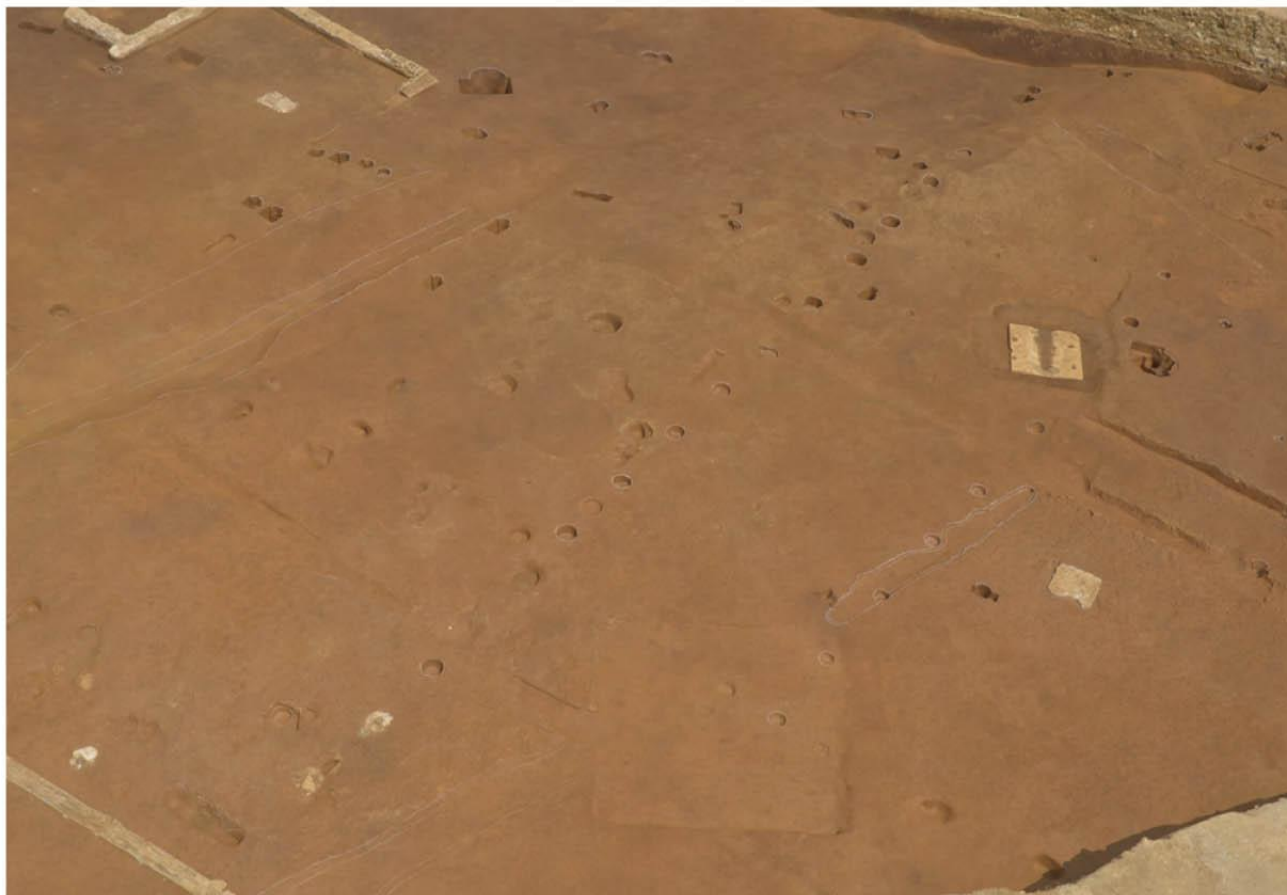


1.10YR3/4 暗褐色、締り、粘性やや強い層。1mm 炭化物 1%未満、1～3mm マージ粒 7%含む。
2.10YR3/4 暗褐色、締りやや強く、粘性とても強い層。1mm 炭化物 1%未満、1mm～1cm マージ粒 10%含む。1層と比べ色がやや明るめ。

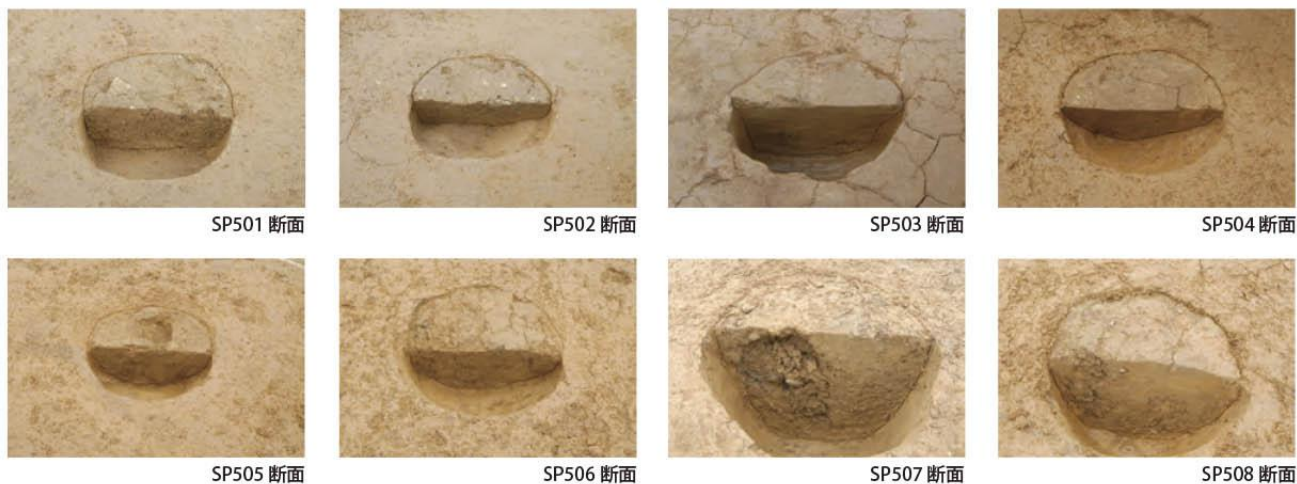
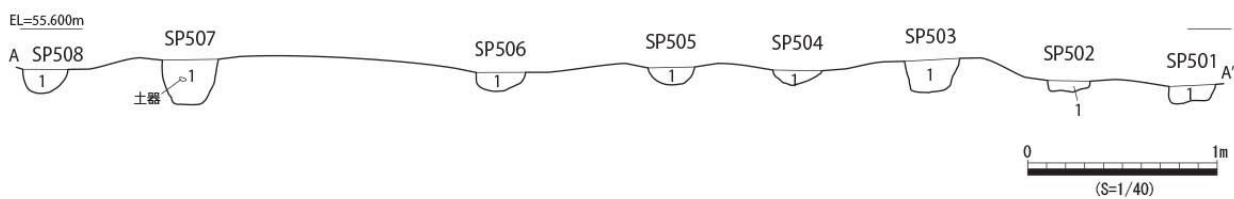




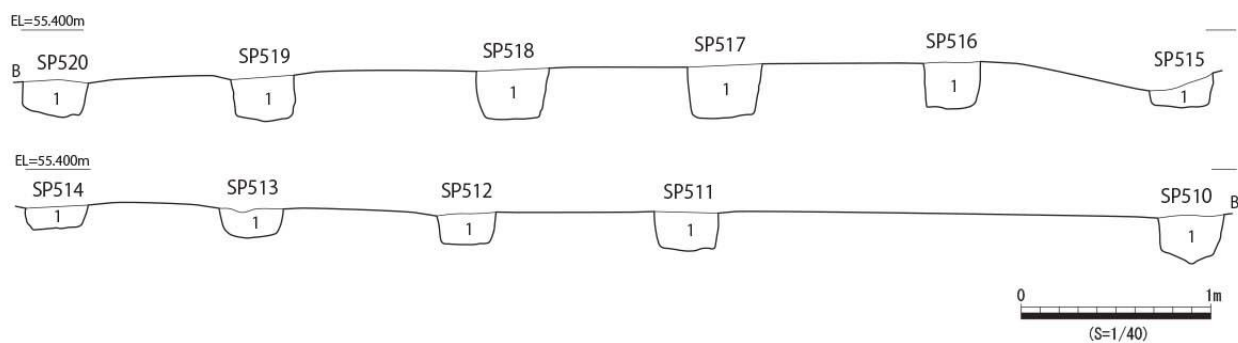
第VI - 8図 列状ピット平面図



図版VI - 3 列状ピット完掘状況



第VI - 9 図 列状ピット①

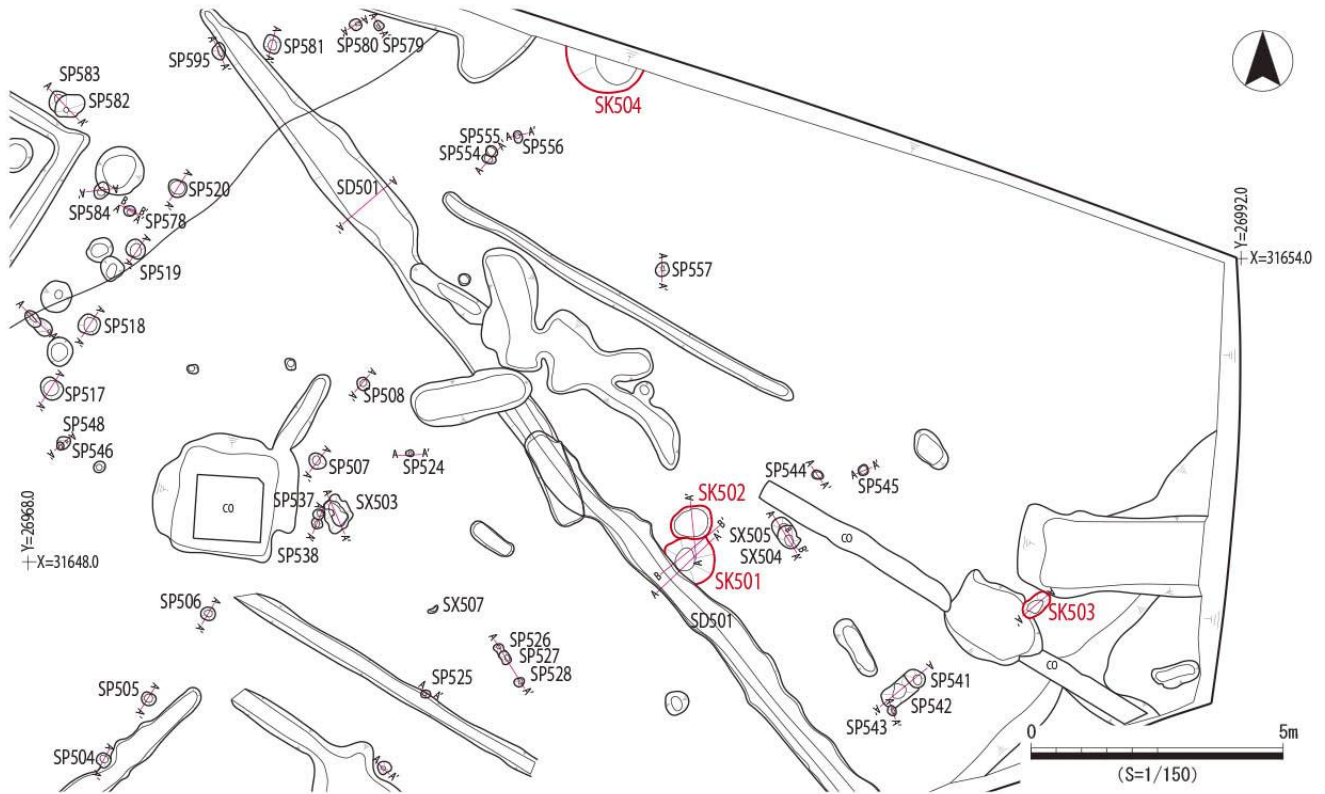


第VI - 10 図 列状ピット②

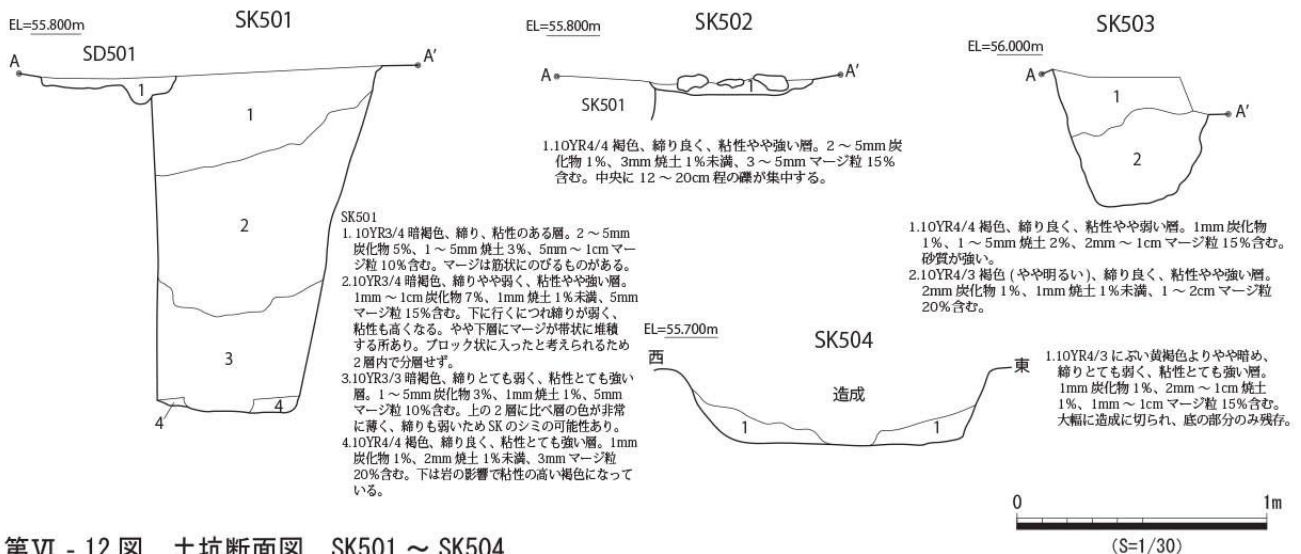
2. 土坑 (SK)

土坑はSK501～SK504の4基が検出された。調査区の東側に集中している。SK501はSK502に一部切られており、南側はSD501に切られる。直径が130cmほどあり、深さも100cm以上とかなり深くなっている。覆土を見ると4枚に分層でき、炭化物や焼土が混じる。遺物は土器片や瓦などが出土している。SK502はSK501の北側を切って形成される。規模は80×60cmほどの楕円形で深さは約6cmとかなり浅い。遺物は沖縄産施釉陶器やアカムヌーが出土している。SK503は調査区の東端に位置する。60×30cmほどの楕円形状を呈し、深度は50cm程度である。覆土は2枚に分層できる。

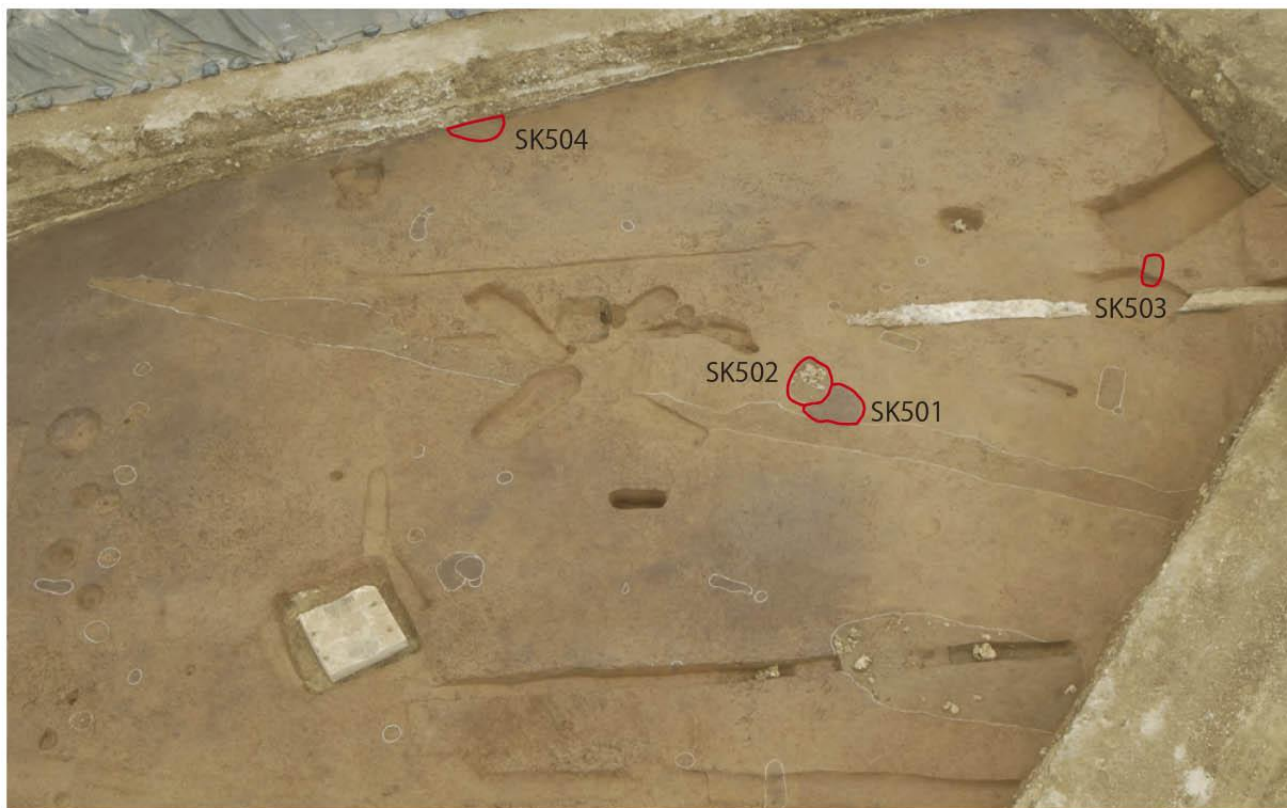
SK504は調査区北壁で検出されている。確認された規模で見ると長軸約115cm、深度は10cm程となっている。これらの遺構は、出土遺物等から近世～近代相当の遺構と思われる。



第VI - 11 図 土坑平面図 SK501～SK504



第VI - 12 図 土坑断面図 SK501～SK504



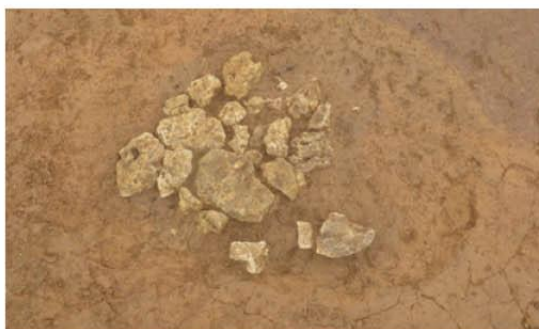
第VI - 13 図 土坑 (SK501 ~ SK504) 平面図



SK501 断面状況



SK503 断面状況



SK502 検出状況



SK502 断面状況



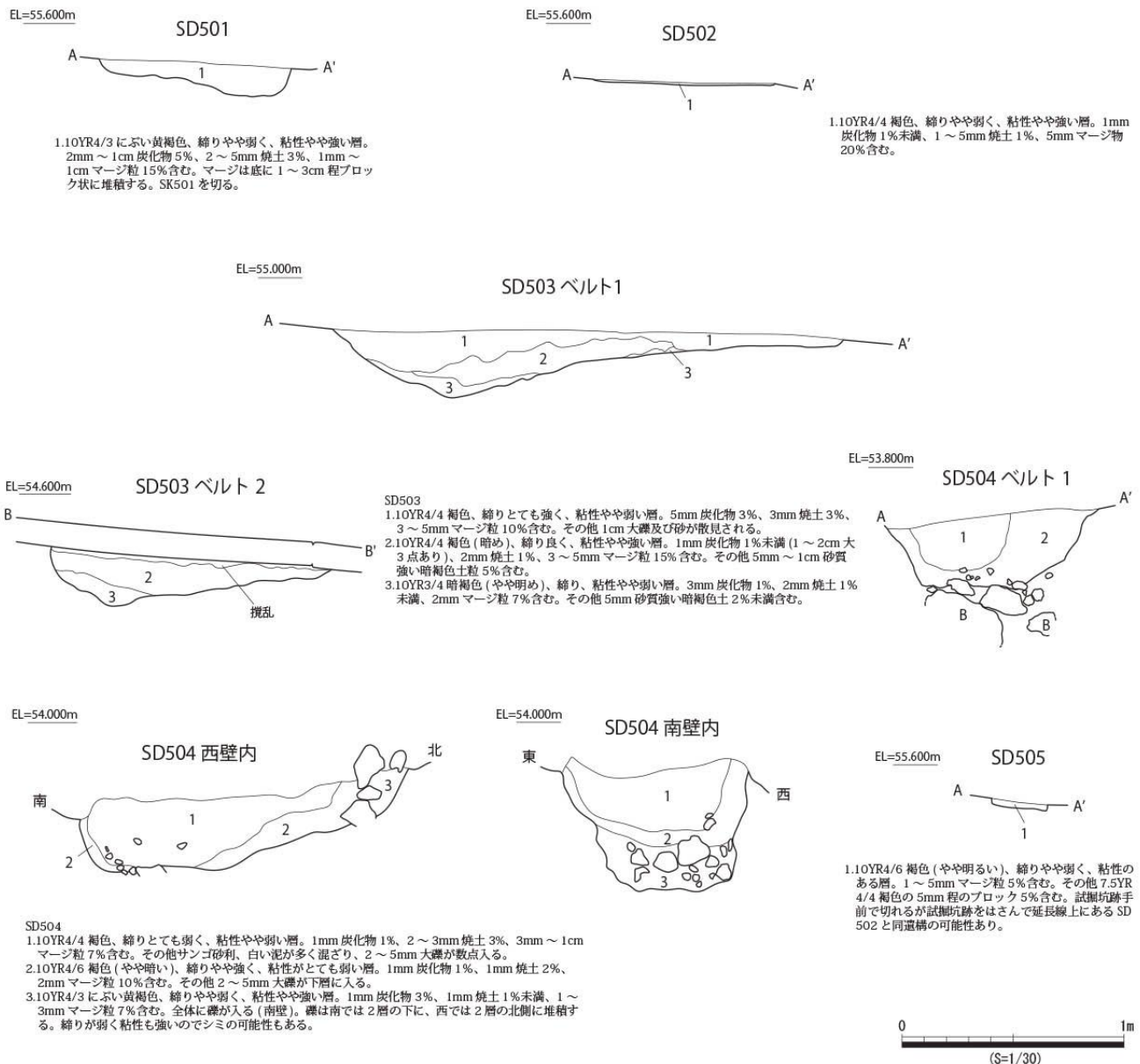
SK504 断面状況

図版VI - 4 土坑 (SK)

3. 溝状遺構 (SD)

溝状遺構はSD501～SD505の5条が検出された。SD501は調査区東側に位置し、南東―北西方向に延びる。SD502は調査区南側に位置し、北東―南西方向に延びる。北側には過年度に調査した試掘坑があり、その北東側にSD505が同方向に延びている。恐らくSD502とSD505は、元々はひとつの遺構(溝)だった可能性が考えられる。SD503は調査区の中央に位置し、北東―南西方向に延びる遺構で、幅は150cm～270cmと幅がある。深さは30cm程度。SD504は調査区南西端に位置する。南側は攪乱で消失しているが北側は調査区西壁へ続く。

これらの溝状遺構は、幅や深さに違いはあるものの、形成された方向が北東―南西方向か北西―南東方向に限られており、畑の区画や排水のために形成されたと考えられる。覆土や出土遺物からすべて近世～近代に形成、使用されたとと思われる。また、上述した列状ピットと同じ方向で形成されていることや類似した覆土等から列状ピットとの関連も想定される。



第VI - 14 図 溝状遺構断面図 (SD501～SD505)



SD501 完掘狀況



SD501 断面狀況



SD502 断面狀況



SD503 断面狀況



SD503 完掘狀況



SD504 検出狀況



SD503 完掘狀況

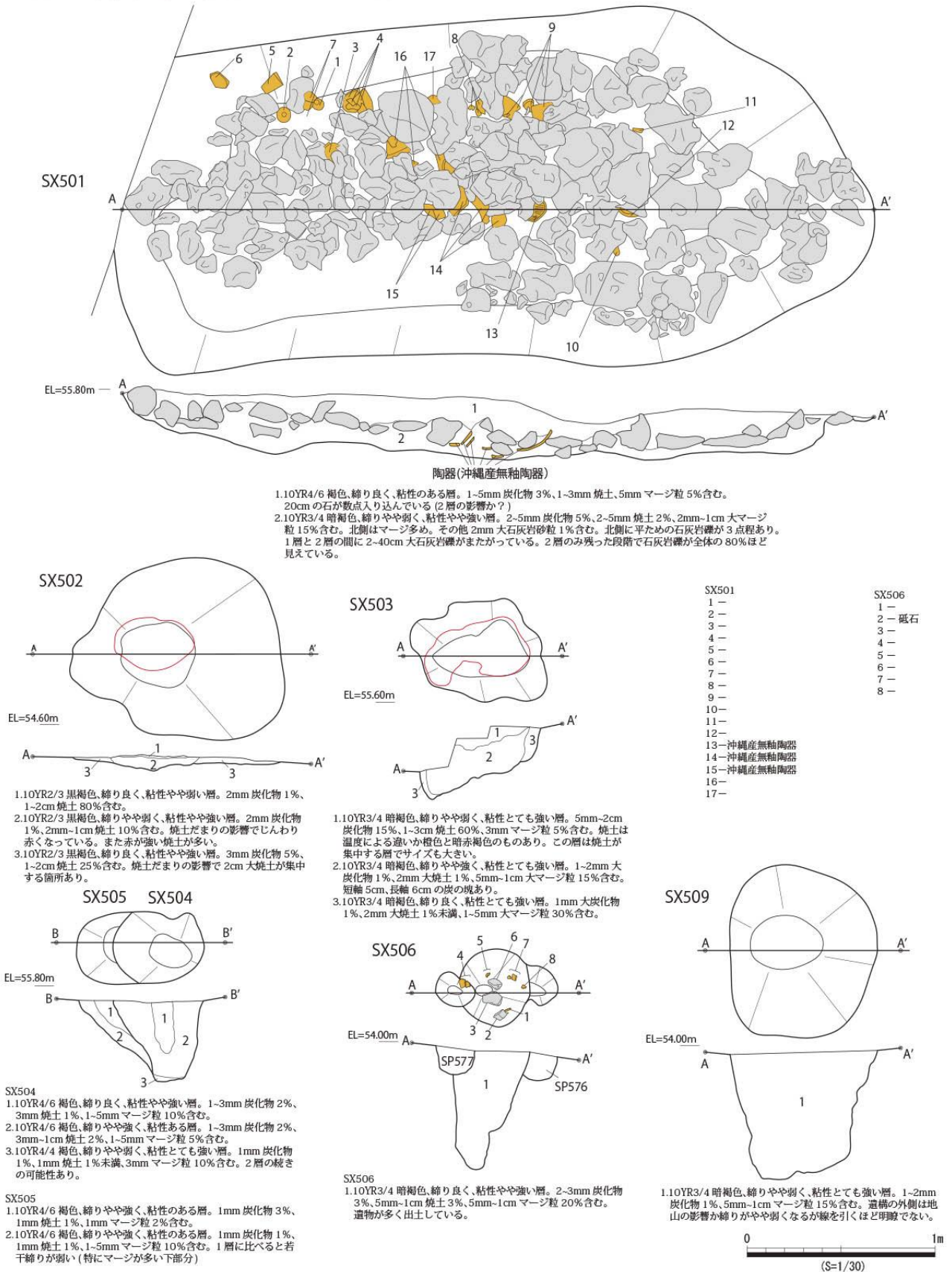


SD504 断面狀況

図版VI - 5 溝状遺構 (SD)

4. 不明遺構 (SX)

不明遺構は7基検出されている。不明遺構とした中に鋤跡と思われるものや焼土が集中して溜まったものなどもある。SX501は長軸約400cm、短軸約180cmの楕円形を呈する深さ30cmほどの落ち込みで内部から石灰岩礫が集積された状態で確認された。



第VI - 15 図 不明遺構平断面図



SX501 検出状況



SX503 断面状況



SX501 断面状況



SX504・SX505 断面状況



SX502 検出状況



SX506 検出状況



SX502 断面状況



SX509 断面状況



SX506 断面状況

図版VI - 6 不明遺構 (SX)

第4節 遺物

新城大道原第二遺跡出土の遺物は総数 1059 点が出土しており、先史土器・沖縄産陶器・輸入陶磁器・石器・銭貨・その他金属製品などが得られた。

1. 先史土器

先史土器は総数 5 点出土している。第VI- 3表、第VI-16 図、図版IV- 7 にて報告する。

2. 中国産陶磁器

中国産陶磁器は総数 21 点出土しており、白磁・青磁・染付・褐釉陶器が得られている。それぞれ状態の良いものを第VI- 3表、第VI-16 図、図版IV- 7 にて報告する。

- (1) 青磁・・・1点得られた資料の内、1点報告する。
- (2) 染付・・・18点得られた資料の内、3点報告する。

3. 本土産磁器

本土産磁器は総数 13 点が出土している。資料の内 1 点を第VI- 3表、第VI-16 図、図版IV- 7 にて報告する。

4. 沖縄産陶器

- (1) 沖縄産無釉陶器・・・総数 114 点出土しており、壺・火炉・すり鉢などが得られている。比較的状态の良いもの 5 点を第VI- 3表、第VI-16 図、図版IV- 7 にて報告する。
- (2) アカムヌー・・・総数 423 点が出土しており、7 点を第VI- 3・4表、第VI-17 図、図版IV- 8 にて報告する。
- (3) 沖縄産施釉陶器・・・総数 260 点出土しており、碗などが得られている。20 点を第VI- 4・5表、第VI-18 図、図版IV- 9 にて報告する。

5. 石器

石器は総数 14 点が出土している。資料の内 3 点を第VI- 5表、第VI-20 図、図版IV-11 にて報告する。

6. 銭貨

銭貨は総数 2 点が出土している。第VI- 5表、第VI-20 図、図版IV-11 にて報告する。

第VI-3表 出土遺物観察一覧1

挿図番号 図版番号	種類	器種・分類	部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地	
第VI-16図 図版VI-7	1	先史土器	胴	— — —	胎土は黄褐色 混和材に白色砂粒、雲母、石英。 色調は内外面 明褐色。 内外面に指圧痕が残る。	H28 西フテ 4区 <86> (SX506)	
	2		胴	— — —	胎土は黒褐色 混和材に白色砂粒、雲母、石英。 色調は外面 淡橙褐色 内面 橙褐色。 内面に指圧痕が残る。	H28 西フテ 4区 <101> (SX506)	
	3		口	— — —	胎土は橙褐色 混和材に白色砂粒、黒色砂粒、雲母。 色調は内外面 明褐色。 内面に指圧痕が残る。無文の直口口縁。	H28 西フテ 4区 <146> (暗褐色土)	
	4		鍋	把手	— — —	胎土は黒褐色 混和材に白色砂粒、赤色砂粒、滑石。 色調は外面 黒褐色 内面 淡黄褐色。 鍋型の滑石混入土器底部片。	H28 西フテ 4区 <65> (暗褐色土)
	5		鍋	口	— — —	胎土は黒褐色 混和材に白色砂粒、赤色砂粒、滑石。 色調は外面 黒褐色 内面 黒褐色。 羽釜鍋型の把手部分。把手は捻りによって成形される。	H28 西フテ 4区 <121> (SP571)
	6	中国産 青磁	碗	口	— — —	青磁碗の小破片。口縁直口。素地は白色で緻密 貫入あり。	H28 西フテ 4区 <17> (遺構検出作業中)
	7	中国産 染付	皿 I	口	— — —	口縁外反し、内面には釉薬で蔓草文を描く。 素地は白色で緻密。素地に釉薬で文様を描いた後青白色の釉 を全面に施す。	H28 西フテ 4区 <19> (遺構検出作業中)
	8		碗	底	— — 6.5	高台から腰を張り立ち上がる。目付に砂が付着する。 素地は黄白色で緻密。内外面に白化粧したあと全面に透明釉 を施す。畳み付けは釉剥ぎされる。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <3> (耕作土)
	9		碗 II	口	14.4 — —	口縁直口。胴部には釉薬で文様を描く。 素地は白色で緻密。素地に釉薬で文様を描いた後青白色の釉 を全面に施す。	H28 西フテ 4区 <3> (耕作土)
	10	本土産 磁器	急須	口～底	7.4 9.2 7.3	釉は青釉 緑釉 白釉。素地は白。底部から袋状に立ち上がる。 肩部には青釉で草花文を施し、胴部には緑釉と白釉を施す。 底部と口縁内面は露胎する。	H28 西フテ 4区 <3> (耕作土)
	11	沖縄産 無釉陶器	甕	口～底	18.5 46.5 18.0	器色は外面 灰褐色 内面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂 粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。轆轤引きで内面に轆轤痕 明瞭。内外面にナデ調整痕が見られる。肩部に二条沈線が廻る。 口縁外反して歯ブラシ状に肥厚する。	H28 西フテ 4区 <138>他 (SX501)
	12		壺	底	— — 8.4	器色は外面 灰褐色 内面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂 粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。轆轤引きで内面に轆轤痕 明瞭。外面には工具によるナデ調整痕明瞭。	H28 西フテ 4区 <138>他 (SX501)
	13		壺	胴～底	— — 7.5	器色は外面 灰褐色 内面 黒褐色。素地は橙色。焼成は白色 砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。轆轤引きで内面に轆轤痕 明瞭。外面は自然釉によって光沢をもつ。	H28 西フテ 4区 <33> (カクラン)
	14		播鉢 III	口～底	29.9 14.8 11.6	器色は内外面 橙褐色。素地は暗赤褐色。焼成よい。口縁外湾 し、口唇逆L字状に折れる。口唇端部には一条沈線が廻る。細 かい播り目が等間隔に施される。	H28 西フテ 4区 <138> (SX501)
	15		播鉢 III	口～底	27.0 15.2 9.0	器色は内外面 橙褐色。素地は暗赤褐色。焼成よい。口縁外湾 し、口唇逆L字状に折れる。口唇端部には一条沈線が廻る。細 かい播り目が等間隔に施される。	H28 西フテ 4区 <54> (SX501)
第VI-17図 図版VI-8	16	アカムスー	鉢	胴～底	— — 9.8	器色は内外面 橙褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂 粒、赤色砂粒、雲母。素地は高台から丸みを持って立ち上 がる。内面轆轤痕明瞭。外面は工具でナデ調整され、白化粧土 による圏線の痕が残る。器壁が非常に厚い。	H28 西フテ 4区 <74>他 (SX501)
	17		鍋	口～底	18.1 — —	器色は内外面 橙褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂 粒、赤色砂粒、雲母。素地は丸底の底部から丸みを持って立ち 上がり、腰は張って口縁まで僅かに窄まるように立ち上がる。口 縁は外面に折れて蓋受けを作る。蓋受け外面には取っ手を張り 付ける。内面轆轤痕明瞭で外面ナデ調整痕される。底部外面 にはスガが付着する。	H28 西フテ 4区 <74>他 (SX501)
	18		急須	口～底	7.7 12.0 17.8	器色は内外面 橙褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂 粒、赤色砂粒、雲母。素地は内面轆轤痕明瞭。底部は大きく広 がって端部を急に内湾させてくびれるように立ち上がり肩から頭 を作らず、口縁に至る。蓋受けのために口唇は丸みを持つ。注 ぎ口は欠損。	H28 西フテ 4区 <74>他 (SX501)

第VI-4表 出土遺物観察一覧2

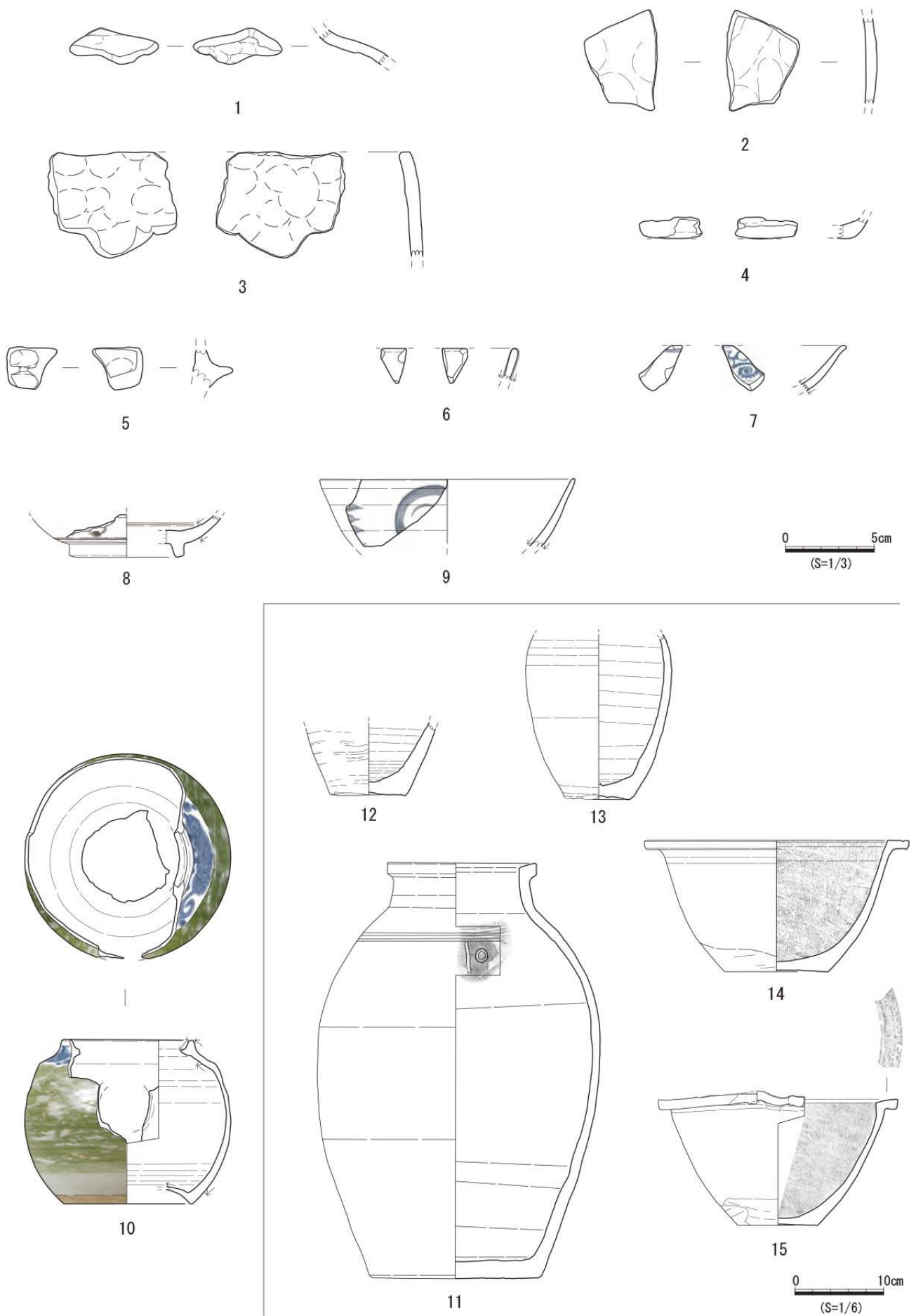
挿図番号 図版番号	種類	器種・分類			部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地
第VI-17図 図版VI-8	アカムヌー	蓋	—	—	—	— 1.4 6.3	器色は内外面 橙褐色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。素地は摘み部は欠損。焼成はよいが軟質。掛り部径約9.2cm。	H28 西フテ 4区 <112> (SX501)
		蓋	—	—	—	— 3.7 5.4	器色は内面 オリーブ褐色 外面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。摘み部は貼り付け。袴は削りだし。掛り部径約7.7cm。	H28 西フテ 4区 <110> (SX501)
		鉢	—	—	底	— — 9.75	器色は内面 淡橙色 外面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。外面 橙色高台から丸みを持って立ち上がる。内面轆轤痕明瞭。外面は工具でナデ調整される。高台は低い。	H28 西フテ 4区 <54> (SX501)
		鉢	—	—	口～底	15.2 7.4 7.0	器色は内面 淡橙色 外面 橙色。素地は橙色。焼成は白色砂粒、黒色砂粒、赤色砂粒、雲母。平底底部から丸みを持って立ち上がる。内面に轆轤痕明瞭。底部の成形が丁寧。外面はナデ調整される。	H28 西フテ 4区 <132><138> (SX501)
第VI-18図 図版VI-9	沖縄産 施釉陶器	碗	I	(ハ)A a(1)	口～底	13.3 6.4 6.6	口縁直口。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。見込みに砂が付着する。高台削り明瞭。素地は灰色 焼成はよくない。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰釉を施す。灰釉の発色は良くない。	H28 西フテ 4区 <33> (カクラン)
		碗	I	(イ)Aa(1)	口～底	13.4 6.5 6.7	口縁直口。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。高台削り明瞭。素地は灰色 焼成はよくない。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰釉を施す。	H28 西フテ 4区 <33><34> (カクラン)
		碗	II	(ハ)Bb(3)	口～底	12.3 6.0 6.2	口縁外反。高台から僅かに腰を張って立ち上がる。見込みに砂が付着する。素地は灰色 焼成はよくない。内外面で釉を掛分ける。内面のみに白化粧の上から透明釉を施し、見込みは蛇の釉剥ぎする。外面は素地に直接黒釉を施す。高台は無釉。内面は貫入あり。	H28 西フテ 4区 <33> (カクラン)
		碗	II	(ロ)②a(3)	口～底	12.4 6.0 6.6	口縁外反。高台から僅かに腰を張って立ち上がる。素地は灰色 焼成はよくない。内外面で釉を掛分ける。内面のみに白化粧の上から透明釉を施し、見込みは蛇の釉剥ぎする。外面は素地に直接黒釉を施す。高台は無釉。内面に細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <54> (SX501)
		碗	I	(イ)Aa(1)	口～底	13.4 6.05 6.6	口縁直口。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。高台削り明瞭。見込みに砂と撥ねた釉が散る。素地は灰色 焼成はよくない。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <33> (カクラン)
		碗	I	(イ)a(1)	胴～底	— — 6.55	高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。高台削り明瞭。素地は黄白色 焼成はよくない。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰釉を施す。	H28 西フテ 4区 <33> (カクラン)
		碗	I	(イ)Aa(1)	口～底	13.35 6.7 6.45	口縁直口。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。内面ナデ調整痕明瞭。高台削り明瞭。見込みに砂と撥ねた釉が散る。素地は灰色 焼成はよい。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <132><119> (SX501)
		碗	II	(ロ)② Bb(3)	口～底	12.6 6.0 5.8	口縁外反。高台から僅かに腰を張り立ち上がる。畳付けと見込みに砂が付着する。素地は灰色 焼成はよい。内外面で釉を掛分ける。内面のみに白化粧の上から透明釉を施し、見込みは蛇の目釉剥ぎする。外面は素地に高台内面まで直接黒釉を施す。内面に細かい貫入あり。畳付けは釉剥ぎされる。	H28 西フテ 4区 <111> (SX501)
		碗	II	(ハ)② Bb(3)	底	— — 6.15	高台から僅かに腰を張り立ち上がる。畳付けに砂が付着する。高台内面に調整痕明瞭。素地は灰色 焼成はよい。内外面で釉を掛分ける。内面のみに白化粧の上から透明釉を施し、見込みは蛇の目釉剥ぎする。外面は素地に直接黒釉を施す。高台内面は無釉。内面に細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <33> (カクラン)
		第VI-19図 図版VI-10	沖縄産 施釉陶器	碗	III	(イ)b(3)	胴～底	— 5.4 6.7
小碗	III			(イ)B①	口～底	8.9 4.5 4.4	高台から腰を張り立ち上がる。目付に砂が付着する。素地は黄白色 焼成はよい。内外面に白化粧したあと全面に透明釉を施す。見込みは蛇の目釉剥ぎされる。畳み付けは釉剥ぎされる。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <57> (SX501)

第VI-5表 出土遺物観察一覧3

挿図番号 図版番号	種類	器種・分類			部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地
		器種	分類	番号				
第VI-19図 図版VI-10	沖縄産 施釉陶器	碗	I	(イ)Aa(1)	口～底	12.4 6.3 6.15	口縁直口。素地は黄灰色 焼成はよい。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <33> (カクラン)
		碗	I	(イ)Ba(1)	口～底	13.8 6.4 6.7	口縁外反。高台から腰を張らず、逆ハの字状に立ち上がる。高台削り明瞭。見込みに砂と撥ねた釉が散る。畳み付けに砂が付着する。素地は黄灰色 焼成はよい。内面胴部から外面胴部までの素地に直接灰釉を施す。	H28 西フテ 4区 <59> (SD504)
		小碗	III	(イ)B①	口～底	8.7 3.8 4.0	口縁外反。高台から僅かに腰を張り立ち上がる。畳付けと見込みに砂が付着する。素地は黄灰色 焼成はよい。内外面に白化粧したあとと全面に透明釉を施す。見込みは蛇の目釉剥ぎされる。畳付けは釉剥ぎされる。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <3> (耕作土)
		皿	I	(イ)A	口～底	15.8 3.9 8.0	口縁直口。高台に工具による調整痕明瞭。素地は黄白色 焼成はよい。内面胴部から外面立ち上がりまで釉を施す。見込みは釉剥ぎされ、中央に錆釉で同心円を描く。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <17> (遺構検出作業)
		盤	II	(ロ)②	口～底	21.1 9.5 7.1	口縁外反、口唇平坦で舌状を呈する。下段に稜を作る。底部からわずかに腰を張って立ち上がる。高台削り明瞭。素地は黄白色 焼成はよい。内外面で釉を掛分ける。内面白化粧の上に釉葉で点花文を描いた後透明釉を施す。外面胴部までに黒釉を施す。見込みは蛇の目釉剥ぎされる。内面に細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <17> (遺構検出作業)
		急須	III	(イ)	口～肩	— — —	口縁直下に線彫りによる圏線が二条巡りその下部から胴部にかけて沈線と釉葉で幾何学文様を施す。内面轆轤痕明瞭。素地は黄白色 焼成はよい。内外面に白化粧したあとと線彫りと釉葉で施文し、全面に透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <17> (遺構検出作業)
		抱瓶			注ぎ口	— 1.65 —	小型の注ぎ口。内面に工具による調整痕明瞭。注ぎ口は胴部に張り付けるタイプ。素地は黄灰色 焼成はよい。外面と注ぎ口内面に黒釉を施す。	H28 西フテ 4区 <17> (遺構検出作業)
		壺			口	10.3 —	口縁外反。内面は轆轤痕明瞭。残存部は無文。素地は灰白色で緻密。口唇部以外に黒釉を施し、口唇部には白化粧する。細かい貫入有り。	H28 西フテ 4区 <17> (遺構検出作業)
		火炉			底	— — —	黒釉陶器の足付き底部。内面に付着したススから火炉と想定される。素地は灰白色で緻密。立ち上がり足の外面から黒釉を施す。内外底面は無釉。細かい貫入あり。	H28 西フテ 4区 <17> (遺構検出作業)

挿図番号 図版番号	種類	器種	法量(cm/g)				観察事項	出土地
			縦	横	厚さ	重量		
第VI-20図 図版VI-11	石器	石斧 砂岩	6.5	5.3	2.6	112.2	石斧の刃部。裏面は研磨で整えられる。刃部先端に僅かに使用根が残るが、劣化が激しい。	H28 西フテ 4区 <148> (3号・暗褐色土)
		石斧 砂岩	9.8	9.6	6.3	720	表面中央部に使用痕が残る。石は底面と使用面のみを調整し、残りは原型利用。	H28 西フテ 4区 <186>
		石斧? 砂岩?	4.7	5.6	3.65	161.3	石斧の基部。裏面は打ち欠いて調整され、表面は丁寧に研磨される。	H28 西フテ 4区 <49> (SP515)

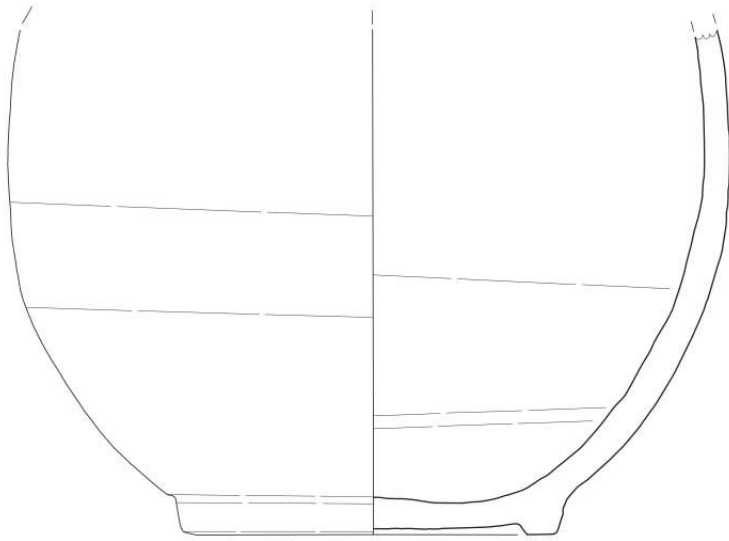
挿図番号 図版番号	種類	分類	法量(cm/g)				観察事項	出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量		
第VI-20図 図版VI-11	銭貨	—	2.3	0.5	0.12	1.3	半分欠けた銭貨。全体が錆びているため銭文判別不能。	H28 西フテ 4区 <34> (遺構検出作業)
		康熙 通宝?	2.8	0.4	0.18	1.7	半分欠けた銭貨。康熙通宝の2文字確認。(康熙通宝か。)背面は錆びの付着が全面にあり、銭文等は不明。	H28 西フテ 4区 <4> (壁面清掃中)



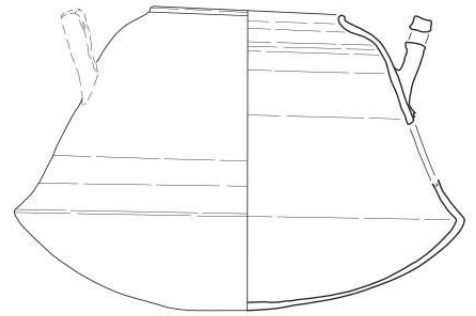
第VI-16 図 出土遺物 1 先史土器 (1~5)、中国産青磁 (6)、中国産染付 (7~9)、本土産磁器 (10)、
 沖縄産無釉陶器 (11~15)



図版VI-7 出土遺物 1 先史土器 (1~5)、中国産青磁 (6)、中国産染付 (7~9)、本土産磁器 (10)、
 沖縄産無釉陶器 (11~15)



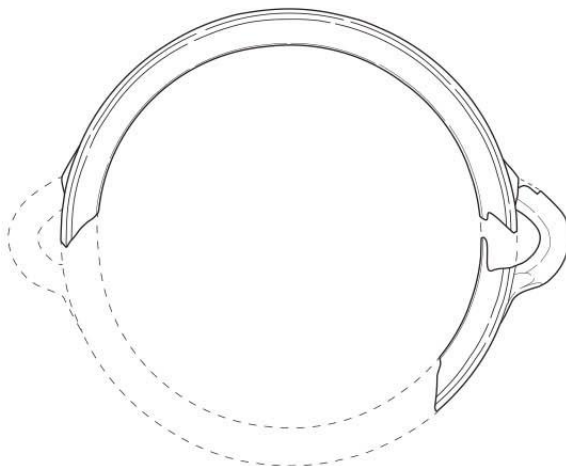
16



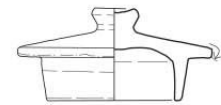
18



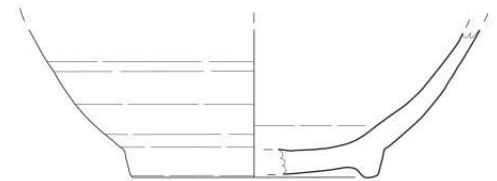
19



17



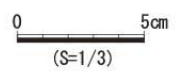
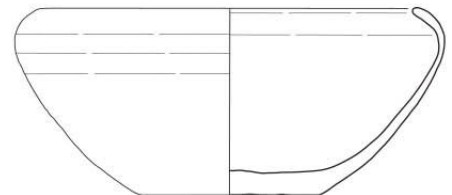
20



21



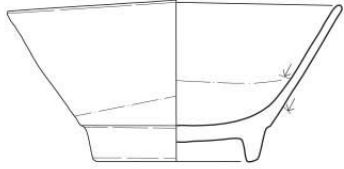
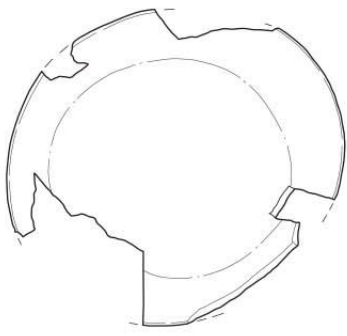
22



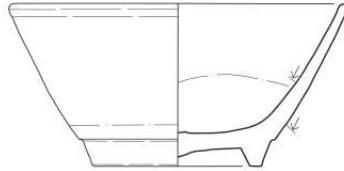
第VI-17図 出土遺物2 アカムヌー



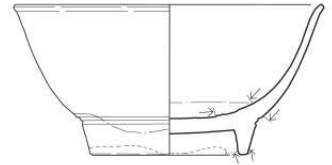
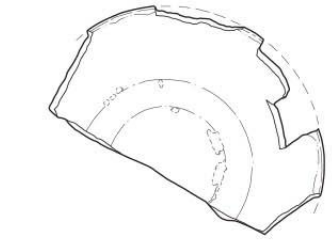
図版VI-8 出土遺物2 アカムヌー



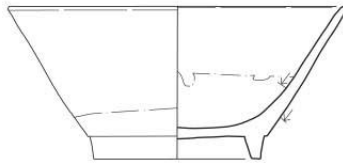
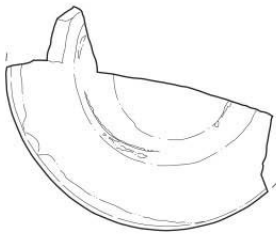
23



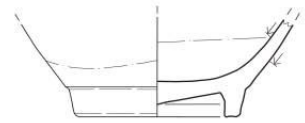
24



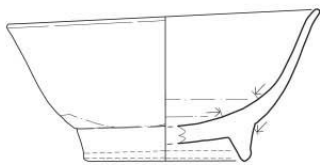
25



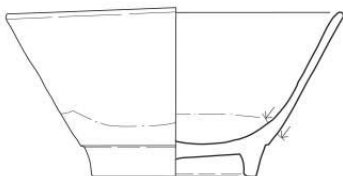
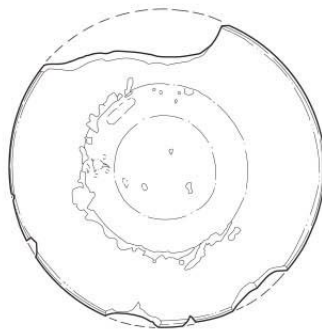
27



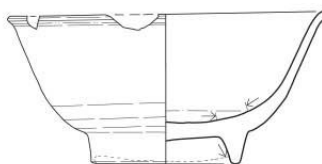
28



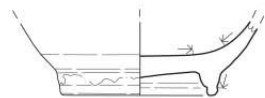
26



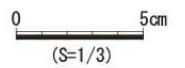
29



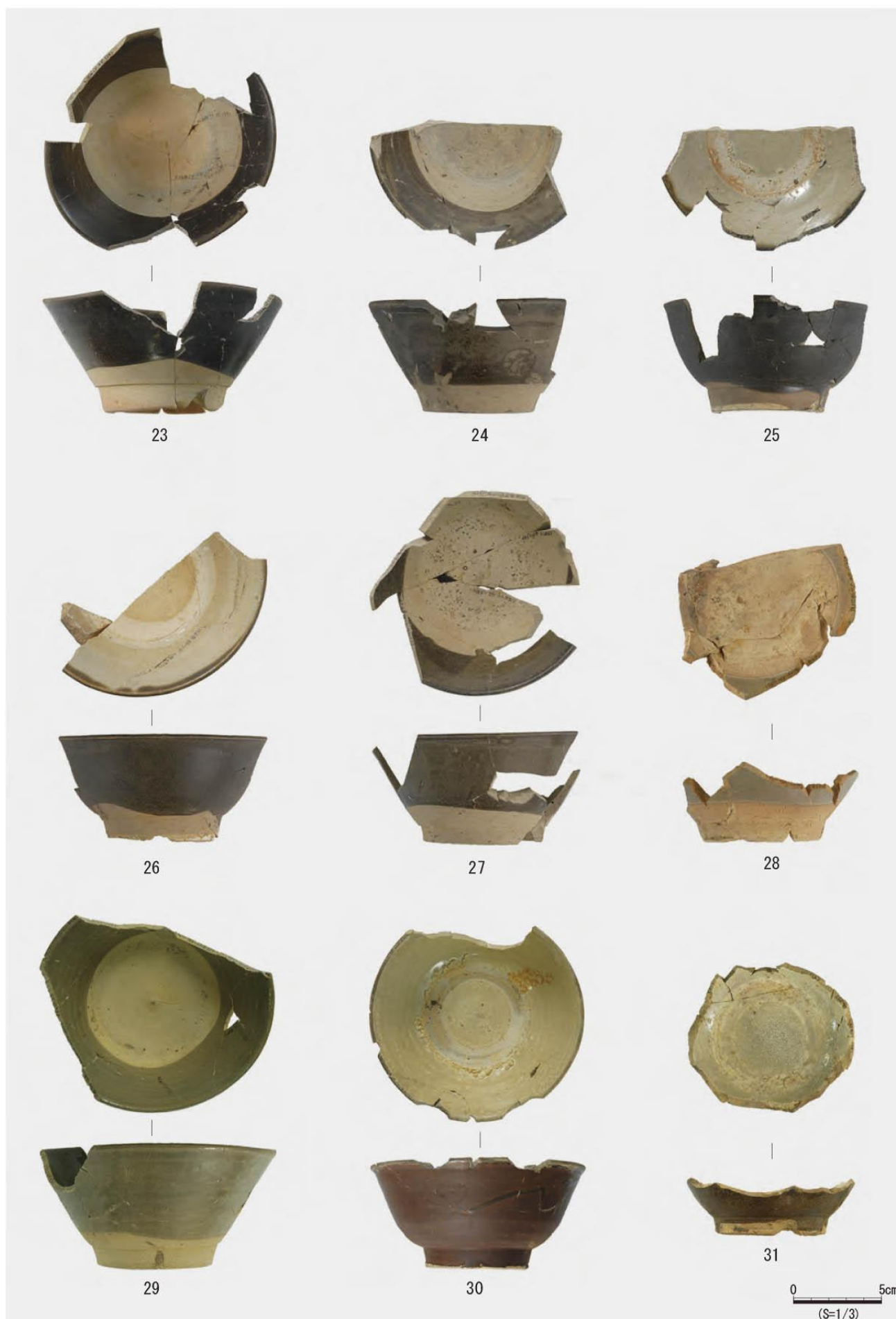
30



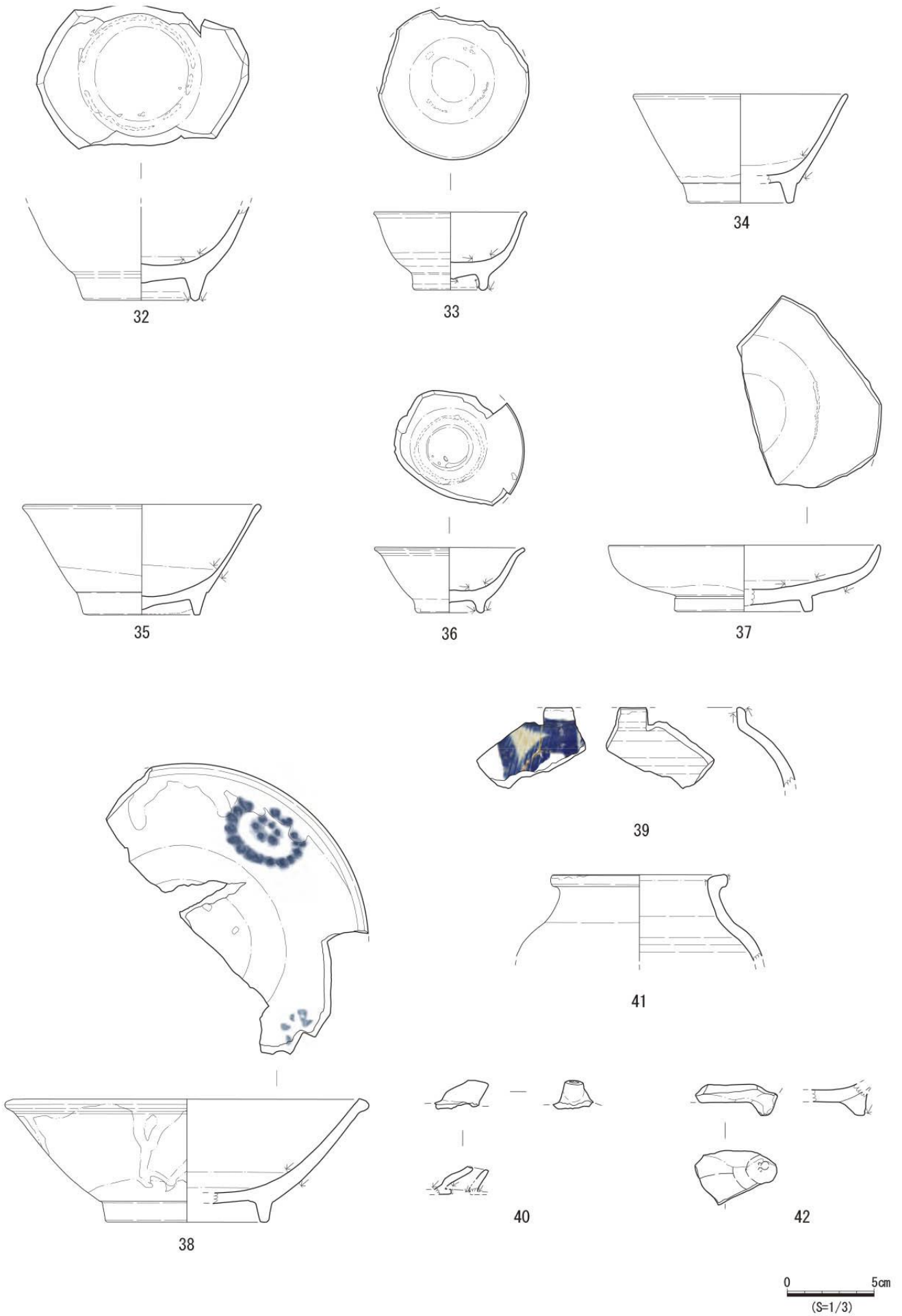
31



第VI-18 図 出土遺物3 沖縄産施釉陶器



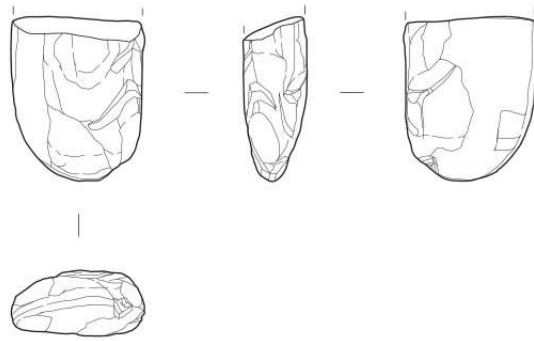
図版VI-9 出土遺物3 沖縄産施釉陶器



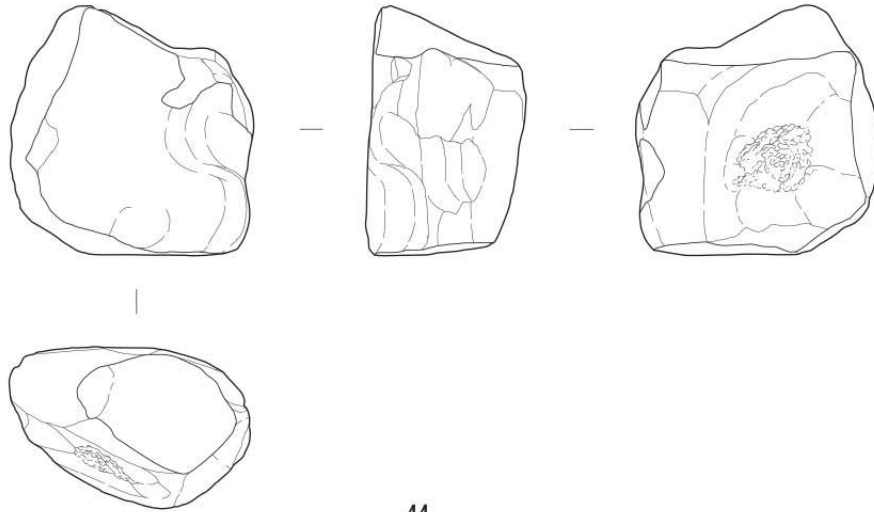
第VI-19 図 出土遺物 4 沖繩産施釉陶器



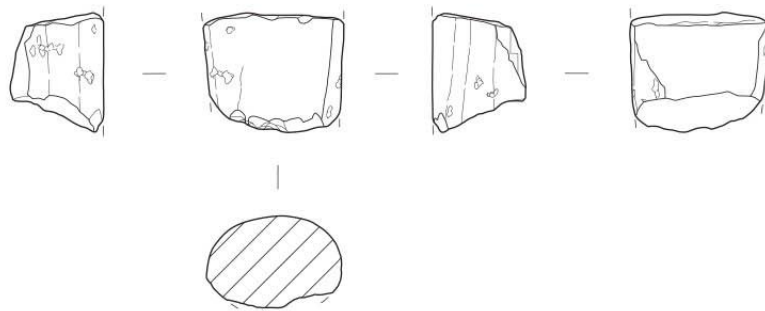
図版VI-10 出土遺物4 沖縄産施釉陶器



43



44



45

0 5cm
(S=1/3)

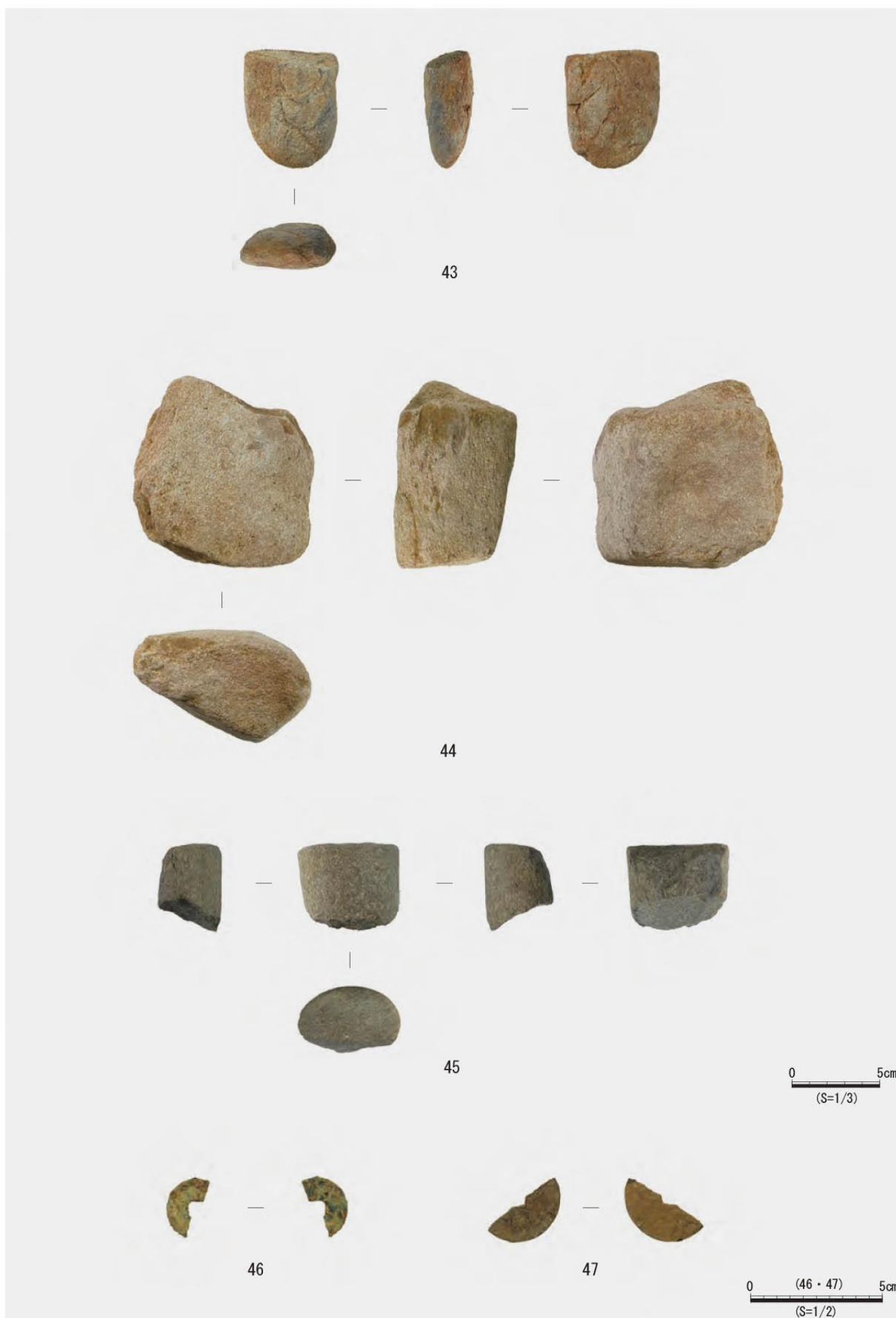


46

47

0 5cm
(46・47)
(S=1/2)

第VI-20 図 出土遺物 5 石器 (43 ~ 45)、錢貨 (46・47)



図版VI-11 出土遺物 5 石器 (43 ~ 45)、錢貨 (46・47)

第5節 総括

新城大道原第二遺跡は、西普天間住宅地区の返還後に実施した試掘調査によって新規発見された遺跡である。試掘調査では、近世・近代相当を主体とする遺構、遺物が確認されており、今回の緊急発掘調査でも同時代のピットや溝などが検出されている。調査区一帯は米軍の基地使用時に軍属家族の居住区域（ハウジングエリア）として整然とした住宅街が配置されていた。そのため、本来の地形は大きく改変されており、地下においても縦横に埋設管が敷設されるなど遺跡の残存状況はかなり悪い状況であった。

今回の調査で検出された遺構はピット（柱穴含む）が91基、土坑が4基、溝状遺構が5条、不明遺構が7基である。前述したように建物のプランを想定できるような並びはなく、直線に並ぶ列状ピットが2列確認された。2列とも南西―北東方向に並列しており、何らかの境界を示す柵のようなものがあったのではないかとと思われる。ちなみに列状ピットの間隔は約5mとなっている。そのほか特徴的な遺構としては不明遺構としたSX501、SX502、SX503がある。SX501は4m×2m、深さ約30cmの土坑で、内部に10cm～30cmほどの石灰岩礫が大量に（120～150個程）充填されている。遺物は沖縄産陶器やアカムヌーの破片が出土しているが、周辺で類似の遺構もなく、用途や目的など不明である。SX502、SX503はいずれも内部に焼土塊を含むもので、周辺で野焼きした際の廃棄土坑かと推測される。なお、SK501、SX502、SX503、SX506、SX509は覆土が粘性の強い暗褐色シルトを呈しており、形成された時期としては近世以前に遡る可能性がある。

遺物は約1059点（破片）が出土している。そのうちアカムヌーが423点と最も多く、約40%を占める。次いで沖縄産陶器が374点で全体の約35%となっている。遺構別に見るとSX501からアカムヌーを主とする遺物が総数169点出土して突出している。先史土器も出土しているが、多くは攪乱土や造成土から地点不明で2cm以下の細片である。

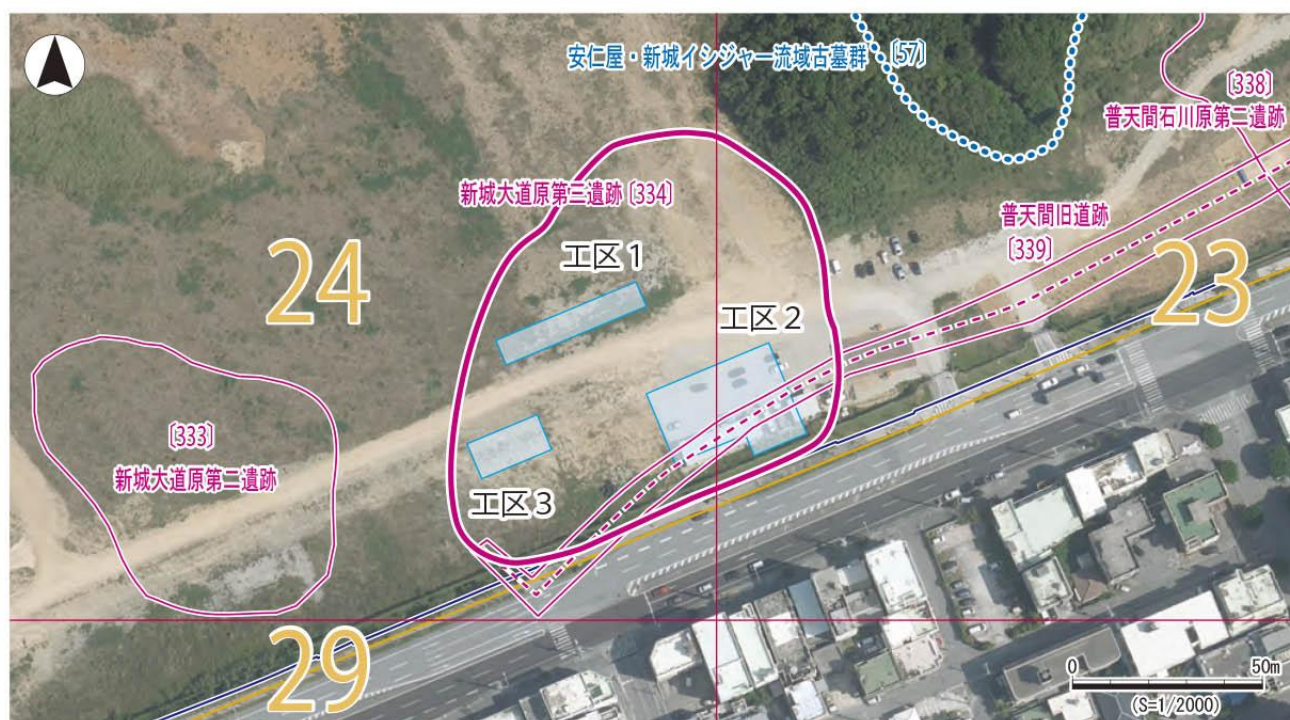
以上、調査成果の整理と若干の補足を行った。調査面積や遺構の数量などから考えると遺物の量はかなり少ないものと思われる。その要因としては当該地区が戦後米軍基地（キャンプ瑞慶覧）として接收され、大規模な造成工事が行われた結果、戦前までの堆積だけでなく地形そのものが改変され、多くの遺構が消失したためと考えられる。本遺跡は新城の集落（普天間飛行場内）からはかなり離れており、新城の旧集落とされる新城上殿遺跡からも外れた場所に位置している。本遺跡南側には普天間旧道跡（大正時代に整備された普天満宮から伊佐へ至る道）が所在しているが当時からかなり高低差があったと思われる（遺跡標高は約56m、普天間旧道跡は標高約63m）。戦前の航空写真（昭和20年撮影）を見ると調査区域一帯は耕作地となっており、今回検出された近世～近代頃の遺構は畑の区画やそれに関連する遺構と推測される。一方、上述した近世以前と思われる遺構については情報が少なく詳細は不明である。とりあえず本稿では個別に情報を記録し、類例の増加をまって改めて検討したい。

第Ⅶ章 新城大道原第三遺跡

第 1 節 調査の経過と調査方法

新城大道原第三遺跡は、同第二遺跡と同様に平成 27 年度に実施した試掘調査により新規に発見された遺跡である。遺跡は同第二遺跡の東側、県道 81 号線の北側に接する。返還前までは米住宅（ハウス）や道路整備がなされ、旧地形は完全に消失している。ちなみに本遺跡の南側は県道 81 号線に接しているが、戦前のケンドー（※）である普天間旧道跡のルート上にもなっている。

調査区の設定は、試掘調査の成果により遺構が確認された場所を中心に工区 1～3 に分割して設定した。工区 1 は約 281 m²、工区 2 は約 789 m²、工区 3 は約 200 m²となっている。表土及び攪乱土については重機を使用して除去し、包含層または遺構が検出された時点で人力掘削に切り替えた。作業員の雇用や安全対策、遺構測量等については民間の発掘調査会社へ委託し、調査進捗管理及び分層注記、写真等の記録は市教育委員会で行った。



第Ⅶ - 1 図 調査位置図

【日誌抄】

1月6日：表土掘削。

1月20日：支障除去措置に係る作業との兼ね合いから工区2から調査を開始することとなった。

1月23日：工区2の壁面清掃作業。

1月26日：工区2の遺構検出状況の撮影。工区1の遺構検出作業により柱穴を確認。

1月27日：工区2の遺構掘削。溝（SD201）覆土より人頭大の礫石検出。工区1の東側に堆積する耕作土を掘り下げ、遺構検出作業を実施。

2月2日：工区3より遺構検出。埋設管の影響で残存状況は不良。

2月3日：工区2、3で遺構検出状況を撮影（高所作業車）。

2月13日：工区2で遺構完掘作業。遺構番号は工区2で300番台、工区3で400番台を使用。

2月15日：工区2について、SX203を残して遺構完掘。

2月17日：工区3の遺構完掘及び記録作業。

2月22日：工区1の遺構面精査。溝(SD101)の検出状況撮影。

3月3日：溝(SD101)は複数の溝が重なっていることが判明。

3月7日：SX104の掘削。下位で石積みを確認。

3月9日：工区1完掘状況の全景写真を撮影（高所作業車）。

3月30日：SX203（工区2）の完掘。工区2、工区3の完掘状況を撮影し、調査完了。



工区1 全景 東から



工区1 作業状況



工区2 全景 西から



工区2 作業状況



工区3 作業状況



工区3 作業状況

図版VII - 1 工区1～3

第2節 層序

新城大道原第三遺跡は3つの工区を設定したが、それぞれの調査区で埋設管による攪乱が著しく、遺構を含め包含層もほとんど消失している状況であった。今回調査した区域は県道に近く、本来の地形も現況に近いものであったと思われる。ちなみに戦前までは畑として利用されており、一部当時の耕作土が残存している箇所も見られた。層序については第III章第3節の基本層序を使用し、個々の遺構については個別に記載した。



工区1



工区2



工区3

図版Ⅶ - 2 各工区完掘状況



工区1北壁



工区2北壁

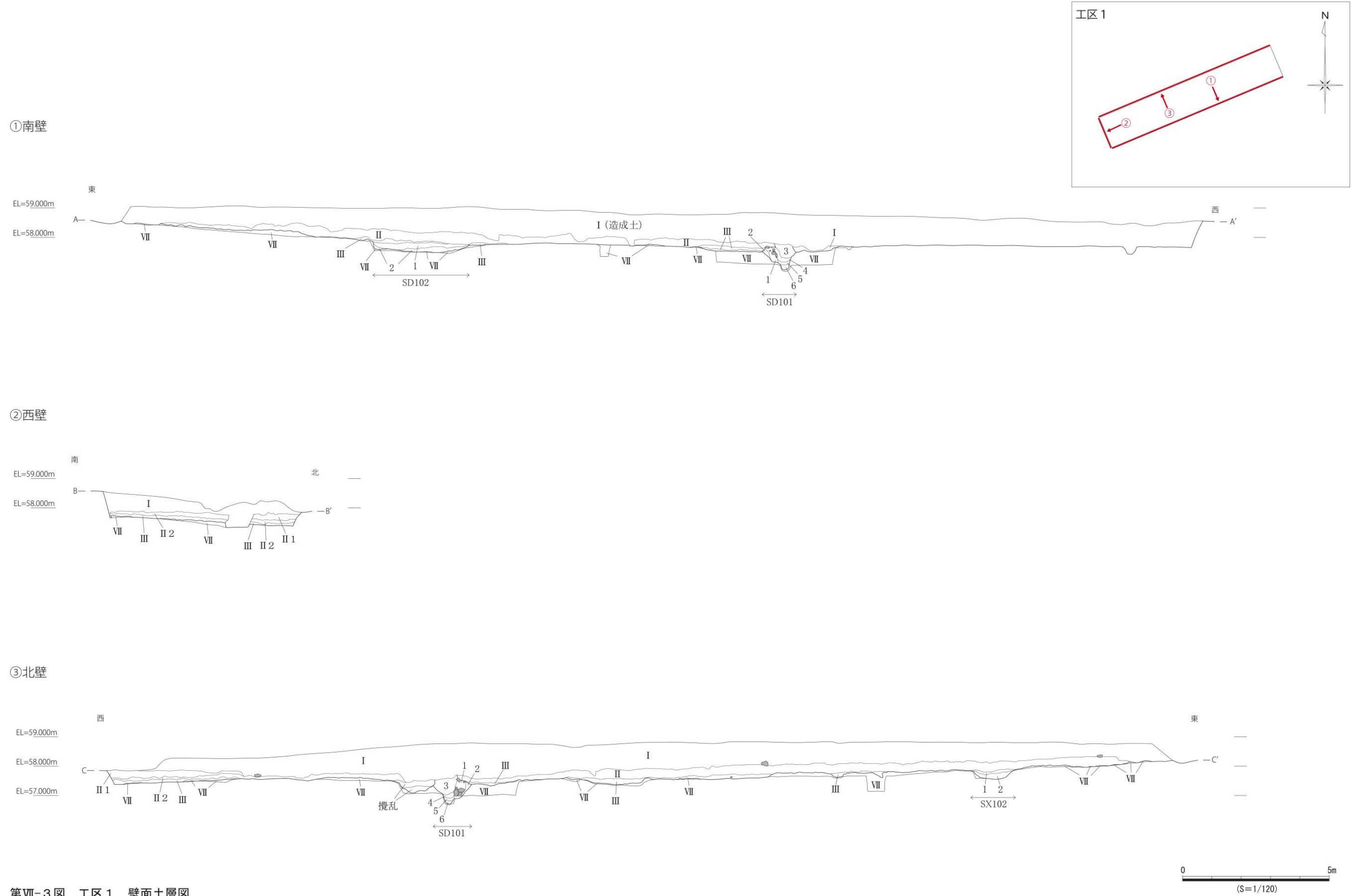


工区3南壁

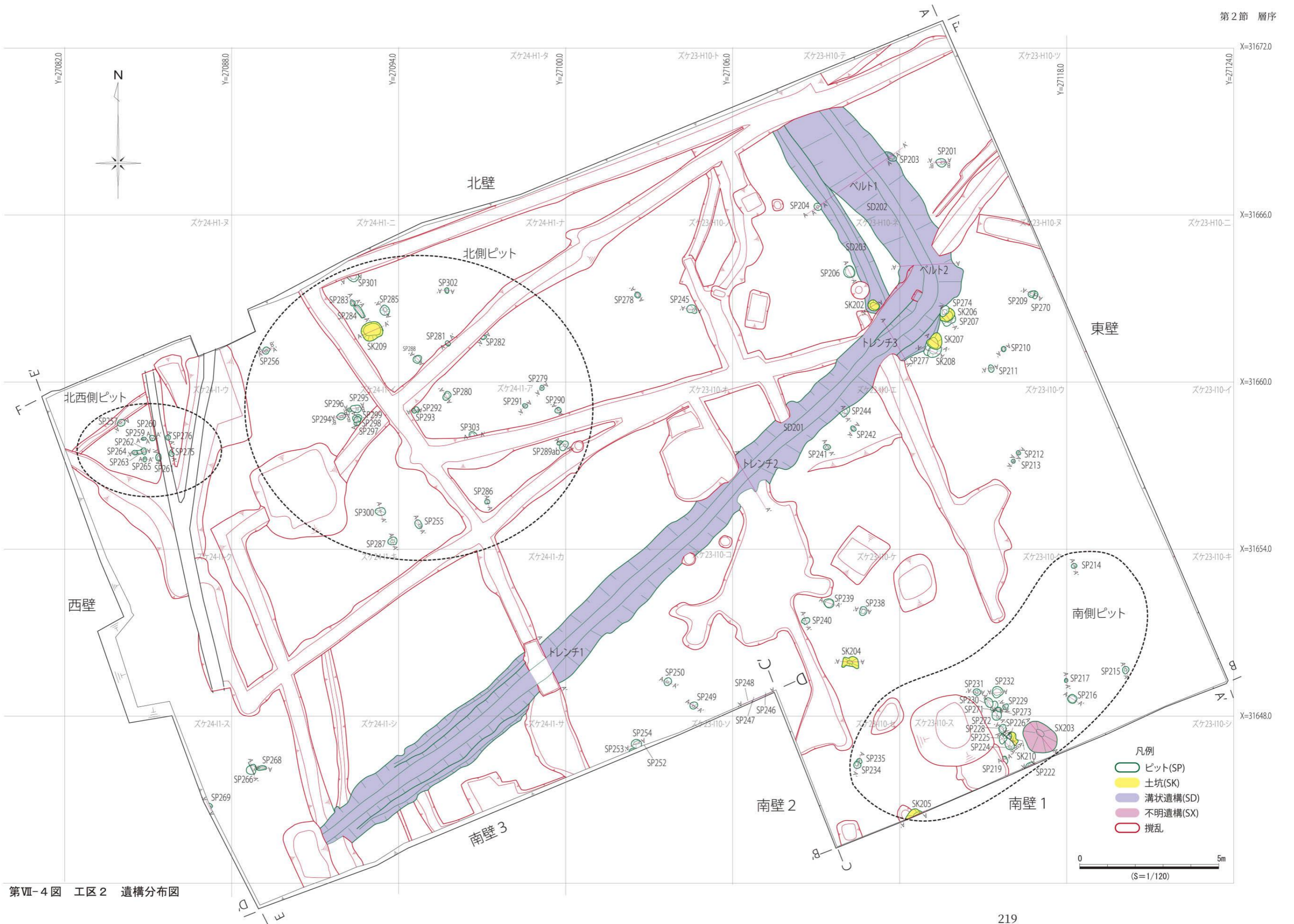
図版Ⅶ - 3 工区別壁面状況



第Ⅶ-2図 工区1 遺構分布図

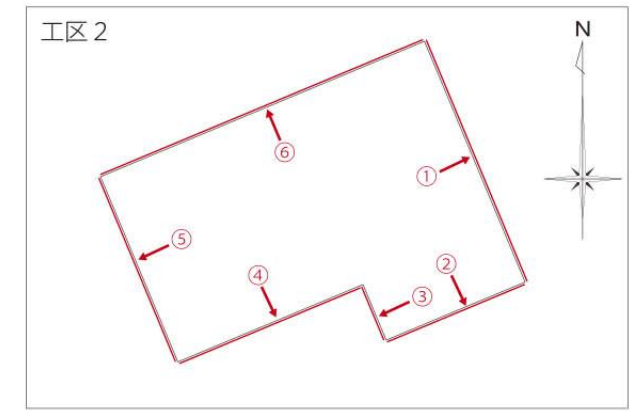
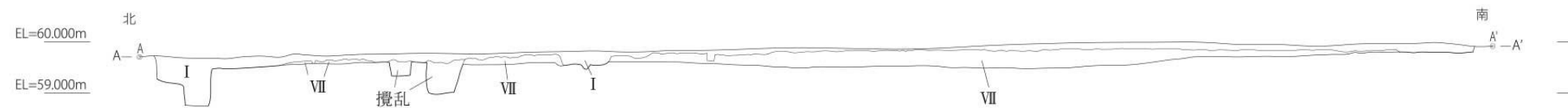


第VII-3図 工区1 壁面土層図

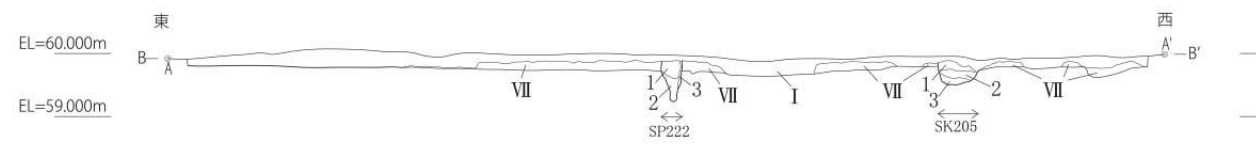


第VII-4図 工区2 遺構分布図

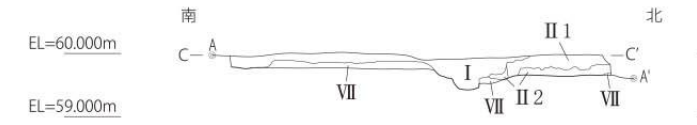
①東壁



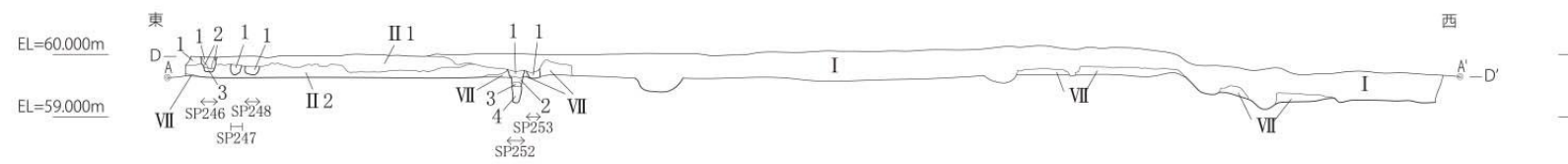
②南壁1



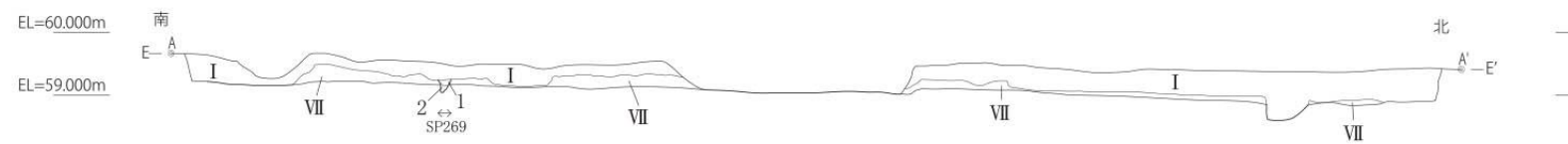
③2区 南壁2



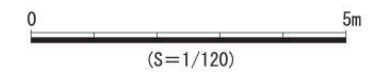
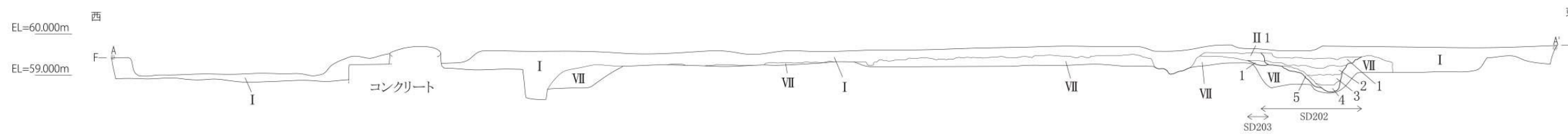
④南壁3



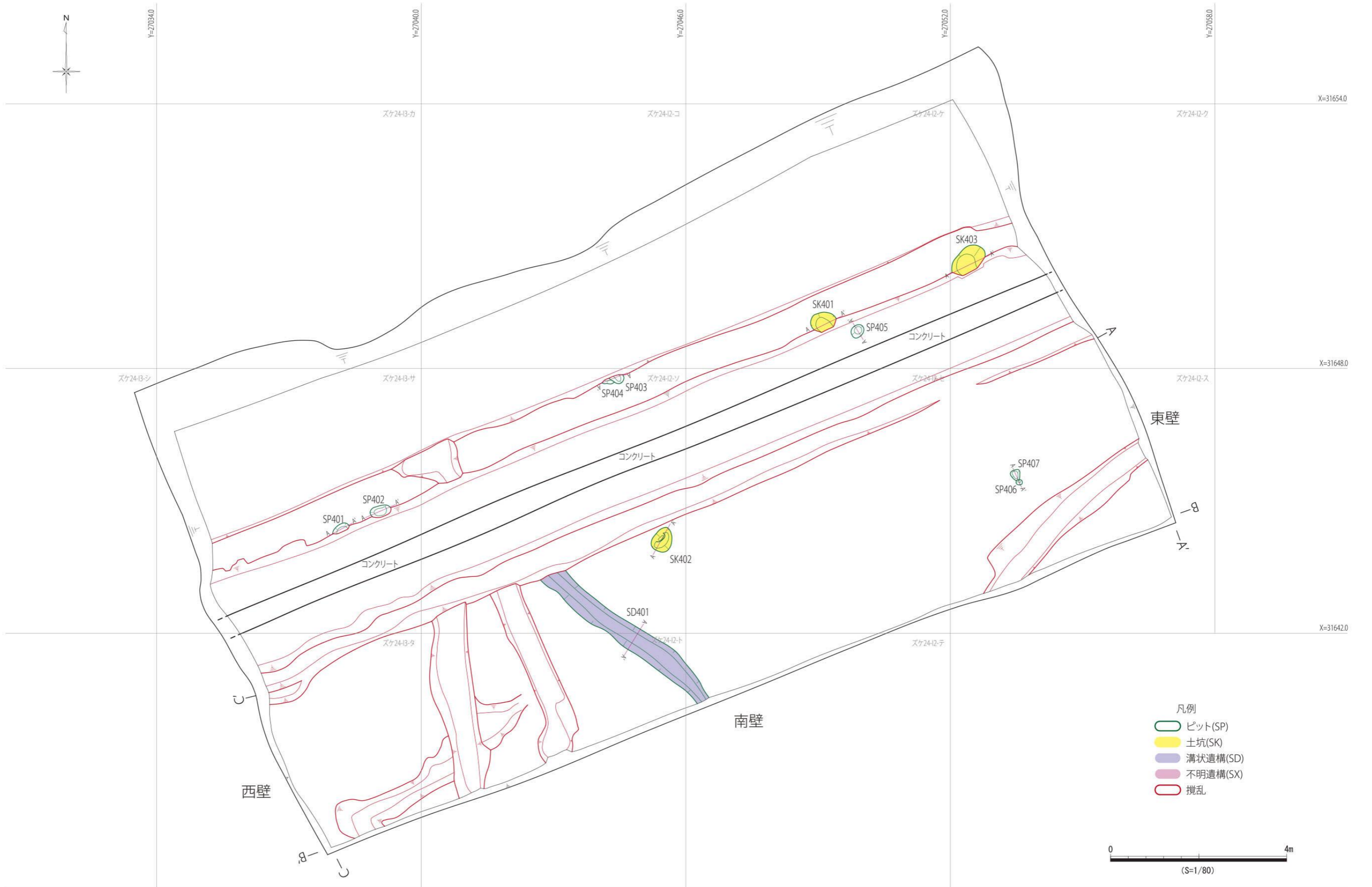
⑤西壁



⑥北壁

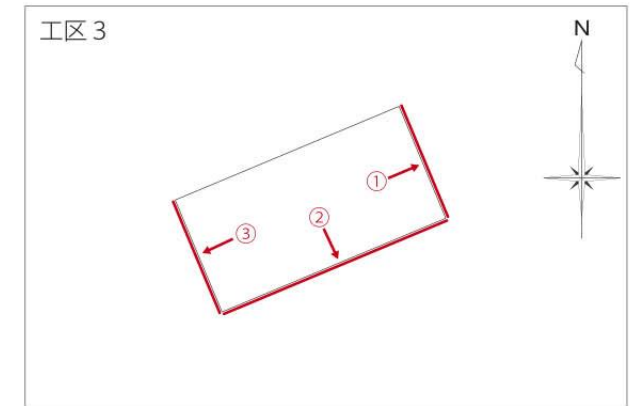
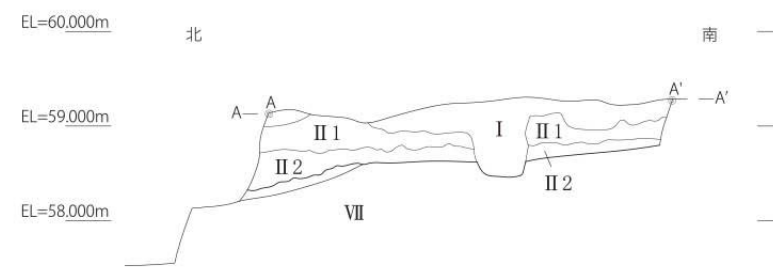


第VII-5図 工区2 壁面土層図

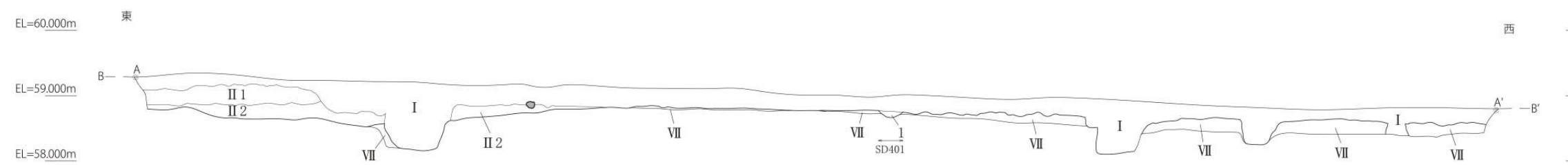


第VII-6図 工区3 遺構分布図

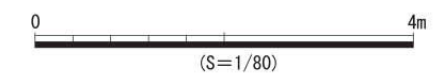
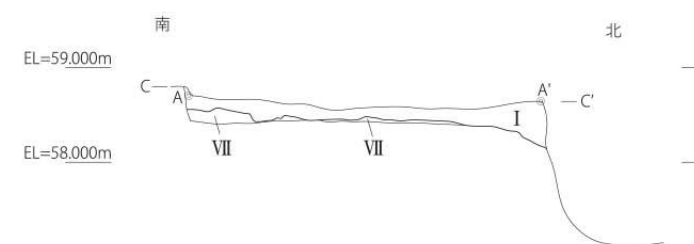
①東壁



②南壁



③西壁



第VII-7图 工区3 壁面土层图

第3節 遺構

検出された遺構はピット（柱穴含む）、土坑（SK）、溝状遺構（SD）、不明遺構（SX）が確認されている。本遺跡の調査区は工区1～工区3の3箇所に分散しているが、形成された時期にほとんど差はないものと思われる。

1. ピット（SP）

今回の調査で検出されたピットは117基検出されている。工区別に見ると工区1が21基、工区2が89基、工区3が7基である。工区1では建物プラン（SB01）と思われるピットのまとまり（配置）が見られる。南側は調査区外になるため不明だが、概ね北西－南東方向に軸を持つと思われる。また、SP115、SP116、SP117、SP118、SP119のピットは直線的に並んでいる。工区2では3箇所でピットのまとまりが確認できた。建物プランが想定できるものはないが、ピット集中遺構として後述する。工区3では米軍の埋設管設置による攪乱により遺構の残存状況はかなり悪い。詳細については第VII-1～3表にて記載している。

第VII-1表 遺構計測分類表 工区1～3（SP）1

遺構No.	工区	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面	分類		備考
					長軸	短軸	深さ	(m)	底面	断面	
SP101	1	ズケ24-H2-シ	ピット	円形	43	38	13	57.52	Ⅲ	D	プラン①
SP102	1	ズケ24-H2-シ	ピット	楕円形	41	30	9	57.58	Ⅲ	B	
SP103	1	ズケ24-H2-シ	ピット	楕円形	22	15	4	57.59	Ⅲ	B	
SP104	1	ズケ24-H1-コ	柱穴?	楕円形	31	26	8	57.89	V	B	
SP105	1	ズケ24-H2-サ	ピット	丸隅方形	35	35	5	57.66	IV	A	SP106を切る
SP106	1	ズケ24-H2-サ	柱穴	円形?	38	-	19	57.52	Ⅲ	A	SP105に切られる
SP107	1	ズケ24-H2-セ	柱穴?	円形?	43	-	33	57.22	Ⅱ	B	SP108を切る、攪乱に切られる
SP108	1	ズケ24-H2-セ	ピット	楕円形	42	-	17	57.39	Ⅱ	D	SP107に切られる
SP109	1	ズケ24-H2-セ	ピット	楕円形	25	15	12	57.41	Ⅲ	B	
SP110	1	ズケ24-H2-カ～サ	柱穴?	楕円形	31	22	11	57.62	IV	B	SP111を切る プラン①
SP111	1	ズケ24-H2-カ～サ	柱穴	円形	36	-	16	57.56	Ⅲ	B	SP110に切られる プラン①
SP112	1	ズケ24-H2-カ	柱穴	楕円形	38	28	13	57.54	Ⅲ	A	SP113を切る プラン①
SP113	1	ズケ24-H2-カ	ピット	円形?	24	-	10	57.56	Ⅲ	D	SP112に切られる
SP114	1	ズケ24-H2-ソ	柱穴	円形	29	23	44	57.00	I	B	
SP115	1	ズケ24-H2-セ	柱穴?	円形	27	27	29	57.36	Ⅱ	B	
SP116	1	ズケ24-H2-セ	ピット	楕円形	22	15	8	57.56	Ⅲ	B	SP117を切る
SP117	1	ズケ24-H2-セ	柱穴?	円形?	22	-	18	57.44	Ⅲ	B	SP116に切られる
SP118	1	ズケ24-H2-セ	ピット	円形	18	16	8	57.55	Ⅲ	As	
SP119	1	ズケ24-H2-セ	ピット	円形	17	14	7	57.54	Ⅲ	Bs	
SP120	1	ズケ24-H2-ス～ツ	柱穴?	楕円形	21	13	17	57.51	Ⅲ	B	
SP121	1	ズケ24-H2-シ	柱穴	楕円形	48	29	36	57.35	Ⅱ	A	プラン①
SP201	2	ズケ23-H10-ツ	柱穴	楕円形	36	30	59	58.97	X	C	
SP203	2	ズケ23-H10-テ	ピット	不定形	48	24	6	59.38	XⅡ	D	
SP204	2	ズケ23-H10-テ	柱穴	円形	28	24	17	59.24	XⅡ	C+	SD203に切られる
SP206	2	ズケ23-H10-ネ	ピット	円形	43	38	4	59.41	XⅢ	B	
SP207	2	ズケ23-H10-ヌ	ピット	不定形?	50	-	14	59.32	XⅡ	D	SK206に切られる
SP209	2	ズケ23-H10-ヌ	柱穴	円形	25	22	16	59.40	XⅡ	A+	SP270を切る
SP210	2	ズケ23-H10-ヌ	柱穴?	円形	18	18	5	59.52	XⅢ	As	
SP211	2	ズケ23-H10-ヌ	柱穴	楕円形	27	19	16	59.41	XⅢ	A+	
SP212	2	ズケ23-H10-ウ	ピット	円形	16	15	4	59.56	XⅢ	Bs	

第VII - 2表 遺構計測分類表 工区1～3 (SP) 2

遺構No.	工区	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類		備考
					長軸	短軸	深さ		底面	断面	
SP213	2	ズケ23-I10-ウ	ピット	円形	15	14	4	59.56	XⅢ	Bs	
SP214	2	ズケ23-I10-キ	柱穴	円形	20	17	20	59.36	XⅡ	B+	
SP215	2	ズケ23-I10-キ	柱穴?	円形	27	23	20	59.53	XⅢ	D	
SP216	2	ズケ23-I10-キ	柱穴	円形	32	30	8	59.61	XⅣ	A+	
SP217	2	ズケ23-I10-ク	植栽痕?	円形	14	12	14	59.57	XⅢ	Ds	植栽痕?
SP219	2	ズケ23-I10-ス	柱穴?	楕円形?	29	-	9	59.61	XⅣ	A	攪乱に切られる
SP222	2	ズケ23-I10-ス	柱穴	円形?	32	-	63	59.25	XⅡ	C	図面13は南壁1内
SP224	2	ズケ23-I10-ス	柱穴	楕円形	38	32	38	59.32	XⅡ	A+	SP225に切られる SP226・227を切る プラン②
SP225	2	ズケ23-I10-ス	柱穴	不定形	32	27	20	59.49	XⅢ	A+	SP224を切る プラン②
SP226	2	ズケ23-I10-ス	ピット	楕円形	20	16	10	59.60	XⅢ	B	
SP228	2	ズケ23-I10-ス	柱穴	楕円形	33	26	65	59.05	XⅠ	B	プラン②
SP229	2	ズケ23-I10-ク	ピット	楕円形	22	18	10	59.54	XⅢ	B	
SP230	2	ズケ23-I10-ク	柱穴	楕円形	36	27	35	59.33	XⅡ	C+	SK203→SP271～273 SP271を切る プラン②
SP231	2	ズケ23-I10-ク	柱穴	円形	27	23	26	59.35	XⅡ	B+	1層が柱痕の可能性高い
SP232	2	ズケ23-I10-ク	柱穴	円形	40	38	54	59.14	XⅠ	B+	
SP234	2	ズケ23-I10-セ	柱穴	円形	26	25	14	59.58	XⅢ	C+	SP235を切る
SP235	2	ズケ23-I10-セ	ピット	円形?	20	-	12	59.60	XⅢ	D	SP234に切られる
SP238	2	ズケ23-I10-ケ	柱穴	楕円形	32	25	13	59.60	XⅢ	A+	
SP239	2	ズケ23-I10-ケ	ピット	円形	37	32	4	59.57	XⅢ	B	
SP240	2	ズケ23-I10-ケ	柱穴	不定形	30	21	16	59.49	XⅢ	B+	
SP241	2	ズケ23-I10-エ	柱穴?	楕円形	26	20	5	59.49	XⅢ	A	
SP242	2	ズケ23-I10-エ	ピット	楕円形	21	16	2	59.53	XⅢ	B	
SP244	2	ズケ23-I10-エ	柱穴?	楕円形?	40	-	10	59.33	XⅡ	B	SD201に切られる
SP245	2	ズケ23-H10-ノ	柱穴	楕円形	38	28	83	58.62	Ⅸ	A+	
SP246	2	ズケ23-I10-ケ	柱穴	不明	-	24	25	59.72	XⅣ	C+	南壁3内
SP247	2	ズケ23-I10-ケ	柱穴?	不明	-	17	16	59.68	XⅣ	B	南壁3内
SP248	2	ズケ23-I10-ケ	柱穴?	不明	-	22	14	59.67	XⅣ	A	南壁3内
SP249	2	ズケ23-I10-コ	柱穴	円形	28	25	11	59.49	XⅢ	B+	
SP250	2	ズケ23-I10-コ	柱穴	円形	30	26	17	59.43	XⅢ	B+	
SP252	2	ズケ23-I10-ソ	柱穴?	不明	-	25※	50※			B	南壁3内
SP253	2	ズケ23-I10-ソ	柱穴?	不明	-	20※	10※			A	南壁3内
SP254	2	ズケ23-I10-ソ	柱穴	円形	37	32	60	59.02	XⅠ	A	
SP255	2	ズケ24-I1-ア	柱穴	楕円形	32	22	23	59.25	XⅡ	B	
SP256	2	ズケ24-H1-二	柱穴	楕円形	30	22	57	58.54	Ⅷ	B+	
SP257	2	ズケ24-I1-ウ	柱穴?	円形	28	24	56	58.34	Ⅶ	B	
SP259	2	ズケ24-I1-ウ	ピット	楕円形	18	11	20	58.71	Ⅸ	Cs	
SP260	2	ズケ24-I1-ウ	柱穴	円形	21	19	50	58.42	Ⅷ	B+	
SP261	2	ズケ24-I1-ウ	ピット	楕円形	26	19	9	58.86	X	B	
SP262	2	ズケ24-I1-ウ	柱穴?	楕円形	25	18	11	58.85	X	A	SP263を切る
SP263	2	ズケ24-I1-ウ	ピット	楕円形?	-	14	3	58.92	X	A	SP262に切られる SP264を切る
SP264	2	ズケ24-I1-ウ	ピット	円形	21	17	4	58.90	X	B	SP263に切られる
SP265	2	ズケ24-I1-ウ	根痕?	楕円形	19	13	32	58.64	Ⅸ	Ds	
SP266	2	ズケ24-I1-シ	柱穴	楕円形	39	33	21	59.03	XⅠ	C+	
SP268	2	ズケ24-I1-シ	柱穴?	不定形	34	16	9	59.20	XⅠ	B	
SP269	2	ズケ24-I1-ス	柱穴?	楕円形	20	-	19	59.05	XⅠ	D	
SP270	2	ズケ23-H10-ヌ	柱穴	楕円形	28	-	28	59.29	XⅡ	A	SP209に切られる
SP271	2	ズケ23-I10-ク	柱穴	楕円形	36	-	29	59.40	XⅡ	B+	SP203・272・273に切られる プラン②
SP272	2	ズケ23-I10-クヘス	柱穴	円形	35	34	24	59.45	XⅢ	C+	SP271を切る SP273に切られる プラン②
SP273	2	ズケ23-I10-ク	ピット	楕円形	20	16	9	59.58	XⅢ	Bs	SP271・SP272を切る
SP274	2	ズケ23-H10-ヌ	ピット	楕円形	42	27	13	59.28	XⅡ	D	SK206を切る
SP275	2	ズケ24-I1-ウ	根痕?	不定形	21	15	38	58.58	Ⅷ	B	根痕?
SP276	2	ズケ24-I1-ウ	ピット	円形	19	18	43	58.40	Ⅶ	Bs	杭痕?
SP277	2	ズケ23-H10-ヌ	ピット	楕円形?	50	-	22	59.26	XⅡ	D	

第Ⅶ - 3表 遺構計測分類表 工区1～3 (SP) 3

遺構No.	工区	グリッド	種類	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル (m)	分類		備考
					長軸	短軸	深さ		底面	断面	
SP278	2	ズケ23-H10-ノ	ピット	円形	22	20	5	59.42	XⅢ	B	
SP279	2	ズケ24-I1-ア	ピット	円形	18	16	9	59.41	XⅢ	Bs	杭痕?
SP280	2	ズケ24-I1-ア	ピット	楕円形	33	24	2	59.35	XⅡ	B	
SP281	2	ズケ24-H1-ナ	ピット	楕円形	20	15	31	59.01	XⅠ	Bs	杭痕?
SP282	2	ズケ24-H1-ナ	ピット	楕円形?	22	-	2	59.36	XⅡ	B	
SP283	2	ズケ24-H1-ニ	ピット	楕円形	21	18	5	59.14	XⅠ	B	
SP284	2	ズケ24-H1-ニ	ピット	楕円形	54	19	2	59.18	XⅠ	B	
SP285	2	ズケ24-H1-ニ	柱穴	円形	37	34	12	59.12	XⅠ	A+	
SP286	2	ズケ24-I1-ア	ピット	円形	18	15	31	59.16	XⅠ	As	杭痕?
SP287	2	ズケ24-I1-イ	柱穴	楕円形	34	26	18	59.29	XⅡ	B+	
SP288	2	ズケ24-H1-ナ	ピット	円形	32	26	6	59.23	XⅡ	B	
SP289a	2	ズケ24-I1-ア	ピット	楕円形	20	11	8	59.41	XⅢ	As	
SP289b	2	ズケ24-I1-ア	柱穴	楕円形	38	23	26	59.21	XⅡ	B+	
SP290	2	ズケ24-I1-ア	柱穴?	円形	22	19	32	59.15	XⅠ	A	
SP291	2	ズケ24-I1-ア	ピット	楕円形	19	15	27	59.21	XⅡ	Bs	杭痕?
SP292	2	ズケ24-I1-ア	ピット	楕円形	22	13	8	59.24	XⅡ	A	SP293を切る
SP293	2	ズケ24-I1-ア	ピット	円形?	17	-	15	59.16	XⅠ	Bs	SP292に切られる
SP294	2	ズケ24-I1-イ	柱穴	楕円形	32	24	37	58.86	X	A+	
SP295	2	ズケ24-I1-イ	柱穴	楕円形	39	26	36	58.86	X	C+	SP296を切る
SP296	2	ズケ24-I1-イ	ピット	円形	16	14	14	59.10	XⅠ	As	SP295に切られる
SP297	2	ズケ24-I1-イ	ピット	楕円形?	25	-	9	59.16	XⅠ	B	SP298に切られる
SP298	2	ズケ24-I1-イ	柱穴	楕円形	26	21	29	58.95	X	B+	SP297・299を切る
SP299	2	ズケ24-I1-イ	柱穴?	楕円形?	34	-	19	59.02	XⅠ	B	SP298に切られる
SP300	2	ズケ24-I1-イ	柱穴	楕円形	34	28	24	59.20	XⅠ	B+	
SP301	2	ズケ24-H1-ニ	柱穴	円形?	40	-	17	59.00	X	A+	
SP302	2	ズケ24-H1-ナ	ピット	楕円形	20	14	2	59.32	XⅡ	As	攪乱に切られる
SP303	2	ズケ24-I1-ア	ピット	円形?	-	26	4	59.36	XⅡ	B	
SP401	3	ズケ24-I3-サ	柱穴	円形?	41	-	50	57.43	Ⅲ	A	SP301→SP401
SP402	3	ズケ24-I3-サ	柱穴?	楕円形	48	25	30	57.58	Ⅲ	B	SP302→SP402
SP403	3	ズケ24-I2-ソ	ピット	楕円形?	-	30	6	57.96	V	A	SP404を切る
SP404	3	ズケ24-I2-ソ	ピット	楕円形?	-	-	8	57.95	V	A	SP403に切られる
SP405	3	ズケ24-I2-ケ	柱穴	円形	31	26	30	57.23	Ⅱ	B	
SP406	3	ズケ24-I2-ス	ピット	円形	14	12	12	58.41	VⅢ	Bs	SP407を切る
SP407	3	ズケ24-I2-ス	柱穴	楕円形	-	20	14	58.38	VⅦ	B	SP406に切られる

底面レベル(20cm区切り)			
	工区1	工区2	工区3
I	57.20以下	57.20以下	57.20以下
Ⅱ	57.21～57.40	57.21～57.40	57.21～57.40
Ⅲ	57.41～57.60	57.41～57.60	57.41～57.60
Ⅳ	57.61～57.80	57.61～57.80	57.61～57.80
V	57.81～58.00	57.81～58.00	57.81～58.00
Ⅵ	58.01～58.20	58.01～58.20	58.01～58.20
VⅦ	58.21～58.40	58.40以下	58.21～58.40
VⅢ	58.41～58.60	58.41～58.60	58.41～58.60
Ⅸ	58.61～58.80	58.61～58.80	58.61～58.80
X	58.81～59.00	58.81～59.00	58.81～59.00
XⅠ	59.01～59.20	59.01～59.20	59.01～59.20
XⅡ	59.21～59.40	59.21～59.40	59.21～59.40
XⅢ	59.41～59.60	59.41～59.60	59.41～59.60
XⅣ	59.61～59.80	59.61～59.80	59.61～59.80

2. 掘立柱建物跡 (SB01)

今回調査で推定された掘立柱建物跡は工区1で確認された1基 (SB01) のみである。建物の長軸は北東—南西方向と思われるが、南側のピットは検出できていない。SP101 から SP112 までの距離が約 3.6m で 2 間程度離れている。ピット長軸は平均して約 39.5 cm (SP103 を除く) あるが、残存深度は全体的に浅い。

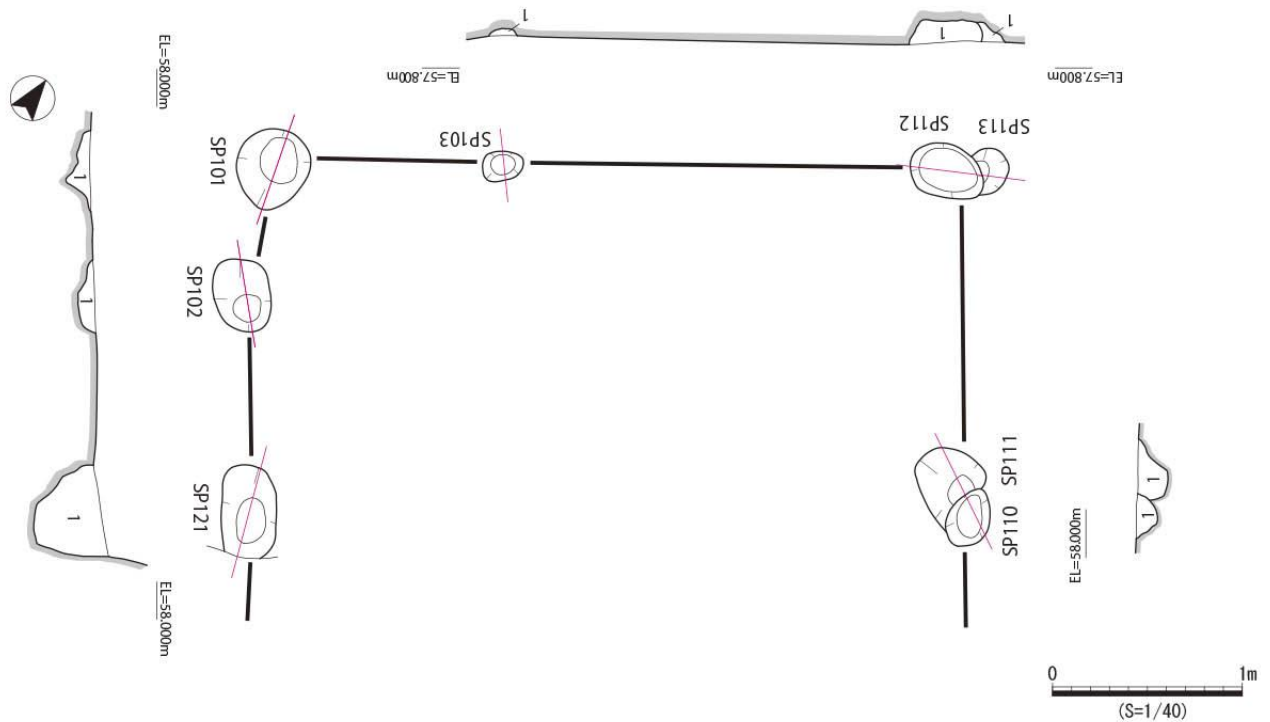
遺構観察表

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕	
SP101	円形	43	38	13	57.52	Ⅲ	D		
SP102	楕円形	41	30	9	57.58	Ⅲ	B		
SP103	楕円形	22	15	4	57.59	Ⅲ	B		
SP110	楕円形	31	22	11	57.62	Ⅳ	B		
SP111	円形	36	—	16	57.56	Ⅲ	B		
SP112	楕円形	38	28	13	57.54	Ⅲ	A		
SP121	楕円形	48	29	36	57.35	Ⅱ	A		

建物跡推定プラン

単位:m

遺構名	側柱		中柱		大きさ	軸方向	備考
	遺構名	長さ	遺構名	長さ			
プラン①	SP112 110/111	1.7	—	—	3.5×—	NE-SW	
	—	—					
	SP121 102 101	1.9					
	SP101 103 112	3.6					



SP101 断面



SP102 断面



SP103 断面



SP110・111 断面



SP112・113 断面



SP121 断面

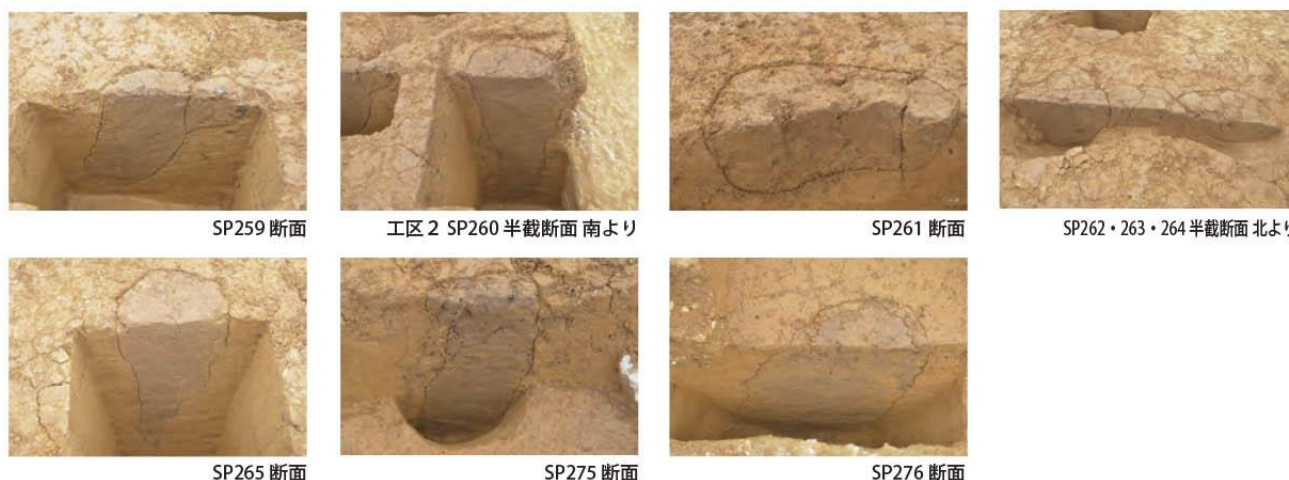
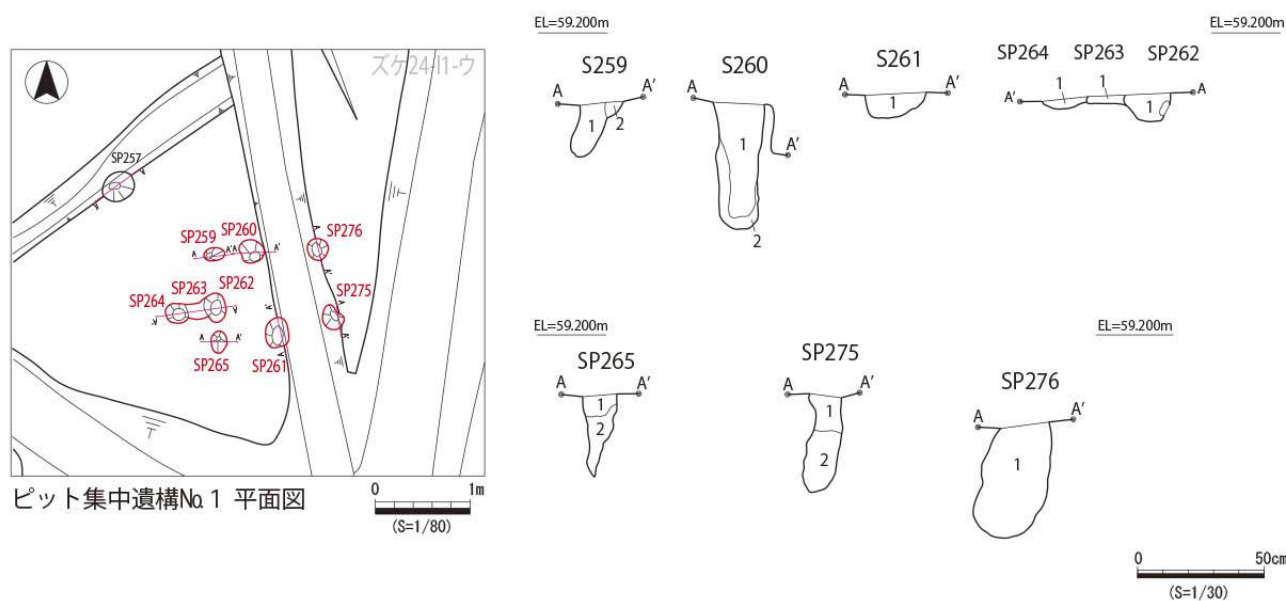
第VII - 8 図 掘立柱建物跡 (SB01)

3. ピット集中遺構

ピット集中遺構は工区2の2箇所で検出された。建物のプランを組むには、ピットの規模や配置などから推定が困難なものをピット集中遺構として分類し、北側をピット集中遺構No.1、南側で検出されたものをピット集中遺構No.2とした。ピット集中遺構No.1は2mの範囲内に9基のピットが集中しているもので、長軸の平均は約21cmとなっている。底面レベルや断面形状を見ても共通性は見られず、性格不明な遺構である。ピット集中遺構No.2は8基のピットが直線状に切り合っており、プランは確認できない。

遺構観察表

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕	
SP259	楕円形	18	11	20	58.71	III	Cs		
SP260	円形	21	19	50	58.42	II	B	+	
SP261	楕円形	26	19	9	58.86	IV	B		
SP262	楕円形	25	18	11	58.85	IV	A		土器片
SP263	楕円形?	—	14	3	58.92	IV	A		
SP264	円形	21	17	4	58.90	IV	B		
SP265	楕円形	19	13	32	58.64	III	Ds		
SP275	不定形	21	15	38	58.58	II	B		
SP276	円形	19	18	43	58.40	I	Bs		



第VII - 9図 ピット集中遺構No.1

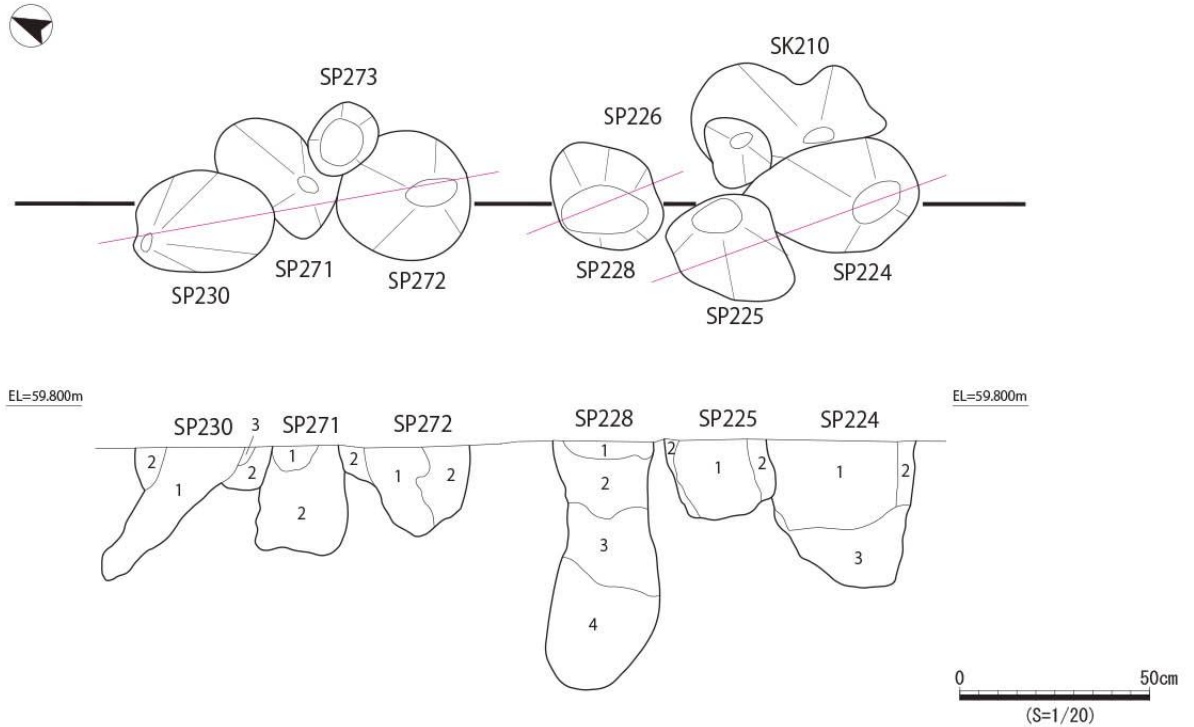
遺構観察表

遺構番号	平面形状	遺構計測 (cm)			底面レベル (m)	分類			備考
		長軸	短軸	深さ		底面	断面	柱痕	
S224	楕円形	38	32	38	59.32	VI	A	+	
S225	不定形	32	27	20	59.49	VII	A	+	遺物あり
S228	楕円形	33	26	65	59.05	V	B		
S230	楕円形	36	27	35	59.33	VI	C	+	
S271	楕円形	36	—	29	59.40	VI	B	+	
S272	円形	35	34	24	59.45	VII	C	+	

建物跡推定プラン

単位:m

遺構名	側柱		中柱		大きさ	軸方向	備考
	遺構名	長さ	遺構名	長さ			
S230/271/272	228	225/224	1.9	—	—×—	NE-SW	
プラン②	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—



SP230・271・272 断面



SP228 断面



SP225・224 断面



SP225 遺物出土状況

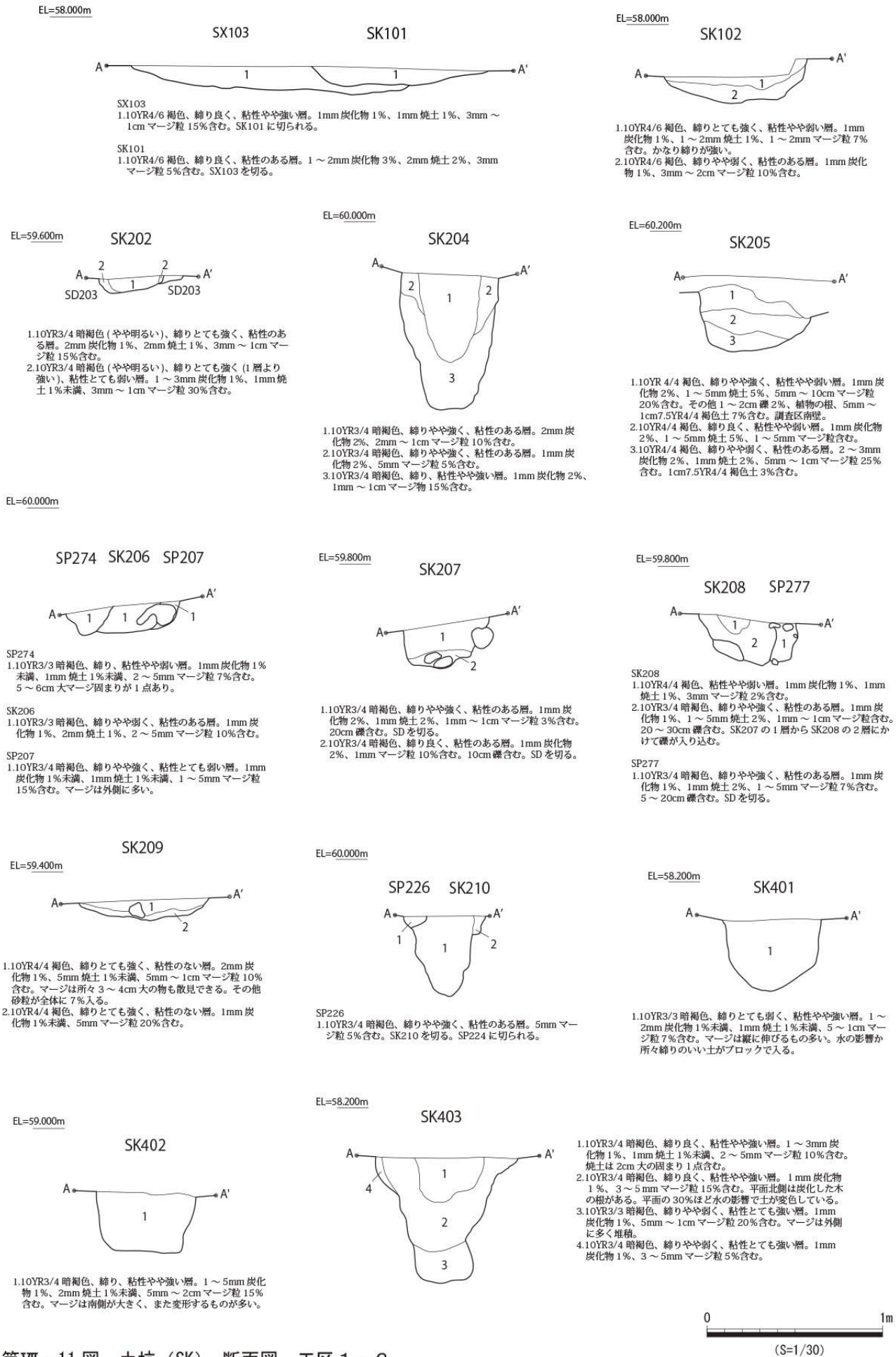
第VII - 10 図 ピット集中遺構No. 2

4. 土坑 (SK)

土坑は13基検出され、工区1からはSK101、SK102の2基が検出された。SK101はSX103を切るように調査区北側で検出。東西に細長い楕円形を呈する。SK102は工区1の東側、過年度の試掘坑内で検出された。両土坑とも直径が1m前後で深さは浅い。覆土から見ると近世～近代形成されたと思われる。遺物はSK02から、アカムヌーが出土している。工区2ではSK202、SK204～SK210の8基の土坑が検出された。工区3ではSK401～SK403の3基の土坑が検出された。周辺には他の遺構も少なく、用途等性格は不明である。各土坑の法量等詳細については第VII-4表に記載した。

第VII - 4表 遺構観察一覧 (SK)

遺構No.	工区	グリッド	平面形状	遺構計測(cm)			分類	備考
				長軸	短軸	深さ	覆土	
SK101	1	ズケ24-H2-キ	楕円形	102	72	11	1	SX103を切る
SK102	1	ズケ24-H2-カ	楕円形	94	74	14	2	
SK201	2	ズケ3-H10-ネ						欠番 遺構でない判断
SK202	2	ズケ23-H10-ネ	楕円形	42	35	8	2	
SK203	2	ズケ3-H10-ク・ス						SP271・272・273に変更
SK204	2	ズケ23-H10-ケ	不定形	56	32	77	3	
SK205	2	ズケ23-H10-ス	楕円形?	64	-	38	3	
SK206	2	ズケ23-H10-ヌ	円形?	56	-	15	1	SP274に切られる。SP207を切る
SK207	2	ズケ23-H10-ヌ	楕円形	60	48	25	2	SP277・SK208・SD201を切る
SK208	2	ズケ23-H10-ヌ	楕円形?	55	40	25	2	SP277を切る。SK207に切られる
SK209	2	ズケ24-H1-ヒ	楕円形	74	63	12	2	
SK210	2	ズケ23-H10-ス	不定形	47	21	45	2	A-A' (東より) SP226に切られる
						28	2	B-B' (西より)
SK401	3	ズケ24-I2-ケ	楕円形?	59	-	40	1	
SK402	3	ズケ24-I2-ソ	楕円形	57	42	34	1	
SK403	3	ズケ24-I2-ク	楕円形?	88	-	71	4	



第VII - 11 図 土坑 (SK) 断面図 工区1～3



工区1 SK103・SK101 半截面 南より



工区1 SK102 半截面 南より



工区2 SK202 半截面 北より



工区2 SK204 半截面 北より



工区2 SK205 半截面 北より



工区2 SP207・SP274・SK206 半截面 西より



工区2 SK208・SP277 半截面 東より



工区2 SK210・SP226 半截面 西より



工区3 SK401 半截面 南より



工区3 SK402 半截面 南東より



工区3 SK403 半截面 南より

図版Ⅶ - 4 土坑 (SK) 工区 1 ~ 3

5. 溝状遺構 (SD)

溝状遺構は全部で6条確認されており、工区1ではSD101、SD102の2条が検出されている。SD101は北西-南東方向に延びる。SD102は方向が45度傾き、北東-南西方向に延びる。北東側ではSX104に切られており、その先には見られない。工区2ではSD201～SD203の3条が確認されている。ただし、SD201とSD202は、方位は違うが繋がっているため同一の溝と考えられる。また、SD203の溝はSD202と並列している。SD201とSD202に切られているのでSD203が先に形成・使用されたものと思われる。SD201は、北東-南西方向に直線で約30m延びており、明確な境界を示していると思われる。さらにSD201から続くSD202は、北側へ直角(45度)に延びている。恐らく、標高が高い南側からの雨水等が流入しないような機能があり、さらに北側の低い方へ誘導する構造が想定される。工区3はSD401の1条のみ検出された。北西-南東方向に延びており、北側は攪乱で消失している。

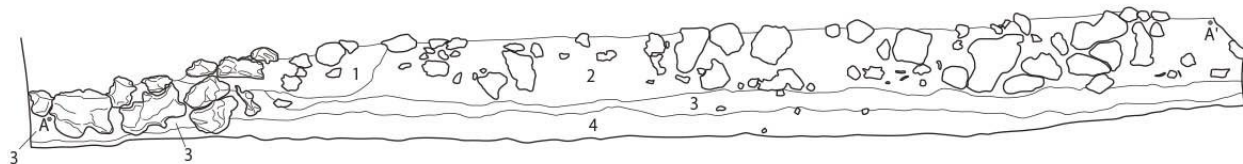
第VII - 5表 遺構観察一覧 (SD)

遺構No.	工区	グリッド	遺構計測(cm)		底面レベル(m)	備考	
			短軸	深さ			
SD101	1	ズケ24-H2-ク～ス～セ					
		南北ライン西側	ズケ24-H2-ス	126	57	56.89	
		トレンチ1北壁	ズケ24-H2-ク、ス～セ	135※	90※		南壁内 断面図なし (北壁内の土層図No.11 S=1/120のみ、遺構数値は概数)
		トレンチ2南壁	ズケ24-H2-ス	115※	90※		南壁内 断面図なし (南壁内の土層図No.11 S=1/120のみ、遺構数値は概数)
SD102	1	ズケ24-H1-コ、H2-カ～サ					
		南壁	ズケ24-H1-コ、H2-カ～サ	330※	35※		南壁内 断面図なし (南壁内の土層図No.11 S=1/120のみ、遺構数値は概数)
SD201	2	ズケ23-H10-ヌ～ネ、I10-エ～オ～コ、ズケ24-I1-カ～サ～シ	153	45			
		トレンチ1東壁	ズケ24-I1-カ	153	45	59.09	SD201-TR1-E トレンチ1東壁←(ベルト1東壁より変更)
		トレンチ2東壁	ズケ23-H10-エ	190	41	58.99	SD201-TR2-E
		トレンチ3東壁	ズケ23-H10-ネ	145	52	58.90	SD201-TR3-E
		ベルト2南壁	ズケ23-H10-ヌ				SD201・202 SD202-B2-NにSD201表記なし (撮影方向北東より)
SD202	2	ズケ23-H10-ツ～テ～ヌ～ノ					
		トレンチ1北壁	ズケ23-H10-テ	245※	80※		SD203を切る 断面図なし (北壁内の土層図No.13 S=1/100のみ、遺構数値は概数)
		ベルト1北壁	ズケ23-H10-テ	244	60	58.76	SD203を切る SD202-B1-S(撮影方向南より)
		ベルト2南壁	ズケ23-H10-ヌ	192	56	58.77	SD202・203 SD202-B2-N(撮影方向北東より)
SD203	2	ズケ23-H10-テ～ネ					
		トレンチ1北壁	ズケ23-H10-テ	45※	10※		SD202に切られる 断面図なし (北壁内の土層図No.13 S=1/100のみ、遺構数値は概数)
		ベルト1北壁	ズケ23-H10-テ	48	12	59.28	SD202に切られる SD202-B1-S(撮影方向南より)
SD401	4	ズケ24-I2-テ～ト～ソ				SD203を切る 北壁内	
		ベルト1北壁	ズケ24-I2-ソ～ト	53	10	58.54	
		南壁	ズケ24-I2-テ	35※	10※		断面図なし (南壁内の土層図No.15 S=1/80のみ、遺構数値は概数)

※・・・概数

SD101(南北ライン)

EL=58.000m



1. 2.5YR6/6 明黄褐色、締りとても強く、粘性やや弱い層。2～5mm 大炭化物 2%、2～5mm 大焼土 1%未満、2～7mm 大マーシ粒 5%含む。
※1層は白砂みたいなかんじ 7.5YR8/1 灰白色の砂?土?を全体的に 10%ほど含む。後で入れられた土か。
2. 10YR5/6 黄褐色、締りやや強い層。2～5mm 大炭化物 5%、2～5mm 大焼土 3%、2～5mm 大マーシ粒 7%含む。
3. 10YR4/6 褐色、締りのある層。2～5mm 大炭化物 2%、2～5mm 大焼土 2%、2～5mm 大マーシ粒 15%含む。
4. 10YR4/4 褐色、締りのある層。2～5mm 大炭化物 3%、2～5mm 大焼土 1%、2～5mm 大マーシ粒 20%含む。

SD101(南壁内)

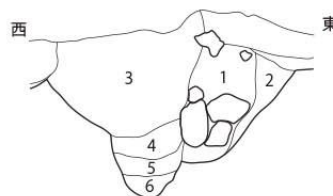
EL=58.000m



1. 10YR4/6 褐色、締りやや強く、粘性やや弱い層。2～5mm 大炭化物 3%、2～5mm 大焼土 1%、2～5mm 大マーシ粒 6%、5～13cm 大石灰岩礫が全体の 30%ほど入る。木の根 1%含む。
2. 10YR4/6 褐色、締り良く、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マーシ粒 7%、2mm 大石灰岩粒 1%未満含む。
3. 10YR4/4 褐色、締りやや弱く、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2mm 大マーシ粒 5%含む。海砂を全体の 10%ほど含む。10YR5/6 黄褐色の土を 30%含む。の根も少々入っている。
4. 10YR4/4 褐色、締り、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 3%、焼土 2%、2～5mm 大マーシ粒 5%含む。10YR8/2 灰白の白っぽい土 5%含む。1層とまたがる石灰岩礫あり。木の根 1%未満入る。
5. 10YR5/6 黄褐色、締り良く、粘性やや強い層。2～5mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マーシ粒 5%含む。貝を全体の 2%ほど含む。
6. 10YR5/6 黄褐色、締り良く、粘性とても強い層。2mm 大炭化物 1%未満、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マーシ粒 7%含む。貝が全体の 2%ほど、木の根 1%未満入る。

SD101(北壁内)

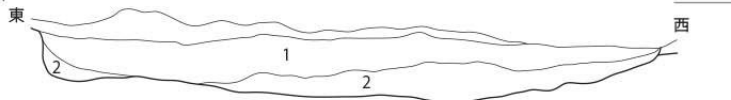
EL=58.000m



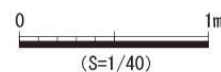
- 1～2層は南壁内と同じ。
- 3～6層も基本的には南壁内の注記と同じ。
- 5層には貝はすごく少なめ 1%くらいしかない。
- 4～6層には木の根が見当たらない。

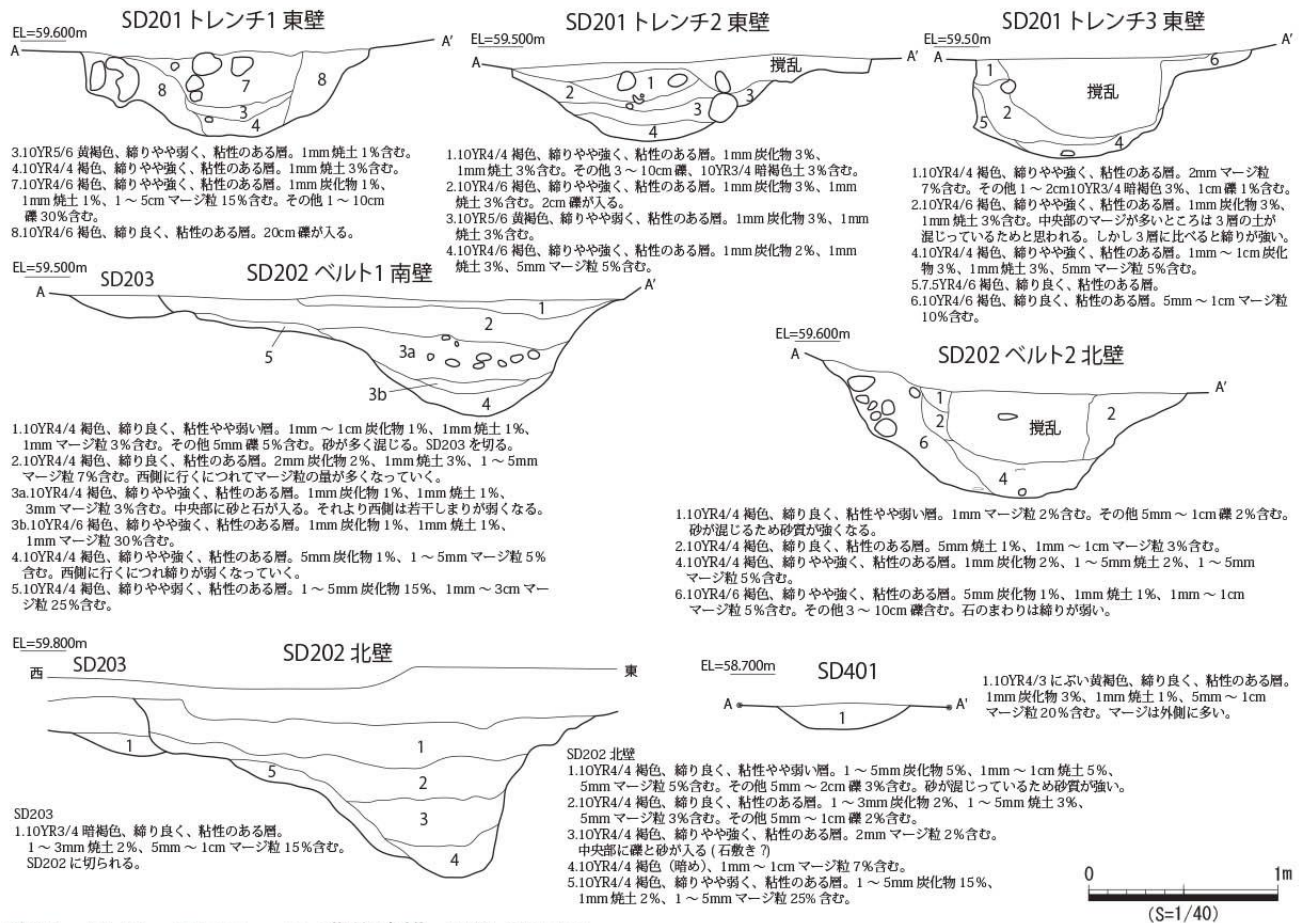
SD102(南壁内)

EL=58.000m



1. 10YR4/6 褐色、締りやや弱く、粘性やや強い層。2～5mm 大炭化物 5%、2～5mm 大焼土 2%、2～5cm 大マーシ粒 15%含む。
2. 10YR4/6 褐色、締り良く、粘性のある層。2～5mm 大炭化物 2%、2mm 大焼土 1%、2mm～1cm 大マーシ粒約 5%含む。地山の土 (YR5/8 黄褐色) が 20%混じる。





第 VII - 13 図 工区 2・3 溝状遺構 (SD) 断面図



図版 VII - 5 溝状遺構 (SD) 断面 1



工区2 SD201 礫検出状況 (全体) 北より



工区2 SD201 トレンチ1 東壁 西より



工区2 SD201 ベルト2 南より



工区2 SD202 内礫検出状況 南より



工区2 SD202・203 トレンチ1 北壁 南より



工区2 SD202 内石敷き検出状況 北より



工区2 SD202・203 ベルト1 北壁 南より



工区3 SD401 ベルト1 北壁 北より

図版VII - 6 溝状遺構 (SD) 断面2

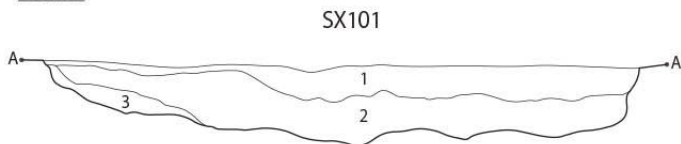
6. 不明遺構 (SX)

不明遺構は、5基検出された。工区1ではSX101～SX104の4基、工区2ではSX203の1基検出されている。工区3では検出されていない。いずれも平面形状が不定形で、性格不明な落ち込みである。

第Ⅶ - 6表 遺構観察一覧 (SX)

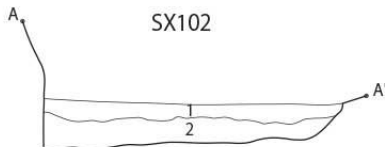
遺構No.	工区	グリッド	平面形状	遺構計測(cm)			底面レベル(m)	備考
				長軸	短軸	深さ		
SX101	1	ス'ケ24-H2-カ	不定形	334	-	42	57.24	
SX102	1	ス'ケ24-H1-オ～H2-ア	楕円形?					南壁内
		北壁内	ス'ケ24-H1-オ～H2-ア		155※	30※		
		半裁	ス'ケ24-H1-オ～H2-ア		-	134	26	
SX103	1	ス'ケ24-H2-キ	楕円形	-	84	13	57.36	SK101に切られる
SX104	1	ス'ケ24-H1-コ	楕円形	298	155	67	57.26	
SX201	2							SX201→SP277・SK207・208に細分
SX202	2	ス'ケ23-I10-イ・ウ						欠番
SX203	2	ス'ケ23-I10-ス	楕円形	129	104	89	58.79	
SX204	2	ス'ケ24-II-カ						欠番

EL=58.000m



1.10YR4/6 褐色、締りやや弱く、粘性やや強い層。2～7mm 大炭化物 5%、2mm～1cm 大焼土 3%、2mm～1cm 大マージ粒 15%含む。7.5YR5/8 明褐色、砂質の地山の土を全体に30%ほど含む。2mm 大石灰岩砂粒 1%含む。
 2.10YR9/6 褐色、締り良く、粘性のある層。2～5mm 大炭化物 3%、2～5mm 大焼土 1%、2mm～1cm 大マージ粒 7%含む。地山の土を 60%程含む。石灰岩砂 1%未満含む。
 3.10YR4/6 褐色、締りやや弱く、粘性やや強い層。2～5mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マージ粒 5%含む。石灰岩 1%未満含む。

EL=58.400m



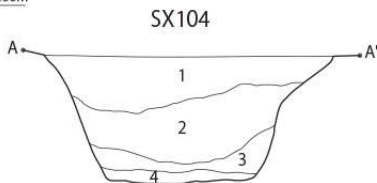
1.10YR4/6 褐色、締り良く、粘性やや強い層。2～7mm 大炭化物 3%、2～5mm 大焼土 1%、2mm～1cm 大マージ粒 15%含む。
 2.10YR4/6 褐色、締りやや弱く、粘性とても強い層。2～5mm 大炭化物 2%、2mm 大焼土 1%未満、2mm～3cm 大マージ粒 10%含む。

EL=57.800m



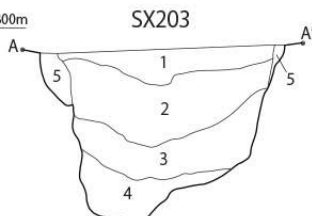
SX103
 1.10YR4/6 褐色、締り良く、粘性やや強い層。1mm 炭化物 1%、1mm 焼土 1%、3mm～1cm マージ粒 15%含む。SK101に切られる。
 SK101
 1.10YR4/6 褐色、締り良く、粘性のある層。1～2mm 炭化物 3%、2mm 焼土 2%、3mm マージ粒 5%含む。SX103を切る。

EL=58.200m

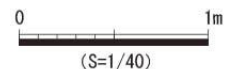


1.10YR4/6 褐色、締りやや強く、粘性のある層。2～5mm 大炭化物 5%、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マージ粒 7%含む。2mm 大石灰岩砂粒 1%含む。
 2.10YR4/6 褐色、締り良く、粘性のある層。2～5mm 大炭化物 3%、2mm 大焼土 2%、2～5mm 大マージ粒 8%含む。2mm 大石灰岩砂粒 2%含む。
 3.10YR4/6 褐色、締り良く、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 2%、2mm 大焼土 1%未満、2～7mm 大マージ粒 10%含む。2mm 大石灰岩砂粒 1%未満含む。
 4.10YR4/6 褐色、締りやや弱く、粘性のある層。2mm 大炭化物 1%、2mm 大焼土 1%未満、2～5mm 大マージ粒 15%含む。2mm 大石灰岩砂粒 1%未満含む。

EL=59.800m



1.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性やや強い層。1～2mm 大炭化物 1%、1mm 大焼土 1%未満、1～5mm 大マージ粒 15%含む。
 2.10YR3/4 暗褐色、締り、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%、3mm 大焼土 1%未満、5mm～1cm 大マージ粒 10%含む。
 3.10YR3/4 暗褐色、締り良く、粘性やや強い層。2mm 大炭化物 1%、3mm 大マージ粒 40%含む。
 4.10YR4/4 褐色、締りやや弱く、粘性とても強い層。1～2mm 炭化物 1%、1cm 焼土 1%未満、3～5mm マージ粒 7%含む。
 5.10YR4/4 褐色、締り、粘性やや強い層。1mm 炭化物 1%、3～5mm マージ粒 50%含む。※全体的に木の根が入り込んでおり遺構ではない可能性もある。



第Ⅶ - 14図 不明遺構 (SX) 断面図



工区1 SX101 遺構完掘状況北より



工区1 SX102 北壁内 南より



工区1 SX102 半截断面 西より



工区1 SX101 半截断面 東より



工区1 SX104 礫検出状況北より



工区2 SX203 半截断面 南西より



工区1 SX104 半截断面 東より

図版Ⅶ - 7 工区1～3 不明遺構 (SX)

第4節 遺物

新城大道原第三遺跡出土の遺物は総数 1370 点が出土しており、土器・沖縄産陶磁器・カムイヤキ・本土産輸入陶磁器・石器・銭貨・その他金属製品などが得られた。

1. 本土産磁器

本土産磁器は総数 69 点が出土しており、碗・皿などが得られている。7 点を第Ⅶ-7 表、第Ⅶ-15 図、図版Ⅶ-8 にて報告する。

2. 沖縄産陶器

- (1) 沖縄産無釉陶器・・・総数 144 点出土しており、鉢・火炉・すり鉢などが得られている。そのうち 13 点を第Ⅶ-7・8 表、第Ⅶ-15～17 図、図版Ⅶ-8～10 にて報告する。
- (2) アカムヌー・・・総数 267 点が出土している内、7 点を第Ⅶ-8 表、第Ⅶ-18 図、図版Ⅶ-11 にて報告する。
- (3) 沖縄産施釉陶器・・・総数 398 点出土しており、碗などが得られている。その内 19 点を第Ⅶ-9 表、第Ⅶ-18～20 図、図版Ⅶ-11～13 にて報告する。

3. 石器

石器は総数 11 点が出土している。そのうち 3 点を第Ⅶ-10 表、第Ⅶ-21 図、図版Ⅶ-14 にて報告する。

4. 銭貨

銭貨は総数 4 点が出土している。第Ⅶ-11 表、第Ⅶ-21 図、図版Ⅶ-14 にて報告する。

5. その他

金属製品・円盤状製品などが総数 103 点出土している。そのうち 3 点を第Ⅶ-11 表、第Ⅶ-21 図、図版Ⅶ-14 にて報告する。

第Ⅶ-7表 出土遺物観察一覧1

挿図番号 図版番号	種類・器種・分類		部位	口径 器高 底径	釉	素地	観察事項	出土地	
第Ⅶ-15図 図版Ⅶ-8	1	碗	口～底	14.1 5.8 4.4	青白色	白灰色 緻密	口縁外反。腰部は丸みを帯びる。外面に梅花文や連続文、内面に梅花文と圏線をほどこす。型紙刷り。	H28 西フテ 5区 <106><89> (SD202)	
	2	小碗	口～底	7.4 4.4 3.8	透明釉	白色 緻密	口縁部は直口し、胴部の張りは緩やか。胴部外部に呉須で文様を描く。高台際、高台に圏線を廻らす。畳付のみ釉剥ぎされる。	H28 西フテ 5区 <106> (SD202)	
	3	平皿	口～底	13.1 3.0 6.9	透明釉	白色 緻密	内面に草花文を施す。	H28 西フテ 5区 <131> (SD101 3号)	
	4	本土産 磁器	平皿 銅板 転写	口～底	10.3 1.8 6.3	透明釉	白色 緻密	銅板転写(緑)。内面に菱形文と花文を施す。	H28 西フテ 5区 <89> (SD202)
	5	瓶	胴～底	— — 4	透明釉	白黄色 やや粗い	内外前面に透明釉が施釉され、器面には花文らしき文様の施釉痕が確認できる。	H28 西フテ 5区 <122> (SD101 3号)	
	6	湯呑	口～底	7.7 — —	青白色	白色 緻密	口縁部から胴部にかけて垂直に立上がり腰部で折れる。底部は欠失。胴部外面に圏線と雪持笹文と岩文を描く。腰部にも文様(草花文?)が描かれる。内面は口縁に2条、見込みみに1条の圏線が廻る。	H28 西フテ 5区 <89> (SD202)	
	7	急須	口～胴	8.2 — —	青白色	白色 緻密	外面に呉須で草花文を描く。口縁と胴下部に圏線を廻らす。口縁内面を釉剥ぎする。	H28 西フテ 5区 <132><133> (SD101 5号)	
第Ⅶ-16図 図版Ⅶ-9	8	沖縄産 無釉陶器	甕 Ⅱ類	口縁	33.5 — —	外面に ぶい暗褐色 内面 明赤 褐色	暗赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	口縁は逆L字状に屈折し、口唇を広くする。口縁下縁はわずかに肥厚する。肩部には6条の圏線が廻り、その下部には波状文が廻る。	H28 西フテ 5区 <15><145> (SD101)
	9	甕 Ⅲ類	口縁	— — —	外面に ぶい茶褐色 内面 明赤 褐色	暗赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	口縁は断面縦長の方形状に肥厚しその下に2条の沈線が廻る。	H28 西フテ 5区 <99> (SD202 4号)	
	10	甕	胴部	— — —	外面に ぶい茶褐色 内面 明赤 褐色	暗赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	圏線と波状文の上に丸文貼付けし、丸文の下には突帯文を廻らす。	H28 西フテ 5区 <145> (SD101 2号)	
11	沖縄産 無釉陶器	甕	胴部	— — —	外面 暗褐色 内面 赤褐色	暗赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	貼付けの波状文を廻らす。	H28 西フテ 5区 <109> (SD202 6号)	
12	壺	胴～底	— — 11.1	外面 暗赤褐色 内面 赤褐色	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒	胴下部と内面は轆轤痕明瞭。残存部からは洋梨状の器形が想定される。	H28 西フテ 5区 <60> (SD202)		
13	壺	胴～底	— — 11.3	外面に ぶい暗褐色 内面 赤褐色	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	内面は轆轤痕明瞭。残存部からは洋梨状の器形が想定される。外面と断面でアバタ状を呈する。	H28 西フテ 5区 <145> (SD101 2号)		

第七 - 8 表 出土遺物観察一覧 2

挿図番号 図版番号	種類・器種・分類	部位	口径 器高 底径	釉	素地	観察事項	出土地	
第VII-16図 図版VII-9	沖縄産 無釉陶器	壺	胴～底	— — 8.3	外面 暗赤褐色 内面 黒色	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒	内面は轆轤痕明瞭。残存部からは洋梨状の器形が想定される。	H28 西フテ 5区 <15><127><145> (SD101)
		壺	頸～胴	— — —	外面 暗赤褐色 内面 黒色	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	全体的に轆轤痕明瞭。肩部内面は轆轤痕が密。肩部外面には4条の圏線が廻る。頸部はすぼまり口縁に向けて広がる。	H28 西フテ 5区 <79><87><89> <90> (SD202)
		壺	胴	— — —	外面 暗赤褐色 内面 明赤褐色	赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒	肩部に2条の圏線を廻らす。器厚約5mmで内面は轆轤痕明瞭。外面にマンガン釉を施す。	H28 西フテ 5区 <145> (SD101 2号)
		壺	口～頸	— — —	外面 暗赤褐色 内面 暗褐色	暗褐色 白色砂粒	胴上部に二条の沈線を廻らす。他器面に工具による沈線の文様の一部が確認できるが全容は不明。	H28 西フテ 5区 <133><145> (SD101)
第VII-17図 図版VII-10	沖縄産 無釉陶器	播鉢	IV類 口～底	26.6 12.6 11.0	外面 明褐色 内面 明褐色	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	外面に調整痕明瞭。口唇は平坦で外縁部、下端はやや肥厚する。	H28 西フテ 5区 <86> (SD201 4号)
		播鉢	口～底	24.0 12.6 13.2	外面 にぶい赤褐色 内面 赤褐色	赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	口縁部は平坦であるが、破損により口唇での分類はできない。外面に工具痕明瞭。内面に細かい播目が施される。焼成はよくない。	H28 西フテ 5区 <87> (SD201 3号)
		甕	胴	— — —	内外面 暗褐色	赤褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	大型甕の胴部。内面轆轤痕明瞭。	H28 西フテ 5区 <89> (SD202)
第VII-18図 図版VII-11	アカムヌー	火炉	I類 口～底	14.6 10.1 8.7	外面 明橙褐色 内面 明赤褐色	やや硬質 明橙褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 赤色砂粒、 雲母	外面と口縁内面に調整痕明瞭。口縁内面はやや肥厚し、受け部は口縁に対して概ね平行に貼り付けられる。外面には白化粘土による圏線が施された跡が確認できる。	H28 西フテ 5区 <70> (SD202)
		急須	注ぎ口	— — —	外面 明橙褐色 内面 明橙褐色	硬質 明橙褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 赤色砂粒、 雲母	ナデ調整。胴部との貼付け部に指跡が残る。注ぎ口の口先はわずかに窄まる。	H28 西フテ 5区 <105> (SD202 4号)
		火炉	IIb類 口縁	— — —	外面 明橙褐色 内面 明橙褐色	硬質 明橙褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 赤色砂粒、 雲母	回転ヘラ調整。口縁は断面三角状に肥厚し、その下位に段が1条廻る。	H28 西フテ 5区 <53> (SD202)
		鍋	把手	— — —	内外面 にぶい明橙褐色	やや軟質 明橙褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	ナデ調整。貼付け部に指圧痕が残る、貼付け時の調整が難。受け部に対して把手がやや斜め下を向く。	H28 西フテ 5区 <134> (SD102)
		鍋	把手	— — —	内外面 橙褐色	硬質 明橙褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 赤色砂粒、 雲母	ナデ調整。受け部に対して把手がやや斜め下を向く。24と比べやや太く、作りが丁寧。	H28 西フテ 5区 <145><149> (SD101)
		急須蓋	庇・袴	9.5 — 6.5	外面 淡橙褐色 内面 橙褐色	硬質 橙褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	ナデ調整。表面にススが付着している。庇の端部はやや肥厚し、丸みを帯びる。	H28 西フテ 5区 <79> (SD201)
		急須蓋	庇・袴	— 0.85 —	内外面 淡橙褐色	軟質 橙褐色 白色砂粒、 黒色砂粒、 雲母	ナデ調整。表面にわずかにススが付着している。庇の端部は丸みを帯びる。袴は根本を残して欠損。	H28 西フテ 5区 <103> (SD301)

第VII-9表 出土遺物観察一覧3

挿図番号 図版番号		種類・器種・分類			部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地	
第VII-18図 図版VII-11	28	沖縄産 施釉陶器	碗	III	(イ)Bb(3)	口～底	13.9 6.6 6.3	内外面に透明釉。口縁は外反する。見込みと畳付けを釉剥。見込みは蛇の目釉剥。見込みにアルミナ痕がみられる。素地は白黄色の粒子。焼成良い。全面に白化粧したあと透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 5区 <88> (SD202)
	29		碗	III	(イ)Bb(3)	口～底	14.3 6.7 6.6	内外面に透明釉。口縁外反。見込みと畳付けを釉剥ぎ。見込みは蛇の目釉剥ぎ。見込みにアルミナ痕がみられる。素地は白黄色の粒子。焼成良い。全面に白化粧をしたあとコバルトと鉄釉で点花文を施文し、透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 5区 <89> (SD202)
	30		碗	I	(ロ)Bb(2)	口～底	12.6 6.2 6.0	口縁外反。腰が張り、丸みを帯びて立ち上がる。見込みは錆釉で同心円を施す。見込みと高台にアルミナ痕がみられる。素地は灰白色の細粒子。焼成良い。内外面口縁から胴部にかけて鉄釉を施釉。光沢あり。	H28 西フテ 5区 <87> (SD201 3号)
第VII-19図 図版VII-12	31	沖縄産 施釉陶器	碗			口～胴	14.6 — —	口縁直口の灰釉碗。素地は黄橙色の粒子。焼成はよい。内外面半ばまで灰釉を施す。立ち上がりは露胎。	H28 西フテ 5区 <92> (SD202)
	32		小碗	II	(ロ)B②	口～底	9.0 4.4 4.3	口縁外反。外面は錆釉、内面は白化粧に透明釉を施す。見込みと畳付けは釉剥ぎ。見込みは蛇の目釉剥ぎ。素地は白黄色の粒子。焼成はよくない。外面に光沢のない暗褐色の錆釉を施す。	H28 西フテ 5区 <109> (SD202 6号)
	33		小碗	II	(ロ)B②	口～底	9.0 4.3 4.1	口縁外反。外面鉄釉、内面は白化粧に透明釉を施す。見込みと畳付けは釉剥ぎされる。見込みは蛇の目釉剥ぎ。見込みにアルミナ痕がみられる。素地は灰白色の細粒子。焼成良い。	H28 西フテ 5区 <152> (SX104)
	34		小碗	III	(イ)B①	口～底	8.0 4.2 3.3	口縁外反。内外面に白化粧を施した後透明釉をほどこす。見込みと畳付けは釉剥ぎされる。見込みは蛇の目釉剥ぎ。見込みに砂目とアルミナ痕が見られる。胴部には削り込みによる文様が一条施される。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。貫入がみられる。	H28 西フテ 5区 <145> (SD101)
	35		小碗	III	(イ)B②	口～底	8.3 4.3 4.1	口縁外反。内外面に白化粧を施した後透明釉をほどこす。見込みと畳付けは釉剥ぎされる。見込みは蛇の目釉剥ぎ。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。貫入がみられる。	H28 西フテ 5区 <87> (SD201 3号)
	36		急須	III		口～底	6.4 9.6 —	轆轤引き。線彫りされた模様とコバルトで彩色される。注ぎ口と耳の継ぎ目は緑釉で彩色される。素地は灰白色の細粒子。焼成良い。本体全面に白化粧を施した後注ぎ口を穿ち注ぎ口と耳をつける。そのあと模様を描きコバルトと緑釉で彩色し底以外に透明釉を施す。	H28 西フテ 5区 <89> (SD202)
	37		急須	III		蓋	— — 4.1	空気穴は白化粧後に内側から穿つ。つまみ部は欠損。コバルトで薄く文様を描く。掛かり部径約6.4cm。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。全面に白化粧した後空気穴を穿ち、コバルトで表面に薄く彩色して透明釉を施す。	H28 西フテ 5区 <88> (SD202)
	38		急須	III		蓋	— 2.3 5.8	空気穴とつまみ部は欠損。透明釉。線彫りの模様とコバルトと鉄釉で彩色されている。掛かり部径約8.6cm。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。全面に白化粧した後模様を線彫りしコバルトと鉄釉で彩色する。そのあと透明釉を施す。	H28 西フテ 5区 <78> (SD201)
	39		壺	I	(ロ)b	口～底	12.1 17.6 10.2	鉄釉油壺(アンダガ-シ)。小型で頸部を作らず、口縁から胴部に向けて徐々に張り出す。胴上部に沈線をめぐらし耳をつける。内部は轆轤痕が明瞭。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。鉄釉を内外面に施し、口唇部と畳付けは釉剥ぎを行う。内面の釉薬はやや薄い。	H28 西フテ 5区 <86> (SD201 4号)

第VII - 10表 出土遺物観察一覧4

挿図番号 図版番号		種類・器種・分類			部位	口径 器高 底径	観察事項	出土地	
第VII-20図 図版VII-13	40	沖縄産 施釉陶器	鉢	II		底	— — 9.1	鉄釉大鉢(ワンプー)。外面口縁から胴下部まで鉄釉、内面に灰釉を施し、見込みを蛇の目釉剥ぎする。見込みに砂目が見られる。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。外面に鉄釉、内面は灰釉を施す。	H28 西フテ 5区 <41> (SD201)
	41		鉢	II	(口)A②	口～底	22.8 10.3 8.5	鉄釉大鉢(ワンプー)。口縁部を逆L字に成形。高台内まで施釉。見込みは蛇の目釉剥。素地は淡黄色の細粒子。焼成良い。外面に暗褐色の鉄釉、内面と口唇部に白化粧したのち透明釉を施す。細かい貫入あり。	H28 西フテ 5区 <89> (SD202)
	42		瓶			口～胴	5.0 — —	内面は無釉で轆轤痕明瞭。口縁外反し胴部は円錐状。胴部には鉄釉とコバルトで文様を廻らせる。素地は黄褐色の粒子。焼成はよい。口縁内面から外面にかけて白化粧を施した後コバルトと鉄釉で胴部に彩色し透明釉を施す。施釉は口縁内面まで及ぶ。	H28 西フテ 5区 <145><146> (SD101)
	43		瓶	I	(口)	胴～底	— — 5.3	小型の黒釉瓶子。胴部は球形に近い。内面は轆轤痕明瞭。高台に砂目付着。素地は灰白色の細粒子。焼成はよい。外面のみ黒釉を単掛けする。高台際までと高台内にも施釉する。貫入あり。	H28 西フテ 5区 <79> (SD201)
	44		瓶	I	(ハ)	口頸	6.4 — —	鉄釉瓶子の口頸部。口縁外反。貼り付け部の跡のみ残る。素地は白黄色の粒子。焼成はよい。黒釉は外面から口縁部内面に及ぶ。	H28 西フテ 5区 <145> (SD101)
	45		香炉			口～底	15.4 9.0 9.4	緑釉の香炉。内面底部に重ね焼きの痕あり。素地は黄褐色の粗粒子。焼成はよい。白化粧した後口縁内面から立ち上がりまで緑釉を施す。内面は無釉。貫入あり。	H28 西フテ 5区 <145><10><15> (SD101)
	46		火入れ	I	(口)	底	— — 9.7	鉄釉の火入れ。筒状に成形される。白化粧なし。内面は無釉、外面は高台から立ち上がりまで無釉。残存部位では無文。素地は灰白色の細粒子。焼成はよい。外面のみ鉄釉を施す。高台と立ち上がりは無釉。	H28 西フテ 5区 <84> (カクラン)

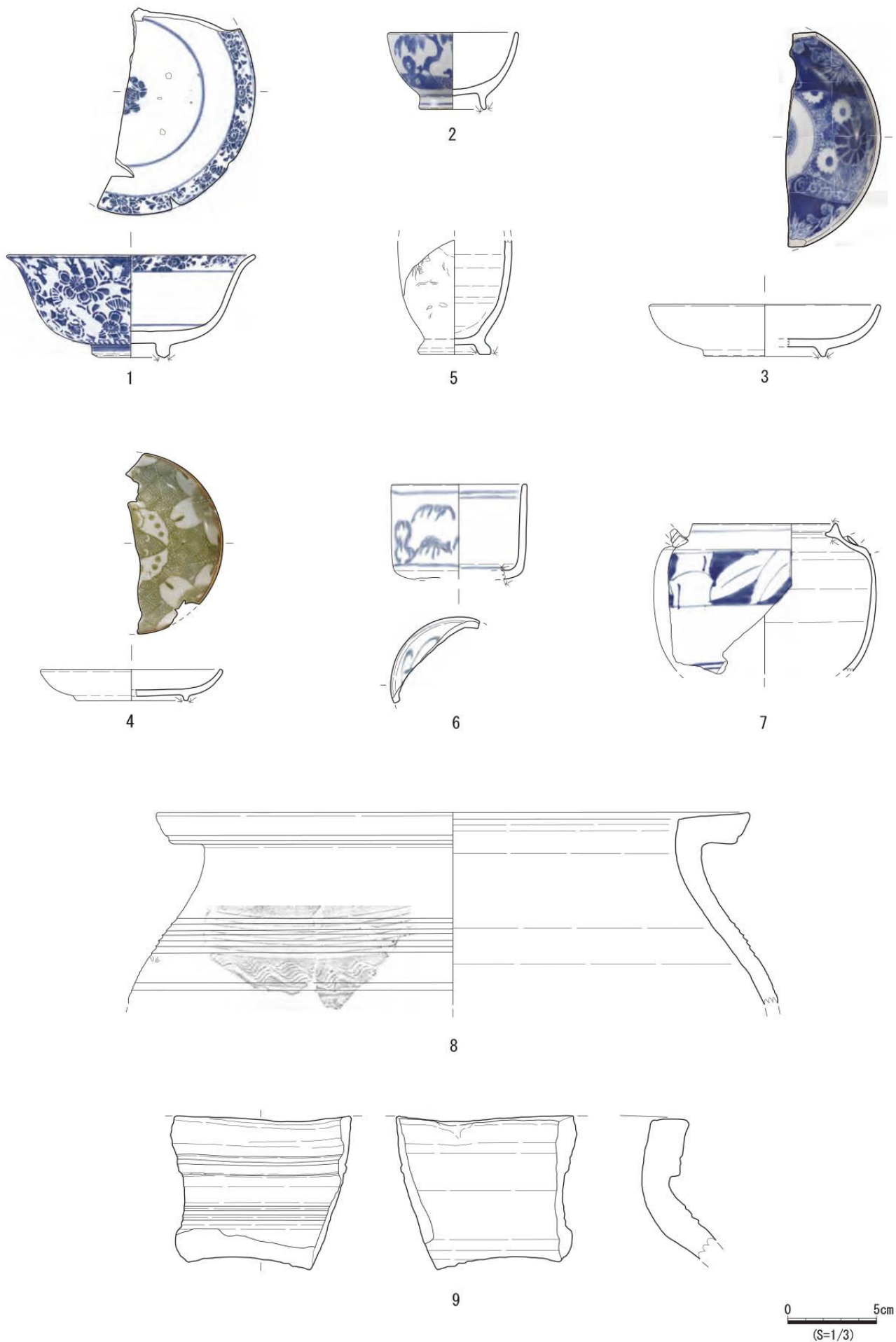
挿図番号 図版番号	種類	器種	法量(cm/g)				観察事項	出土地
			長	幅	厚さ	重量		
第VII-21図 図版VII-14	石器	不明	11.85	5.8	2.55	200	短軸の両端を一方から打ち欠いて成形する。裏面は平らに成形される。表面に棒状の工具で削られたような痕がある。	H28 西フテ 5区 <60> (SD202)
		石斧?	11.9	10	3.5	390	基部が欠損した石斧片。縁辺は鋭く研磨され、その内側は打ち欠いて形成される。	H28 西フテ 5区 <152> (SX104)
		石鏃	1.7	2	0.6	2.1	石材のチャートにひび割れの貫入が確認できる。先端は欠損。	H28 西フテ 5区 <114> (SD401)

第Ⅶ - 11 表 出土遺物観察一覧5

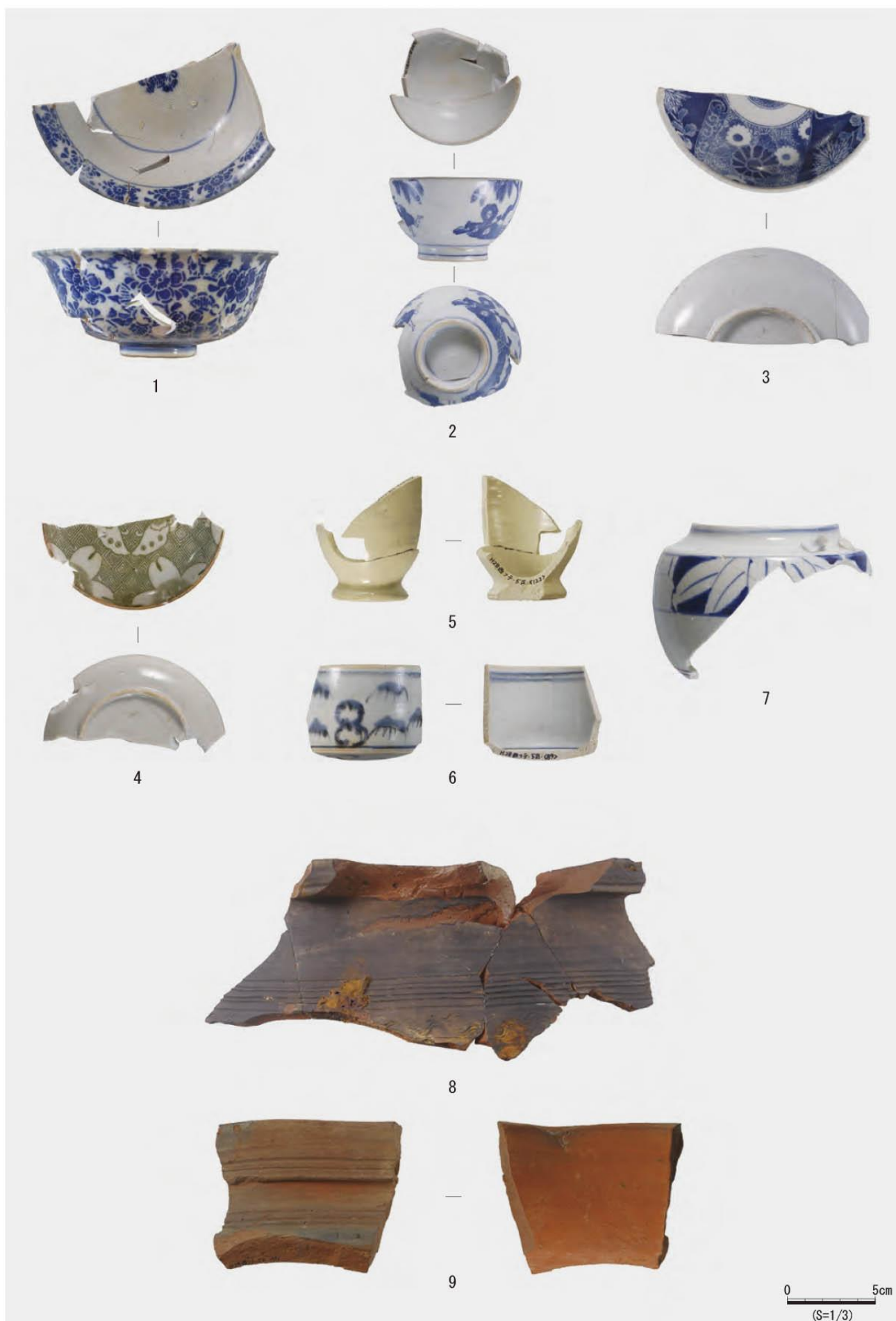
挿図番号 図版番号	分類		器色/釉調	素地	法量(cm/g)				観察事項	出土地	
	種類	器種			長径	短径	厚さ	重量			
第Ⅶ-21図 図版Ⅶ-14	50	円盤状 製品	沖無 (播鉢)	明赤褐色	明赤褐色 白色砂粒、 黒色 砂粒	4.8	3.1	0.9	16.1	播鉢の胴部を内側から打ち欠いて形成。 作りは丁寧。	H28 西フテ 5区 <21> (SD201)
	51		沖施 (碗)	にぶい赤 褐色/鉄釉	にぶい赤褐色 白色砂粒、 黒色 砂粒	6	5.9	2.1	68.9	碗の底部を転用したもの。立ち上がりを内側 から打ち欠いて形成。高台部分は一部のみ 内側から打ち欠いている。作りはやや雑。	H28 西フテ 5区 <30> (SD201)

挿図番号 図版番号	種類	分類		部位	法量(cm/g)				観察事項	出土地
		器種	材質		縦	横	厚さ	重量		
図版Ⅶ-14	52	金属 製品	簪	カブ〜頸	—	—	0.2	1.7	金属製の押差。頸がカブのほうに折れ曲が っている。	H28 西フテ 5区 <49> (SD201)

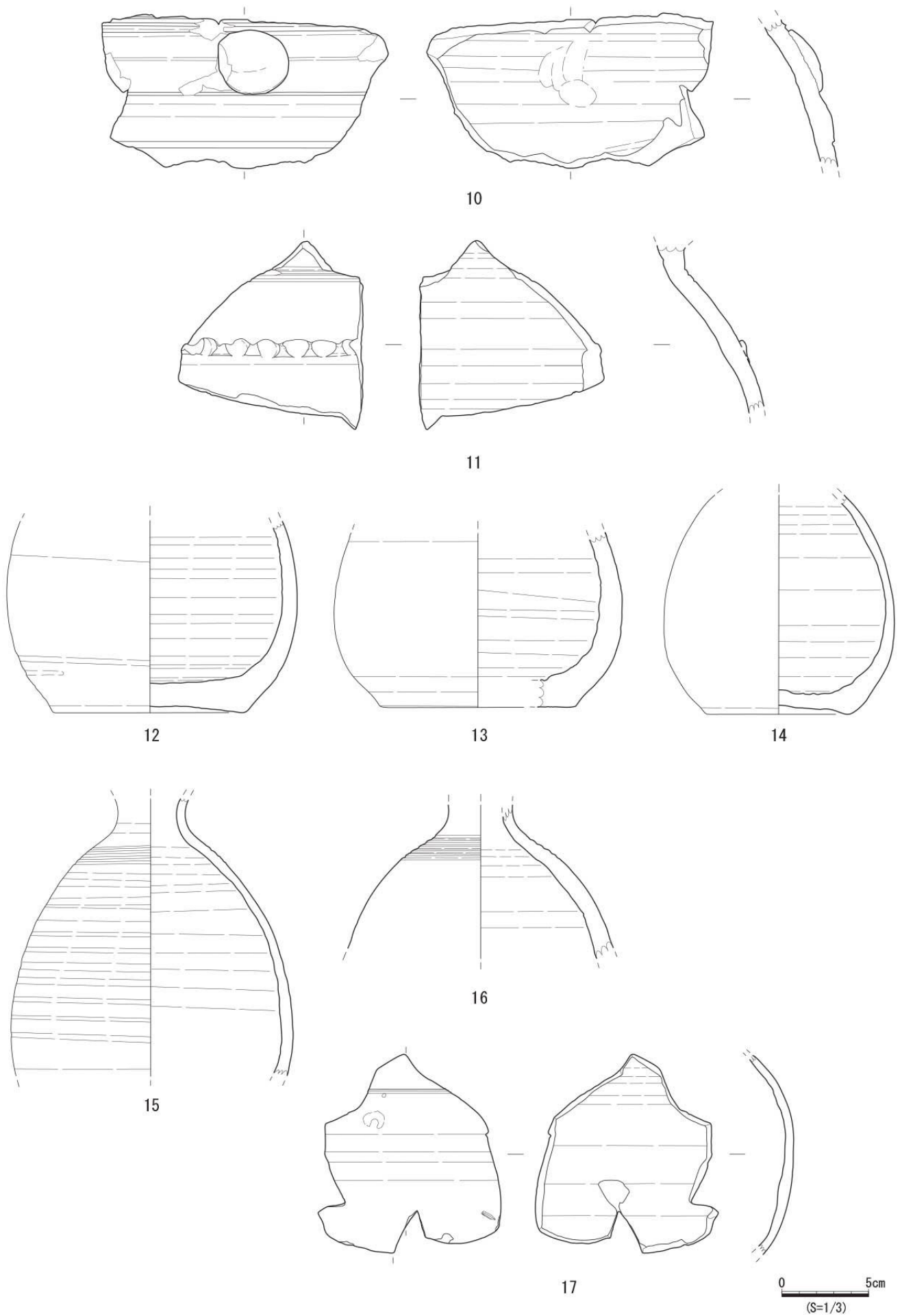
挿図番号 図版番号	種類	分類	法量(cm/g)				観察事項	出土地
			銭径	孔径	銭厚	重量		
第Ⅶ-21図 図版Ⅶ-14	銭貨	寛永 通宝	2.3	0.6	0.1	2.1	寛永通宝。銭文は明瞭。	H28 西フテ 5区 <157> (SX104 4号)
		—	2.5	0.7	0.1	3.1	錆の付着が著しく、銭文判別不可、裏面にも銭文が見 られるが不鮮明である。	H28 西フテ 5区 <65> (SD201 dotNo.20)
		—	1.9	—	0.1	2.0	表裏に花文が押された硬貨。大正硬貨だと思われる。 表面の数字は判読不能。	H28 西フテ 5区 <62> (カクラン)
		—	(2.3)	(0.6)	0.12	1.5	状態が非常に悪く、銭文も判別不能。	H28 西フテ 5区 <118> (遺構検出作業中)



第VII-15 図 出土遺物 1 本土産磁器 (1~7)、沖縄産無釉陶器 (8・9)



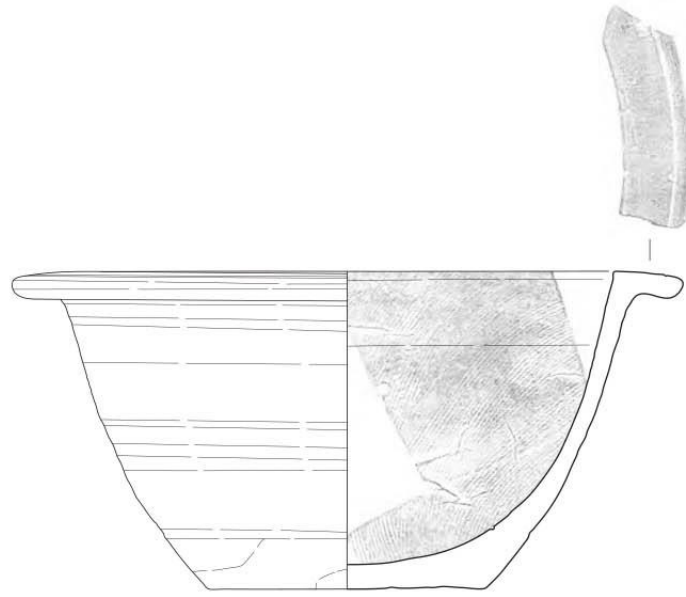
図版Ⅶ-8 出土遺物 1 本土産磁器 (1～7)、沖縄産無釉陶器 (8・9)



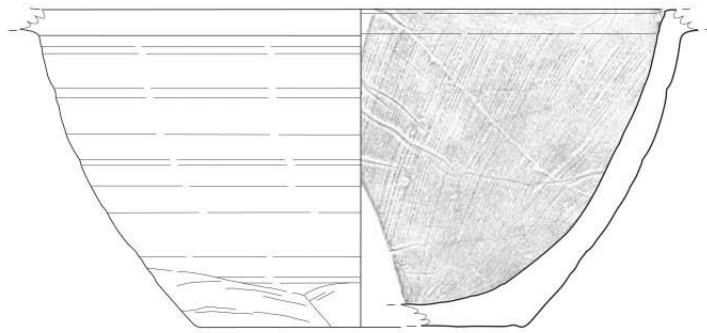
第VII-16 図 出土遺物2 沖縄産無釉陶器



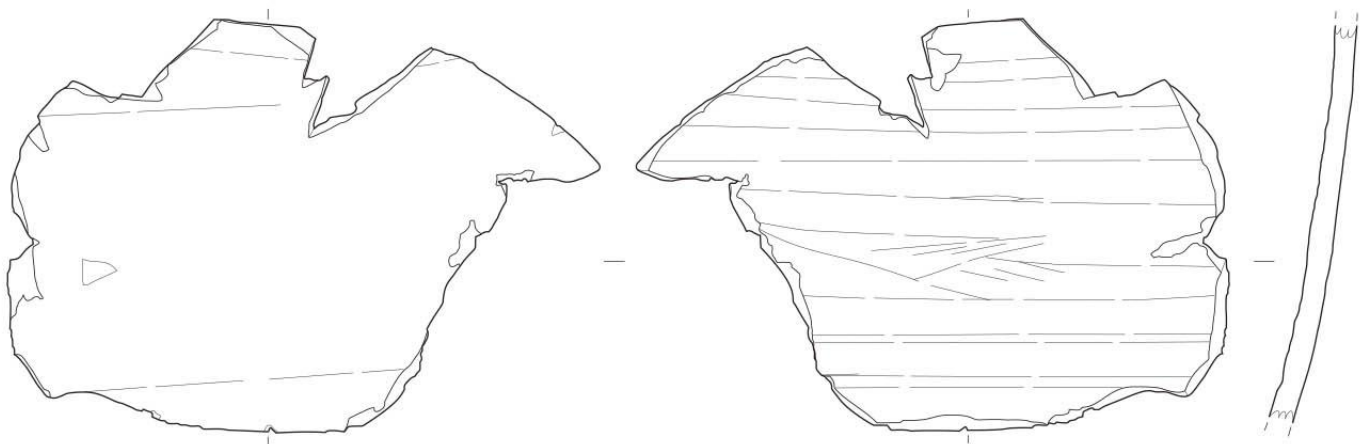
図版VII-9 出土遺物2 沖縄産無釉陶器



18



19



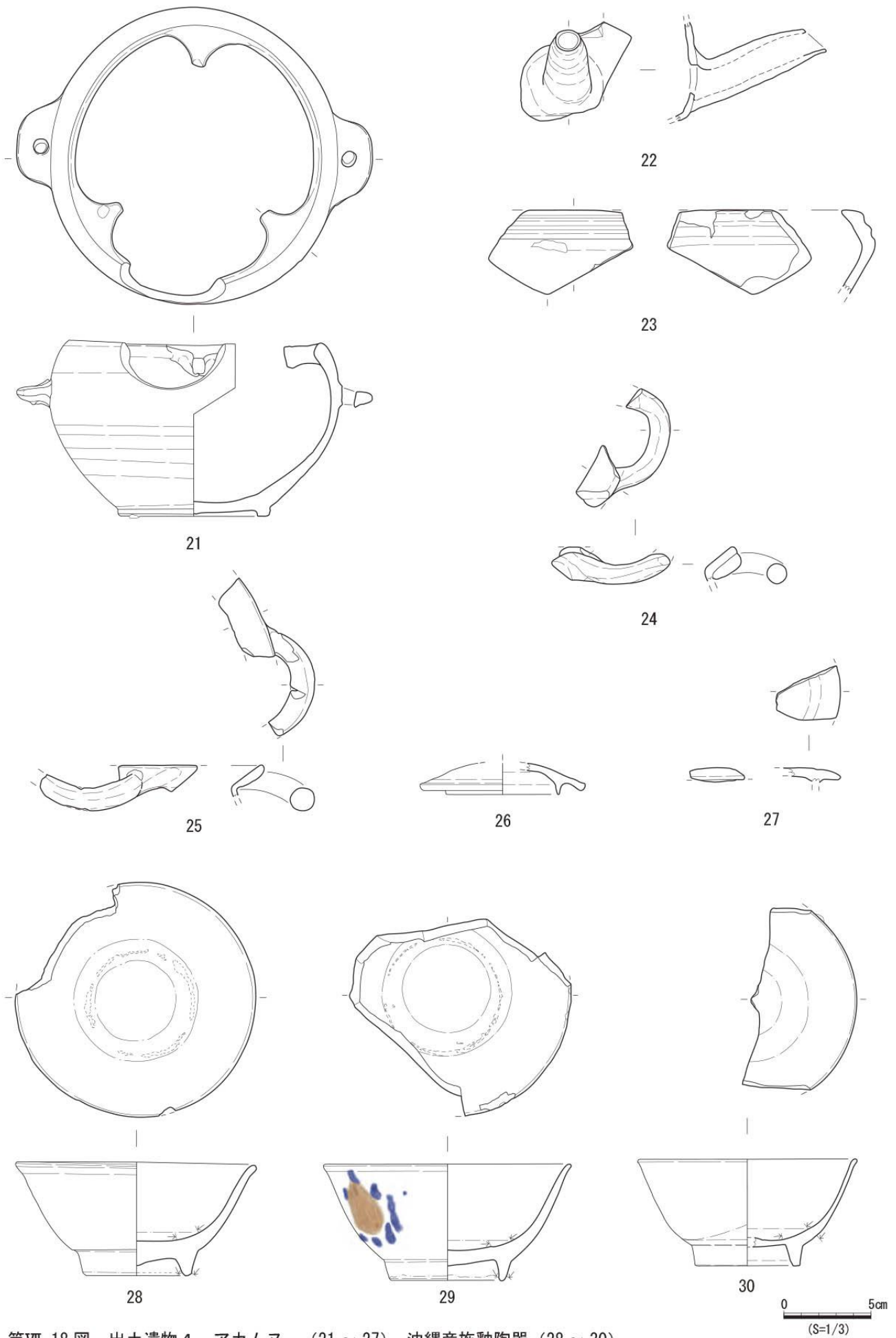
20

0 5cm
(S=1/3)

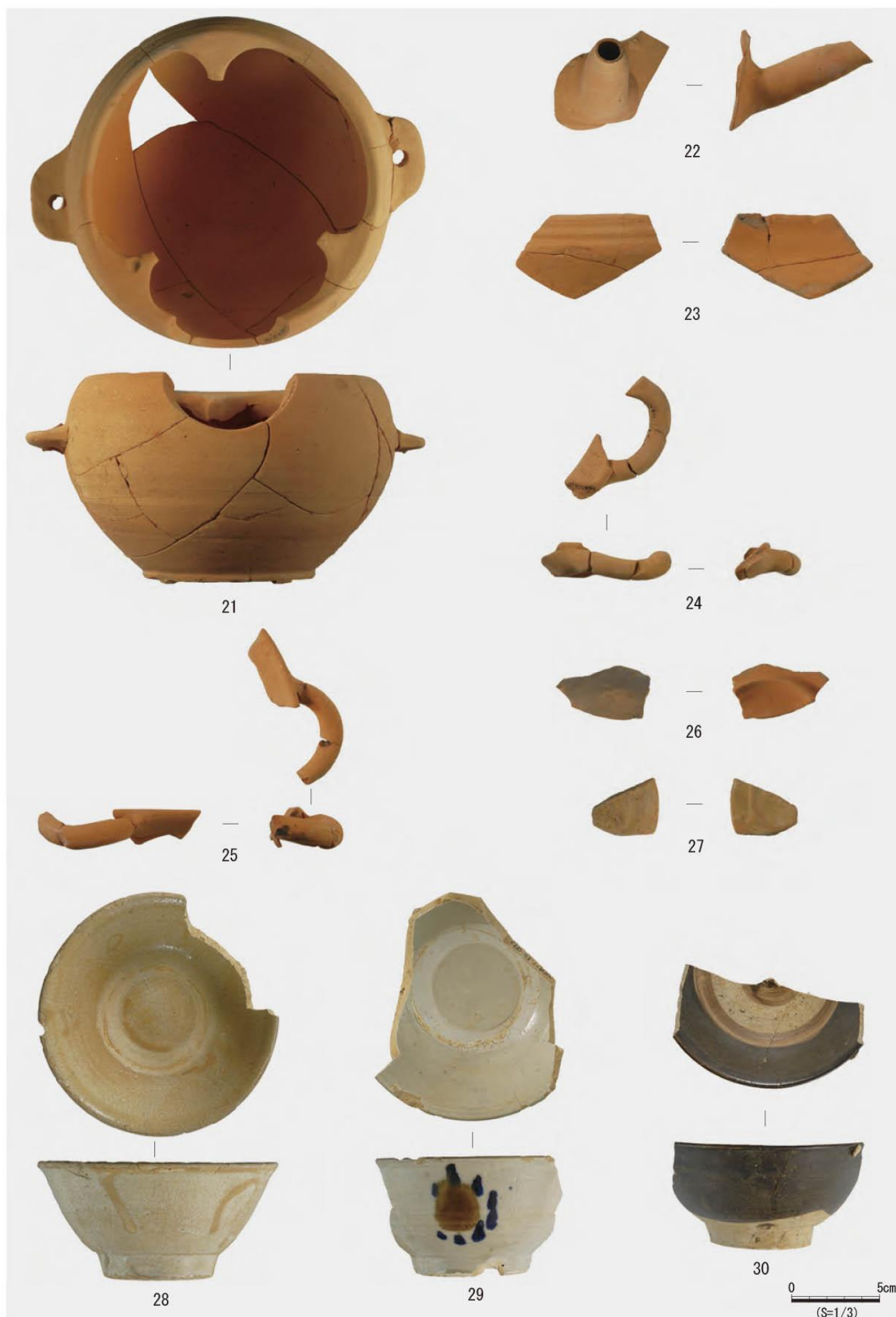
第VII-17 図 出土遺物 3 沖縄産無釉陶器



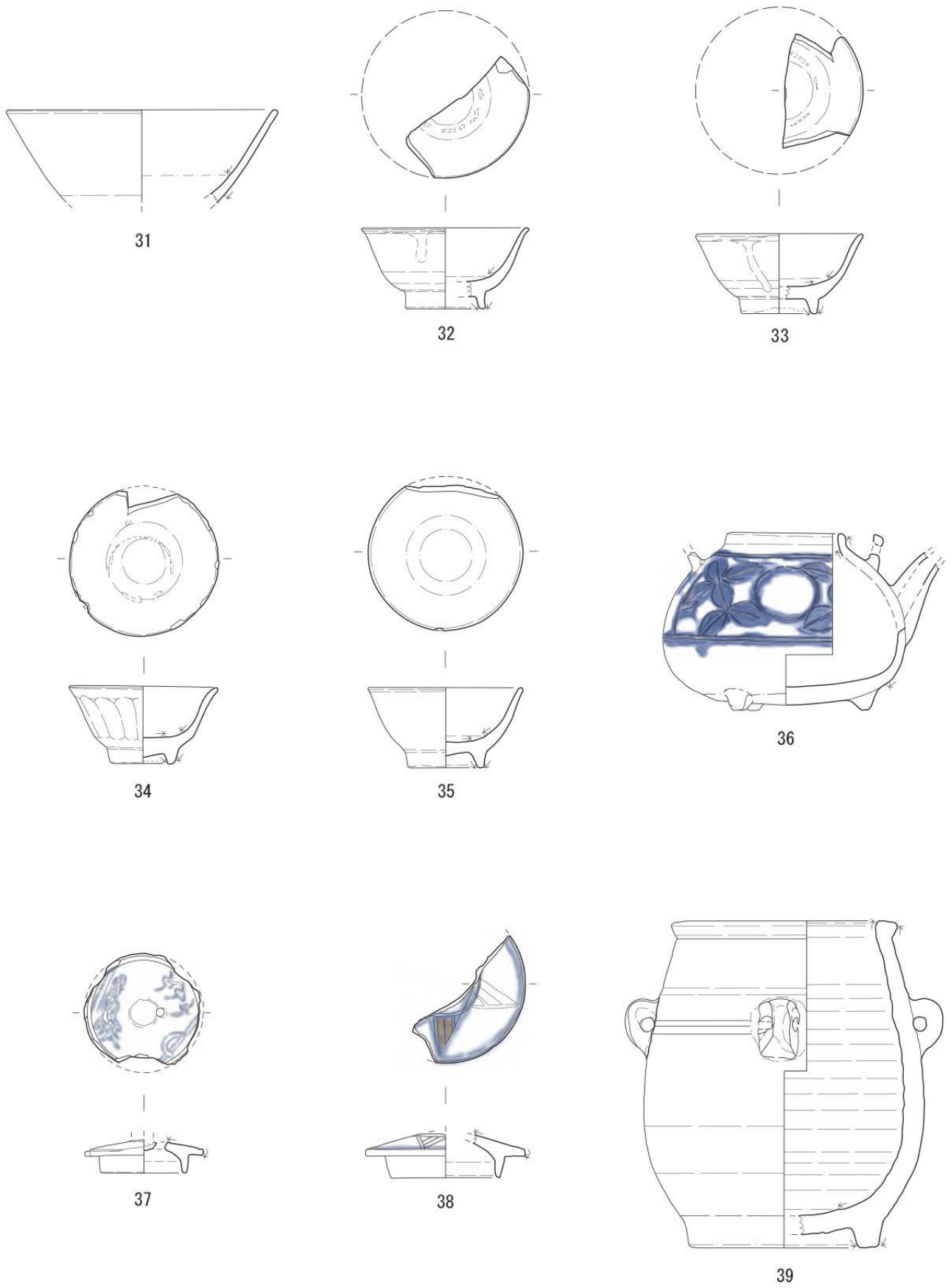
図版VI-10 出土遺物3 沖縄産無釉陶器



第VII-18 図 出土遺物 4 アカムヌー (21 ~ 27)、沖縄産施釉陶器 (28 ~ 30)



図版VII-11 出土遺物4 アカムヌー (21～27)、沖縄産施釉陶器 (28～30)

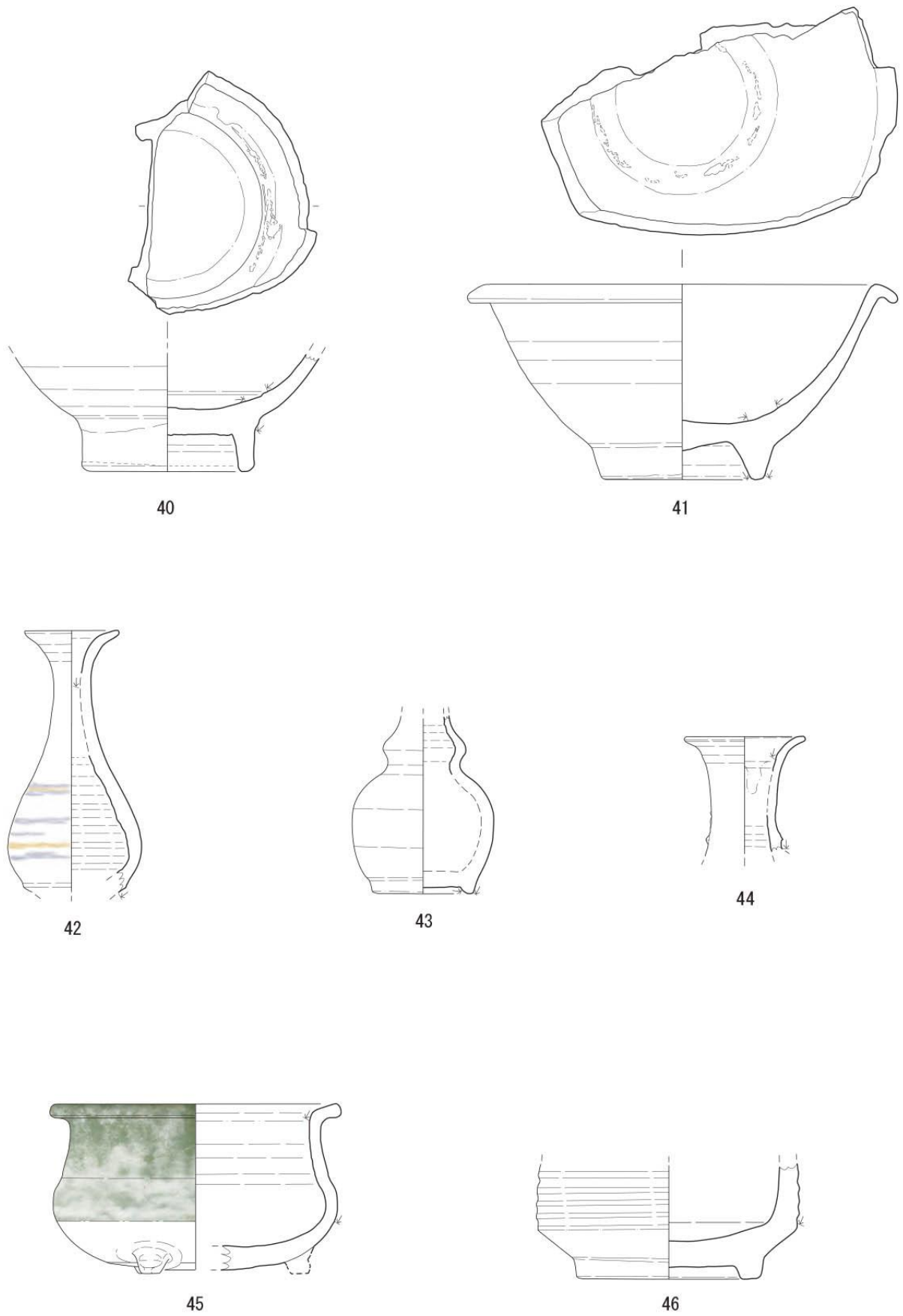


第Ⅶ-19 図 出土遺物 5 沖縄産施釉陶器

0 5cm
(S=1/3)



図版Ⅶ-12 出土遺物5 沖縄産施釉陶器

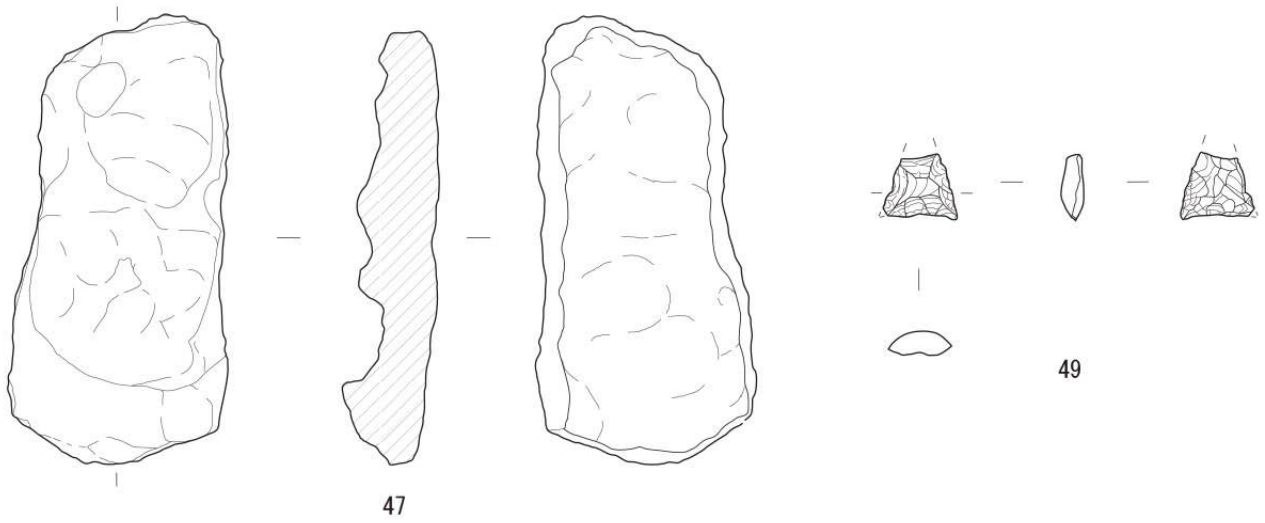


第VII-20 図 出土遺物 6 沖縄産施釉陶器

0 5cm
(S=1/3)

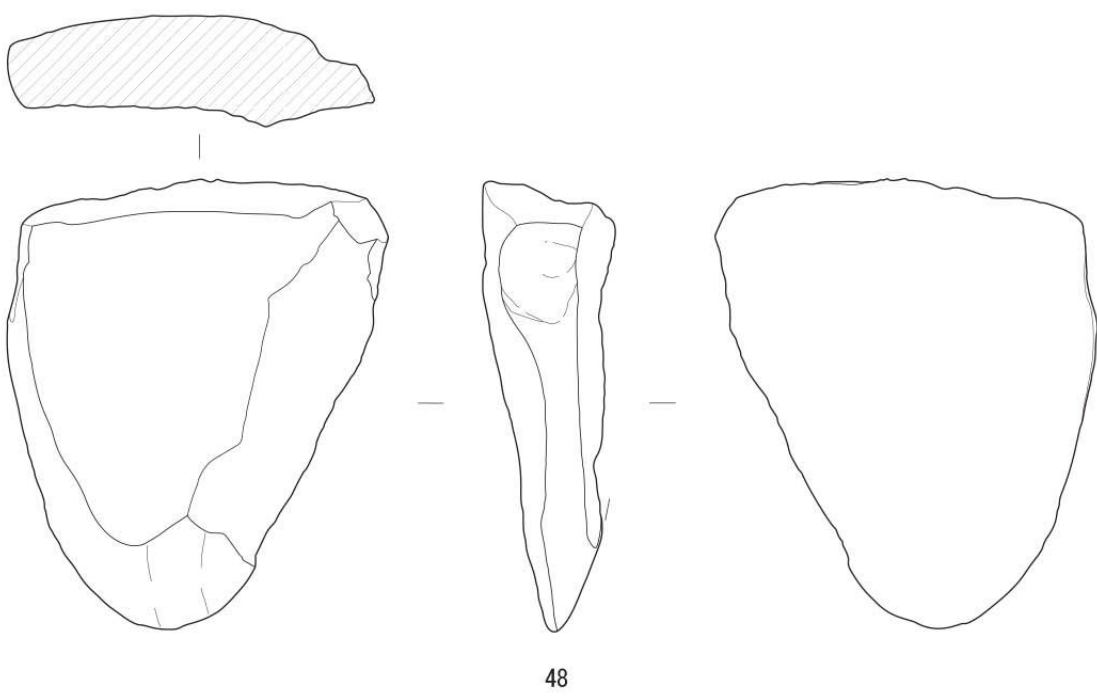


図版VII-13 出土遺物6 沖縄産施釉陶器

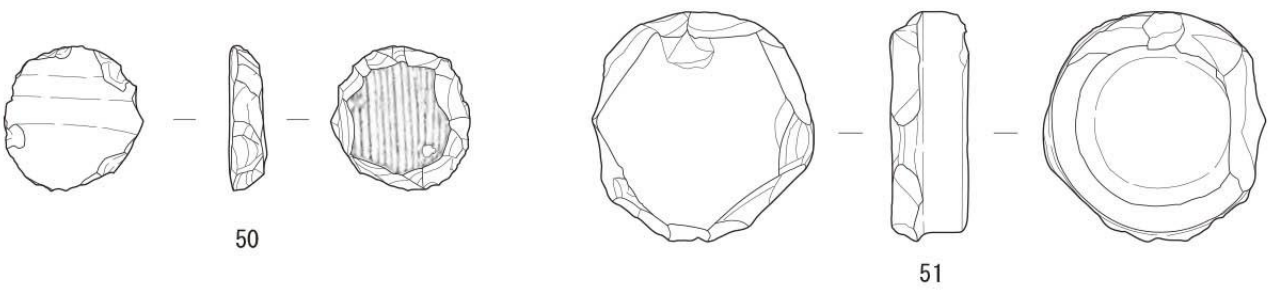


47

49



48



50

51

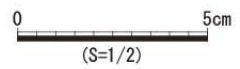


53

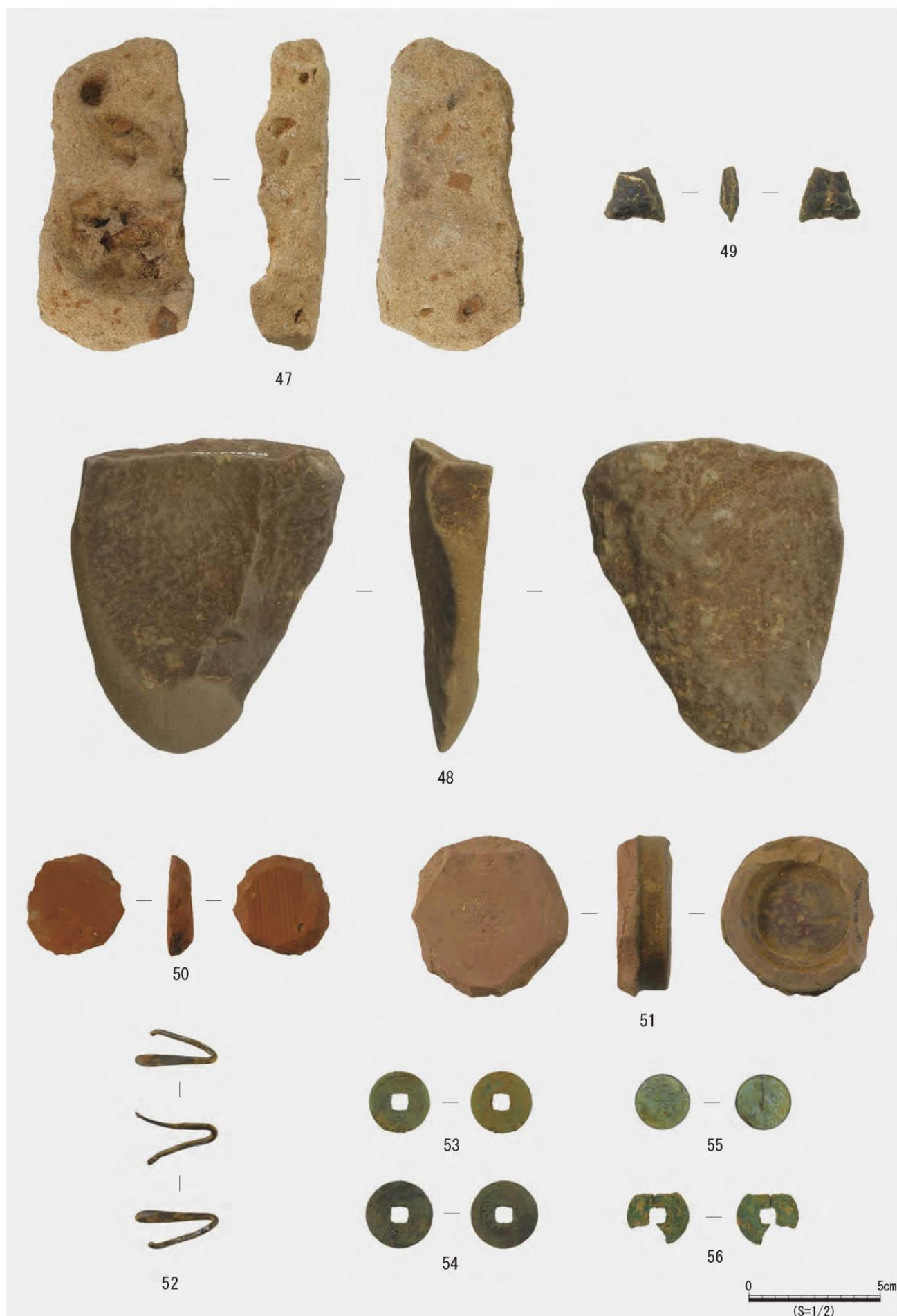
54

55

56



第Ⅶ-21 図 出土遺物 7 石器 (47 ~ 49)、円盤状製品 (50・51)、銭貨 (53 ~ 56)



図版VII-14 出土遺物7 石器 (47～49)、円盤状製品 (50・51)、簪 (52)、錢貨 (53～56)

第5節 総括

新城大道原第三遺跡は新城大道原第二遺跡と同様に平成27年試掘で新規発見された遺跡である。調査区は試掘調査の結果で遺構が確認された場所を中心に3箇所を設定し、調査を行った。試掘調査の段階から当該調査区一帯は米軍の攪乱によって遺構の残りが悪いことが想定されており、今回の緊急発掘調査によって想定した以上に攪乱を受けていることが判明した。以下、前節まで報告した遺構、遺物の情報を整理しつつ、若干の検討を行いまめとする。

遺構はピット117基、土坑13基、溝状遺構6条、不明遺構5基が検出されている。工区1では掘立柱建物跡と思われるプランが1基確認されたが全体のプランは不明である。ピットの直径は平均して40cm程度なので母屋の可能性が考えられる。工区2ではプランを想定できるものは確認されなかったものの、ピットが集中して分布する箇所が2箇所確認された。どちらも2m程度の狭い範囲に集中しており、底面レベルや断面形状など共通性がほとんどないため、性格不明な遺構である。土坑は13基検出されているがいずれも性格不明である。工区2で検出されたSK204と工区3で検出されたSK403は他の土坑とは覆土が異なって暗褐色の粘質シルトが堆積し、近世以前まで遡る可能性がある。溝状遺構は概ね北西—南東方向に延びるものと北東—南西方向延びるものがある。いずれも近世～近代頃に形成された排水や畑等の区画等に関連した遺構と思われる。溝幅や深度はそれぞれであるが、底面の断面形状は丸みをもっている部分は共通している。

遺物は総数1370点（破片）出土した。土器（細片）やカムィヤキなど数点出土しているが、白磁、青磁などの中国産輸入陶磁器は出土していない。最も多く出土しているのは沖縄産陶器類で、600点以上出土している。次いでアカムヌーが267点、瓦が217点となる。遺構別に見ると溝状遺構から650点以上の遺物が出土している。遺構や遺物から見ても遺跡の時期区分は近世～近代と思われるが、遺跡の性格（種類）については耕作地として土地利用されていることから生産遺跡になるものと思われる。

今回の調査により、基地造成等の開発工事から辛うじて免れた遺構や遺物等の資料を得ることができた。残念ながら遺跡の保存状態は悪く、断片的な情報を記録することしかできなかったが、今後周辺遺跡の調査成果とも合わせて、当該地区全域における基地接收以前の様相や時期別の遺跡分布、土地利用についての検討等を行っていきたい。今回の調査成果はそのための貴重な資料であり、今回報告できなかった部分や検討結果等については改めて別の機会に報告したい。

引用・参考文献

- 宜野湾市教育委員会 2016 『キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用実施計画策定業務委託報告書』
- 宜野湾市教育委員会 2022 『基地内埋蔵文化財調査報告書 8』
- 宜野湾市教育委員会 1989 『土に埋もれた宜野湾』
- 佐喜真興英 1982 『女人政治考・霊の島々〈佐喜真興英全集〉』 ※収録「シマの話」より
- 宜野湾市史編集委員会 1985 『宜野湾市史第五巻資料編四 民俗』
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2006 『新城下原第二遺跡』
- 宜野湾市教育委員会 2011 『文化財保存整備基本構想作成業務委託（喜友名・新城・野嵩・伊佐地区）報告書』
- 宜野湾市教育委員会 2019 『基地内埋蔵文化財調査報告書 7』
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2022 『基地内文化財 9 普天間飛行場内試掘調査総括報告書』
- 宜野湾市教育委員会 2010 『市内埋蔵文化財調査報告書』宜野湾市文化財調査報告書 第 46 集
- 宜野湾市教育委員会 2012 『大山前門原第一遺跡』宜野湾市文化財調査報告書 第 49 集

報告書抄録

ふりがな	にしふてんまじゅうたくちくまいぞうぶんかざいはくつちようさほうこくしょ							
書籍	西普天間住宅地区埋蔵文化財発掘調査報告書 1							
副書名	—新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡—							
巻次	—							
シリーズ名	宜野湾市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第62集							
編著者名	仲村 毅、杉村千重美、伊野波快、儀保和士							
発行機関	宜野湾市教育委員会							
所在地	郵便番号 901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号 TEL098-893-4430							
発行年月日	2023（令和5）年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新城上殿遺跡	沖縄県 宜野湾市 字新城	472051	039	26° 17' 31"	127° 45' 54"	2016.6.2～ 2016.12.20	2,215	支障除去措置 (不発弾経層探査)
新城大道原第一遺跡			332	26° 17' 29"	127° 46' 00"	2016.6.29～ 2016.12.7	1,380	
新城大道原第二遺跡			333	26° 17' 21"	127° 46' 05"	2017.1.23～ 2017.4.3	1,116	
新城大道原第三遺跡			334	26° 17' 22"	127° 46' 09"	2017.1.23～ 2017.3.30	1,270	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
新城上殿遺跡	集落跡	グスク時代、近世～近代		ピット、土坑、溝状遺構、炉跡等		土器、石器、白磁、青磁、染付、褐釉陶器、沖縄産陶器、金属製品		
新城大道原第一遺跡	集落跡	先史時代、グスク時代、近世～近代		ピット、土坑、溝状遺構等		土器、石器、白磁、青磁、染付、褐釉陶器、沖縄産陶器、金属製品		
新城大道原第二遺跡	集落跡	グスク時代、近世～近代		ピット、土坑、溝状遺構等		土器、石器、白磁、青磁、染付、褐釉陶器、沖縄産陶器、金属製品、瓦		
新城大道原第三遺跡	集落跡	近世～近代		ピット、土坑、溝状遺構等		土器、石器、白磁、沖縄産陶器、金属製品、瓦		
要約	<p>本報告は平成27年3月末にキャンプ瑞慶覧から返還された西普天間住宅地区において、沖縄防衛局による支障除去措置に伴い、平成28年度に実施した緊急発掘調査の成果報告である。今回は字新城内で調査した新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡の4遺跡を新城編として所収している。新城上殿遺跡はグスク時代相当の集落跡で調査区の北側と南側でそれぞれ400基余りの柱穴が確認され、複数の掘立柱建物があったことが想定された。また北側柱穴群に隣接して幅約2.0m、長さ約12mの堀切状の溝が確認され、防衛的機能を有した集落跡を裏付ける貴重な成果を得た。</p> <p>新城大道原第一遺跡は小字大道原に所在する遺跡で、上殿遺跡よりも一段高い丘陵縁辺に位置する。北側に設定した調査区から、先史時代の土器がまとまって出土したが明確な遺構は確認できなかった。遺構はグスク時代～近世頃のピットや土坑、溝が主体となっている。</p> <p>新城大道原第二遺跡、第三遺跡は、県道81号の北側に位置し、近世～近代相当の遺構を主体とする遺跡である。第二遺跡からは列状に並んだピットが検出された。第三遺跡でも複数のピットが確認されているが、大部分が米軍設置の埋設管等で遺跡は消失している状況であった。昭和20年に撮影された航空写真を見ると第二、第三遺跡の場所は畑地となっており、検出された遺構はこれ以前のものと思われる。</p>							

文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権者（発行者）の承諾なく、この報告書を複製して利用できます。なお、利用にあたっては、出典を明記してください。

宜野湾市文化財調査報告書 第62集

西普天間住宅地区埋蔵文化財発掘調査報告書 1

— 新城上殿遺跡、新城大道原第一遺跡、新城大道原第二遺跡、新城大道原第三遺跡 —

発行年 2023（令和5）年3月31日

編集
発行 沖縄県宜野湾市教育委員会

住所 〒901-2203
沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号
TEL 098-893-4430

印刷 〒901-0416
沖縄県島尻郡八重瀬町字宜次706-4
文進印刷株式会社
TEL 098-996-3356